前田日明 “狙撃事件”を語る超ド級インタビュー

紙のプロレス RADICAL

23
2000.

“1・4”のその後
小川直也 & 村上一成

俺が立会人だァー! マット界、続行ッ!!

ミレニアム記念特大号
修斗からインディーまで 宇宙で唯一の “マット界の総合誌”

デビュー10周年だよ〜んダ!
ザ・グレート・サスケ

熊殺し! 2000年に降臨!!
ウィリー・ウイリアムス

2・26武道館は大爆発の予感!
ヘンゾ・グレイシー/アンドレイ・コピィロフ他
リングス『KOK』ブチ抜き大特集!!

ターザン山本が、久々この上ない『紙プロ』登場!
馬場さん1周忌追悼座談会 & 全日本プロレス企画炸裂!

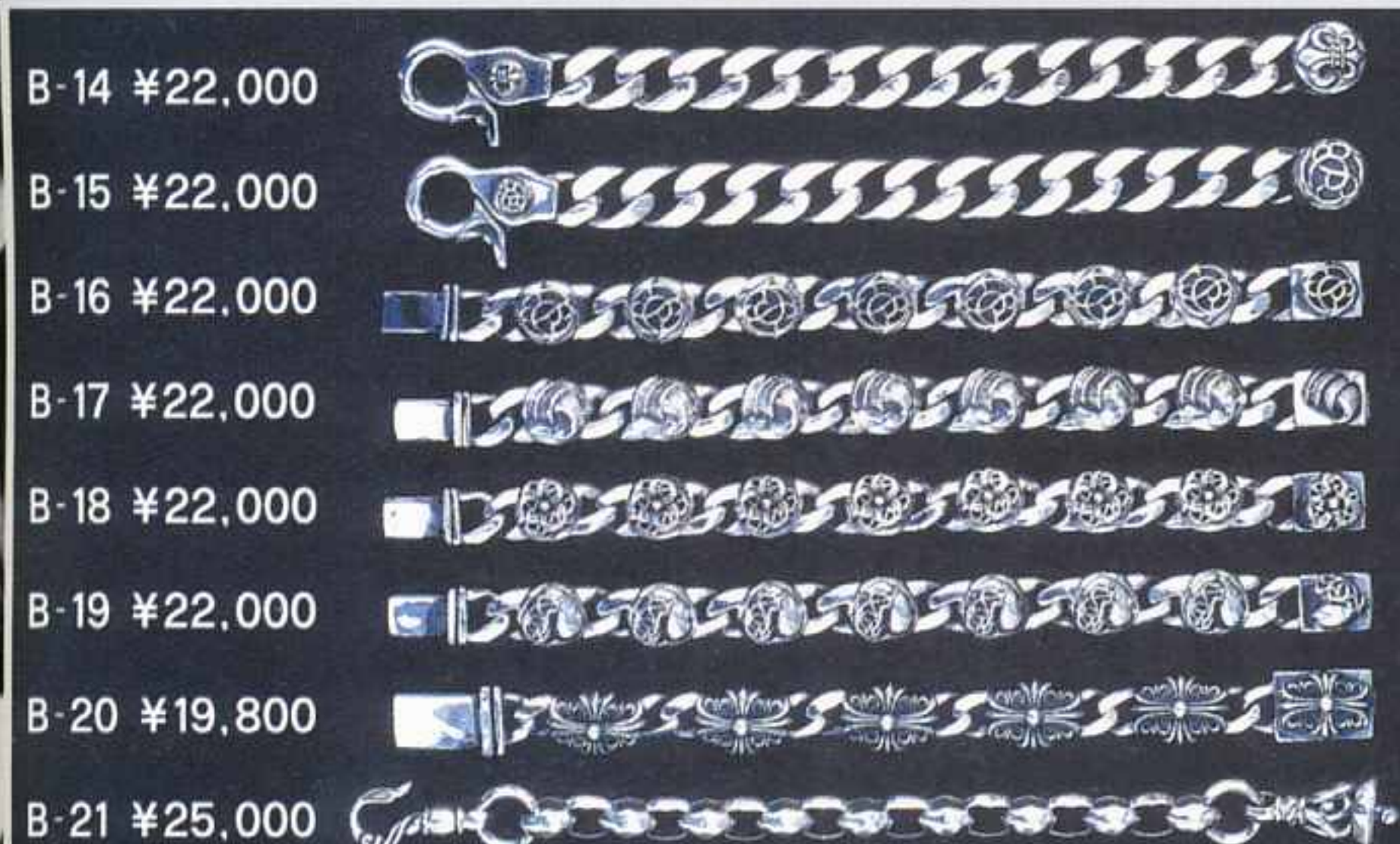
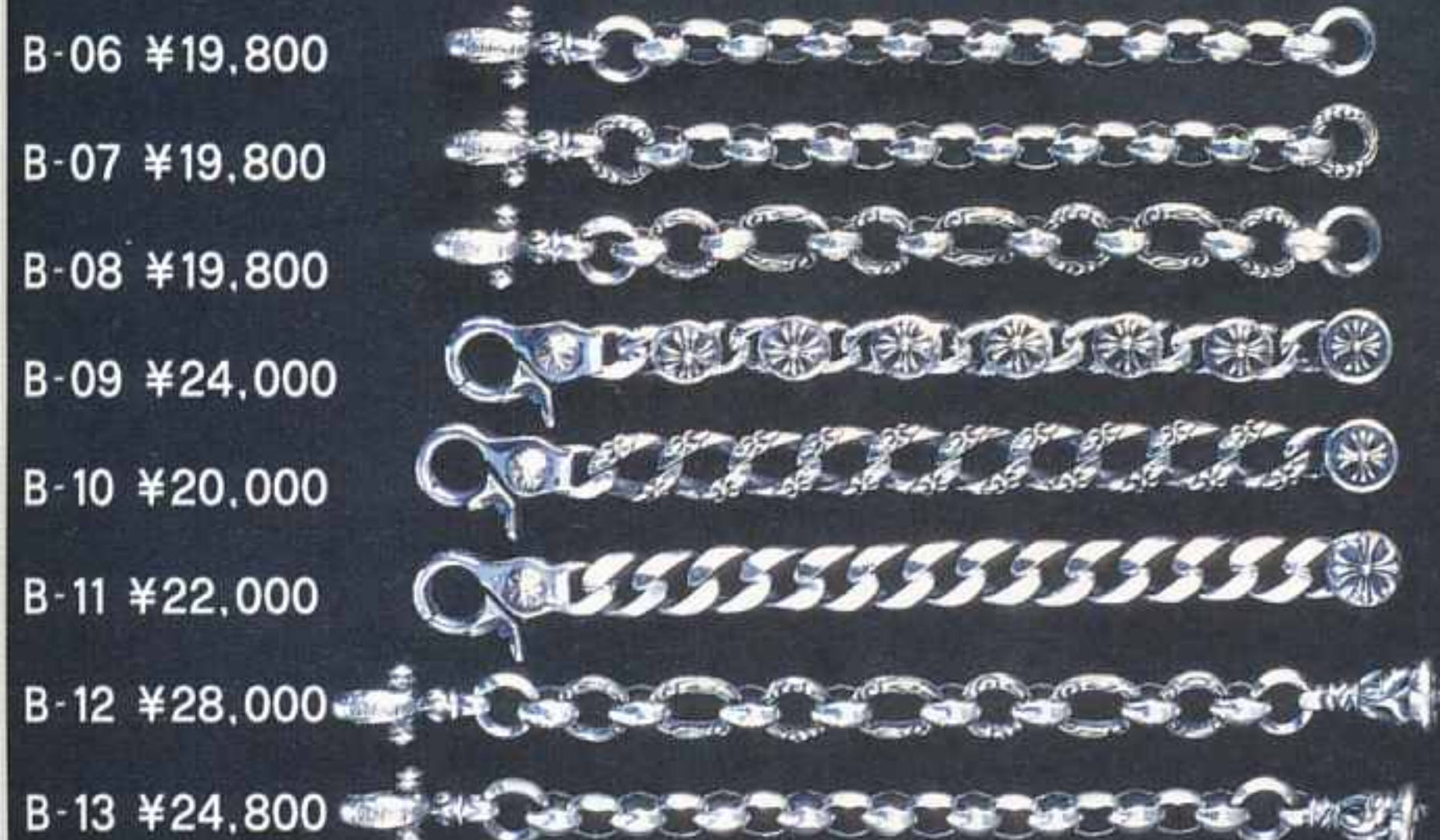
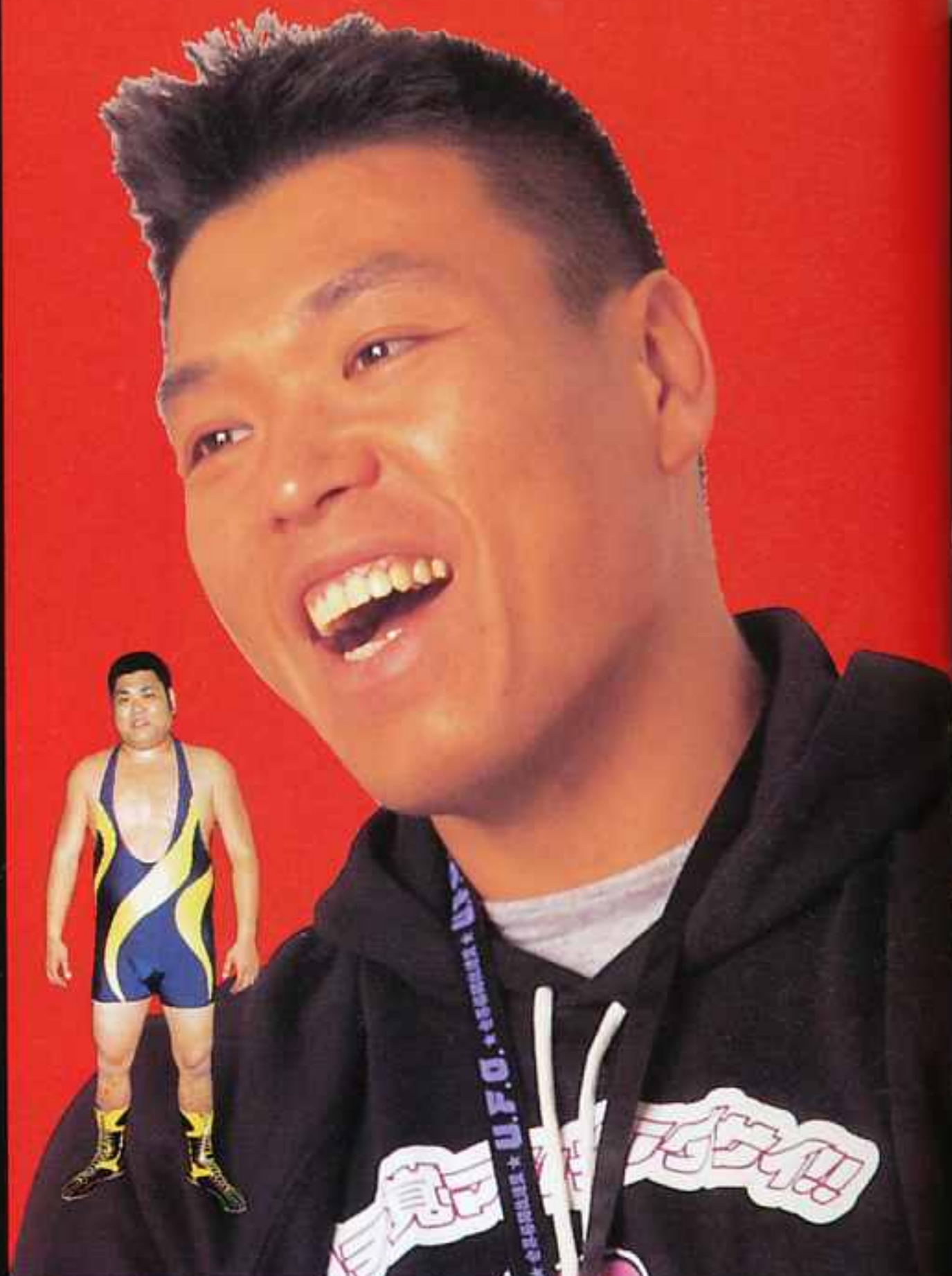
船木戦決定! ここが怖いゾ、ヒクソン!
ヒクソン・グレイシー

『PRIDE』のリングに突如、ドスコ〜イ!
大刀光スペシャル

行け、髙田! ホイス戦間近!!
髙田延彦

驚愕の異次元対談じゃ!
大仁田厚 vs エンセン井上

紙のプロレス RADICAL NO.23 小川直也、襲撃三昧続行ッ!

発行元：(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188

2000年流行語大賞受賞予定&本誌からのマット界への提言

道はどんなに厳しくとも笑いながら歩こうゼ!!

（1月4日「小川組vs橋本組」特別立会人・アントン総帥の言葉より）

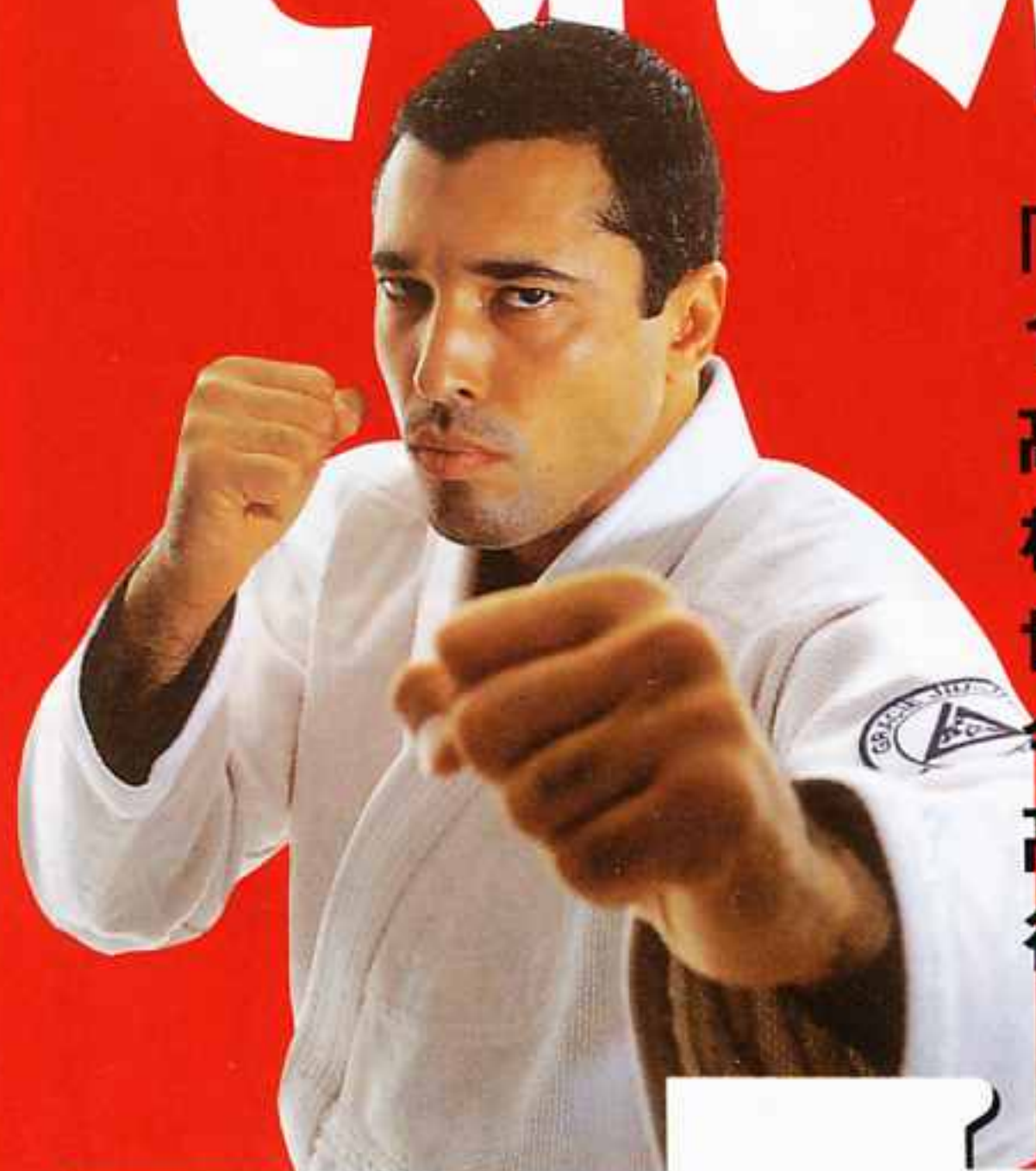
2000 格闘SMILE

アレクサンダー大塚

2000 格闘SMILE

延彦の季節

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影／森“モーリー”鷹博
photographs by Morry

超ド級のトーナメント
『PRIDE.GP』1回戦でホイスと激突!
待ち遠しいことこの上ないINTERVIEW
vs"グレイシー"3度目のチャレンジ
伸ばすか? 伸ばされるか?
それが問題だ

「夢じゃありません!」(CMの髙田延彦調)。
1・30『PRIDE.GP2000』の1回戦で、
髙田延彦が3度目の"グレイシー・チャレンジ"に挑む!
相手は、UFC、そしてグレイシー一族の名を
世に知らしめたホイス・グレイシー!
今世紀最後の「まだ見ぬ強豪」ホイスとの一戦で
髙田延彦は一体何を叩きつけてくれるのか?
行け、ノブ!

髙田

1・30ドームに3度び到来!!

ホイス・グレイシー。

高田が2度敗れたヒクソンの実弟でもあるが、そのヒクソンは、桜庭和志がホイラーを破ったあとの「言い訳（定説）三昧」で株を落としてしまった。

そういう風向きの中で、まだ日本で試合をしていないホイスは、「未知の強豪」と化してきた感がある。いや、ホイスはもはや、今世紀最後の「まだ見ぬ強豪」と言っても過言ではないのだ。

第1・2・4回のUFCを制し、アルティメット大会という未知の格闘空間、バーリ・トゥードという試合形式、そして〝グレイシー柔術〟の名を全世界に広めた発信源が、このホイスである。

そのホイスが、「兄（ヒクソン）は、私の10倍強い」と言ったところから、〝グレイシー一族の幻想〟は、またたく間に肥大していった。

その幻想に呑み込まれた高田は、2度のヒクソン戦で「世紀の敗戦」を喫してしまう。

もはや、誰もが高田のリベンジをあきらめた。

その矢先！ 高田は持ち前の強運で3度目の〝グレイシー・チャレンジ〟をゲットしてしまったのだ。

そうくれば、やっぱり見たい！

〝グレイシー幻想〟の発信源であるホイスを高田が打ち砕くところを。

大部分はサクが取り除いてくれたのだが、ノドの奥に刺さった〝グレイシー魚〟の骨をさらに吐き出すチャンス到来である。

そして、高田が心の底から喜ぶ顔を見たい！ と、妙な具合で肩に力が入るこちらを尻目に、当人はズバリ言って、非常にゆとりがあるのであった。

Nobuhiko Takada

高田 あれ、珍しいね、どこの人だっけ？ あ、『SRS・DX』の人？（笑）。

—ズコッ！ 今年初めて会うので、まずは新年明けましておめでとうございます（笑）。

高田 おめでとうございます（笑）。

—今日は、新年最初のインタビューということにかけて、高田さんの「信念」がそこはかとなく漂うようなインタビューになればと思ってます。まず今年は、1・4に山崎一夫さんの引退試合がありましたね。

高田 そうだね。俺も3～4年前に「近い将来引退する」って言ったけど、山ちゃんが俺より先に引退しちゃったね（笑）。同い年だから、自分に置き換えて見ちゃうからね。ほとんど同じ時間を歩んできてるから、非常に残念な気持ちはあるね。でも、激しいことやってきたし、ハードな現役生活を送ってきたからね。それを考えれば身体もボロボロだろうし、やっぱり引退っていうのは他人がとやかく言える問題じゃないからね。自分が思い悩んで、結論出すことだからね。

—しかも、ドームという大舞台で、永田（裕二）選手に完敗したとはいえ、次の世代への橋渡しとしては、いい引き際でしたよね。

高田 そうだね。いい引き際だね。山ちゃんらしい、ドライな引退試合だったから。

—いい意味でドライ。

高田 そう、いい意味で。最後も笑顔でね。彼のコメントも、ずっと第二の男っていう立場だったにもかかわらず、それでも大きな柱として、セカンドとしてズッと生きてきた男らしかった。「レスラーをパワーアップさせるのはファンの応援です。これからもプロレスラーを暖かい目で見守ってください」っていうようなことを言ったでしょ。自分のことよりも、あとに残った選手たちのことを思いやるっていうのは、やっぱり彼らしいなって感じがしたね。

—若手時代は、山崎さんとの対戦が「名勝負数え唄」と言われた時期もありましたよね。

高田 うん。（カール・）ゴッチさんのところ（での修行）から帰って来て、山ちゃんと大宮で試合して……あ、ゴッチさんのとこに修行に行ったっていうか、そのときは俺、前田さんの実験台で行ったんだよ！

—ガハハハ！ 実験台！ 思い出しましたか（笑）。

高田 うん。だからゴッチさんには、ほとんどなんにも教えてもらってないんだよ（笑）。で、前田さんに投げられて覚えたよ、フロントスープレックスを。

—そのころ、前田さんは「七色のスープレックス」の使い手でしたからね（笑）。

高田 で、そのフロントスープレックスを初お披露目したのが、大宮での山ちゃんとの試合だったね。

—でも「なにが一番の思い出ですか？」って聞かれても、数えられないぐらいあるでしょうね、やっぱり。

高田 そうだね。あまりにも濃い時間を一緒に過ごしたからね。ひとつだけ抜き取って「ここが一番の思い出だった」って言うのは、あまりにも浅いかなという気がするね。ただ、新日本に1回提携で戻って、それから新生（第2次）UWFを立ち上げたでしょ？ 立ち上げてしばらくするまでが一番濃かったかな。

—なにかを立ち上げるときは自然と濃くなりますよね。

高田 そうだね。ホントに自分たちでつくりあげるっていうのは、あれが初めてだったからね。それまでは自分たちが決断をして、そのレールの上に乗っかったかもしれないけども、レールは自分たちでつくってなかったから。自分たちが全部地固めして、基礎工事して、レールを敷いてっていうのは、新日本との提携を前田さんが（長州力を）蹴っ飛ばしてやめて、そのあとに新生Uを立ち上げて、しばらくするまでだね。

—レールの枕木にするための木まで採りに行ってた時代ですね、森の中に（笑）。

高田 そうだね、木こりまでやってたからね（笑）。でも、なかなか枕木のサイズがレールに合わなかったりしてね。あの時代が一番濃かったかな。

—なるほど。山崎さんの引退セレモニーでは、いまは所属が違うにもかかわらず、前田さんも高田さんも駆けつけた。で、リング上で花束を山崎さんに渡して、

ふた言、三言話しかけた後に一礼してリングを降りましたよね。それを見て、「ああ、キレイだな」と思ったんですよ。

高田　キレイ？

――このところ、マット界には暗い事件が多いですけど（笑）、プロの世界には、「キレイさ」っていうのは大事な要素なんだなっていうのを、あらためて感じましたね。その「キレイさ」を踏まえた上で、ドロドロしたものも含んだ情念や感情をどうさらけ出せるかってことなんでしょうけど、やっぱり、プロの世界には「キレイさ」は大事だと思いました。という報告です（笑）。

高田　なるほどね。

――前田さんとは最近なんか話はしましたか？

高田　いや、これといって。他愛もない挨拶程度だね。

――また（笑）。

高田　いや、ホントだよ（笑）。

――前田さんは変わらないですか？

高田　変わんないでしょ。「ずいぶんこの前と変わっちゃったなぁ」なんて気持ち悪いじゃない（笑）。

――ガハハハ！　いきなり豹変してたら面白いですけどね。

高田　前田さんに「どうもどうも、元気ィ？」なんて頬ずりされたら気持ち悪いもん（笑）。

2000
格闘SMILE

1・4新日本ドーム大会。盟友・山ちゃんの引退セレモニーに駆けつけた高田。リングサイドの高田の目は真っ赤だったが、リング上では爽やかに花束を贈呈した

今年は辰年だけに、新日本の藤波「辰」爾社長と対談したノブ兄さん（黒幕はShow）。この模様は新生『スコラ』誌上に収録。ここから何が生まれるか？

ホイスが「（ヒクソンは）自分よりも10倍強い」とか言っちゃったもんだからね

――ガハハハ！　いきなり前田さんが低姿勢になっても困りますよね。ところで、ケガした左膝の具合はどうなんですか？

高田　なんとか当日までには勝負できる状態に持っていけるメドが立ちました！

――「試合ができる」ということじゃなくて「勝負ができる」という状態。

高田　「勝負」だね！

――全治二ヶ月って聞いてましたからね。

高田　うん、スパーリングでひねっちゃった。同じ箇所を過去3回やってるんだよ。要するにたくさんの繊維があって、それが切れる。俺のは部分断裂っていうんだけど、完全断裂っていうのは靭帯が全て切れちゃう。切れたものは一生再生しないわけですよ。だから、まわりの筋肉を強化してフォローするしかない。また痛めると、だんだん靭帯が細くなってくる。回数を重ねると弱くなっちゃう。今回で4回目ということで、ちょっとひねったものだったのが思いのほか悪かったんだよね。

――大仁田厚じゃないですけど、限界に近づいてるんですかね、膝が。

高田　いや、まだ行けるでしょ！

――頼もしいですね。対戦が決まったホイス・グレイシーには、どういう印象がありますか？

高田　う〜ん……グレイシー一族の強さ、グレイシーという存在の大きさというものを含めて世に知らしめたというか、自分の肉体をもって、それを証明した最初の男というイメージが強いね。ただ、彼が「（ヒクソンは）自分より10倍強い」とか言っちゃったもんだからね。あれは本人も後悔してるらしいよ（笑）。

――あ、そうなんですか？

高田　あれだけの実績をあげた男が、「自分より10倍強い」って言ったらねぇ。「俺より結構強いよ」っていうんじゃなくて、「10倍強い」ってことは、誰とやっても赤子の手を捻るような強さっていうイメージがあるじゃない。

――「10倍」って数字ですからねぇ（笑）。

高田　数字好きだからね。「400」とか「450」とか。

――ガハハハ！「グレイシーは数字好き」。なんかコメディ映画のタイトルになりそうですね。

高田　だからね、それ言われちゃうと「エッ？」ってなって、目が「10倍強い」ほうにいっちゃうからね、自然と。

――桜庭さんが、「〝10倍〟っていうのはどういうことなんですかねぇ。ふつうの人は1分間に1本しか極められないところを10本極められるくらい強いんですかねぇ」って言ってましたね。いずれにしても、強さを10倍という数字で言われても、よくわかんないですよね。

高田　あのね、それは、よくわかんないぐらい強いっていう表現なんだよ（笑）。

――そういうことだったんですか（笑）。

高田　要するに、俺らが俺よりちょっと強い選手に対して「俺より10倍強い」とは言わないわけだよ。それは自分を落とすことになるし、相手をムチャクチャ上げることになるから。だって、「俺よりあの人は10倍食う」っていったら、俺がラーメン3杯食ったとしたら30杯食うんだからね。たいへんだよ（笑）。

――高田さんより「酒が10倍強い」っていったら、とんでもないことになりますよね。『世界ビックリ人間大集合』の世界（笑）。

高田　俺と飲んでるときはまわりに5人転がってるところが、そいつと飲むと50人転がってることになっちゃうね（笑）。

超ド級の16名が揃う『PRIDE・GP2000』。1月30日に1回戦。決勝大会は5月に予定されているが、このデカくて・凄くて・ゴージャスなベルトを高田は巻くことができるのか？

——ガハハハ！　どういう例えだ！

高田　ありえないでしょ？　だから、数字的に見ても、それはありえないことなんだよ。ありえないぐらい凄いんだよってことだよ。

——そういうことを言いたかったんですね。

高田　言いたかったんだろうけれども……。

——それを「10倍」って言っちゃったばっかりに（笑）。

高田　世間の目がサッと「10倍強い」と言われたほうにいっちゃったんだよね。でもそれは、「あのホイスが言ってるんだから」っていうのがあるからでしょ。「あの」

登山家みたいなもんだよ。俺もどうせ登るなら、もっとも高い山を登りたいからね

KO Takada

っていうぐらいだから、あの男は実績残してるわけだよ。自らグレイシー柔術の強さをアピールした彼が言ったから説得力がある。いま思えばヒクソンとホイスの考え方っていうのはずいぶん違う。たとえば試合のコメントにしてもヒクソンは「あくまでもプロモーターのオファーを受けただけだ」とか言うでしょ。だけど、ホイスは、「俺らのことをガタガタ言ってるヤツを黙らせるために闘う」と。だから、そのへんの考え方とか、表にコメントする内容とかっていう部分でホイスのほうがグレイシーのことを考えてるし、一族のことを考えてる。やっぱり闘う人間として、なにがベーシックになってるのかっていう部分での純粋さ、真っ直ぐさっていうのが伝わってくるんだよね。

——ホイスは、誰とでもどんなルールでもいいって言ってましたからね。いざ交渉の場になったらどうなるかわからないですけど。

高田　やっぱり、これだけのメンバーのトーナメントに出てくるということは、凄いと思うよね。

——ホイスは道着をつけて出てくるようですが、道着対策はどうですか？

高田　いや、なにも考えてない。

——掴みやすい？

高田　かもしれない（笑）。でも、こっちにも有利な部分があるかもしれないけど、やってみなきゃわからない。彼の道着を使うテクニックっていうのは一級品だからね。彼の繰り出す道着を使うテクニックに触れてみないと、わからないよ。それは出たとこ勝負で現場で確認しながら対処していくしかないね。いまからトレーニングしてどうこうって話じゃないよね。

——自分では勝負のポイントはどこに置いてるんですか？

高田　勝負のポイントは……わかんない！

——ズコッ！（笑）。

高田　な〜んにもわかんない！

——ガハハハ！　わかりませんか！

高田　わかるわけないじゃない！　わかったら勝ってるよ、2回！

——せめて「タップしないこと」とか、あるじゃないですか（笑）。

高田　いかに、いいところでタップするか。

——思い切りよく（笑）。

高田　カッコよくタップする（笑）。

——ネタにしないでくださいよ（笑）。「対グレイシー」ということで言うと3度目

1回目のヒクソン戦（97・10・11）に挑んだ高田は、まさにヘビに睨まれたカエル状態。本人は否定していたが、「プロレスを背負う」プレッシャーとヒクソン幻想に、完璧に呑まれていたわけである。何もできずに、マウントからの逆十字で完敗してしまったが、ここから『PRIDE』の歴史は始まったのだ

になりますけど、3度目ということに関してはどう捉えてますか?

高田 よくぞ3回もチャンスをもらえたなっていう思いが強いね。ここまで自分自身よく粘ってね、リングに上がって来れたなっていうのもあるし。

――しかしタフですよね、高田さんは。

高田 凄いタフだよね。

――普通、1回目の大きな敗戦で並のレスラーだったらヘコんでそのまま辞めちゃいますよね。

高田 ヘコんでね。

――つくづくタフだと思いますよ。

高田 そうかなぁ?

――自分で「タフだよね」って言ったじゃないですか(笑)。

高田 そうなのかな? でもホント、タフだよね。

Nobuhiko T

――どっちなんですか!(笑)。そのタフさっていうのは、「対グレイシー」を経験したことや、プロレスを背負ってバーリ・トゥードに出ていくことで培われてきた部分は大きいんでしょうね。

高田 やっぱり、登山家みたいなもんじゃない? より高い山を制覇したいっていう。1回登山を始めるとやめられないじゃない。

――っていいますよね。

高田 俺もどうせ登るなら、もっとも高い山を登りたいからね。行くまでは苦しい、挫折もある。だけど、そこに向かってる自分とか、あるいは現場までたどり着いて、頂上までもう一歩……頂上っていうのはリングの中のことだよ。リングの中という頂上までもう一歩のところまで来て、そこからも、いろんなもがき苦しむことがあって、挫折して、また降りてくるっていうさ。そしてまたそこから這い上がる。持って生まれたものかもしれないけど、そういう大きな山にトライすることは自分を成長させてくれるし、それに向かってる自分、その頂上まであと一歩のところに来て、リングの中でもがいてる苦しさっていうのが、自分にとっては気持ちいいんじゃないかな。絶対味わえないしね、日常生活では。これが並の山……つまり並の相手でも味わえないしね。そういうことが、麻薬みたいなものなのかなって……やったことないけどね(笑)。

――バーリ・トゥードでも並じゃない相手に挑んでますからね、高田さんは。そういえば、1・4で猪木さんが、小川(直也)選手の試合前に、立会人なのにもかかわらず、なぜかテーマ曲のなか出てきましたよね(笑)。

高田 ズッコけたからね(笑)。

――で、新年の挨拶として「道はどんなに厳しくとも、笑って歩いて行こうぜ!」って叫んでました(笑)。

高田 猪木さんっていえば、「道」っていう詩。あれは子どもから大人まで、どんな人にも共通することですよ。

――猪木さんからもらった直筆の詩は、まだオフィスに飾ってあるんですか?

高田 あるよ。どっちに転んだって、やっぱり前に進まなきゃ、なんにも見えてこないからね。往く道の途中で潰されるのか、ヘコむのかわからない。あるいはまた立ち上がったとしても、もっと大きな落とし穴があるかもわからない。気持ちのいいオアシスがあるかもしれないし。とにかく前進しないと。進める道はガンガン前に進もうということだよね。

――冒険家ですねぇ。

精神的にも肉体的にも1回目とは段違いの高田延彦が見れたヒクソンとの再戦(98・10・11)。スタンドでの四つ相撲状態では抜群の強さを発揮し、膝でダウン状態にも追い込んだ。自ら「ヒクソンの庭」であるグラウンドに持っていき、果敢に足を狙いに行ったが、1R終了間際に1回目と同じ逆十字で敗れた

幕を降ろしましょう!!
凄く楽しみなんだよね!!
いますぐにでもやりたいね

Nobuhiko **Takada**

2000 格闘SMILE

高田　無謀な冒険家だね（笑）。
――ガハハハ！　高田さんは、一歩一歩進んで行くタイプかなぁと思うと、ものの凄い冒険をしてみたりとか、時期によって落差がありますよね。一体これはどういうことなんですかね？
高田　気まぐれなんだろうね（笑）。
――ひと言（笑）。
高田　そう（笑）。
――グレイシーっていうブランドに対しては、桜庭選手が大仕事をやってのけましたよね。でも、ヒクソン&ホイラー兄弟は言い訳三昧でした。
高田　あ〜、「定説」ね（笑）。
――彼らの定説では、ホイラーは負けてないそうです。
高田　完勝だよ！
――完勝、この上なし！（笑）。
高田　完勝、この上なし！　あれにとやかく言えば言うほど、自分の首を絞めるということがわかってないことも悲しいよ。俺は彼らを追ってきた身として、一時は尊敬の念を抱いて闘った者として、変な言い方だけど、最後まで夢を持たせてもらいたかったね。最後まで自分たちの信念どおりのコメントや、試合の結果に対しての思いを語ってもらいたかった。俺はただ、ひと言でよかったと思うな。
――例えば？
高田「桜庭は素晴らしい選手だ。ただホイラーはタップしなかった。これは俺たちの誇りだ」とでも言ってもらえれば、「カッコええなぁ、この男」ってなるでしょ。
――なるほど。
高田　だけど、辻褄が合わない、幼稚園児に毛の生えたようなコメントばっかり並べてたでしょ。あれを見ると、彼らの闘いというものに対する信念の置き方っていうものに疑問を持たざるをえないよ。
――そう言われたら、同じファイターでも「カッコいいなぁ」って思うでしょうね。
高田「ヒクソンらしいじゃん」っていう意味でのカッコよさ。ヒクソンの侍を崇拝する姿だとか、自分を侍に照らし合わせた見せ方？　そういうところにみんな幻想をいだいて騙されたわけだから。
――騙された（笑）。
高田　俺も含めてね（笑）。でもそのひと言でサッと去っていけば「あ、やっぱりヒクソンじゃん」ってなったよ。
――あのサムライ・スピリッツは本物だったんだなと。
高田　でも、そういうものがもう、効かなくなってきたんだよね。とにかく、ガッカリしたよ。
――桜庭さんとホイラーの試合は、ワンパターンしかないと思われてたバーリ・トゥードのセオリーを桜庭さんが崩していった。それは（アラン・）ゴエス戦やビクトー（・ベウフォート）戦とか、その他の桜庭さんの試合もみんなそうなんだけど、その桜庭スタイルが立ち昇ったことによって、もの凄く広がりが出ましたよね、バーリ・トゥードというものに。
高田　そうだね。あれは革命だよね。
――で、ヒクソンのコメントを聞いてると、「バーリ・トゥードのセオリー通りに闘わなきゃダメだ」と言ってるようにも聞こえる。逆に桜庭さんは、「プロなんだから、もっと広がりを持たせようよ」っていうことを、闘いを通して伝えたわけですよね。
高田　だから、ヒクソンみたいな考えを持ってる以上は、お金もらって試合しちゃダメだよね。「キミ、いままでのギャラ全部返しなさい」って（笑）。
――一体どこに返すんですか（笑）。
高田　KRSに（笑）。
――ガハハハ！　もうありませんよ。
高田　あ、そう（笑）。そういう考えを持ってるんだったら、プロのリングにお金をもらって上がっちゃいけないよ。アマチュアの試合でやってればいいんだよ。もう、言ってることとやってることがシッチャカメッチャカだね。とくにここ1〜2年は、そういう印象が強いよね。
――桜庭vsホイラー戦では、プロ観の違いもクッキリ出ましたよね。
高田　まったく比較対象にならないよ。彼らの持つバーリ・トゥードに対するファイトスタイル、固定観念とは、まったく相まみえないっていうか、お互い譲れないっていうかね。ルール・ミーティングでもまったく平行線だったからね。
――それに対して桜庭さんのプロとしての考え方が現れたあの闘い方は、見てて“広い”し、気持ちいいんですよ。高田さんも一番最初のヒクソン戦は、バーリ・トゥードというものの固定観念にはまってたと思うんですけど、今度はそういうものを取っぱらった、高田さんらしい“広い”闘いを期待したいですね。そういう意味で勝負のポイントはどこかってさっき聞いてみたんです。
高田　勝負のポイントはなんなんだろうねぇ？　わかんないね。
――ガハハハ！　やっぱりわかんない（笑）。
高田　楽しみにしといて！
――わかりました。非常に楽しみにしてます。
高田　それでなくても引き出し少ないんだからさ。ひと言いっちゃうと全部バレちゃうから（笑）。
――秘策は教えられないと（笑）。グレイシー幻想は、はからずも高田さんが、1回目のヒクソン戦で必要以上に大きくしちゃった部分もありますよね。だからこそ、対グレイシー第一部の幕を、高田さん自身に降ろしてほしいんですよね。
高田　幕を降ろしましょう!!
――いいですね！　ズバリ言って、勝てる自信はありますか？
高田　わかんない！
――ズコッ！　威勢がいいんだか悪いんだかわかりませんね（笑）。
高田　いまは、な〜んにもわかんない。でも凄く楽しみなんだよね。いますぐにでもやりたいね。
――2回目のヒクソン戦の前もそう言ってましたよね。
高田　あれ以上に楽しみにしてる！
――いや、それだけで十分です！
高田　今回は試合に出れないかな？っていうほうが強かったんだよ。もちろんケガが原因だけどね。ただ、その気持ちと比較すると、いまの状態は対極のところにある。出ないのか、なんとか試合までに

高田vsホイス
本誌編集部
足の裏勝敗予想診断!!

スモーノブ　けたぐり　高田
吉田豪　判定　高田
山口日昇　キムラロック　高田
堀江ガンツ　三角絞め　ホイス
大西タマリン　逆十字　高田
松澤チョロ　三角絞め　ホイス

間に合わせられるのかっていうんじゃなくて、勝負できるような状態に持っていけたっていうのは、自分にとっては地獄から天国にたどり着いたような状態。勝負できるっていうことは勝つ可能性が十分にあるということだよ。

——もちろん可能性は十分ありますよ。

高田　あとは、あくまでも桜庭の闘いっていうのは、桜庭にしかできない闘いなんだよ。柔術の選手がみんなイヤになって寝ちゃうのは桜庭だからだよ。あれはあくまでも桜庭スタイルっていうのが確立されてて、あれを真似するっていうのはできないわけ。俺には俺の……高田延彦ができる限りの高田スタイルみたいな試合展開に持ってければ、自ずと勝ちは転がり込んでくると思うんだよね。

——高田スタイルって久しく見てないような気がするんで、思いきり見てみたいですね。

高田　だって、あいつらゴングが鳴ったら、す～ぐタックル入ってきちゃうんだもん。スタイル見せられないよ（笑）。

——ガハハハ！　それはしょうがないですよ、試合なんだから（笑）。

高田　すぐタックルくるんだもん、鳴ったら。それがなきゃあねえ（笑）。

——ホイスはヒクソンよりも体重が軽いですよね。2回目のヒクソン戦のあとに、「（スタンドで組んだ状態から）軽く転がっちゃうだもん」って言ってたじゃないですか。だからスタンドから転がすのは比較的ラクなんじゃないですか?

高田　問題は転がしたあとだから。（腕を伸ばして）こうなんないようにね（笑）。

——また自虐的なことばっかり（笑）。ズバリ聞きますけど、後輩の桜庭さんが大きな仕事をやったということに対してのプレッシャーはないですか?

高田　ないことはないね。サクが勝ったことは嬉しいし、幸せなんだけど、そのあとに俺が行くとなると、雰囲気的にコケられないよね。

——今度はそういうプレッシャーが（笑）。

高田　でも、そういう風が吹いてるんだったら、それに乗っかっちゃうよ。

——入場シーンから含めて楽しみですね。1回目のヒクソン戦のときは、高田さんもこっちもどうしようもないくらい力が入った。2回目は「明るく出ていく」って言ったらホントに明るく出てきた。じゃあ、3回目はどういう表情で出てくるんだろうっていうね。

高田　楽しみだねぇ。

——そんな、他人事みたいに（笑）。試合前の気持ちのつくりかたっていうのは、初めてバーリ・トゥードをやったときよりは全然こなれてきてるんですか?

高田　うん。もう「未知の世界」って感じじゃないからね、このリングの中が。何度も景色を見てるし。だから、経験を積んで、初期の頃とは気持ちのつくりかたには、ゆとりが出てきたね。

——顔にもゆとりがありますよ。

高田　そうでしょ。ありすぎて気持ち悪いもんね。

——ガハハハ！　ちょっと身体にもゆとりがありそうですけどね。

高田　身体はゆとりだらけ！　酒太りってヤツだね（笑）。

——季節柄、忘年会に新年会と（笑）。

高田　忘年会、大変だったよ。俺、ここまで試合前に飲んだの初めてだね。断れないんだもん。正月だって焼酎2本飲んじゃったよ。

——それは逆に期待できるなぁ。なんか高田延彦が戻ってきたような気がしますねぇ（笑）。

高田　酒が残ったままリングに上がっちゃうんじゃないかなぁと思ってね。飲んだほうがいい試合できんじゃないかと思って（笑）。だから、自然体っていう言葉も手垢が付きすぎちゃってあんまり言いたくないんだけどね。でもそんなに気張ってないんだよ。今回は身体の芯から「なるようになれ」っていうか、そういう気分が、いい具合にモチベーションを高めるのに結びついてる。だからさっきから言ってるように結果はどうなるかわかんないし、作戦もわかんない。でも、プロとしての自分らしさが出せれば結果はついてくると信じてるよ。

——「ホイス戦をバーリ・トゥードの区切りに」という発言も出てますけど、実際にその思いはいまでも変わらないですか?

高田　変わらない。ホイス・グレイシーっていうのは、あくまでも自分にとっての終着駅のような感覚はあるよ。逆にそれがどういう結果であろうと、自分の中での満足度というか、納得の度合い。勝負ができたのか、できなかったのか、そこが一番の重点だね。見てるほうにしても、1回目のヒクソン戦から2年経って、どれだけ成長してるかっていう査定の場所のような気がするからね。だから、それに対してどういう答えが出せるのかっていうことだね。今後キッパリと一線を引くのか、あるいはまた目標を見つけたら『ＰＲＩＤＥ』のリングに上がろうという気持ちになるのか。これはもう、生ものだからわかんないよ。

——また新たな目標ができたらと言っても、本場のＵＦＣに行きたいとか、そういうことではないんですよね?

高田　要するに、俺の場合は相手だから。俺の目標の照準に合ったら、「ない」とは言えないけどね。「どこのリングでやりたい」っていうよりも「この人とやりたい」っていうことに重きを置いてる。それが一番だよね。

——じゃあ、プロレス回帰が現実化したときに、プロレスの試合の中で誰とやりたいというのはあるんですか?

高田　いろんな人と！　外人、日本人問わず、ね。

——その中に小川直也っていうのは入ってない?

高田　それ、インタビューがあると、毎回必ず聞かれるんだよ。

——ボクも「何回も聞かれてるだろうな」と思いながら聞いてます（笑）。

高田　いま現在の自分のキャパシティーの中に彼はいないんですよ。今後、そこ

"霊長類ヒト科最強の男"と言われたマーク・ケアーにも勇猛果敢に挑んでいった高田（99・7・4）。ゴング直後の突っ込みには、ケアーも「高田はライオンのハートを持ってる」とビックリ。ヒクソン、ケアーといった、より高い山を目指した経験がホイス戦でどう活きるか、非常に楽しみである！

2000 格闘SMILE

に彼が入ってくるかどうかは、わかんないよ。

――更正すればということですか？（笑）。

高田　人に悪態ついてね、花束投げつけてるようじゃ、まだまだ更正する必要はあるね（笑）。

――ところで、プロレスっていうことでいうと、『PRIDE・GP』に新日本を退団した藤田（和之）選手が上がってきたり、大刀光選手がオブザーバーながら上がったり、プロレスラーのバーリ・トゥード参戦というのが今後も増えそうな感じがしますね。

高田　いいことだと思うよね。出たい人はどんどん出たほうがいいと思う。それを引き止めるっていうのはよくないと思うよ。その選手に対してチャンスをあげるってことは必要だよ。誰でもかれでもっていうんじゃないけども、それなりの人であれば、どんどん上がってほしい。マット界も活性化するしね。ファンに対しても夢とかいろんな思いを与えられる。大歓迎だね。

――藤田選手が上がってくることによって、またもや『PRIDE』がマット界に大きな渦を巻き起こすことになりますね。

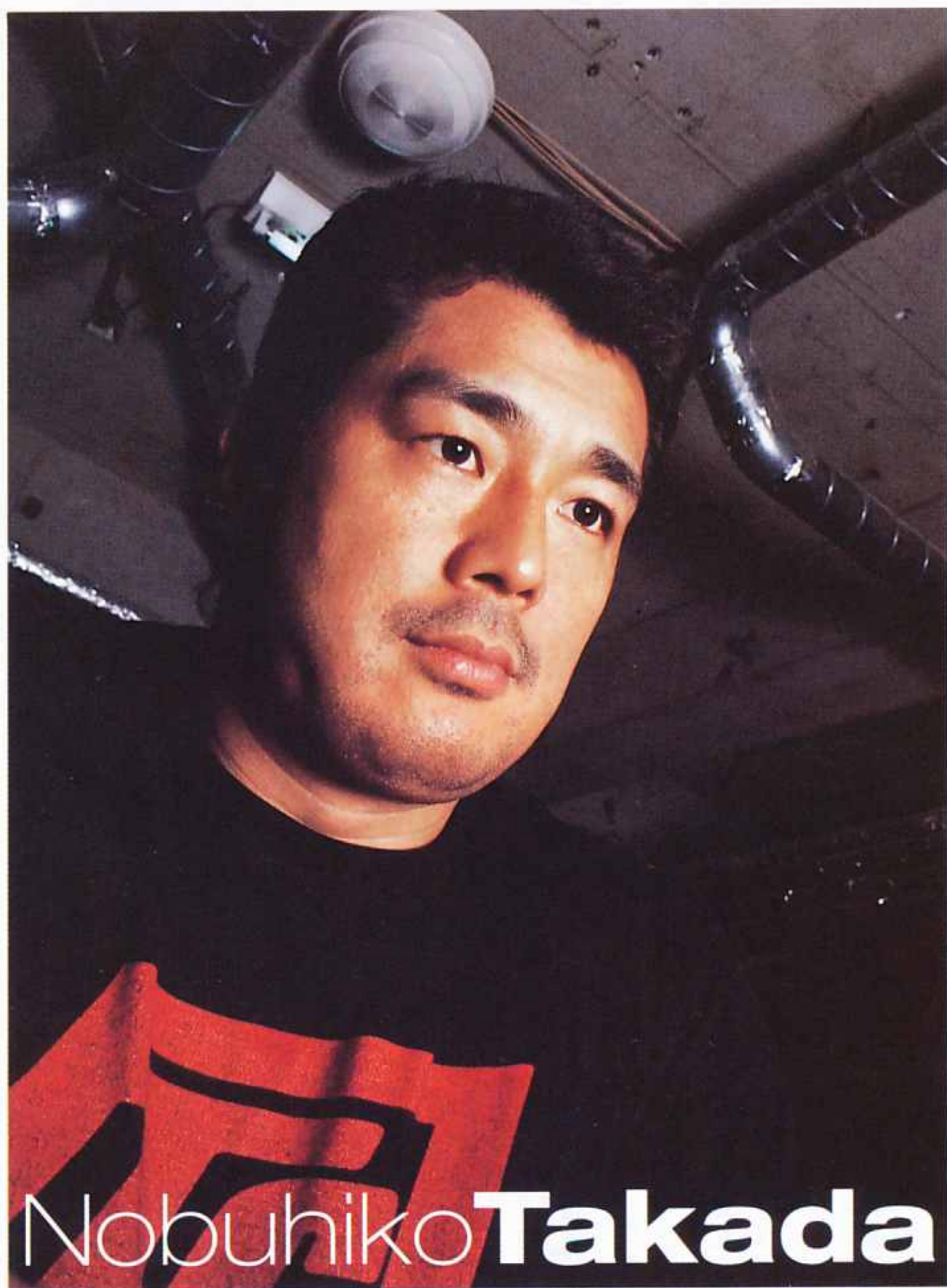
高田　嬉しいね。自分が産み落としたものが、そういう形でどんどん大きくなっていくっていうのは嬉しいよね。結果論だけど、「なんだっけ？『PRIDE』だったっけ?」なんて言われたら悲しいよね。

俺はああいう結果に終わったけど、ヒクソン戦をやった副産物として、みんなが夢を持って見れるようなものが生まれたこと。そして、それがマット界に大きな渦を巻き起こすような要素を持ってるリングになりつつあるっていうのは、自分自身の結果はともあれ、幸せだよね。

――高田さんが身体を張って落とした種が、大きな花を咲かせつつありますよね。

高田　うん。

――船木vsヒクソン戦も決まりましたけど、「船木選手に頑張ってほしい」というコメントを高田さんは出してますね。

安生のやり方は卑怯な行為。ただ……そうせざるをえない原因もあったんじゃないかな

高田　日本人として、そろそろ言い訳協会会長をバッサリとやってもらいたいね！

――ガハハハ！　言い訳協会会長だったんですか、ヒクソンは。偉い人だったんですね（笑）。獲物を取られたっていう感覚は全然ないですか？

高田　それは自分の責任だからね。自分が倒せないから、誰かがそれを追って倒す。それは自然の流れだから。

――その船木vsヒクソン戦を開催するのが『コロシアム2000』という新しい大会なんですが、『UFC―J』もあるし、ノールール系でもいろんな大会が出てきましたよね。プロレス団体と一緒で、今後乱立したり、選手の取り合い、主導権争いになるんじゃないかという危惧の声もあるんですけど、これに関してはどうですか？

高田　やっぱり、新しくモノが始まって、ある程度みんなに認められるまでには、間違いなく時間がかかる。マスコミに叩かれた時期もあったけど、『PRIDE』っていうのが、ちょうど3年目に入るわけですよ。そういう実績とか、提供してるものも含めて、イメージができあがりつつある。たとえこれから乱立状態になっても何歩もリードしてると思うんだよね。でも、それに奢らずに、これからもファンの信用を得られるようなカードや闘いを提供していけば、同じレベルで引っ張り合ったりするようなことにはならないよ。世界的にもいま、『PRIDE』っていうリングが評価されて、名のある選手も名のない選手も、みんなが「上がりたい」っていう状態になってきてるしね。そういう状態のときにもっともっと努力して、2年後ぐらいにはK―1を超えるスケールにできれば、マット界ももっと面白くなると思うよ。森下社長には頑張ってもらいたいね。

――話は変わりますが、高田さんの後輩である田村選手と山本喧一選手が騒動を起こしてますね。

高田　田村が騒動起こしてるの？

――いや、田村潔司選手は起こしてないですね。巻き込まれてると言ったらいいんですかね（笑）。

高田　う～ん……若い選手っていうのは暴走しがちだし、全体が見えない状態で自分中心に行動したり発言したりしがちなんだよ。何十人も見てきてるからね。ただ、敵をつくるにしても、考えながら敵をつくっていかないとね。若いうちは支持してくれる人がいるからいいけど、「ハッ」と気が付くと自分が一人ぼっちになってるってことがあるんだよ。

Nobuhiko Takada

――ヤマケンの一連の発言も、あとに繋がっていけば意味があるんですけどね。

高田　わからないよ。

――本人にあまり悪気がないとはいえ、敵をつくることにかけては、大御所の前田日明という人がいますよね（笑）。去年の11月には、これまた大きな事件に巻き込まれましたけど。

高田　ハッキリしてるのは、安生（洋二）のやり方は手段としてはよくない。これは卑劣な行為だと思う。だけど、吟味して考えてみると、そうせざるをえなかった原因もあったんじゃないかと思うね。俺は安生と一心同体のつきあいをしてきたけど、思いつきであんなことをやる男じゃないっていうのはよくわかるんだ。なにやってても、ああ言われちゃう、こう言われちゃう、でね。やっぱりマスコミでの取り上げられ方も、前田さんの発言とは全然違うしね。

――安生さんも、「マスコミにも責任はある」って言ってましたからね。

高田　たとえば、ちょっと前のなんかで、「ある団体は宗教だ」みたいなことを言ったんでしょ？

――講演会で言ったらしいですね。

高田　人間が命を賭けてひとつのものをやってるわけですよ。それをひと言、「宗教」で片づけられちゃうと、そこに生活の全てをかけてる人間にとっては、たまらないことだよね。闘いで生きてるんだから。前田さんが自分で自分をそこまで追い詰めたっていうか、自分の言葉で自分をそういう状況に持っていってしまったと解釈をせざるをえない部分はあると思うね。

――この事件があったことによって、プロとしての面白い発言が変に規制されたりしたら、つまらないことこの上ないんですが、ただ、言葉には気をつけなきゃいけないということですね。

Nobuhiko **Takada**

高田　そういうことだね。

――前田さんは、たとえ団体が違っても、喧嘩状態であっても、なんだかんだ言っても仲間だっていう意識が強すぎる人なんですよね。「あれも俺の仲間や、俺の後輩や」っていう思いが。

高田　でも、喧嘩状態の相手は、もはや先輩だと思ってないんだよね。

――そこらへんの行き違いがあるんでしょうけどね。

高田　大変な温度差があると思うよ。

――それを埋めるにはどうしたらいいんですか？

高田　やっぱり、本人同士が努力して埋めていくしかないね。

WWFに上がるのが目標じゃないよ。あくまでも“メイン”にチャレンジしたい

――他人が間に入れる問題じゃないということですか。ところで高田さん自身のトーナメントですが、優勝は狙ってるんですか？

高田　ホイスに勝てば、優勝候補に挙げられるよね？

――当然挙げられますよ！

高田　大きな難関だけど、ホイスに勝てば、自ずとそういう目で見てくれるだろうね。自分にとっても見えてくるものがあると思うしね。一個一個クリアしていきたいね。まずはホイスを倒す！　それが大前提。

――決勝大会は3月ないし5月と言われてますが、それが終わると、さっき言ってたプロレス回帰が待ってますよね。桜庭さんも新日本のジュニアの闘いに出たいと言ってますが、これは高田さん的にはどうなんでしょう？

高田　いろんな意味で、いい形で出ていけるんだったら、可能性はあると思うよ。

――桜庭さんのプロレスでの闘いは、実に興味深いですよ。高田さん自身は、まずはどこに照準を当ててるんですか？

高田　やっぱりWWFだね！　あそこって種を蒔いてから、凄く時間がかかるらしいんだけどね。

――WWFにはホントに出たいんですか？　リップ・サービスじゃなく。

高田　うん。どんな世界かわかんないから。

――そうか。そういう意味ではバーリ・トゥードと一緒で「未知の世界」。

高田　だから、あそこも大きな山なんだよ。あそこでメインを張るっていうことは『PRIDE・GP』に優勝することと同じぐらい大変なことだよ。それ以上かもしれないね。そういう意味で、山としてはホイス、それ以上かもしれない。

――いまのWWFで日本人がメインを張るとなったら大変なことですよ！

高田　そういう大きな山に対して、どこまで自分が行けるのかっていうことが面白いんだよ。あそこのリングに上がることが自分の目標じゃないよ。あくまでもメインにチャレンジしたいってことだよ。

――WWFのメインかぁ。その目標は冒険家の面目躍如ですね、ホントに。

高田　英会話もいま勉強してるし。

――は？　駅前留学ですか？

高田　違うよ。マンツーマンだよ。1日2時間、週に3回！

対するホイスもこれまでのヒクソン同様、高田戦への準備は万全のようだ。ホイスは決戦の3週間前に来日。ヒクソンの山篭りに対抗してか神奈川県・大磯で〝海篭り〟を敢行した。

高田なら、さしずめ「海篭りっていうなら貝やワカメを食べればいいじゃない、ヒトデを食べればいいじゃない！」とでも言うかもしれないが、ヒクソンの山篭りが女房子供を引き連れた家族大移動のアウトドアじみたモノだったのに対し、ホイスはホテル住まいながらトレーニング・キャンプに相応しい本格的なもの。ランニングや寒中水泳の他にホテルの一室に畳を敷き詰めて簡易道場に改造。ここで父エリオとアメリカから連れてきたスパーリング・パートナー、ジョン・ボークと共に実戦スパーリングを中心にした特訓に励んでいる。

1月13日、公開スパーリングで見せたホイスの動きは好調そのもの。「高田は身体が大きくて力が強いが、キック以外恐れるものはない！」というだけあって、スパーリングの最中も十字を極めながら「ライク・タカ～ダ（高田はこれでやられたんだろ?～）」と言って笑顔を見せるなど終始余裕の表情で自信を伺わせた。

この自信が過信につながるかと言えば、そうとは言い切れない。「高田のビデオは何度も繰り返し見た。対策は万全だ」との言葉どおり、スパーリングで見せた動きも明らかに高田戦を見据えたもの。2度目のヒクソン戦で見せた高田の四つ相撲の強さを警戒してか、ホイスは組み合った体勢からの崩しを何度も披露。その他にも足関節、パンチ、キックを積極的に繰り出し、ニュー・ホイスを印象づけた。とはいえやはりホイスの技で一番警戒しなくてはならないのは「衣（ぎ）」を使った攻撃。衣を掴むことによって片手でチョークを極めたり、グラウンドでのバリエーションが広がり、闘う相手にとってみれば、手が3本も4本もあるような人間とやるようなものだろう。

そしてスパーリング以上に取材陣を驚かせたのがホイスの身体の柔らかさ。スパー前のストレッチでみせたそれは奇人変人寸前ともいえるもので、この男に関節技が極まるのかどうか不安だ。高田よ、この男をどう攻略する!?

取材・堀江ガンツ

ホイス、父・エリオと〝海篭り〟!!
「高田対策は万全だ」

ホイスの手に注目！自ら道着の襟を掴むことによって左手一本でスリーパーを極め、右手は相手の腕を殺している。ホイスが柔よく剛を制することができる秘密はこの衣にある！

柔術家が苦手にしていると言われる足関節にもトライ。このアキレス腱固めは入り方、極まり具合ともにスムーズで鮮やかであった

初めてオープンフィンガーグローブを付けて試合に挑むホイス。積極的にパンチ、キックを繰り出し、カカト落としまで見せた。実戦でも見られるか!?

――また地道なところから始めますねぇ（笑）。

高田　トークできなきゃ！　ね?（笑）。

――イッツ、オッケー！（笑）。ということで、それよりもまず、1月30日はぜひとも、「勝ちましておめでとう」と言わせてください（笑）。

高田　その日は偶然、結婚記念日なんだよ。いいプレゼントを送りたいね！

【2000年1月8日／東京・池上、高田道場にて収録】

しかし、それにしても、高田延彦はやっかいな存在である。

一連のヒクソン戦は、プロレス・ファンからすれば、力の入ることこの上ない闘いだった。

ありったけの声援を送っていたファンにしてみれば、まだエネルギーを充填しきれてないほど力を使ったかもしれない。

しかし、それでもまた、〝高田延彦の季節〟がやってくると、高田を応援せざるをえないのだ。

一度は奈落の底に落ちながらも、高田は、まだまだ高い山を登ろうとしている。

登るからには、もがいている姿、苦しそうな姿、みっともない姿など、〝最強という名の鎧〟をつけていた時代の高田が見せなかった姿をさらけ出すことも、当然覚悟の上のことだろう。

そして、その覚悟を持って闘う者だけが、〝プロレスラー〟という刻印を生身の身体に鮮明に刻み込むことができるのをファンは知っている。

その刻印がある者にはプロレスファンは必ずエネルギーを送るのである。

〝プロレスラー〟が「闘いを通して人々に生き方を突き刺していく職業」ならば、「世紀の敗戦」以降、高田は真の意味での〝プロレスラー〟になったのだろう。

だが、ファンもそろそろ、高い山にチャレンジする姿だけではなく、頂上にたどり着く瞬間を見届けたいはずだ。しかし、そうやすやすとは登れそうもない山ばかりを高田は選ぶのだから困る。

そうなると見る側は、またもや膨大なエネルギーをもって、リング上を凝視しなければならないからだ。

疲れることこの上ないのである。

そういう意味で、高田は実にやっかいな存在だ。

しかし、このインタビューでもわかる通り、今回は本当に余計な力が入っていないことがわかる。

サクの快挙で風向きも変わった。

1・30――。

ヒビ割れかかっている〝グレイシーという名の鎧〟を、グレイシー幻想を高めてしまった張本人である高田が打ち砕いたとき、ドームは、空恐ろしい盛り上がりに包まれるはずだ。

高田が心底喜ぶ顔と、ドームが爆発する瞬間が見たいことこの上なし！

ズバリ言って、そういうことです！

長州力戦直前!?

邪道

大仁田厚

対立か融合か

オレはエンセンを否定せん!
エンセンもオレを否定するな!!

2000 格闘SMILE

正月気分が抜けない『紙プロ』が、もう1月も末なのにお送りする新春お年玉企画。異次元対談・大仁田厚vsエンセン井上！99年は熱望していた長州戦、ケアー戦がともに実現せず、2000年に捲土重来を期す大仁田とエンセン。これまで全く接点はなかった両者だが、果たして「邪道」と「大和魂」は交わるれるのか!? 2人の器量が問われるこの対談。「お前は大仁田vsエンセンが読みたいかぁ――――ッ!!」

進行&構成／チョロ
text by Choro
助っ人／スモーノブ
help by Sumo Nobu
撮影／森“モーリー”鷹博
photographs by Takahiro Mori

大和魂

マーク・ケアー戦直前!!

エンセン井上

RADICAL SCOOP!!
"魂" BATTLE TALK

男と男の初遭遇
超異次元対談実現!!

大仁田さんの入場は
真剣勝負
ワタシ勉強になる

死ぬで
大和魂
UNTIL THE DEATH

大仁田 厚

――今日は、プロレス界と格闘技界の夢の懸け橋ということで、大仁田厚さんとエンセン井上さんというビッグな……

大仁田　（遮るように）まるっきりさぁ、エンセンさんとは世界が違うから面白いんだよな。それに自然なエキスキューズを投げ掛けてくれればいいわけよ。そうしたらどっかで交わることもあれば、全然ディファレントなところもあるだろうし、そういうことだよな、主旨は？

――ま、全くその通りです。エンセンさんは大仁田さんのファンなんですよね？

エンセン　そう。ずっとラケットボールの選手だったときからのファンよ。日本来たばっかりの頃にTVとか雑誌を見てファンになったよ。

大仁田　ありがとうございます。

――大仁田さんのどういうところに惹かれたわけですか？

エンセン　いや、スゴイ根性がある人みたいな感じで、インパクトがスゴイあったね。一回見たら忘れないよ。

大仁田　あのね、なんていうのかな、やられてもやられても沸き上がってくるような、（エンセンの着ているTシャツを指差し）ここに書いてる大和魂じゃないけどさぁ、弱いけれど立ち上がってくるようなものを表現したいなって、それが通じてくれてありがたいよ。こうやって格闘界でもオレのことをわかってくれる人がいたんだ！

――格闘界でも、例えば慧舟會の高瀬大樹選手とか宇野薫選手とかも大仁田さんのことをファンだって言ってますし。

エンセン　そう。いっぱいいるよ。

大仁田　オレのこと否定的な人ばっかりだと思ってたよ。オレ初めてだよ。ありがとう（嬉しそうに握手を求める）。

エンセン　（ガッチリ握手をしながら）アハハハハ。でも、アレも面白いね。マスコミに向かって「ワァ～！」ってなんかするヤツ（笑）。

――大仁田劇場ですね。

エンセン　それそれ。大仁田劇場！　アレは面白いね（笑）。

大仁田　アレはね、やらせじゃないんだよ。全然ディレクターにも真鍋っていうのにも会ったことなかったし、新しい形のエンターテインメント。ただエンターテインメントっていっても周りも全部まとめてだからね。わかると思うけど、もっと広いんだよね、エンターテインメントっていうのは。そういうエンターティメントの奥の深さ、そういうのは学ばなきゃいけないなっていうのがあるよね。

エンセン　あ、それは格闘界でもあるね。格闘界もどんどん変わっていかないと。

大仁田　（エンセンの鍛えぬかれた体をジッと見て）エンセンさんは鍛えるのが好きです。ボクは嫌いです（笑）。

エンセン　アハハハハハ！

大仁田　対称的でいいよなぁ（笑）。ボクはねぇ、入場に命を懸けてるから（笑）。

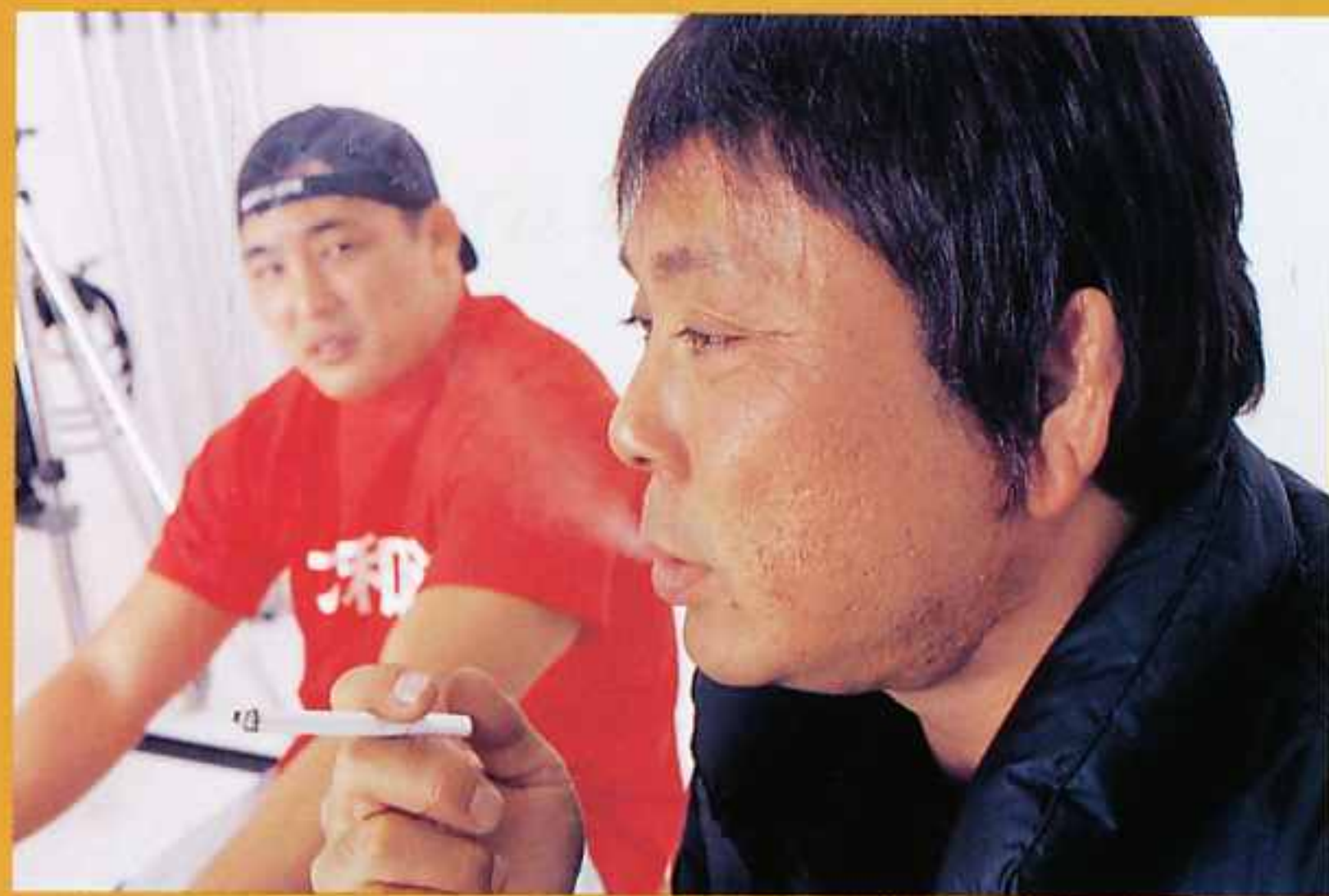
エンセン　オォ～、わかるわかる（笑）。

大仁田　花道に出てきたとこから命懸けてるから。でもさぁ、格闘界もプロレス界もさぁ、なんて思うだろうね。

――いろんな意味で衝撃が走りますよ。それで大仁田さん、エンセンさんは、『PRIDE．GP』でマーク・ケアーと対戦するんですよ。

エンセン　そう。一回戦はマーク・ケアーとやるよ。

――どうですか、ケアー戦が決まった感想は？

エンセン　マーク・ケアー戦は4月から用意してるから。なんか、彼が元気ないっていうは、後にドアが開いたままの感じ。だから、ドアを閉めたいだけだから。ワンマッチではもうマーク・ケアーもいいと思ったけど、『PRIDE』でいい話が出てきたね。「1回戦でマーク・ケアーとやらして上げるけど、どうするか？」って。それだったら「やります」の感じだったから。もう4月から用意してあるから殺すのココロでいく部分も同じだし。4月でやった試合より面白い試合が出ると思う。そして、2回戦までの間に1ヵ月半ぐらいあるから1試合だけに集中する。

大仁田　やっぱりルールって難しいの？

エンセン　そうネ。

大仁田　オレはさ、もうルールとかに縛られないルールを作っちゃったからさ。

――それこそノールールですよね（笑）。

大仁田　そう。それこそノールールだよなぁ。エンセンさんは全然わからないだろうけど、手当たり次第に、会場の備品は何でも使って試合してるからさ。

エンセン　いいねぇ、それ（笑）。その方がわかりやすいよ。

大仁田　関係ないけどさぁ、アメリカの女と日本人の女ってどっちがいい？

エンセン　あぁ、日本人の方がいいよ（笑）。

大仁田　あっ、そう（笑）。

エンセン　全然いいよ（笑）。

大仁田　オレはどこでもいいよ（笑）。

エンセン　アッハッハッハッ！

大仁田　邪道はどこでもいいんだよ。

エンセン　一日だけだったらどこでもいいけどね（笑）。

大仁田　やっぱり日本人の血が流れてるとね、オレもそうだけど、行き着くとこは日本人になってくるよ。やっぱり根底のね、腹の中のカスタムが違うわけよ。あのね、女を嫌いな男は強くなれないよ。

エンセン　オォ、それ初めて聞いた。それは、いい言葉ネ。（取材同行のジョン・ガルボに向かって）ジョンさん強くないよ！

大仁田　（ジョン・ガルボに向かって）女、大好き？

ジョン　（遠慮気味に日本語で）ハイ。

大仁田　ジャパニーズの女がいい？

ジョン　ハイ。

大仁田　英語でやらしてくれってどう言うの？

ジョン　（しばらく考えて）イレテモイイ？

大仁田　オイ！　お前ストレートすぎるよ（笑）。ストレートだよぉ！　やだなぁ（笑）。なんかリラックスしちゃったら女の話になっちゃうよ。格闘技がどうのこうのって聞かねえだろ、普通よ！（笑）。

エンセン　そうそう（笑）。アハハハァ。

大仁田　（進行役のチョロに向かい）言ってくれたら真面目な話もするからさぁ。だってフリートークだったらさ、仕事の話しねぇよ。でもさぁ、ハッキリ言ってエンセンさんは今のレスラーより全然レスラーらしいよな。今のレスラーはちっちゃいじゃん。この間、マグナム（TOKYO）とタッグ組んだけど、オレと天龍（源一郎）さんの間に入るとエライちっちゃいよな。

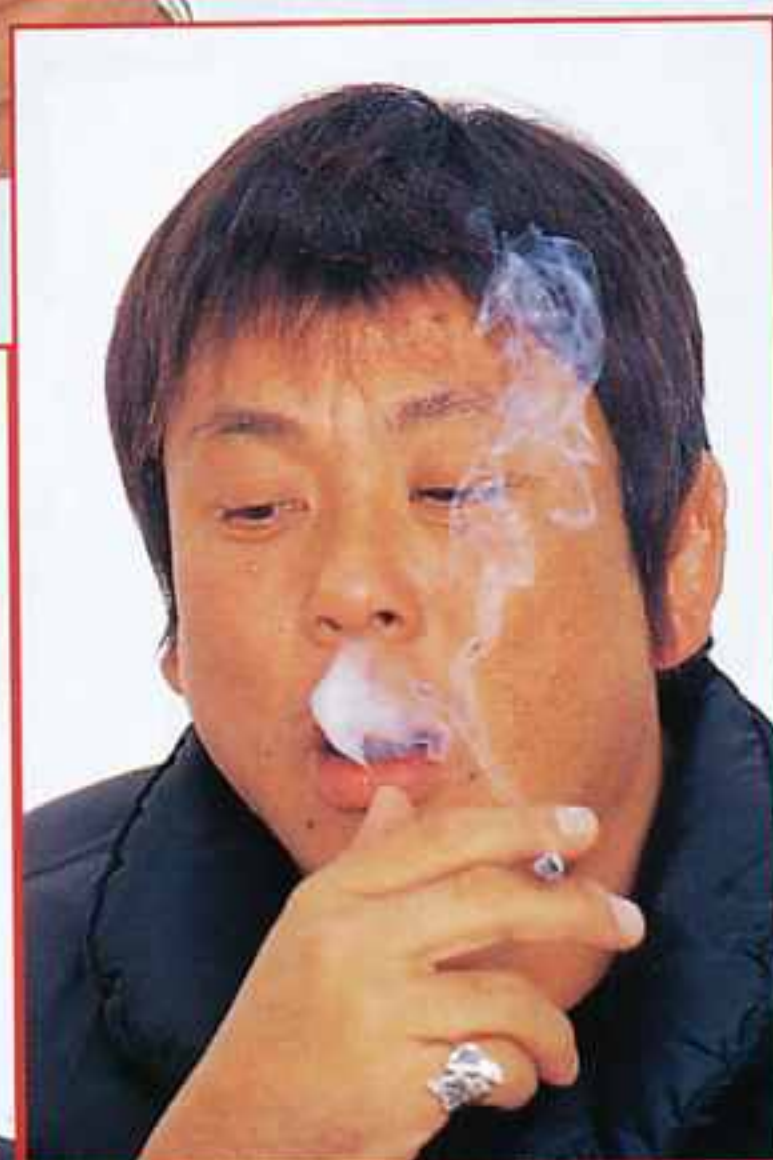
エンセン　でもあの人大きいよ。ワタシと腕相撲やった人、中西（学）さんとか（佐々木）健介さんとかでっかいよ。

――エンセンさんは『PRIDE．GP』でケアー選手以外に興味のある選手は誰かいますか？

エンセン　ケアー以外に興味ある選手はホイス・グレイシー。ボブチャンチンもやり

2000 格闘SMILE

やられてもやられても沸き上がってくる
それが大和魂なんじゃあ――ッ!!

エンセン井上

大仁田さんは「オレは弱い」って自分で言ってるけど、彼は凄いヨ。勉強になるネ。

大仁田 厚

エンセン井上×

たいけど、いつでもできるから、やっぱりホイス。彼は個人的にいい選手だと思うし、トップ選手だし。それに彼のお兄さんのヘウソン・グレイシー大嫌いだし。だから、ホイスの頭を取って、ヘウソンにプレゼントしたい。グレイシー勢は嫌いではないけど、ヘウソン・グレイシーは凄い大嫌い。ホイスは悪口言われたから、だからムカついてる。ちょうどいいね。

大仁田　エンセンさんに聞くけどさ、グレイシーって強いの？

エンセン　いや、強いっていうかね、寝技はスッゴイ強い。でも立ち技とか組み技は全くないね。

大仁田　あの人たちはルールとか対戦相手とかいろいろ言ってくるんでしょ？

エンセン　そうそうそう。

大仁田　四百戦無敗とかいって絶対相手選んでるよな？

エンセン　もし、重い人とやることになったら、全部ルールとか変えろとか言ってくるよ。今だって相手選んで、避けてるもん。彼はビジネスマンだから。頭いいよ。ホントに頭いいよ。

大仁田　金だけ置いていって欲しいよな（笑）。

エンセン　そうそうそう（笑）。

――エンセンさんもヒクソンとはやれるんだったらやりたいわけですよね。

エンセン　そうね。そろそろ引退すると思うからね。

大仁田　アイツはさぁ、不敗のまま去りたいんだよ。自分を伝説にしたいんだよ。

エンセン　一回も負けないで引退したいと思ってる。

大仁田　そうそう。そうそう。絶対そういうビジネスで考えてるよ。でもさ、笑うのが、オレは佐々木健介と東京ドームで試合やったわけだよ。

エンセン　その試合見たヨ！

大仁田　ラリアート喰らってさぁ。「まずいな、オレ負けるぞ」って思って、火をボォーッと投げたんだよ。それで皮ジャン着て「オイ、オイ、オイ！　新日本プロレスのファンよぉ、オイ、新日本プロレスのファンよ。新日本プロレスはこんなもんで反則負けかァ！」って。でも、こっちにもう一人のオレがいて「当たりめぇだろ！」って言ってるわけよぉ（笑）。オレはアガリ性だしさぁ、試合前に便所に行ってジャーって水を流すわけよ。そうするとだんだん気持ちが落ち着いてくる。これはビビリだよ。メチャメチャ、ビビリだよ（笑）。

エンセン　え～、全然わからなかった！

大仁田　だから、そこがプロよ。やっぱり気合いで負けてたら、いくら実力があっても負けるもん。それはあるよね。

エンセン　そうそう気持ちネ！

大仁田　客に飲まれたら自分の持ってるパワーが落ちちゃうからさぁ。だから、精神的なものだけだよ。強いというパワーと人に見せるというパワーはまた違うんだよ。強いパワーが10あったとするじゃない。だけど、リングの上に10を持っていかないとダメなわけ。

エンセン　そうそうそう。それわかるよ。

大仁田　そうだよな。それがプロなんだよ。（突然）高田（延彦）のこと嫌いだろ？

――エンセンさんは友達ですよね。

エンセン　う～ん。知り合い？（笑）

大仁田　ガハハハハ！　だから、あれが気に入らなかったのよ。世界最強ってやってただろ？　あれがマズかったな。あれでカチンときたもん。

エンセン　世界最強は一回勝っても決められない。絶対に毎回勝たないとそういうことは言えない。高田さん、そういうこと言ったの？

大仁田　売りがそうだったのよ。

エンセン　ああ、そういうことネ。

大仁田　ともかく相手がオレを好きじゃねぇって言うからオレも嫌いだって言うのよ。

――高田さんも『PRIDE』が終わったら、プロレス界に戻るようなことを発言してますけどね。

大仁田　なに、戻ってくるの？　『紙プロ』でさぁ、格闘家を全員呼んで聞いたらいいんだよ。「なんでプロレス界に戻ると思いますか？」って。みんな言うよ。

――なんて言うんですか。

大仁田　「弱いから」だって！

エンセン　うわぁ！　ピーを入れなきゃダメよ、もう（笑）。

大仁田　だってね。オレは15の時からだよ。フィフティーン・イヤーズ・オールドの時だぜ。それから受け身を教えられて、ラリアートを食らった時はこうやって受けるんだって。受けることばっかり教えられるんだもん。やることを教えられてないから強くなるわけねぇじゃねぇか！（笑）。

――アハハハハハ！　受けだけ（笑）。

大仁田　最初のスタートが違うわけよ。そっちは寝技だけガァーッとやってるだろ。オレは受けることがスタートなんだもん。

――エンセンさんは受ける練習なんてしたことないですよね。

エンセン　したことないよぉーー。

大仁田　だろ？　だからね、大仁田が弱い弱いとか言うけどさ。何で弱いかって言ったら受けることしか教えられてないんだもん（笑）。

エンセン　アハハハハハ！

大仁田　いや、ホントに（笑）。だから、弱いとか否定されてもさぁ、辛いよなぁ。

――だけど、ファンとかも時代とともに成長して、大仁田さんの受けを十分楽しんでますよね。

大仁田　うん。佐々木健介はエグくてなぁ、オレを殺すつもりなのかなぁ（笑）。だけど、あのラリアートはキツいなぁ。アイツはさぁ、オレをやっつけたい気持ちでいっぱいだったんだろうなぁ。

――頭が固いんでしょうね。

エンセン　ん？　頭が固いんだ？　どういうことかな？（進行のチョロに向かって）

――柔軟性がないというか……。

大仁田　記者としてのあなたに聞くけど、どういうこと？

――いやぁ、え～と、表現方法がまだ大仁田さんのように……。

大仁田　ということは表現方法がないということか？

――ないとは言いませんけどぉ……。

大仁田　ないということはどういうことなの？　ハッキリ言わなきゃ。やっぱり２０００年はハッキリ言おう（ニヤリ）。

エンセン　それはいい、いい（笑）。

大仁田　だってホント、ハッキリ言う時代だと思うよ。だって、昔だったら、こういう交流ってなかったんだから。

――なかったですね。格闘家がプロレスラ

邪道っていうのは、突き進む度量、自分自身のポリシー。オレの生き様だ！（大仁田）

ーを毛嫌いしてるところもありましたし、逆もありましたからね。

大仁田　そう。だって、それでいいじゃない。その中で強いヤツがやればいいんだし。で、頭が固いってことは何？

—固いということはぁ……エンターテイメントのぉ。

大仁田　違うだろ。言えよォ！（テーブルをドンと叩いて）。頭が固いということは？

—石頭ってことですね（笑）。まあ、大仁田さんは頭がいいですからね。成績もいいみたいだし。

大仁田　オレ？

エンセン　最初、大仁田さん高校生になったって聞いてウォーってなったヨ（笑）。

—先程も言ってましたけど、大仁田さんも興行名に大和魂って言葉を使ってましたからね。

大仁田　十何年前だよね。なんとなく好きなんだよ。なんかとてつもなくバカなんだけど、バカなことを一生懸命やるっていうのがモノ凄くジャパニーズだなっていう。

—女性だけの大会で大和撫子っていう大会名も使ってましたね。

大仁田　あれはスベッたな（笑）。

エンセン　アハハハハ！　大和撫子Tシャツもあるよ。でも売れてるよ（笑）。

大仁田　ガハハハハ！　今度、邪道っていうTシャツをアメリカで流行らそうかなぁって。邪道っていうのはなんていうのかなぁ、突き進む度量、自分自身のポリシー。だから、体制に歯向かっていく、一人の生き様みたいなもの。

エンセン　邪道？　意味はどういうの？

大仁田　レジスタンス。ノット・ゲリラ。

エンセン　オー！　うんうん。それは大丈夫、自分のホントに思ってることだったら、逆にそう言っても関係ない。エンセンもまったくそういう気持ち。

大仁田　やっぱりエンセンは格闘界で頑張ってほしいね。潰し合いとかくだらないことやらずにさ、共存協栄してシノギを削ってけばいいと思うよ。だから、非常に難しいかもしれないけど格闘技の中でプロレスをやってもオレはおかしくないと思うんだな。見せ方しだいで、もうちょっと時間がかかるかもしれないけど、プロレスはプロレス、格闘技は格闘技というジャンルをキチンとしたら面白いと思うよ。

エンセン　ただ、それをやるって言ったら格闘技側の方が固いところあると思うよ。

—だけど、エンセンさんもそれは嫌なわけですよね。『PRIDE』のリングでプロレスをやるっていうのは。

エンセン　そのリングを決めたら、両方のリングがあってもいい。格闘技のリングだったらプロレスのやり方はいけない。プロレスのリングだったら、格闘技をやるやり方はいけないと思う。オレの試合は格闘技の試合。次の試合はプロレスの試合。もう全然いいと思うよ。両方のファンにアピールできるから。お客さんが両方、好きになるから。

エンセン井上×大仁田 厚

大仁田　そうそう。両方好きになってもいいと思うんだよなぁ。なんかねぇ、そんなにこだわる時代じゃなくてわかりやすい時代だと思うんだよ。だってねぇ、この不況は大変よ。チケット売れないよ。1試合目にオレの試合があって、2試合目にエンセンの試合があれば面白いと思うよ。

エンセン　それは面白いネ（笑）。

大仁田　オレは別に1試合目でも第0試合でもいいから。こだわってないもんオレ。オレってね、アリーナに来た人間がどれだけ満足してくれるかって、そういうことしか考えてないから。オレたちプロだから、やっぱりマスターベーションしてるわけじゃないんだからさ。

エンセン　ククククク！　それはいいと思う!!　ワタシも観客のことを考えるよ。特にプロレスファンは全然多いよ。格闘技のファンは少ない。

大仁田　だから、エンターテインメントっていうか、プロレスってものが新しい分野にいかないと格闘技と交わらないだろうし。

エンセン　格闘技も最近、キャラクター出てきてる。だけど、まだ足りないね。格闘技にプロレスみたいなキャラクターが出来たら最高だね。

大仁田　だって、一つの括りの中で喧嘩と考えたらだよ。キャラがあってもいいんだよ。日本人は武道ってすぐに考えるけど、21世紀はその武道の心は持っていてもいいけど、新しいキャラクターとしてポンっと飛ばないと。だから、この2000年っていう節目は大切だと思うよ。オレは21世紀はいないから。

—エンセンさん、大仁田さんは、今年引退しちゃうみたいなんですよ。

大仁田　いや、オレは2度もしてるから。今度は3度目の正直だから（笑）。一人でやってるんだからいいじゃない。

—大仁田さんの今年の選手名鑑とか見るとライバルはプロレス・ファンって出てるじゃないですか。

大仁田　あれは適当だよ（笑）。

—エンセンさんのライバルは誰になるんですか？

エンセン　マスコミ（笑）。

—えっ、そうなんですか？（笑）。

大仁田　いいんじゃないの。だって、それは素直な気持ちだから、マスコミも提灯記事を書くんじゃなくて、ちゃんと書いた方がいいと思うよ。ただ、記者の連中も自分の主観だけで書いちゃダメだよ。もっと素直に書かなきゃ。エンセンがマスコミに対して怒る時ってどんな時？

エンセン　それは適当に噂を書くこと。証拠ないこと。

大仁田　そりゃそうだよ。レスラーだって怒るよ。全然自分に罪がないのにムッとするよ。だけど、オレはエンセンと違って自分でやらないから。ストリートでやらないから。ウワァーって控室で暴れながらダ～ンってやるからさぁ（笑）。

エンセン　ワハハハハ！

大仁田　オレは暴れながら「テメェこの野

オレの試合は格闘技の試合。次の試合はプロレスの試合。もう全然いいと思うヨ!!（エンセン）

2000
格闘SMILE

郎！」ってやるから訴えようがないわけ。あいつはクレイジーだと思わせておくんだよ（笑）。

エンセン　やってみようか（笑）。

大仁田　試合後とか気に入らないヤツにダ～ンと灰皿当てるとか、そしたらあとから「悪かった、悪かった」って言っとくわけよ。メチャクチャだよ（笑）。

エンセン　そういうのは学ばなきゃいけないよ。やって見るか（笑）。マスコミはなんか書いちゃうけど、でもしょうがないよ、もう。前のエンセンだったら、その会社に行って、その人を探して倒してるよ。

大仁田　だけどマスコミは有名じゃないきゃ書かないわけよ。そういう考えにもっていかないと。ただ、怒る時は怒っていいし。その辺のサジ加減っていうのを教えてやるよ、今度（笑）。

――アハハハハハ。

大仁田　暴れる時はね、プロレスで暴れなさい。相手にウワァってやって（笑）。相手が殴られたと思ったら傷害になるけど、相手が巻き込まれたと思ったら傷害にならないんだから。これって不思議なもんでさ、昔、棒倒しってあったじゃない。あれってガンガン殴るじゃない。そういう時に殴られたって誰も訴えようがないもんなぁ（笑）。

エンセン　それはいいねぇ（笑）。

大仁田　でも、プロレスも格闘技もやっぱりキャラはあっていいんじゃないか。エンセンなんか、こうやって会って、いいフィールを感じるから友達として付き合っていこうかなって思うし。なんていうのかな、弾けてもらいたいよな。もっとスパークして、自分をアピールしてもらいたいよね。

エンセン　それは勉強したいよ、ワタシ。

大仁田　結局、格闘界って、こういったものに踏み込んじゃいけないってあるじゃない。二人が対戦してるとするじゃない。勝負がついても「また来い」とか、「いま勝負しろ、いま見たいだろ」ってアピールするヤツが出てきてほしいよな。「なんだコイツは？」みたいなさぁ。

エンセン　いないねぇ（笑）。試合は格闘技でも、その他のところ足りないネ。

大仁田　ストーリーのないストーリーっていうのを作ってもらいたいよな、格闘界もな。オレがプロモーターだったら、やるけどな。メチャメチャ考えてやるよ。そういう頭脳は働くからさ。

暴れながら「テメェこの野郎！」ってやるから訴えようがないわけよ!!

それは勉強したいよぉ～やってみようかナ～の感じ（笑）。

エンセン井上 × 大仁田 厚

エンセン井上 *Enson Inoue*

えんせん・いのうえ■1967年4月15日　ハワイ出身　昨年は熱望していたマーク・ケアー戦が実現せず、大爆発の機会が与えられなかったが、今年は1月からそのケアー戦が遂に実現。「相手を殺しに行く」という物騒なファイトスタイルと、死ぬまで下がらない、諦めないという大和魂で"霊長類ヒト科最強の男狩り"に挑む。久しぶりに「やるかやられるか」のエンセンらしい試合が見れそうだ。

大仁田 厚 *Atsushi Onita*

おおにたあつし■1957年10月25日　長崎県出身　ご存じ邪道高校生。この2月には高校の卒業記念試合を学校の体育館で敢行。前座には同級生や担任の先生の試合を組み、大仁田はメインで有刺鉄線マッチをやる予定。また1月4日に最後通告と突きつけた長州力との対戦も当然諦めておらず、ヒザの寿命といわれる春まで、邪道の狂い咲きが見られるか？

――じゃあ、大仁田プロデュースだったら、エンセン選手はどのようなキャラクターにしますか。

大仁田　すぐには思いつかねえよ（笑）。でも、格闘界でもこういった人がいるっていうのは嬉しいよな。新しい発展的な考えを持ってる人がいるっていうのは。

エンセン　そうネ。大仁田さんも一回『PRIDE』にくるといいネ。

大仁田　ペットボトルが飛んでくるだろうよ（笑）。でもやっぱりフィールってあるんだよ。お互いのコミュニケーションを取ったらわかるんだよ。そうじゃなきゃ、ゲーセンで会わねぇよ（笑）。

エンセン　ここに来る前にゲーセンで会ったのよ（笑）。なんか、変な女らしいゲームやってるのよ、大仁田さん、恥ずかしいね（笑）。ピカチューと頑張ってたネー。

大仁田　いいじゃねぇかよ（笑）。でも巡り合わせってあるよな。トーナメントだってクジ引きで巡り合わせってあるし、その時の体調もあるだろうし。オレは格闘界を否定しないよ。やっぱりシノギを削りながら昇っていかなきゃいけないだろう。格闘界とプロレス界が交わることも有り得なくもないんだから。格闘界もプロレス界もスマートにならないとな。

エンセン　そうネ。

大仁田　一生懸命やってるのはわかるんだけど、頭を使っていかないとオレはダメだと思うんだよね。ビジネスの世界だから。客が一人しか入ってないのにやってたって食えやしないんだから。でもホントに『PRIDE．GP』はエンセンに勝ってほしいね。そしたら、オレがディナーに招待するから。チャンコ作ってあげるから（笑）。

エンセン　オオ！　チャンコ好きよ。

大仁田　そんなんじゃなくて、ちゃんとナ

2000 格闘SMILE

べを作って上げるから今度おいでよ。何が好き？

エンセン 肉が好き。

大仁田 しゃぶしゃぶでもいいし。やっぱり肉か。魚は？ フグとか？

エンセン 魚は好きだけど、フグ食べたことない。ちょっと怖いね（笑）。だって悪いことになるとオレは死ぬけど、やった人は免許なくなるだけだヨ（笑）。

大仁田 マーク・ケアーに勝ったら、うちでチャンコナベ大会をやろうよ。（チョロに向かって）取材に来いよ（笑）。

――ありがとうございます（笑）。

大仁田 でもさ、もうちょっとね、キチンと色分けした方がいいね。格闘技っていう括りの中でプロレスも全部含めてやるからいけないんだよなぁ。

エンセン そうそうそう。そう思う。

大仁田 キチっとさ、アバウトじゃないさ。オレはプロレスが好きだから、プロレスやってるんだしさ。どれが真剣でどれが真剣じゃないかっていう括りの中になってくるけど、リングの中でガーッとやってるのも真剣。だけど、入場から3分何10秒かけて出ていくのも真剣だと思うよ。だって、モノを投げられて頭に当たったって死んじゃったらどうすんの？ それをさ、そんなモンをっていうヤツがいたら、だったらお前がやってみろって。オレは何をされるかわかんないからナイフを持っていったんだよ。だって暴動起きたら大変じゃない。

エンセン オォ～、それスゴイね。

大仁田 だってそれも真剣だよ。6万5千人もいればどんなバカがいるかわかんねぇんだよ。だから、その感覚をわかってもらいたいっていうか。もっとスマートに21世紀はなっていかないとお互いに大変だと思うよ。そういった意味で蝶野（正洋）、武藤（敬司）選手は頭いいと思うよ。エンセンは蝶野って知ってる？

エンセン ああ！ 知ってる。うちのスポンサーの人に似てる（笑）。そっくり、そっくりよ、顔（笑）。

大仁田 オレは対戦した人はみんな好きだよ。ああいうキャラはああいうキャラで必要だよ。格闘家だってカラーがないと。全部一緒になったら絶対に面白くないよ。もっとプロとしてのキャラを作っていかないと。プロレスだって難しいと思うよ。若手が育ってないもん。蝶野選手、武藤選手がいなくなったらちょっとキツイと思う。でも格闘界はいまチャンスだよ。

エンセン 格闘家はね、「試合でアイツを倒す！」しかやってない。ファイトマネーをアップしたいなのに、そういう試合のプロとしてのやり方以外は考えてない。自分のキャラクターをムリヤリ作っても出来ない。たまたまワタシは大和魂がキャラクターになってる。ワタシはホントにワザと作ってないし、それは自然に印を付けられた。だから大仁田さんの話を聞いて、（佐藤）ルミナとかファッションで売れたりとかだけで、キャラクターじゃない。

大仁田 21世紀はファッションじゃないと思うよ。オレは普通の方に戻ると思うよ。

エンセン でもキャラクターがあれば自然に助けられてる。だけど、それは考えたものじゃないネ。格闘技は大仁田さんみたいに入場を大事にしない。試合だけ。それじゃ格闘技は売れない。

大仁田 なんか、ジャパニーズって込み上げてくるようなものってあるじゃない。腹にカァーッていうような。やっぱりそういったものを忘れちゃいけない。それはプロレスだって格闘技だって一緒だと思うよ。もっとジャパニーズを取り戻そうよ。大和民族っていうのはもっとエネルギッシュな民族だよ。もっとエネルギッシュに生きようよ。２０００年をスパークさせようよ。エンセン、それじゃあ、マーク・ケアー戦頑張って。フグを用意しとくから！

エンセン アハハハハ！ ケアーより、フグの方が怖いヨ～（笑）。

★ ★

進行役のチョロの仕切りの悪さゆえ、言いたいこともあまり言えなかったエンセンに対談後の感想を聞いてみた。

エンセン 大仁田さんは「オレは弱い」って自分で言ってるけど、逆に彼のプロレスの目で見るとオレが弱いヨ。そういう入場のシーンができないし、そういうキャラクターが作れないし。ワタシ、プロレスの世界ではプロじゃないヨ。プロレスの試合で勝って「オレが一番強いよ、最強の男よ」って言うのはそれはイヤ。大仁田さんが言うのはプロレスの最高の男。彼も言ったでしょ。リングの中で混ぜてもいいんだけど、格闘技とプロレスはしっかり分けて、イエス、ノーみたいな感じでした方がいいね。あれは最高よ。プロレスは真剣勝負じゃないって一番最初にそれは思ったけど、それは格闘技の目で見ると真剣勝負じゃない。だけどプロレスはまったく真剣勝負。入場の怖さとか痛みとかわかんなかった。大仁田さんは凄いしっかりしてる。あとはプロモートとして格闘技もキャラクターを作らなきゃいけないとか。プロレスの売り方を格闘技でしたら、凄いと思うよ。大仁田さんとは友達になりたいね。勉強になるネ、彼ね。

【99・12・28／六本木リュウスタジオにて収録】

オレとエンセンのサイン入りなんじゃあ――ッ!!

『**大仁田＆エンセンのサイン入りＴシャツ**』
この世に１枚この上なしの、大仁田厚＆エンセン井上のダブルサインＴシャツを２名様にプレゼントするヨ！ サイズは大和撫子用のＳと大和魂用のＭなんじゃあ！ 応募方法はＰ175を参照してね。

『**グラップリングオリジナル**』
『**PUREBRED and GRAPPLING UNLIMITED**』
イーゲン道場（GRAPPLING UNLIMITED）とエンセン道場（PUREBRED）のダブルネームのＴシャツ（限定100枚）をそれぞれ各２名様にプレゼント 各3500円で販売もしてるネ。
【お問い合せ】
TEL.047-378-6403イーフォース・ジャパンまで

ウラ勝敗予想診断付見どころ大解剖

高田vsホイスはP9参照!

ーーッ!?（福永法源風）

『PRIDE.4』以来、パンフから消えて久しい勝敗大予想大会。おそらくアレクvsマルコを最前線の取材記者22名が、全員ハズしてしまうという事件が原因だと思うが（近藤隆夫さんはどこへ……）、まあ、利害を超越してパンフがやらないことをやるのも本誌のロマンというか。というわけで、行きますかーーっ!!

構成／堀江ガンツ
text by Gunts

2000 格闘SMILE

アレクサンダー大塚 VS イゴール・ボブチャンチン

誰かがやらねば！ アレクの振り子極北へ

『PRIDE.7』でマーク・ケアーを沈めて以来、『PRIDE』最強ロードをバク進するボブチャンチン（本人その自覚まるでナシ）。今大会も当然優勝候補の筆頭と見られている。そんな男と1回戦を闘うのは誰でも普通嫌がるものだが、「これはオイシイ」と率先して名乗りをあげた男がいる。しかもダブルヘッターで。そんな選手、もちろんアレク以外にいるわけがない！マルコ戦、ヘンゾ戦はともに一部では秒殺されるといわれながらも、下馬評をことごとく覆してくれたアレク。それだけに"『PRIDE』最強の男"に対しても、どえらい仕事をしてくれそうな予感がする。とはいえ、怖いのはボブチャンチンのパンチである。ハッキリ言って一発でもまともに喰らったらKOは避けられまい。

アレクはヘンゾを4度テイクダウンさせたタックルで勝機を見いだすであろうから、パンチが決まるか、タックルが決まるかのスリリングな試合となるだろう。こんな試合に、昼間のバト後楽園大会とかけもちで出場するアレクは、やっぱりレスラーの鏡。マルコ戦でのリング作りに続き、再び伝説を作るか!?

山口日昇	吉田豪	スモーノブ	松澤チョロ	大西タマリン	堀江ガンツ
アキレス腱固め／アレクサンダー大塚	判定／アレクサンダー大塚	KO／ボブチャンチン	判定／ボブチャンチン	KO／ボブチャンチン	判定／アレクサンダー大塚

エンセン井上 VS マーク・ケアー

4度目の正直！ 野蛮人vs霊長類ヒト科最強

「世界最強決定戦」としてファンを期待させておきながら、エンセン、ケアー両者の負傷により流れに流れて、もう何度目の正直かも忘れてしまうほど待たされ過ぎたこの一戦がようやく実現する。ケアーがボブチャンチン戦で失神する失態をみせたため、正直言って「世界最強決定戦」というには色褪せてしまった感はある。しかしそれ故に、名誉挽回のためにケアーも燃えており「殺す気でいく」エンセンが相手だけに、逆にすんなり実現する以上に激しい闘いが見られるかもしれない。

エンセンは98VTJのクートゥアー戦以来、VTのトップファイターと試合をしていないため、試合勘が鈍っていないかが気になるが、世界一激しいスパーリングをしているエンセンのこと、それは問題ないだろう。本誌の勝敗予想は3－2でエンセン有利。別に「オレが負けると思ったヒト、クタバレ!!」と言われたくないために気をつかったわけではなく、昨年からケアーの体調が思わしくないという情報に基づいたものであるが、腐っても霊長類ヒト科最強！まともに行ったら破壊される可能性は高い！　生きて帰るのはどっちだ!?

山口日昇	吉田豪	スモーノブ	松澤チョロ	大西タマリン	堀江ガンツ
KO／マーク・ケアー	試合不成立	チョーク／エンセン井上	フロントチョーク／エンセン井上	逆十字／エンセン井上	レフェリーストップ／マーク・ケアー

PRIDE GP 2000開幕直前！ 足のウラ

本誌編集部による

誰が最強ですか

桜庭和志

対戦相手変更

VS

？？？？？？

誰が来ようとノー問題！ドームに桜庭咲く！

ランデルマンの欠場により１月17日現在、いまだサクの対戦相手は決まっていないが、サクなら誰が来てもノー問題、無問題！逆にこれからは誰が相手でも勝って当然と思われることが問題になりそうだ。しかし、よくよく考えると100kg以上は当たり前のこのトーナメントで、85kgのサクが優勝したらこれはヒクソンに勝つより遥かに凄いこと。サクは「ケガをして棄権したい」などと言っているがこれはホンネまじりだろう。しかしサクにはなんとしても勝ち上がって欲しい。なぜなら１回戦を乗り切ればあとはワンデイ・トーナメント（予定）。ということはサクが決勝まで行けば、この世界の超ビッグネームたちとサクの試合が３試合も見れるという、それだけで贅沢この上ない大会となるからである。もしかしたらサクvs大刀光のWARマット以来の再戦や、サクvs高田の師弟対決（高田曰く「サクはオレの先生だから」）も見れるかもしれないのだ。

ところで実はサク、東京ドームではいまだ勝ち名乗りを受けたことがない。１・30東京ドームはサクが５万人の観客の前で勝ち名乗りを受けるところをだけでも見に行く価値がある。

- 山口日昇：ノー問題！／桜庭和志
- 吉田 豪：キムラロック／桜庭和志
- スモーノフ：ごっつぁんです／桜庭和志
- 松澤チョロ：無問題／桜庭和志
- 大西タマリン：監獄固め／桜庭和志
- 堀江ガンツ：キーロック／桜庭和志

佐竹雅昭

VS

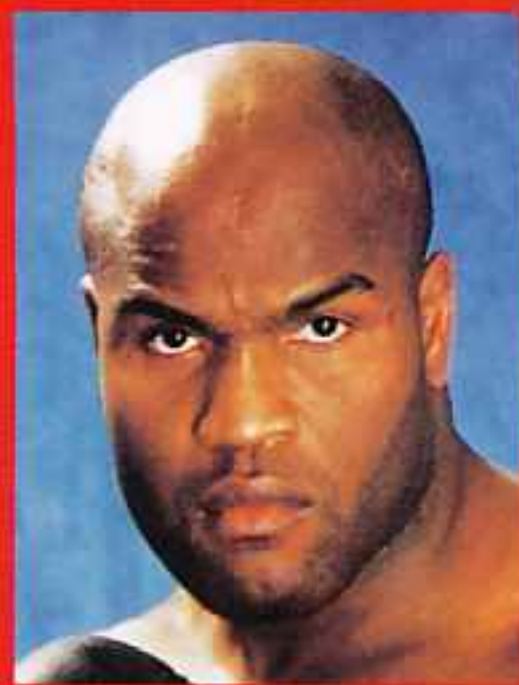
マーク・コールマン

ゴジラvsGODZILLA 日米怪獣大戦争

「平成のマス大山になる！」と宣言した佐竹の相手は、いきなり元ＵＦＣヘビー級王者コールマンに決定した。コールマンはご存じの通り闘牛の牛を彷彿させるタックルの使い手。佐竹にとってはまさに"牛殺し"の舞台は整ったと言える。

モーリスやピート・ウイリアムスにＫＯされたことで、コールマンは打撃に弱いとみられているが、現在アメリカのチーム・ＯＢＡＫＥジムで新日本の永田を相手に練習し、キック対策は万全との情報もある。対する佐竹も高田道場、モーリス・スミス・ジムでサク、モーリス、ＴＫ、藤田、さらには巨人の清原といった豪華メンバーと特訓。日米の怪獣対決に相応しい、ド迫力の一戦になることは間違いないだろう。

本誌の予想では４－２でコールマン有利となったが、よく引き合いにだされるニールセン戦を例に出すまでもなく、他流試合に強い佐竹。故・大山総裁の「キミ～、牛の急所は耳の後ろだよ」という言葉どおり、佐竹はタックルに来たコールマンの急所を、正拳で打ち抜くことができるか!?

- 山口日昇：判定／マーク・コールマン
- 吉田 豪：ヒール・ホールド／マーク・コールマン
- スモーノフ：ヒール・ホールド／佐竹雅昭
- 松澤チョロ：袈裟固め／マーク・コールマン
- 大西タマリン：サンダー・ボルト／佐竹雅昭
- 堀江ガンツ：ジャックハマー／マーク・コールマン

ゲーリー・グッドリッジ VS ツハダゼ・ザオール

どすこ〜い!? 腕相撲世界一決定戦

リザーバーまで超豪華なグランプリに、なぜザオールが出場？そのキーワードはズバリ「腕相撲」！グッドリッジは腕相撲チャンピオンとして有名だが、このザオールも実はヨーロッパの腕相撲王者なのだ。まあ、ＶＴには全く関係ないけどね。しかし身長２メートルのグルジアのレスラーが弱いはずがない。藤原組、リングスとＵ系のルールでは実力を発揮できなかったが、ＶＴでザオールがブレイクする可能性は大いにあり得る！

山口日昇	吉田 豪	スモーノブ	松澤チョロ	大西タマリン	堀江ガンツ
試合放棄／ザオール	判定で圧勝／ザオール	KO／グッドリッジ	今回は寝技／グッドリッジ	KO／グッドリッジ	スリーパー／ザオール

小路晃 VS エベンゼール・ブラガ

小路は果たしてブラガのパンチを見切れるか!?

ここ数試合、内容的にスッキリとしない試合が続いている小路はブラガと激突。ヘンゾと引き分け、イズマイウに勝っている小路はいわばブラジル人キラー。どうしても桜庭、船木と比べられるが、それは逆にビックチャンス到来とも言える。対するブラガもこの試合で再浮上を狙っているが、ヒジが使えない『ＰＲＩＤＥ』ルールはやはり少し不利か。久しぶりに小路会心のマイクアピールを聞きたい。ガンガン行けや、小路！

山口日昇	吉田 豪	スモーノブ	松澤チョロ	大西タマリン	堀江ガンツ
判定／小路 晃	判定／ブラガ	レフェリーストップ／小路 晃	逆十字／小路 晃	KO／小路 晃	判定／小路 晃

こっから下はリザーバーマッチで〜す

大刀光 VS ヴァンダレイ・シウバ

どすこ〜い！
スモーノブ心のメインイベント！
「相撲最強説」もそろそろ
結論を出そうじゃないか

どすこ〜い！本誌22号「S〜相撲多重アリバイ〜」での「『ＰＲＩＤＥ』に出たい」発言が（たぶん）キッカケとなって衝撃の『ＰＲＩＤＥ』参戦が決定した我らがタッチー。「相撲最強幻想」を背負ってシウバと対戦だ（変更の可能性もアリ）。当然寝技ではカール・マレンコを完封したシウバが圧倒的に有利だが、「相撲取りは絶対倒れない」と大刀光は豪語。勝負の焦点は立ち技の攻防となりそうだ。しかしＵＦＣに出場した北尾は顔面パンチで苦杯を舐めただけに、シウバの打撃には大刀光も注意が必要。実写版エドモンド本田の百烈張り手は炸裂するか!?

山口日昇	吉田 豪	スモーノブ	松澤チョロ	大西タマリン	堀江ガンツ
チョーク／シウバ	KO／大刀光	ツッパリKO／大刀光	ネックハンギングツリー／大刀光	監獄固め／大刀光	流血レフェリーストップ／シウバ

カーロス・バヘット VS トレイ・テリグマン

柔術vs
ライオンズ・デン！
トイレに行ってる
場合じゃない！

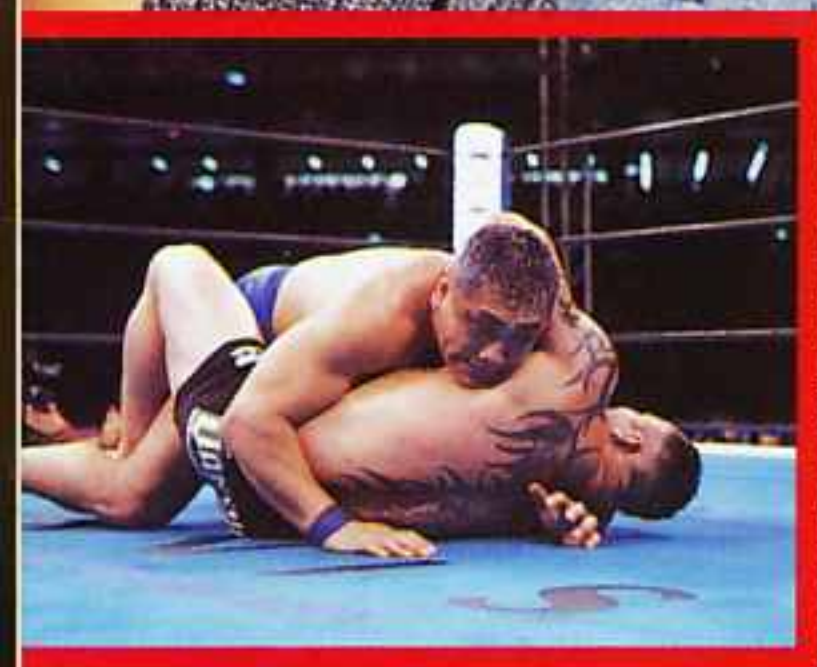
スペースがないので手短に行きます！ミーシャに勝ったバヘット対コーラーに勝ったテリグマンの対決。以上！

山口日昇	吉田 豪	スモーノブ	松澤チョロ	大西タマリン	堀江ガンツ
わかりません／バヘット	ヒザ十字／テリグマン	チョーク／テリグマン	脇固め／バヘット	足首固め／テリグマン	スリーパー／バヘット

野獣降臨

PRIDEに

もしくは原人

2000 格闘SMILE

プロレス界の最終兵器
藤田和之 VS
“はぐれリングス・オランダ軍”首領
ハンス・ナイマン

格闘ロマンの道を歩き出した藤田を猪木も激励。「他のレスラーがジェラシーを感じるくらい活躍して欲しいというか」（猪木）

眠れる野獣が遂に目覚めた！新日本プロレスの若手中堅レスラーながら、ファン、関係者の間ではＶＴをやれば日本でもトップクラスと言われていた藤田和之が新日本を退団。急転直下の『ＰＲＩＤＥ』参戦が決定した。しかもいきなりグランプリ１回戦にエントリー。相手は元リングスの実力派ナイマン。ＶＴでは超高速タックルを持つ藤田が有利に思えるが、ナイマンは田村、ヤマヨシ、ＴＫのリングス３強を全てＫＯした半端じゃない打撃を持つだけに、藤田といえどもうかつな距離で闘えばダウンは避けられないだろう。現在は米・シアトルに飛び、佐竹、ＴＫらと合流し打撃対策に励んでいる藤田。ドームで藤田が格闘ロマンの道を爆走する！

藤田、野生の目覚めグランプリ出陣!!

予想者	予想
堀江ガンツ	KO／ナイマン
大西タマリン	水車落し／藤田和之
松澤チョロ	流血レフェリーストップ／ナイマン
スモーノブ	反則／藤田和之
吉田豪	石川社長にやった技／藤田和之
山口日昇	逆十字／藤田和之

『PRIDE.GP2000』世界最強トーナメント開幕戦
1月30日（日）15時開場　17時開始
チケット　VIP100,000円〜A6,000円
チケットぴあ03−5237−9999、キョードー東京03−3498−9999ほか
問い合わせ　フジテレビ事業部　03−5500−8237
ドリーム・ステージ・エンターテインメント　03−3552−6300

甦れ！スモウレスラー最強伝説

紙プロインタビューで火がついて、
アッという間に『PRIDE』リザーバー出場!!

構成／スモーノブ
text by Sumo Nobu
撮影／古川由佳
photographs by Yuka Furukawa

『PRIDE』にブチかまし!!

つっぱれ大刀光

カラー4ページ&ピンナップのガチンコ特集で大刀光のすべてがわかる!!

2000 格闘SMILE

はぁ〜、どすこ〜い！　どすこ〜い！　スモーノブでごわす。

前号の大刀光関（以下、タチ関）インタビューは読者にも大反響でごわした。「ガチンコの試合をしたい！」「オレは絶対倒されないよ！」「パンチなんかしないよ。"つっぱり"でじゅうぶんだ」という横綱級にゴキゲンな発言を掲載したんでごわすが、そしたらいきなり『PRIDE』が動いたでごわす！　リザーバーながらも、タチ関が1・30東京ドーム大会に出場することになったばい。本来ならば喜ばしいことでごわすが、敢えて言わせていただくばい！　気付くのが遅いでごわす！　と。日本でガチンコといえば相撲でごわす。いままで北尾関しか出場していなかったのが、おかしいんでごわすよ！　相撲には強いヤツがぎょうさんおるばい。だから、このドリームステージさんの決断は、まったく正しいでごわす。素晴らしいでごわす。今回の『PRIDE』参戦のきっかけを作れただけで、ワシも担当編集力士としてはごっちゃんこの上ない喜びばい！　参戦が決定して以来、様々な媒体で前号のワシのインタビューの後追いみたいな記事が出てるでごわすな。結構、結構、結構！　どんどんやりんしゃい！　というわけで、ワシしか知らないタチ関情報を交えつつ、応援文を書くでごわす。はぁ〜、どすこ〜い、どすこい！

いきなりで恐縮でごわすが、『PRIDE』関係者も前号でワシがやったタチ関のインタビューを読んどるばい？「ガチンコやりたい」「東京ドームで試合をしてみたい」というタチ関の夢が詰まったインタビューが火を付けて（たぶん）、いきなり大刀光関が『PRIDE』に出場することになったでごわす！

東京ドームにツーンと香る鬢付けフレイバー！

入場テーマ曲は相撲甚句！

花道を化粧まわしにオープンフィンガー・グローブで歩いてくるタチ関！

リングに上がるなり、塩を撒く！

セコンドには、チーム・コンボイの盟友・嵐！

リングサイドにはSPWFの社長・谷津嘉章！

リング中央で土俵入りを披露するタチ関！

……考えただけで、鳥肌が立ってくるぐらい興奮するでごわすなあ!!　ドリステさん、ごっつあんです！　出ると決まった以上、ワシは、全力投球で大刀光関の応援をやらせてもらうばい！

『絶対チェッカーズ』なら『絶対タチヒカリ』（あぁ〜!?　チと力しか合ってなかったばい・Show氏調）でごわす！

参戦発表の日、会場である東京プリンスホテルのエレベーターでタチ関にお会いしたら「『紙プロ』であんなこと載せるから、こうなっちゃったじゃねえか！」と言われてしまったばい。ばってん、そう言ってるタチ関の顔にはごっつい笑顔。「こんなにカメラのフラッシュを浴びたのは新十両に昇進したとき以来だよ」とニコニコ顔でごわした。

ちなみにオファーがあった際、タチ関はたったの5秒しか悩まなかったそうでごわす。佐藤ルミナの試合よりも早くケリがついたばい。是非、この機会に"相撲最強幻想"及び"大刀光最強幻想"を証明していただきたいでごわす！　さあ、いま、この記事を読んでいるヨカタ（素人さんのことでごわす）の皆さんも、ビリーブ・イン・ザ・スモー・パワーでごわすよ！

©日刊スポーツ

力士の中に入っても、そのガタイの良さはピカーだった大刀光関でごわす。恵まれた体格とパワーを活かして、前頭15枚目まで行った正真正銘の幕内力士でごわす。それだけ聞いて、ピンと来ないアナタはヨカタでごわすよ、YO・KA・TA!!　ブッ倒れても血ヘドを吐いても、口に粗塩を突っ込まれたり角材でブン殴られたりしながら相撲道に精進した男ばい。パンチの一発や二発で音を上げるようなタマではないでごわす。ちなみに、同じ部屋の後輩には魁皇関がいるばい。たとえ強豪・シウバが相手でも、電車道でツッパリKOしてくれるはずでごわす！

グローブは邪魔くせえ!! 誰だろうと張り倒すよ!!

ただ、ひとつ不満を言わせて頂けるとすればリザーバーとしての出場になった点でごわす。

とはいえ、あれだけのメンバーが集まったら、ケガ人の1人や2人は出るはずばい。そんなときこそ、タチ関の出番でごわす！

もちろん、本戦に出場するためにはリザーバーマッチで勝たねばならんのでごわすが、「お金が掛かると人が変わるよ」と豪語するタチ関には、死角などあるはずもないのでごわす。屁のつっぱりはいらんですよ！

気になる相手は1月15日現在、ヴァンダレイ・シウバでごわす。当初は、佐竹雅昭との夢のカードも決まりかけてはいたようでごわすが、結局流れたばい。『週プロ』は見出しに、「仰天！　佐竹の相手は大刀光だ」と打って、相撲でいうところの勇み足をやってしまっていたでごわすな。まあ、シウバの強烈なヒザ蹴りも195センチのタチ関には届かんでごわすよ!!

前号でも「相撲出身者は絶対倒されない！」と気持ちよく豪語していたように、柔術系の選手にタチ関が倒されることなどあるはずもなく（倒れなければ、寝技にはならんばい！）、打撃系の選手なら"つっぱり"で昇天確実でごわす！　タチ関自身も、「キックボクサー系なら張り手で潰れちゃうよ」と、豪快に言ってるでごわす！

『PRIDE．4』の高田延彦vsヒクソン・グレイシー戦で、バーリ・トゥードにおける相撲の有効性は実証済みばい！　あの試合は、ノブ兄さん、というよりも元祖スモーノブの相撲のスキルが、ヒクソンを苦戦させたばい？　あの試合を見れば、相撲の強さがいかに重要かが、ヨカタでもわかると思うでごわすよ。チェケラ〜！

問題があるとすれば、着用を義務づけられているオープンフィンガーグローブでごわすな。ばってん、これは幸運にも掌が空いているのでごわす。つまり、12年間テッポウをやり続けたおかげで、石のように固くなったタチ関の掌から繰り出される"つっぱり"が有効なんでごわす！　しかも、水を含んだサラシを巻いて、ガチガチに固めるという禁じ手までやるとか。そんなわけで、グローブがドリステから送られてきても、「子供のオモチャになっちゃってるよ（笑）」とタチ関はまったくの無関心！　いちいちシビレるでごわすなあ。ちなみに練習はというと、「子供と『こち亀』の映画を見に行く約束しちゃったから、その後だな（笑）」と、これまた余裕の発言でごわした。

さらに大刀光関には裏技もあるばい。WAR時代、仲良くなった通称トンガさん（＝ミングorキング・ハク）と「ケンカのやり方」に付いて話し合っていたそうでごわす。知らないヨカタのために書いておくと、トンガさんは元幕下力士のプロレスラーで、WCWでは陰の実力者（or用心棒）として恐れられている選手でごわす。あのウルティモ・ドラゴンも、ミングと仲がよかったことで、「アメリカでうまくやれた」とか。すごい大相撲出身者でごわす。

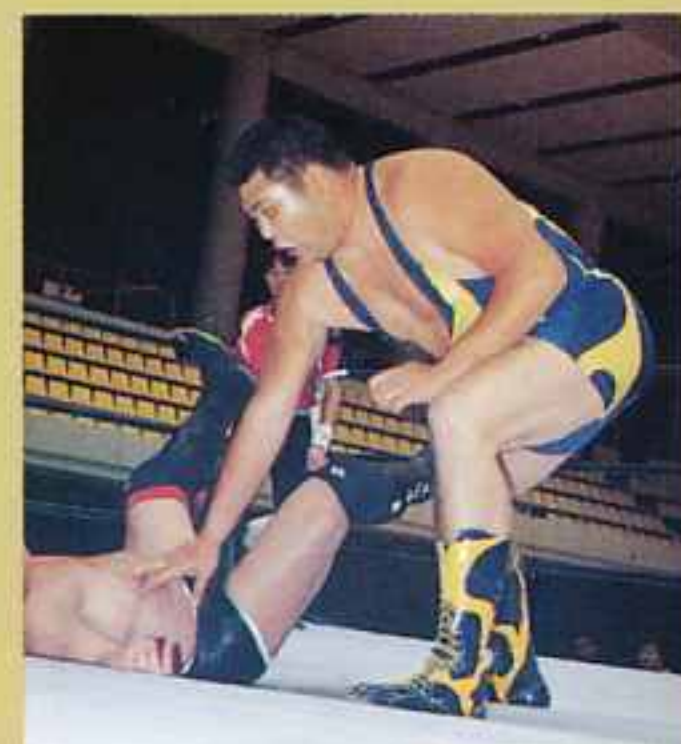
話を裏技に戻すばい。そのとき、トンガさんは、「相手が襲ってきたら、はたき込んで倒して、目をくり抜けばいい」と語っていたそうタイ……これが『PRIDE』で使えないのはワシも先刻承知ばい。しかも、相撲でもそんな技はないのも知っとるばい。でも、いざとなったら何をやるかわからないのが相撲取りの怖ろしさだ、と実感したでごわす。

タチ関自身、自分でもスロースターターな性格だと言っとるばい。「一発殴られて、火がついたら大変だろうね。キレたら何するかわかんないよ」とのこと、195センチの大男がアドレナリン全開で暴れ出したら、それこそ手も付けられんばい！　それこそ、ワシは見たいでごわすよ！

行ったれ、タチ関！

世紀末に誕生した破天荒スモーレスラーにライド・オンでごわす！

はぁ〜、どすこ〜い、どすこい！

「相撲軍団」なる、謎の覆面力士軍団の一員だったタチ関（当時は"大和"）。ちなみにあの桜庭とも、WARのリングで対戦経験があるでごわす。コーナーに張り付け→ツッパリ連発でダウンを奪うというステキ過ぎる試合だったばい。

最近のタチ関は、SPWFを主戦場に活躍中。取材した1・6茂原大会では、珍しくキレ味鋭い腕十字まで繰り出したばい。ちなみに、フィニッシュ・ホールドとしてはチョーク・スラムを愛用中。軽量選手ならVTでも使えるはずでごわす。

1・5会見にも土俵入り

スモーノブも魂こめて応援するばい!!

参加全選手発表に先駆けて、タチ関の参戦が発表されると報道陣からも驚きの声が上がったばい。ちなみに、リザーバーマッチの相手は、カール・マレンコ＆松井大二郎を連覇したプロレスキラーのヴァンダレイ・シウバでごわす（1月15日現在）

大刀光証言ファイル

関係者が声を揃える「大刀光ガチンコ最強説」を検証せよ!!

タチ関の『PRIDE.GP』参戦発表の翌日に、千葉県茂原市で行われたSPWFの大会を取材に行ってきたでごわす（この日のタチ関の模様はP59に詳しく書いてあるばい）。腕っぷしとゴツさなら、決してメジャー団体にも引けを取らないSPWFの選手に、身を持って感じたタチ関のバカ強さを語ってもらったでごわす。これを読めば、タチ関がいかに強いのか一目瞭然でごわす！　さらにインディーといえばおなじみのライター・イナズマKさんもタチに寄せる熱い思いとともに作戦をシュミレーションしてもらったでごわす！

谷津嘉章（SPWF）

大刀光は、18歳の頃から相撲道に精進してきたんだよ。男の世界で勝ち抜いてきたわけだな。そういうプライドを捨てて、あえて違う土俵に上がるわけだから、その勇気とガッツは賞賛に値するよな！　でも、現実を踏まえると、強いヤツはいっぱいいるからね。作戦としては頭から当たって、ツッパリしかねえよ。

（一緒に練習はしないんですか？）

それこそ、あいつも相撲のプライドがあると思うから一度やってみて、寝技の世界に触れてみないとわかんねえだろ。まあ、だから洗礼を受けろってことだ。なっ？　倒してから、どうやって相手をコントロールするかが課題になってくると思うぞ。

（セコンドには付かないんですか？）

大刀光はリザーバーなんでしょ？　まあ、オレがつくまでもねえよ。嵐が付けばいいだろ、そんなもん。本戦に出場したら付いてやる。だいたい、リザーバーって言葉も良くないよ。「最初からトーナメントに出せ、コノヤロー!!」って感じだな（笑）。

（負けた場合のリスクは大きいが？）

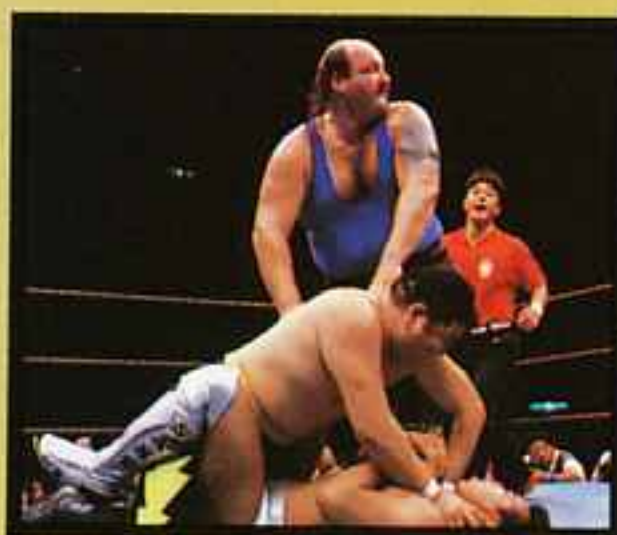
そんなもん、新日本プロレスとか全日本プロレスの選手じゃないんだから。いつもゲリラ的な気持ちで行かないとな。格闘技の強さにロマンを追うなら、もっと業界の壁を取っ払ったら面白くなるぞ。今度の『PRIDE』もカードは全部主催者が決めてるんだろ？　普通は記者会見で抽選してカードを決めるだろうが！　それがアマレスルールだよ！　アマレスはそうなんだから！　国体は、主催県が全部主導権を持ってるから、主催県が必ず優勝するんだよ。『PRIDE』は国体だよ。勝手に決めて、なっ？　興行だからしょうがない部分はあるけど。あと、総合格闘技で「オレが強い」と思ってるヤツは、アマレスでオリンピック出てみろって！　いま、総合格闘技でレスリングが有効なのは立証されたわけだから。なっ！

（谷津さんは『PRIDE』に出ないんですか？）

じつは、オレもあるところからオファーは受けてんだ。総合格闘技やらないかってな。まだ、何とも言えないけど、問題はまだいろいろあるからな。

スモー“ダンディ”フジニ干（闘龍門）

大刀光さんとはWARでご一緒させていただいてお世話になったんですよ。バーリ・トゥードですか？　張り倒してくれると思います!!

簡単な話、頭からバーンとブチ当たればいいんだよ（嵐・談）

嵐（チーム・コンボイ）

簡単な話、頭からバ～ンとブチ当たりゃいいんだよ。オレたちは小さい頃から足の裏以外付けることが許されないガチンコの世界でやってきたんだから。まあ、オレはデカくて、力のあるヤツが強いと思うからね。タチも（相撲の）現役を離れてだいぶ経つけど、強いよ。本人もやる気だしね。

（リザーバーでの出場について）

ほ～、タチもずいぶんナメられたもんだね。あのね、ハッキリ言って相撲の現役が来たら、誰も勝てないよ。誰か武蔵丸に勝てるの？　いないよ、そんなヤツ！　オレはプロスポーツ界で武蔵丸が一番強いと思ってるから。足を極める？　極まらないって（笑）。マルが一番強いよ。

（プロレス界で一番強いと思うのは誰ですか？）

う～ん、馬場さんは死んじゃったしなあ。まあ、勝負は時の運だからな。

矢口壹琅（G・O・D）

いつも対戦してるけど、今回だけはオレもエールを送る！　立ち会いで、いかに顔面を吹っ飛ばしていけるかが勝負でしょ。寝技には入らずに、自分の土俵で闘うことですよ。

大相撲のツッパリの威力は凄いからね！　マイク・タイソンの3倍強いですよ、ストレートに入ったらの話ですけどね。どんなに首を鍛えても、神の世界に行っちゃいますよ。SPWFはガチンコの強い選手が多いですから、総力を挙げて応援したいんですけどね。試合までの期間が短いのは、惜しいです。インディーにも「これだけ強い選手がいるんだぞ！」ということを見せてほしいです。

2000 格闘SMILE

北原光騎（キャプチャー）

まあ、本人がやりたがってたからね。もとはと言えばオレが焚付けたんだけどさ（笑）。タッちゃん（＝大刀光）は幕内まで行ってる男だからね。変にくすぶってるよりは、いいんじゃねえの？　オレは応援するよ。あの破壊力をオレたちは知ってるからさ。当たりゃあ、凄いだろ。

（ここに大刀光関本人が通りかかったので話に参加してもらう。さらに「大刀光ファンクラブ会長」の大角比呂詩選手も加えて座談会、というよりも雑談会が始まった）

大刀光　キャプチャーって、夜もやってるんですか？

北原　おお、やってるよ。

大刀光　今度、練習に行きますよ。

北原　ウチは入口の階段狭いから、タッちゃんじゃ入れないよ（笑）。でも真面目な話、オレはスタミナのある相撲取りが一番強いと思うぜ。

――大刀光さんは、スタミナ自信あるでごわすか？

大刀光　あるわけないじゃん（笑）。なくなる前に倒すしかねえよ。

大角　あんまり、タチさんがスタミナないのを書かないでよ！

大刀光　相手はガイジンだぞ。日本語読めないから大丈夫だよ（笑）。

――そっ、そうでごわすか（笑）。

大角　オレ、最近寝不足なんですよ。毎晩、布団に入るとタチさんの試合をシュミレーションしちゃって。

大刀光　なんか、みんな大騒ぎしてるね。本人は全然、そんな大したことだと思ってないのに（笑）。

――メチャクチャ大したことばい！

北原　参戦するだけじゃしょうがないからね。勝たなきゃダメだ。

大角　相撲のツッパリとパンチは、入ってくる角度が違うから気を付けた方がいいですよ。

北原　あのな、相撲を経験した人はどんなパンチもらっても倒れないんだよ。寝技だって大丈夫だよ。おかあちゃんと鍛えてるからな（笑）。

大刀光　ドゥハハハ！

北原　試合当日はニーハオをセコンドに付けるから、大丈夫だよ。で、試合はいつなの？

大刀光　1月30日っス。

北原　（本当にビックリして）え～っ、ウソォ？　キャプチャーの試合がある日じゃん！　なぁ～んだ？　じゃあ、ニーハオもセコンド付けないよ。

――え～っ！　そんなぁ～。

北原　しょうがねえ、練習はいくらでも協力するから。でも、タッちゃんの場合はどっかに飲みに行った方が練習になるよ！

大刀光　え～、TVの『SRS』が練習風景の取材に来るんですよ（笑）。

北原　なおさらいいじゃん（笑）。なぜかタッちゃんだけ、練習でカラオケ歌ってんの（笑）。相手に「まあ、練習しておきたまえ！」ぐらいのこと言ってさ。それで負けても、お客さんも「あんなことやってりゃ負けるさ！」で終わりですよ。でも、勝ったら「すげえ！」ってことになるよ。絶対に評価は落ちない！「こいつ、ナメてんのか？」って言われても、ファンは支持するよ。オレとのトレーニングは、それで決まり！　いい店を探しとくから。

大刀光　飲んだ後にケンカしたりして（笑）。

北原　そういう実戦トレーニングもいいね（笑）。

――早速、トレーニング・メニューができたでごわす（笑）。

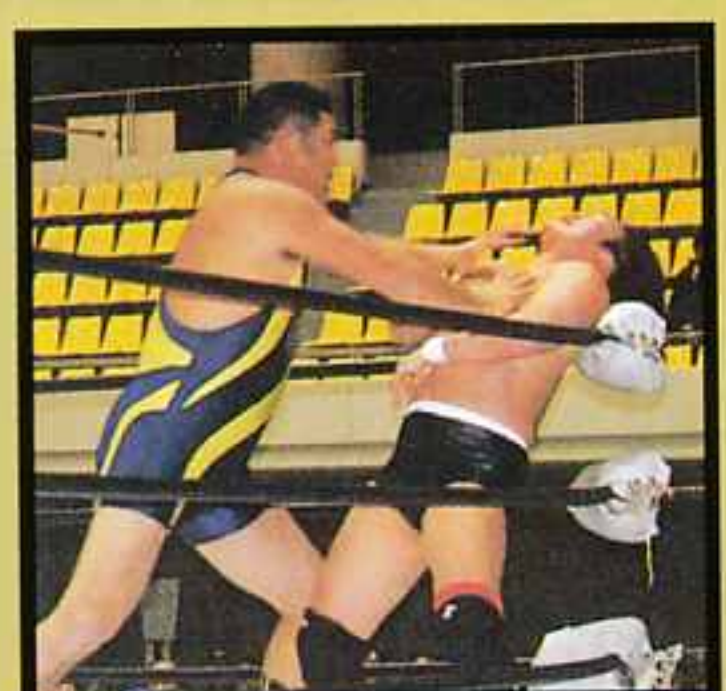
北原　いまから付け焼き刃でトレーニングしても無駄だって。自分がいままでかいた汗を信じるしかないでしょ。

大刀光　まあ、人が見てないところで何かやるよ。

――何するんでごわすか？

大刀光　まあ、テッポウの稽古だけでいいよ。

ニーハオ（キャプチャー）

もう、タチさんは身体とかパワーとか、次元が違うって感じですね。あんまり細かいことを考えずに、一発の重さで勝負して欲しいです。タチさんの圧力に勝てる人は、おそらく『PRIDE』の中にもいないと思うんで、張り手を武器に是非勝ってほしいですね。もう、ホ～ント凄いんですよ。相手がガードしてても、張り手を入れて欲しいですね。脳震とう確実でしょう。巡業中の試合前に、スパーリングすることもありますよ。タチさんは、そういうの好きですから。タチさんのグローブのような手で掴まれたら何も出来ないですね。

大刀光のつっぱりはマイク・タイソンの3倍の威力!!
（矢口壹琅・談）

大刀光がいざVTで闘わば
文・イナズマK

いやーホントに凄いことになりました。ひょうたんからコマ、ウソからでたマコト（!?）、ならぬ紙プロから出たタチといったとこでしょうか。そう、前号で最高にご機嫌なインタヴューをブチかましてくれた大刀光の『PRIDE. GP2000』出場が決定したのだ！　今回は本戦出場とはならず、リザーバーとしてのエントリーではあったが、試合が組まれるのは決まりである。

本誌前号のインタビューで、大相撲時代の「恩返ししたいから、寺尾さんに勝つ事だけを夢見て頑張ってた。でも幕内入って当たったらいきなり勝っちゃったんだよ（笑）」というあっさり目的達成エピソードもあったが、「ガチンコに挑戦したい」、「東京ドームで試合がしたい」という先の発言が、またもやトントン拍子で決まっちゃったのだ。もの凄い強運の持ち主だったりする大刀光選手。まさに、タチが願えば何でも叶う！　ってやつだ。

今回のバーリ・トゥード出場は、『U－JAPAN』でのミスター・デンジャー以来の純インディ・レスラー参戦。さらには北尾以来の元幕内力士の出場ということになる。さり気ない二大快挙（なのかな？）を成し遂げたタチ。インディ最大のデカさを誇る彼の底力は、何といっても立ち技最強伝説、相撲で培われたもの。プロレスでは、正直その実力が完全に開花したとは言い難いところはあるが、時折見せるツッパリや力技はギラリと光るナイフ、いや刀のごとしである。

そんな怖いタチの秘めた実力が、これまで唯一全開になったのがキャプチャーでの試合だ。北原をつっぱりで場外まで吹っ飛ばし、終始押しまくったというスタンドでの強さは、初代修斗インストラクターも試合後ゲロまで吐いたほどのお墨付き。恐怖のタチ幻想は一気にビンビンだ。

さて、NHBとなると寝技にも対応しなければならない。だがタチにそんな必要なし。なぜなら安定した足腰で「倒れなければいい」からだ。いざテイクダウンしても心配なし。上になっても下になってもその分厚くゴツイ掌でゴンゴンっとやっちゃえばいいのだ。おすもうさんのツッパリはタイソンのパンチよりも強力なんです（元北尾付け人・談）。もし足関節を狙われたら？　それも平気、タチの足はとっても長いので相手選手が手を延ばしても届かない！　頭も堅いし全身頑丈、まさに万全だ。

ちょっと考えただけでも速攻わくわくモード。現時点ではまだ対戦相手がはっきりしていないが、ババヘット、メッツァー、シウバ（に決定）誰と当たっても面白そう。本戦に出ても遜色無しのスモーパワーで賞金ごっそり頂いちゃおうぜ！　スケールのデカさはハンパ無しだ！　頑張れ千葉市の英雄、大刀光！

←家宝級の出来ばえの特製ピンナップで大刀光の肉体の神秘に迫る!!

5・26ヒクソン・グレイシーVS船木誠勝戦決定!

ヒクソンをナメるな! その本性、残忍なり!!

お兄さん、次こそは僕と勝負して下さい（編集部捏造）

今回惜しくも落選した桜庭和志さん

見事当選された笑顔の船木誠勝さん

15年間の格闘技人生の集大成を出したいと思います

ホイラー敗北の言い訳発言からこっち、ヒクソン・グレイシーの株はガタ落ち状態。しかし、冷静に考えてみると、ヒクソンの武道家イメージはもともと作られたものであって、ヒクソン・バッシングはそのイメージが壊れたことに対する非難というだけなのだ。

グレイシーの"鎧"にヒビが入り始めたいま、ここはひとつ、ヒクソン・グレイシーとはどんな男なのかを改めて検証しなければいけないだろう。

実はこの男、本性はかなり残虐なのである。

船木誠勝、大丈夫か茶化すのはやめま〜す。

文・聞き手／中村カタブツ君
text & interview Katabutsukun Nakamura

撮影／斎藤ユーリ
photograraphs by Yuri Saito

「顔蹴れ、顔！」――。
これは、ホイラーの足を蹴りまくっていた桜庭に向けて、サダハルンバ谷川が発した、テレビ解説者にあるまじき言葉である。
実に素晴らしい。
自分の立場も忘れて、観客の気持ちを必要以上に代弁した、1900年代をしめくくるに相応しい名解説だろう。そして「ホイラー選手はタップしてないと言ってますが、あそこからどうやって逃げたか知りたいです」＆「お兄さん、次は僕と勝負してください」という、桜庭のマイクアピールもいちいちツボに入って痛快この上なし！
そう。あの試合は、誰もが熱狂し（含むサダハルンバ）、この上ない満足感に浸りきることができた最高の試合であったのだ。
その上にだ。あの試合から2日後、ヒクソンはさらにこちらを気持ち良くさせてくれるコメントを残してくれた。詳しくは前号をご覧になっていただきたいが、「桜庭の蹴りは女の子のようだった」だとか、「桜庭は嘘つきだ」だとか、（ちなみにホイラー発言で「アリがゾウから逃げているようだった」とありましたが、あれは当然、アリとゾウが逆。取材した僕の聞き間違いであったのをここで謹んでお詫び申し上げます。ホイラーさん、「カタブツは嘘つきだ」と責めてください。言い訳できません）、彼の口から出てくる素敵な言葉の数々はグレイシー陣営がどれほど追い詰められ、ヒステリックになっているかを如実に表して痛快この上なし。
そんな狼狽ぶりも含めて、ヒクソンの不敗神話を崩すのは桜庭であることをファンは確信し、大きな期待を寄せ始めたその矢先――。
ヒクソンvs船木戦が発表されたのである。
ヒクソン・バッシングや、ちまたで流れた黒幕説を一気に吹き飛ばす姿勢は非常に買うのであるが、タイミング、悪すぎ。
だが、せっかくの大一番である。残尿感は早めに解消したいのが人情！
そういうことなので、ここではヒクソンにスポットを当て、一連の出来事を再検証しつつ、彼の本当の〝強さ〟と〝怖さ〟について改めて探っていこう。
さて、まずはヒクソンの評価を著しく下げた例の物件、ヒクソン言い訳三昧コメントから検証するわけだが、これはホント、何度読み返しても抜群だ。読み手を掴んで離さないキレのあるセリフの数々は、その暴走ぶりに加えて、彼らなりに作り込んでいるから、コクまで出まくり。
例えば、「判定に対する抗議が通らないのはおかしい」という言い分を理論付けるため『UFC―J』で桜庭が抗議した話を引き合いに出す細かな仕事ぶりとか、小さなホイラーを蹴りまくった桜庭の行為を非難するのに、ヒクソンが体重の軽い中井と闘った時のことを例に挙げるサジ加減とか、そして引用した最後に必ず「これは事実です」と付け足すあたり、かなり手が込んでます。説得力皆無なので全部無駄な努力なのだが、非常に頑張っているのだ。
マスコミも含めて誰もが非難する、このコメントではあるが、これはこれで絶賛できるシロモノ。
で、ここで問題となるのは一体誰がこの脚本を作ったのか、だ。
そもそもホイラーが負けを宣告された直後のヒクソンの顔は、怒りよりも、結果は結果としてそれなりに受け入れてるように見えて仕方がない。桜庭と握手した時も小さくだが笑顔を見せていて清々しくさえ見えるし。
ビデオを見た方には、ぜひとも意見をお聞きしたいのだが、あの時点でヒクソンが怒ってるようには決して見えないのだ。
ホイラー本人が怒るのは、まあ理解だけはできるとしても、結局、あの日、最も激怒してたのはグレイシー陣営のマネージメントを一手に担当するキム夫人であったのだ。

ヒクソンVS船木

実はヒクソン、キム夫人の尻に敷かれてます!!

これは事実です（ビデオでは、森下DSE社長にかなりの勢いで詰め寄ってます。一部報道によると胸ぐらを掴んで締め落とそうとまでした様子。さすがは最強の女子柔術家＝元女優！）。
実はヒクソン、キム夫人にかなり尻に敷かれているという噂があるのをご存じか？
僕が山篭りの取材をした時も、キム夫人の主導で取材は進んでいったと記憶しているし、本誌・吉田豪のインタビューにおいても、「女は大好きさ」と語った彼だが、それはキム夫人が席を外した隙だったというし。
つまり、あの桜庭に対するヒクソン発言は実はキム夫人が作者ではないかと思うのだが、この仮説（妄想）はどうだろうか？
もちろん、〝だからヒクソンは悪くない〟という無茶を言いたいわけじゃあない。ただ、ホイラー敗北から言い訳発言までの2日間、ヒクソンはキム夫人に相当ギュウギュウ言わされたのではないかと推測すると不憫でならないのだ。なにせ、元女優のキムである。セリフの入りが悪けりゃ、かなりプリプリになるはず。いくら、俳優学校に通う〝芸能人になりたい人〟ヒクソンをもってしても、あの説得力皆無のセリフを入れるのは困難を極めると思う。なにしろ、本が悪い。
もともと頭が上がらない上に、役者的にも大先輩であるキム夫人にヒクソンは勝てる術はおそらくない。そういう意味でヒクソンは頑張ったのである！……ってホントかよ、これ？
ともかく、あの発言からこっち、ヒクソンのイメージは完璧に失墜してしまったことは事実。だが、それはただ単にキム夫人のイメージ戦略が崩壊しているだけにすぎないともいえるのである。ヒクソンの核である〝強さ〟と〝怖さ〟の部分は、いささかも傷ついてはいない。そもそも、一連の武道家アピールは道場経営のためのビジネス的目

インタビュー中、こちらの質問を厳しく否定した。スンマセン、変な質問して

キラー・ヒクソン降臨!!

論みが強かったと思うのだが、ヒクソンの〝強さ〟がその大前提なのは明白。イメージ戦略の崩壊によって、その大前提までナシ崩し的に壊されそうになっている現在、ヒクソン自身が改めて〝強さ〟と〝怖さ〟を見せてくるのは至極当然。

では、ヒクソンとはもともとどういう男であったのかが気になってくるところだ。はっきり断言するが、彼は基本的に武士道だとか、ウォリアーだとか、女子供の考えそうなチンケなイメージの中に収まるような器の小さな男じゃあない。それを裏付ける夢枕獏先生の原稿が、『Number・PLUS』に掲載されていたので抜粋させていただくと――。

ルタ・リーブリのUがストリートファイトでの負けに納得がゆかず、ヒクソンの道場に道場破りにやってきた。このUからヒクソンはあっさりマウントを取り、上からパンチを浴びせながら言った。

『さあ、言ってみろ、世界で一番強いのは誰だ』

『それはヒクソン、あなたです』

下になったUは言った。

『Uとヒクソンと、どちらが強いか言ってみろ』

『ヒクソンはUよりも強いです』

『声が小さくて、よく聴こえないぞ』

『ヒクソンはUよりも強いです』

（筆者注＝ちなみにUとはウゴのこと）

どうですか？　こういう風に弱者をナブる姿勢、僕は大好きです！

写真では見えないが、足をテーブルの上に投げ出し、不機嫌になり始めるヒクソン。

ヒクソンVS船木

〝サムライ〟に代わって、最近頻繁に使い始めた〝ウォリアー〟という言葉も、この流れの中で使うなら文句なし！　まさに暴走戦士の名に恥じない邪悪な行為だ。

さらに、1月13日号の『ファイト』では船木がこんなことを語っている。

（船木選手がヒクソンについて研究したビデオのうち、安生選手の道場破りはありました？）

「いや、見てないです。話に聞く限りでは（中略）落としたらまたひっくり返し、意識を回復させてまた落とすというのを繰り返したみたいです。結構時間をかけて」

どうスか、この圧倒的な人非人ぶり！　失神してる人間に活を入れて、また締め落とすなんてことを普通の人間はまず出来ない。徹底的な男であるのだ。

グレイシー幻想が崩れ始めているとはいえ、グレイシー柔術が弱い格闘技であるとは誰も思ってはいないだろう。

そして、そのグレイシー一族最強の男は一皮剥けば、これほど残虐な男なのである。ホイスが「ヒクソンは自分より10倍強い」と言ったのは、実はこの部分を指して言っていたのだと考えると素直に納得できてしまう。

勝負というものが〝心を折る〟作業であることを、いやらしいまでに理解している男がヒクソン・グレイシーなのだ。

だからグレイシー側にしてみれば、あんな判定で勝ったと言い張る桜庭に対して、ゴチャゴチャ言うのも当然のこと。

悪いのは桜庭！

彼らにとっての勝負とは、徹底的に、圧倒的に、完膚なきまでに相手を制して初めて成立するのだろう。難儀な話だが。

そう、難儀な話なのだ。

どうやら桜庭は、ホイラーの腕を極めた時点で「桜庭とホイラー、どっちが強いか言ってみろ。オラァ！」と、言うべきであったらしい。ヒクソンの例のコメントの数々は〝俺から勝負の非情さを学べ〟という奥深いメッセージがあったのである、たぶん。

強い上に、かなりな粘着質というメチャクチャやっかいな男・ヒクソンが、勝負に執着しなければならない状況が作り出されようとしているいま、船木誠勝は彼との勝負に挑もうとしているのだ。恐ろしい話である。

ここで、遅ればせながら昨年12月に行ったヒクソン・インタビューをお届けしたい。このインタビューはヒクソンvs船木戦調印式後に行ったもので、あの桜庭罵倒発言から初ということでこちらもかなり気合いが入っていたわけだが、ここでもキム・プロデュース（オレの妄想）いまだ健在。主催者側から試合以外の質問はすべて事前に却下され、ヒクソン自身もこれまで通りの武道家アピールを展開しようとしたのだった。

――インタビューが何本も続いて、同じような質問ばっかりでいい加減飽きてるんじゃないですか（笑）。

ヒクソン　（日本語で）スコシ（笑）。

――と思ったんで今日はヒクソンさんが日本のファンに向けて、いま現在伝えたいことがなにかありましたらお聞きしたいんですが。

ヒクソン　それは格闘技についてなのか、人生についてなのか？

――時間がないんで（インタビューは20分）単刀直入に言いますが、グレイシー柔術の現状についてです。

ヒクソン　グレイシー柔術について色々言われていることは私も知っている。ただ、個人的に言えば、日本に来るたびに、居心地が良くなっているんだ。多くの人々がグレイシー柔術を教えてほしいと言ってきてくれるからね。それは技だけじゃなく、思想的なモノ、哲学的なモノを含めて、もちろん

私自身に対する好奇心というものも含めてグレイシー柔術を知りたいという人がたいへん増えているのが嬉しい。それに対して私はグレイシー柔術を体言する者のひとりとして責任を感じているし、いいモデルになりたいと思っている。私が日本に来ることによって人々に前向きな影響を与えることができればいいと思う。日本の人々が持っている意識下の可能性といったものを啓蒙していくことが出来たら、それは私にとってたいへん嬉しいことだ。

——わかりました。ただ、日本のファンの中にはあなたと船木選手の闘いを歓迎しない人もいます。それについてどう感じますか。

ヒクソン　いろいろな考え方をする人間もいると思うが、違う考え方をする人間に対して、どうこう言うつもりは私にはない。この『コロシアム2000』というのは非常にユニークなイベントであり、その目的は格闘技イベントの社会的レベルを上げていきたいというものであると私は聞いている。この現実を考える方が大切だろ？　私はこのイベントを歓迎してるし、船木選手も尊敬できる。相手として申し分ないと思う。

——この船木vsヒクソン戦というのは日本の格闘技ファンなら誰もが見たいと思うビッグイベントだと思うんですね、普通なら。ですが、この試合を歓迎しないという人がいると僕が言うのには、その理由があるからです。先日、ヒクソンさんがグレイシー柔術セミナーで語った言葉の中で、日本のファンが誤解してる部分があると思うんですね。で、その誤解を解いておいた方がいいのではないかと思って質問してるんです。

主催者　すいません。それは先にいただいた質問事項にないんですが。

——とりあえず、聞いてください。ヒクソンさんが答えるかどうか。

主催者　そのコメントについては……。

——とりあえず、聞いてください（通訳に向かって）。

ヒクソン　すまないが質問の主旨がよくわからない。

——すいません、僕も焦ってまして（笑）。

ヒクソン　……（無表情に黙る）。

——ヒクソンさんはあの時に、桜庭選手が寝技の攻防に付き合わなかったことに対して怒ってましたね。例えば、グレイシー柔術にとって寝技の攻防はもの凄く重要だと考えていたからこそ、寝技に付き合わない桜庭選手に対して怒りを顕にしていたのではないかな、とかいったところです。日本では寝技の攻防も重要ですが、立ち技の攻防も同じくらい重要だと考えてますんで、その辺の意識の根本的なズレが大きく出てしまったのかな、と思ったりもしてるんですが。

調印式での金髪＆ギャグ連発の船木の肩の力の抜け具合は抜群。この男も一皮ムケそうで期待大！
ヒクソン・グレイシーvs船木誠勝戦は5月26日、東京ドームにて開催される

ヒクソン　（少しイラだちながら）それは逆にキミの誤解だよ。技の応酬は全然かまわない。キックだろうが、パンチだろうが、打撃の応酬はそういった技だし、戦略だから、使って当然だ。私が言いたかったことは彼の闘志についてだ。勝ちにいこうという意欲が彼から感じることができなかったということだ。格闘家として大事なことは自分の名誉を賭けて闘いに臨む姿勢であると私は考える。その姿勢が足りなかったと言っているんだ。

——そうですか。でも、日本のファンの中にこの試合を歓迎できないというムードがあるのも事実です。だから、僕のようにあなたの発言を誤解している部分がファンの中にもしあるとしたら、誤解を解くべきではないんですか。（その間も編集のスモー・ノブと主催者との交渉が続く）

ヒクソン　（ジロッとニラんで）もし誤解をしているというなら、それは誤解をしている方で解いていただきたい。私が言うことはいつも変わらない。私はいつも同じことしか言えない。そういう方に同じことを言っても、その誤解が解けるかどうかはわからない。

——いつも同じことしか言えない（笑）。う〜ん……まあ、わかりました。

主催者　消化不良のところはありますか。

——消化不良ですね。

主催者　ただ、今回のインタビューでは船木戦に焦点を絞ってということを本人から言われてますんで、それについてのご質問を願えるとありがたいんですが。

——では、ともかくこの試合を見る日本のファンに向けてメッセージをお願いします。

ヒクソン　これから試合に向けて鍛練に励んで、技と精神を鍛えて試合の当日にはベストの状態で臨みたい。そういう状態で臨めば、それだけファンの皆さんにも良い試合をお見せすることができると思う。その時に勝った者が片方よりは優れていたということになるのだが、どうかファンの皆様には私たちがいかにいいコンディションで試合をお見せできるかをご期待ください。

正直に言います。いまのヒクソンも、主催者のこういう的の外れた守り方もボクは大嫌いです。邪悪だけれど、凄味のあるヒクソンのまぎれもない怪物性をなぜ隠そうとするのかボクには理解できないし、残念でならない。いまはもう昔のイメージは通用しないのがなぜわからないのか不思議です。

イメージを壊したのがヒクソンである以上、それはスッパリ捨てて、あなたのナマの怖さを見せてほしいと切に願います。

まあ、ボクの妄想はあくまで妄想だけど、ヒクソンの持つ〝強さ〟と〝怖さ〟の部分を一体誰がどうやって否定できると言うのであろうか。世界の一流ファイターが「最強の人間なんていない！」と目くじらを立てるほどにイラつかせる巨大な男は、まだ僕らの目の前に敢然と存在しているのだ。また、パンクラス黒幕説がまことしやかに流れる中、船木もこれまでのイメージを脱ぎ捨てる時期にきているかもしれない。

一族や団体を支えるために背負わなければならなかった重い〝鎧〟をヒクソンと船木は、幸か不幸か、一気に捨て去ることが出来る大きなチャンスを迎えているともいえる。いま、捨ててこそ、浮かぶ瀬もあれ、だ。その瀬が東京ドームという大舞台である。

二人の男がその潜在能力のすべてをかけてムキ出しで闘う姿をぜひとも目撃したい。

道はどんなに厳しくとも、笑いながら歩こうぜ！　そう。これからの4ヵ月、二人の男の歩みを歓喜を胸に秘めつつ見続け、5・26は笑いながらドームに足を運ぼうぜ！

＊そういうことで次号よりヒクソンvs船木戦を力強く見続ける緊急企画、やります!!

ウィリー・ウィリアムス

"熊殺し"本誌初登場！

あの"熊殺し"ウィリー・ウィリアムスが再び日本にやってきた！
しかも上がるはFMWのリング。強さを極めた男がエンターテイメントの世界にまで積極的に踏み出す姿勢は素晴らしい。
ウィリー、実はその素顔はメチャクチャ陽気でオーバーアクションのイカシた男だったのだ。"熊殺し"というキャッチフレーズだけでは納まり切らない、ゴキゲンな男の魅力を堪能してほしい。

聞き手／中村カタブツ君（極真空手緑帯）
interview by Katabutsukun Nakamura

撮影／松永源さん（芦原空手黒帯）
photograraphs by Gen San Matsunaga

通訳／黒田史夫（芦原空手黒帯）
interpretation by Fumio Kuroda

非道はモノ凄くアグレッシブなファイターだよ

何を話すにもとにかく身振り手振りの多いウィリー。だが、さすがは元極真。スピードの早いこと、早いこと。その手振りが既に手刀打ちであり、正拳突きになるのである（大げさ）。喋る時まで〝全身空手家〟ウィリー・ウィリアムスのエンターテイメント・トークのスタートです！

――いやぁ、ウィリーさんがＦＭＷに出るって聞いてびっくりしましたよ。

ウィリー　ガッハッハッハッハ！　ＦＭＷは最高の団体だ！　レスリングもあるし、格闘技もあるぞ。先日見た大会（99・10・29、後楽園ホール）は素晴らしかった。だが、オレの弟子だとかと触れ回ったあの男の話だけはしたくない！（怒）

――タレック・パスカさんのことですね。

ウィリー　ひどい試合（同興行「非道VS T・パスカ」1R、非道のＫＯ勝ち）だ。

――あまりにも身体が貧弱で本当にウィリーさんの弟子なのか疑いましたよ（笑）。

ウィリー　ガッハッハッハ！　わかりませ～ん（笑）。ヤツは2度とリングに上げない。

――いやいや、風貌は抜群なのでまた呼んでください（笑）。ところで、相手の非道さんの印象を聞かせてください。

ウィリー　モノ凄くアグレッシブなファイターだよ。なにより、あのハングリーさがいい。試合以外の礼儀正しさも好感が持てるぞ。彼はカラテとレスリングの両方あるのがいいな。純粋なカラテ家ではないけれど、リングの中と外では全然違う選手だから油断できないぞ。（取材の翌日の11・23ＦＭＷ横アリ大会でウィリーVS非道戦が行われ、3Rウィリーのミスウィリーの KO勝ち）

――頑張ってください。ウィリーさんの来日は久しぶりなんですが、まずはアメリカではいまどんな活動をしてるんですか。

ウィリー　いまはニューヨークに2つ道場を持っていて、そこでミックスドマーシャルアーツを教えてるんだ。ノースカロライナには8エーカーの2階建ての家を持っていて部屋数は10室。400メートルの自家用道路があるぞ（笑）。ガッハッハッハッハ！

――凄いですね！　なんでそんなにリッチマンになってるんですか。

ウィリー　ノッノッノッ。プアマ～ン、プアマ～ン（笑）。ノースカロライナの家にはトレーニングジムを作ってファイターも育てているぞ。ニューヨークと両方で選手を育てていきたいんだ。ノースのファイターはベリー、ベリービッグでタフで若い。オ・キ・イよ（日本語で）。ガハッ！　ガハハハハハ！

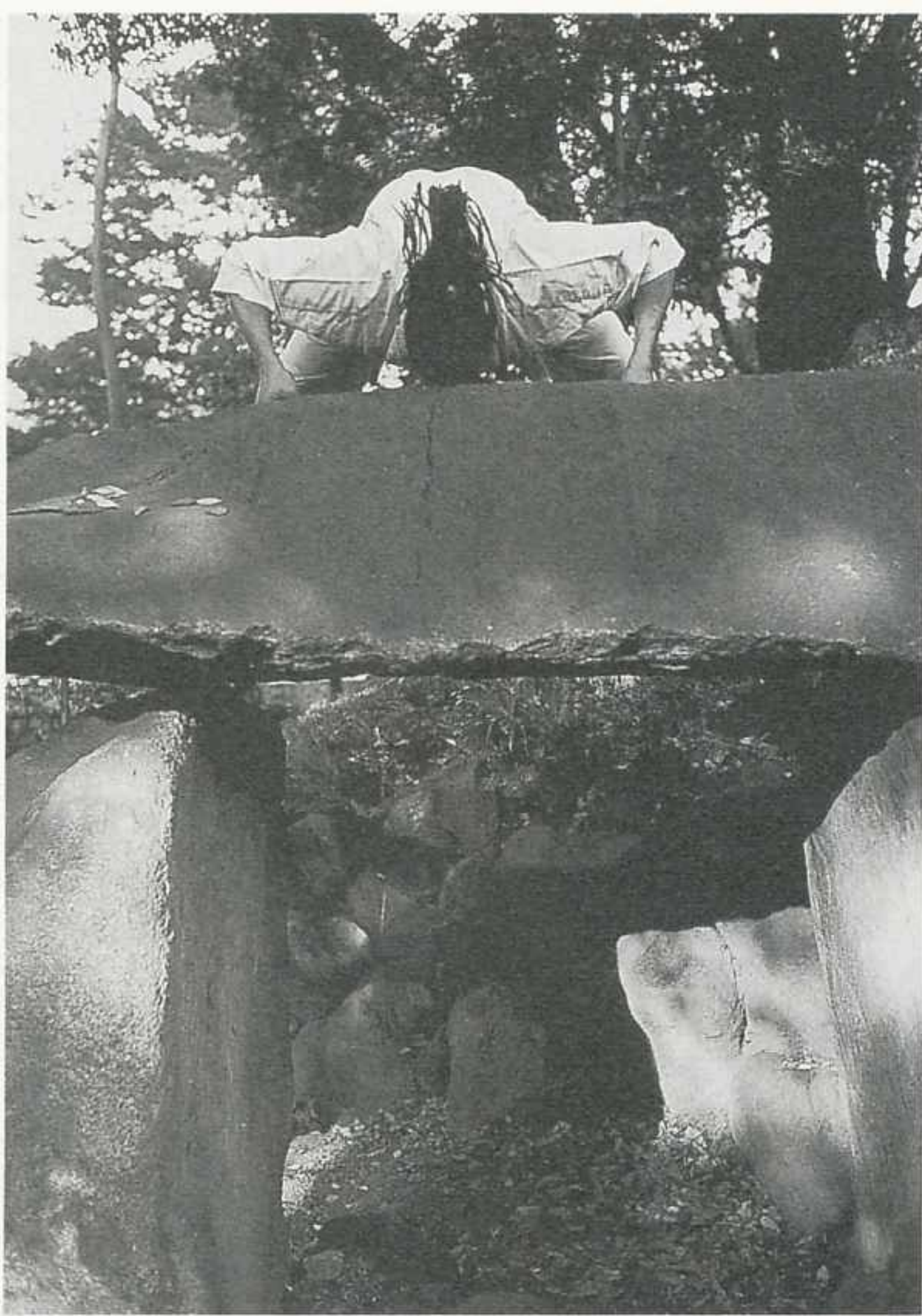
――（つられて）ワハハハハ！　ウィリーさんってもっと寡黙な方かと思ったら、全然違うんですね（笑）。

ウィリー　ガッハッハッハ！　ノー！　オレは誰にでもフランクだぞ（笑）。

――いいなぁ（笑）。その家はやっぱりファイトマネーで買ったんですか。

ウィリー　ファイトマネーとティーチの金だよ。日本にはオレが育てた選手をどんどんリングに上げていきたいぞ。そしてオレはそのトレーナーだ（笑）。

――空手はもうやっていないんですか。

ウィリー　オレ自身はカラテとキックボクシングとレスリングを交ぜたようなトレーニングを独自でやってるんだ。だけど、キョクシンへの気持ちは全然かわってないぞ。（突然両手を広げて）キョクシ～ン！　キョクシ～ン！　キョクシンの気持ちがオレのベースなんだぞ。（興奮気味に突きを連打し）ハッ！　ハッ！　ハッ！　フン！　フン！フン！　どうだ？（笑）

ウィリーの頭突きで分厚い一枚岩にもヒビが！　ってこんなバカな注文も「ウォース！」一発でこなしてくれるウィリーに乾杯！

WILLY WILLIAMS

――クゥー、ありがとうございます！（笑）

ウィリー　ガッハッハッハ！　※シゲル師範とも仲がいいし。キョクシンはやっぱり最高だぞ（笑）。だけど、これからのプロのファイトはやっぱりミックス、ミックス。メニー、メニー、スタイルを合わせていくんだよ。アメリカにはビッグ&ストロングガイがいくらでもいるんだぞ。そういうヤツらにチャンスにあげたいんだよ。（自分の体を叩きながら）ＯＫ！　ＯＫ！　ちっちゃくても太っててもＯＫ！

――将来が楽しみですよ。これからもドンドン新しい選手を育ててください。

ウィリー　任せておけよ。

――パスカさんも（笑）。

ウィリー　ノー！　あいつはダメだ。（といいながらも今年もパスカは来日し、非道こと「ウイリー高山と「ウイリー軍団」まで結成。恐ろしきはＦＭＷなり）

――ＵＦＣとかには興味はありますか。

ウィリー　全然ないぞ。あんな野蛮な試合は好きじゃない。それに協会が安定してないんだ。あちこちの州で禁止になってるだろう。子供の教育に良くないからだ。ＷＷＦの方が見ていて楽しいし、最高だよ。

――ＷＷＦからのオファーとかありますか。

ウィリー　あればぜひ行きたいぞ。

――ゼヒ見たいです！　ウィリーさんと言えばやっぱり熊殺しですが……。

ウィリー　ワッハッハッハッハ！　ペンシルベニアでファイトしたのさ（笑）。ベアーと闘う前のオレは普通のファイターだったよ。だけど、ベアーと闘ったあとはベアーから力をもらって強くなったよ。

――無茶ですよね、熊と闘うのは。

ウィリー　（突如目が険しくなり）最初は怖かったぞ。だけど、自分の持ってる力がどこまで通用するか、試したくなったんだ。勇気！　勇気！　勇気を試すんだァ！　オーケー？　死ぬかもしれないぞ。でも、オレは試したかった！

※シゲル師範（大山茂＝元極真会最高師範にしてウィリーの師。単身アメリカに乗り込んで極真空手を広めた凄腕の男。真剣白刃取りの名手）

——じゃあ、自ら望んでだったんですか。シゲル師範に命じられたわけじゃなく？

ウィリー　（ニヤっと笑って）シゲル師範は「ゴー、ウィリー、ゴー」だぞ（笑）。竹刀、バ～ン！　バ～ン！　「熊と闘え！」って言われたらもう「ウォース！」だ。キチ●イかと思ったぞ（笑）。

——ワハハハハ！　そういう強制がないと普通は出来ませんものね（笑）。

ウィリー　苦しい稽古で足が動かなくなっても、師範に叩かれると動くようになる（笑）。

——そういう無茶が極真の幻想を作ったんですよね。

ウィリー　ウォ～ス！　ガッハッハッハッハ！　映画（『地上最強のカラテ・パート2』）の中では短かったが、実はあれは40分以上も闘っていたんだ。映画はベリー・ショート！　ショート！　ベアーはパワーもスタミナもバランスもあって凄く強かったぞ。人間より全然強い！　ともかくインサイド、インサイド、中に入って闘ったよ。（腕をブンブン振り回しながら）こうだ。フン！　フン！　フン！

——いくら師範の命令とはいえ、いざ熊を目の前にしたら、やっぱり闘うのは嫌になったんじゃないんですか。

ウィリー　（まったく話を聞かず腕を振り回すウィリー）フン！　フ～ン!!

——すいません、ウィリーさん、話を聞いてください。やっぱり闘うのは嫌になったんじゃないですか。

ウィリー　オー！　仕方ないだろう（笑）。

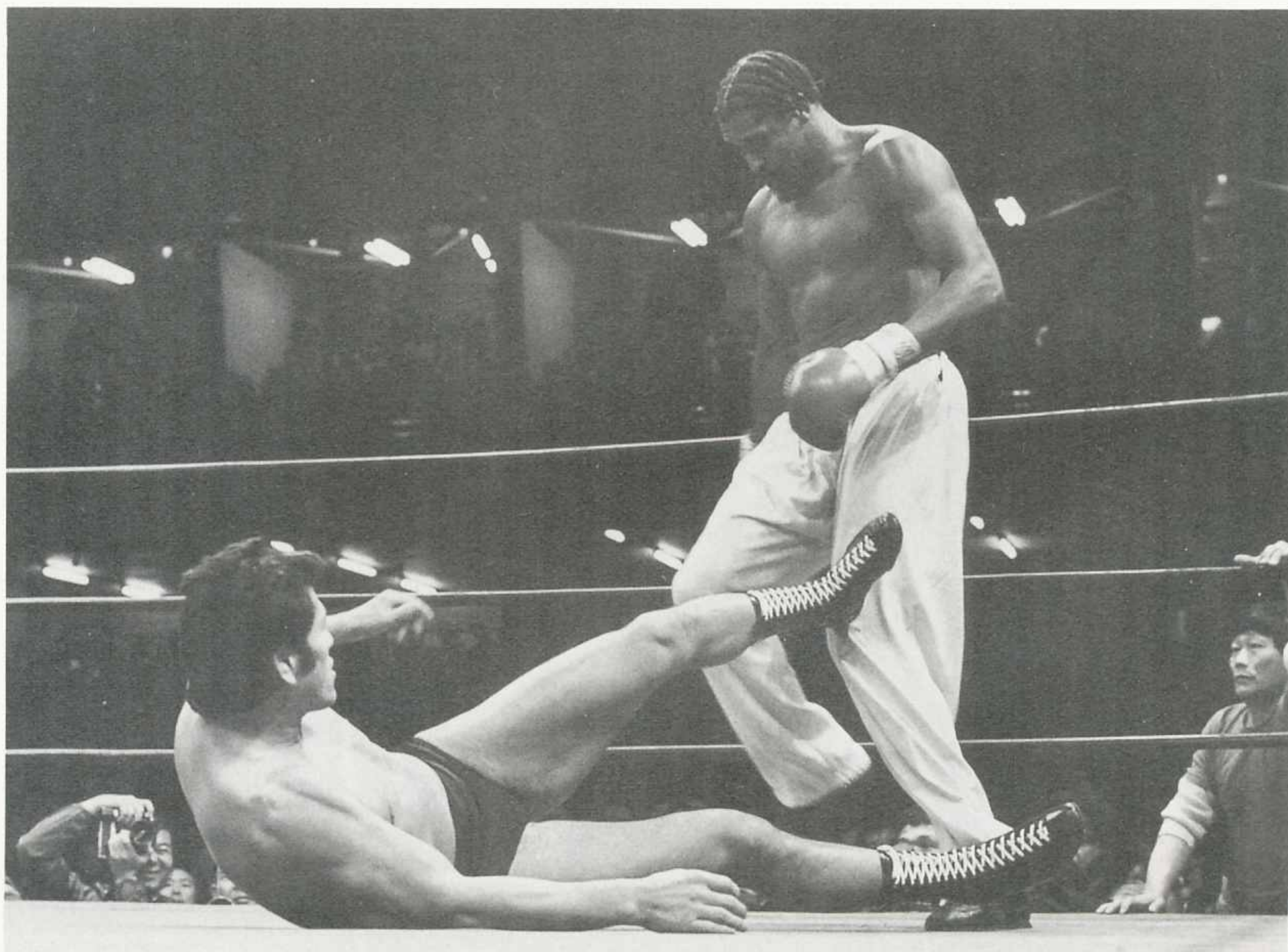
——ですね（笑）。それで映画を見てもよくわからなかったんですが、結末はどうなったんですか。

ウィリー　（ニヤリと笑い）ベアーは冬眠の時期に入ったと思ってくれ。

——冬眠（笑）。だから、その辺がすごく曖昧なところがあるんで、心ない人たちはいろいろ言うんですよ。あの熊にはツメがなかったとか、いわゆるレスリングベアだったとか。だから、あれは誰でもできるとか言いやがるんですよ！

ウィリー　ベアーの前でファイティングポーズをとってから、そういうこと言うべきだ。

オレは本気で突いて本気で蹴った。だが、簡単にベアーはまいらなかったよ。オレは呆然としたよ。それで顔を突いた時にベアーの目の色が変わったんだ。その時の恐怖はたぶん誰にもわからないだろう。

1980年2月27日に行われた対猪木戦。リング内もリング外も殺気が充満した世紀の一戦であった

——熊殺しではないにしても、熊を本気にさせた男だったんですね。

ウィリー　オレはベアーと本気で闘ったカラテ家だよ。

——いやぁ、いい話です！

ウィリー　人間には2種類いる。実際に闘う人間と闘わないで文句を言う人間だ。闘わないでアレコレ言う人間をオレは信用しない。闘った人間こそ、信じることができる。オレは実際に闘っただろ？

——確かに闘いました。それにしても極真の男たちは無茶が好きですよね。極真会の修行で極限まで追い詰められたことってありますか。

ウィリー　メニー、メニー（笑）。イノ～キと闘う前は海に沈められたよ（笑）。センセイ・クロサキ（黒崎健時＝右下の写真を参照）だ（笑）。

——黒崎先生なら、そのぐらいはやりそうですね（笑）。

ウィリー　10キロの重りを持って16キロも走らされたんだぞ（笑）。そのあとに「スクワット、スクワット、スクワット」。ベリーグッド・トレーニング（笑）。

——ワハハハハ！　ベリーグッドなんですか（笑）。極真の第2回世界大会の時のウィリーさんはパワフルでしたよ。

ウィリー　もうみんな忘れてるさぁ（照）。急にオレが表舞台から消えたと思ってるだろ

黒崎先生を特集した『ゴン格』。極真の"鬼"と言われた猛者だ

日本料理は好きさ。キムチはたくさ～ん食べた（笑）

うけど、あの頃は子供が生まれたばかりでそちらを優先させたんだ。だけど、いまは子供も成長したし、離婚もしたから自由だ。ガッハッハッハ！

——ワハハハハ！ そうなんッスか。実はボクも離婚歴あるんです（笑）。

ウィリー （満面の笑みで）オッケー！ ワッハッハッハ！

——猪木戦前には山篭もりをしましたけど、どんな生活だったんですか。

ウィリー ミスター・フジワラ（藤原敏男＝トシちゃんの愛称で親しまれる元ムエタイ王者。黒崎先生の弟子）とトレーニングしてテクニックを学んだり、センセイ・クロサキからは「藤原のスピードとテクニックを身に付けろ」と言われたよ。

——昔の雑誌を見ると、そういうトレーニングのほかに、釣りをしてる写真もあったんですが、山篭り中でもオフはあったんですか。

ウィリー イエ～ス。リラクゼーション（笑）。コイが釣れたよ。それをミスター・フジワラと一緒に焼いて食べたよ（笑）。（魚を両手で掴むフリを入れながら）ガッガッガッだ。ガッハッハッハ！

——食料調達も兼ねてたんですか。ホントの山篭りだ（笑）。

ウィリー イエ～ス。イエ～ス。イエ～ス。グッドデイズ＆グッドタイム（笑）。釣りは大好きだ。料理も得意だぞ。アメリカでは自分で料理してるんだ。

——まぁ、離婚してますからね（笑）。

ウィリー ノー・ウーマン！ 一人で料理して一人で食べて。ノォー（笑）。

——わかりますよ、その気持ちは（笑）。ところで何を作ってるんですか。

ウィリー ギョ～ザ（日本語で）。

——なんでだ（笑）。

ウィリー 勉強したんだよ。肉とガーリックとショウガと野菜を入れて。（フライパンを振る手つきをして）シャー！ シャー！

——はいはいはい。それにしてもジェスチャーが多いですね（笑）。

ウィリー イエ～ス。ゴマ油とソイソースで食べるんだ（笑）。

——凝ってますねぇ（笑）。

ウィリー ア～ンド・ライス！

——え！ ご飯を食べてるんですか。

ウィリー イエ～ス！ 昔、日本人と中国人のハーフの人がシゲル師範の運転手をしてたんだ。彼から料理を習った。エブリナイト・クック・イン・ドウジョウ（道場）。日本料理は大好きさ。キムチはたくさ～ん食べたよ（笑）。

——キムチって（笑）。ギョーザは最高でどのくらい食べたことありますか。

ウィリー 75個だぞ（笑）。

——え！

ウィリー セブンティーファ～イブ。ガッハッハッハ！ 池袋のサンシャインの近くのアパートメントに住んでる時に世話してくれる人が作ってくれたよ。稽古が終わってアパートに戻るとメニー、メニー、ギョーザ（笑）。

——いやぁ、抜群ですね、ウィリーさんは（笑）。

ウィリー 夜になるとセンセイ・クロサキがやってきてナベ料理ね（笑）。ビッグなナベにドンドン入れて、食べても食べても減らない。「ノー！ ノー！」と言ってもセンセイは「モアモア！ スモウ・パワー！ チャンコ・パワー！」って（笑）。

——昼は餃子で夜はチャンコ（笑）。そういう楽しくて厳しい食生活も乗り越えて猪木戦を迎えるわけですが、闘ってみて猪木さんについてどんな印象を持ちましたか。

WILLY WILLIAMS

ウィリー ミスターイノキは頭がいい。テクニシャンでスマートだった。試合前は殺してやろうと思ってたよ。「キョクシンが〝一番〟」を守るために闘ったのさ。オレはアメリカ人だけど、カンチョウ（館長＝故・大山倍達極真会総裁）みたいなファイターになりたいと思ってきたよ。サムライになりたいと思っていたんだ。

——そうすると猪木さんに勝てなかったことはやっぱり残念ですか。

ウィリー イエス……。プレッシャーがいっぱいあったからねぇ。

——どんなプレシャーだったんですか。

ウィリー イノ～キのファンにオレのファン。……そしてカンチョウ！ シゲル師範！ センセイ・クロサキ！ 記者の人たち！ オー！ ノォー！ エブリバディ。ガッハッハッハ！

——大変なプレッシャーですね（笑）。

ウィリー （早口で）プレッシャー、プレッシャー、プレッシャー！ 勝て、勝て、勝て！ ハァー（両手を広げて）。道を歩いてもイノ～キのファンが攻撃してきたよ。タクシーに乗っても「ウィリーか！ 降りろ」って言われたよ。

——心を休めるヒマがないですね。試合の時も殺気だった雰囲気でしたし。

ウィリー イエス。やはり緊張したよ。イノ～キがオレの腕を取って伸ばしてきたのは効いたよ。

——腕十字ですね。猪木さんは折ろうとしてきたんですか。

ウィリー 腕が伸びてもオレはガマンした。そうしたら、さらに力を入れてきたよ！

——力のコントロールはしてるのかなって感じましたか。

ウィリー オレの腕は完全に伸びていた。だけど、イノ～キはもっと力を込めて腕を伸ばそうとした！ コントロールなんてとんでもない。モノ凄く痛かったぞ！

——あの時、かなり痛そうでしたもんね。

ウィリー　お互いに興奮していたから、仕方ないな。
――あの試合をいまはどう思いますか。極真を離れるきっかけにもなってしまいましたけど。
ウィリー　カンチョウはキョクシンのプライドのためにイノ～キと闘うことを望んでいたんだ。だけど、その時にカンチョウが言ったのは「イノキと戦いたいなら闘え。その代わりキョクシンじゃなくて自分の立場で闘え」と。カンチョウはカラテとプロレスのビジネスがミックスするのは好んでなかったな。しかし、オレはイノキと闘いたかった。どうなるか、試してみたかったんだ。だから、離れたんだ。もうやんなきゃいけない状況でもあったしな。
――闘いが終わったあと、プロレスについてどう思いました?
ウィリー　そのあと、マスクを被って試合してくれないかという話もあったぞ。だけどな、その時ちょうど子供が生まれて日本に長く滞在できなくなってしまったんだよ。
――奥深い人生ですね。話を戻しますが、猪木戦では梶原一騎先生が立合人をしていましたけど、なにかアドバイスはもらったんですか。
ウィリー　イッキ? オー! センセイ・カジワラ! リッチマン（笑）。
――ワハハハハ! そうです（笑）。なにかアドバイスはもらいました?
ウィリー　「お前はアメリカの考え方を捨てろ。日本の考え方を学べ」と言われたぞ。
――具体的にはどんなことですか? 梶原先生は〝あの試合は普通の試合ではなかった〟みたいなことを書いてるし、ボクも関係者から「実は猪木戦は大阪で、もう一試合やる予定だったらしい」って聞いたんですが。
ウィリー　（突然表情が固くなり）ノーコメント!! オレはキョクシンを捨てて人生を賭けた。ミスター・イノキもプロレスを代表した。オレたちはすべてを賭けた!!

イノ～キは伸びた腕をもっと伸ばそうとしたぞ!

――あの試合ぐらい見てるこっちがイキリ立つ試合はありませんでした。観客同士の喧嘩はあったし、極真側からはなにかあった時のための刺客がリングサイドに実際いましたし。あれこそ一番怖い真剣勝負でした! そういうこともわからずにゴチャゴチャ言うバカがいるからクソ腹が立つんですよ!
ウィリー　イノキはそんな中でオレの腕を折ろうとした! オレも一瞬殺そうと思った。
――凄いことですね。
ウィリー　（突然ニヤっとして）だがな。センセイ・カジワラがオレに言ったのは「日本食を食べて、日本の夜を生活を知れ」だぞ（笑）。ガッハッハッハッハ!
――うわぁ、梶原先生とゴージャスなる晩餐を楽しんだんですね（笑）。

99・11・23横アリで非道と対戦したウィリー。腕十字で1度エスケープするも見事にKOする。味のある試合運びに脱帽!

ウィリー　イエ～ス! グフフフフ! ナイトライフ（笑）。
――どんなナイトライフだったんですか（笑）。
ウィリー　スリープ! グフフフフ。（なにかをダッコするように手を抱えて）ア・ロット! ガハハハハハハ!
――ワハハハハ! 最高です（笑）。
ウィリー　ファンタスティック! 日本のウーマンはウォリアー（笑）。
――ワハハハハ! 熊とどっちが強かったんですか（笑）。
ウィリー　（即座に）ウーマン! もう疲れたぞ（笑）。ガッハッハッハ! マンの中ではイノ～キも凄かったし、ミスター・マエダ（前田日明）もテクニックがあって強かった。あとはマエダの弟子で背は低いけど、がっちりしたヤツがいただろう?
――成瀬昌由さんですか?
ウィリー　オー! イエ～ス! ナルセが一番タフだったよ。一番アグレッシブでタフなヤツだったよ。オレをロープの外に投げたことがあるんだぞ。試合の思い出だと、オレの歯が舌に突き刺さった試合だな。試合のあとに抜いて、アメリカに持って帰ったよ。いい思い出の品だ（ニッコリ）。
――こちらの方こそ、いい思い出をありがとうございます。ってまだ現役ですもんね。これからも頑張ってください。
ウィリー　フン!フン!フン!（軽くシャドウをして）ウォース（笑）。
【99・11・22都ホテルにて】

コイツが非道にあっさりKO負したタレック・パスカ。いいツラだ

WILLY WILLIAMS

No.23 CONTENTS

紙のプロレス RADICAL

↓「大刀光」と聞いただけで胸がトキメクでごわす!!……(byスモーノブ)

Art Director
出田さん●San Ideta
Design
Two Three
ヒサくん●Kun Hisa
マツ●Matsu
村松さん●San Muramatsu
セッキー●Sekky
グッチー●Gutty
Saotome no jimusho
トメオ●Tomeo
ハナエ●Hanae
Cover Model
小川直也&村上一成
前田日明 高田延彦
大仁田厚 エンセン井上
アントニオ猪木
Cover Photo
斉藤ユーリ●Yuri Saoto
森モーリー鷹博●Takahiro"Morry"Mori

※RADICALとは何か? 「根源的」、「根本的」って意味なんじゃーッ!!

遅ればせながら

'99東スポ・プロレス大賞に異議アリ!!

大人げないけど

ノー権威

という訳で……

『紙プロ大賞'99』発表!!

構成／堀江ガンツ
text by Gunts

オーちゃんプロレス大賞MVP落選！　オイオイオイオイ冗～談じゃね～よ～。選考委員の皆様目を覚ましてくださ～い！　という皆様のニーズに応え、本誌も勝手に『紙プロ大賞』を発表させていただきます。ではどうぞ。

MVP

ヘビー級　**小川直也**

ミドル級　**桜庭和志**

ベストバウト

桜庭和志 vs ホイラー・グレイシー

（11・21 有明コロシアム）

以上!!

プロレス界で最も権威のある賞として、歴史と伝統がある東京スポーツ「プロレス大賞」。その選考には東スポ記者のみならず、広く専門誌編集長、評論家らプロレスマスコミ界の大御所22名が集まり激論を交わして決定される。しかし、近年はその受賞者たちの顔ぶれがファンの感覚とズレが生じてきたという意見も多い。そこで本誌では遅ればせながら東スポプロレス大賞に異議申し立てをしたいと思う。破壊から創造は始まる。ツーサウザント!!　というわけでノー権威！『99紙プロ大賞』スタートです。

［選考委員］
●山口日昇　●松澤チョロ
●吉田 豪　●大西タマリン
●スモーノブ　●中村カタブツ君（36歳）
●堀江ガンツ

★★★★選 考 V T R ★★★★

【MVP】

注目のMVPは第一次投票から波乱続出。まず東スポ大賞で無敵の二冠を受賞した武藤は「プロレスを守ったってことなんでしょうけど、ホントに守ったのはサクですからね」（豪）と投票ゼロで早々と脱落。そのかわり「やっぱりロック様でごわす！　あのモミアゲはジェシー高見山関の次にかっこいいでごわす」（スモー）、「ヒクソンですよ。あの幻想の壊れっぷりは凄い」（ブチ）「ネットで『カタブツ幻想は崩れた』って書き込みがあったり、ロフトプラスワンで喋れなかったり、ブチの幻想も順調に崩れてるけどね（笑）」（豪）、「ケビンさんがいなかったら2・21は（遠くから見たら）まるでカレ

『紙プロ大賞』選考委員の極私的プロレス大賞

山口日昇

MVP
ヘビー級 **小川直也**
ミドル級 **桜庭和志**
★
ベストバウト
桜庭和志vsホイラー・グレイシー
（11・21有明コロシアム）
★
笑ってたで賞
Show
プロレスラーの鏡で賞
アレクサンダー大塚

笑ってたでＳｈｏｗ！　なーんつってな。道はどんなに厳しくとも、笑いながら歩こうゼ――ッ！前田狙撃事件でのＳｈｏｗの笑顔はホント時間に劣化されないよな。（日昇談）

吉田 豪

MVP
ターザン山本
★
ベストバウト
小川直也vs橋本真也
（1・4東京ドーム）
★
裏ベストバウト賞
ターザン山本vs吉田豪
（ロフトプラス1）

ターザンから電話があって「ＭＶＰはオレですよ～！」って言ってたから（笑）。あと裏ベストバウトは須田君と黒須田君が米屋ぐらい頑張ってくれたら表ベストバウトだったのに。（豪談）

スモーノブ

MVP
ザ・ロック
★
ベストバウト
シャドウWXvs山川竜司
（5・30新川崎）
★
スクラップ&ビルド興行賞
11・23 FMW横浜アリーナ

は～どすこ～い、どすこ～い。ＦＭＷの横アリは本場アメリカのプロレスを日本風味にブレンドした全く新しい異質なプロレスを作りだしていたでごわす。（スモー談）

松澤チョロ

MVP
キャプチャー
★
ベストバウト
マンゲルvsクーガーvs水前寺vs相島の4WAYコーナー
（6・5中間）
★
象印賞
タノムサク鳥羽

ＭＶＰはキャプチャー！地下室にはギャラ以上の試合をしてしまう不思議な力が働いているから。それとタノムサクといえばムエタイ、タイといえば象！（弱火）

大西タマリン

MVP
SASUKE
★
ベストバウト
五味隆典vs桑原卓也
（3・28後楽園）
★
何か賞をあげたい
ヨネ原人

ただいま締め切り当日の早朝。徹夜明けのタマリンに選考理由を聞いてみたら「ハイ、SASUKE見たいデス」と言ったきり、死んだように眠ってしまいました。

中村カタブツ君（36歳）

MVP
ヒクソン・グレイシー
★
ベストバウト
ブラット・コーラーvs山本宜久
★
リアル・アニマル・ウォリアー賞
チョロ

時代はウォリアー！ヒクソンもウォリアー、コーラーはセコンドがウォリアー、でもやっぱりチョロが一番のウォリアーだよ。普通カメラが回ってたら勃たねえよ！ボクはそうだったもん。（談）

堀江ガンツ

MVP
ケビン・ヤマザキ
★
ベストバウト
前田日明vsアレキサンダー・カレリン
（2・21横浜アリーナ）
★
助演男優賞
高橋義生

やっぱり99年は船木選手も全幅の信頼を置く高橋選手の年でしたね。最優秀アシスト賞、ベスト・スマイル賞と合わせて3冠王と呼んでもいいですよ。まさに格闘スマイル！（談）

リン対ダスティ・ローデスを見ているかのようになってたかもしれないんですよ！」（ガンツ）、「99年に一番プロレスしたのはターザンだよ。裏切り、乱闘、破局、イメチェン……レスラーよりレスラーらしい」（豪）など東スポ大賞にはかすりもしなかったメンバーが続出。結局「真面目な話。ＭＶＰっていうのはその年の顔でしょ？　だったら決まってんじゃねえか。ヘビー級・小川直也！　ミドル級・桜庭和志！　以上！」（日昇）強権発動でアッサリ決定。

【ベストバウト】

武藤、三沢、小橋というメンツはまたもや不思議なことにエントリーされず。全員が違う試合をノミネートするという大混戦。「『せかプロ』の4ＷＡＹコーナーですよ！　あそこまでハチャメチャな試合はない。一方では大流血、自殺ダイブ、空中戦が同時に行われる豪華さで、ギャグではなくボクは全団体総4ＷＡＹコーナー化を望みます」（チョロ）、「冷静に考えたら1・4だと思いますよ。ビデオで見返した回数、人に見せた回数、リング上だけじゃなく、リング外の乱闘も込みで、ビデオを見る度に新たな発見がある」（豪）「でも歴史に残るっていう意味でサク対ホイラーははずせないだろ」（日昇）。またもや強権発動で『紙プロ大賞』2賞は決定。授賞式等は一切ありません。ではまた来年までサヨ～ナラ～。

紙プロにも噛みつきますよ!!

2000年一発目
だから、もう一度
プロレスマスコミに

ターザン山本のRADICAL版

プロレス雑誌大戦争

年明けといえば新年会である。楽しい宴の席には、芸をやって盛り上げてくれる人を呼ぼう！　というわけで、超お久しぶりこの上ないスペシャル・ゲストが座談会にやって参りました！

自称・大道芸人　ターザン山本！

昨年は、本誌の誌面よりも、イベントへの登場が多く、出てくる度に吉田豪を殴ったり、頭を金髪に染めてみたりと何かしらと事件を起こしてくれた。

だが、いろいろと『紙プロ』と遊んでくれたわりには、誌面にほとんど登場しなくなってしまったのは寂しい限り（えっ、そうでもない？）。というわけで、久々に登場です！

今回の座談会のテーマは、2000年代一発目ということなので、パーッと景気よくマスコミ批評でもしてみますかーッ!!（なぜだーッ!?）。今年も最初から爆弾を投下し続けます！

山口　さあ、今日は新年会なんで、景気良くいきましょう！　というわけで、『ターザン山本のラジカル版プロレス雑誌大戦争』ということで、最近のプロレスマスコミをズバッと斬っていただきたいことこの上ない（笑）。

ターザン　最近は、どこに行ってもさあ、話しかけられるたんびに、「いまの『週プロ』はつまんない」って言われるのが、あいさつ言葉になってるんだよなあ。でも、それを言うと、いまの『週プロ』の人たちは固くなっちゃうんだけどさあ。でも、いかに俺がやってた頃の『週プロ』がすごかったっていうのが、今になってみてよくわかるんだよなあ。ああいう雑誌があったこと自体、奇跡的なことだよ。他のジャンルでもないよね。

豪　いまの『週プロ』がダメな分だけ、ターザン山本幻想がドンドン高まってきてるような気がするんですよ。

ターザン　そう、高まってきてさあ。だから俺……モテるんだよお～！

豪　なんですかそれ（笑）。

山口　モテますかーッ!!（アントン調）。

ターザン　モテるよォ！　この前も新日のドームで、35歳ぐらいの子連れの人がいて、いかにも話したそうなんだよ。それで、「何してんの？」なんて話かけたらさあ、「10代のころ読んでました」なんて言われて。ほら10代っていうのは人格形成の時期だから、ずっと引きずるんだよね。その人としばらく話して別れた後、今度は彼がビールを持って来て、「飲んでください」って言われて、俺さぁ、ビールをもらったよ。

豪　また「ごっつぁん」ですか（笑）。

山口　よっ！　全身ごっつぁん体質！

ターザン　キミたちはほんと俗っぽいねえ。人が良い時間を過ごさせてもらったお礼に持ってきてくれたものなんですよォォォ！　だって東京ドームのビールは800円もするんだよ！　オレはそのとき体調悪くてビール飲める状態じゃなかったけど、全部飲んだんですよォォォ！

豪　おお、それは男ですねえ。

ターザン　そのダンディズムをわかってほしいねえ。ダンディだろ？

豪　間違いなくダンディですよ！

ターザン　映画のワンシーンのようだろ？

山口　おっしゃってる意味がまったくわかりません（笑）。

ターザン　なるよォ！　ショートショートのワンシーンにはなるだろう。

豪　それ映画じゃないですよ、ショートショートって（笑）。

今『週プロ』やってる人たちが10年後、読者にごっつぁんしてもらえるか!?

昨年のターザンは浅草キッドのプロデュースによって、見事なまでの全身・大道芸人として蘇生した。こんな54歳は世界中どこにもいないぞ！

山口　星新一じゃないんだから。

ターザン　でもこれはやっぱり『週プロ』でやってた財産ですよォ。たとえば、いまの『週プロ』をやってる人たちが10年後にごっつぁんしてもらえるのか？ってことだよ。

豪　「お前ら、オレみたいにごっつぁんできるのか？」と（笑）。

ターザン　「ごっつぁん」っていうのはその人に対するリスペクトもあるだろうし、価値を認めてくれてるんだろうし、読者との距離が縮まってるとか、いろいろあるんだよねェ。

豪　「佐藤ちゃん、飲んでくださいよ」ってことがあるかってことですよね。

ターザン　そう！　しかも800円もするビールだよ！

豪　まあ、ゴッチイズムならぬゴチイズムということで（笑）。

山口　うまいね、どうも（笑）。さ、くだらない話は置いといて、本番行きますか。

ターザン　だから、一番良くないと思うのはいまの『週プロ』の浜部編集長が言った、「クラスマガジン」という言葉なんですよ。

豪　あの言葉は腐ってますよね（笑）。

山口　しかも、最近は『格闘技通信』でも同じことを言ってますからね。

ターザン　その言葉を聞いたときは、オレのやってきたことが全部否定されて、後ろから辻斬りされたような気分になったよ。「オレがいままでやったことは何だったんだ？」って、バタッと倒れた気になったよお。

山口　ナウマン象のように倒れたんですね（笑）。

ターザン　オレは死んでも「クラスマガジン」なんて言葉は書かないもん。

豪　そもそも差別用語みたいなものだし、自分を卑下してるだけですからね。

山口　山本さんから見て、最近の『週プロ』はダメ？

ターザン　それはもう、3年ぐらい言い続けてるからねえ。もう言うこともないよ。ただ、最大の失敗だと思ったのは市瀬（英俊・当時の『週プロ』記者）を編集長にしなかったことだね。彼を編集長にするための体制作りをしてから辞めればよかったとは思ってるけどね。ただ、オレも「まあいいや」って思っちゃう性格だからさあ。でもそれじゃダメだったんだよなあ。もっとさあ、雑誌を良くするために誰々を切るとか、やっておけばよかったなあ。

豪　切る！　シビアな話ですねえ（笑）。

山口　新年会らしからぬ物騒な話になってきたぞ（笑）。

ターザン　結局、市瀬は僕に殉じて辞めたよな。あいつも他の世界でやっていけるっていう自信があるからさあ。だから、いま『週プロ』に残ってるのは

ターザン山本

元・『週刊プロレス』編集長、現・葛飾の素浪人。昨年は新年早々馬場さんの死と失恋という大事件が襲い、それによって精神がノーフィアー化。「浅草お兄さん会」でのフリ◯ンを始めとし、大道芸人としてブレイク。遂には民放テレビ番組にまで進出。そこで共演したアイドル、金沢あかねちゃんと酒井若菜ちゃんが気に入り、すっかり夢中になる。さらには本誌・大西タマリンもお気に入り。同伴プロレスの機会を虎視眈々と狙っている。

山口日昇

本誌鬼畜編集長　入稿前になると3時間に一度は食事をしないとガス欠を起こしてしまうという、アメ車を超える燃費の悪さをもつ。昨年末は「99みちのくプロレス大賞」で最優秀脚本賞を受賞。36歳にして生まれて初めて盾を贈呈され、これがことのほか嬉しかったらしく、来客がある度に見せびらかしている。このため近頃の口癖は「打倒、内館牧子！」。さらに「今度は脚本だけでなく、監督もやって映画を撮る！」と新春らしく未果てぬ夢を口にした。

吉田豪

本誌スーパーバイザー　正月は岡山に古本買いだしツアーに出かける。この旅行ですっかり早寝早起きの習慣がついてしまい、最近は夜11時を過ぎると電池切れをおこし、12時以降は起きていることが不可能となる。そのため本人は頑なに否定するが、本誌編集長には「豪ちゃんもついにそういう年にになったか、オレも豪ちゃんぐらいの年から無理が利かなくなった」と年齢による体力の劣れを指摘されたギリギリ20代の金髪鬼。

いま『週プロ』に残ってるのはクラスマガジン人間だけですよォ～！

クラスマガジン人間だけですよ！　オールクラスマガジン人間ですよォォォ～！

山口　ガハハハハ！　いや、それは言い過ぎでしょう。

ターザン　だって自分で言ってるじゃない！　Tシャツ作れよ！　「クラスマガジン人間」っていうヤツ！

山口　ガハハハ、それはバッグンです！

豪　ぜひとも、ボクらが作ってプレゼントしましょうか（笑）。

ターザン　しかしひどい対談だな、こりゃあ（笑）。でも、だから僕はさっき言ったように、少年たちの人格形成に接触できたっていう、業界の一ジャンルなのにそれが可能になったというのがすごいことだと言ってるわけだよ。自分の口から言ったらおしまいだけどな。

山口　山本さんは、自分の口からしか言わないじゃないですか（笑）。

ターザン　だって俺しか言わないから（キッパリ）。

山口　ガマンが足りませんよ。馬場イズムが足りないですよ（笑）。

ターザン　いや、結局、他人が言わないから、誰も言わないから俺は言語を使って、鍛え上げられた定義王になったんだよ。だから今の『週プロ』がみずから「クラスマガジン」と言ってしまったことの段差があるんだよ。

豪　2、3段下がりましたね、確実に。

ターザン　これを『ゴング』が言うんならいいんだよ。でも、『週プロ』が言っちゃったらさあ。

山口　そこから考えると、今は『週プロ』と『ゴング』に差がないってことになりますよね。

ターザン　あの頃の『ゴング』はさあ、オレのやってることをすべて否定して、あらゆることに対してアンチを唱えるということをやってたわけ。これは、オレのやってることを研究しつくしてないとできないことですよォ！　それが今は、僕がやってきたことがすべて『ゴング』に移ってきちゃって、雑誌の作りが『週プロ』的になってる。それで、いまの『週プロ』はオレを否定しようとしてるわけ。これはオレに呪縛されてるってことなんですよ。呪縛されてるっていうのは負けてるってことなんだよ。だから、わけのわからない方向性になって、迷い子みたいな雑誌になってきてるんですよ。要はダッチロールの世界ってですよォ。

豪　それが『ケンファー』の恥ずかしい表紙になっていくわけですね。

ターザン　そう！　『ケンファー』＝ダッチロールですよ！

山口　ダハハハハ、あれじゃダッチワイフにもなりゃしない。あっ、こんなこと言っちゃいけねえか（笑）。

ターザン　だって、『ケンファー』はビジュアル誌なわけでしょう。その表紙に内舘（牧子）さんはないだろう！

豪　出してもいいけど、あれはモノクロですよ。蝶野もちょっと困った顔してますよね。

ターザン　俺だったら、蝶野と酒井若菜を持ってくるよォォ！

豪　ダハハハハ。それはただ山本さんが好きなだけじゃないですか（笑）。

ターザン　むちゃくちゃ好きだよおー。あんなにかわいくて、あれだけ田舎っぽい味を持ってて、日本的なハニワのような顔で、そのイメージのギャップのすごさの象徴のような巨乳ね！　ほんとにもう全身……（絶句）。

豪　なんで恍惚とした顔してるんですか（笑）。

ターザン　もう目から鼻から耳から全部勃起しちゃうよお～。俺はほんとに酒井若菜ちゃんと金沢あかねちゃんはほんとに好きだよお～！

豪　まあ今年の夢は彼女たちとスキャンダルを起こすことですからね（笑）。

ターザン　だから、編集長になったらさあ、自分の好きな女の子とレスラーを対談させちゃえばいいんだよ。俺だったら絶対やるよォ（キッパリ）。

山口　素直だなあ（笑）。確かにプロレスマスコミってそういうことやらないですよね。

ターザン　遊びがないよ。

山口　なんか、全部ニーズのせいにしてますよね。

ターザン　ニーズというのはそこに漫然とあるものじゃなくて、自分で発見するもんだよ！　クリエイティヴなニーズじゃないと。

ノブ　（唐突に）ところで、去年は『SRS　DX』が創刊されましたね。

豪　『SRS　DX』が出たことで、山本さんの比重が『必殺！　プロレス激本』から『SRS　DX』に傾いてきたと思うんですよね。

ターザン　だって、編集長のサダハルンバ谷川と発行人の柳沢忠之は、オレのことを全部知り尽くしてるから、うまく扱ってくれるわけよ。ブタもおだてりゃ木に登るじゃないけど、オレはおだてられたらドンドンいっちゃう人間だからさあ。その辺をわかってるんだよ、あの2人は。『激本』はおだててくれないからなあ（キッパリ）。

豪　扱いがヘタですよね、『激本』は。

ターザン　だって俺、谷川と柳沢が相手だと、天まで昇りっぱなしだもん。

豪　ダハハハハ！　絶頂ですか（笑）。まあ、『激本』のスタッフだと何でも神妙に聞いちゃいそうですからねえ。

山口　でも「山本さんは『SRS　DX』で生き返った」っていう声は多いですよ。

ターザン　あれも結局のところ、巻頭で理屈書いても今は誰も読まないよ。対談になってるから読みやすいしさあ。あの対談も落語みたいなもんだよ。

豪　山本さんは与太郎ですか（笑）。

山口　落武者で与太郎なんだ（笑）。

ターザン　（無視して）まあキャラクターになってるからいいよね。今の若い人にはキャラクターにならないと認知されないからね。

豪　もうなにやっても許されるキャラになってますもんね。

ターザン　それをやってくれたのは浅草クッドだよ！

山口　「キッド」ですよ（笑）。

豪　噛んでますよ（笑）。でも、それだけ感謝してるくせに、最近までどっちがどっちだかわかんなかったらしいですね。

ターザン　そうそう（笑）。で、キッドが俺を舞台の上でフルチンにさせたり、オムツ履かせられたりしたじゃない。あれからなんか吹っ切れるようになったなあ。でさあ、舞台から客席見たら若い女の人ばっかりなんだよ。それで俺はオムツ履いてるわけだから、こんな格好させやがってって思ったんだけど、みんな笑ってるから「あ、受けてるんだな」と思ってねえ。

豪　受ければガンガンいくわけですね（笑）。ノブも最近、オムツ履いて素っ裸にされたりしたんですけど、全然ウケなかったんですよ。

ターザン　やっぱり素材の差だな（キッパリ）。

豪　そうきますか（笑）。

ターザン　遺伝子の問題ですよ！

山口　ちなみに『SRS　DX』は頑張ってるほうですか？　山本さんから見たら。

ターザン　俺が頑張ってるんじゃないの？

山口　まだ自分のこと言いまくりますか（笑）。

豪　だって、表紙のコピーも山本さんが考えてるんですよね。

ターザン　編集長だったら、普通そこは自分でやるでしょう。でも、なんか急に谷川から電話来て「表紙のコピー考えてください」って言うからさあ。でも最初は俺はからかわれてるのかなって思ったんだけど、また電話かかってきたからこれは本気だなと思ってさ。でもそれだったらオレは自分で写真も選びたいんだよな。

豪　ああ、確かに写真は弱いですね。

インターネットの普及やスポーツ新聞がプロレスに紙面を割き始めたことで岐路に立たされたプロレスマスコミ。果たして、どこが勝ち残るのか？

ターザン　ほんっとに、あの写真はぜっんぜんダメだあ～！　コピーがまったく活かされてないよォォ。

豪　気持ちはわかりますよ。でも、そこまで口出したら山本さんが編集長になっちゃいますからね。

ターザン　それもわかるよ。それやったら完全に越権行為だから。まあ谷川と柳沢の遊び友達みたいな感覚で関わってるから。でも今やターザン山本が編集長だみたいなことも言われはじめてるんだよね。でも谷川は、打算抜きで俺の才能を買って頼んできてくれてるんだなと、いいように解釈して、最近じゃもう嬉しくなってきて、ホイホイ引き受けちゃうんだよ。

豪　まあ、いいように解釈した方が楽しいですからね。

山口　いいようにしか解釈出来ないんだよ。

ターザン　でも、あの対談をよく見たら、オレは彼らが言いたいことを柳沢に言わされてる形なんだよな。でも、それも俺のキャラクターあってのものだから、そういう形でも、オレがフライングして、みんなの言えないことをどんどん言っていこうと思ってるわけだよ。オレってほんとに頭いいよなあ～。

豪　ダハハハハ！　自分で言いますか（笑）。

山口　あくまで自分が一番！　ってことですね（笑）。

ターザン　あと俺はさあ、書く人と編集する人の両方の気持ちがわかってるじゃない。そのあたりのバランスがさあ、いいんじゃないのかあ。

豪　でも、山本さんがその姿勢だったから、昔、『週プロ』の浜部さんが、「紙プロは、山本さんにウチ（＝『週プロ』）の批判をさせてる」って言われたりもしたんですよね。表紙批評（※その月に出た週刊誌の表紙をターザンが採点していた）のコーナーで。

ターザン　あのコーナーは受けたんだよなあ（しみじみと）。

豪　もともといまの『週プロ』がダメだっていう共通認識があるから、そこで山本さんがああいうことをやれば、負けようのないジャンケンみたいな状態ですもんね。

ターザン　そうそう！　それで、ファンの溜飲を下げると同時に、あの批評は実に理にかなってるから、読者もなんか学んだような気になるわけ。目から鱗なわけですよ。

豪　そうしたら読者もそのパターンを覚えて、「今回の表紙は甘い」とか言ってくるようになったんですよね。

ターザン　そう！　言ってくるんだよォ！

山口　言ってきますか！

豪　山本さんの遺伝子を勝手に受け継いで（笑）。

ターザン　受け継いでるのか、何かテクニックを身につけた気になってるのかわからないけど、言ってくるねえ（嬉しそうに）。

山口　そういう山本さんから見て、今の『週プロ』の表紙はダメですか？

ターザン　いや、表紙というよりもオレは今の『週プロ』と『ゴング』でいちばんダメだと思うのは、試合レポートを誰も読んでないっていうことだな。

山口　誰も、と言い切るところがいいですね（笑）。

ターザン　だから『ファイト』なんかだと、ほとんど外野ネタかインタビュー中心で構成してるからね。『ゴング』も一緒ですよ。いま、試合レポートは誰も読んでないでしょう。

豪　確かにビッグマッチぐらいですかねえ、まだ読むのは。

ターザン　ビッグマッチにしても、多角的に分析してあらゆる角度から複数の人間がレポートしないと。なんかさあ、ひとりの人間がさあ、まったく手垢がついたようなタイトルとコメントをつけてね、がんばれとか名勝負とかさあ、女子プロのページを見るたびに吐き気がするんですよォォォ！

豪　吐き気ですか！

ターザン　とにかく試合レポートなんか誰も見てない！　だって東スポとかニッカンとか日刊紙がどんどん出てきてて、インターネットもあるし、衛星放送もあるんだから、すぐに試合結果なんてわかるじゃない。どうでもいいわけよ！　それ以外で楽しませることができなきゃダメなのよ！　試合観に行って、試合経過を書いてコメントを書いて、フィルムが上がってくるのを待って写真選んで、文章書いてタイトル書いてっていうのを、朝までやってるんだよ。ほんっっっっっとに人生のムダだよ！

山口　ガハハハハ！　クラスマガジン人間は人生をムダにしてましたか（笑）。

ターザン　徹夜するなんてムダだよ！　マージャンやってるほうが全然いいよ！　ただ意味のある試合は別だよ。あとはほんとにカタログ的に試合結果だけ載せとけばいいよ。

山口　それは『週プロ』が悪いんじゃなくて、試合レポートという形式そのものがもう古いということですね。

ターザン　そういうことです！　もう試合レポートなんてほとんど載せなくてもいいわけよ。

豪　『紙プロ』がやろうとしてるのは、そこですからね。

ターザン　もっと試合以外のプロレスの楽しみかたを教えていくようにしなきゃいけないんだよ。オレがいま編集長だったら、試合後のコメントは一切取るなって言うよ。自分の目で観て感性でキャッチして感じて書けるものがないから、実際の選手のコメントだけでドラマを作ろうとするんだよ。それはいちばんダメ！　本来試合というのはレスラーにとって作品なんだから、自分の作品の解説なんかしちゃいけないんだよ。これはある芸術家が、「我々が作品を作ったら、その作品にはもう一切関われない。意図した以外のことを受け手が過剰に誤解して解釈し、そのことによって作品をさらにグレードアップしてくれる」って言ってたんだよ。だから、良い意味での誤解とか記者が想像できないわけよ。俺は試合後のコメントなんて、取りに行ったことがないよ。

豪　とにかく自分のことは自分で語るな、と。でも山本さんは自分で自分のこと語ってますよね。

ターザン　それは、オレの言葉が面白いから（キッパリ）！

豪　ダハハハハ！　なるほど（笑）。

ノブ　（再び唐突に）ところで、山本さんは最近の『紙プロ』はどう思われますか？

山口　いい質問をするねえ。

ターザン　いいんじゃないの。

一同　ガハハハ！

ターザン　特に桜庭の表紙が良かったよお。ハッキリ言って、あのページ数であのカラーやったら定価は1300円だよ。今なんぼ？

豪　880円ですね。で、激本が980円だっけ？

ターザン　でも紙代やらなにやらを計算すると、880円っていう値段になるわけないんだよ。違う？

山口　いや、本当にそうですよ。

ターザン　編集長、さては趣味でやってるな？

山口　はい、趣味っちゃー趣味です（笑）。

ターザン　だって激本なんて、何10ページも少なくて980円でしょう。こりゃあ永久に『紙プロ』には勝てねえなと、俺は思ったよ。

豪　インターネットで「紙プロ！　お前らは俺たち読者に食わせてもらってんだぞ」ってことが書いてありましたけど、まったく食わせてもらってないですから。

ターザン　なぁにぃぃ～、それ書いたヤツ呼んで来いよ！

豪　呼んでどうするんですか（笑）。

ターザン　「アホか！」って言ってやるんですよ！　俺が事実を教えてやるよ！　バカか、ホントに！

山口　インターネットは呼べないんですよ（笑）。読者ハガキだったら住所か電話番号がわかるからいいんですけど。

ターザン　俺が説教してやるよ！

その存在が、すでに１つのジャンルとなっている前田＆猪木。業界全体を１人で引っ張ってくるだけのパワフルな人材は途絶えてしまうのか？

豪　いやあ、男ですねえ（笑）。

山口　ほんとメチャクチャだなあ（笑）。昭和のプロレスじゃなくて平成の幇間（タイコもち）だよ。

ターザン　この雑誌はさあ……（紙プロをブツブツ誉め続ける）

山口　なんかバカにされてるような気がしてきた（笑）。

ターザン　いや、山口さんはいいな。尊敬するよ。

山口　ガハハハハ！　嬉しいねえ、どうも（笑）。ターザン　ハッキリ言うよ！　山口日昇は編集長のなかの編集長だよ！

豪　そうでしたか！　つまり山本イズムを受け継いで……。

ターザン　そう！　山本イズムを受け継ぐ最大の人間だよ！

豪　それなんて言うんですかね。キング・オブ・ヤマモトシスト（笑）？

ターザン　…………。

山口　嫌だよ、そんなの（笑）。せっかくだから、これから『紙プロ』はこうしていったほうがいいっていうのを教えてくださいよ。

ターザン　…………。

山口　考えてる考えてる（笑）。

ターザン　……いや、言おうかどうしようか迷ってるんだよ、本人が目の前にいるから。（控え目に）そう、ノブの成長が見られない。

豪　そんなの、誰にでもわかってることですよ（笑）。

山口　もっとガンガン言ってやってくださいよ（笑）。

ターザン　いやあ、近くにいなければもっとガンガン言うんだけどさあ。

山口　変なところで、気ぃ使いますよねえ（笑）。

ターザン　直系の部下の地力不足がここにきて大きな問題になってるねえ。

豪　山本さんと一緒で、山口日昇は部下の育て方がヘタなんですよ。

ターザン　猪木さんも一緒ですよ。上司は好きなことやってていいんだよ。部下はそれを自分から追いかけていけばいいんですよ。でも、藤原喜明みたいなワンクッション的な存在は必要だけど。組織にはセメント参謀がいないとね。まあ単純に目の前の仕事が多いから、それをこなさなきゃいけないからなあ。でも俺は、大西（タマリン）さんは好きだねえ（しみじみと）。

山口　ガハハハハ！　いまの聞いた？

ターザン　なぜかというと女性だから。あ、だけどジャイ子はどうもね。

山口　山本さん、最高です（笑）。でもなんでダメなんですか？

ターザン　確かにジャイ子はデカいし顔も美人なんだけどねえ。

豪　うわあ、そうきますか（笑）。

ターザン　でも大西さんのほうが100倍いいな。

山口　大西さんとジャイ子の100倍の差はなんなんですか？

ターザン　だってなんかさあ、ジャイ子はグネグネしてて、軟体動物みたいなんだもん。あれはイヤだよぉ～。でも、豪ちゃんは男だけどオレの友達の中で3本の指に入る男ですよ！

豪　ダハハハハ！　光栄です（笑）。でも、ノブとかチョロとか、若い連中が育たないと問題なんですよね。

山口　驚くほどモノ覚えも悪いし、ぶくぶく太るヤツはいるし（笑）。

ターザン　でもまあ、村松（友視）さんが言ってるように、昔はプロレスというジャンルじゃなくて、猪木というジャンル、馬場というジャンルがあったんだよ。俺たちはそういう巨大な人間たちに育てられたわけ。だから、時代を背負うスターが出たときに、俺たち記者も育つんだよ。逆に言えば俺たちの側もレスラーを育ててないんだよ。

豪　なんか、最近はプロレス界が全体的に底下げされてる感じがありますからね。

山口　そういう個人がジャンルとして活きた最後の世代が前田日明だったんだよ。だから、ファンはいま団体という実体のないものについてますよね。

ターザン　だからさ、それは、レスラーという個人に育てられるっていうダイナミズムを体験してない

昨年は「オレは『全身ごっつあんです』だよ」とカミングアウト。ターザンのメシ、金、女への飽くなき欲望は男として見習うべき点が多い（見習ってはいけない点も多い）

激本はページが少ないのに高いこりゃ永久に『紙プロ』には勝てませんよ！

からだよ。体験する素材もいないんだから。やっぱり猪木さんを見てたら狂うもんね。俺たちの人生の幸福は、人生のうちでいかにパラノイアに出会えるかですよ。その時点で俺らはパラノイアに取り憑かれるんだよ。取り憑かれなきゃだめなんですよォォォ！（ドンドンドン！）。取り憑かれた人間だけが、言葉も生きてくるんだよ。前田なんて完全に取り憑かれてるじゃない？

山口 あのボキャブラリーは尋常じゃないですね（笑）。

ターザン 前田には他者が全然見えてないもん。そういう意味で取り憑かれてるということなんですよ。

山口 それで、山本さんに取り憑かれた佐藤ちゃんは『ケンファー』を作ったわけですね（笑）。

ターザン あれは、遺伝子の操作を間違ったんだねえ（しみじみと）。

山口 劣性遺伝子？（笑）。

豪 遺伝子組み替え失敗ですね（笑）。

ターザン 俺は仲人までしたんだから、最高の遺伝子を伝えたつもりだったはずなんだけどさあ。その後、俺も離婚してるからなあ。どっちも破綻してるんだよなあ。

豪 『ケンファー』のイベントに山本さんが出たじゃないですか。あれを伝える記事もつまらなかったですよねえ。

ターザン あれじゃあな～。ダメな編集長は、載せなくてもいいことを大きく載せて、載せなきゃいけないことを削っちゃうんだよな。これはリトマス試験紙だよ。

豪 ウチの編集部でもノブとかチョロによく同じこと言うんですよ。「なんでここをカットするんだよ」って。

ターザン それはその人の保守性みたいなものがそうさせるんだよね。革新的な人はヤバいことほど載せようとするんですよ。保守的な人は、ヤバいことを自然に消そうとするんですよ。

豪 チョロがやったNO．22のヤマケン・インタビューでも「金原さんは弱い外人とばっかり闘ってる」っていう発言を消そうとしていたんですよね。

ターザン 『紙プロ』の場合はそれを載せることを期待されている媒体だから、期待を裏切っちゃいけないですよ。

山口 その点、前田日明のインタビューなんて、本人がチェックして、付け加えますからね（笑）。ホント、編集の才能ありますよ。

ターザン あ、そう⁉

山口 的確な付け加え方をしますから。すごいセンスですよ。例えば「●●●●のバカが」っていう箇所があったら、「バカが」のところを削って、かわりに「●●●●の火事場泥棒が」って入れるんですよ（笑）。

豪 どんどんヒドい表現にしますよ（笑）。

ターザン ホントかぁぁぁ⁉ そりゃあ、才能あるねぇ。要はディテールを強くしてるわけだからね。

山口 もうね、並の作家や編集者じゃ絶対にかなわないセンス。

豪 僕のやったインタビューでも、さすがにヤバイなと思った表現を削ってチェックに出したら、前田さんがチェックしながら「こいつまとめんのヘタやな」って言ってたらしいですよ（笑）。

山口 越権行為もはなはだしいっていう（笑）。でも、前田日明との電話のやりは面白くてしょうがないんですよ。レスラーと編集者っていうより、作家と編集者の関係なんですよ。その反対に原稿チェックが面白くないのが●●ですよね。インタビューではムチャクチャ面白いけど、そういう発言が消えちゃうから、もったいないんですよね。

ターザン あ～、そう⁉

山口 それとは別の意味で才能があるのが佐山（聡）さんですね。見てるんですよ、原稿をちゃんと。でも、まったく赤がないですから。「なんでもいいで～す」って（笑）。それも巨大な才能ですよ。

ノブ （またもや唐突に）すいません、最後にひとつ聞きたいんですけど！ いまウチが新日と全日に取材させてくれって頼んでるんですけど、それは続けた方がいいですか？

ターザン やるべきじゃない！（キッパリ）。必要ない！ 他にどんなことができるかって考えたほうがいいよ。仮にOKが出ても、気を使った記事しか書けないから。別の必要性を考えたほうがいいよ。必要は発明の母というけど、猪木さんがそうだったじゃない。NWA世界チャンピオンに挑戦できないから、自分でIWGPを作ったりしたわけだから。新しい価値観を作るべきだ。

豪 なまじ中途半端にあるよりも、とっぱらうかガップリ四つに組むか、どっちかの方向性がいいわけですよね。

ターザン そう！ 組むんだったら得するものとことん組むべき。僕がUWFと組んだように。でも組まないと思ったら、それは完全に捨て去って、新しいものを創造するべき。これは猪木さんと同じで「持たざる者の強みを発揮しろ。そこに我々のクリエイティビティを持ったフィクションを作るパッションが、新しい雑誌を作り上げる」と、そういうことですよォォ！

山口 ガハハハハ！ 横文字並べすぎですよ。

約４時間かけて２つの座談会をしゃべり倒したターザン。世紀末を駆け抜ける金髪の落武者は、生き物としていま、狂い咲き満開状態である！

ターザン 持ってない者の強みという逆説を理解するんだよ。俺なんか正月を1万3千円で乗り切ったからなァ。ミレニアムのときに、手元に全財産として現金がそれだけしかなかったから。

山口 それは持たなさすぎ（笑）。

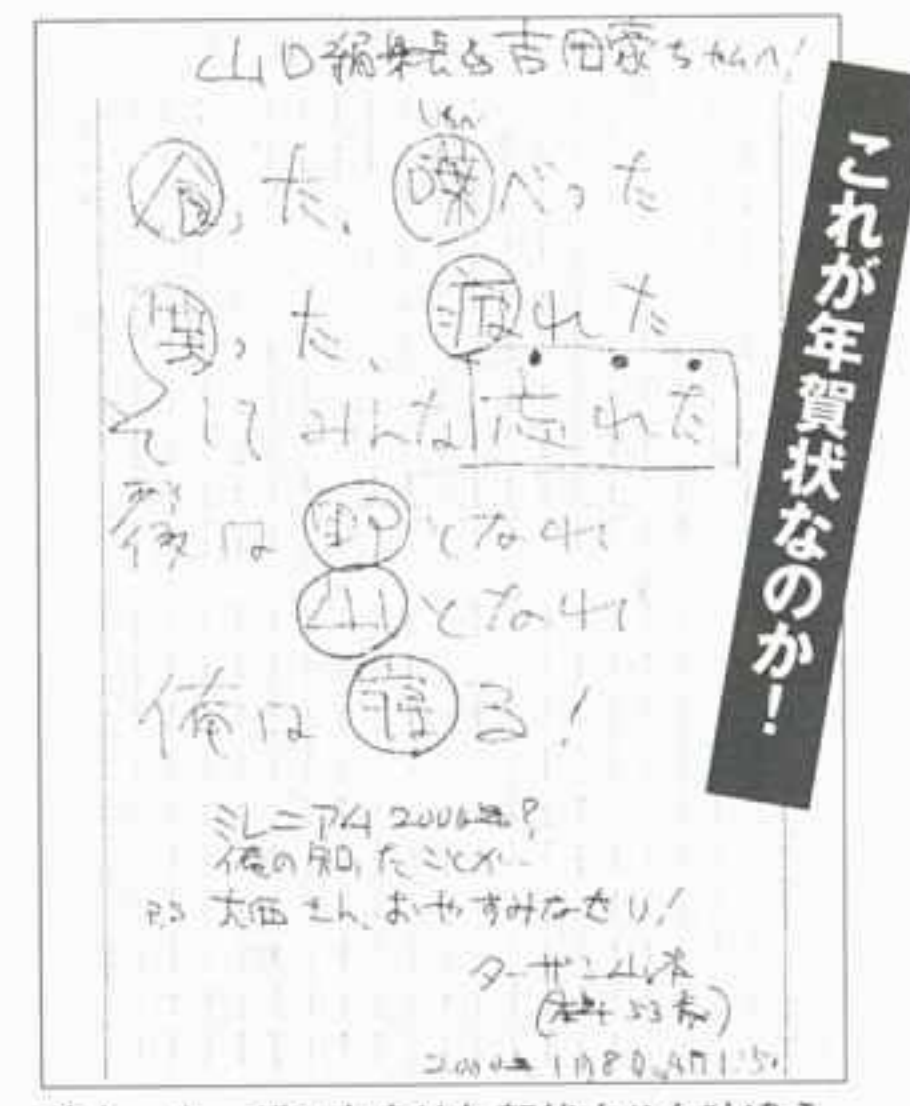
ターザン ノブはパラノイアになってないよ（モグモグ）。と、とりちゅかれて……。

山口 ご飯こぼしてますよ（笑）。

ターザン あ、あったかいお茶持ってきて～。

山口 ガハハハハ！ 抜群です！

※お座敷芸人ぶりを発揮して暴走を繰り返すターザン。マスコミ批評という本来のテーマからは脱線したまま、何の座談会なのかもわからずじまいだった。こんな調子で、P156からはジャイアント馬場一周忌追悼座談会になだれ込むぞ！ 神をも恐れぬターザンが、このままの勢いで馬場さんと全日本プロレスを語る！

これが年賀状なのか！

詩人・ターザン山本は年賀状もひと味違う。この座談会が終わった当日の夜ＦＡＸで送られてきたのがこれだ。おやすみ、大西さん。

追悼
ゲーリー・オブライト

"殺人スープレックス"よ永遠に――!!

元UWFインターナショナルの同志が語る

髙田延彦（髙田道場）

非常にビックリしました。彼はUインターから始まった選手だから、そういう意味では縁も深いからね。自分もタイトルマッチ（プロレスリング世界ヘビー級王座）を何回もやってるし。タフな選手だったのに、あっけないなっていう感じだね。非常に残念です。

裏情報ではバーリ・トゥードもやりたがってたという話を聞いてたんで、ボク自身も見てみたかったし、そうなったら面白くなるなぁと思ってた矢先のことなんで、そういう意味でも残念だし、人間としてもショックですね。

ゲーリーのスープレックスは、いままで受けたなかで最高級のスープレックスだったね。やられても超ド級のショックだったけど、見た目も綺麗だったでしょ。

受身が取れないから、何人リングで失神したか。僕もアイツに病院送りにされたし。横浜アリーナ（92・5・8）でやったときには、スープレックスで投げられたときに、ボトム・ロープに頭を打ちつけて、記憶がブッ飛んでしまって2日ぐらい入院したからね。「脳の腫れが取れなかったら手術だ」と言われてね。いまだから笑って話せるけど、相当キツイ思いもさせられたよね。自分も体験したあの驚異のスープレックスが、バーリ・トゥードのリングで見れたら面白いかなって思ってたのに、ホントに残念です。

歳は僕より1、2コ下くらいでしょ？　若すぎるよね。どういう原因で亡くなったのかよくわからないんですけど、事故だとしたら悔しいですね

田村潔司（RINGS）

う～ん……ショックの前にピンと来ないんですよ。知り合いの記者から一番最初に聞いたんですけど信じられなくて。ゲーリーとは試合でなんだかんだありましたから、そういうことも含めてなんともちょっと言いようがないですね、寂しいというか。やっぱり、実感がわかないんですよ。まだ、信じられないです。

思い出の中の赤鬼

宮戸優光（UWFスネークピット・ジャパン）

去年の暮れ、全日本プロレスの武道館大会（12・3）が終わった後に、ジムに電話を掛けてきてくれたんですよ。「今日帰るんだけど、来年の2月にはまた日本に来るから。そのとき、また会おうよ」って。「メシ食いに行こう」って約束したんですけどね。もう何年間も話してなかったのに、そんな電話がいきなり来てビックリしたんですよ。彼の中で、無意識に予期してたんでしょうか。

試合中の事故ということですけど、コンディションが悪かったんですかね？　彼はお酒が大好きなヤツで、どちらかというと不摂生でしたけどね。酒癖は悪かったけど、陽気で優しい男でしたから、一緒に飲む機会も多かったですよ。アメリカで、ボクとゲーリーと、ジーン・ライディックでビールをジョッキ78杯も飲んだことを思い出しますね。

田村選手との試合ですか？　あれはゲーリーも負けが込み始めた時期で、危機感があったんだと思いますよ。負けたくなかった、勝ちたかった試合だと思います。でも、いま当時の試合を見ると、彼の強さが出てますよ。前半なんて非常に有利なポジションを取ってましたからね。「田村を潰す」とかいう意識はなかったでしょう。そんな理由もないし。「自分がツブされるんじゃないか？」という恐怖感と、彼自身が闘ってたんだと思いますよ。

彼はホントに素晴らしい選手でした。彼なしに、Uインターの隆盛は築けなかったですよ。ボクにとっての友人であり、恩人でもありますから。レスラーとしても一時代を築きましたからね。幸せなレスラー生活だったんじゃないかな……いまは、ただ安らかに眠ってほしいと思います。

すでに様々な媒体で報道されているように、ゲーリー・オブライト選手が1月7日（現地時間）、義父アファ・ザ・サモアンの興行に参戦、試合中に対戦相手のエース・クラッシャーを食らい、帰らぬ人となってしまった。直接の死亡原因は不明だが、糖尿病を患って体調はあまりよくなかったようである。

"殺人風車"の異名を持つ脅威のスープレックスでUWFインターナショナルを席巻し、最近では全日本プロレスの強豪ガイジン選手として人気も実力もあった。その現役生活を振り返ってみると、非常に充実した幸せなプロレスラーだったと言えるだろう。

90年代の日本プロレス界の第一線を走り続けたゲーリーが日本でブレイクするキッカケとなったUインター時代の戦友であり、縁もゆかりも深かった3選手にコメントを頂いた。とにかく、陽気で、いいヤツで、それでいて強かった、そんなゲーリーのご冥福を心からお祈りいたします。合掌――。（本誌編集部）

ワールド メガ バトル
オープントーナメント

WORLD MEGA-BATTLE OPEN TOURNAMENT

KING of KINGS

世界最強の男はリングスが決める!

賞金総額50万ドル、優勝賞金総額22万ドル!
32名参加のオープントーナメントファイナル!!

GRAND-FINAL

チケット
絶賛発売中!!

2月26日(土) OPEN 14:30 START 15:30 **日本武道館**

入場料金

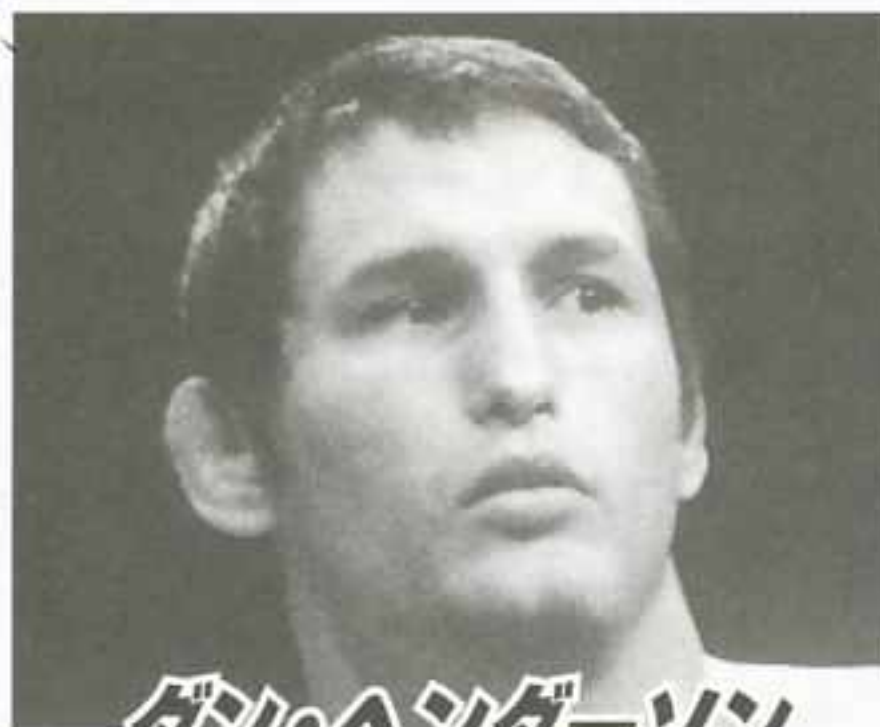
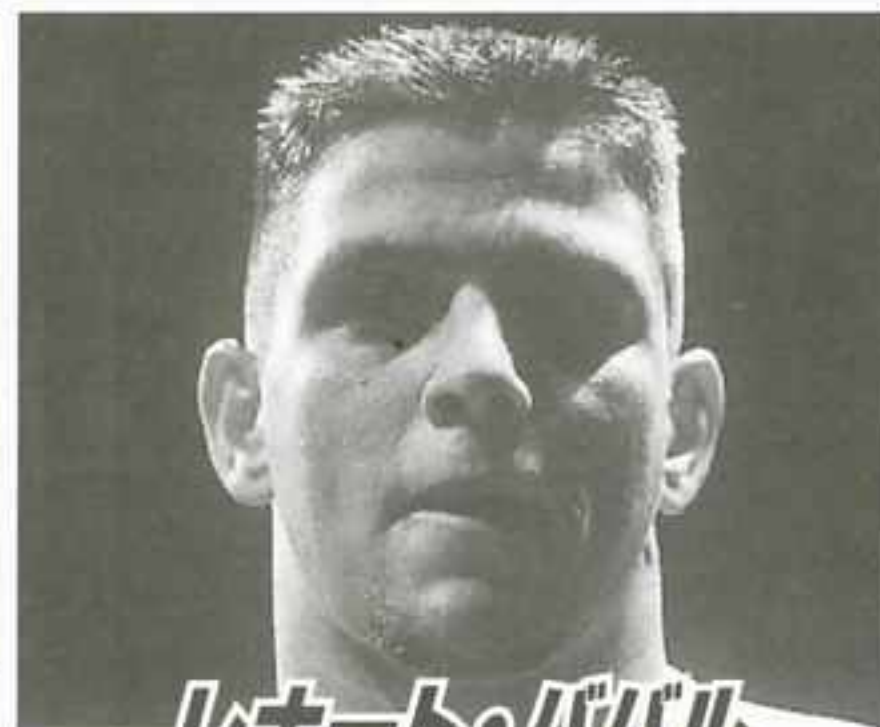
ロイヤルリングサイド ¥20,000/アリーナリングサイド ¥15,000
リングサイド ¥10,000/アリーナSS ¥6,000
スタンドS ¥7,000/スタンドA ¥5,000/スタンドB ¥3,000
学生特別優待席A ¥2,000/学生特別優待席B ¥1,000
※学生特別優待席はチケットぴあのみでの販売となります。
なお、高校生以下に限らせていただき、ご購入の際、学生証の提示が必要となります。

発売場所

チケットぴあ	☎03-5237-9999
CNプレイガイド	☎03-5802-9999
ローソンチケット (Lコード33777)	☎03-3569-9900
後楽園ホール	☎03-5800-9999
レッスル渋谷	☎03-3464-0078
レッスル池袋	☎03-3989-0056
書泉ブックマート	☎03-3294-0011
大山アメリカン	☎03-3962-6443
ビデオショップチャンピオン	☎03-3221-6237
フィットネスショップ水道橋店	☎03-3265-4646
ファイター 新宿店	☎03-3354-1903

●お問い合わせ● オデッセー 03-3796-9999 WOWOW情報ダイヤル(24時間テープ案内) 045-683-8009

グレイシーの壁を超えるのは誰だ!!
ついに実現!!

〈決勝進出選手〉

田村 潔司
イリューヒン・ミーシャ
アンドレイ・コピィロフ
ギルバート・アイブル
ヘンゾ・グレイシー
ダン・ヘンダーソン
レナート・ババル
アントニオ・ノゲイラ

FIGHTING NETWORK
RINGS

主催
BS-5ch
WOWOW
FIGHTING
NETWORK
RINGS

相撲とは
日本のプロレスの
ルーツである

相撲 多重アリバイ

スモーノブ　がっぷり四つインタビュー

横綱・曙の付き人が明かす凄絶なるスモー体験!!

二日目 佐々木嘉則〈FMW〉

はぁ～、どすこ～い！　時代はいま、相撲タイ！　早速でごわすが、前号でワシがインタビューした大刀光関が、何と！　1·30の『PRIDE.GP』参戦が決定したでごわす！　さらに1·4東京ドームでは、あの安田忠夫関が乱闘のときに小川直也選手を首投げ→袈裟固めで投げ捨てたでごわす。相撲の強さが光ったのは見た人も多いばい？　相撲に追い風が吹いてるでごわす。こうなったら、ワシも、そしてこのページを読んでるキミも、一緒にスモーレスラーを応援するばい！　一緒に相撲幻想を見るでごわす！

今回登場するのは、横綱·曙の付き人を長く務めたFMWの佐々木嘉則選手！　国技という厳格なイメージからは思いも付かない凄惨かつ素敵な相撲裏話と、そこで培った佐々木選手の強さ満開でお届けするでごわす！　はぁ～、どすこい！　どすこ～い！

聞き手／スモーノブ
interview by Sumo Nobu
撮影／黒田史夫
photographs by Fumio Kuroda

相撲時代

スモー　FMWの若手有望株の佐々木選手にピピピッと相撲臭さを感じたんでごわすが、経歴を調べたらやっぱり相撲出身でごわした。

佐々木　ええ。

スモー　で、相撲はどれぐらいの間、やってたばい？

佐々木　18歳から3年半です。

スモー　なぜ相撲に入ったでごわす？

佐々木　たまたまスカウトされたんです。運転免許を取るための合宿で鳥取県に行ってたときに駅前をぶらついてたら、東関親方（元関脇・高見山）が店でドーナツをガツガツ食ってたんですよ（笑）。

スモー　2倍、2倍！　高見山がドーナツ食ってたでごわすか（笑）。

佐々木　ええ、すごかったです。コーラも、凄い勢いで全部飲み干しちゃって。あっけに取られて眺めてたら、親方が手招きしてるんですよ。周りを見てもオレしかいないし（笑）。「いい身体してるねぇ。部屋に来ないか？」って勧誘されました。でも、名前がわからなくて……「この人、朝潮だったかな？小錦だったかな？」って（笑）。

スモー　失礼な話ばい（笑）。

佐々木　いや～、いま思うとホントにそうですね。で、急いで実家に「今日、『2倍、2倍！』ってやってる人に会って、勧誘されたよ」って報告したんですよ。そしたら「いますぐ付いていけ！」って母親に言われまして（笑）。

スモー　ずいぶん思いっきりのいいお母さんタイ（笑）。

佐々木　もともとオレはプロレスをやりたかったんで、その夢に少しでも近付けるかなと思って東関部屋に入りました。

スモー　じつは、東関部屋はプロレスにごっつうゆかりの深い部屋ばい。親方も一時期、プロレス入りの噂もあって、横綱の曙関も最近プロレス入りが騒がれてたでごわすね。

佐々木　全日本プロレスの泉田（純）さんもそうですよね。オレが入門した頃に、泉田さんが辞めてしまったんで接点はないですけど。

スモー　高見洲と、南海龍もドラゴンボンバーズにいたでごわす（笑）。東関部屋とプロレス界の間に太いパイプがあるんでごわすか？

佐々木　特別なコネなんかないですよ。みんな別々のルートじゃないですか？　オレもFMWの入門テストを受けて入りましたからね。

スモー　佐々木選手はFMWのパンフレットによると、序二段まで行ったでごわすね。

佐々木　あれ違いますよ。ホントは三段目まで行ったんですけどね。幕下になるのは結構大変ですから。

スモー　なぜ相撲を辞めたばい？

佐々木　ヒザの靭帯を切っちゃったからなんですよ。「もう1回同じケガをしたら、人工靭帯を使うしかないからプロスポーツは出来なくなる」って医者に言われまして。だったら、ホントに好きなことにチャレンジしてみようと思って、プロレスにチャレンジしたんです。

火のないところに噂は立たない、ということわざもあるがWWFに行ったら非常に人気の出そうな横綱・曙。相撲ヒエラルキーの頂点に立つ男だけに、そのバカ強さは誰もが認めるところ。是非、プロレスに来て欲しい逸材である。©日刊スポーツ

付き人

スモー　佐々木選手は横綱・曙関の付き人をしてたばい？

佐々木　ええ。恐かったですねぇ（しみじみ）。目を見て話せないくらい、恐かったですねえ。とにかく威圧感が凄いんですよ。ボクは付き人の一番下だったんで、すべての仕事が回って来ましたね。洗濯、給仕、食事、風呂入れまでやってました。

スモー　どすこ～い！　風呂入れ！　ちなみに、あれはどこまで付き人が洗うもんなんでごわすか？

佐々木　陰部以外です（笑）。

スモー　フゥ～、フゥ～（息を切らしながら）陰部以外！　かぁ～、それは辛いでごわす。ヘマは許されないわけタイ。ちなみに、曙関はけっこう怒るっスか？

佐々木　（渾身の力を込めて）ええ！　目の色が変わるのがわかるんですよ！　いまだに、夢に横綱が出てきますから。

スモー　トラウマになるってるんでごわすな（笑）。横綱は怒ると、パンチが飛んで来るばい？

佐々木　そうですね。だいぶいいパンチをもらいましたね。振り向きざまにエルボーが入ったりしますから。

スモー　まるで三沢光晴タイ（笑）。

佐々木　でも、オレは横綱が好きですよ。ホントに尊敬してます。

スモー　付き人は横綱が遊びに行くときもついて行くでごわすか？

佐々木　遊びというか、接待ですね。あれも嫌でしたねえ（しみじみ）。ひたすら飲まされるんですよ。「いや、飲めません！」とか言おうもんなら、横綱の目がギラッと光るから、「すいません。ごっちゃんです」と言うしかないんですよ。

いちばん辛かったのは花瓶に焼酎を入れて「飲め」と言われたときですね

スモー　どれぐらい〝ごっちゃん〟するっスか？

佐々木　いちばん辛かったのは、花瓶に焼酎を入れて、「お前、飲め！」って言われたときですね。

スモー　かっ、花瓶でごわすか？

佐々木　「えっ！」って絶句してたら、「しょうがねえ、割ってやるよ」って言うんです。「優しいなあ。さすが横綱だなあ」と思ってたら、日本酒で割ってるんですよ（笑）。鬼だと思いましたね。

スモー　アハハハハ！

佐々木　しかも、そのときは横綱のカバン持ちをやってて、現金で数百万円入ってるカバンを持たされてましたから（笑）。絶対倒れられないっスよ！

スモー　おっかないでごわす。くわばら、くわばら。ちなみに、佐々木さんは酔うと、どうなるばい？

佐々木　オレ、酔わないんですけどね。一度だけ、ツッパリで路標識をヘシ曲げちゃったことはありますね。

スモー　どすこ～い！　交通事故並の衝撃度でごわすな（笑）。で、話を戻すでごわす。曙関には、プロレス入りの話題も出ているでごわすな。いろいろ裏があるみたい

でごわすが……。

佐々木　どうなんでしょう？（ここからは掲載不可能な話題に突入したため、佐々木選手の希望もありカットでごわす）いろんな記者の人も、オレに聞いてくるけど、知らないんですよ。

横綱の顔を張ったら次の瞬間から30分間殴る蹴るで死にかけました

かわいがり

スモー　相撲には「強くするためのかわいがり」と「お仕置きのかわいがり」があると聞いたばい。

佐々木　でも、お仕置きされるような手癖の悪い人はいなかったですよ。

スモー　ときに、「手癖が悪い」というのは、どんなことっスか？

佐々木　「テラ切り」する人ですけど、ようするに窃盗です。そういう「かわいがり」はなかったですけど、強くするための「かわいがり」は相当やられましたよ。特に横綱には、メチャクチャにかわいがられましたね。

スモー　横綱はそんなに強いっスか？

佐々木　ええ。オレは町中で負けたことがなかったんで、腕に自信はあったんですけどねえ（しみじみ）。片手でブン投げられるし、持ち上げて転がされるし、ムチャクチャにされました。

スモー　さすが天下の横綱タイ。

佐々木　ええ。でも、そこで何を血迷ったのか……頭のスイッチが入ってしまったんですね。その瞬間、横綱の顔面を張ってしまったんですよ（笑）。

スモー　うわぁ～！　怖ろしいでごわすなあ。

佐々木　張った瞬間に、「ペッ！」って横綱が唾を吐いたら、血が混じってて（笑）。次の瞬間から30分間ひたすら殴る蹴るで、冗談ヌキで死にかけました（遠い目）。目の前に、ブラウン管の試験電波みたいなのがチラチラしてましたよ（笑）。

スモー　それじゃ、普段の稽古も相当厳しかったんでごわすな。

佐々木　そうですね。親方よりもマネージャーが怖かったですね。親方と同じ部屋で幕下まで行った人で、コーチやったり、若手の面倒を見たりしていた人なんですけど、その人の車が部屋の前に止まる音がするだけで胃がキリキリしましたね。

スモー　昭和・新日道場の山本小鉄さんみたいでごわすな。

佐々木　ええ。その人は機嫌が悪いと、角材にテーピングを巻いて「かわいがり」の準備を始めるんですよ（笑）。

スモー　どすこ～い！　角材！　それでどこを殴られるっスか？

佐々木　ケツとか背中ですけど、頭も殴られましたよ。でも、だいたい角材が折れちゃいましたね。

スモー　かぁ～、頑丈ばい！

佐々木　でも、殴られた箇所の皮が裂けて、中から肉が出てくるんですよ。それで気持ちに火をつけるみたいですけどね。

スモー　横綱といい、マネージャーといい、怖いでごわすな。

佐々木　そうですねえ。だから、急性胃腸炎になったことありますよ。でも、それを乗り越えたから強くなれたと思います。

スモー　仲間内でのイジメはなかったっスか？

佐々木　あんまり陰湿なのはないですけど、手相撲してるところを覗かれた人はいましたね（笑）。

スモー　どすこ～い！　手相撲？　ああ、いわゆる自慰行為ばい？　それはヘビーでごわすな！

佐々木　ねえ（笑）。ちょっと一風変わった新弟子がいたんですけど、ボクが小便してたら、そいつが大きい方に入っていったんですよ。それをみんなで上から覗いてたんですけど、そいつは気付かなくて（笑）。

スモー　かなりの強者ばい。

佐々木　そしたら突然、乳首をまさぐりながら手相撲を撃ち始めまして（笑）。クライマックスに達したときに、「コラッ！」って怒鳴ったら、それで果てちゃったみたいですね（笑）。

スモー　アハハハハ！　土俵際でうっちゃられたような気分でごわすな（笑）。

ゴロまき

スモー　さきほど「腕に自信がある」と言ってましたが、ゴロ撒いたでごわすな。

佐々木　まあ、みなさんと同じくらいですよ。

スモー　大刀光関は、右翼までやったらしいでごわす。

佐々木　あっ、オレの親戚も右翼の塾長でしたよ。黒塗りの観光バスも2、3台持ってましたね（笑）。内装は全部畳の車でした（笑）。

スモー　うおっ、佐々木さんも右翼やってたっスか⁉

佐々木　旅行がてらで、いろんなところに連れて行ってもらった程度ですよ（笑）。でも、若いヤツが機動隊にボコボコにされてるのを見たときは青ざめました（笑）。別に思想的にどうこうっていうのはないんですけどね。

スモー　暴走族もやったばい？

佐々木　まあ、真似事みたいなことはしましたけど。ケンカも降りかかる火の粉を払うときだけでしたね。

スモー　どんな相手とケンカするでごわすか？

佐々木　日本拳法の全国チャンピオンとケンカしたことありますよ。

スモー　ごっつい強敵タイ！

佐々木　自分の拳がまったく当たらなかったです。でも、そのときも頭にスイッチが入ってしまったんですね……そいつの頭をコンクリートにガンガン叩きつけて、勝ちました。（サラリと）途中から音が変わって、血が吹き出てましたね。

スモー　スイッチが入ると人が変わるでごわす（笑）。

ＦＭＷの未来を担う大型新人には注目カードが次々と組まれている。昨年５月の横浜文体大会では、全日本プロレスの森嶋猛、そして11月23日の横浜アリーナではザ・ファンクスと対戦。特にファンクス戦では、アメプロの神髄をこってりと注入された。

佐々木　負けそうになると、自分でも何するかわかんないですよ。
スモー　おっかねえ！　だけど、かっこいいばい。
佐々木　でも、みなさん、こんなバカな大人にならないようにしてほしいです（笑）。

タニマチ

スモー　幕下以下はお給料が出ないばい？
佐々木　ええ。でも、横綱がいる部屋だったんで、タニマチの方も大勢いらして、お呼びが掛かる機会も多いんですよ。お米（＝お金）をもらえることもあったりして……ありがたい話ですね。
スモー　羨ましいでごわす！　どれぐらい出るっスか？
佐々木　ホント、びっくりしちゃうような額ですよ。
スモー　札束が縦に立っちゃうような額っスか？
佐々木　いやいや。横綱はそれぐらいもらってたみたいですけど、オレは最高で10万円ですね。

ささき・よしのり■昭和49年7月23日、大阪府大阪市出身。平成9年12月8日、愛知県・岡崎市体育館、vs中川浩二戦でデビュー。大相撲時代は曙の付き人だったが、FMWでは大仁田の付き人を務め、いまなお「大きな存在」だという。間違いなく、将来のFMWのエースとなるべき大器。188センチ、120キロの体格も立派！

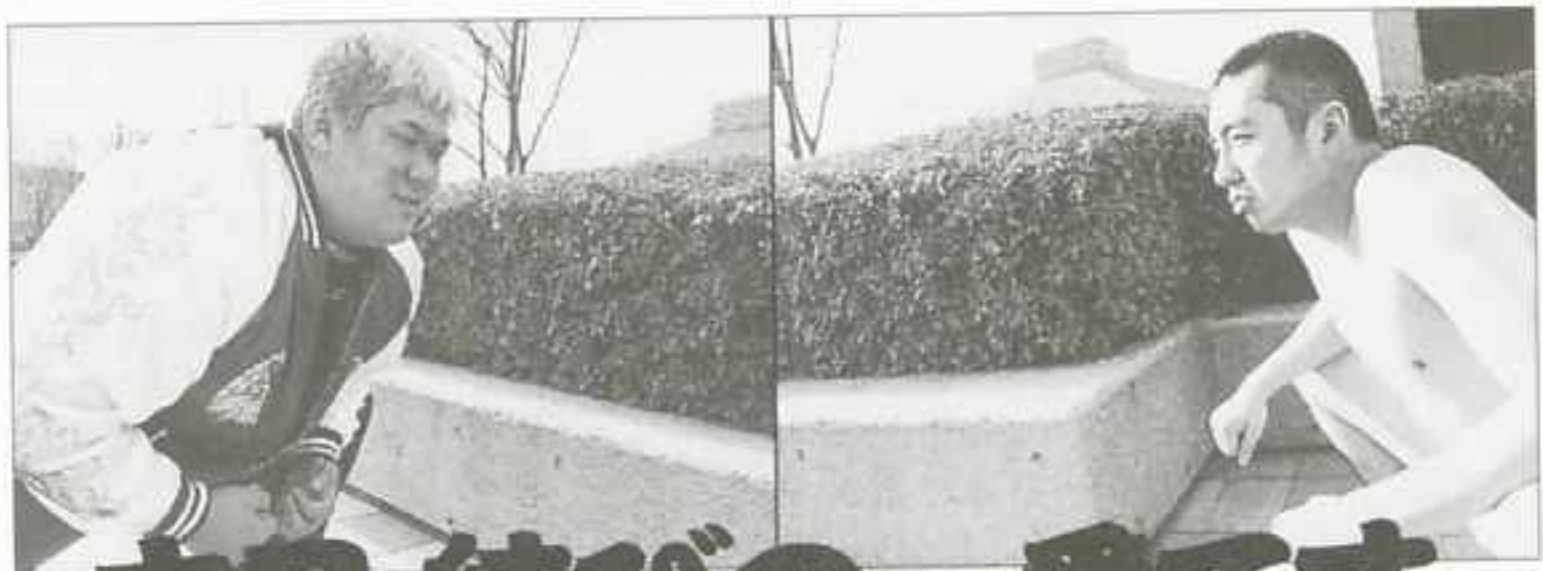
スモー　じゅうまんえん！
佐々木　でも、今にして思えばそういうのは嫌ですね。
スモー　ばってん、なぜでごわすか？
佐々木　失礼な言い方になるかもしれないですけど、15歳から相撲社会しか知らないで、世の中に出たときに「ごっちゃん体質」が残ってる人もいるんですよ。そういうのは、オレに限っていえば嫌ですね。オレはそんなにドップリ相撲社会につからなくてよかったと思います。いまのボクが相撲やってたら、「ごっちゃん」しても別のことに使ってると思いますよ。それこそ、寄付したりとかね。
スモー　佐々木さんはマジメでごわすなあ。
佐々木　それか自分の身体のためになるものに使いたいです。
スモー　なぜばい？　その金でワシをお姉ちゃんのいるお店に連れてってほしいでごわすよ。
佐々木　ボクはそういう店に行かないもんだから、「気持ち悪いな！」って兄弟子に言われてましたね。
スモー　「お相撲さんは、基本的にスケベなんだよ」って大刀光さんは言ってたでごわすよ。
佐々木　男なら全員スケベでしょう（笑）。でも、オレには相撲教習所時代からず～っと付き合ってる子がいるんですよ（ポッ）。
スモー　かぁ～、隅に置けないでごわすな！
佐々木　なんですか、それ（笑）。
スモー　ちなみに、その彼女とはどこで知り合ったんですか？
佐々木　後援会のお嬢さん……。
スモー　うおっ！　禁じられた恋でごわすな！
佐々木　いや、そのお友達です。
スモー　何にしてもいいことでごわすな！　ちなみに力士の人は、どういうところでデートをするっスか？
佐々木　ボクはよく隅田川沿いのビルの陰でデートしましたねえ。
スモー　「いざ首投げ！」というときは、どうするっスか？
佐々木　なんか照れ臭いなぁ～（笑）。一般の人と同じですよ。たまに、そういうところを歩いてると、「アンタ、武蔵川部屋の○○だろ！　ガンバレよ！」って言われたこともありましたね。全然違うんだけど、その人のフリをしてましたね（笑）。
スモー　結構、自由なんでごわすな。
佐々木　でも、オレは横綱の付き人だから、いつ呼ばれるかわからないですからね。ほとんど出歩けないんですよ。だって、電話のベルが3回鳴るまでに受話器を取らないと食らわされる（＝殴られる）んですから。
スモー　それだけで!?
佐々木　まるでビーチで旗を取る競技みたいですよ（笑）。

相撲から見たプロレス

スモー　相撲をやってた佐々木さんから見て、UWF系とかバーリ・トゥードには興味はないでごわすか？

電話のベルが3回鳴るまでに受話器を取らないと食らわされます

佐々木　何か、別の世界という感じがしますね。
スモー　感覚的には相撲に近いばい？
佐々木　そんな感じですね、興味はありますけど。もし、ホントにやるんなら、闘い方を勉強したいです。タックルの切り方とかも、いろいろあるんですよね？　何かひとつだけ取り柄があっても、負けちゃう人なんかゴロゴロいますからね。
スモー　「オレは絶対倒されない」って大刀光関は言ってたでごわす。
佐々木　そりゃ幕内力士ですからね！　倒れないでしょ（笑）。オレもそう思いますよ。
スモー　大刀光関もそうですけど、相撲出身の人はプロレス界だと重鎮的なポジションに収まってしまうことが多いタイ。そのへんはどう思うっスか？
佐々木　オレは十両力士でも、幕内力士でもないんで、そんなプライドもないですよ。相撲の技も使ってないですから。オレは100％プロレスラーです。
スモー　まあ、そういう気持ちの方が成功しそうでごわす。
佐々木　旬なところで200％にしときましょうか（笑）。
スモー　2倍！　2倍！　でごわすな。さ、オチもついたところで、本日の結びの一番をお願いするでごわす。
佐々木　裸でやるんですか？　恥ずかしいなあ（笑）。

【'99年12月17日、両国国技館の真ん前のレストランにて収録】

本日、結びの一番です。

今回の相手は、前号の大刀光関よりは番付的には下でごわす。いくぶん気も楽に持てるばい。遠くに見える両国国技館がワシにパワーを与えてくれるばい。……前言撤回でごわす。向き合った瞬間の佐々木選手の目！　そして顔！　わっ、笑ってるでごわす。こわ～。ばってん、ここでケツを割って逃げるわけにはいかんばい。
はっけよ～い、ノコッタ！　組み合った瞬間、すべての自信が崩れさったでごわす。う、動かない！　早くもピ～ンチ！　佐々木選手は、そのままワシに強烈な喉輪！　天高く舞い上がったワシは、落差2mのチョーク・スラムでまたもや黒星。相撲取りの馬力は、到底、一般人（かなり太め）では手に負えるしろものではないでごわした。はぁ～、ドスコイ、ドスコイ！

3　2　1

紙のプロレスRADICAL Back Number Information

ものまねウルトラクイズ!

さて問題です。

修斗ウェルター級王者宇野薫選手がものまねをしている野球選手は一体誰でしょうか?

※バックナンバーをお買い上げのお客様の中で宇野選手のものまねが誰のものまねかわかった人は選手名をご記入の上注文して下さい。正解者先着1名様に宇野商店新作Tシャツをプレゼントします。カオカオ。

※『紙のプロレスRADICAL』創刊号からNO.4、NO.6、NO.8は完売しました。

No.22 ★サク、グレイシーに完勝この上なし!

桜庭和志ロングインタビュー/前田テロ事件サプライズ座談会
ヤマケン?…俺は逃げる!田村潔司
俺は逃がさない!山本喧一/スモーノブ初土俵!大刀光
好評につき第2弾!田中健一/馳浩/小川直也
ゴールドバーグ/坂田亘/木村浩一郎/長井満也/池田大輔
B・コーラー&A・ウォリアー/佐藤耕平/渡辺千景
ヒクソン&ホイラー兄弟の「ああ言えばこう言う録」

No.5 ★すべてはここから始まった!

高田延彦ロングインタビュー
猪木、Puffyほか有名人33人が
高田vsヒクソンを大予想
ドン荒川vs藤原喜明超過激対談!
前田日明の『人生は語らず』
世界格闘技連盟を語りたおす!
佐山聡(タイガーキング)
長井満也/柳澤龍志/ディック東郷
愚乱・浪花/ザ・グレート・サスケ
長与千種/ライオネス飛鳥
ビクター・クルーガー
パンクラス旧合宿所誌上大公開!

No.7 ★特集「反骨の剣」

田村潔司ロングインタビュー
黒いパンツの心意気激白木村健悟
大型不良新人!
中原奈々(現在失踪中)
「凶器しか使わないプロレスをしたい!」
みちプロ経営危機の真実を
ザ・グレート・サスケが独占告白!
……ああ、好評すぎて怖い。
寸止めなしの殺戮連載!
前田日明の「人生は語らず」
冨宅飛駈/垣原賢人/モハメド・ヨネ
冬木弘道/MEN'Sテイオー
タンク・アボット

No.9 ★「アントニオ猪木・闘魂連鎖!無礼講大特集!!」

前田日明/ザ・グレート・サスケ
高田文夫/春一番/ターザン山本/石川雄規
衝撃のさらばプロレスマスコミ宣言
業界病を吹き飛ばせ!!
見てみぃ、この面ッ!!
高阪剛ロングインタビュー
前田日明ラス前インタビュー&炸裂人生相談
日プロOB吉村道明&ユセフトルコ
&遠藤幸吉&駿河海
『格闘家からみたプロレス!』
朝日昇★谷津嘉章/佐野友飛
下田美馬&三田英津子

No.10 ★特集「灼熱の地殻変動'98」

大和魂は連鎖する!!
前田日明vsエンセン井上スクープ対談!
とにかく元気!高田延彦ロングインタビュー
またもや大爆発!
谷津嘉章インタビュー第2弾!
社長&会長対談・ザ・グレート・サスケVS
松永高司
『紙のプレイボーイ』発進!!ダイアナ&宮内美穂
ターザン山本のプロレスマスコミ表紙批評!!
『紙プロスーパースター列伝』
北沢幹之★冬木弘道(金村ゆきひろ&伊藤豪)
ロングインタビュー

No.11 ★特集「格闘Viagra'98」

高田延彦vsエンセン井上
エネルギーエクスチェンジ烈談!!
前田日明ラストマッチ後初インタビュー
ターザン山本のプロレスマスコミ表紙批評!!
「格闘か?芸術か?それとも格闘芸術か!?」
佐山聡/スーパー宇宙パワー(木村浩一郎)
福田雅一
★ザ・グレート・カブキ/ダンプ松本
★バト両国進出記念石川雄規
トンパチ・マシンガンズ
★とうとう語られるSWSの真実
『S多重アリバイ』アポロ菅原

No.12 ★特集「格闘TEPODON!!'98」

2度目のヒクソン戦直前!
高田延彦ロングインタビュー
「プロレスファンよ踊れ!
祭り囃子を鳴らせ!!」浅草キッド
人気大炸裂!『S多重アリバイ』
第2弾アポロ菅原
★桜庭和志/アレクサンダー大塚
山本喧一/神取&北尾/八木淳子
ダンプ松本/猪木イズム世界一決定戦
石川雄規&ザ・グレート・サスケ
格闘王から相談王へ前田日明「人生は語らず」
話題騒然!! What is プロ格闘家?
菊田早苗&郷野聡寛

No.13 ★特集「四角いジャングルRADICAL」

実写版『1・2の三四郎』降臨!
アレクサンダー大塚インタビュー
『10・11 PRIDE.4』とは何か?
ザマアミロ雑談会!!
高田延彦がヒクソン戦後の心中をリアルに語った!!
前田日明・エンセン井上が語る
『高田VSヒクソン戦』!!
谷津嘉章・島田裕二・浅草キッドが見た
『10.11 PRIDE.4』
大反響!『S多重アリバイ』第3弾
ケンドー・ナガサキ
★ボブ・バックランド/松永光弘
リッキー・フジ/堀辺正史

No.14 ★特集「格闘DREAM CAST」

前田日明独占ロングインタビュー
これがカレリンの発した言葉だ!!
山本美憂・聖子vs父・親子ゲンカ!? 対談
連勝街道爆進中!金原弘光
RADICAL版 ゆく年くる年座談会
谷津嘉章のマット界、目ぇつぶって30秒!!
『高田道場1999!』高田延彦/桜庭和志
佐野友飛/松井大二郎/豊永稔
『S多重トンパチ』第4弾 折原昌夫
★『虎の尾を踏む男たち '99』小路晃
4代目タイガーマスク/村上一成/宇野薫

No.15 ★特集1「格闘MARS ATTACKS!」

橋本戦の核心を語る
小川直也with.S.Sインタビュー
佐山聡/4代目タイガーマスク
UFO襲来緊急座談会
★特集2「格闘LAST VOYAGE」
前田日明USA特訓を直撃!
アレキサンダー・カレリン
浅草キッド/アニマル浜口親子
★ジャイアント馬場追悼特集
本誌初登場!SASUKE
『語ろうマサ・サイトー!』
『S多重アリバイ』2連発!
佐野友飛&Mr.W

No.16 ★特集1「格闘ノストラダムス'99」

エンセン井上ロングインタビュー
田村潔司/坂田亘/高阪剛/山本喧一
村上一成/マーク・コールマン
石川雄規/ザ・グレート・サスケ
★特集2「それぞれの旅立ち'99」
アントニオ猪木ロングインタビュー
前田日明引退後初の独占ロングインタビュー!
大好評!「語ろう」シリーズ第2弾!
『語ろうジャンボ鶴田』
『S多重アリバイ』第7弾石川孝志

No.17 ★特集1「格闘MAKE JUNGLE」

UFO襲撃三昧小川直也インタビュー
桜庭和志/高田延彦/アントニオ猪木
豊永稔/マグナムTOKYO/池田大輔
宮戸優光
★特集2
「新生リングスBone&Blood」
前田日明/山本宜久/成瀬昌由
R・クートゥアー
★タイガー・戸口/矢口壹琅/『怪物通信』
「ターザン山本さん、目を覚ましてください!!」
イベント炎上鎮火ドキュメント!!

No.18 ★特集「格闘STAR WARS」

カーウソン・グレイシー一派を壊滅!!
桜庭和志VIVAVIVAロングインタビュー
小川直也e-mailインタビュー/高田延彦
エンセン井上/イーゲン井上/小路晃&宇野薫
格闘STAR WARS座談会
★『S多重アリバイ』第8弾将軍KYワカマツ
「外人さん、いらっしゃ〜い」
F・シャムロック/G・グッドリッジ
R・グレイシー
『怪物通信』G・アイブル
『闘魂猪木塾とは何か?』

No.19 ★いま一度高田延彦を注視せよ!

マーク・ケアー戦直前
高田延彦インタビュー
リングス、パンクラスにも咆哮三昧!!小川直也
マット界の今後を前田日明CEOが激白!
『紙プロスーパースター列伝』ドン荒川
佐山聡/エンセン井上/成瀬昌由
TARUwith AYAKA/宇野薫
アレクサンダー大塚
『怪物通信』4連発!
M・ケアー&G・グッドリッジ&
E・F・ブラガ&G・メッツアー
上田馬之助/井上貴子/川口健次

No.20 ★人間UFO吠えまくる!小川直也インタビュー

独占!! 公開インタビュー前田日明
アレクサンダー大塚
高田延彦爆炎記者会見/佐山聡とは何か?
『語ろう藤波辰爾』/バス・ルッテン
『S多重アリバイ』第10弾ドン荒川
滑川康仁/カール・マレンコ/高阪剛
山本宜久/成瀬昌由/小路晃&宇野薫
ケビン・ヤマザキ/内藤恒仁
ティト・オーティズ
敗者『紙プロ』追放試合!
ジャイ子vsトイレの大西さん(仮)

No.21 ★恐怖のプロレス大魔王降臨!

小川直也ロングインタビュー
『紙プロRADICAL』初登場じゃあ!
大仁田厚/前田日明総帥激白!
本誌独占! 発見八木淳子
『S多重アリバイ』第11弾鶴見五郎
G・アイブル/R・フィエート
本誌先取りB・コーラー
桜庭和志IN青空プロレス道場
エンセン井上/山本喧一/高瀬大樹
アレクサンダー大塚/モハメド・ヨネ
CIMA/田中健一/平直行
コーラ・パワーズ/本誌独占G・サスケ死す!

【バックナンバー申し込み方法】

●お申し込み方法は現金書留と郵便振替の2種類があります(バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません)
●現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封し、
〒151−0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3−11−3−702(株)ダブルクロス『RADICAL通販』係まで送って下さい。
●郵便振替の場合は用紙裏面の通信欄に希望号数を明記し、
00130−3−769154(株)ダブルクロスまで。
代金はNO.5〜NO.10=680円 NO.11〜NO.19=780円 NO.20=880円 NO.21=840円 送料1冊=310円 2冊=340円 3冊〜4冊=450円 5冊=520円 6冊以上=700円
●『紙のプロレスRADICAL』バックナンバー常備のえらい店
・アイドール新宿店・新宿ファイター・大山アメリカン・プロレスマニア館・チャンピオン東京・チャンピオン大阪・リングパレス・バディスラム・タコシェ・レッスル渋谷店・レッスル池袋店・書泉ブックマート・書泉ブックタワー・書泉グランデ・横浜"AO"CORNER・下北沢バンバンビガロ・ワールドスポーツプラザKINGS(池袋店・渋谷WEST店・新宿アルタ店・名古屋店・大阪店・札幌店・福岡店)

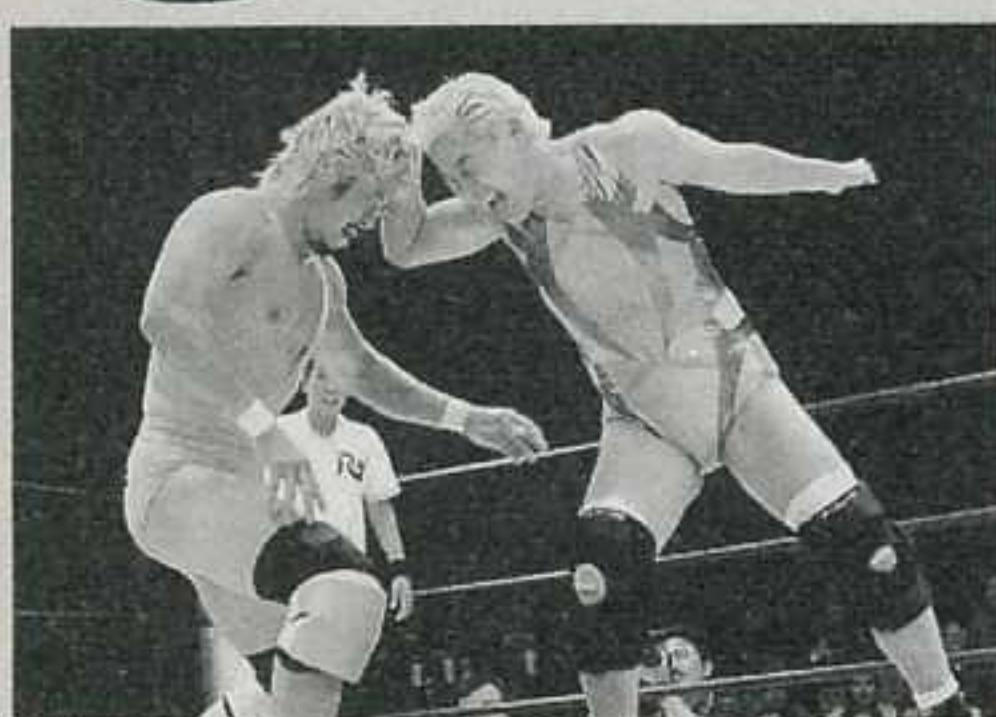
みなさんのりおくれないでくださ〜い!!

News News Revolution

12月〜1月のこれが マット界の焦点

事件FILE

たっ、大刀光大ブレイク!! 前号のスモーノブのインタビューが火をつけ『PRIDE』参戦決定! 誰がなんと言おうが1番ビックニューーーース!
これはまさに2000年問題勃発なのだ。しかーし! まだまだ忘れちゃいけないマット界ミレニアム現象（編集部での珍事件も含む）が続出のため
大幅にページを増やしたこの事件FILEを今すぐ読み、そして記憶に残せ!

12/9 マッハvs神取は名勝負!

某団体の幹部が、この模様を見て大激怒したという、ある意味で従来のプロレスという概念を破壊した一戦。WWF離脱直前のジェフ・ジャレットvsチャイナをそのまま日本版に移植した感もなきにしもあらずだが、そんなことはどうでもいい。ここは日本だ。THIS IS JAPANESE RULE!! そのまんまＪＪvsチャイナというわけにはいかなかった。神取と言えば、柔道で日本一にも輝いた強豪。マッハ純二もバトラーツ仕込みのグランドテクニックの持ち主だ。一進一退の攻防を繰り広げる両者からは、もはや性別の壁はなくなっていた。この敗戦を同日に行われたＤＤＴに出場中だったトンパチのリーダーにチクられたマッハ。クビを言い渡されてしまった。さらに12・25のバトラーツＴＦＭ大会で長井満也のニール・キックを食らい眼窩底骨折！ 2〜3ヶ月の欠場を余儀なくされるという。女に負けた男というレッテルと共に様々な不運まで背負い込んだマッハ純二に幸多かれ！

12/3 『世界最強タッグ』優勝後のバーニングは?

冬の風物詩『最強タッグ』も、１月下旬発売の号ではすでに情報としての旬は過ぎてしまっていると思うので、この優勝後のバーニング（というか、小橋＆秋山組）の動きをざっとまとめてみたい。「この優勝で（秋山）準とのタッグは解散に近づいた」と小橋。急に分裂するわけではなく、タイミングを見ながら、小橋と秋山は別々の道を歩んでいく。

年が明けて、全日本プロレスのポスターを見ると中央にいるのは小橋と秋山だった。三沢は、サイズはいちばん大きいながらも一番下の段。なるほどね。

で、早速年明けの10日、熊本大会でベイダー＆ジョニー・スミスと激突した小橋＆秋山は２人の体調不良ながらも世界タッグを防衛。この号が発売になった翌日には、秋山がベイダーの持つ３冠に挑戦する。秋山がベルトを取れば、全日の勢力地図を書き換えてくれそうだ。ホットな小橋vsクールな秋山という、新しい対立構造が生まれてくるのは、そう遠いことではないようだ。

12/11 「チャンピオンにはほど遠いで〜す」by五味

本日、第一試合を秒殺で飾った佐藤ルミナは、涙・涙・涙。コメントルームでも涙。試合後、すっかり笑顔が戻ったルミナは自分の闘いぶりに大満足で試合後「もしもし、八百長のルミナで〜す！」（もちろんルミナジョーク）と携帯電話を手放さず愛嬌たっぷり。その後、楽屋モニターで一人実況中継を繰り広げていた。実に可愛い人である。そして、この日の大注目は五味隆典の試合。膠着状態の時、見えないところで五味に噛みつき攻撃をしていたジョニー・エドゥアウドにも完勝この上なし。五味は口を開けば「チャンピオンにはほど遠いで〜す！ すいませ〜ん（笑）」と生意気盛りで控え室へ。すると後ろにたまたま宇野薫がたたずんでおり、「ボク、宇野さん、さんって呼んでるんですよ！」（格通のインタビューで君づけにしていた問題）と勢いよく喋りかけ、突然言われた宇野は「ボク気にしてないですから」とビックリ気味で握手を求めていた。五味もまた破天荒な努力の大物であることを見せつけたのである。

12/7 押忍（敬礼）! 掣圏道アマチュアスタート!!

押忍（敬礼）。全国いじめられっ子諸君に朗報！ 六本木のド真ん中パワープラント内にあの市街地型超実戦格闘技・掣圏道のアマチュア部門がスタートすることになった。格闘技道場数あれど、護身術ならやっぱり"愛の格闘技"掣圏道が一番！ なにしろ「市街地に関節技は必要ないですから。キック、パンチ、タックルにニーブレスがあれば、もう六本木の黒人も怖くありませ〜ん。よろしくお願いしま〜す」と佐山代表も言ってるのだから間違いない。指導も代表自ら旭川の「虎の穴」と六本木を「寝台特急北斗星」で往復しながら教えてくれるのだから有り難い。田中（健一）と渡邊（優一）にも協力してもらいま〜す」とのことなので『紙プロ』読者ならば「行かねば！」であろう。さあ、キミも今日から掣圏ライフ！
お問い合せ　ボディ・プラント六本木　電話03−5772−2791

12/12 ムタを超えた! ECWからTAJIRIが衝撃の初来日!

大日本プロレスから電撃離脱して、メキシコやアメリカを主戦場としていた田尻。新日vs大日本の対抗戦の中で、メジャーにも唯一通用する人材として将来を期待されていたプロレスセンスがアメリカで見事に開花、アメリカでのＥＣＷで怪奇派レスラー・TAJIRIとして大活躍中である。そんなTAJIRIがＥＣＷと提携関係にあるＦＭＷにやってきた！

スペル・クレイジーとの対戦だったのだが、アメリカで何度も対戦しているライバル関係だけあって、グルングルンとスイングすることこの上なし！ 見たこともないような技をバンバン披露して、客席も爆発的な好リアクション。TAJIRIは独特の怪奇チックな動きで観客を煽りまくり見事な凱旋だった。上がったのがＦＭＷだったのも、良かったのだろう。アメリカでトップまで登り詰めながら、ことごとく日本人レスラーとの対戦が続いた90年代のスーパースター、グレート・ムタの時代は終わった！ 2000年代はこの男の時代だ！

12/8 弁当を3つ持って立ち尽くす脅威の女

パワフルに４ｔバスを引っ張って、前号のピンナップを飾った関綾子。この脅威の新人が、じつにとんでもないデビュー戦を行った。相手は先輩の藤井巳幸だったのだが、圧勝である。しかも、試合後のマイクは「お前なんかとやったから、腹減ったじゃねえか！」とデビュー戦とは思えない堂々としたもの。しかも、控室前のコメントスペースでは、嬉しそうに今井リングアナが運んできたお弁当３人前を手づかみでムシャムシャ。デビューの感想は？と聞かれて、「ない」と一言答えたのは、キャラというよりは、素答えていたように見えたぞ。とにかくヤバ過ぎる。ちなみに、報道陣が、次の試合を見に行ってしまい、誰もいなくなった通路で、関は弁当を３箱持って、呆然と立ち尽くしていた。もちろん口はモグモグ動いている。いろいろ話しかけてみても、こちらを警戒しているのか、非常に挙動不審。前号のピンナップになった号をプレゼントしても、嬉しそうでも嫌がるでもなく、「はい」と答えるのみ。う〜ん、こんな珍しい生き物を見たことありません。

12/25 聖なる夜に金網デスマッチ アイ～ン！チーム武蔵野

ここ数カ月"シモキタ化"が進んでいたネオ・レディース。エンターテインメント路線という発想自体は、他の女子プロ団体と差別化がはかれていいと思うが、チャパリータＡＳＡＲＩの対戦相手Ｘが篠社長扮するコンビニ強盗だったりと、少しオイタが過ぎたため、ＡＳＡＲＩが離脱。それが引き金となり団体を一時クローズすることになった。そして12月25日、解散発表後初の試合。会場は"インディーの終着駅"駒沢球技場。会場内は客数まで"シモキタ化"が進みタウンホール並。そんな中、リング上ではタニーと中野の「チーム武蔵野」なるタッグの応援に、デストロイヤーマスクの団長率いる応援団が登場し、ただでさえ寒い会場をより寒くしていた。そしてメインは史上初の男VS女金網デスマッチ。この試合なにが凄いって男vs男の普通のデスマッチに見えたところ。究極の非日常カードながら日常に見える。いいんだか悪いんだか……。

1/2 増殖するノーフィアー軍に注目せよ!!

昨年はノーフィアーとともに、井上雅央＆本田多聞が浮上の兆しを見せてくれた。伸び悩んでいた人材が次々と浮上していく中、今度は浅子覚が動いた。黒いショート・タイツにチェンジして、身長も大・中・小とバランスが良くなった。この日は、バーニングと激突して、その変わりっぷりをアピール。小橋も「敢えて受け止める」といった感じで胸を出す。試合後も、控室に戻らずに観客からも聞こえる位置で「ノ～、フィアーッ!!」の大合唱。これで場内にスクリーンでもあれば、最高に素敵だと思う。

さて、注目は久々の来日となったドクター・デス。ＷＣＷで、バンクバンド・ミスフィッツと試合してたりもするだけあって、ケレン味たっぷりで帰ってきた。身体は若干細くなった気もするが、これは絞ったから。また危ないヤツが全日に増えた。

しかし、オブライトの急死はあまりにもショックがデカすぎる。いったい今年の全日はどうなるのか？

1/2 大日本に新時代到来！本間朋晃が新チャンプだ！

どこまでもジャンクなデスマッチで、マニアと物好きの心を掴んで離さない大日本。昨年あたりから、ムチャクチャもやり尽くしてきた気がしていたのだが、本間のデスマッチはアイデア満載。コーナーに立てかけた有刺鉄線ボードから宙返りを決めるなど、見たこともない技（？）ばかり。デスマッチに居場所を見出した本間のブチ切れっぷりには目からウロコが100枚くらい落ちそうな衝撃がある。

デスマッチのイメージが著しく低下したのは、ベテラン選手が繰り広げた、見る者を悲しい気持ちにさせるトホホなデスマッチの影響が大きい。逆に落ちきったところからスタートなので、本間自身も思いきっていけるようだ。一度、蛍光灯デスマッチのときに破片が突き刺さって流血しながらも、熱心に見ていたファンがいた。とにかく大日本デスマッチの吸引力は試合内容に比例してすさまじくなっていく。生観戦が絶対お勧めだ！

1/4 「話せばわかる！」のゴールドバーグ

心からお詫びを申し上げたいと思います

わざわざ前号で初来日記念のページを組んだというのに、直前で来日ドタキャンとなったゴールドバーグ。だが、この日のヤツはじつに最高だった！

代替えカードのマッチョマンvsリック・スタイナーの試合前、オーロラビジョンに映し出されたのは、ゴールドバーグがケガを負ったシーンだった。リムジンのガラス窓を素手で破りまくるゴールドバーグ。怒り狂っているが、何度目かに鮮血がほとばしる！

ここでカットが変わる。キャップを後ろ向きに被り、ガッカリしながら治療を受けるゴールドバーグの映像が映し出されると、あまりのガッカリっぷりに客席からは、緊張が緩んだのか、各地で笑いが漏れる。さらに画面の向こうで苦悩しながら、ひたすら謝罪するゴールドバーグ。ここまでされたらしょうがない。「次は来てよ！」ぐらいしか言えない。実際にケガした瞬間の映像まで見せられると何も言えなくなってしまう。いくらドタキャンでも、理由が理由なら観客も分かってくれる……そんな一幕だった。

12/17 やりすぎ注意！キャプチャーがやばい!!

ボク自身、キャプチャーは久々の観戦だったが、ハッキリ言ってやばいの一言につきる。やばい！　前々から薄々気付いてはいたが、これほどハードヒットな闘いを見せてくれるプロレス＆格闘技の興行はそうそうあるもんじゃない。鼻血が出るのは当たり前、むしろ、そこからが本当の闘い始めとも言えるのがキャプチャーの試合スタイルなのだ。そして、無印良品の宝庫でもあるキャプチャー。ネームバリューのある選手が数多く出ているわけではないが、いったんそのマットに上がると誰もが輝きを増して見えるから実に不思議な空間なのだ。そういえば、『ＰＲＩＤＥ.ＧＰ』にリザーバーとして出場が決まった大刀光もキャプチャーに出たときはバカ強さが光っていた（タチだけに）。そして今回の大会でも、タノムサク鳥羽、中村和信、小泉幸彦といった、プロレスファン的にはそれほど知名度のない選手が燦々と輝きまくった。キャプチャーにハズレなし。迷わず行け。行けばわかる。ホントやばいって！

12/18 アイ・アム・プロレスラー

いやぁ、素晴らしい！　この日の鈴木はドクターストップ負けという結果は残念としても試合から何からすべて抜群であった。鈴木が登場する以前はいま一つ、二つ、三つ盛り上がりにかける会場の空気であったが、鈴木の名がコールされただけで場内に大きな歓声が沸き上がり、その姿が現われた途端、まさにそれは轟音となった。その中を"風"と書かれたガウンを背負って、憂いを含んで歩く鈴木。実にカッコいい。それだけではない。菊田に肩固めを極められた時、鈴木はスッと手を上げ、それがやがて力なく、ゆっくりゆっくりと落ちていき、やがて菊田の背中にパタリと落ちる。そしてドクターストップＴＫＯ負け……。ホントに震えたぜ！

鈴木に乗り移ったのかと錯覚できるほどに、彼の一挙手一投足に集中させられてしまったのだ。登場から退場までのおよそ10分。観客は、鈴木の巻きおこした、わかりやすくて心地いい色気に圧倒されまくったのである。

12/19 スーパーカレーMAX増殖中!!

くれいじぃ～ファッキン！　もそろそろ定着してきた闘龍門１番人気のＣＩＭＡ率いるクレイジーＭＡＸはみちプロに参戦するとスーパーボーイ＆カレーマンも加わり、さらに増殖し"スーパーカレーＭＡＸ"となる。現在、みちプロではフリーのチャパリータＡＳＡＲＩが、みちプロ女子部門を背負い大活躍中なのであるが、そこで、黙っちゃいない男ＣＩＭＡが横やりを入れた。「ＡＳＡＲＩちゃ～ん！　ボクは男の子やからキミと闘うわけにはいきませ～ん。だから、新しく仲間を紹介しま～す」というナメ切った口調で、ＣＩＭＡが呼んだ刺客とは……。そして、聞き慣れた音楽が会場全体に鳴り響き、登場してきたのは下田美馬であった！　「ボクのお姉さんです。ＣＩＭＡとくればＭＩＭＡでしょう」と可愛い悪の華は、このお姉さんに『クレイジーＲＯＳＥ』という称号を与えた。これでみちプロ女子部にも悪の華が咲き乱れることは間違いなさそうだ。

12/21 アマレス生まれのプロレス育ちなプロレスラー大集結！

新日と全日のそろい踏みという大事件もあり、永田vs中西という好カードも組まれ、アレクと谷津が初激突（当初はシングルマッチと発表されていたが、直前にタッグに変更になった）、桜庭と高橋の公開スパーリング……etcとみどころは十分だった。だが、なぜか客席は寂しい入り。カシンが試合後に「全然、客が入ってねえじゃねえか！」と憤慨したのも無理はない。同日に後楽園で行われたみちのくプロレスの興行は超満員だったというから、そっちに持っていかれたのだろうか？

だが、レスリング協会はこんなことでへこたれるほどヤワではない！　なんと、関節技とポイント制をミックスした「プロ・アマ統一ルール」を計画しているという。これが実現したら、一体どうなってしまうのか？　「それって、ようするにコンバット・レスリング？」というツッコミはこの際入れず、今後のプロ・アマの交流の推移を見守っていきたい。

1/5 極道プロレスvsハードコアレスリング どちらのキャラが強いのか!?

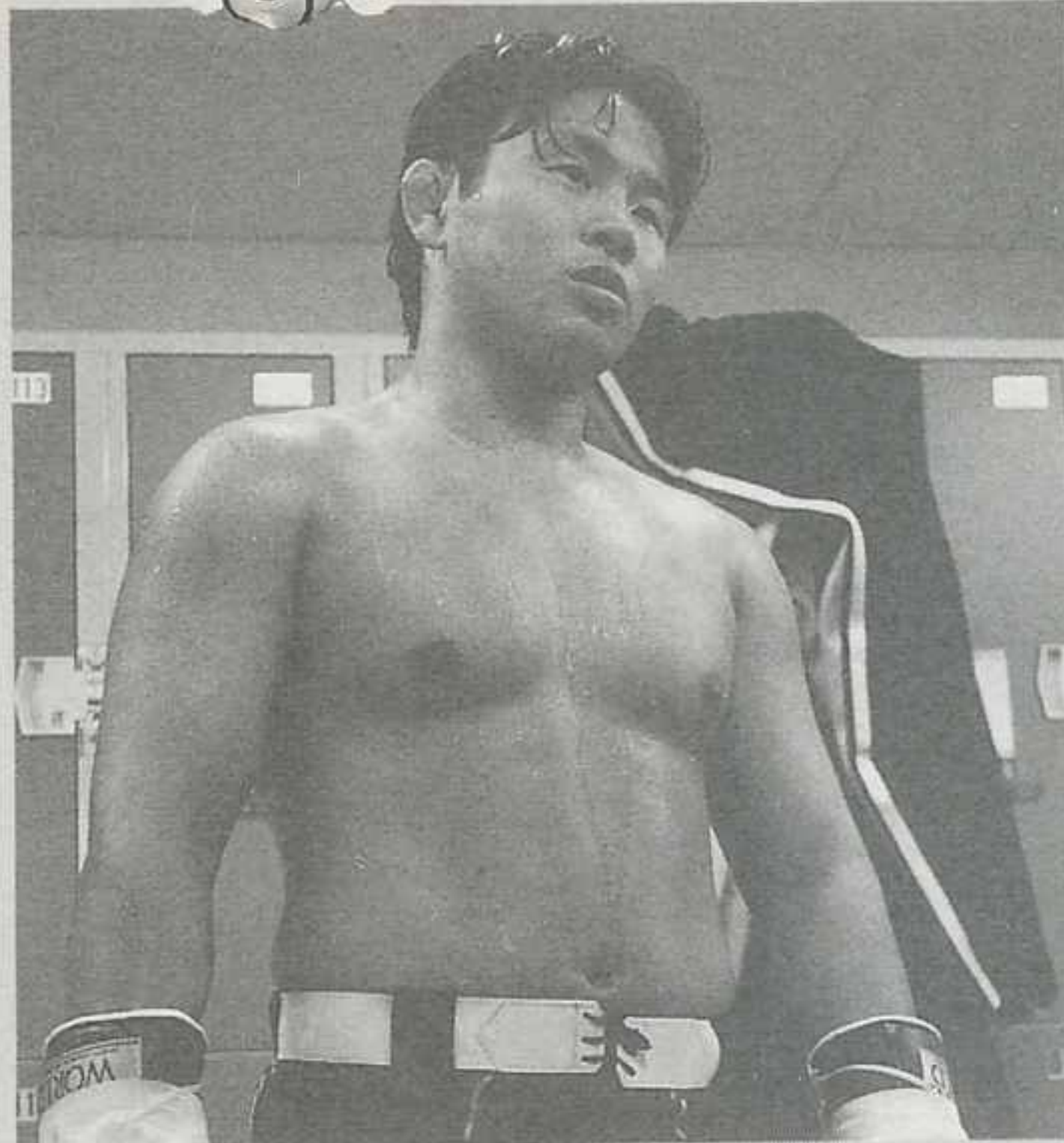
ＦＭＷ、2000年初興行となるこの日、会場は超満員の札止め。現在「エンターティメント路線」まっしぐら、のってぐらなＦＭＷのアメリカンナイズされた空間におおよそ不似合いな、あの男がやってきた！　小鹿だ！　そして、傍らには山川の姿もある。３日前の大の本の興行に、ＴＮＲの面々が乱入したことに対するお礼参りである。興奮かくせぬご様子で東北弁を乱射するグレイトフル小鹿に向かって「チケットもってんのか？」などと、お約束な切り返しで応戦する金村。結局、大乱闘には発展しなかったが、ＴＮＲ潰しを公言している山川の動向も含め、今後の展開が気になるところ。果たしてエンターティメント・プロレスとやらは大日本プロレスのドロ臭さ血生臭さまでをも包み込むことが出来るのか？　しかし、この日出場したどの選手よりもインパクトがありキャラが立っていたのは小鹿社長その人であったのもまた事実。さて、小鹿を殺るのは誰なのか？（＝WHO KILL THE BANBI？）……ってなわけで、こうご期待！

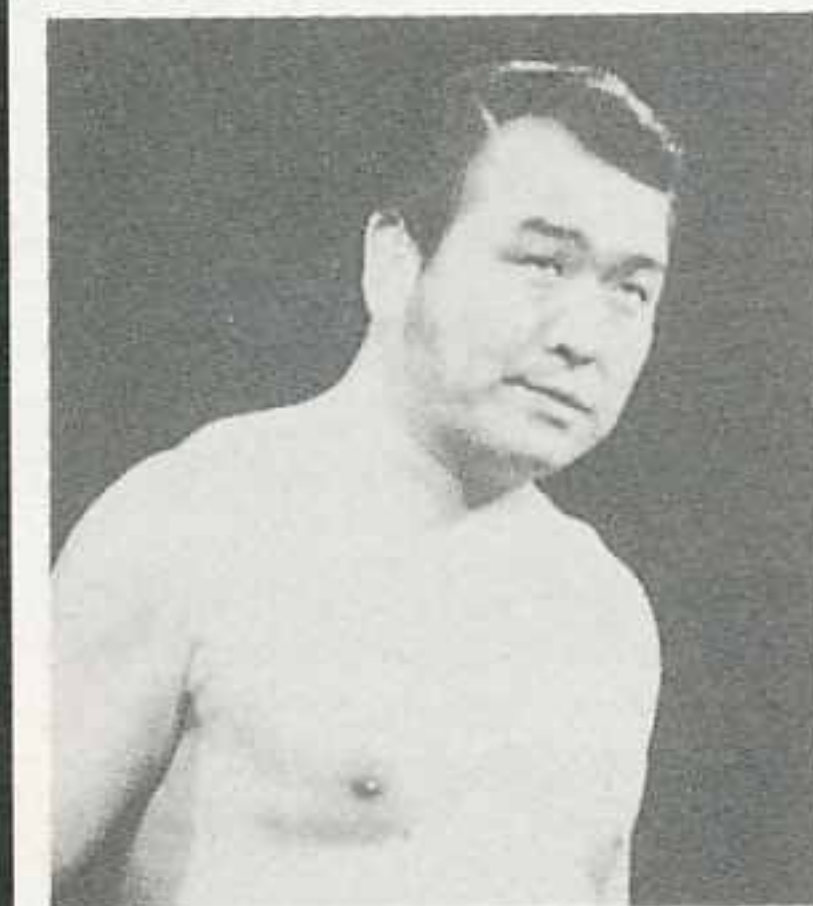
1/6 千葉県の茂原を襲った未曽有のタチ・バブル！

大刀光の『ＰＲＩＤＥ．ＧＰ』参戦が決定した翌日、ＳＰＷＦは２０００年一発目の興行を行った。全選手にコメントを聞いてまわっていると、やがて試合が始まる。すると、試合開始前にリングアナの鳴海剛から「大刀光選手の『ＰＲＩＤＥ』参戦が決定いたしましたーっ！」とアナウンス。茂原の地元のお客さんはリアクションは大きくなかったが、マニアからは「タチ、サイキョ～だぁ！」と歓声が上がる。

休憩時間には大刀光のサイン会も行われた。あまり事情を飲み込めていないようだった茂原の人々も、時が経つに連れて何かありがたいものを見るようにタチの周りへ集まる。ＬＬサイズしかないチーム・コンボイＴシャツも飛ぶように売れる！　売れる！　正月から、景気がよくなっていいことだ。

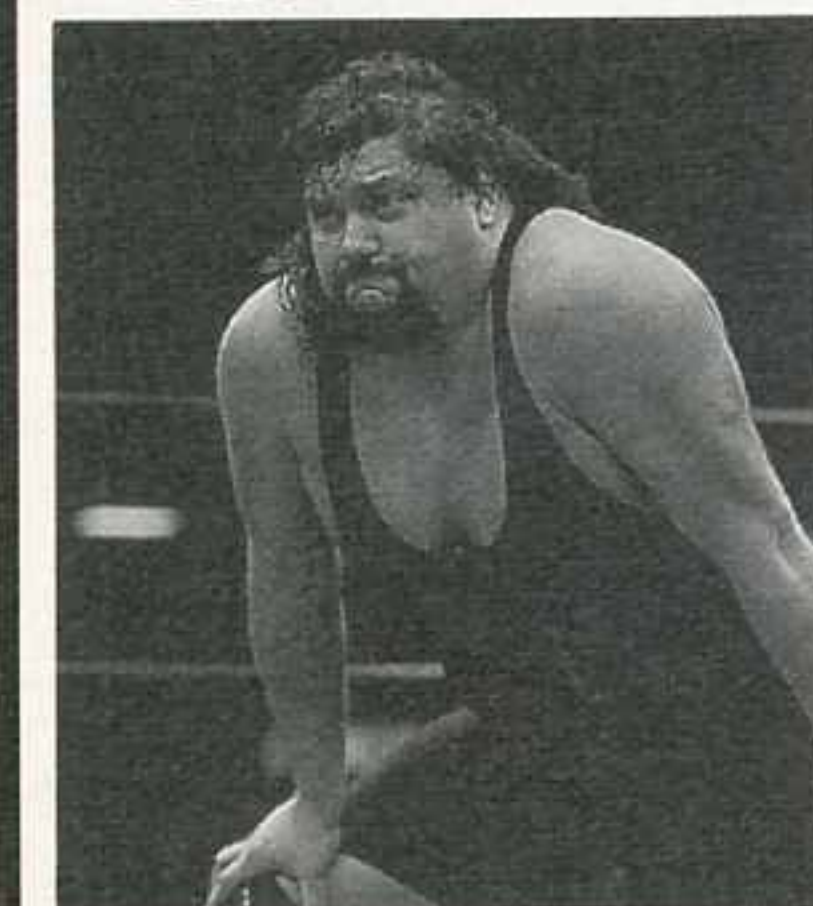
試合も、大刀光がガンガンと攻め込み、最後も怒濤の張り手一発で高智をフォール！　「当日は、この数倍キツいのをお見舞いするよ！」とコメントまで景気のいい大刀光だった。

1/4 元SASUKE組の村濱が遂に大阪プロレスでデビュー！ デルフィンとの単線を熱望!!

「ガチプロは嫌いなんですよ！　あんなの色モンじゃないですか!!　現役の時はやらないですね」「ルミナと村濱は今、なにやっても許されるんですよ！」と『紙プロ』８号で吠えまくっていた、目が潰れるくらい輝かしすぎる経歴を持つシュートボクシングのエースであった村濱武洋（当時はＳＡＳＵＫＥ組でしたよね）がＳＢを辞め、大阪プロレスに入団し（肩書きはフリー格闘家）なみはやドームでデビューした。村濱と言えば、大のプロレス好きとして有名ではあったものの、シューティング出身の四代目タイガーマスクの言う「スーパーの上とかでやってる催し物を見にいく感覚」（辛口だなぁ～タイガー）という"キャラクター戦士の宝庫"大阪プロレスのリングで何をやらかそうとしてるのだろうか……？　そしてこの日、久しぶりに見る村濱は入場シーンだけでもオーラを放っており、村濱のことを知らない観客も沸きに沸きまくっていた。ここで、村濱は村濱っていう素のキャラクターで十分通用することを確認した。そして対戦相手の星川尚浩をＫＯした後、「この団体の頂点の人とやりたいです！」と宣言！　ということはプロレスやるの？　という質問をぶつけた記者に対して「まあ、このルールで」と答えていた。「まあ」ってことは「当分」という風に受け取らせてもらう。そのヘビーウエイトからして村濱がデルフィンと対戦する日も近いのであろう。正直言って私は見たい50％、見たくない50％だが、村濱から目を離せないのは１００％である。

11/27 昭和プロレスの灯がまたひとつ消えた 素足の大将ヒロ・マツダ逝く

今号のザ・グレート・サスケインタビューでも登場するヒロ・マツダさんは、５年前から大腸ガンを患っており、一昨年にはガンが肝臓に転移し入退院を繰り返していた。高校生のころプロ野球のスカウトもくるくらいの名投手であったのだが、力道山プロレスの大ブームであり、腕っぷしに自信があったため力道山に直談判をし日本プロレスへ入門する。しかし力道山の強引すぎる指導に反発し、不遇時代がつづき日本プロレスを離脱。そして、単身で世界を渡り歩きアメリカ、フロリダ州タンパを拠点とした生活を送ることとなる。

凱旋帰国をした時は、カール・ゴッチ直伝のジャーマン・スープレックスを日本人で最初に見せたレスラーであり、日本とアメリカのパイプ役として日本マット界に多大なる貢献されたのだった。合掌。

お悔やみ申し上げます

1/7 さらば赤鬼！ フォエバー、オブライト

ＵＷＦインター、全日本プロレスのトップ外人レスラーとして活躍したゲーリー・オブライトさんが、１月７日午後９時30分（日本時間８日午前10時30分）、アメリカ・ペンシルベニア州で行われた試合中、死去した。死因は急性心不全とみられ、試合前から胸の痛みを訴えていたという。

オブライトさんは90年６月に新日本プロレスにゲーリー・オルブライトの名で初来日。91年にＵＷＦインターに参戦してその実力を開花させ、95年からは全日本プロレスのトップ外人の一角として活躍。約９年間日本マット界の第一線を闘い抜いた。

オブライトさんのファイトで印象深いのは何と言ってもＵＷＦインター時代。絶頂期の高田延彦のライバルとして格闘技世界一決定戦、プロレスリング世界ヘビー級選手権を争った。その他にもスーパー・ベイダー戦、全日本での川田利明戦など、記録にもファンの記憶にも残るレスラーだった。合掌。

12/23 大仁田厚に愛の宅急便

神格闘十字軍教祖・矢口壹琅が、たった一人で旗揚げしたＧ・Ｏ・Ｄ。第１弾興行？として「路上ゲリラミサ」を歌舞伎町のコマ劇前で敢行。その名も、Ｇ・Ｏ・Ｄスターティングオーヴァー観客エニーウェアースクランブルトルネードストリートミュージシャンスタイルエニーチャージコレクションクリスマスミサデスマッチである。いざライブを始めようと思った瞬間、どこからともなく怖そうなお兄さんが矢口を連れ去ったのだ。「ここでやりたいんならお金を払いな！」ということらしい。数十分後、矢口は「俺の愛が通じましたよ！」と満面の笑みで戻ってきた。どうやら、「お金を取らなければライブをやってもいい」との許可が出たようで、さっそくゲリラライブが始まった。矢口は弾き語りでイマジンを熱唱し、「なんでここでライブをやったかというと、(うしろを指差し）アレを見ろ！」と指された方に目をやると、そこにはクラブハイツという看板が。挑戦状という名のラブレターを大仁田厚に直に渡そうというのだった。（続く）

10/23 世界最強の予想屋

リングでのファイト同様、世界一の一発を見舞ってやる！　と馬にまで「目を覚ましてくださ～い！」と言いそうな世界に羽ばたくオーちゃんが橋本真也のみならず、競争。というのは、『日刊スポーツ』紙上での10週連続競馬予想のコーナーを受け持っていたのだが、……残念ながらもう終了している。すんまそん。じつはオーちゃんはほんの２年半前までＪＲＡの職員だった人物である。ＪＲＡ時代、新人研修は競馬の志向規則の講義から実際に乗馬訓練までみっちり叩き込まれ、10日間に渡る牧場止まりこみ作業もやり、ハッキリ言って馬に関しては誰よりも詳しいというか血統の知識まで持っているというから驚きなのだ。そんなオーちゃんがこの予想コーナーでバッチリ的中させたのが12月の阪神３才牝馬である。いつ、何時でも「しかけてやる！」というオーちゃんの頭脳はもしかしたら競馬でトレーニングされているのかもしれない。（日刊スポーツ）

忘年会

12/16 スモーノブがバーミアン・スタンプの犠牲に!

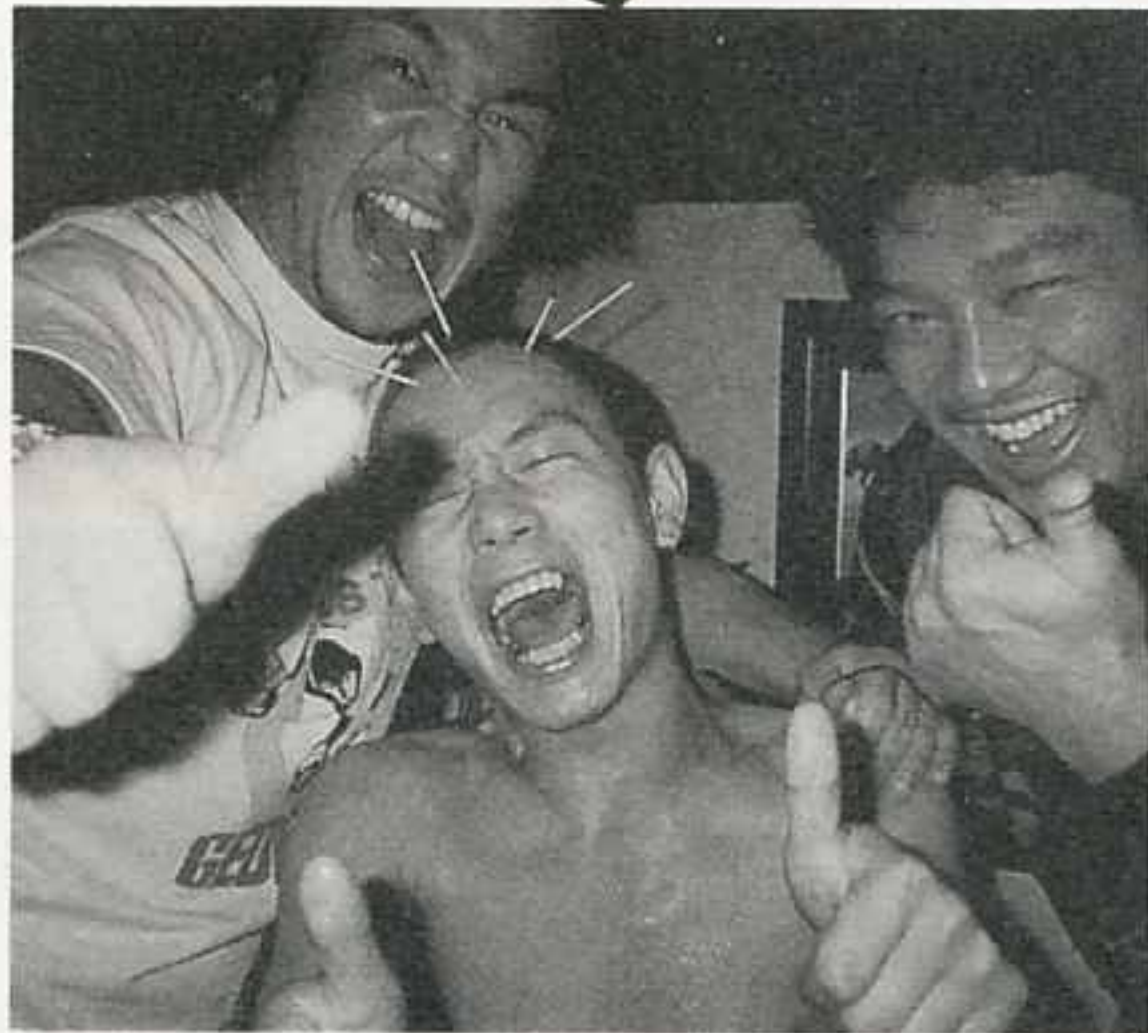
突然、キヤーーーーッ！ という、どす黒い悲鳴が響きわたった。そこには、スモー・ノブが全裸の小坪弘良（以下ツボ）にバーミアン・スタンプを決められていたというバトラーツ忘年会、この写真はモハにやられてるとこだが。この日の主役は、バトなのに“ツボ”である。のっけからハイ・スピードでビールをぐびぐび。その後は、爪楊枝を顔中に（身体中にも）指し、挙げ句♪アチーチーアチ～（ヒロミ・ゴーを熱唱！）と1人カラオケで誰も聞いてないのに盛り上がりまくるという、誰にも喜ばれない行為をいつ、何時でもするヤツなのだ。そして、ヘロヘロのスモーに「なんで、大和魂Tシャツ着てるんだよ！」とビリビリに破きまくり、スモーノブを全裸ブラザーズに仲間入り（実に汚い2人組）させたのであった。お前らアホか!?

12/18 私はJカップに出たいです（クーガー）

『青空プロレス道場』の常連だった原恒明氏が「アジアン・クーガー選手とファンとの忘年会」という、実にストレートなタイトルのイベントを開催した。歌舞伎町で行われたこの忘年会には30人以上のファンと、ゲストとしてファントム船越、西野勇喜も参加。途中で覆面姿の男が乱入、自ら覆面を取ると中から出てきたのはジャイ子の頭上にチョンマゲと称して己のイチモツをデコレートした男・エキサイティング吉田であった。試合用マスク大放出の豪華なビンゴ大会のあと、クーガーは「2000年はスーパーJカップに出場したい！ それにサブゥーとも闘いたい！」と宣言。期待してます。

12/26 最狂の忘年会はリングスが決める

99年12月26日、青空の下毎年恒例のリングス前田道場もちつき大会が、ファン約150人を集めて行われた。参加費無料ながら、もち食べ放題、サインもらい放題で、さらにお酒の振る舞い、選手の愛用品プレゼント・ジャンケン大会まであり、参加者は皆、満足そうな笑みを浮かべて帰路についていた。これでリングス99年度の行事は全て終了……と思ったら大間違い！ その日の夜からは、これまた毎年恒例のリングス忘年会が勃発……もとい、開催された。この忘年会はファンは参加できないものの、選手の素顔が（必要以上に）見れると評判。今年は本誌鬼畜編集長が前田社長から直々にお誘いを受け、チョロ、ガンツを引き連れて参加させて頂いたので、このでその内容を少し紹介しよう。

会は前田社長の乾杯の音頭で和やかにスタート……したのも束の間、予想通り15分後には修羅場に突入。チョロとガンツは成瀬選手の「まずは駆けつけ5杯！」というありがたいお言葉を合図に、選手たちにたくさんのお酒を飲ませて頂いたり、服を脱がせて頂いたり、頭に楊枝を刺して頂いたり、顔面に闘魂を注入していただいたりと、ハード・コンタクトなスキンシップを楽しんだ。この楽しい宴は（たぶん）3次会まで続き、途中、六本木の路上でリングス勢と某選手が遭遇し一触即発の事態になるなど、微笑ましいハプニングも多数発生。KOKの成功で勢いに乗るリングスそのままの盛り上がりをみせた。

12/19 日本一女の子が多い忘年会はRJWだ!!

カレリン・カレリン・カレリン・ミヤケ……（以下続く）というTシャツが大好評のRJWで行われたWK／ネットワーク忘年会。みんな仲良く和気あいあい！ という雰囲気の中、守山代表がキャッキャキャッキャと常に女の子に囲まれており、実は1番人気は宇野くんではなく、守山代表というのも発覚!?「今日は好きなだけ食べて、飲んで騒ぎましょう！」を合い言葉に目の前には食べ物がいっぱいでケンタッキーが山のようにあり、フライドチキンは取り合いであった。そこで、チキンをほおばりながら高瀬選手が「この前のインタビューは大きいこと言ってすいません。でも、もう1回チャンスをください！」とやる気をみせているところに宇野選手が登場し、「ボク、慣れてきたらいっぱい喋るんですよ！」といきなり野球選手のモノマネ（しかも何人も）を披露してくれた。でもそれが似ているのかどうかは全然わからないが、宇野選手の研究熱心さは、よく理解できた。そうこうしてるうちに、RJWの阿部キャプテン（アベ兄ちゃん）がアメリカへ旅立つことが発表され応援ムードが高まるなかで、宴は終了し、日本一女の子が多い、とても左隣りやそのまた左上からは比べものにならないくらい上品な忘年会であった。（だた1つ上品じゃなかったとしたらマスコミがウチだけだったことだろう。）

番外編 1/4 ぼくらの山ちゃん、遂に引退!

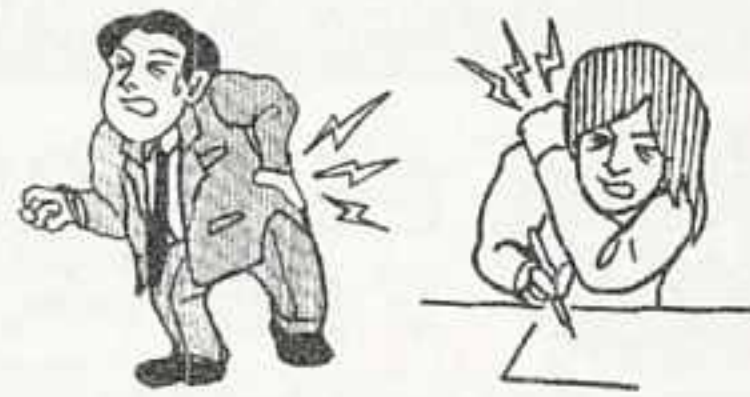
2000年最初の新日本プロレス新春恒例1・4ドーム大会。先の99・10・11ドームではオーちゃん対破壊王の切り札カードを組んだにも関わらずフルハウスにならなかったが、この日は超満員。ほの日の観客の中には「山ちゃんの引退試合だから」という理由で開場に足を運んだ人も多かっただろう。

長州力の有名な「でも、山崎はいい奴だからな」発言や、第2次UWF末期、前田が自腹で払った給料をただひとり返してきたエピソードを出すまでもなく、誰が何と言おうとプロレス界一のいい人、山ちゃん。そんな山ちゃんの人徳からか、この日は前田、高田の両巨頭に田村、金原まで駆けつけた。そんな中、前田もできなかった東京ドームでの引退試合ができた山ちゃんは幸せだ。

引退後は神奈川県・海老名に「山崎バランス治療院」を開業した山ちゃん。肩こりや腰痛持ちの人は、白衣が最高に似合う山ちゃんに会いに行こう。山ちゃん、18年間本当にお疲れさまでした。

※山崎さん、今度ぜひインタビューやらせて下さい。近いうちに、ごあいさつにうかがいます。

山崎バランス治療院
神奈川県海老名市中央区1-8-3えびすビル松本402
☎0462347888

骨法整体師学校開校!

ケンカ、ケンカ、ケンカケーンカ、骨法――ッ！ というわけで、あの日本武道傳骨法が「骨法整体師」を目指す人のために、秘伝の「骨法整体」を遂に門戸開放することになった。骨法整体はあの名番組「スーパージョッキー」のザ・ガンバルマンのコーナーでもお馴染み。その治療効果は抜群で、骨法98手、総合乱取りなど過激な武道の試合も、この骨法整体の治療があるからこそできるのだ。また修了試験合格者には独立開業まで責任を持って指導してくれるとのこと。開校は平成12年4月から6ヶ月。詳しくは 骨法會 03－3362－0010 午後7時半から10時。担当・堀辺

12/16▼12/23 大仁田劇場

オイ、アンタ！長州vs大仁田が見たいか!!

ハイ、見たいデス。

タマリンが参加!!

「オレさぁ〜、数学で凄いイイ点数採ったんだよ！」などと大仁田（高校生）はうれしそ〜な顔をして、親しい人にご報告をしている。試合前は決まって雑談タイムの大仁田を観察するのが大好きなワタシ（タマリン）は、いつもそ〜っと盗み聞きしたりしているのだが、今回ばかりはしくじった。どうやらバレていたようだ。まさか大仁田インタビューをやっているチョロよりも先に大仁田劇場に参加するとは……。実に、後悔と嬉しさがフィフティ、フィフティという思いである。

この日（12／16ＷＡＲ）長州力からの返答がなく1・4東京ドームでの闘いが断たれ、試合終了後の大仁田は大暴れ！　控え室の灰皿をケチらし長州Ｔシャツをビリビリにする中、大仁田劇場は幕を開けた。そして、いきなり「オイ、アンタ！　アンタは長州VS大仁田が見たいかーーッ！」と叫び、（しばらく自分が真鍋アナ役だと気づかないでいると）「オイ、アンタだよ！　アンターーーッ！」と再び怒鳴られた。うわっ、ワタシかよ！と何も考えず「ハイ、見たいデス（ドラえもん口調）」とまるでアホの子のように答えてしまった。これを教訓にして次回の参加日（未定）の日にそなえ、大仁田の役者魂を「ちょっと見習ってみるか！」と思った１日であった。

大仁田劇場参加希望の関係者の皆様。大仁田劇場はホノルルマラソンのように全員参加型なので誰でも参加できます。あしからず。プロレスラーでもあり、役者でもあり高校生でもある大仁田のクリスマスイブイブは、『週刊プロレス』浜部編集長＆『週刊ゴング』金沢編集長とのディナーショーという名のトークライブであった。そこに突然、コマ劇前でＧ・Ｏ・Ｄ旗揚げライブをする矢口が挑戦状を持って乱入してきた。大仁田は笑顔で迎え「オレ、お前好きだから長州戦終わったらやってやるよ!」と答えた。さらに大仁田は長州戦までの過程として、卒業式で同級生＆担任の先生とプロレスをやることも決定!! 2000年も大仁田から目を離すな!!

12/12 祝・hWo 5 years!! だが社長は自分の団体を「全日本」と大失言!!

プロレス旗揚げ5周年記念パーティー

リアル版『路上では警察沙汰団体』こと大日本プロレスの５周年記念パーティーが新横浜プリンスホテル「千鳥」で行われた。当日は日曜日ということもあり、オシャレなホテル内にはプチハイソな若者や結婚式帰りの泥酔オヤジがたたずんでいたが、その雰囲気に訓染むことのない人々が集結した。ちなみに、会場の一角にはＶＩＰコーナーが設置されており、黒いオーラをまき散らす人々が多数集結し必要以上に暴力と昭和の香りを発散させるデッドゾーン。"まさに修羅の群れ"である。お約束のように社長はそこから逃れられず。遅すぎた梶原イズムを体感した。そして、葛西純に「あの、コーナー写真撮ったら、まずいですか？」と訊ねると「生命（タマ）取られますよ！」とひと蹴りされてしまった。

そして、予想以上の盛況で開会！　と思いきや会場が暗転……。突然スクリーンに新川崎で行われた山崎竜司VSシャドウＷＸの熱く悲惨なデスマッチが映しだされ、このパーティーに出席した全ての人々の食欲を奪い取った。そんな寒〜い空気の中小鹿社長のご挨拶。「よくある型通りの言いまわしで喋れるんだ〜」と思っていると、自分の団体を"全日本"と言い切ってしまい、すっかり東北極道節全開しつつも、最終戦（12／4横浜文化体育館）を大日本の生え抜き戦士たちで飾ることができた喜びを吐露。思い起こせば１年前……、数少ないビックネームを「池袋暴行事件」（ポーゴと中牧が離脱宣言をし、その記者会見に小鹿社長が殴り込みをかけた大騒動）で失い、団体存続の崖っぷちに立っていたのだから、99年大日本の躍進はさぞ感慨深いことなのであろう。

山川、ＷＸ、本間朋晃の蛍光灯血風マッチも話題を呼んだが、未来の大日本エース葛西純も台頭し、なおかつ新人が３人もデビューするなど大収穫があった"キワモノインディー最右翼集団"大日本だが、このインディー逆風時代の中にあって年間シリーズを組み、全国をサーキットし続けている団体が、いったいいくつあるのか？　批判は簡単だが、その地道な努力を否定することはできない。離合集散を重ねて、やっとたどりついた５周年。"北の最終兵器"小鹿社長の目はインディー業界最大手（業界第３位）のＦＭＷを捕まえているようである。

（三浦店長※No.20山川竜司を囲むかい参照）

スモーノブ？オレの方が相撲は上だよ!!

■プレゼントコーナー
葛西純画伯入魂の大日本カレンダーを10名様にプレゼントします！　どうしても欲しい！　という激マニアックな人は、会場＆プロレスショップで大日本価格の￥500で販売中。ちなみに、葛西画伯入魂作品は「グレート・チョロのハガキ劇場」でも見れます！

番外編 12/25 スモーノブ、リングで公開全裸処刑

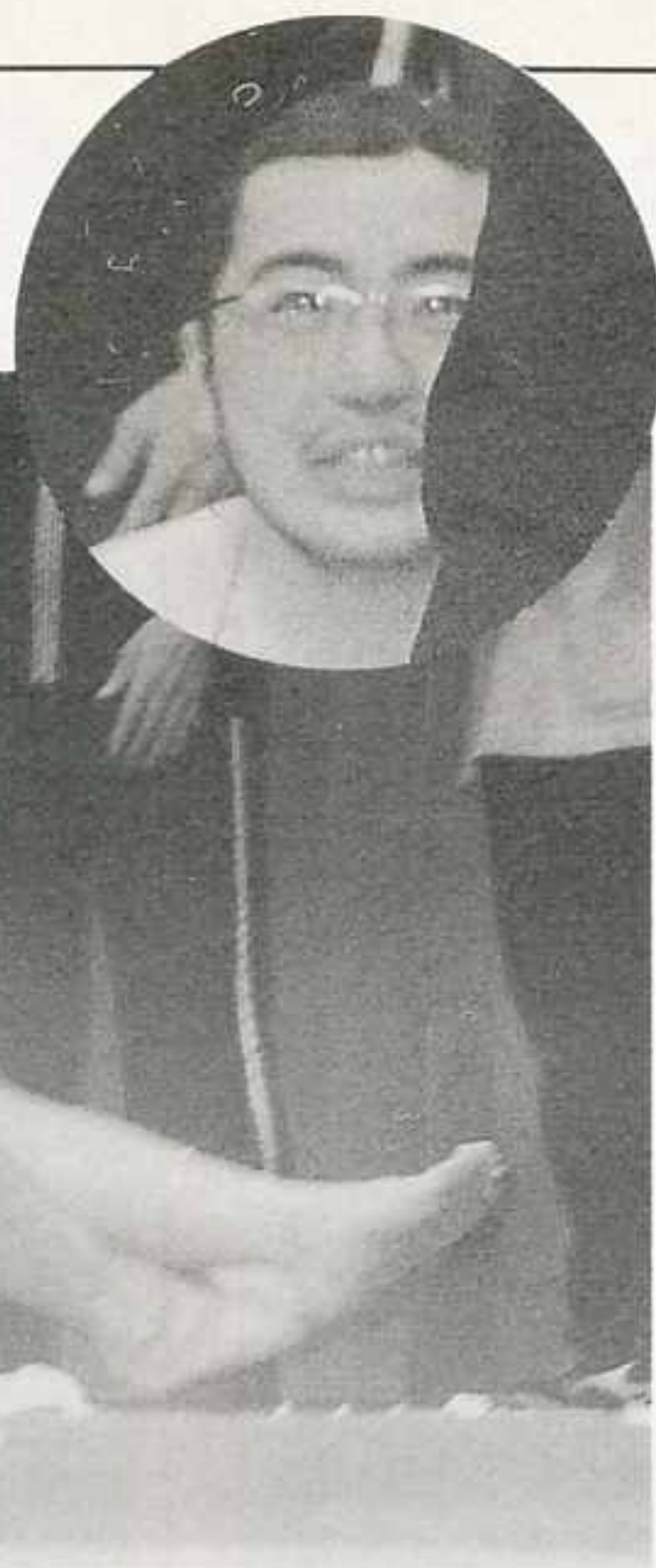
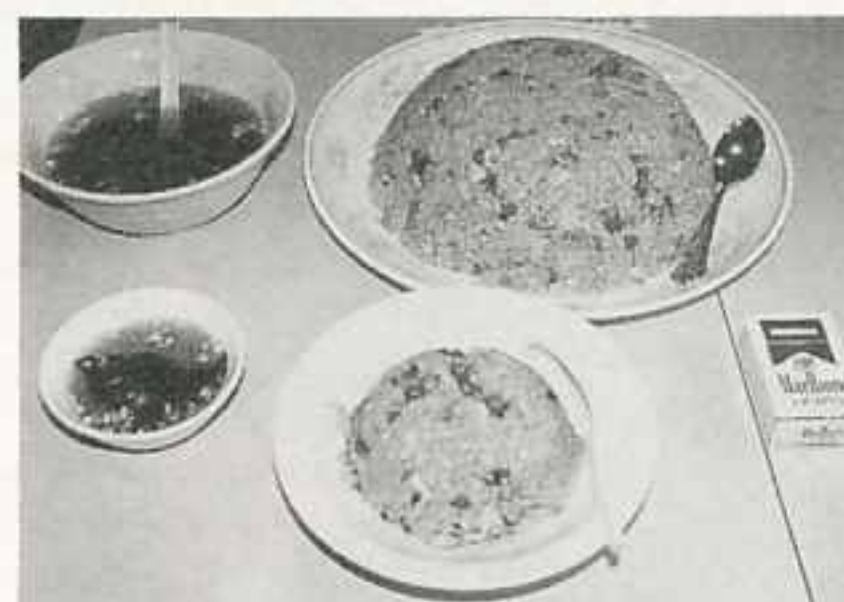
この日は池田＆マッハvs長井＆ヨネという、危険度ＭＡＸのゴツゴツした熱い闘いが繰り広げられた。しかも、長井のニールキックを激しく顔面で受け止めたマッハ純二は、これで全治２～３ヶ月の重傷（眼底骨折らしい）を負うというハードな内容である。長井の重すぎる打撃と、池田のバチバチファイトが交錯したじつにいい試合だった。

が、その後のリング上ではプロレス史に類を見ない珍事件が発生した。

この写真の前ではすべての言葉が何の役にも立たないと思うが、それでも説明しよう。この日は年内最終興行ということで、メイン終了後に表彰式が行われた。昨年のバトラーツで最も活躍した選手に各マスコミから記念品が送られるのだ。そんな中に『紙プロ』を代表して、オムツ一丁のバカ男が現れた。スモーノブである。新ジムのために水１年分をバトラーツ・ジムにプレゼントした後、惨劇は起こった。

「イケーッ!!」という石川社長の声とともに、小坪選手、というよりは服を着たツボ原人がオムツをビリビリとむしり取っていく。リング上で泣き顔のスモーノブ。あとで泣きそうな顔を突っ込まれると「オレ、いい写真が撮れたばい？」と強がるのが精一杯。

相撲ルールだと、「モロ出し＝負け」である。この日のスモーノブは、プロレスラーでもないのに、歴史的な一敗をリング上で記録した。

この模様は、この大会を報じる『週プロ』にも掲載されたが残念ながら顔までは写っていなかった。チッ!!

番外編 12/8 スモーノブが限界にチャレンジ!!

スモー・ノブが天職を果たすべく『１升チャーハン』という新たなコメの山に挑戦することになったのだが……。ここは、ビック食い処で有名な神楽坂飯店なだが、今回スモーノブと共に挑戦するのは“出前持ち入江さん”。(目次参照) スモーも「どすこ～い！軽いでごわす!!」と鼻息も荒げ、全女の新人、関綾子なんて目じゃないだろうという雰囲気は確かにあった。そして、制限時間１時間の中スタート。出だしから２人とも絶好調！　約10分で半分を食い尽くすもすでに不穏な声を出すようになってきたスモー。そして、時間だけが無惨にも過ぎ終了のゴングがなった。それと同時に勢いよく席を立ち、トイレにかけ込み「オエ～、ゲボゲボゲボ～」と大音響が鳴り響き店もダークなムード。結局、食した時間は10分。入江さんの方が頑張った。情けなさすぎる。今後これに懲りずに、相撲ロマンを突き進めーッ!!　スモーノブ!!　バ～カ！

番外編 12/13 プロレスイベントの聖地・ロックウエストで恒例の島田裕二レフェリーイベント・忘年会バージョン開催!!

電撃ネットワークの南部さん曰く「日本で一番うまいレフリ～！」らしい、島田裕二レフェリープロデュース・イベント『年忘れ大忘年会INロックウエスト』について書かなければならないのだが、年忘れどころか、その内容まですっかり忘れてしまって困っているところである。目をつぶると、思い出すのは島田さんの、あのうすら笑いと、テキトー＆いいかげん極まりない発言の数々。紙プロ編集部員を「クズ社員」「僕の下僕」との愛称で呼ぶばかりか「実は『紙プロ』は僕が出してるんですよ。スポンサーは僕です。は～い」などとプロレスファンもまばらなのにもかかわらずテキトーなことを言いまくる島田氏。こんな素敵な島田氏に加え、特別ゲストとして、我らが山口日昇が現れたからますます手に負えない。エンターティメント路線はどうですか？と尋ねられれば「どっちでもいいですね」と答え、「藤波社長も下ネタ好きらしいですよ……知らないっすけど」とウソをつく。更には、今年のマット界のニュース・ベスト３に「ニーハオ選手が掣圏道に出たことです」などと、ニーハオ選手が会場にいるだけで思いついたとしか思えないテキトーな発言を、明らかに帰りたそうなそぶりをしながら言い放つ。安生の友人であるらしい電撃ネットワークのギュウゾウ氏が、さも得意げに話すマット界暴露話もまるで無視して、いい加減なことばかり言いまくる、この２人こそが、まさにノー・フィアー！　そんな島田氏も最後は小野武志選手と共に、ふとん圧縮パックに詰め込めれ懲らしめられたわけだが、それでも「最高！」と叫び、いつ何時でも営業スマイルを忘れない島田イズムに恐れ入った。ハクソン君にペットボトルを投げつけられても、失うことのなかった（かどうかしらぬが）、あの島田氏の”うすら笑いを見習い、「どんなに道は険しくとも、うすら笑って歩こうぜーッ！」の精神でいくことを心に誓った筆者なのであった。(恒遠“おりこうさん”ツネ)

番外編 1/9

「最高ですよーッ!! 来年は主演女優賞を狙います」(みちプロ2000最優秀脚本賞・山口日昇・談)

最優秀邦楽アーティスト賞は西城秀樹さんです！ と篠塚リングアナが発表した瞬間、ドアがバーン！ と開き「えっ!? ヒデキ登場？」と誰もが期待に胸を膨らませたが、登場したのは本誌編集長山口日昇であったという『みちプロ大賞2000』の授賞式。サスケセンスが爆発した各賞は以下の通り。なぜラクリマ?

最高試合賞（ベストバウト）11月5日、岩手・花巻市民体育館
　グラン浜田＆藤田　稔　vs　ＣＩＭＡ＆ＳＵＷＡ
最優秀外国人賞　カレー・マン（インド）
最優秀女子選手賞　チャパリータＡＳＡＲＩ
最高技術賞　10月10日、神奈川・横浜文化体育館
「眉山（びざん）」　新崎人生＆アレクサンダー大塚
最優秀代理店賞　森天祐堂（仙台市）
最優秀報道陣賞　石川一雄カメラマン（週プロ）
最優秀脚本賞　山口日昇（紙プロ）
最優秀ディレクター賞　斉藤充（JCTV）
最優秀作品賞　「Wild things」マット・ディロン主演
最優秀男優賞　ハーレイ・ジョエル・オスメント「シックス・センス」
最優秀女優賞　三田　佐代子「ザ・グレート・サスケ　エピソード３」
最優秀テレビ番組賞　「アリー・ｍｙラブ２」（ＮＨＫ総合）
最優秀ラジオ番組賞　「フリークラブスタジオ」（ラヂオもりおか）
音楽部門　邦楽グループ賞　ラクリマ・クリスティ
音楽部門　邦楽アーティスト賞　西城　秀樹
音楽部門 洋楽アーティスト賞　シェール
最優秀観衆賞　1月10日、宮城・ニューワールド仙台ヨネ原人引退試合
最優秀声援賞　大越真理子(秋田県)
最優秀コスプレ賞　東　恵一郎（新潟）（リングサイドのオクタゴン）
最優秀手紙賞　諸井恵美（東京都）
音楽部門　新人賞　ブリトニー・スピアーズ
音楽部門　楽曲賞「天使のように」

番外編 12/20

浪花事件発生!

ボク〜
のみすぎ
たんです

この日は、みちプロ出稼ぎシリーズ番外編『喋りすぎた夜に』である。サスケ社長は大遅刻いうことで、浪花君からトークはスタート！ だが、飲んでたワインをブッこぼし大暴れ＆毒舌の嵐!! あげく浪花君はフラフラしながらさまようことこの上なし。いったいこのカニはどこへ行くのやら……。そして次の日の後楽園大会控え室で浪花君は、「昨日はスイマセンでした」と許してもらえるわけもなく、ションボリ。まぁしょうがないよ、浪花くん。だって君のせいで、このイベント赤字が出たんだもの。

番外編

プロレス見るならスカイスポーツに入ろう!

去る１月２日、スカイパーフェクＴＶ上のスカイスポーツで北野誠＆浅草キッドがホスト役を務めて、強烈なプロレス番組が放送された。司会がツワモノのプロレス通だけに、収録現場も「カンちゃんの店」。さらに登場したゲストも、ビル・ロビンソン＆宮戸優光、アレクサンダー大塚、ターザン山本などなど、一筋縄ではいかない曲者ばかり。中でも、こういった場に出てくることの少ないロビンソンは、プロレスにあまり詳しくないスタッフの何気ない質問に「お前は何もわかってない！」と興奮し、控室で関節技講座を始めたという情報も入ってきた。こんな濃い特番が組めるのも衛星放送ならではであろう。

現在、スカイスポーツではプロレスファンなら必見のＷＷＦ『RAW IS WAR』やブラジルの過激なバーリ・トゥード『IVC』も放送中！ こんな両極端な２つの“闘い”を見たかったら迷わずスカパーに加入だ！ 番組に関するお問い合せはスカイエンターテイメントお客様案内■03-5500-3488（9：30〜18：00）まで。

番外編－７

世界のプロレスを見ないヤツは死刑!!

今号でカラー２Ｐ確保していながら、ボクのスローモーな仕事っぷりのせいで、急遽、情報ページに移動となってしまった。写真や取材で協力してくれたスペル・テポドン１号＆２号＆５号さん申し訳ありません。次号で必ず『世界の』ページを確保しますので、お許し下さい。今回は99年12月８、９日に福岡でひっそりと行われた『世界のプロレス』２連戦の模様をちっとだけ報告する。まず、８日に行われたアクシオン福岡大会。この大会のクライマックスはメインの試合中に勃発した。時間は午後８時４５分。メインイベントは絶賛闘い中である。その時突然、「この体育館は県条例により、あと１５分で使用できなくなります」との館内放送が流され、実際９時になるとノーコンテスト判定が下されたのだ。おそるべし福岡県条例！ そして『世界のプロレス』！ 最後にテポドン５号の一言「例えれば、『世界』は、関東で大手の予備校がいっぱいあるじゃないですか。受験マニアが集まってるんですけど、腕に覚えのある受験マニアが九州のちっちゃな塾で凄い模擬試験をやってるというんで行ってみたら、べらぼうに難しかったと。こういうっちっちゃい塾は地方にもあるんだと帰ってきて、東京でまた模擬試験を受けると全然燃えないと。『世界』を見てからこっちのインディーを見るとちょっとつらいかなと」。ハッキリ言ってそういうことです。ブシュ〜！（チョロ）

★★★プロレス＆格闘技専門ビデオショップ★★★

チャンピオン
Champion

【広告のページです】

2000年の闘魂注入はChampionにおまかせ!!

今回の広告には、Championも全面協力した業界初のプロレスコントビデオ『ブラジルから来た芸人』の発売を記念して、主演男優のお笑い芸人・青木竜象さんをモデルとして起用します！　似てるのか似てないのかわからないA・猪木のコスプレでY2Kもぶっ飛ばせ!（えっ!?　もう解決済み?）

Championが全面協力した業界初のプロレスコントビデオ『ブラジルから来た芸人』も売ってるゾーっ!!

本誌編集長も登場した某ＦＭ局のプロレス番組『お笑いプロレス道場』のメイン・パーソナリティーである青木竜象さんのビデオ作品が発売となる。題して、「青木竜象のバトル魂斗ビデオ　ブラジルから来た芸人」（発売元・アックスボンバー）だ！　Champion店長も出演しており、全面バックアップ体制である。青木竜象さんのコントやターザン山本邸討ち入りなど、他では見れない貴重な映像が満載！　１月30日（日）からプロレスショップなどで発売開始！　定価は￥2500（予定）。

闘魂タオル　￥2500
猪木グッズの中でも定番中の定番！　もちろん青木竜象さんも愛用中！

春一番　キング・オブ・ヘタレTシャツ　￥4500
猪木といえば春一番！　というわけで、新日風のラグランTシャツだぁ～！

春一番　闘魂伝笑2Tシャツ　￥3800
チャンピオンでバカ売れした春一番Tシャツの第2弾！　これでみんなと差を付けろ！

オーちゃんフィギュア（飛行機orファイティングポーズ）価格未定
新日フィギュアシリーズで、オーちゃんが2種類も出た！　2月発売予定！

大仁田　邪道Tシャツ　￥3000
猪木とは対極にあるはずの大仁田Tシャツも売ってます！　邪道の文字がかっこいい！

U.F.O.Tシャツ（猪木サイン入り）￥3000
アジア進出も決定して勢いづくUFO！　キミもこれを着てUFOに乗れ！

店がどんなに遠くても、笑いながら歩こうぜ！　いつ何時、誰の注文でも受ける通販方法！

＜グッズ通信販売＞

チャンピオンには、ビデオを中心に、雑誌の最新号＆バックナンバー、単行本、Ｔシャツ、フィギュア、テレカ、トレーディング・カード、マスク、選手のコスチュームなどなど、古今東西のありとあらゆるプロレスグッズが揃ってます!!　もちろん『紙プロ』のバックナンバーもズラリとあります。さらに限定販売中の『紙プロ』Ｔシャツも、ここなら買える！　プロレスファンよ、いますぐ来い！

通販を希望される方は住所・氏名・電話番号を明記の上、１電話・２ハガキ・３ＦＡＸいずれかの方法にてご注文ください。代金引換になりますので、代金＋送料をお支払いください。入金確認後、商品を発送いたします。在庫がないものもありますので、ＴＥＬにて確認の上お申し込みください。

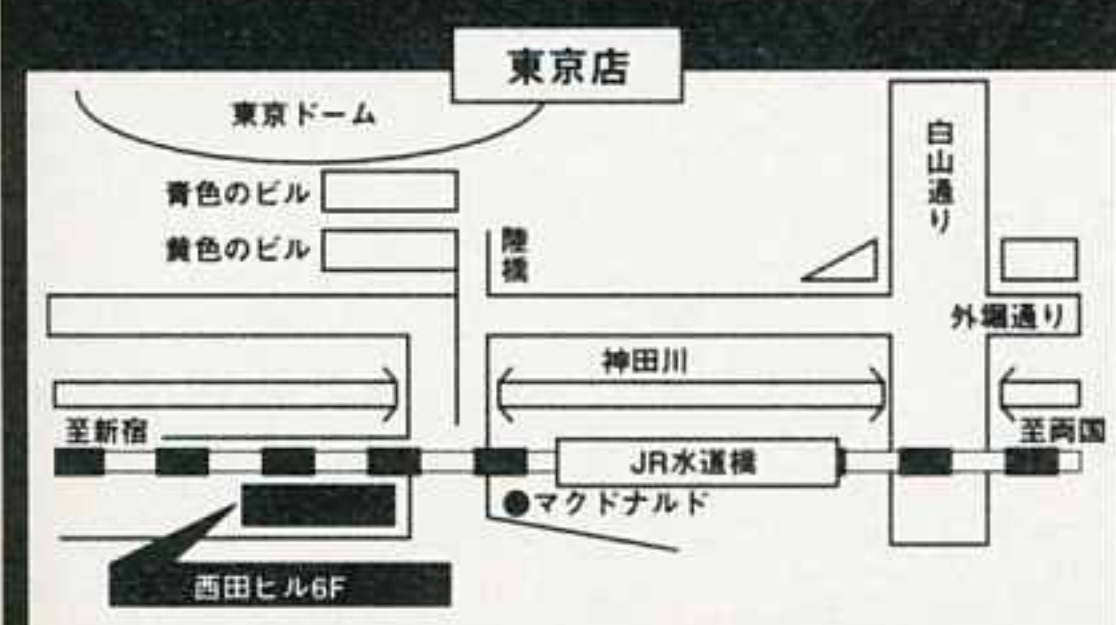
＜ビデオのレンタル方法＞

地方からも利用可能なチャンピオン独自の便利なビデオ・レンタルシステムの妙技を味わいやがれ!!　レンタル方法は以下の３通り！　どう借りるかは、あなたの都合に合わせてくれ！

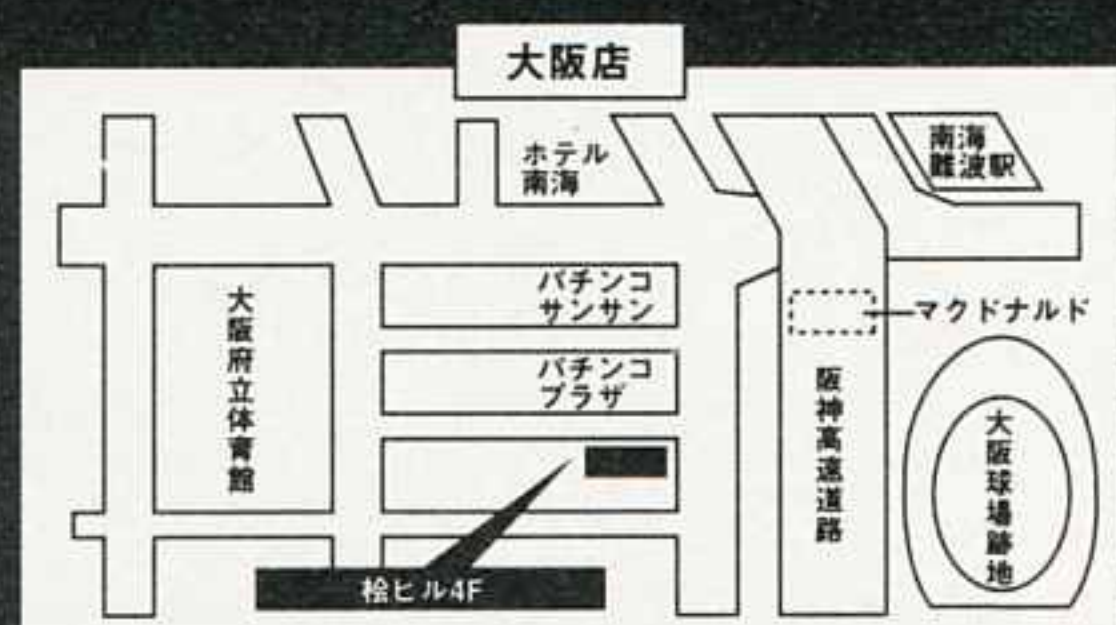
1. 店頭にてレンタル、店頭へのご返却
2. 店頭にてレンタル、宅配便でのご返送
3. ＴＥＬ・ＦＡＸにてご注文、往復宅配便レンタル

いずれかの方法で注文をお願いします！　東日本地区に住んでいる方は東京店で構いませんが、西日本地区の方は大阪店を利用してください。また、通信レンタル会員を希望される方は、400円切手を同封の上、住所、氏名、電話番号を必ず記入してChampionまで郵送してください。

Champion東京店

東京店
東京ドーム
青色のビル
黄色のビル
陸橋
白山通り
外堀通り
神田川
至新宿
JR水道橋
至両国
マクドナルド
西田ビル6F

〒101-0061
東京都千代田区三崎町3-8-1西田ビル6F
TEL.03-3221-6237　FAX.03-3221-6267
営業時間　11:00～22:20（年中無休）

Champion大阪店

大阪店
ホテル南海
南海難波駅
大阪府立体育館
パチンコサンサン
パチンコプラザ
マクドナルド
阪神高速道路
大阪球場跡地
桧ビル4F

〒556-0011
大阪市浪速区難波中3-3-23桧ビル4F
TEL.06-6645-5186　FAX.06-6645-5187
営業時間　11:00～22:00（年中無休）

オフィシャルビデオランキング

こんな広告ばっかりだとビデオ・レンタルが本業だということが忘れられそうなので、人気のビデオ・ランキングをつけました。借りるときの参考にしてください！

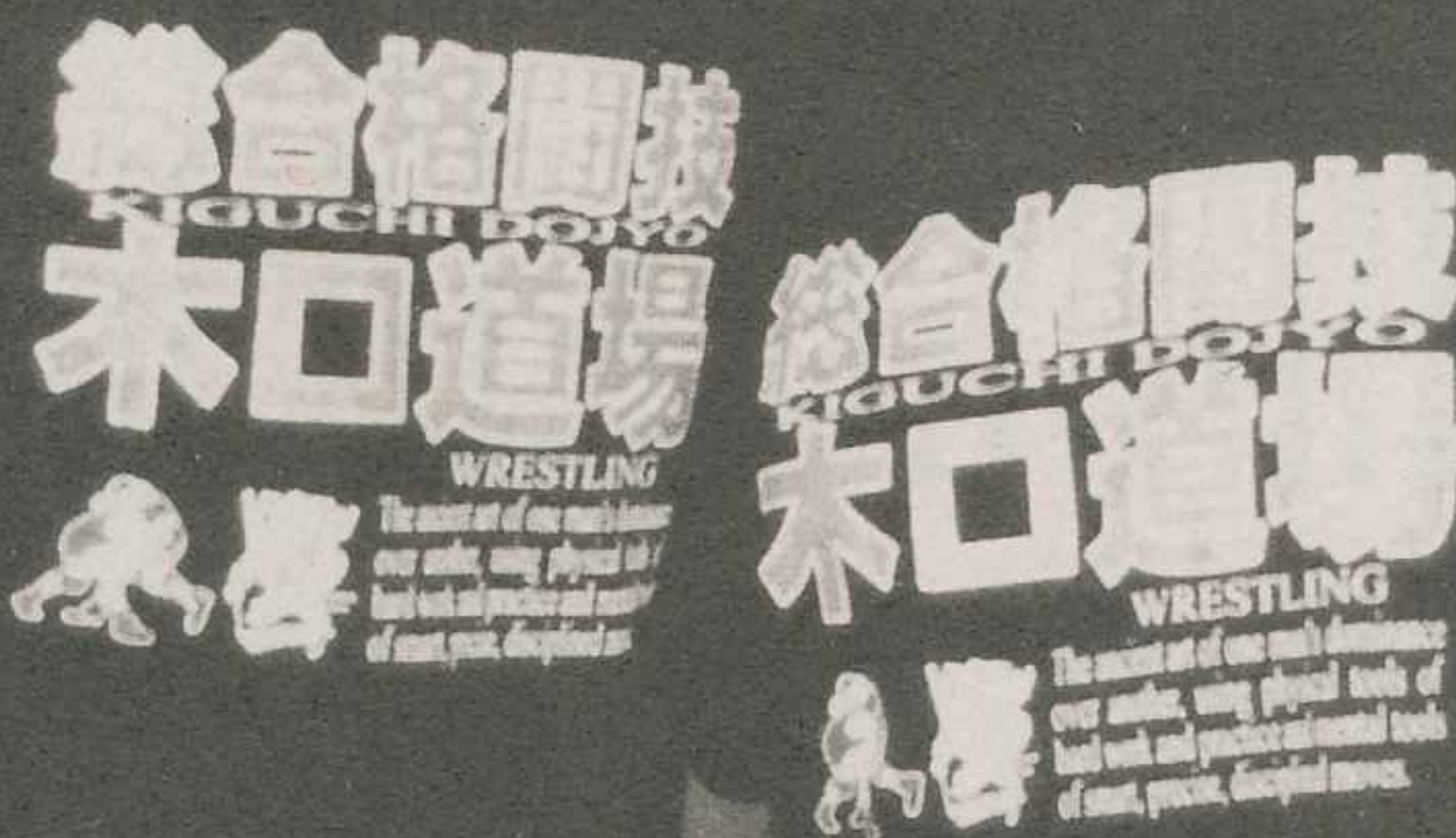
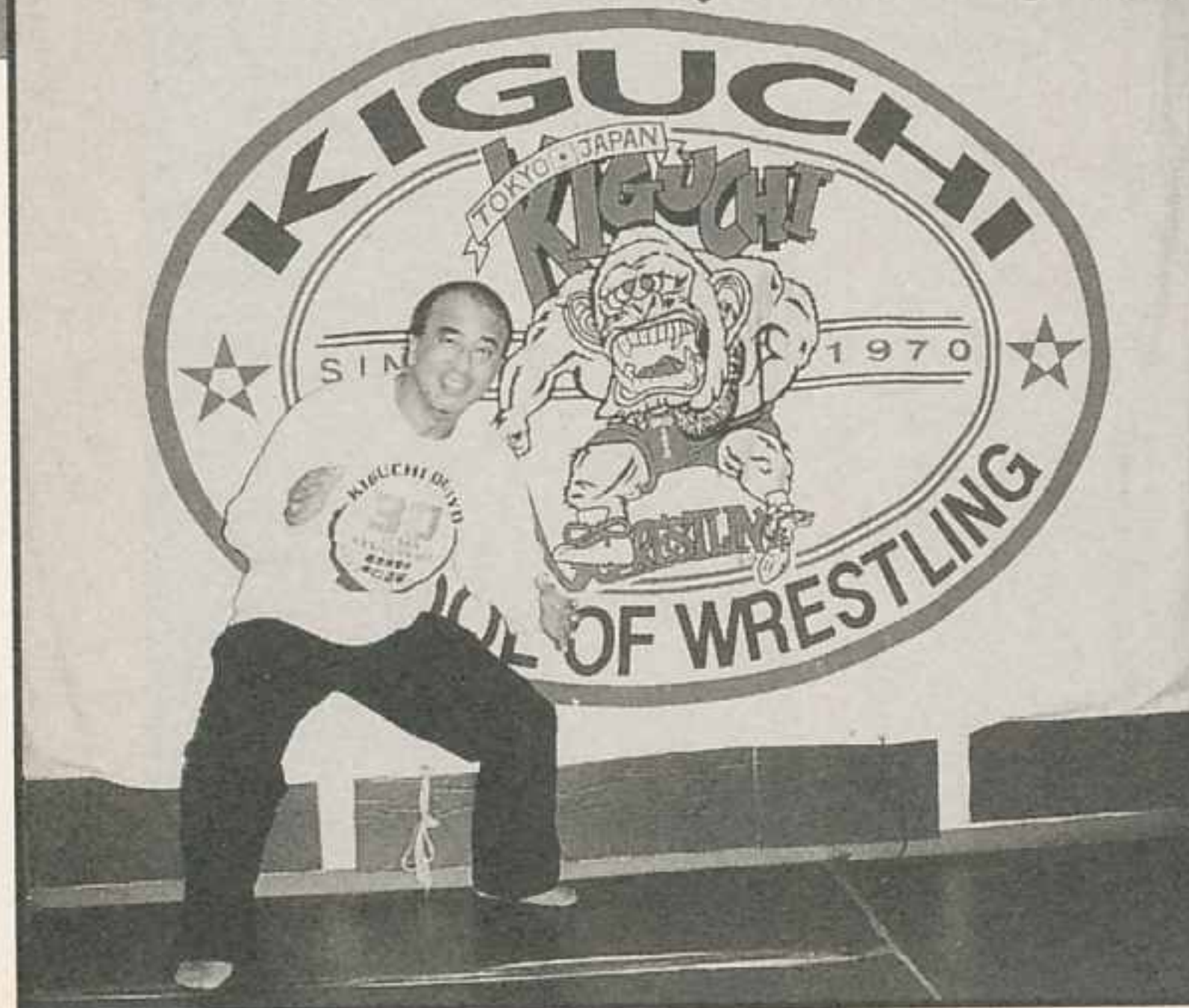
1位『踊るFMW大激戦！』（発売　東芝EMI）
2位『PRIDE.8』（発売　メディア・ファクトリー）
3位『大仁田劇場』（発売　ビデオ・パック・ニッポン）

Championホームページアドレス：http://www.champion-j.com

レスラー10周年記念!
3号連続インタビュー第1弾

「私は割と最近まで、フレアーが凄く人気がある選手だってことを知らなかったんですよ」

マッハ文朱から桜井“マッハ”速人までよく知る男の格闘ロードに耳を傾けなさい!

俺とフレアーの関係を話そうか

木口宣昭 Interview

総合格闘技木口道場会長・木口宣昭。桜井マッハ速人の所属道場ということで聞き覚えがある人も多いと思うが、会長である木口宣昭という男を詳しく知っている人は何人いるだろうか? レスリングに打ち込んだ現役時代は全米レスリング殿堂に刻印されるほどの実績をあげ、指導者としても、朝日昇、佐藤ルミナからレスリング五輪出場選手まで一流選手を多数輩出している。そんな木口氏に驚かされたのが、昨年の夏頃『東スポ』に掲載されたリック・フレアーとの2ショット写真である。『少年レスリング選手権』に出場した次男の応援に駆け付け、親バカぶりを発揮したフレアーを滞在中世話をしていたのが木口氏だったのだ。木口氏のこれまでの格闘人生を振り返りつつ、数多くのレスラーとの思い出話を語ってもらった。

聞き手/吉田豪
interview by Go Yoshida
構成&撮影/チョロ
text & photographs by Choro

フレアーとフレアーの息子は私が日本に呼んだんですよ

——去年の夏頃、『東スポ』（99・8・3付）に出ていた、レスリング大会でのリック・フレアーと木口さんのツーショットには衝撃を受けましたよ（笑）。

木口　あれは凄かったでしょ（笑）。『東スポ』の記者が、私に聞いてくるんですよ。「なぜここにフレアーがいるのか、それが信じられない」って。フレアーの息子がレスリング大会に出たいって言うから、フレアーも一緒に私が呼んだんですよ。

——なぜ格闘技界の大御所・木口さんがフレアーのこと語ってるんだって、みんな感じてると思いますよ。

木口　あぁ、そういう角度もありますね。インパクトはあるけど、これもまた事実だからね。そうそう、フレアーはね、デストロイヤーを師と仰いでるんですよ。知ってました？

——えっ、そうなんですか⁉

木口　フレアーが子供の頃に、デストロイヤーがリング上で独特の歩き方をしてるのを見てマネしてたらしいんだよね。いまはフレアーもやってるけどね（笑）。

——今回のレスリング大会の会場でもフレアーはフレアー・ウォークを披露してたみたいですからね。

木口　やったやった。凄かったよぉ。満場大笑い（笑）。でもね、息子の試合が近くなると、自分のことのように緊張して、なに話しかけてもブルブル震えちゃってるんだよ（笑）。

——ダハハハ！　息子さんが負けたときは絶叫したらしいですね。

木口　そうそう（笑）。フレアーはすっごい子煩悩だから。息子の試合前は、リングサイドと席を行ったり来たりしてね。白熊が檻の中でウロウロしてる感じだったよね。やっぱり、フレアーはガタイがあって銀髪だし、も～う目立つ目立つ（笑）。あれはかなり面白かったよ。あれだけで一本の番組できちゃうよ。それでまた、息子が準決勝で劇的なフォール勝ちして、決勝は劇的なフォール負けをしたからね（笑）。

——ダハハハハ！　ちゃんと決勝まで行く辺りがフレアーJrもプロフェッショナルですね（笑）。

木口　そうだね（笑）。それで、私は割と最近までフレアーがモノ凄く人気がある選手だってことを知らなかったんですよ。それで、デストロイヤーから「アメリカでのフレアーの人気は凄いよ！」って聞いて、その後にアメリカに行ったらトイザラスにリック・フレアー人形があるんだよ（笑）。「ああ、ホントに人気あるんだ！」って思ったね。

——ようやく気付きましたか（笑）。

木口　ほら、この写真（と、木口さんとフレアーの肩を組んだ写真を見せ）、フレアーは木口道場のTシャツ着て向こうでトレーニングしてるっていうからね。

——WCWで木口道場Tシャツですか（笑）。

木口　そういえば、ヒクソンのビデオの中で自転車漕いでるシーンがあるらしいんだけど、その時にヒクソンが木口道場のTシャツ着てるって誰かから聞いたなぁ。

——ヒクソンもですか（笑）。それにマッハ文朱さんや鶴見五郎さんとか、いろいろな人に話を聞くと木口さんの話がよく出てくるんですよね。

木口　あぁ、それはそうでしょうね。

——鶴見さんから、木口さんはアマレス時代からムチャクチャ派手好きな人だったって聞いたんですけど。なんかラメ入りのえらい目立つガウンを着て入場してたみたいですね。

木口　ガウンじゃなくて、ジャンパーにゴリラマーク入れたの作ったりね。ラメも……入ってましたね（笑）。それで、私は高校の3年間は重量挙げをやってたんですよ。レスリングの試合前も、マットの横で百キロぐらいのバーベルをガーッって挙げてからリングに上がったりしてたからね。そういうところが派手に見えたんじゃないですか。やっぱり、大学からレスリングを始めたっていうハンデがありましたから、ちょっとやそっとじゃ他の人には勝てないんですよ。だから、相手に対してこっちが精神的に優位に立ってやろうってことで常になにか仕掛けてましたね。

——ハッタリでもなんでもやってやろうってことですね。

木口　そうそう。世界大会のときなんかでも、試合前にいきなり対戦相手のうしろからベアハッグやったりしてね。世界レベルの大会に行くとそういうのばっかりですからね。そういうところで自然と身についたって感じですね。あとは、試合前に相手の首をマッサージしてやりながら、「俺と試合するのにこんな首で平気か？」って言ったりとか、よくやりましたよ。

——ダハハハハ！　折れるぞ、と。

木口　私がそういうことをやるようなキャラクターになったのは、子供の頃、かなり身体が弱くて並大抵のことやっても人に勝っていけないなってことで、とにかくありとあらゆることをやって、自分を前に前に出していかないとダメだなって思ったからなんですよ。

——そもそも、プロレス界との最初の接点はなんだったんですか？

木口　たぶんね、八田（一朗）会長（当時の日本レスリング協会会長で、日本レスリング界の父と呼ばれていた）とビル・ロビンソンと私の3人で食事したことがあるんですよ。それが最初かなぁ？

——国際プロレスの頃ですか？

木口　たぶん国際プロレスの時代だったんじゃないかなぁ。八田会長に「面白いヤツとメシ食うから、ちょっと出て来いよ」って呼ばれて行って、ビル・ロビンソンを紹介されたんですよ。そのあと、ジャンボ鶴田が全日本に入る頃に馬場さんからも声が掛かってね。昔、読売ランドで「ジャイアント馬場＆デストロイヤーと遊ぼう」っていうファン感謝デーみたいなことをよくやってたんだよ。それで、木口道場からチビッコを出して欲しいって言われて、ウチの道場に通ってる子を何人か出したりしてね。新日は新日で、猪木さんから声を掛けられて、「アントニオ猪木＆藤波辰巳（現・辰爾）と遊ぼう」っていうのに協力したりね。

——全日、新日と両団体に協力して

木口氏のプロレス界との接点はビル・ロビンソンとの出会いからであった。時を経て、2人は木口道場とスネークピットの指導者となった。

木口氏とデストロイヤーの付き合いは長く、現在も、お互いチビッコレスリングの指導者として、良きライバルでもあり大切な仲間でもある。

ダイナマイト・キッド＆デイビーボーイ・スミスと木口氏のスリーショット写真。キッド＆スミスも学生時代はレスリングに夢中だったのだ。

マレンコ兄弟の父親、グレート・マレンコらとテーブルを囲む木口氏。英語もベラベ～ラな木口氏は付き合いも実にワールドワイドである。

TOKYO JAPAN
SINCE 1970
Kiguchi
WRESTLING

たわけですね。

木口　そうなんだよ（笑）。あと、スタン・ハンセンともよく話しますよ。彼とアメリカのレスリング界の話をするとハマっちゃうんだよなぁ（笑）。

――ダハハハ！　ハマりますか（笑）。

木口　私はデストロイヤーが現役でいたときは、よく全日本を見に行ってたんですよ。それでデストロイヤーの息子のカート・ベイヤーもよく知ってるんだけどね。彼はプロレスはやめちゃいましたけど、この間の馬場さんの追悼のときに会いましたよ。あとはダニー・ホッジね。彼との思い出で印象に残ってるのが、ある時、田舎の道を運転してて10数メーターの崖下に落ちちゃったらしいんですよ。でも、自力でその崖から這いあがって、数キロ離れた民家まで自分で歩いて行って「すいません、救急車呼んでください」って言ったんだって（笑）。結果的に10数カ所骨折してたらしいんだけどね。

――ダハハハ！　それは凄いですね。

木口　彼はそういう話をマジメにするんで、あぁ～凄い人だなって思ったよ。まあ、あれは人間じゃないですね（笑）。あとは馬場さんにも可愛がってもらいましたよ。もちろん奥さんにもね。

――馬場夫妻にもですか。

木口　私は馬場さんにレフェリーを頼まれたこともあるんですよ。

――えっ、そうなんですか!?

木口　全日が始まったばっかりの頃でね。まあその時は私も木口道場を始めてたから、アマレスの道場の創始者がプロレスのレフェリーやるっていうのも物議をかもすかなっていうのもあったし、周りからもいろいろと言われましたからね。でも、日本プロレスのときかなぁ。恵比寿の道場とかで練習はしましたからね。レフェリーだけじゃなく、リングアナの勉強もちょっとしたりとかね。私は好奇心がある方だったから、リングアナの発声の仕方とかも面白かったですよ。そういう点でプロレス界とは昔から接点があるんですよ。

――リングアナの練習までやってましたか（笑）。

木口　あっ、そうだ。本田多聞は私がレスリングを教えてたんですよ。彼の父親っていうのはオリンピックのカヌー選手なんですよ。それで、「鍛えてやってくれ」って頼まれて、道場に通うようになったんですよ。

――子供の頃の多聞さんてどんな子だったんですか？

木口　彼の父親はモノ凄い気が強い人なんですよ。本人はたぶん優しいんだろうけど、親父の勢いに引っ張られてって感じで、親父の影響が大きかったですね。それに本田君とはアメリカ遠征に一緒に行ったことがあるんですよ。その時にじっくり話す機会があって「それだけ体があるんだから、腹一杯メシ喰いたかったらプロレスやりゃあいいんだよ！」って言ってやったんだよ。

――それが、ひとまず自衛隊に行っちゃったんですね。

木口　自衛隊もメシいっぱい食わせてくれるからね（笑）。彼はオリンピック3回ぐらい出てるんだよね。凄いよね。それで、彼がプロレスに入りましたっていう案内状に「木口道場で木口先生の手ほどきを受けてレスリング界に……」みたいなことを書いてくれましてね。ただ、それ以来、本田君とは会ってないんで会いたいですね。本人もたぶん私と会いたいんじゃないかな。今度会ったらよろしく伝えといてください。

――伝えておきます（笑）。そういえば、木口さんは新日本に上がっていたデビット・シュルツとも面識があるみたいですね。

木口　いや、私が知ってるデビット・シュルツはプロレスはやってないですね。アマレスのオリンピック金メダリストですよ。

――それじゃ、新日に上がっていたシュルツとは同姓同名なんですね。

木口　そうでしょうね。モントリオールオリンピックで優勝した伊達治一郎選手っていうのがいるんですけど、私は伊達君と仲がいいんですよ。それでデビット・シュルツは、伊達君がオクラホマでレスリングのコーチ留学してるときの門下生みたいなもんなんですよ。それで、日本に来たときウチに呼んだりして交流が始まったんですよね。そのうちに、ヒクソン・グレイシーが来て、彼のグレイシー柔術のセミナーのお手伝いをしたときに、レスリングの話は彼も好きですから、「レスリングは誰に習ったことあるの？」って聞いたら、「デビット・シュルツに習った」って言ってたからね。

――え～っ!?　ヒクソンはシュルツの門下生だったんですか!?　ボクの知っているシュルツとは違うみたいですけど（笑）。

木口　そうみたいだよ。世の中狭いなってことでね、「デビット・シュルツと私は世界選手権なんか行っても、飲んだり騒いだりしてるし、仲いいんだよ」ってヒクソンに言ってね。でも、そうこうしてるうちに去年かな、殺されちゃったんだよね。

――えっ！　新日本に上がっていたシュルツも射殺されたんですよ。

木口　あっ、そうなんですか。でも、それを聞いたときはホントにビックリしましたよ。彼は人間的にも素晴らしいし、なんであんな人が殺されたんだろうね。

――しかし、同性同性も含めて、い

Noriaki Kiguchi

道場の至る所に木口氏と有名選手との記念写真が飾られていた。カール・ゴッチ、ジャック・ブリスコ、ダン・スバーン、さらにマサ斉藤、ジャンボ鶴田、ライオネス飛鳥から千春まで、木口氏の交遊関係は実に幅広い！

レスリング関係だけにとどまらず、木口氏の交遊はジャンルを超越している。この写真は、現在、読売巨人軍コーチの"若大将"原辰徳との一枚である。

KONISHIKI、デストロイヤーそして木口氏という格闘ロマンを突き進んだ一枚。ある意味、世界格闘技連盟ともいえる夢のスリーショットである。

MEN'Sテイオーとは、よくスパーリングやってましたよ

ろいろと繋がるもんですね（笑）。

木口　そうだね（笑）。例えば、みちのくのMEN'Sテイオーね。彼は東海大の学生だったんですよ。そのとき私も東海大でレスリングを教えてて、彼は自分で学生プロレスをやってたんだけど、昼休みになると「スパーリングお願いします」ってことで、毎回60分ぐらいスパーリングやってましたよ。

——えっ、MEN'Sテイオーも教えてたんですか（笑）。

木口　彼はマメな男で卒業後も手紙とか結構送ってくれたりしてね。それで、「みちのくが両国で興行やることになったんで見に来てください」って招待券を送ってきたことがあって、それで彼に会いに行ったら、佐山君が出てたんでビックリしちゃったけどね（笑）。でも、その後、彼はニューヨーク（WWF）にも行ってたみたいだけど、彼は身体は小さいけど頑張ってるよね。

——まさか木口さんの口からテイオーさんの名前が出るとは思いませんでした（笑）。他にも、マッハ文朱さんと桜井マッハ速人っていう2大マッハも教えてるんですよね。

木口　考えてみたらそうだねぇ（笑）。

——マッハ文朱さんには、最近2回ぐらいインタビューしたんですけど、木口道場で体重が20キロぐらい落ちるスパーリングをみっちりやったっていう話を聞きましたよ。

木口　あったねぇ。あのときはホント凄かったよぉ。私が一緒にやったんだから。あの頃は私も若かったからまだバリバリ動けたしね。

——先程、スパーリングを見せてもらいましたけど、コンディションはムチャクチャいいじゃないですか。

木口　そうだねぇ。私は、いま55歳だけど、全国の55歳の中じゃあトップクラスなんじゃないの（笑）。

——間違いないです（笑）。いまでもホントにいい身体してますよね。

木口　そうでしょ。私がコンディション作りをするんなら、高校生相手ぐらいがちょうどいいですよ。五味レベルだとちょっと危ないからね（苦笑）。もう運動能力も落ちてきてますから。でもやっぱり、お互いにハアハア呼吸しながら練習するのっていうのはいいですよ。私は相撲の親方みたいに座ってじっと見てるってのは好きじゃないですからね。（突然）『紙のプロレス』さんは、売れ行きの方はどうなんですか？

——まあ、なんとかやってますね（笑）。

木口　大変申し訳ないんですけど、全然知らなかったんですよ。今度見せてくださいよ。

——持ってきてるんで、よろしければ（と紙プロR22号を手渡す）。

木口　（ペラペラめくり）あっ、田中健一だ！　彼は面白いよね。

——面白いッスねぇ（笑）。

木口　彼はなんか自衛隊みたいなタイプなんだよね（笑）。この写真、敬礼してるじゃない。

——それはいま、佐山さんがやってる掣圏道の挨拶なんですよ。

木口　そうなの。あっ、山田学だ！　彼も木口道場でね。当時はいいメンバーいたんですよ。朝日でしょ、山田学、佐藤ルミナ、巽宇宙、秋本じん、港太郎とかね。安生君も一回大会に来たことありますよ。あとは馳君とも星陵高校の教員やってるときに話をしましたけど、プロレス入りについて悩んでてね。結局ね、大きな身体を持て余しちゃうんですよ。それを活かせる職業っていったらプロレスがあってるんじゃないかなっていう簡単な話はしたんだけどね。あとは、要するにどれだけパフォーマンスが出来るかってことだよね。

——そういう意味では、馳さんはプロレス向きでしたよね。

木口　馳はそうだね。意外に明るいキャラクターでね。

——デカい人にはとりあえずプロレス入りを勧めてたんですか？

木口　まあとりあえずね、体が大きくて、オフィスワークがあんまり得意そうじゃなかったら、自衛隊か警視庁、それかプロレスだったからねぇ。自分の実力がいかんなく発揮できて、ご飯が食べられるってのはこの3つなんじゃないですか。（マッハの写っているページを見て）おっ、マッハだ！　彼はホントにいい男だよなぁ。ホントに純粋でマジメでね。

——マッハさんは、強さもキャラクターも抜群ですよね。

木口　凄いよねぇ。桜田（直樹）が言うには五十年にひとりだろうって。ただ彼の場合は、強さで五十年、キャラクターで五十年、両方合わせて百年は出てこないって話してますよ。

——合わせて百年ですか（笑）。そういえば佐山さんとは、もともとどういう関係だったんですか？

木口　松浪（健四郎）君から、佐山君のスーパータイガージムで「アマレスを教えてやってくれないか」って言われて、週1回ぐらい通うようになったんですよ。佐山君も、私の〝純粋イズム〟みたいなものに惹かれてくれたみたいで、アッという間に意気投合して、よくカラオケに一緒に行ったりしましたよ。

——佐山さんと一緒にカラオケに行って、どういう曲を歌うんですか？

木口　ジャンルはねぇ、私はプレスリーとビートルズ、それにローリング・ストーンズとかですね。

——ダハハハハ！　佐山さんもエルビス好きですからね。

木口　エルビスを二人でマイク交代しながら歌ってますからね。でもね、彼の家は凄かったよ。スピーカーが四つぐらい部屋の角々にあって、なぜか飛行機のファーストクラスのイスが置いてあるんだよ（笑）。そのイズに座るといろんなとこからプレスリーが聞こえてきてね（笑）。それで画面にはブルーハワイかなんかの映像が映るわけ。スッゴイ世界だよ。

——甘い物好きなのもエルビスそっくりですしね（笑）。

木口　彼はホント甘い物好きだからねぇ。私も甘い物好きだけど、彼はマカダミアナッツの上段全部ひとりで食べたり、羊羹とかも剥いてそのまま食べるからね。

——ダハハハハ！　丸かじりですか（笑）。佐山さんの取材の時にケーキ十個ぐらい並べてたら半分ぐらいペロッといきましたからね。

木口　しゃべりながら無意識で口に

全国少年レスリング連盟審判委員長、町田市レスリング協会会長、全国中学生レスリング連盟副会長等、レスリング関係の肩書きを多数持つ木口氏。女子レスリング界の大物、美憂＆聖子も木口道場出身である。

第１回バーリ・トゥードジャパンで初めてヒクソンの試合を見た木口氏は、そのポジショニングの巧さにカルチャーショックを受けたという。

カラオケ仲間でもある木口氏と佐山。２人の歌うエルビスはぜひ聞いてみたい。誰か木口宣昭＆佐山聡のディナーショーを企画して下さい。

レスラー10周年記念！
3号連続インタビュー第1弾

運んでるんだよ。彼には勝てないよ（笑）。

——ダハハハハ！　そういえば、田村（潔司）さんも木口道場で練習してるって聞きましたけど、どういう流れで木口道場に来たんですか？

木口　彼はね、最初ウチのサンボ教室に来てたみたいなんですけどね。それで、サンボ教室はレスリング教室と時間帯が同じっていうのもあって、彼は相撲出身だから、レスリングも教えてくださいって言って来たんですよ。最近は会ってないけど、一時期は週1、2回は来てましたよ。非常に真面目な好青年ですよね。

——プロがアマチュアの道場に行くっていうのは勇気がいりますよね。

木口　そうですね。最初、田村君のことはよく知らなかったんですよ。なんか隅っこの方でテーピング巻いたりしてて、そんなに目立たなかったですし。まあ五味君が来ても、桜井君が来ても目立たないんだけどね。ウチの基本はマットの上に上がったら横一線っていう考え方だから、特別扱いなんか一切しないんですよ。だから目立たないんですよ。それがまた魅力だと思うんですけどね。

——ところで八田さんとはどういった接点があったんですか？

木口　八田さんは木口道場の道場開きにも来てくれたりして、かなり可愛がってもらってましたね。あとは、私は英語ができますから、国際交流もできる男だってことで、いろいろ連れてってもらったりしましたね。

——木口さんは、映画の『007は2度死ぬ』の通訳をやったりしてましたよね。

木口　そうですね。私自身も八田会長の生き様は凄い好きですしね。

——本とか読むと、八田さんってホント面白い人だったみたいですね。

TOKYO JAPAN
SINCE 1970
Kiguchi
WRESTLING

Noriaki Kiguchi

昨年12月11日に行われたＶＴＪ'99。閉会式でマッハや宇野にはさまれ中央に位置するのが木口会長である。これを見るだけでも木口会長が修斗にとっていかに重要な人物であるかがわかるだろう。

木口　彼は合宿のとき、みんなに「生きた蚊を捕まえて来い！」って言うんですよ。それで、生きた蚊を潰さないように捕まえて来ると、今度は「蚊帳を吊せ！」って。その蚊帳の中にその捕まえてきた蚊を放すんですよ。普通、蚊帳っていうのは蚊が入って来ないようにするためのものなのに（笑）。

——ダハハハハ！　わざわざ捕まえてきて蚊帳の中に入れるんですね。

木口　でも、それだけじゃなくて、トランジスタラジオをひとり一台渡して耳元で音をガンガン出しながら、裸電球を顔の近くまで下ろして「寝ろ！」って言うんですよ（笑）。「これぐらいの環境で眠れないヤツは、世界どこに行っても通用しない！」って言ってね。それに、私は砂漠で寝たことありますから（笑）。

——えっ、砂漠でですか（笑）。

木口　それはちょっと変な話なんですけど、学生の頃の仲間とコロラドに行ったんですよ。その時期はクソ暑い夏で、いつまでもクーラーの効いてる部屋にいたんじゃしょうがないっていうんで、ビール2ケースぐらい車に入れて、それをガンガン飲みながらドライブしてたんですよ。そしたら、一緒に車に乗ってたヤツが、「1回砂漠で寝れば、この先ずっと自慢できるじゃないか。何回もやんなくてもいいんだ、1回やってみろよ！」って変な理論で攻めてきたんですよ。「やれよ！」っていうから、こっちも「よ〜し、やってみるか」ってね。ビール飲んでどうでもいいやってなってたから（笑）。

——ダハハハハ！

木口　でもその時は軽く考えてたんですよ。まさかヤツも本気で言ってるとは思わなかったしね。そしたら車をガーっていきなり止めたわけだよ。それで、「どうした？」って聞いたら「どうしたもこうしたもねえよ。さっきやるって言ったじゃねえか！」って言われて、こっちも若くてカーッとなってるから、「よし、わかったよ！」って言って（笑）。ヤツはそれでビール1ケース置いて行っちゃったんですよ。

——そうなったら、もう飲むしかないですねぇ（笑）。

木口　飲むしかないけどねぇ、これがまた変な世界でね、360度全部同じ景色で地平線の世界なんだよ。それで、とりあえず明日の朝までどうしようかって考えて、夕日でも観賞しようかって思って、日が沈んでいくのを見てたんだよ。まあそれは結構感動したけど、日が沈んだら真っ暗で何も見えないんだ。それで、これからの時間をどう過ごそうか考えてたら、今度はだんだん寒くなってきてね（苦笑）。気温もガクーンと下がってくるしさ。しかも、私はその頃はゴム草履に穴の空いたＴシャツと短パンだったからね。

——そんな格好で寝たら死んじゃいますよ（笑）。

木口　どうやって寒さを凌ごうかっていうのと、あとは「サソリに気をつけろ！」とか「コヨーテに気をつけろ！」とか「ラトルスネーク（ガラガラヘビ）に気をつけろ！」とか言われて、それを聞いてるから寝たら最後だなって思って寝れなかったからね。暖をとるにも風を凌ぐ岩なんか全くないんだから。しょうがないから屈伸に腕立て、それにジャン

現役時代は7、8人の骨を折ってますね(キッパリ)

プね。これを何百回やったかな。

——ダハハハハ！　砂漠でもトレーニングをしてたわけですね（笑）。

木口　そしたら少し体が暖まってくるんだよ。暖まったら少し休んで、また寒くなったらまたやってっていう、この繰り返しだよ。そんなことをやってると喉が渇いてくるからビール飲んだりしてね。それで、朝日が出てきた頃に、今度はホントに迎えにくるのかなぁっていう不安が出てきてね。夜は寒いけど、昼間は昼間で直射日光がガンガン照りつけて40度以上あるからね。それはそれで死にそうになるんだよ（苦笑）。

——ダハハハハ！　昼も夜も油断できないですね（笑）。

木口　ビールも残り少ないし、今度はそっちの恐怖が出てきたんだよね。どっちの方向から車が来るかわかんないし、ずっとキョロキョロしてたんだけど、そしたら、砂ぼこりがたってね、フロントガラスの照り返しがピカッと光るのが見えてさぁ。もうそれ見たときにボロボロボロボロ泣いちゃったからね。

——まさに『走れメロス』の世界ですね（笑）。

木口　そうそう。それで、まあ車が着く前に涙は拭いておいて、「どうだった砂漠は？」なんて聞いてきたから「オ〜ウ、砂漠なんてどうってことねぇや！」なんて答えたよ（笑）。

——ダハハハハ！　その辺は八田イズムですね。

木口　そうそう。あと、八田会長は、真冬に放水車でパンツ一丁のボクらに向かって水を掛けるんだよ。しかも「構えろ！」だもんな（笑）。

——ダハハハハ！　レスリングの構えで水を受けるわけですか（笑）。

木口　そうだよ。アゴの下に水受けちゃったら「アゴを引け！」って言われて素直に引いたら、今度は顔面に直撃だよ（笑）。目なんかで受けたら目玉が飛び出ちゃうよ。

——ダハハハハ！

木口　「夢はレスリングの夢以外、絶対に見るな！」とか言われてさ、それで、夜中は、1時、2時の寝静まった瞬間を狙ってパーッと起こされてさ、「おい、いまからスパーリングだ！」って言うんだよ（笑）。

——ムチャな要求しますね（笑）。

木口　「夢見ろ！」とか言ってて、突然スパーリングだからね（笑）。パジャマとかパンツ一丁で体育館に行ってね。冷えきった体育館でスパーリングを1時間ぐらいやって「寝ろ！」ですよ。

——ダハハハハ！

木口　外国行っても、どこでも寝れて、いつでも闘える状況を常に作っておかなければダメだってことでね。

——でも、そういう経験のおかげでどこでも寝られるようになったって、鶴田さんが言ってましたよ。

木口　だから、あの頃の選手は気持ちが強いね。それにふてぶてしい！　ふてぶてしいっていっても生意気って意味じゃなくて何事も平然と、「来るなら来い！」って気持ちになれたからね。例えば私が海外に行ったとき、2回ぐらい殺されかけた所を生きて帰ってこれたのも、八田イズムのおかげですよ。

——えっ、殺されかけたんですか？

木口　当時、ボブ・ループとかのグループと酒飲みに行って、肩組んで歌うたいながら歩いてたんですよ。そしたら近くの家の親父がショットガン持って血相変えてすっ飛んで来てさあ。「うるさくて眠れない！　いまから10秒以内に立ち去れ!!」とかなんとか言って、ガチャッとガンを構えるんだよ（苦笑）。

——うわぁ〜。

木口　それで、全員うしろを向いて、両手上げてバーッと走って逃げたんだよ。若い頃は、裏町とか、危ない所を見ないと本当のアメリカを語れないって思ってたからさ（笑）。でも、その1年で別の意味の根性がついたんじゃないかなって思うね。

——そういう危険なところへはひとりで行ったんですか？

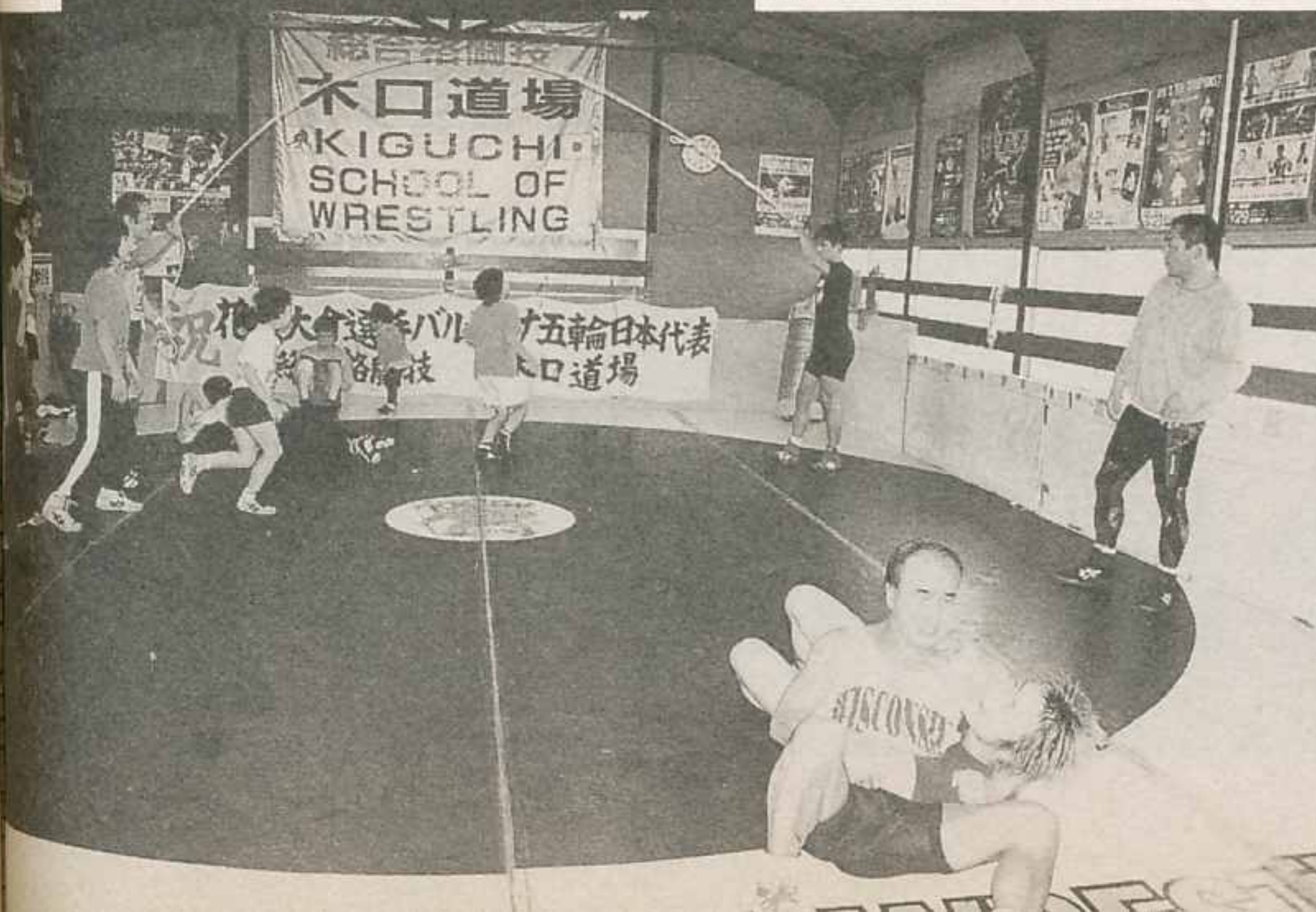
木口　ひとりだよ。ちょうど大学2年の頃の話だよね。その時はインカレで優勝したんだけど、このまま帰るだけじゃいけないと思って、社会勉強じゃないけど、いろんなところに行ったわけですよ。それで、帰ってから木口道場を作ったと。

——ホントに波瀾万丈ですね（笑）。

木口　でも、いまのこういう状況は全く想像できなかったよ。場末の道場でいいから、やりたいヤツらが勝手に練習できればいいって思って作っただけだったからね。

——でも、バーリ・トゥードのおかげでレスリングの重要性がまた見直されてきてますからね。

木口　そうだね。特にアメリカっていうのはリンカーンやワシントンにしても歴代の大統領とか、トム・クルーズもそうだけど、みんなレスリングやってるから、レスリングに対するステータスが非常に高いんだよね。その中でもカレッジで全米チャンピオンになるっていうのはモノ凄いことでね。それで私が、カレッジナンバーワンで、しかもコーチをやっているダン・ゲイブルと決勝で闘ったっていうストーリーがバーッと伝わってるわけ。だから、レスリングでの私の評価は日本よりアメリカ

取材に行って、一番驚かされたのが木口会長のコンディションと元気の良さである。本人も言っていたが、全国の55歳の中では間違いなくトップクラスであろう。高校生相手のスパーリングでは終始相手をコントロールし続け、さらには修斗ウェルター級のランカーでもある五味隆典相手にしても激しいスパーリングをこなしていた。

レスラー10周年記念！
3号連続インタビュー第1弾

の方が高いんですよ。まあ、通常は私みたいに重量挙げから格闘技に転向っていうのはないんだけどね。

——あんまり聞かないですよね。

木口　筋肉の使い方から瞬発力、持久力、何から何まで違うからね。「格闘技じゃ通用しない」って言われましたからね。でも、「通用しない」って言われたら通用させたくなるじゃないですか（笑）。それを誰かが打破しないといけないないと勝手な使命感を作っちゃってね（苦笑）。それに当時、私のスタイルは邪道だってよく言われましたよ。やっぱり重量挙げの瞬発力を使うから引きつけがメチャクチャ強かったんですよ。握力も80キロぐらいあったから、とりえず、なんでも持ち上げて裏返しにして倒すっていう、そればっか（笑）。なんでも持ち上げるからクレーン車だとか言われてましたよ。

——カレリンズリフトみたいな感じですか？

木口　そうそう。カレリンがやってるみたいな感じで、パイルドライバーみたいに相手を首からバーンって落としてさ、現役時代は7、8人、骨折ってますね（キッパリ）。

——クラッシャーですね（笑）。

木口　最後は自分が国体でケガしたんだけどね（苦笑）。アバラが皮突き破って外に出ちゃったんだよ（笑）。あれが中に入ってたら心臓突き破って死んでたよ。

——うわぁ～（笑）。それで、さっきの八田イズムの話に戻るんですけど、八田さんは、とりあえず「朝グソしろ！」って言ってたというのを読んだことがあるんですけど。

木口　そうですよ。当時、計量は朝だったから、「腹の中は絶対空にしとけ」って言われてましたね。

——「女郎の夜グソ、レスラーの朝グソ」でしたっけ（笑）、八田さんが言ってたのは。

木口　そうそう（笑）。朝、ボクらが入ってる便所の前に立って音を聞いてるわけ。時々「快便か？」なんて声掛けながら（笑）。

——ダハハハハ！

木口　それと、上野動物園でライオンとにらめっこするっていうのもやりましたよ。「柵がないことを想定してライオンとにらみ合ってみろ！」って言われてね。実際にやってみたら、ライオンが尻尾巻いて逃げちゃいましたけどね（笑）。でもやっぱりね、動物はうしろに回ってチョークスリーパーが一番いいと思うんだよね。

——ダハハハハ！　落とせますか？

木口　まあ、想像の世界だけど、そういう凶暴な動物と闘ったらどうするかってことは、よく考えましたね。

——もし牛と闘ったらとか（笑）。

木口　そうそう。そういうこと考えると、なんかワクワクしちゃってね（笑）。でもコンバットレスリングってのは、そういう考えが基本にあるんですよ。たとえば、ジャングルを歩いてて、ハブが上から落ちてきて、下からラトルスネーク、前には猛獣がいてみたいな、前後左右あらゆるところからの攻撃をさばくっていう発想があるんですよ。

——もともとはサバイバル技術なんですか（笑）。

木口　そうそう。そういう部分もあるんですよ。なにも相手は人間だけじゃないっていうね（笑）。

——その発想は素晴らしいですね（笑）。それと、マサさんの本を読んで知ったんですけど、なにかある度にアマレスでは剃られてたみたいですね。八田憲法の第1条によると、まずは下の毛を剃ることだと（笑）。

木口　それはありますね。剃ること自体は痛くも痒くもないんですけど、ちょっと生えてくる頃って痛いんですよ。それと、「そのまま前隠さないで銭湯行け」とか。そっちの方が嫌だったですけどね（笑）。

——ダハハハハ！

木口　「グリコのポーズやりながら風呂に入れ」なんて言われてさ（笑）。それと、もうひとつは「正装でメシを食え！」ってことはしょっちゅう言われましたね。夜中は水掛けられて、終わったら蚊帳の中で寝て、急に起こされてスパーリングやって、それでメシ食う度にスーツにネクタイに着替えるんだから（笑）。ホント合宿所に行くと、お色直しが大変だったね（笑）。

——ダハハハハハ！

木口　それで「『いただきます』って言うまで動くな！」って言われて、ちょっとヒジでも動いたら殴られたからね。音立てないで静かに食べて、姿勢は真っ直ぐでね、食べてる最中も誰かが話し掛けたら食事の手を休めて、その人の目を見ろってよく言われましたよ。「外国に行ったときマナーをしっかり覚えておけばナメられないんだから。日本人はなんかセカセカして落ち着かないと思われてるから。レスラーは常に姿勢を正しく堂々とメシを食え！」ってね。でもそれはいまだに役に立ってるよね。食事のマナーっていうのは、結構地が出ちゃうからね。

——アマレス幻想はその辺で広がるんですよね。ボクは正直言うと、八田さんにはそんなに思い入れはなかったんですけど、『八田イズムの幻影』っていう本を読んでる内に引き込まれましたよ。あの時代で実績残してる人って必ず面白いですからね。

木口　八田リズム、通称・ハッタリ・ズムね（笑）。さっき話した、試合前になんかやるっていうのもそれなんですよ。派手なジャンパー着たのもハッタリズムだよね。あっ、そうだ、荒川って知ってる？

——ドン荒川さんですね。何回も取材してますよ。アマレスの試合でドロップキックしたんですよね（笑）。

木口　それだけじゃないんだよ。彼は東京クラブっていうアマレス道場に通ってて、全日本社会人選手権の団体戦で木口道場と決勝戦をやったんだよ。でね、試合開始でゴング鳴ったとたん、いきなり手を叩いて（反対の方を指差し）「あ、あれはなんだ!?」ってやったんだよ（笑）。

——ダハハハハハ！

木口　ホントだよ。猫騙しとはちょっと違うけど、相手もその方向を見ちゃったんだよ。そしたらズドーンっていきなりタックルだよ（笑）。

——ダハハハハ！　昔から変わらないですねぇ（笑）。アマレスといえば谷津さんはどうだったんですか？

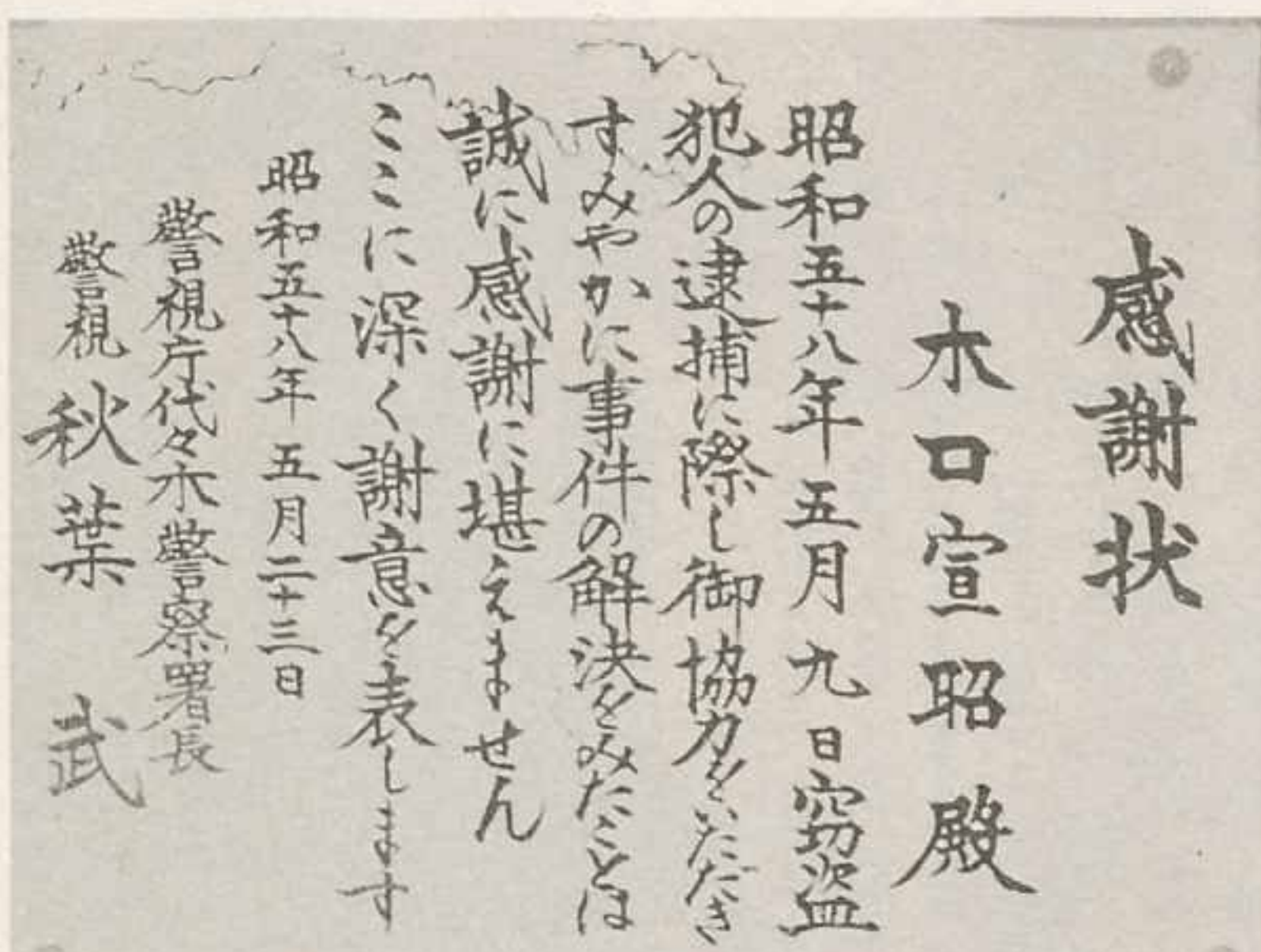
木口　谷津君は、アマレス時代の思い出の方が強いんですけど、プロレス時代は……彼はいろいろ団体動いたでしょ。なんだか可哀想だったよ。まあ、鶴見君もそうなんだけど、いわゆるインディペンデントは大変みたいだね。谷津君は会う度に「厳しいです厳しいです」って言ってたよ。

——でも、学生時代は相当華々しかったですよね。

木口　強かったよぉ。強い谷津（ヤツ）だったから（笑）。ホントに敵なしだったからね。歴代のヘビー級の中でも相当上いくんじゃないかな。

TOKYO JAPAN
SINCE 1970
Kiguchi
WRESTLING

Noriaki Kiguchi

感謝状
木口宣昭殿
昭和五十八年五月九日窃盗
犯人の逮捕に際し御協力をいただき
すみやかに事件の解決をみたことは
誠に感謝に堪えません
ここに深く謝意を表します
昭和五十八年五月二十三日
警視庁代々木警察署長
警視 秋葉 武

これは、木口会長がひったくりを捕まえときに送られた感謝状である。他にも木口氏は電車で暴れる酔っ払いを関節技で押さえたりと、自身の技術を社会に貢献させている。

合理的な考えだけど私にとってはそうはいかないわけだよ

――話を聞いてるとプロレス界のほとんどの選手が後輩になっちゃいますね。リック・フレアーから千春までですから幅広いですよね（笑）。

木口 ふたりのマッハとね（笑）。

――あと、木口さんに聞きたいのが、泥棒を捕まえた話なんですけど。

木口 あれはひったくりなんですけど、これも八田イズムと繋がるんですよ。あれはちょうど八田さんの合同葬儀の帰りだったんですよ。

――えっ、そうだったんですか？

木口 私は、家内と一緒に明治神宮前から電車に乗ったんだけど、車両はガラ空きでね。ところが百キロぐらいある外人がお婆さんの隣にピタッとくっついて座ってるんだよ。

――それは怪しいですよね。

木口 私の感覚では「このインターナショナルな関係はなんだろう？」って思って見てたわけ。そしたら、次の駅でドアが開いた瞬間に、お婆さんのバックをひったくろうとしたわけだよ。お婆さんは「何するんですか！」みたいなことを言ってバッグにしがみついたんだけど、引きずられて手が離れちゃってね。それで私も、お婆さんに「ここで待っててください。バッグは取り返しますから」とか言って、とにかくその外人を追っかけたんですよ。ところが結構足が速くてかなり離されてね。「捕まらないかな？」なんて思ってたら、私は扁平足なんで足音が響いたみたいで、すぐ近くまで来られたと思ったのか急に足が遅くなったんだよ。それで、その外人はボーンとハンドバッグを投げて、彼にしてみればバッグは返したからいいだろうと思ったんだろうね。まあ合理的な考えだけど、私にとってはそうはいかないわけだよ（笑）。

――ダハハハハ！ それだけじゃすまないぞと（笑）。

木口 それで、バッグを拾いつつ、彼に、なんか技掛けて関節技を極めて、その体勢のまま引きずるようにして駅員の控室に入ったんだよ。そしたら駅員がのぞきに来て「こいつは無賃乗車の常習犯だ！」って言ってね。それで私が「どうすればい？」って聞いたら「申し訳ないけど、警察が来るまで押さえててください」って言われたんだよ（笑）。

――ダハハハハ！

木口 しょうがないからずっとそのままの体勢でいたんだけど、そいつはドアの方をずっと見てて、少しでも力を抜いたら逃げようとしてるんだよ。そうこうしてるうちに警察が来て一緒に警察に行ったんだけど、今度は通訳がいないっていうんで、「大変申し訳ないんですけど、取り調べが終わるまで通訳やってくれませんか？」って言われてさぁ（笑）。

――『007は2度死ぬ』に続いて、泥棒の通訳ですか！

木口 そうだね（笑）。その後、何日か経ってから、お婆さんから、ウイスキーの角ビンかなんかと一緒に丁寧な手紙が送られてきたんだよ。

――アマレスは役立つもんですね。

木口 あのときはアマレスっていうかコンバットレスリングだね。

――ああ。やっぱり、実戦で役立つのはアマレスのポジショニング・プラス関節技ですか？

木口 そうですね。私は極めると同時に気持ち良くさせるのも得意ですからね（笑）。「地獄の入口までは付き合うけど、帰りは置いてくよ」って（笑）。

――ダハハハ！ グラウンドだけだったら年取ってもできますからね。

木口 そうですね。寝技は死ぬまで出来ると思いますよ。奥が深いですから。あと、若いヤツと対等に接せれるのもレスリングのおかげですよ。5歳ぐらいの子供から高校生までスパーリングしてるからね。まあそれが八田イズムの原形ですけどね。リングに上がればみんな平等なんだというね。八田イズムの大半が私の木口イズムを形成してますから。

――剃らせたりはしないけど（笑）。

木口 そういう生々しいのは話の世界で終わらせてね。まあ精神論として「昔はそういうこともあったんだよ」って八田さんの名前を借りて話したりはすることはありますけど、いまそんなことやったら体罰だなんだって言われて大変でしょう。それは木口道場じゃなくて木口ヨットスクールになっちゃいますよ（笑）。

――「言うこと聞かないと、あそこ連れて行くわよ」って（笑）。

木口 それはイヤですね（笑）。まあ見た通りの、明るく楽しく激しいところですよ。やっぱり楽しくなかったら子供は来ないですからね。でも、こういう道場をやってると、たくさん出会いがあって楽しいですよ。……でも、いろんな人を紹介されて握手して話をするんだけど、すぐ忘れちゃうんですよ（苦笑）。

――ダハハハハ！ だから写真を撮っておくんですね（笑）。

木口 名前も顔も忘れちゃうからね（笑）。この間のバリジャパでも両サイドにパンクラスに出てるアメリカの選手が座って、名刺を渡されて「木口道場に練習に行っていいですか？」とか言われて、「どうぞ」って話したんだけど、終わってみたら、「誰だったけなぁ？」って（笑）。

――ダハハハハ！

木口 まあ、名刺を見ればわかるんだけどさ（笑）。

【99年12月19日、木口道場にて収録】

きぐちのりあき■1944年、満州生まれ。法政大学にてレスリングを開始。64年、全日本学生選手権グレコ57kg級優勝、69年世界選手権大会グレコ62kg級5位入賞、全米選手権大会グレコ62kg級優勝と活躍。70年木口道場開設。86年より修斗に協力、総合格闘技の名を掲げる。94年、サンボ・コンバットレスリング教室を開講、総合格闘技路線強化。レスリング界にバルセロナ五輪代表・花原大介、アトランタ五輪代表・三宅靖志、サンボ界に全日本王者・五木田勝、修斗界に朝日昇、桜田直樹、佐藤ルミナ、桜井マッハ速人と優秀な人材を多数輩出している。

レスラー10周年記念！
3号連続インタビュー第1弾

ザ・グレート・サスケ

全世界で起こる事件はオレが黒幕だよ!!

聞き手／大西タマリン（サスケ組）
interview by Tamarin Onishi

くいしんぼう／チョロ（SASUKE組）
kuisinbou by cyoro

特別ゲスト／ニッキ島田（カリスマレフェリー）
special guest by Nikki Shimada

撮影／NAHOMIX
photographs by nahomix

ート・サスケ

©遠藤政文

この10年間、ザ・グレート・サスケは「おバカ発言」「珍奇行」をくり返し、頭の中身は狂い咲きであったが、レスラーとして見せる技の数々には、見てるこちらを常に狂わしてくれた。その栄光の10年を振り返ってもらおう！というこのインタビューであったのだが、なんせ相手はあのイカレ社長である。案の定、脱線、脱線、大脱線！のやっぱりいつものおバカなインタビューになった。だが、これを読めば2000年問題は解決！もう、恐れることはないのだ。さぁ、今すぐサスケワールドへ足を踏み入れろ！

サスケ　いやぁ～！（チョロに向かって）オォ～、兄弟じゃないか‼　久しぶりだな！試合、見に来てくれたの？

チョロ　もちろんですよォ！　1999年最後のみちプロ（12・21後楽園ホール）なんで、サスケ兄貴の姿を見に来ました！

サスケ　ナニナニ、そうなの？　うれしいねぇ～。じゃ、一緒にご飯食べに行こうよ！もう、何でもごちそうしちゃうよォ～！　タマリンちゃん食べながらでいいでしょ？

※という太っ腹なサスケ社長とワタシと勝手についてきたチョロで、プチゴージャスなご飯を食べながらインタビューは始まった！

――社長、いただきま～す！　そして、新年あけましておめでとうございます。

サスケ　えっ？　あっ、1月発売だね、ハイハイハイ、おめでとうございます。何でも好きなモノいっぱい食べてよォ～。さあ、何から話そうか？　もう、今日は調子がイイ！どんどん聞いて頂戴‼

――あ、ありがとうございます（笑）。今日は〝サスケ10周年記念インタビュー第一弾〟ということなんですが、サスケ社長は「プロレスラーになりなさい」と神の啓示を受けた時から、10年間ホント狂いっぱなしですよね（笑）。

サスケ　イヤイヤイヤ、オレは狂ってないよ！狂ってるつもりはないんだけど全人類からは「く、狂ってる！」と言われるんだよォ～。

――狂ってますよ（笑）。だって、『週刊プロレス』の選手名鑑であだ名は「ボケ老人」って書いてあるくらいですから。

サスケ　ガハハハ！　タイガーマスクとか新崎人生とか身内が言うんだよォ～（笑）。でも最近、ボケが激しいからねぇ～。

――ギャハハハ！　認めてるじゃないですか（笑）。それで、レスラー生活10年を振り返ってみて、どうですか？

サスケ　いやぁ～、もうアッという間。オレの10周年記念ビデオの『エピソード3』を見てビックリしちゃったよォ～！

――あれは、サスケ社長の頭が狂ってるとしか思えない発言だけ知ってる人にも、試合を通じてレスラーとしての凄さが存分に伝わってくるメチャクチャ面白いビデオですよ！でも、何で『エピソード3』なんですか？

サスケ　それはねぇ～、ズバリ、神のお告げです！　でもさ、あのビデオ見て「オレはなんて波瀾万丈なんだ！」って思ったね。

チョロ　（タダ飯に夢中で社長の顔も見ずに）モグモグモグ、デビュー戦からあんなモザイク似合うレスラーはいないですよ！

※このグレートなビデオの中で、MASAみちのく時代の社長には立派なモザイクが賭けられているのだ！

サスケ　ガハハハハハ！　そうかい？

――デビュー当時から、カメラアピールは全然変わってないですからね（笑）。

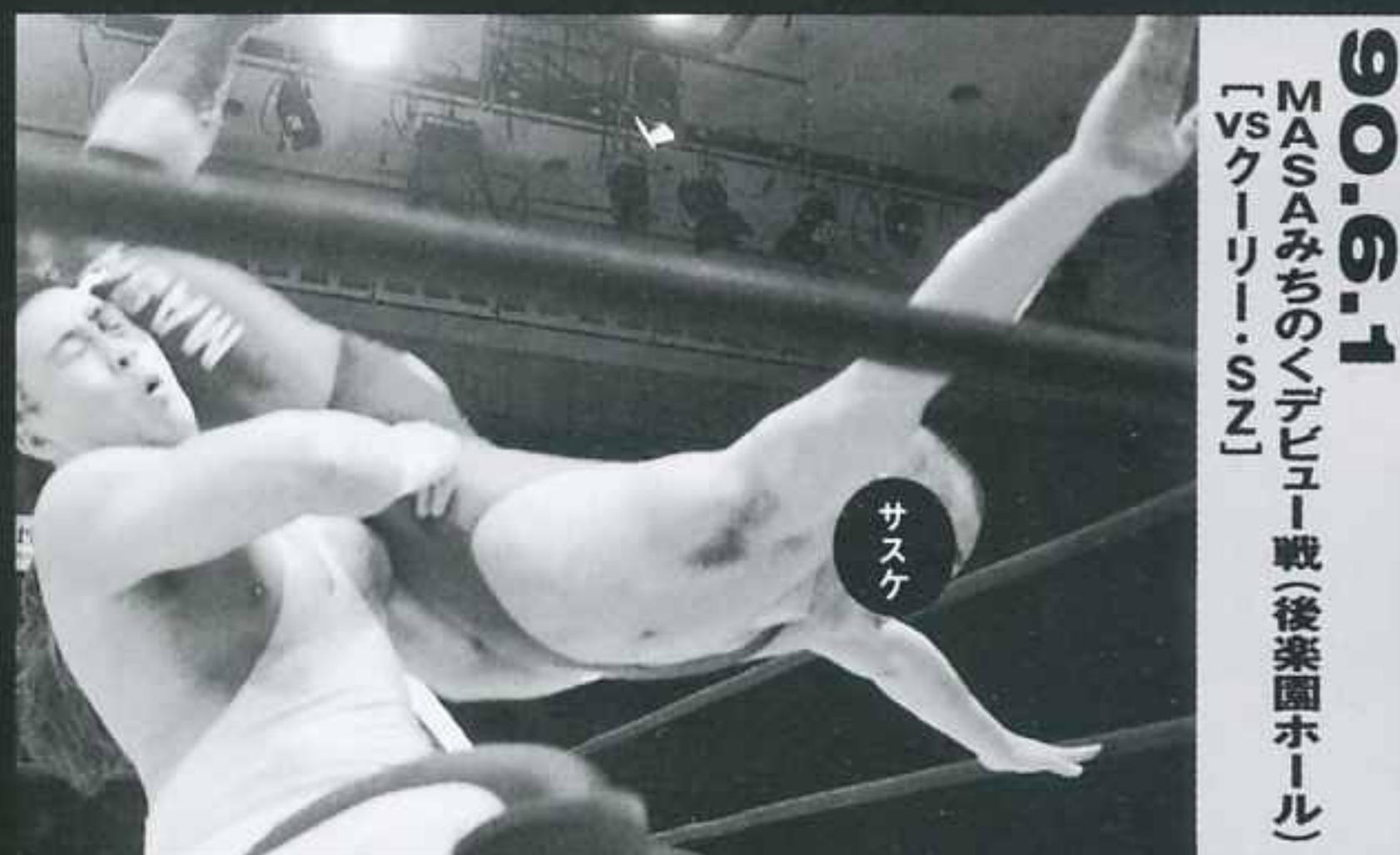
サスケ　ガハハハハ！　でさ、この10年間いろんな人と闘ってさ。もう全部が全部印象に残ってるんだけど、やっぱ、大仁田厚戦は何回見ても凄いな！

――試合前まで会場にいたのに、急にどこか

ザ・グレート・サスケ 10年の軌跡
～エピソード・1～（加速編）

90.3.1
デビュー戦（後楽園ホール）
［vsモンキーマジックワキタ］

サスケ

1983年、麗らかな春のこと。中学2年生であったサスケ少年は、「プロレスラーになりなさい」という神のお告げなるものを聞き、そこからプロレスラーになるため、ひたすらバカ正直に格闘ロマンを突き進んだ。その結果、90年2月『ユニバーサル』に入団。その約2ヶ月後、『ユニバーサル』旗揚げ戦にてデビュー。記念すべきデビュー戦の相手であるモンキーマジック・ワキタとは、現スペル・デルフィンである。この頃から2000年問題への布石があったとは誰も知るよしもない。

90.6.1
MASAみちのくデビュー戦（後楽園ホール）
［vsクーリー・SZ］

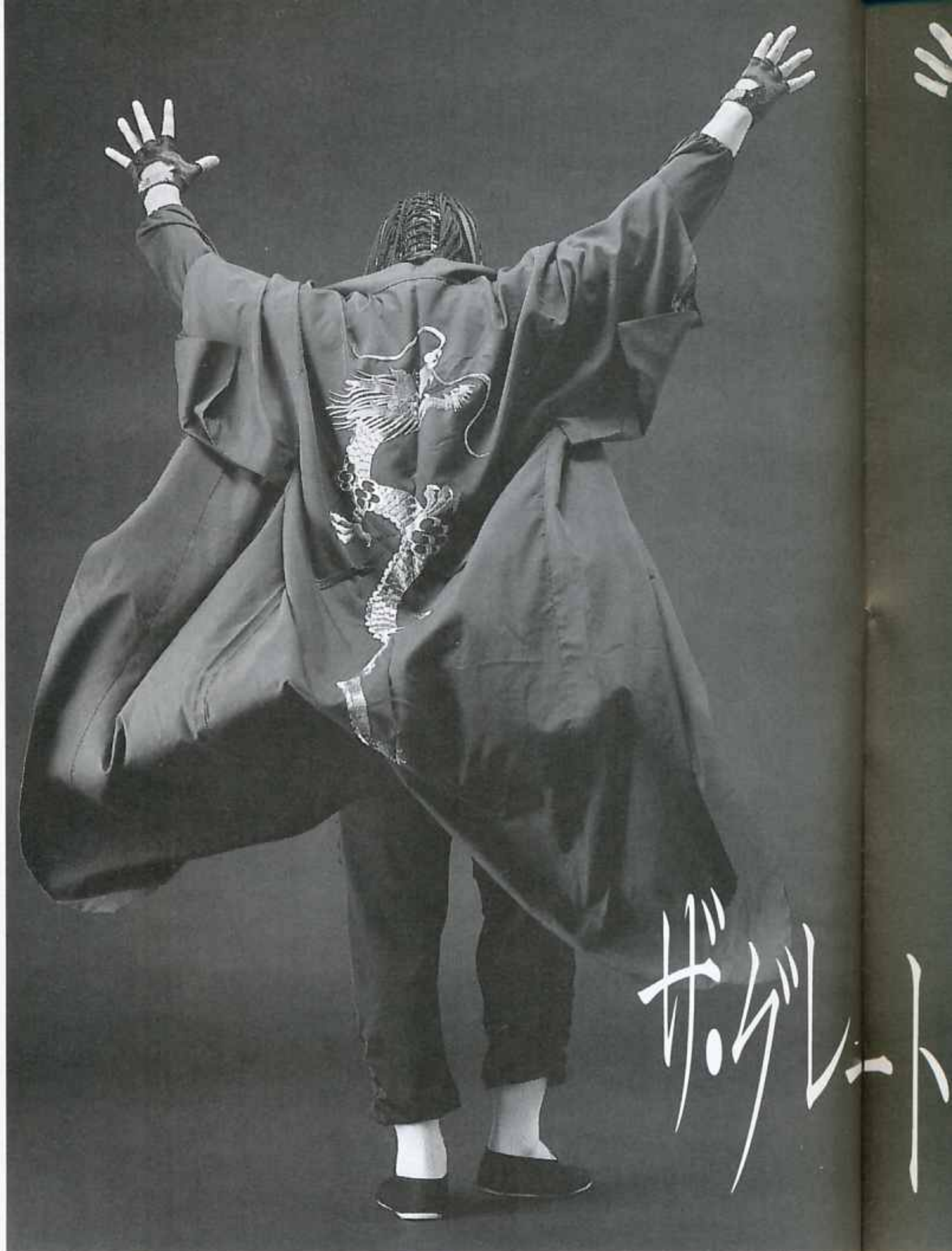
サスケ

デビューから3ヶ月後、MASAみちのくとして三度笠に『みちのく1人旅』を入場曲として再デビュー。入場時は誰よりも人気があったが、試合結果は全く出せず。だが、その空中殺法のセンスには誰もが脱帽であった。そして、メキシコ遠征に出発し覆面レスラー”ニンジャ・サスケ”が誕生する。有名な話ではあるが、サスケの先輩は邪道、外道、スペル・デルフィン。ちなみに、団体のエースであったウルティモ・ドラゴンはサスケのルチャの師匠でもあり、ココロの兄貴でもあった。

オレはプロレス界の〝つんく〟かよ!!

らともなくヘリコプターで現れたっていう電流爆破の時ですね。

サスケ　ガハハハハ！　そうなんだよ!!　どこから来たんだよぉ〜、オレ。なんでヘリコプターに乗ったのかは、意味わかんないんだけどさ（笑）。

――でも、アレこそサスケ社長を象徴してると思うんですよ！　ほのぼのムードの中で意味わかんないプチゴージャス感を漂わせてるんですけど、試合はきっちり感動させるっていう。

サスケ　ガハハハハハ！　そうかい？　ありがと。あのさ、話は飛ぶけどさ。オレ、年末にテレビでユリ・ゲラー見たんだよぉ〜。やっぱユリは最高だな！　ミレニアムに、みんな今こそ覚醒すべきなんだよ!!

――テレビの前でスプーン持ってですか（笑）。

サスケ　オレ、また覚醒しちゃったよ！　またやらかしちゃうよぉ〜。こういうところがA級戦犯につながるんだな。

――『ファイト』でも「オレがプロレス界のA級戦犯！」って宣言してましたけどホント、自分から言うの大好きですからね（笑）。

サスケ　ガハハハハ！　何か言っちゃうんだよね〜。今プロレス界って30団体以上はあるでしょ。そうさせたのはオレの責任ですよ！　みんなみちプロでも出来るんだからって思っちゃったんでしょ？

――才能のない人たちにも、夢と希望を与えちゃったんですね。

サスケ　ガハハハ！　そうだよ！　でも現実はそんな甘くねぇんだよぉ〜。ウチらでさえ、まだまだだよ！

――まだまだと言いつつも、２０００年はみちプロで『Ｊ―ＣＵＰ』開催というビッグイベントがありますよね。

サスケ　そうなんだよぉ〜！　サスケ10周年とか、みちプロ7周年とかあるけど、これが始まらないとな！

――みちのくでやるからには、優勝して「みちのくプロレスは永遠に不滅だ！」っていうのを聞かせてください！

サスケ　そりゃ〜、もちろんだよ！　狙いますよぉ〜！　今回は選手に専念するんだよ。いつも社長業と選手との2足のわらじで、プロデューサー業もしながらやってきたわけじゃない？

――サスケ社長もよく言っている通り、1日25時間働く社長ですからね。

サスケ　プロデューサーって「つんく」じゃないんだから！　「オレはプロレス界のつんくかよ！」ってね（笑）。

――ギャハハハ！　これはまた実に名言ですね（笑）。でも、ホント『Ｊ―ＣＵＰ』出場希望の選手は多いですよね。

サスケ　ねぇ〜、リッキー・フジさんまでも。ムフフフ。でも、実行委員会を設置するんでオレの権限では決められないんだよ。実行委員長には、ウルティモ・ドラゴンさんがなりそうなんだよ！

――サスケ社長の人柄で、みちのくから闘龍門からＷＷＦまで勢揃いなんて夢のような交流戦ですね。大阪プロレスはわかりませんけど（笑）。

サスケ　なっ！　オレもわかんないけどさ（苦笑）。でも、史上最大の規模でやるからね。

――もう、社長の脳みそコンピューターがま

ザ・グレート

94.4.16
「スーパーJ―CUP」準決勝戦（両国国技館）
［vs獣神サンダーライガー］

その後、ユニバーサルに激震が走る。エースであったU・ドラゴンが離脱。そこで団体エースの使命を与えられ、サスケはメキシコから凱旋帰国をはたし、ザ・グレート・サスケのリングネームとなる。そして91年にはサスケスペシャルを披露し順風満帆なレスラー生活を送っているようかに見えるも、サスケ、デルフィンらが会社批判をブチ上げ、93年3月みちのくプロレスを旗揚げする。旗揚げ当初は絶好調に盛り上がったが、東北最大の娯楽になるには容易ではないことを実感し、東北人に認められるためメジャー新日本で行われた『J―CUP』に出場。数々の強豪と対戦するも、みちのく魂を存分に見せつけ準優勝を納める。ここで、東北のサスケから全国区にその存在をアピールし、サスケバブル到来の兆しが見える。

94.10.30
爆破ダブルヘル時限爆弾デスマッチ戦（若手産業文化センター）
［vs大仁田厚］

『J―CUP』の2ヶ月後、サスケはリッキー・フジとのタイトルマッチに勝利するも、突然の引退発言。なぜだ!?　そして、当時FMW社長であり涙のカリスマであった大仁田厚がみちプロ参戦をし、東北初の電流爆破マッチを行うことになる。この試合終了後、大仁田は失神しているサスケを抱えながら大絶叫！「みちのくを絶対潰すな！」と新崎人生を呼びつけ、意識不明のサスケを手渡す。ここで、バラバラになりかけていた、みちプロ戦士たちのココロが再び一丸となる。

たまた大爆発して、とんでもないことになりそうですね（笑）。

サスケ　実はもう、とんでもない必殺技考えてるから！　ムフフフ。またまた話は飛ぶけどさぁ～、今『イエス・キリストの大予言』って本読んでんだよ。これは面白いんだよォ～。　オレは、さらにステージの高い人間になってるんだよ！　だから2000年は空の上で過ごすことにしたんだよォ～。

――そ、空の上！　また高いところまで行きましたねぇ（笑）。で、どこに行くんですか？

サスケ　それが、アメリカなんですよォ～。

――新年早々アメリカですか？　何か企んでるんだったら、こっそり教えてください！

サスケ　しょうがないなぁ～。タマリンちゃんだから教えてあげるよォ～。これは『紙プロ』だけの大スクープだよ！　（こそっと）ヒロ・マツダさんの墓参りに行こうと思ってるんだよ。

チョロ　モグモグモグ、マツダさんってエル・サムライさんじゃないですよね。

サスケ　ガハハハハ！　違うよォ～。そういえばサムライに金借してるんだよ！　あいつ、新日本で会ってもトイレに逃げるんだよ（笑）。

チョロ　グビグビぷっはあ～、メジャーなのに、それは侍らしくない！

サスケ　ガハハハハ！　うまい!!　そんなことよりヒロ・マツダさんだよォ～。まさか、みちプロと接点あるとは思わないでしょ？

――全く、結びつかないですね。

サスケ　それが実はあるんだよ！　ちなみに年を越す瞬間は、太平洋上空にいるんだけどもさ。そこで、2000年になったら墜ちるかもしれないよ！　墜ちたら「ハイ、さよなら」なんだけどさ（笑）。もし、生き残ったらヒロ・マツダさんのお墓に行って「お葬式に行けなくてすいませんでした」って言うんだよ。

――そんなに、友好関係が成立してたんですか？

サスケ　これが、実は2年前、ヒロ・マツダさんに呼ばれてタンパに行ったんだよ。でさ、「タンパで何か一緒にやろう！　よし、インターネットでタンパからみちプロを全世界中継する！」って意気投合したんだよ！

――でもなんで、みちプロなんですかね？

サスケ　そこなんだよ！　だから「新日本でもいいじゃないですか？」って言ったの。ハッキリ言うよ！　マツダさんは新日本は嫌いなんだって。まぁ「メジャーはもういいんだ」っていう思いがあったみたい。「オレは、これからの君たちが好きなんだ！」って言ってくれてさ。そこにビビビときたよ！　松田聖子じゃないけどもさ（笑）。

チョロ（まだまだ底なし胃袋開店中！）モグモグ、マツダだけに！

サスケ　ガハハハハハ！　うまい!!　でも要はその計画は頓挫したわけだよ（笑）。それで急に亡くなられて、お葬式にも行けなかったからね。

――そんなことがあったんですかぁ。その計画っていうのは、着々と進んでたんですよね。

サスケ　進んでましたよォ～。でもマツダさんが体を悪くされて、のびのびになって。だからホント残念！

――それで2000年はアメリカで幕開けなんですね。

サスケ　そうだよォ～。なんかオレ、カッコイイね。ムフフフ。

――まさに『サスケが翔ぶ』ですね。1999年は、前々からサスケ社長がしつこく言ってたように、ホント何にも起こらなかったですね。サスケ予言的中ですよ！

サスケ　そんなこと言ったっけ？

――アララ、ボケ老人ぶり発揮ですね（笑）。かなり言ってましたよ！

サスケ　ガハハハハ！　あっ、今思い出したよ！　そうそうそう。2007年から警戒ゾーンに突入だね。

――えっ!?　またそれはなぜでしょう（笑）。

サスケ　これも『紙プロ』スクープだよォ～！　実はね、今の西暦っていうのは意味がないんだよ！　紀元後は1年から始まってるわけだよ。だけど、人の年齢を数える時には0歳ってのがあるわけよ。だからキリストの生誕にあわせるには、西暦0年っていうのがなければおかしいわけよ！　要するに西暦を作った人が、忘れてるんだな。

――サスケ社長は、もちろんよ～く知ってる人物なんですよね？（笑）

サスケ　もう、アミーゴだよ！　知ってるって会ったことはないけどさ（笑）。西暦はね、紀元後6年に作ったんだよ。

96.8.5
「J―CROWN」8冠統一戦
（両国国技館）

95年には、第1回覆面ワールドリーグが開催され、決勝戦でドスカラスと覆面世界一の名を賭けて闘うも、場外パワーボムに失神し準優勝に終わる。そして、「ジュニアのベルトを統一しよう！」という獣神サンダーライガーの呼びかけのもとに、8本のベルトを持った戦士たちが集結し『JCROWN』が開催される。そこで、史上初8冠王になったのだが、決勝戦でU・ドラゴンに放った鉄柱越えトペコン・ヒーローの失敗で、頭蓋骨骨折という代償をしいられ長期欠場、引退の危機どころではなく再起不能か!?　という衝撃に見舞われることとなる。

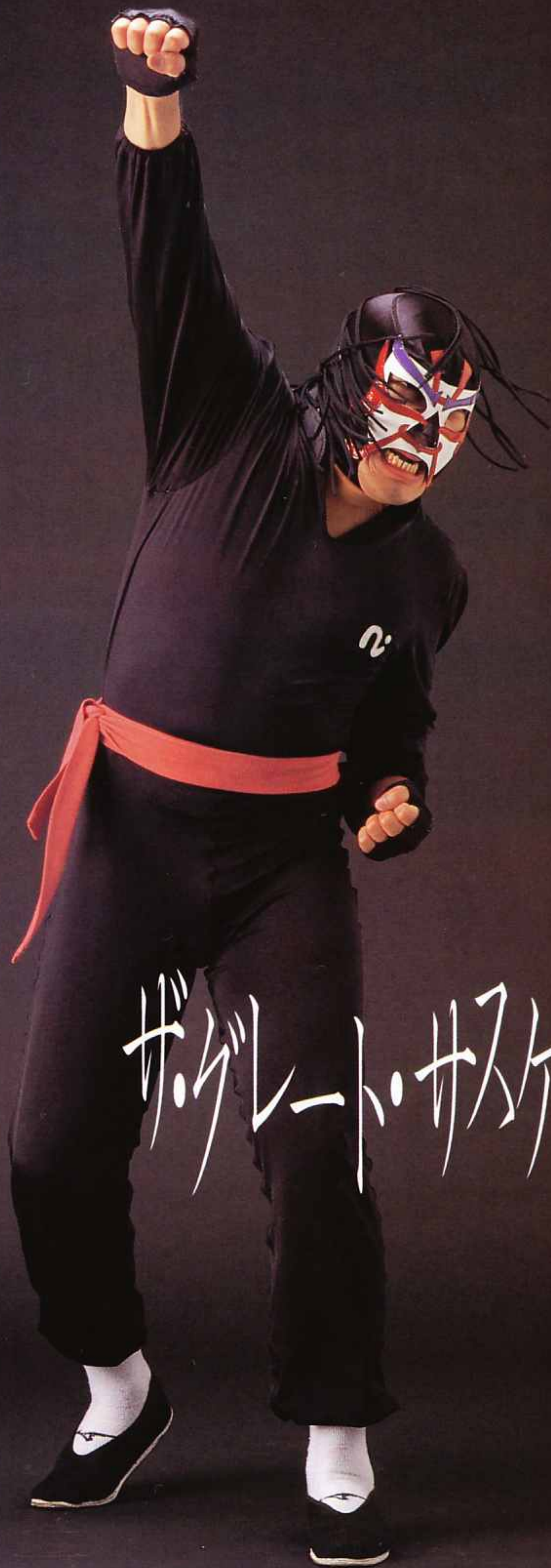
96.10.10
竹脇（両国国技館）
サスケ&初代タイガーマスク&ミル・マスカラス vs ダイナマイト・キッド&小林邦昭&ドス・カラス

『J―CROWN』2ヶ月後、みちプロ初の両国国技館大会にて、奇跡的に大復活を成し遂げるも、高野拳磁withTとして歌を披露し客を引かしまくり、さらに頭が狂い出したことを証明した。このころから海援隊DXがみちプロを牛耳り始め、サスケのヒザを破壊しまくる。ちなみに、この年の11月に豊川悦司主演の『傷だらけの天使』にみちプロ勢が出演し、翌年4月に、念願の銀幕デビューを飾る。

2000 格闘SMILE

今でもSASUKEはオレの中で輝いてるんだよ!!

ザ・グレート・サスケ

©斉藤ユーリ

──ハァ〜。ということは数える手段でしかないんですね。

サスケ　そうそう！　でさぁ〜、2000とかミレニアムとかって、みんなマスコミが騒ぐんで気にくわんな！

──サスケ語録では使い放題ですけどね（笑）。

サスケ　オレは意味わかって言ってるからいいんだよォ〜！　あれは聖書の最後の最後に出てくるんだな。ただ時代の流れがね、今犯罪が凄いでしょ？　それがミレニアム現象なんだよ。つまり、1000年単位で時代は流れてて、それが膿なんだよ！　膿を全部出し切った時に改めて平和が訪れるんだよォ〜。

──膿かどうかはわかりませんが、去年の年明けにはいろんなものをみちプロは出しちゃいましたよね。

サスケ　予想外に出しちゃったから、ウチの2000年問題は大丈夫！　ムフフフフ。

※ここで、この後サスケ社長と夜の街に繰り出す約束をしていたカリスマレフェリー島田さん登場！

島田　は〜い、ど〜も！　な〜に『紙プロ』のインタビューなの？　チョロ、お前何食ってるんだよ、バッシーン！

チョロ　（平手打ちを食らいつつ）イタッ！　モグモグモグ。

サスケ　オイオイオイ！　兄弟大丈夫かい？

チョロ　（口いっぱい含みながら）ふぁい。モグモグモグ。

──アハハハ。今なぜか2000年問題の話なんですが、バトラーツもいっぱい抱えてるんじゃないですか？

島田　ん〜、ウチは東北巡業でみちプロバス借りてるから大丈夫ですよ〜。バスの中でビデオ見っぱなしだもん！　社長の趣味のバアサンが宇宙人飼ってるやつ。ねっ、社長！

——宇宙人？　みちのくの選手はそんなのばっかり見てサスケ洗脳されてるんですか！

島田　ん～、真剣に見てるのはタイガーマスクと社長だけなんだけどね。ねっ、社長！

サスケ　ガハハハハハ！　そんなことないよ！　みんな見てますよォ～！

島田　2人でUFOセミナーとか映画とか行ってるんだよ、社長お薦めの映画のポスターとか血みどろなんだから（笑）。ねっ、社長！

——一体、どんなお薦めですか（笑）。そういえば、「大阪プロレスは眼中にないね」とか結構辛口のことを言ってる『ファイト』のタイガーさんインタビュー読みました？

サスケ　あ～、そうらしいねぇ～。まだ読んでないんだよ。

——大阪プロレスは、映画のようなプロレスを謳ってるんですよ。

サスケ　だったら映画見に行けよ！

——ギャハハハ！　血みどろのポスターの（笑）。

島田　ん～、みちプロも色々あったけど、社長のプロレスは命がけだから、ファンが感動する名勝負が生まれるんだよ。レスラーは命がけだから、お金が貰えるんですよ。社長なんか何回、頭蓋骨割ってると思ってるの！

——おそらく、1回なんですけどね（笑）。

サスケ　ガハハハ！　ホントだよ！　でも、よく脳は腫れるんだよねぇ～（笑）。

島田　（突然）岡本魂は社長のところで再修行だから。ねっ、社長！

——これは『紙プロ』読者にはたまらないスクープですね。

サスケ　オイオイオイ！　そんなの聞いてないよ（笑）。

島田　ん～、ウチの選手は「みちのくに行けば出世する」っていうジンクスがあるから。みんなみちのくに行けば大きくなるんですよ！　ねっ、社長！

サスケ　イヤイヤイヤ、そんなことないよ！

目に見えない相手と闘いたいねぇ～。それは悪魔だな!!

ザ・グレート・サスケ

島田　プロレス界のエディ・タウンゼントだから（笑）。

——謎のマスクマントレーナーだったんですね（笑）。それは、今年は何か凄いの育てそうですよね。

サスケ　今年はやっちゃうよ！　世界最速のリレー少年としてベン・ジョンソン呼ぶから。その名もリレー少年ブラックブラック!!　これどうだい!?

——ギャハハハハ！　誰にも捕まえられないくらい速い!!

サスケ　夢あると思わない？

島田　ん～、ベンは「働くの嫌い」っていう名言があるから。ねっ、社長！

サスケ　ガハハハハ！　そういうダメなヤツがオレは好きなんだよ。

——それは、WWFも顔負けですよ！　WWFと言えば、ビンス・マクマホンと日本人でケンカしたのってサスケ社長だけですよね。

サスケ　日本人でビンスと正面切ってケンカしたのはオレくらいでしょう！

※ここで、島田レフェリーの携帯電話が絶妙のタイミングで鳴る。

島田　「は～い、もしもし～？　あ～、ヒクソン！　OK、OK！　ハクソンとはいつでもやってやるよ～」じゃ、カレーマン！　ちょっと先行ってますねぇ、さよなら、は～い！

サスケ　カレーマンじゃねぇよ！　ま～た、島ちゃんのネタだよ。まいっちゃうね（笑）。

——ギャハハハ！　「は～い島田さん劇場」でしたね（笑）。それで話は戻りますけど、サスケ社長はノーと言える日本人ですからね。

サスケ　そうなんだよォ～！　オレは、試合直前のドレッシングルームにビンスを呼び出して、「どういうことだよ！」って言ってやったよ！　WWFは、オレとビンスがケンカしたあたりからさ、面白くなったよね。オレが、ビンスに気を与えちゃったからさぁ～。だからオレ対ビンスのケンカっていうのが、

97.10.10 サスケからダイオキシン ［vsTAKAみちのく］

日本に数台しかないリムジンを乗り回し絶好調であるサスケの目は海外に向けられ、ヒザの状態はボロボロではあるがECWに参戦しWWFでのデビューも発表される。だが、交渉決裂。かわりにTAKAみちのくがWWF入りするという事態になる。ここで、TAKAがサスケのリムジンを襲撃したりし、数々の因縁が生まれた挙げ句、サスケのヒザの問題やデルフィン失踪と暗い話題がたちのぼり、みちプロ開店休業、経営危機などの問題が勃発！　サスケのヒザが完治するまで活動休止宣言をする。

この日試合終了後、TAKAの「サスケ！　みちのく潰すなよ!!」という涙を誘う名ゼリフと共に終焉。だが、サスケの口から「キミたちが1人でもいる限りみちのくプロレスは永遠に不滅だ！」という言葉は聞けず……。この後のサスケ10年人生劇場は次号へと続くのであった。

日本全国総サスケ化計画
〜エピソード2〜（検証編）

❶みちのくプロレス1999年最終戦。この日のメインのリングには、4人のサスケが現れた！　ザ・グレート・サスケ、ザ・グレート・サスケ・テイガ・マルチタイプ（見覚えのありまくる黒のベルベットに金の縦線というパンタロン着用）、ザ・グレート・サスケ・ダイナ、サスケ・ザ・グレート……。あ〜っ、メチャクチャややこしいが、とにかくマット界総サスケ化計画を狙っているのだ!!
❷みちのくプロレス7年目。「もう、今まで いろんなことがありすぎたから、な〜んにも起こらないんじゃないかって心配なんだよォ〜」と豪快にサスケ社長は言っていたが、おそらく1000年王国を作るにあたってのカモフラージュである。というのも、この夏みちプロで4年に1度開催される『ふく面ワールドリーグ』のための、地区大会（高校野球か！）そしてアジア地区大会（ホント!?）をやると、このインタビュー当日宣言していた。「世界最強のマスクマンを決めるんだからそれくらいやらないとねぇ〜」と言うのだが、ここで、日本とアジア各地にサスケバイオ工場を作る計画であるに違いない。
❸極めつけは、**サスケレスラー生活10周年記念ビデオ『エピソード・3』**である。とにかく10年間分のおいしい試合をもうらし、「バカなことばっかり言ってるけど、こんな凄いレスラーだったんだ！」と、文句なくレスラーサスケ教に入門したくなることは間違いない。そして、もちろんサスケ劇場も万端装備されており"'99ベスト白三角布リスト"も受賞している。う〜ん、ちょっと、買ってまで見るのは……。と思っている人、君は甘すぎる。今やTSUTAYAに行けば一家もろともサスケである。

お呼びでない？
「エピソード・3」は
絶賛発売中だよ〜！
こりゃまた失礼
いたしました!!

〜エピソード3〜（ビデオ編）

2000 格闘SMILE

シャクティーパットしちゃったようなもんでさ。WWFをブレイクさせたのは間違いなくオレだよ！　オレが黒幕だな！

——ギャハハハ！　自分から黒幕っていう人は珍しいですけどね（笑）。

サスケ　だから、どうせケンカするなら「世界を股に掛けてケンカしろ！」ってね。でも、今年は目に見えない相手と闘いたいねぇ〜。

——誰か具体的に闘いたい相手がいるんですか？

サスケ　それは悪魔だな！

——ギャハハハ！　また悪魔って、「オレが第3の予言を阻止してやる！」っていう感じですか（笑）。

サスケ　ガハハハハ！　そうだよ！　第3の予言っていうのは、第3次世界大戦のことなんだよ！　だから阻止しなければいけないんだけど、それが起こらなければイエス・キリストが来ないっていうのも事実なんだよね。どっちを選ぶかだね。オレはそこを研究している研究家なんだよ！

——しかし、いろんな肩書きを持つレスラーですね（笑）。全然話は変わりますけど、サスケ社長はことあるごとに、すぐ引退するとか言うじゃないですか。

サスケ　す〜ぐ言っちゃうんだよ！（笑）でもね、裏方に早く専念したいんだよ。つまり、人と人を結ぶっていうプロデュース稼業が好きなんだよ！

——やっぱり、「つんく」願望ですか（笑）。でも、マット界でサスケ社長が引退したら、誰が笑いと感動を与えるんですか！

サスケ　うれし〜ねぇ〜、ありがと。そういえばオレ、旗揚げ半年もたたないうちに引退賭けてたよね（笑）。（93・7・24岩手マッハランドでの対デルフィン戦）アレも意味わかんないんだけどさ（笑）。でさ、あの時リングでファンのミニサスケを抱えたじゃない？

——試合終了後のリング上でですね。

サスケ　そう、その子からつい最近手紙が来たんだよ！　その少年ファンがさ、当時小学生くらいじゃない？　でも、大きくなってさ「今、体鍛えてるからみちプロ入れてください！」って書いてあるんだよぉ〜。だからそういう感じで夢を与えて、下からどんどん育ってくれればいいよね。

——だから、もっとそういう風にサスケイズムを継承してもらわないとダメですよ！　まぁ、サスケといえばティガマルチタイプとかダイナもいますけどね。

サスケ　タイガーも藤田（稔）も（愚乱・）浪花もいて、プロレス界のジャニーズにしたいね！

——またそれは、凄いビジュアルのジャニーズですね（笑）。

サスケ　ガハハハハ！　イヤイヤイヤ、オレがジャニー喜多川でヤツらはスマップ！　本家には負けませんよぉ〜！

——もしかして、（こそっと）ホモになるってことじゃないんですよね（笑）。

サスケ　ガハハハハ！　違う違う違う！　タマリンちゃん安心して！

——よかったです（笑）。サスケ社長だけに、何やり出すかわからないですから。

サスケ　ガハハハハ！　まぁ、島ちゃんはニッキ島田で、『紙プロ』はさしずめフォーリーブスだな。

——ギャハハハハ！　ウチもジャニーサスケ一門なんですね。

サスケ　もちろんですよぉ〜。でも、忘れるなよ！　君たちはサスケ組だからね。

——あ、ありがとうございます！　チョロも岩手出身で、サスケ社長の妹さんと同じ高校だった……。

チョロ　モグモグモグ、（一応謎のマスクマンだけに、サスケ社長に気を使ったと思われる）プライベートなことはよしてよ。モグモグモグ。

サスケ　オイオイオイ！　レスラーや芸人にプライバシーはねえんだよ！

——ギャハハハ！　誰がなんと言おうとワタシの1999年、名言ベスト1が出たところで次号もよろしくお願いします！

サスケ　ハイハイハイ、何でもやりますよぉ〜！

——それは心強いです！　今日はごちそうさまでした。ちょっとチョロさん！　いつまで食べてるんですか!?

チョロ　モグモグモグ、ハァ〜、兄貴ごちそう様でしたぁ〜！

【12月21日　都内某所にあるデニーズにて収録】

オレにはもうひとつやりたいことがある バーリ・トゥードをやるよ!!

——まずは『タッグバトル'99』の優勝おめでとうございます、と言いたいところなんですけど、「全然嬉しくない」とコメントしてましたね。

臼田　そうだね。嬉しくないよ。

——なぜですか？

臼田　オレはタッグ屋じゃないから。

——なるほど。その試合後に、来年の抱負として「団体外にいろいろ挑戦したい」とコメントしてましたよね？

臼田　まあ、いろいろ考えてることはあるよね。たとえて言うと、コックになろうとして店に入るとするでしょ。

——はい。

臼田　見習いから始めて、皿洗いをやって、まかない料理を作ったりしながらキャリアを積んでるうちにオーナーから呼ばれて、「お前にコース料理を任せる」って言われたとする。それもこなしました。苦情もないから、好評なのかなと思ってたら、いきなりオーナーに呼び出されて、「悪いけど、人が足りないから洗い場に戻ってくれ」って言われたような感じ、かな？

——すいません、全然わかりません（笑）。ようするに洗い場、というか前座に戻りたくないということですか？

臼田　いや、別にいいんだよ。洗い場だったら、食器でも鍋でも絶対に汚れひとつ残さないぐらいにピカピカに磨く自信はあるから。それがプロの仕事じゃん。でも、店の都合で洗い場行かされたり、調理場でコース料理をやれって言われてもテーマは見つからないよ。それだったら、店が休みの日は他の店にヘルプで入って勉強したい。コックを目指して、店に入ったんだから、コックを目指すよ。ヨソで働けばギャラも入ってくるしね。

——じゃあ、「バトラーツ」というお店にこだわりはないんですか？

臼田　う～ん、入ったときの志からオレは変わってないんだ。みんなも同じだと思うよ。でも、その思い描いてる志とバトラーツが重ならない部分があるってことに気付いて、それぞれ外に出て活躍してるわけでしょ。オレ自身も視野は広がってると思うよ。

——臼田さんが目指してる方向というか、志って何なんですか？

臼田　オレは「強くなりたい」と思って、この世界に入ってきたからね。目立ちたいという気持ちは、あんまりないよな。「もっと派手な技を使えば？」って言われることもあるけど、しょうがねえよ。地味な技が好きなんだから。

——アハハハ、地味好きですか。たしかに、臼田さんは渋さに拍車がかかってますからね。

臼田　それはみんなが派手になったからそう見えるんだよ。派手なことやって似合う選手は、ドンドン派手なことやればいいんだよ。オレは自分で花があるなんて思ってねえから。

——アハハハ！　そんなこと自分で言っちゃったら元も子もないじゃないですか。

臼田　いいんだよ！　オレにはもうひとつやりたいことがあるし。

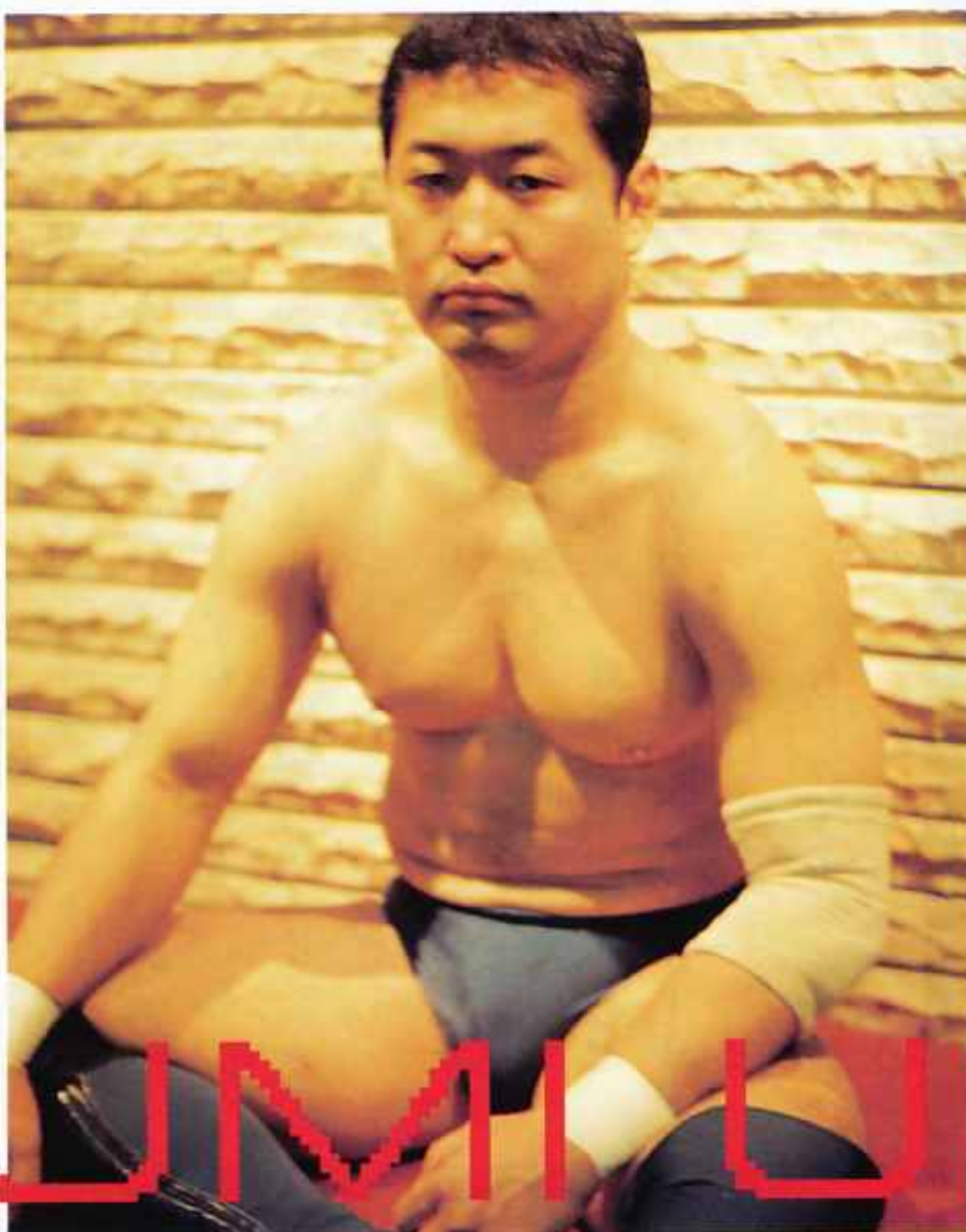
——「やりたいこと」って何ですか？

臼田　そんなのわかってんだろ⁉

——いや、たぶんバトラーツ・ファンも薄々とはわかってると思いますけど、ハッキリと言って欲しいんですよ。

臼田　だから……タコ焼き屋だよ。

——ズコッ！　もう、ズバッと言っちゃってくださいよ。

臼田　さっきの話の続きになるけど、コース料理の店で働きながら原点を見つめ直して露店に戻るってことだよ。

——つまりストリートファイトですね。

臼田　バーリ・トゥード（以下、VT）をやるよ。

——いや～、ボクはその言葉を待ってましたよ！　是非やってください！

臼田　会社もオレがVTをやりたがってるのは、わかってると思うんだけどね。なかなかそういう試合を組んでくれないんだよ。

KATSUMI USUDA

——言葉にしないと、誰にも伝わらないですよ。いぶし銀もいいですけど、やっぱり臼田さんは初志貫徹でVTに再挑戦するべきだと思います。

臼田　よく関係者にも言われるよ。オレは「そういうことは会社に言ってくれ」って答えるんだけどね。

——そんなこと言わずに、自分で動きましょうよ。

臼田　だから、自分で動くって言ってるじゃねえかよ！　まあ、あんまり会社のことはアテにしてないから。

——ボクはここ最近、バトラーツの選手に連続でインタビューしてますけど、皆さんだいぶ不満がたまってるみたいですね。「会社vs選手」っていう構造が出来上がってないですか？

臼田　まあ、組織が出来上がっていくと、なかなかうまくいかないかもしれないね。たしかに待遇面では、やってることに対して「還元されてるな」って感じることは少ないよ。

——臼田さんの場合は、お金が酒に消えちゃうんじゃないですか？

臼田　でも、酒も安い酒になったよ。外で飲むより、家で飲むことが多くなったし……なんか、サラリーマンが酔っぱらって愚痴こぼしてるみたいなインタビューじゃねえか！　もっとかっこいい話にしようよ。

——確かに、新橋の居酒屋でインタビューしてるみたいですね（笑）。じゃあ、VTの話にします。最近の『PRIDE』とかは見てるんですか？

臼田　見てるよ。（アレクサンダー）大塚

バトラーツの元祖
バーリ・トゥード男
臼田勝美

うすだ・かつみ■昭和45年3月17日、東京都八王子市出身。新日本プロレス学校でトレーニングを積み、藤原組に入門（その後、退団）。W☆ＩＮＧでは1試合もせずに方向性の違いから退団。藤原組に復帰。バトラーツには旗揚げから参加している。最近は師・藤原喜明ばりのいぶし銀ファイトで異彩を放っているクールな熱血漢。とにかく酒を飲む。酔った勢いで車に突っ込んだ経験もある。176cm、84kg。

バーリ・トゥード再出撃宣言!!

バトラーツ年末の風物詩『タッグバトル』で、臼田勝美がカール・マレンコとのチームで優勝して久々にスポットライトを浴びた。その試合後、「やりたいことを実現するために、自分から動く」と宣言した！
臼田のやりたいこと？　答えは当然アレしかない！
斬り込み隊長として、バトラーツで真っ先にバーリ・トゥードに挑んだクールな熱血漢が、沈黙を破って再び動きだす！
バトラーツの現状へのボヤキまじりながらも、確実に未来を見据える男のリベンジがいま始まる！
さあ、グラスは持ったか？　酒飲みながら、読みやがれ！

聞き手／坂井ノブ（亡霊）
interview by Nobu Sakai

撮影／松本 崇
photographs by Takashi Matsumoto

もカール（・マレンコ）も頑張ってるね。

――カールの試合ではセコンドに付いてましたよね。

臼田　うん。カールは凄いよ。あのvs（ヴァンダレイ・）シウバ戦も、試合開始1分でアイツのヒザ関節が抜けちゃって、本調子じゃなかったんだよ。

KATSUMI USUDA

冬の風物詩となった『タッグバトル』。12月5日の川越大会では石川＆望月組を破り、見事に優勝を遂げた臼田＆カール。どうやらホントに嬉しくないのか、表彰されても顔は怖いままだった。

――そうらしいですね。

臼田　「ああ、これじゃ1R持たないだろうな」と思ってたんだけど、判定まで持ち込んだからね。うん、アイツはすごい頑張った。それだけに、あの試合は凄く悔しかったよ。

――悔しい？　臼田さんは「オレはオレだから」ってタイプで、あんまり他人のことで熱くなりそうには見えないんですけど。

臼田　珍しいよ、こんなこと。だけどカールの試合を目の前で見てて、「オレもやらなきゃ！」と思ったもん。

――当面の目標としては、やはり2連敗を喫したヴァリッジ・イズマイウにリベンジを狙うわけですか？

臼田　いや、その前に実績を作らないと。誰かを指名するのはそれなりの実績を作ってからだよ。まだ、オレは全然そんな段階じゃないから。まずは練習したい。

――臼田さんが、「外に出て行きたい」って言ってたのは練習面にもつながって来るわけですか？

臼田　そうだよ。じつは、今年ヤマケンさんのジムにも何度か出稽古に行ったんだよ。

――あっ、そうだったんですか？

臼田　ケガが多くて、あまり行けなかったけどね。来年はもっと行かしてもらいたい。高田道場にも出稽古に行ってみたいし。こないだ、ウチとみちのくプロレスで合同興行をやったとき（99・10・17）に桜庭（和志）さんが会場に来てたから、「出稽古に行きたいんですけど」ってお願いして、いい返事をもらえたし。来年はVTをやりたいから、練習をするための時間を多く割くつもりだよ。

『PRIDE.7』のカールを見て、オレもやらなきゃと思ったよ。あいつは凄い!!

――すいません、基本的なこと聞いてもいいですか？

臼田　何？

――練習好きなんですか？

臼田　嫌いだよ！　家で寝てた方がいいもん。でも、練習することも仕事だから。練習なんて辛くて当たり前！　要するに練習の後が好きなんだよ。

――一杯飲むからですか？

臼田　そうそう（笑）。特に夏場の練習後の冷えたビールはね、ホントにムチャクチャうまいんだな（しみじみ）。

――練習のために食事制限したり、酒を控えたりはしないんですか？

臼田　ストイックにしようと時期もあったけど、オレには向いてない！

――アハハハ、ボクも、臼田さんはムチャ飲みしながらVTで勝ってほしいですよ。

臼田　でも、動ける体重にはキープしないとね。

――体重的にはジュニアですよね？

臼田　年齢的にはシニアだけどね。

――アハハハ、そんな。で、ジュニアヘビー級の話ですけど田中（稔）さんと臼田さんが11月21日にシングルマッチで激突しましたよね。その試合後、田中さんが「頭の中で描いているバトラーツジュニアが出来るのは、モッチー（望月成晃）と臼田さんだけ」という発言をしているんですよ。

臼田　オレも以前、直接言われたよ。

――田中さんの言う「バトラーツジュニア」のスタイルって、具体的に言うとどういうものだと思いますか？

臼田　言葉ではなかなか表現出来ない部分だな。やってる人間にしかわからない部分だよ。オレもマッハ（純二）や日高（郁人）と試合をやるときと、田中さんや望月さんと試合するときは満足度が違うから同感だね。

――見てて思うんですけど、日高さん以降の選手はロープ・ワークを抵抗なく試合で使ってますよね。臼田さんや田中さんは、比較的使ってないように感じますけど。

臼田　もともとオレたちは藤原組出身で、藤原（喜明）さんからレスリングと打撃の技術を教えてもらったわけだからさ。せっかくレスリングが出来るのに、はじめからロック・アップで組んで、大技をバンバン出さなくてもいいと思うんだよね。他の選手がそういう傾向にあるから、オレは逆にレスリングにこだわりたい。

――じゃあ、臼田さんは、バトラーツが全体的に純プロレス化しつつあると言われている傾向はどう思いますか？

臼田　だってウチはプロレス団体じゃん。オレと社長の試合は、石川雄規vs臼田勝美だよ。それが何スタイルってことにはならないでしょ。その試合は、その試合。それ以上でも、それ以下でもないから。あとは誰と誰が当たるかの問題。オレはオレだよ。言ってることわかる？

――ええ、何となく。

臼田　スタイルとかは関係ないよ。「派手な技を使えば人気出るのに」って、島田（裕二）さんに言われてた時期もあったけどさ、やりたくないことやって人気出ても嬉しくねえもん！　でも、こんなオレも一番最初に好きだったのはミル・マスカラスなんだよ（笑）。

——それは意外ですね（笑）。

臼田　元々はビバ！　ルチャ・リブレな人だったから（笑）。

——いまじゃバトラーツで一番Uっぽい男ですけどね。UWFにはこだわりはないんですか？　最近、前田さんが襲撃されたり、ヤマケンさんが「U・イズ・デッドですわ！」と発言して、UWFというものが改めてクローズ・アップされてますけど。

臼田　昔は好きだったけどねえ。

——これも他人事って感じですか？

臼田　UWFに影響は受けたけど、UWFにメシを食わせてもらったわけじゃないからね。ただ、UWFに関わってた選手たちには、UWFのことを悪く言って、その当時の自分を否定して欲しくないな。

——前田日明さんだけは、絶対否定しませんね。

臼田　それがかっこいいよね（笑）。

——いま、U系団体も続々とVTにシフト・チェンジしつつありますけど、臼田さんもその波に乗っていくわけですね。

臼田　でも、オレは一番最初の方にチャレンジしたんだよ。

——そうなんですよね！　もう一度VTにチャレンジするところが、ドラマチックですよ。

臼田　もう、あの頃とは違うから。今だったら、戦術も、闘い方も変わるよ。

——「こういう闘い方をしたい！」っていうのはあるんですか？

臼田　やっぱり桜庭さんみたいな闘い方。あれがホントのプロレスラーのVTだよ。桜庭さんには憧れるな！

——憧れる!!　臼田さんだったら、一升瓶片手に花道を歩くのがいいかもしれないですね（笑）。

臼田　酒を飲んでリングに上がりたいよ（笑）。

——是非、来年は勝利の美酒を飲んでください。

【'99年12月25日、東京・TOKYO FMホールにて収録】

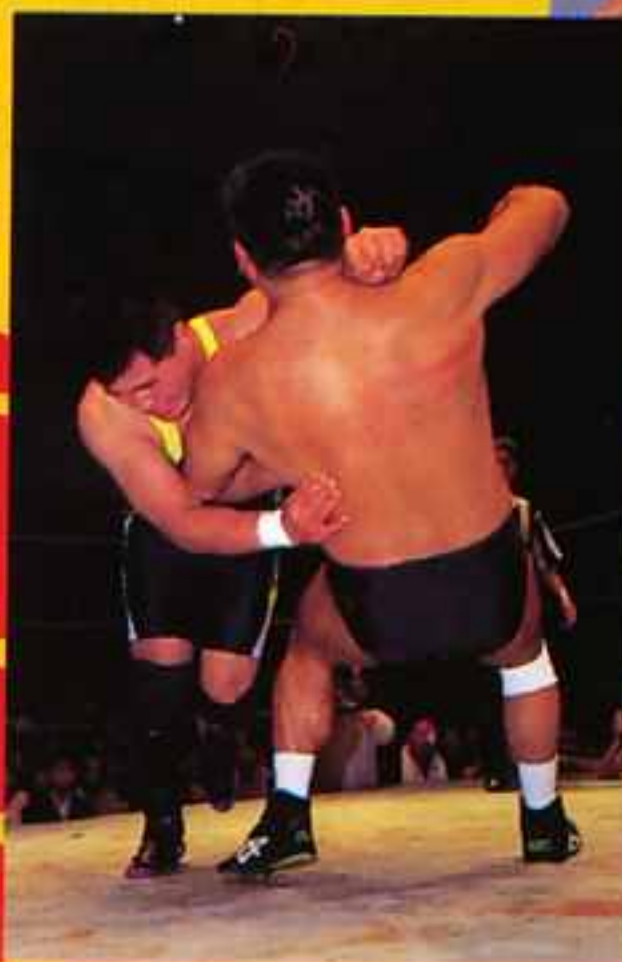
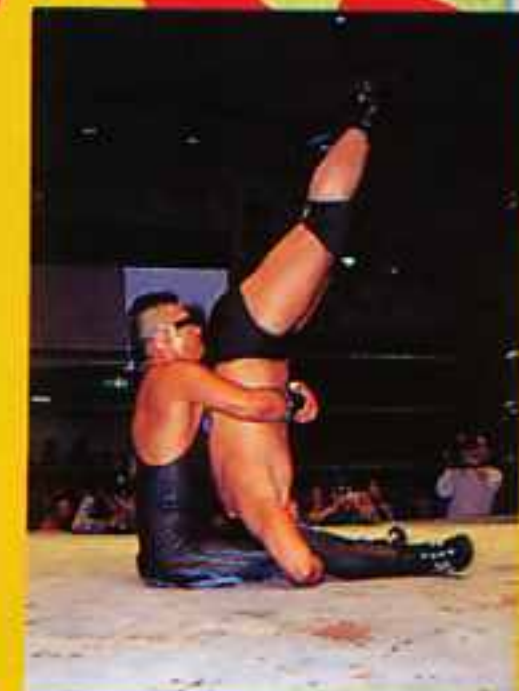
96年6月22日、ブラジルまで飛んでイズマイウと闘った臼田だったが、まだVTの技術が浸透していない時期に本場まで乗り込んで行った肝っ玉はもっと評価されていいはずだ。再び臼田が撃って出るのはいつになるのか？

北沢タウンホールを拠点に、ほぼ月刊ペースで活動を続けてきたDDTが、旗揚げから約3年、遂にプロレス&格闘技の殿堂・後楽園ホールへと進出した。大会タイトルは「イチかバチかDDT!」。300〜400人クラスの会場での興行を続けてきたDDTにとって、後楽園はイチかバチかの大冒険であった。失敗したら団体解散との決意で挑んだ今大会、フタを開ければ2000人もの大観衆が押し寄せ異様な盛り上がりをみせた。後楽園に桜咲く! DDT合格です!

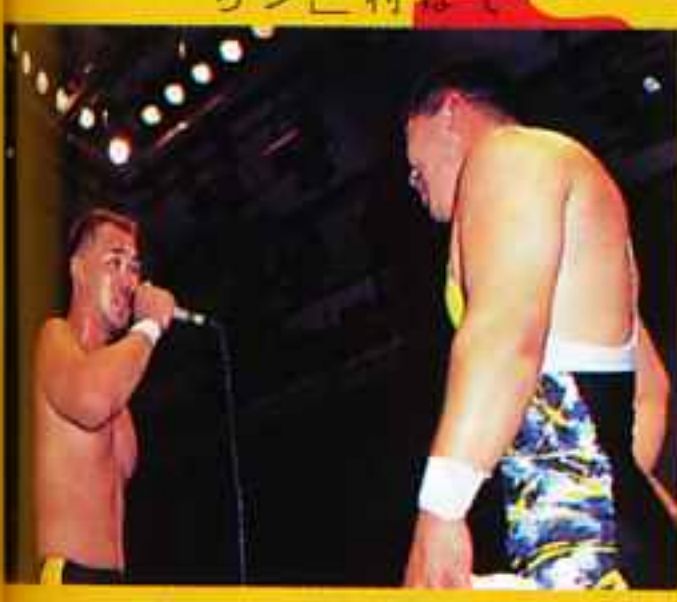
「折るぞ、オラッ!」と青柳館長の腕をガッチリ固め、セコンドで控える剛竜馬を挑発する浩一郎。この日の浩一郎は、剛相手にエゲツない攻撃を連発。浩一郎だったら何をやっても許されるのか?と思った人も多いだろう。

95年6月、場所も同じ後楽園で、剛竜馬の冴夢来プロレスの興行をぶち壊したこともある浩一郎。ラリアットを喰らっても顔色ひとつ変えず平然としている浩一郎に対し、剛は意地になってラリアットを打ち続けた。因縁は相当根深いか?

試合後、長井と青柳にシングルでの対戦を要求した浩一郎。長井はマイクで「とことんやるぞ、木村ッ! ハッキリ白黒つけようぜ!」とこれに応じる構えを見せた。リングスマット以来の両者の一騎打ちが実現するのは何時か?

長井とナガサキの新鮮な顔合わせも見られたが、最後は長井のパワーボムで乱戦に終止符。試合後、「DDTはな、こういう試合だってできるんだよ!」とアピールした浩一郎。あんな凄い試合はあなたしかできません!

コーナーの折原に奇襲攻撃を仕掛けた三四郎だったが、うしろから折原(本物)の不意打ちを喰らう。客席から「三四郎うしろ! うしろ!」との声がむなしく響いた。

リング内外に渡り終始試合をコントロールしていた折原&弟・昌彦。イスが飛び交う場外戦の傍ら、上の写真の三四郎ファンのコギャルとも激しくやり合った。

ファイヤー!!

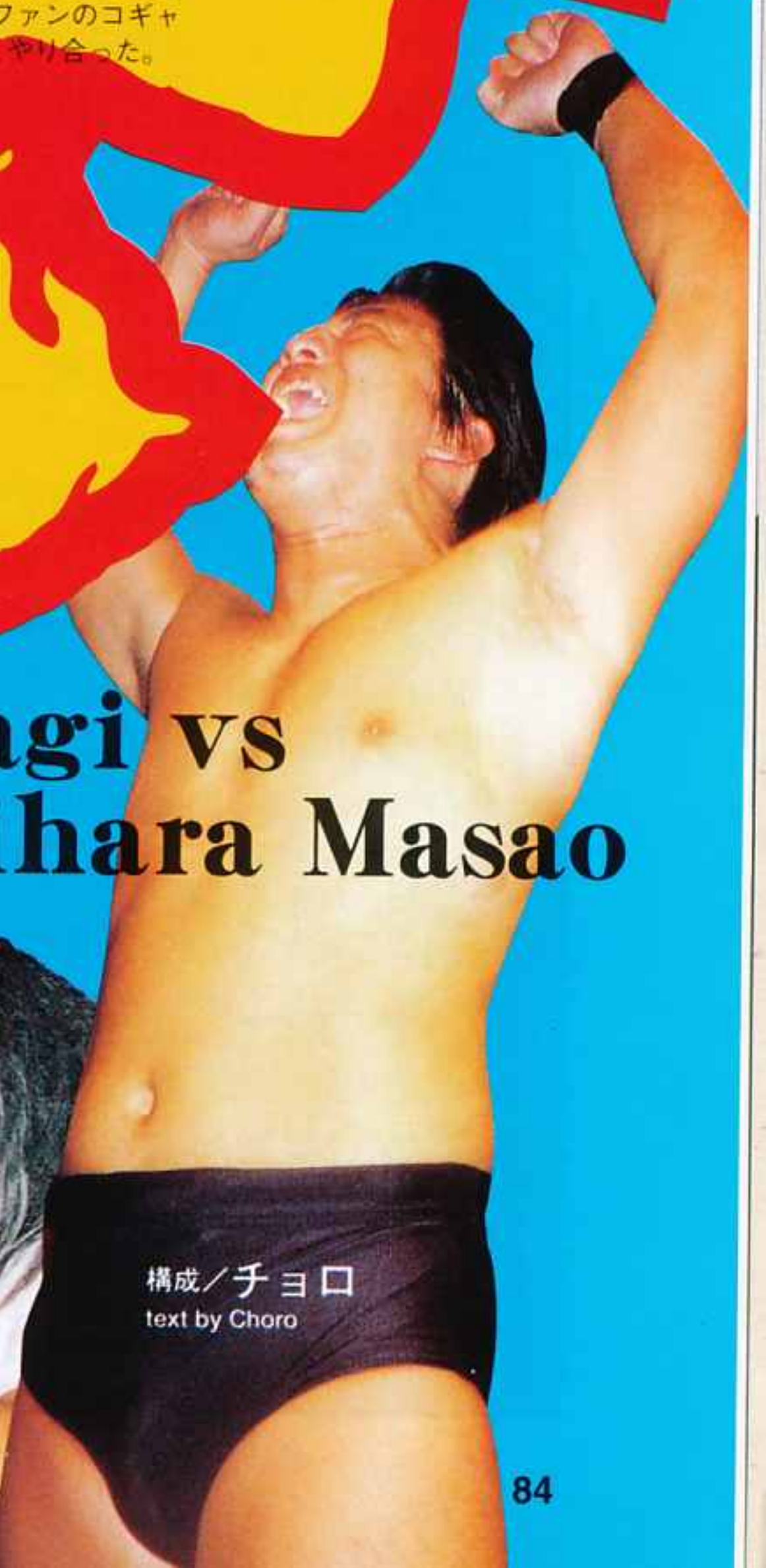
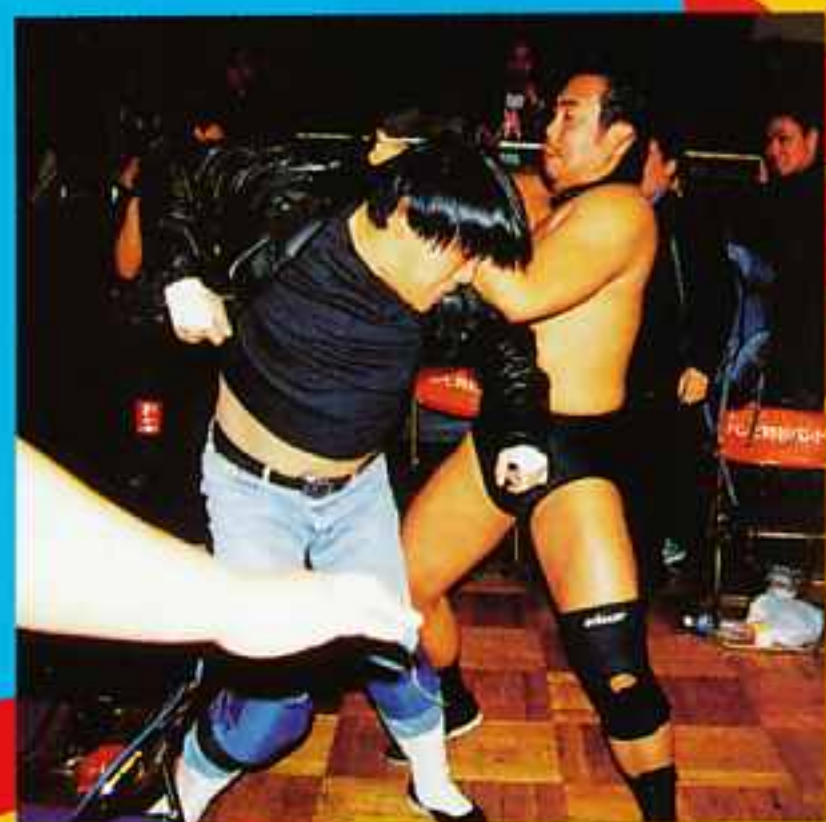
スパイダーを喰らいフラフラの三四郎に対し、折原がトップロープからトドメを刺そうとしたその瞬間、ナオミちゃんが天敵・折原の足をすくい三四郎をアシスト。掟破りのスパイダーから三四郎スタナー2連発で完全勝利。

前号のインタビューで「後楽園では、20世紀総決算ぐらいの試合を見せてやりますよ!」と壮大なスケールの宣言をした浩一郎だったが、その言葉に偽りはなかった。長井と激しくシバキ合い、青柳館長の関節を極めまくった浩一郎。極めつけは剛竜馬との絡みであった。浩一郎は剛の技は受けず、ひたすら頭を踏み潰し蹴り続けた。試合後も「てめえは引退しろ! 眼中ねえよ! やめろ! や・め・ろ!」と冷たく言い放った。怖すぎる!

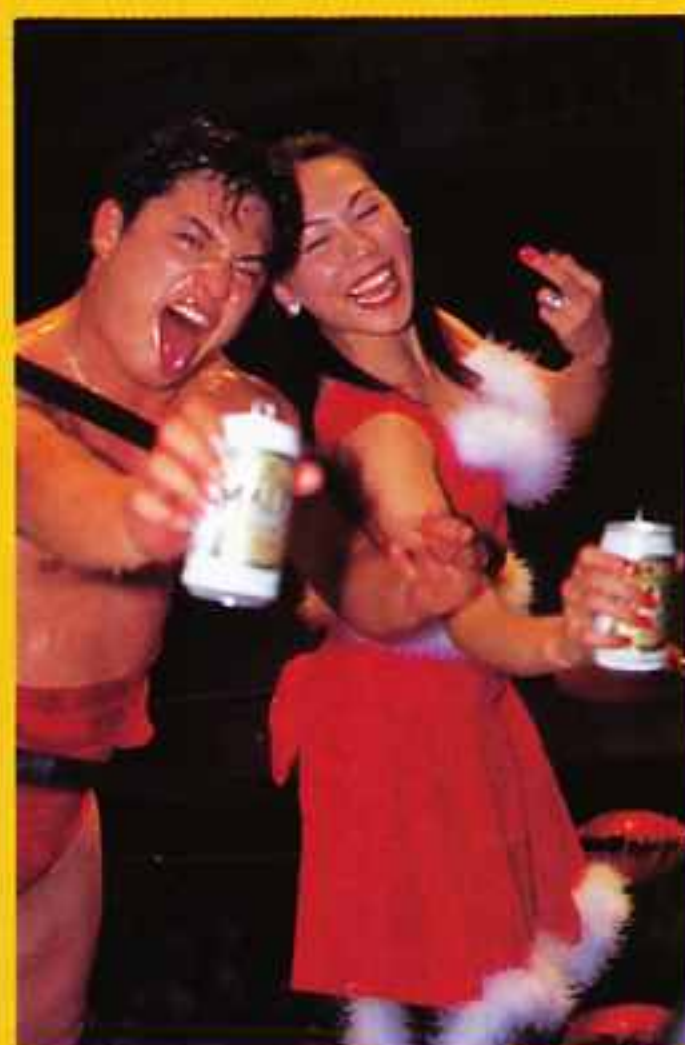
ナガサキのイス攻撃でケーブルがブチ切れ、肝心のメイン前にこれまでの三四郎と折原の因縁のビデオ映像が流れないという跳んだハプニングが勃発! そこへ「俺の曲をかけろ!」と機転を利かせ入場してきたのが三四郎。終始折原にペースを握られながらも、必殺の三四郎スタナーで折原から完全勝利を奪取。その瞬間、会場は2000人の大ファイヤーに包まれた!

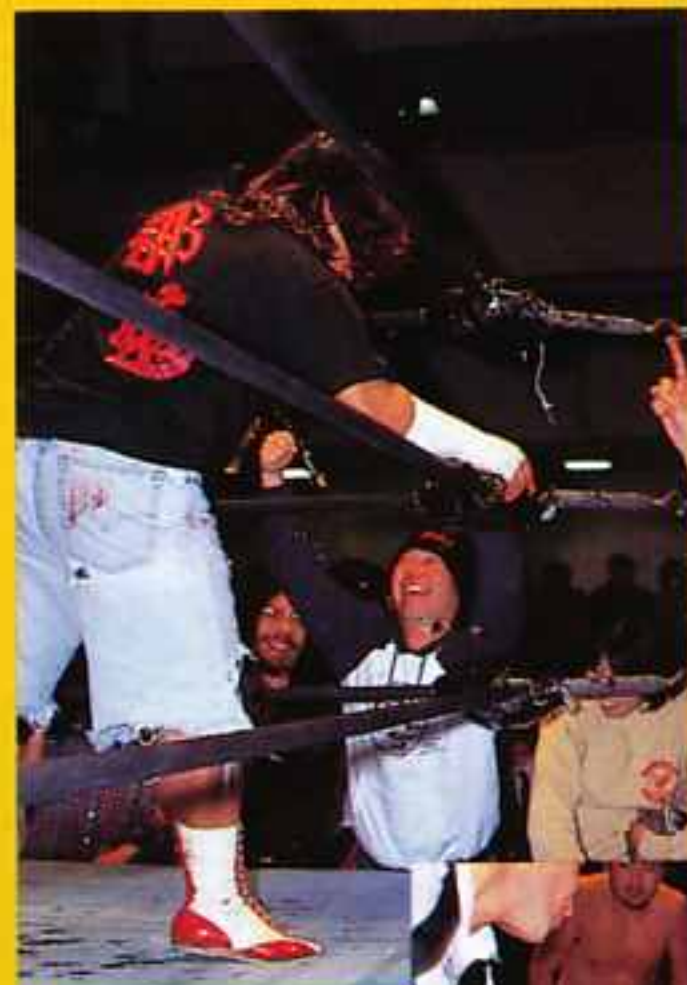
anger

akagi vs Orihara Masao

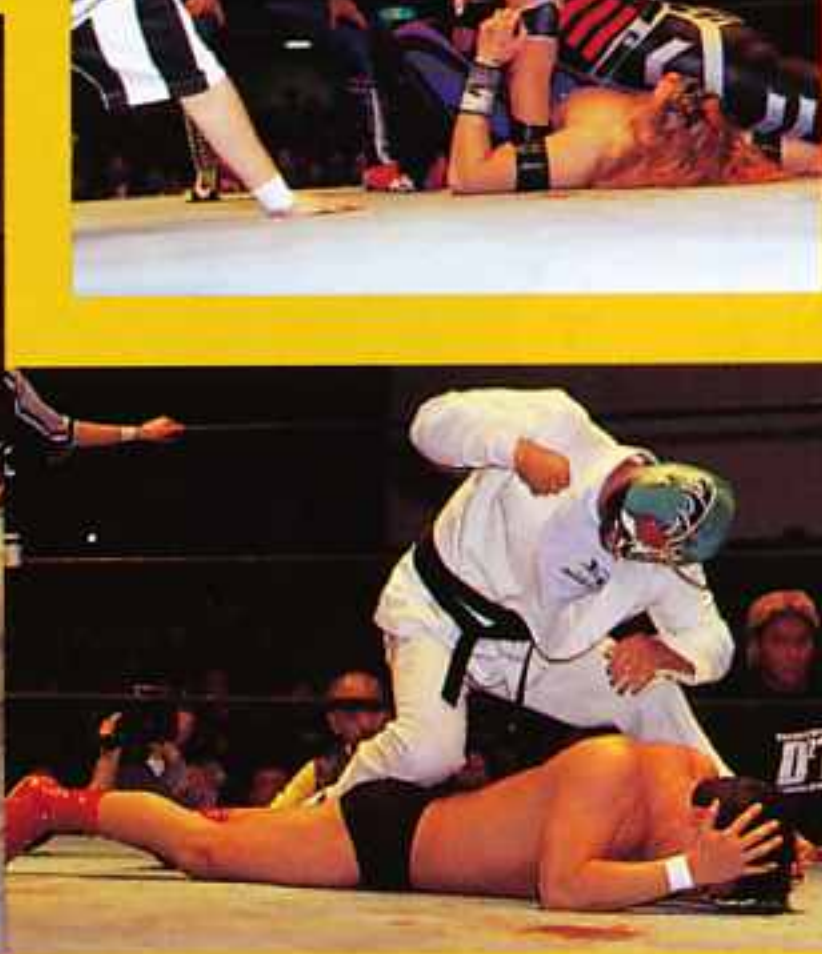
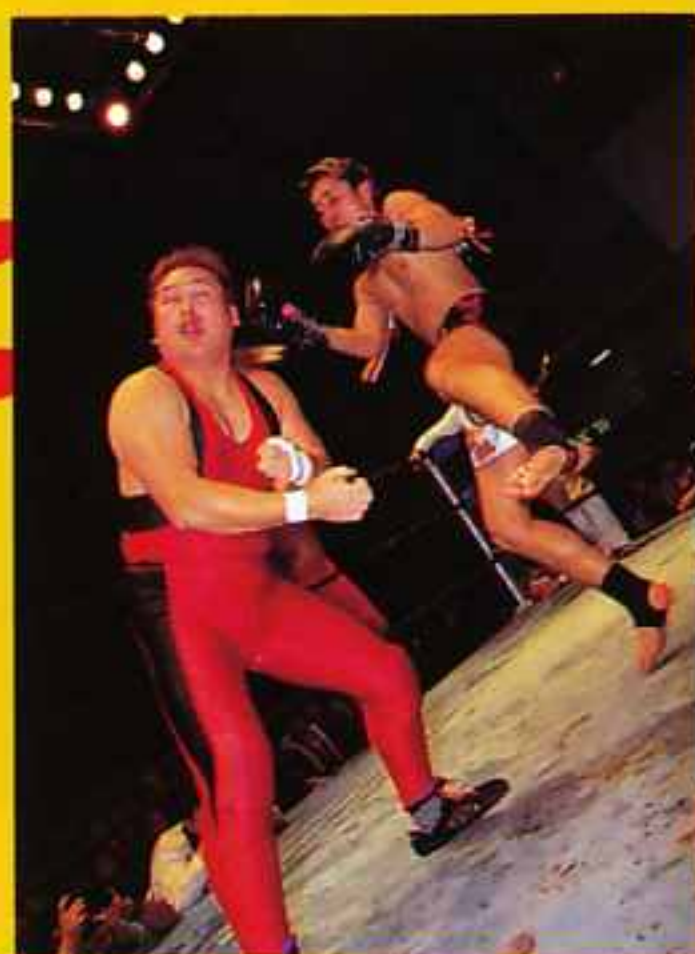
合格です。

構成/チョロ
text by Choro

1999年12月22日後楽園に 桜咲く！

「いつかどこかで見た風景」と題された第ゼロ試合。ムリヤリ皮ジャンを脱がせたり、火炎攻撃を出したりとタイトル通りの攻防を見せるも消化不良試合に…。

「メインはキムラクンのドウキュウセイのオリハラクンがタカギクンをツブシテ、DDTはライネンからメビウスにカワルかも」と宇宙の大予言。

DDTの美人マネージャー、ナオミ・スーザン。この日のコスプレは、季節柄クリスマス限定仕様のレディースサンタ。最後はおきまりのモルツで乾杯！

唯一のDDT所属選手同士の対戦となった三上恭平vs佐々木貴戦。序盤はグラウンドの攻防が続いたが、三上の自殺ダイブを皮切りに派手な飛び技が乱れ飛んだ。最後は佐々木が、浩一郎直伝のキムラロックで先輩の三上から初勝利。

菊澤による大仁田劇場風もDDT名物のひとつ。客に強引にマットを叩かせ「そこの宇宙人の集団。お前ら宇宙人にもの申す！　どいつもこいつも同じ顔しやがって。素顔見せてみろ！」と、ガングロコギャルを挑発！

ネオ解散騒動の真っ直中、篠社長はネオパラとともに、「アーチチ、アチ」と、何かを吹っ切ったかのようなパラパラを披露。ガングロコギャル軍団もルミカライトを振り回し後押し。

「篠社長のオールナイトニッポン」のコーナーでネオの解散ネタを自ら積極的にネタにする篠社長。三四ロック様に励まされ、感激した社長が観客へ最後のお礼を言おうとした瞬間、「んなことぁどーでもいいんだよ！」と得意のマイクを決めた。

久々に掣圏道ジャケットを着て入場の仮面・S・S・ライダー。ライダーはニーブレスからのパンチの掣圏道殺法を披露。タノムサク鳥羽が。蹴れば西野勇喜はチョップで攻め、ふたりの打ち合いはすさまじいものがあった。

『DDT』のDは何のD？　正解はドラマティックのD。DDTでは、一見さんでも、わかりやすく試合に入り込めるよう試合前にドラマ仕立ての手の込んだビデオを上映している。第ゼロ試合では、ニセ大仁田が挑戦状を持ってDDTに乱入してきた11月の金町大会から後楽園登場までの軌跡が上映された。「おい真鍋！（ことリングアナ・キムタク）お前はニセ大仁田と藤沢一生の試合が見たいか？」「いや、別に見たくありません」といった大仁田劇場のパロディーから、ニセ大仁田が神宮球場まで出向きグレート・ニタの魂を呼び起こそうとするも念力不足で失敗するシーンなど、抜群のデキだった（肝心の試合が中だるみしてしまったのが惜しまれるが）。とにかく必見なん邪！

ramatic

んなこたぁ どーでもいいんだよ！

高木三四郎

SANSHIRO TAKAGI Interview

DDTはプロレスに興味のない世間一般の人も相手にしていきたいと思ってます

予想を上回る盛り上がりを見せた12・22DDT後楽園大会。ネット上などでも温かい意見が多かったようで、メッタなことでは会場に行かない毒舌・吉田豪もなぜか会場まで足を運び、「不満な点もあるが、全体的には良かった」という感想を述べていた。これは面白いということで、急遽、吉田豪vsDDTのエース・高木三四郎を勝手にマッチメイク。高木の「吉田さん、ガンダムの原稿読みましたよ!」という発言から始まったインタビューがどう発展していくのか？　刮目して見よ!（byチョロ）

聞き手／吉田 豪withチョロ
interview by Go Yoshida with Choro

撮影／黒田史夫
photographs by Fumio Kuroda

――この間の後楽園（99・12・22）は、会場の異常な盛り上がりに比べて専門誌の扱いは予想以上に小さかったですよね。

高木　これからじゃないですか。ようやく針がゼロになったって感じですよ。でも逆にネット上の反響が凄かったんですよ。細かい部分を挙げればいろいろとあるんでしょうけど、全体を通して「ダメだこりゃ」っていうのは、ボクが見た限りではほとんど無かったですから。

――確かに、細かいことを批判しようと思えば出来ますけど、期待出来る団体という思いの方が大きいですからね。ただ、最近は周りでDDTにハマってる人が多いんですけど、ボクなんかの結論としてはハッキリ言えば「試合以外は抜群に面白い団体」だっていうことなんですよ。

高木　そうですよねぇ（あっさり同意）。基本的な部分であるとか、試合の内容的な部分が今後の課題かなとは思ってます。

――ボクはこれまでDDTは2回しか観たことが無いんですけど、試合以外は抜群に面白いだろうし、その中に出来る選手が4、5人いるけど、それ以外はダメなんじゃないかなって見る前から勝手に思ってたんです。それで、正直言って実際に観ても予想通りだったんですよ。

高木　正直それはボクもそう思いますよ。あとは、レスラーとして身体が出来てるかっていう部分でも、ウチの選手は厳しいかなと思いますね。そういう部分でウチは今年は変わらなきゃいけないし、変えていかなくちゃいけないと思いますね。

――例えば、試合前の映像がありますけど、あれは抜群に面白いんですよ。でも映像が10分ぐらいあるのに、試合も同じように10分あったりするのが凄い引っかかってるというか。試合で見せる試合は見せて、見せない試合はとことん見せないって割り切っちゃった方がいいと思いましたね。

高木　う～ん、確かに試合が長いっていうのはありますね。今の各選手の持ってる技量だと長い試合になると厳しいですからね。……ボクが技量って言い方をするのもおかしいですけど（笑）。特にウチの前半戦とかは全然ダメですから！

――所属選手は、みんな根底にストロングスタイル的なものを持つような方向を目指してるわけですか？

高木　正直バラバラですね。それでも初期は気迫といった部分を全面に押し出してやってはいたんですけど。ストロングスタイルっていうか、そういった部分は基本的には捨ててはいない部分なんですけどね。三上（恭平）とかにしても、本人のやる気は凄い分かるんですけど、あの身体じゃ正直言って、よっぽどのことをやらない限りは厳しいと思うんですよ。本人には「レイ・ミステリオJrとかドラゴンキッド選手みたいにあそこまでやらないと意味はないよ」とは言ってるんですけどね。

――ああいうスタイルに格闘スタイルを加えるとかですね。

高木　でも、それも出来きれてない。中途半端なんですよ。パンツを「HUNTER」に変えたぐらいじゃ大して人間は変わらないですよ（笑）。見た目のイメージは大きいですけどね。

――ちなみに高木さんは、ご自身の見た目は結構気にする方ですか？

高木　ボクは気にしますねぇ（笑）。やっぱり、もう少しお腹をへこませないと（苦笑）。

――三四ロック様を見てて思ったのが、なりきり具合とかマイクとかは、かなりなりきってるなと思うんですけど、ビジュアル的にも、もっと徹底してやっていくべきだと思うんですよ。ホントにカッコ良く見せようとするのか、それとも、カッコつけようとしてもカッコ良くなりきれない部分は、ちゃんとお笑いに的に昇華させていくのかどちらかだと思うんですよね。

高木　どっちかというと半分ぐらい封印しちゃおうかなって思ってるんですよね。今は誰かがやってるモノをパクってるんだかパクってないんだか分からないような状況じゃないですか。（両手を突き上げて）このポーズってありますよね。ストーンコールドのポーズですけど、知らない人からみたらファイアーポーズとか言っちゃってる部分があって、徐々にオリジナルになりつつあるんで。だからロックもそろそろアレンジして自分のものにしていかないと、いつまでもパクリとか言われて終わっちゃいますから。単純にアメプロファンでウチ

Profile

高木三四郎【たかぎ・さんしろう】本名・高木規（ただし）。昭和50年1月31日、テキサス州オースチン出身。平成7年2月16日、渋谷オンエアーイースト、対トラブルシューター・コウチ戦でデビュー。IWA格闘志塾～PWC～フリーを経て現在はDDTのエース。必殺技・三四郎ボトム、三四郎スタナー。好きなアイドル、深田恭子、後藤真希。180センチ、97キロ。

に来てるお客さんっていうのは、アメプロの独特のお客さんの雰囲気ってあるじゃないですか。あの疑似体験がなんとなく味わえるから来てるってところもあるんですよ。

——その雰囲気を味わいたくてお客さんが積極的に盛り上げてるような節もありますよね。

高木　そういうファンの目っていうのはいつまでもごまかせないですからね。ビジュアル的な部分にしても、これからどう変えていくかってところですね。ボクも年齢的な部分であんまり若作りし過ぎても良くないかと思いますし（笑）、そこは難しいところですね。いま、WCWでミステリオJrが素顔でヒップホップ系のキャラクターをやってるんですけど、それがハマってるんですよ。でもハッキリ言って、そういうのが違和感なく出来る選手って日本の団体には多分ゼロだと思うんですよ。

——折原（昌夫）さんとかがちょっと頑張ってますけどね。

高木　折原さんでも、ちょっと難しいでしょうね。そういうビジュアル的なものを違和感なく入れていけるのは小野（武志）選手ぐらいじゃないですか。あの人はラッパーですから（笑）。

——逆に100%修斗みたいなキャラクターもいいと思うんですけどね、デビロックとか着させて（笑）。

高木　逆にね（笑）。たまたま、宇野（薫）選手のTシャツを作ってる工場とウチのTシャツ作ってるところが同じなんですよ。工場の親父に聞くと「宇野君のところはホントに売れるんだよ」って（笑）。だから、ウチもどっかとタイアップしてとか、いろいろ考えてるんですけどね。でも修斗さんはボクの中で凄い影響を受けてますね。やっぱり凄いですよ。それで、あの人達はどちらかと言えば下北とか原宿系だから、ウチは渋谷系でやっていこうかなと（笑）。

——DDTは渋谷系ですか（笑）。

高木　そういう方面で全然違う感性を引っ張ってこようかなと思ってるんです。それで『egg』のモデルをマネージャーにさせちゃおうかって話もあるんですよ。そういった雑誌とかも巻き込んでいこうかと思って。

——知り合いでも何でもいいから、とりあえず会場にお客さんを呼ぶことが重要ですからね。

高木　この間の後楽園でもいろいろ言われてたみたいですけど（笑）、でも後楽園はそんなに呼んでないですよ。ただ、呼んだ中の何人かのインパクトが強烈過ぎましたからね（笑）。

——ガングロ系のコギャルは身近には接したくないけど、間近で見てたらメチャメチャ面白かったですからね（笑）。リアクションもわかりやすいし。

高木　ああいう子が、口コミで「プロレスって面白いよ」って言ってくれれば、ボクにとっちゃしめたもんなんですよ。それで話を聞いてみたら、「美佐恵ちゃんって女の子なのに凄いよね」とか「木村（浩一郎）って人、怖～い」って言ってて。そういう風に感じてもらっただけでも良かったと思いますよ。

——今回は高木さんの試合もプロレス的にはいい試合でしたけど、木村さんの試合のインパクトが強すぎましたからね。

高木　お客さんも引いちゃってたみたいですね（苦笑）。

——木村さんも最初に煽った以上はある程度はやらざるを得なかったんでしょうけど、でも、あれはかなりいい試合でしたよね。プロレスの枠内でどこまで出来るかみたいな感じで。

高木　ボクは木村さんの試合については語れない立場なんで（苦笑）。でも、今回の成功であぐらかいちゃダメだっていうことは分かってますから。上がっていくのはゆっくりでも落ちていくのは早いですからね。

——ただ、最初の後楽園大会であれだけ盛り上がったっていうのは素直に賞賛に値することだと思いますよ。

高木　成功したと思っても、終わったら、また次を考えなきゃいけないですからね。嫌な職業ですよ（苦笑）。

——WWFや大仁田劇場もそうですけど、メジャー団体を含めてプロレス全般が試合以外の方が面白いという流れになってるんですけど、日本では試合以外が一番面白い団体の一番近いところにいると思いますよ。

高木　ありがとうございます。褒められてるんですよね（笑）。

——もちろん褒めてます（笑）。

高木　でも、凄くいい感触をつかんでるのは、そのままWWFのパロディーだとか、そのラインに沿ってなくても日本は日本なりにやっていけるんじゃないかなとは感じてるんですよ。題材はバラエティー番組なんかにゴロゴロ転がってますからね。

——特に『アサヤン』ですよね。

高木　『アサヤン』、『スマスマ』、『電波少年』とかあの辺ですね。今までのウチの路線で言うと、例えば佐々木貴が宇宙パワーに勝つにはどうすればいいのかっていうのをドキュメントタッチに作って、特訓風景とか山篭りとかを映像でやったら面白いと思うし、試合に対しても感情移入しやすいと思うんですよ。

——映像も単なるネタだけじゃなくて、その中にリアルな部分も入って来たらもっと面白いでしょうしね。映像関係はやり方によっては、凄く可能性はありますよ。

高木　映像をしっかり作れれば、それはそれでWWFとは違う、日本のオリジナルのバラエティーになりますからね。まあそれを悪ノリととられるかも知れませんけど……、んなことぁ、どーでもいいんだよ！

——ダハハハ！　完全にネタになってますね（笑）。

高木　あとは技術アップっていうのが急務でしょうね。いつしかちょっと変な方向に曲がってきちゃってるんですよ。「いい試合をしたい」って言っても、それは、しょせんある一定のレベルじゃないですか？　そんなことを考えてる暇があったら、もっとビジュアル面について、もっと考えた方がいいよ、と。若手から言わせればボクなんかは「ポーズだけじゃねえか」って思われてるかも知れないですけど、でもインパクトっていう部分では、下の連中には絶対に負けない自信がありますから。

（ここで、今号でのターザンと馬場さん追悼対談のため吉田豪が退室。代わってチョロが聞き手に）

——吉田豪はけっこう厳しいこと言ってましたけど、メジャー団体にもインパクトは絶対負けませんからね！

高木　まあでも、メジャーだインディーだっていってもプロレス自体がマイナーな物になりつつありますからね。ボクがよく聞かれるのは「アンディ・フグは出るんですか？」とか、そんなのばっかですよ。そういう系統の選手の名前が出てくるんですよ。「桜庭さんっていう人も出るんですか？」って。

インパクトっていう部分では、下の連中には絶対負けない自信がありますから！

世間はそう見てるんですよ。ボクなんかはリアルタイムで、プロレスをあまり知らない若い連中や自分とタメぐらいの連中と付き合ってますから。ハッキリ言っちゃえば、10代から30代ぐらいの意見っていうのが一番リアルタイムで分かるんですよ。世間のイメージ的には、K-1は凄いんですよ。次に出てきたとして『PRIDE』。そのあとが新日ですかね。まあそれだけ、テレビの地上波が持つ意味って言うのは凄く大きいと思うし。

——だけど、DDTだってケーブルTVで放送してますからね！

高木　ケーブルTVもそうですけど、DDTはプロレスにあまり興味のない世間一般の人も相手にしていきたいなと思ってますからね。逆に言えば、一般とか世間に広く認知されないとウチなんかはダメですよ。WWFもそうじゃないですか？　ストーンコールドがスターになったのもマイク・タイソンが出てきてからですよ。だから、ウチも似たようなことを考えてるんですよ。それでいくら俗悪だのなんだの言われても、ハッキリ言って、TVで言うなら視聴率稼いだモノ勝ちじゃないですか？

——そうですよね。DDTは、『闘う格闘ドラマ』って謳ってますからね。毎回見逃せないッスよ！

高木　取っ掛かりはビジュアルでも映像でもいいんですよ。興味を惹かなければ世間一般の人は見に来てくれないですから。そういう意味では対世間っていうのは常に考えてますね。

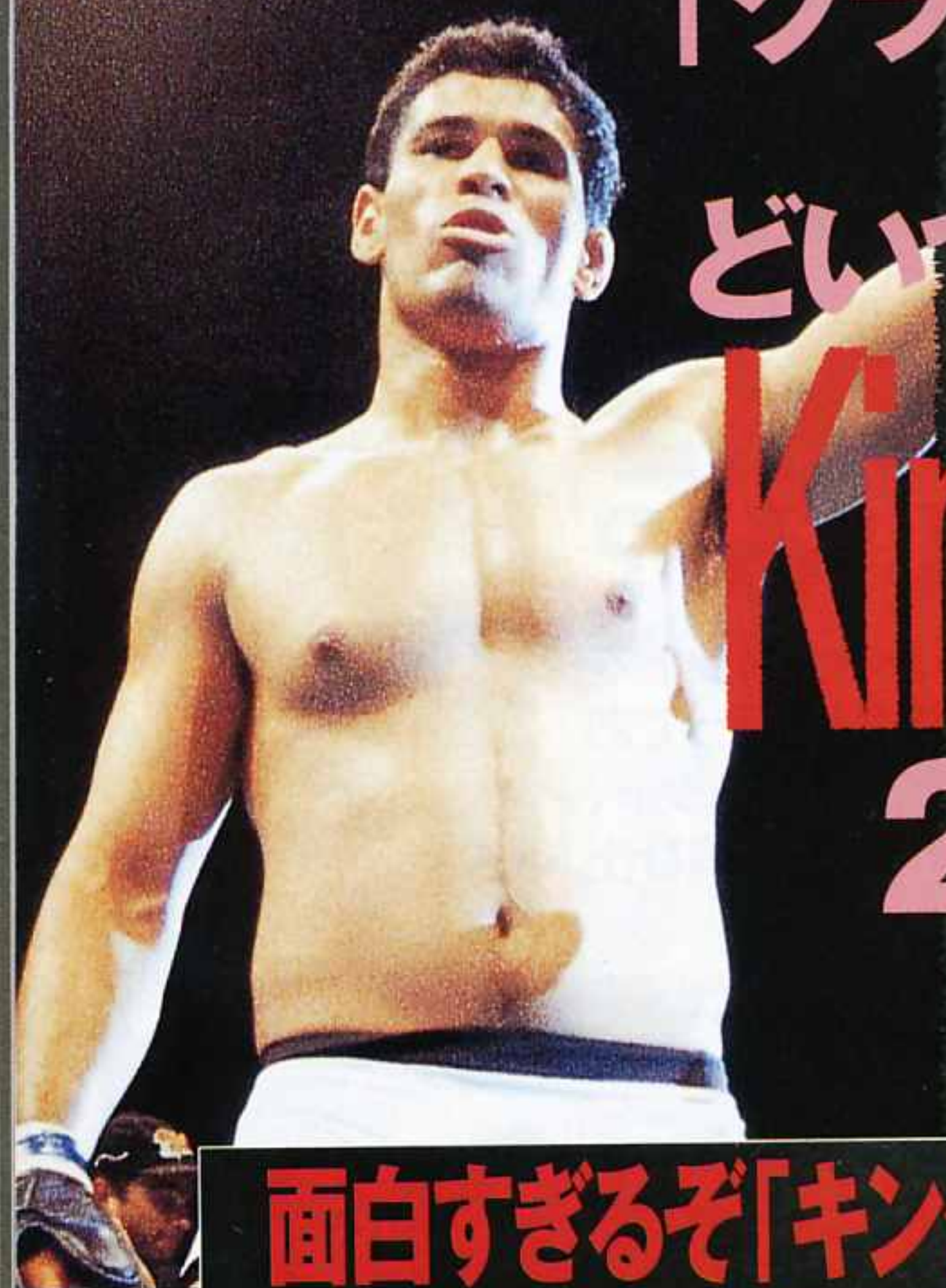
——じゃあ対世間に向けて、とっておきの秘策があるわけですか!?

高木　ありますよ。プロレス界では初の試みっていうのもいろいろと考えてますから（ニヤリ）。

——プロレス界初って、何をしでかすつもりなんですか!?

高木　……んなことぁ、どーでもいいんだよ！

【1月7日／東京・代々木「ペローチェ」にて収録】

「グランド・ファイナル」進出の
8名決定!
どいつもこいつも強豪揃い!

King of Kingsは2.26武道館で決まる!!

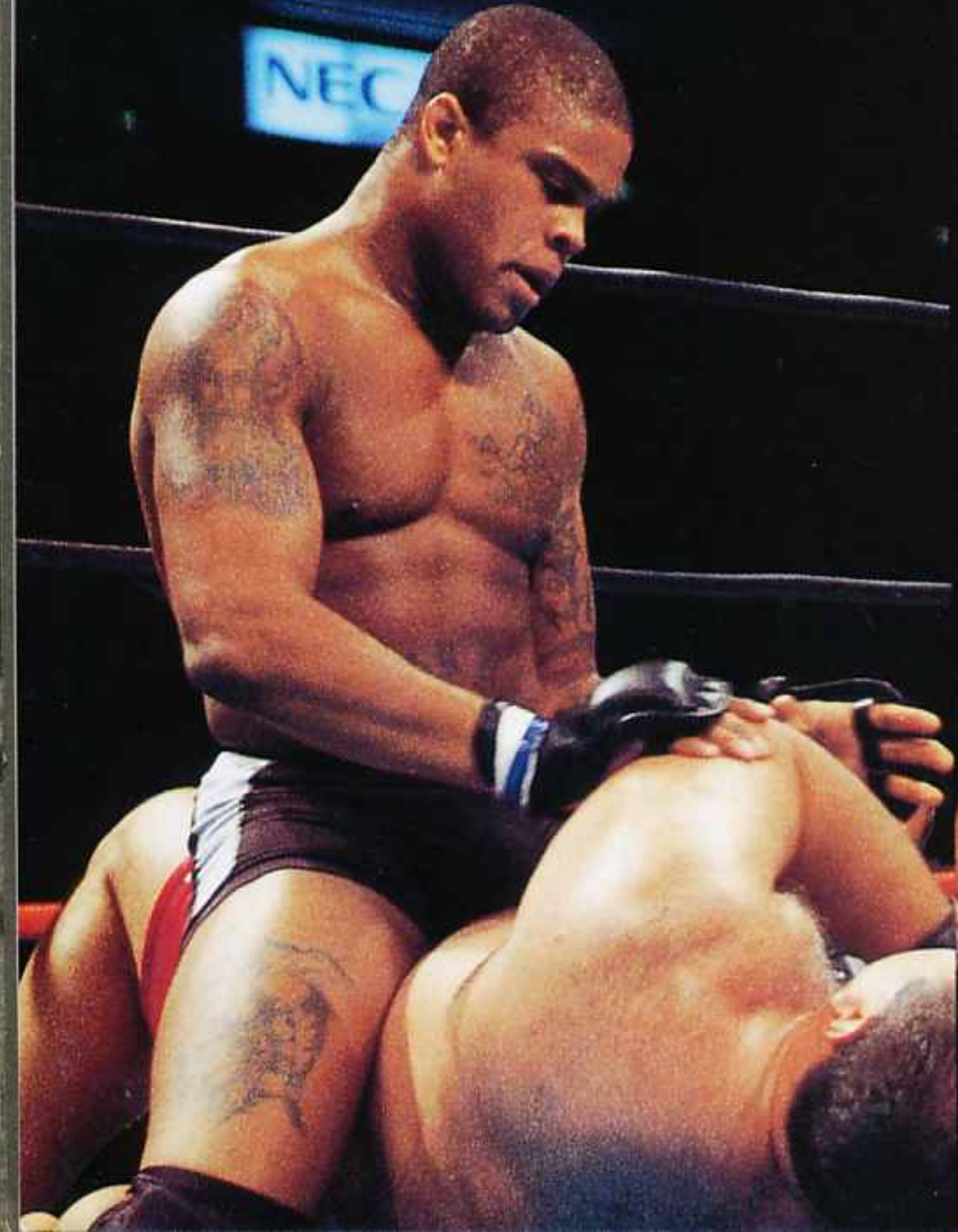
面白すぎるぞ「キング・オブ・キングス」! 16ページぶち抜き大特集!!

「King of King」はこの中にいる!?

遂に出そろった８名のグランドファイナル進出選手。決勝トーナメントをより楽しむためにはやはりこの辺で出場選手の１・２回戦を振り返っておく必要がある。ここでは今号で特集したヘンゾ、コピィロフ、ミーシャ、22号で特集したヘンダーソン以外の４人を取り上げてみた。誰が飛び出すかわからない『ＫＯＫ』。優勝者はこの中にいる？

田村潔司
KIYOSHI TAMURA

初のグローブ戦ながら実に効果的だった田村のパンチ。修斗ミドル級2位のベネーから2度のダウンを奪った。

ジュリアスコフをスリーパーでしとめた直後の田村、この時点ですでに顔が泣いている。

普段と違うのはコスチュームだけではない。小太刀こそなかったものの、試合前の田村はただならぬムードを漂わせていた。

何だかんだ言ってもやっぱり田村は強い。「ヤマケン発言」によって、田村を色眼鏡でみていた人も、12・22大阪での闘いぶりを見たらきっとそう思っただろう。負けられないプレッシャーのためか闘いぶりは慎重を極めたが、１回戦ではＮＨＢ荒らしデイブ・メネーをスタンド、グラウンド両面で上回り判定勝ち。そしてメインイベントとなった２回戦のジュリアスコフ戦でもキッチリ一本勝ちし興行をしめた田村は、やはりエースとして相応しい男である。武道館でも王者の意地を見たい！

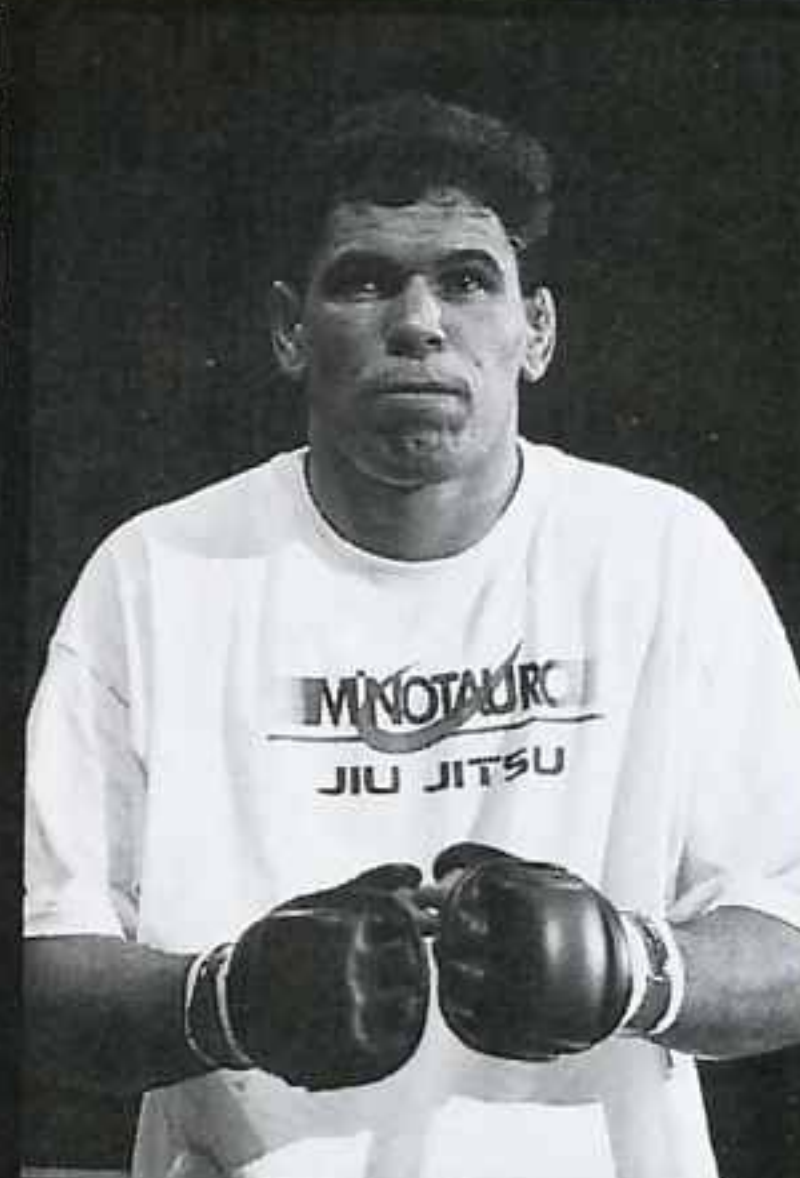
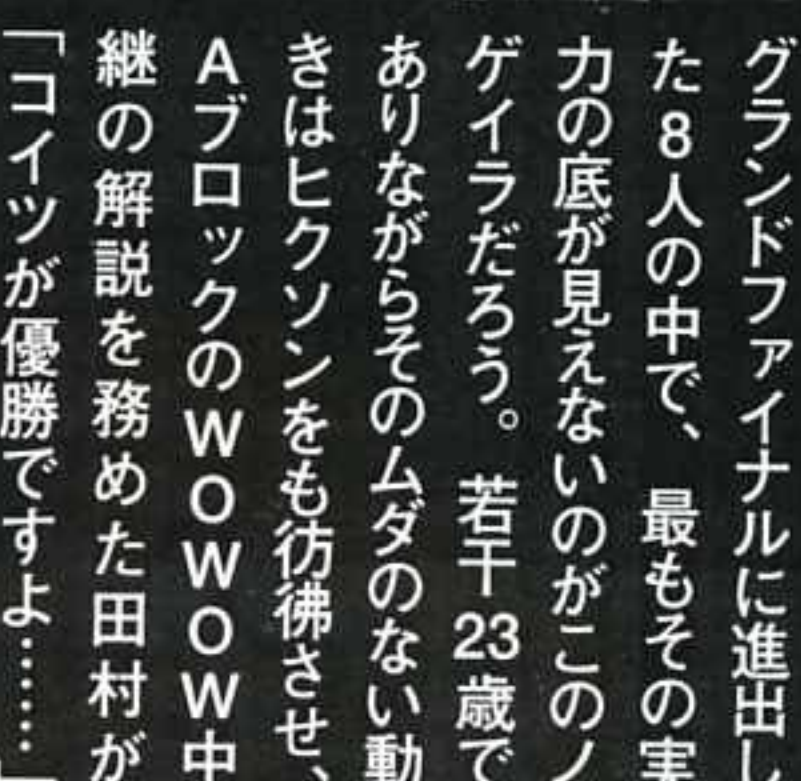
ギルバート・アイブル
GILBERT YVEL

盟友フィエートばりのポーズで相手を睨み付けるアイブル。タリエル戦では格闘技の常識の範囲を超えた、50kg近い体重差をモノともせずにパンチでメッタ打ち。最後はマウントからの十字で極め、格段の成長を見せた。

Ｂブロック開催前、誰もが恐れたのがタリエルの顔面パンチ解禁。ところがこのアイブルはそんなこと全く意に介していなかったようだ。試合開始早々から迷わずタリエルの懐に飛び込み、顔面パンチの雨あられ。なんとわずか２分でタリエル幻想を粉々に砕いてしまったのだ。「幻想を破壊する者は自らが新しい幻想を作らなければならない」というのが本誌の基本理念であるが、アイブルは「アムスの喧嘩屋幻想」を構築してるのでノー問題！　タリエルしばいてまたひとつハクがついた。

アントニオ・ノゲイラ
ANTONIO NOGUEIRA

2試合を通じて唯一のピンチらしいピンチがこのギロチンチョーク。ここから抜け出した後は一方的だった。

あのヒカルド・モラエスと20分フルタイム闘った極真空手家コーチキンをわずか40秒、腕ひしぎで下した。

Ａブロックで最も底知れぬ実力を見せたノゲイラ。実力だけでなく、その醸し出すムードがまた良かった。

グランドファイナルに進出した８人の中で、最もその実力の底が見えないのがこのノゲイラだろう。若干23歳でありながらそのムダのない動きはヒクソンをも彷彿させ、ＡブロックのＷＯＷＯＷ中継の解説を務めた田村が「コイツが優勝ですよ……」と力無くつぶやいてしまうほどである。しかし１・２回戦はオーフレイム、コーチキンという打撃系選手であり、柔術世界王者ブランコを秒殺したコピィロフにどこまで彼の柔術が通用するか。この一戦でノゲイラの全貌が明らかになるだろう。

レナート・ババル
RENATO BABALU

グルジアの実力者ザザをガードからのアームロックで破る。

南米レスリング王者だけあって、柔術家とは違うムーブを見せる。

マルコ・ファスの弟子であるババル。TKを破ったペドロといい、VT界にマルコの逆襲が始まっている感じだ。

来日前は日本ではほとんど無名であったこともあり、注目度が低かったババルであるが、リングスネットワークが誇る〝裏番〟的実力者であるザザ、ハスデルに完勝したことで、一気に優勝候補に躍り出た。彼のセールスポイントは柔術とレスリングの両方の動きができるため、動きを止めることなくポジショニング、極め、と移行することができることで、ブレイクが早い『ＫＯＫ』に最も適した寝技の使い手と言える。24歳と歳も若くスタミナも十分であり、優勝の可能性はかなり高い。

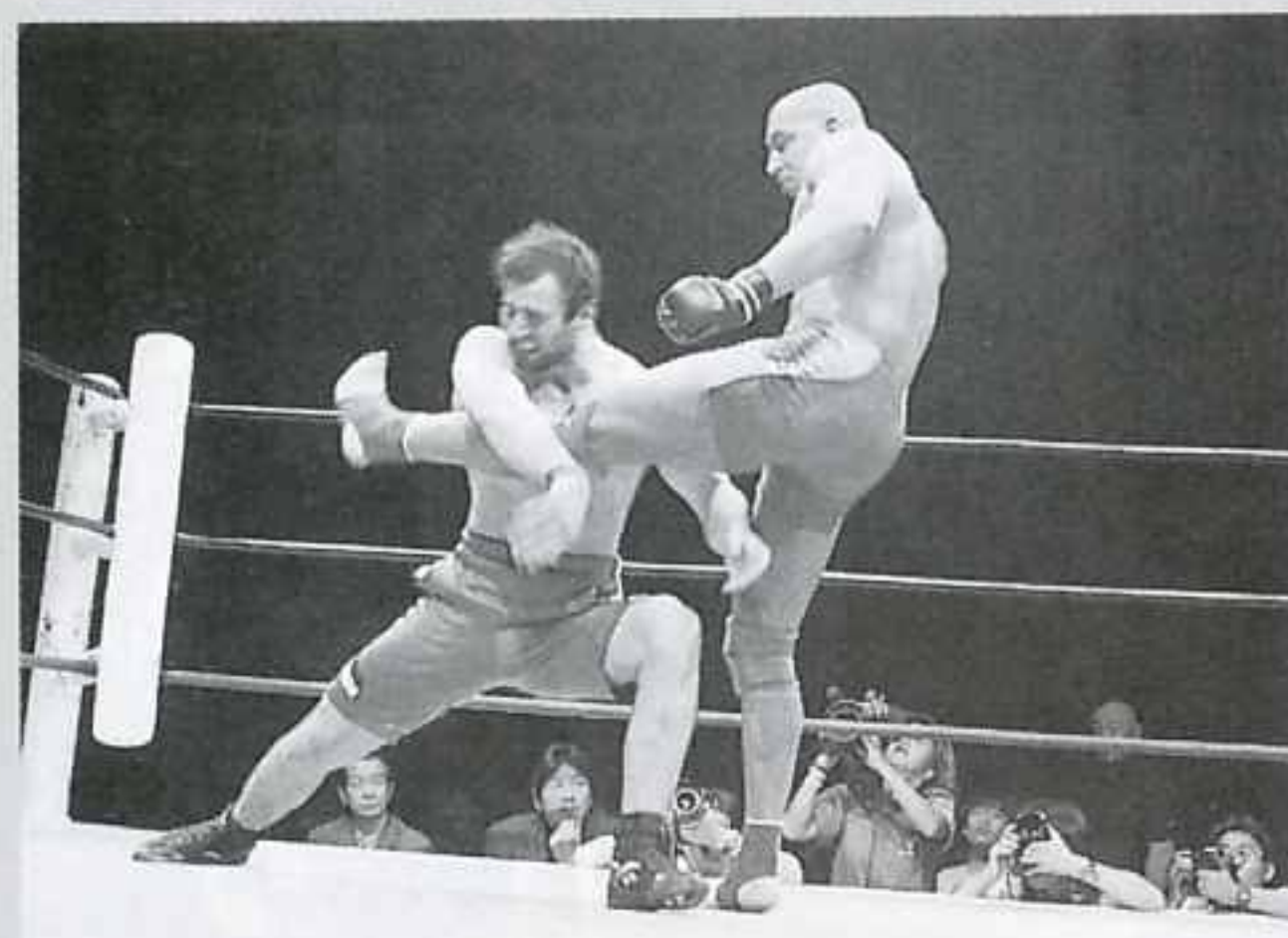
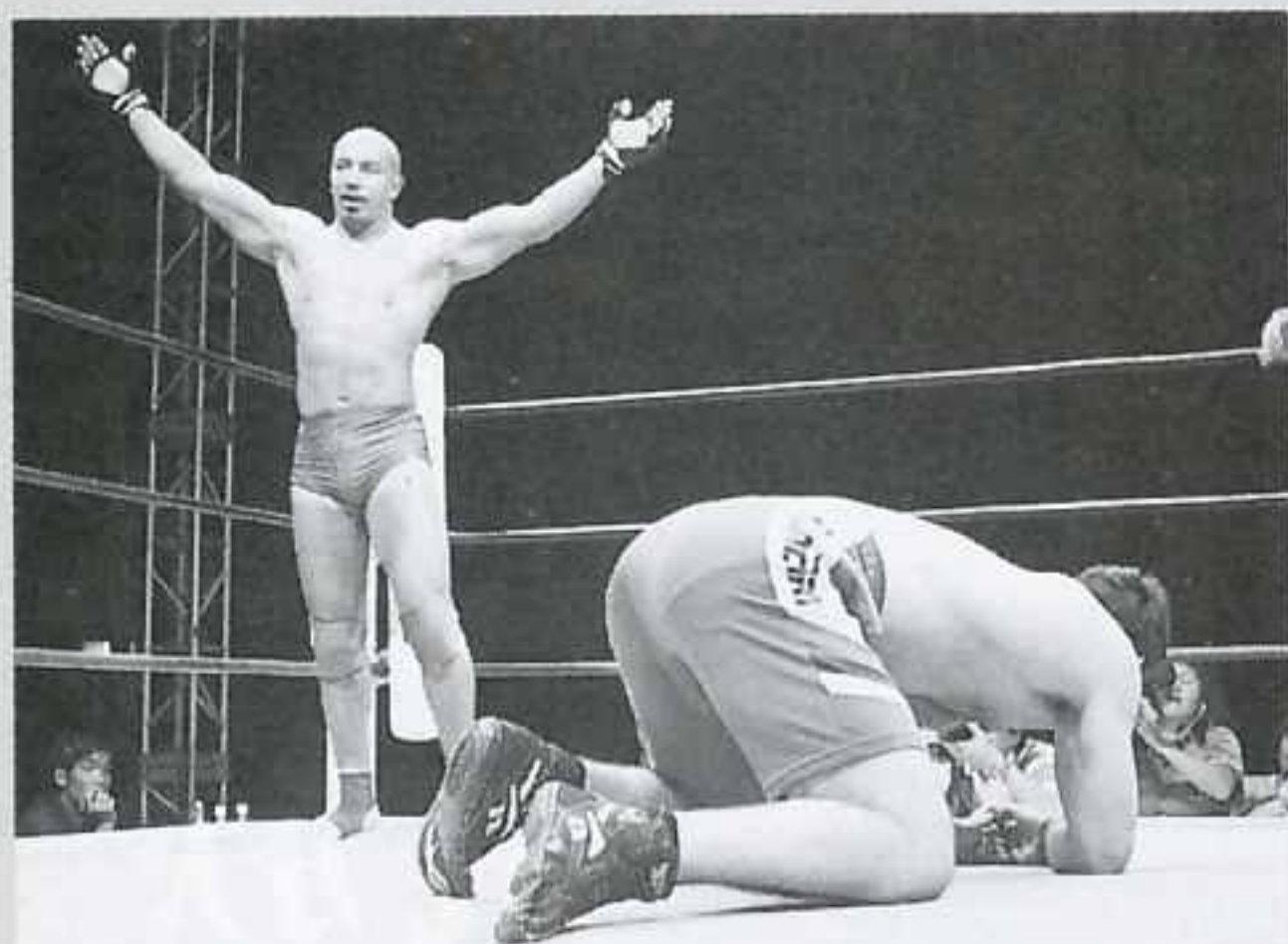
アドレナリン土石流！大熱狂の12.22大阪

明と暗

誰が勝ち上がるかわからない、密度特濃のKOKトーナメント。意外なところからニュースターが続々誕生し、その一方で勝者との強烈なコントラストを見せた敗者。ファンの脳細胞も活性化させまくった12・22大阪プレイバック。

Aブロックでも…

影の実力者達遂に本領発揮！

おなじみヘイズマンはあのTKと延長戦まで持ち込む大熱闘。グラウンドでもTKを何度も追いつめ、得意のサイドキックも的確にヒット。ハッキリ言って1Rはヘイズマンが勝っていた。最後はスタミナが切れたが大きく株を上げた。

「馬」のタトゥーがチャームポイントのリングスの"ポリスマン"リー・ハスデル。1回戦で前田が大会前に優勝候補に挙げた"ロシアの秘密兵器"ラバザノフ・アフメッドのアキレス地獄を凌ぎKO勝ち。

スタンドでの（ただやみくもに掌底を打ちまくる）予測不能の動きと、抜群のグラウンドコントロールで予想以上の活躍を見せたジュリアスコフ。UFCでTKに善戦したラジックをこのスリーパーで失神させた。

誰が飛び出すかわからない、ダークホースだらけの「キング・オブ・キングス」。この日はヘイズマンとジュリアスコフが飛び出した。普段は後楽園要員だったり、前座でシブイ試合を黙々とこなす昭和新日の藤原チックな二人が田村、高阪というメインイベンター相手に互角の勝負を展開したのだから痛快だ。いざとなったら、彼らのような選手がゴロゴロいるリングス・ネットワーク。改めて「在籍選手300人！」（by前田日明）の底力を見た思いである。

ヤマケン現る！

大会終了直後独占コメント

――田村選手の試合の感想を聞かせて下さい。

山喧　感想ねぇ。人のことしょっぱいしょっぱい言う割にはたいしたことないでしょ。どんなに凄いんかと思ったけどたいしたことないやないかい！

――これからも対戦のアプローチは続けますか？

山喧　その必要はないでしょ。アプローチせんでも向こうからどうか闘って下さいっていう存在になりますから。ボクはUFCのチャンピオンですから、いつでも彼の挑戦を受けますよ。

――闘うんだったら、やっぱりUFC―Jのリング？

山喧　闘う舞台なんてどこでもいいんですよ。でもやるんだったら世界が認めるUFCっていう舞台があるじゃないですか。そこで日本人同士がタイトルマッチやって、その映像が世界中に送信される。一番夢があるじゃないですか。

――大会全体はいかがでしたか？

山喧　大会自体は正直言って素晴らしかった。ボクも次は3月にワンマッチで凄い試合見せますから。まあ、見とって下さいよ。

暗 坂田、タリエル完敗！TK脱落の残酷な現実

対戦成績は1勝1敗ながら、いずれもTKが傷だらけになった過去のアイブルVS高阪。今回も開始早々のアイブルのカミソリアッパーで、TK大流血のドクターストップ負け。日本の砦が2回戦で消える波乱。

体重150kg！　ド迫力の顔面パンチが期待されたが結果は……。

坂田は試合前の握手を拒否。これにはヘンゾも「日本人は礼儀正しいと思っていたのに、彼はなんだ！」と激怒。これで闘志に火をつけてしまったようだ。

ヘンゾに敗れてボー然とする坂田。あまりの完敗に「悔しくて涙も出ないね。もう辞めたくなった」とコメント。しかし数日後には「ヘンゾは地の底まで追いかけてでも倒します！」と宣言。そうだ、いったれ坂田！

地味な仕事人が脚光を浴びる一方、メインイベンターが敗れる残酷な現実が見られるのもKOK。その代表的な例がタリエルである。あの剛拳が顔面解禁でどうなるかと注目されたが、顔面パンチ一辺倒で攻めるアイブルに、何もできずグスタブ状態。見ては行けないモノを見てしまった感じである。それ以外にもAブロックに続きジャパン勢が次々と敗北。田村ならずとも泣きたくなる寂しさを感じた。

グレイシー一族唯一の（？・）イイ奴
リングスで人気大爆発!!

なんだったらボクが安生とやってもいいよ（笑）

INTERVIEW

Renzo Gracie

WELCOME TO RINGS

『PRIDE.8』でホイラーがサクに大惨敗を喫し、ヒクソンはバグって〝グレイシーの定説〟を連発、ハクソンはユージ島田にペットボトルを投げつけ、挙げ句の果てにはキム夫人までが森下社長を怒鳴り散らし、神話崩壊に相応しい壊れっぷりを見せたグレイシー一族。そんな中、ひとりちゃっかり桜庭の勝利を祝福してファンの好感度をアップさせ、リングスでその人気を爆発させた男がいる。明るいキャラクターとアグレッシブな試合で他のグレイシーとは一線を画すヘンゾ・グレイシー。新たなグレイシー神話を築くのはこの男だ!

ヘンゾ　（『紙プロ』22号前田日明襲撃事件のページを見ながら）うわっ、酷いなぁ。こんなことが日本でも起こるなんて、みんなマエダが嫌いなのかい？　もしかしてキミもマエダが嫌いなんだろう（笑）。

――なんてこと言うんですか！　ボクがあの場にいたら、体を張ってでも前田さんを守ってましたよ！　……たぶん（笑）。

ヘンゾ　ハハハ。マエダはもう引退してるんだろ？　なんならボクがマエダの代わりにアンジョー（安生洋二）と闘ってもいいよ（笑）。

――おぉー！　道場破り以来の安生 vs グレイシー！（笑）。それはメチャクチャ見たいですね。是非お願いします（笑）。

ヘンゾ　ボクなら後ろからじゃなくて、前からのパンチでKOするよ（笑）。

――アハハハハ。そのあと囲まれないように注意して下さい（笑）。さてヘンゾ選手は今回の「キング・オブ・キングス」トーナメント開催の1ヶ月以上前から、アメリカのトーク番組でリングス参戦を宣言していたようなんですけど、参戦を決意したきっかけはなんなんですか？

ヘンゾ　う〜ん、最初は『PRIDE』に出るつもりだったんだよ。でもグランプリにホイスが出るだろ？　そうしたらVTで（グレイシー）一族同士の試合が組まれるかもしれないじゃないか。だから今回は出場を取り止めたんだ。でもボクはプロのファイターとして年間を通して試合をしたいから、ニューチャレンジとしてリングス参戦を決めたんだよ。

――この無差別級のトーナメントの中でヘンゾ選手は一番軽量ですよね？

ヘンゾ　うん。いま79キロなんだよ。

――うわー70キロ台なんですか!?（ビターゼ・）タリエルの半分ぐらいじゃないですか！（笑）。でも、アレク（サンダー大塚）選手との対戦の時は契約体重にこだわっていたのに、今回無差別の大会に出ようと思ったのはなぜなんですか？

ヘンゾ　ボクはオーツカとの対戦の時も体重にこだわった覚えはないよ。

――え!?　そうなんですか？

ヘンゾ　『PRIDE.8』では当初オーツカではなくてサクラバサン（ヘンゾは桜庭のことをこう呼ぶ）と闘うはずだったんだ。だからそれに向けて調整していたので、もし対戦相手が変わるんだったらサクラバサンと同じ85キロぐらいの選手にしてほしいと言っただけなんだよ。そうしたらプロモーターは90キロ以上あるオーツカに85キロに減量して闘ってくれとオファーを出したみたいなんだ。ボクからのリクエストじゃないよ。

――そうだったんですか。そうとは知らず「減量を強要するヘンゾは汚い！」って雑誌でヒールに仕立て上げてしまいました（笑）。スイマセン。

ヘンゾ　それじゃあトーナメントの前に、キミをこらしめなきゃならないな（笑）。

――うわっ！　カンベンして下さい！　でも、いまでこそヘンゾ選手は日本のファンの間でもフレンドリーなイメージで人気もあるんですけど、以前セコンドとしてリングスに来たときは（イリューヒン・）ミーシャ対（アジリソン・）リマ戦（96年8月24日有明コロシアム）がドローで終わった時「延長戦をやらないとメインに（ヒカルド・）モラエスは出さない」とゴネたことで、ファンの間で凄いヒールのイメージが広がっていたんですよ。

ヘンゾ　オーノー！（ムキになりながら）あの時はミーシャが悪いんだ！　あの試合はロープを掴むことは反則だったのに、ミーシャが何度も掴んだからこっちもエキサイトしてしまったんだ。日本のファンもそこはわかってほしい。ボクはそんな酷い人間じゃないってキミのマガジンにもちゃんと紹介しておいてくれよ！

――ハ、ハイ！　それは約束します。でもいまはファンの間で、ヘンゾ選手のフレンドリーな性格も知れ渡りましたから安心して下さい。それに日本のファンは優しい面と激しい面の二つの顔を持った選手が大好きですから。前田さんとか（笑）。

ヘンゾ　ハハハハハ。じゃあボクも不意打ちには気をつけなきゃならないな（笑）。

――後ろ指をさされないように（笑）。そういえばヘンゾ選手も前田さんみたいに若い頃はストリートでずいぶんならしたらしいですね？（笑）。

ヘンゾ　（遠い目をしながら）あぁ、かなり殴りつけてやったなぁ（笑）。ボクは若い頃はサーファーだったんだ。だからビーチにいることが多かったんだけど、リオのビーチにはドラッグを使う連中がたくさんいるんだ。そいつらがよく妹にドラッグを使ってアプローチしてきたんで、喧嘩で兄弟を守ることが多かったね。だからストリートファイターというよりビーチファイターさ（笑）。

――アレク選手も「路上の王マルコ・ファ

聞き手／堀江ガンツ
Interview by Gunts Horie

助っ人／松澤チョロ
Helper by Choro

撮影／黒田史夫
photographs by Fumio Kuroda

試合撮影／森“モーリー”鷹博
photographs by Morry

INTERVIEW

Renzo Gracie
WELCOME TO RINGS

ス」には勝てても「浜辺の王ヘンゾ」には勝てなかったわけですね（笑）。

ヘンゾ　アハハハハ。そういうこと（笑）。

——では、闘ってみてアレク選手の印象はどうでしたか？

ヘンゾ　ベリー・ストロング。すごくいい選手だと思うよ。

——闘う前と印象は違いましたか？

ヘンゾ　ボクは闘う前にマルコ・ファス戦のビデオを見たんだ。だからもともと手強い相手だとは思っていたよ。

——マルコ戦以外は見てませんか？

ヘンゾ　ハハハハ。見た見た（笑）。オーツカのことがよーくわかったよ（笑）。

——アメリカのトークショーで「ピンクのタイツを履いたゲイレスラーには負けられない」と発言していたらしいですね（笑）。

ヘンゾ　アハハハハ。ピンクのタイツで闘ってるのを見たときは、絶対負けられないと思ったよ（笑）。だからあの日もオーツカがピンクのタイツを履いてこなかったら、彼が勝っていたかもしれないよ（笑）。

——アレク選手の敗因はピンクのタイツでしたか（笑）。試合後リング上でアレク選手と笑顔で話をしてましたよね？

ヘンゾ　そうだね。

——アレク選手が「チョコレートパフェをおごってやると言われた」と言っていたんですけど、結局おごったんですか？

ヘンゾ　ハハハハ。いや、チョコレートパフェはおごらなかったんだけど、その代わり板チョコをプレゼントしたよ。

——アレク選手は「ふたりで一緒にパフェを食べに行こうということは、彼にもゲイの気があるんですかね？」と言ってましたけど。

ヘンゾ　アハハハハハ！　オ〜ノ〜（笑）。それはないよ。彼が「減量のためキャンディーもなめれなかった」と言うからさ、ボクはジョークでチョコをプレゼントしたんだ。それ以上の深い意味はないよ（笑）。

ユーモアを交えながら、実に表情豊かに話してくれたヘンゾ。眉間にシワを寄せながら、サムライ論や武道観を語ることに終始していた他のグレイシーとは、インタビューひとつでもこれだけ違う。

INTERVIEW

Renzo Gracie

WELCOME TO RINGS

グレイシー一族はみんな女好きなんだよ ボクはガールフレンドが7人いた（笑）

——では当然ヘンゾ選手は女性が大好きということですね？

ヘンゾ　もちろん大好きさ（笑）。結婚する前はガールフレンドが7人いたんだよ。1週間毎日違う女性と愛し合ってたのさ（笑）。

——夜の寝技研究も熱心だったんですね（笑）。ヘンゾ選手の驚異のスタミナの秘密がわかりましたよ（笑）。

ヘンゾ　でも今は結婚してるからワイフ一筋！　……ということにしといてくれよ（笑）。

——アハハハハ。わかりました（笑）。そういえばヒクソン選手も以前「私は確かに普通の人間以上に女性が大好きだ」と言ってましたよ。もしかしてグレイシー一族は女好き揃いなんですか？（笑）。

ヘンゾ　オ〜イエス（笑）。でも、ファミリーだけじゃなくてブラジル人はみんなそうだよ。女性が大好きだからそのかわり男が大嫌いなんだ。だから嫌いな男を試合の時チョークで絞め落とすのさ（笑）。

——アハハハ。なるほどブラジル人の強さの秘密もよくわかりましたよ（笑）。でもブラジルの女性はホントにセクシーですもんね。

ヘンゾ　イエ〜ス！（笑）。たまらないバディーだろ？

——ハイ、たまりません（笑）。日本の女性はどうですか？

ヘンゾ　ジャパニーズガールも大好きだよ。街を歩いてると可愛い子がたくさんいるんで、キョロキョロしっぱなしさ。だから日本に来ると首が痛くなるよ（笑）。

——打倒ヘンゾにはネックロックが有効ですね（笑）。

ヘンゾ　秘密にしといてくれよ（笑）。

——わかりました。ところでアレク選手とやった日のメインイベント、桜庭選手とホイラー（・グレイシー）選手の試合の感想を聞かせて下さい。

ヘンゾ　う〜ん、サクラバサンはホントに強かったね。でもあの試合は最初から公平な試合ではなかったよ。体の大きさも力も違い過ぎたからね。

——でも、あの試合はホイラー選手から望んだカードなんですよね？　なぜホイラー選手は不利を承知で桜庭選手と闘いたいと言ってきたんでしょうか、グラウンドになれば勝てると思ったんですかね？

ヘンゾ　それはサクラバサンがいま日本で一番のビックネームだからさ。当然勝てると思って闘ったんだろうし、勝ってホイラーがサクラバサン以上のビッグネームになろうとしたんだと思うよ。でも考えが甘かったね。

——ヒクソン選手やホイラー選手は桜庭選手の闘い方に批判的な意見を述べていたんですけど、ヘンゾ選手は桜庭選手の闘い方はどう思いましたか？

ヘンゾ　ボクは全然かまわないと思うよ。どんな闘い方をしようと闘う本人が決めるものだし、サクラバサンがあの闘い方を決めたんだから問題ないよ。

——日本のファンがあの試合でひとつ残念だったのは、ホイラー選手が負けたあとホイラー選手やそのセコンド達が、主催者に詰め寄ったりレフェリーにペットボトルを投げつけたりといった行為をしたことなんですよ。あれについてはどう思いますか？

ヘンゾ　選手とセコンドというのは、試合中やその前後には感情的になってしまうものなんだ。だから子供（ハクソン）は熱くなり

ホイラーは考えが甘かったね。でもボクがサクラバサンと闘ったらそうはいかないよ

すぎてペットボトルを投げたりとか、行きすぎた行為をしてしまうんだろうね。

——そんななかで、グレイシー一族でただひとり最後までリング上で桜庭選手の勝利を称えていたヘンゾ選手の株は上がりましたよ。

ヘンゾ　サンキュ〜。でもまあボクは大人だからね（笑）。

——アハハハハ。ミーシャvsリマのときは子供でしたけど（笑）。でも今度はヘンゾ選手がそんなファミリーの仇を討ってやろうという気はありませんか？

ヘンゾ　それはないね。ボクはグレイシー一族とサクラバサンの闘いという風には考えてないし、もともとサクラバサンとはホイラーが負ける前から闘うつもりだったからね。

——そうですか。ではヘンゾ選手の闘い方について聞きたいんですけど、他のグレイシーの選手は「相手を傷つけずに勝つ」と言ってあまり打撃を使わない選手が多いのに、ヘンゾ選手だけ殴り勝つというか、打撃を肯定しているのはなぜなんですか？

ヘンゾ　バーリ・トゥードは何をしてもいいわけだから、ボクは相手が打撃で来れば打撃で対応するし、寝技で来たら寝技で対応する、それだけだよ。

——まるでニック・ボックウィンクルですね（笑）。知らないでしょうけど。

ヘンゾ　だからホイラーはサクラバサンの打撃に苦しんだけど、ボクはそうはいかないよ（ニヤリ）。

——では桜庭戦は将来的な楽しみとしてとっておくとして、当面の大一番であるリングスのトーナメントについて聞きたいんですけど、1回戦で当たる坂田（亘）選手についてはビデオかなにかは見ましたか？

ヘンゾ　いや、全然見てないんだ。だからサカタもボクのビデオを見てないことを祈るよ（笑）。

——残念ながらメチャクチャ見て研究してると思います（笑）。坂田選手がショーン・アルバレス選手と闘った（99年2月21日横浜アリーナ）のは知ってますか？

ヘンゾ　ああ、そうらしいね。どんな試合だったんだい？

——20分フルタイム闘ったんですけど、アルバレス選手が上になって膠着する展開が多かったですね。

ヘンゾ　サカタはボクと同じくらいの身体だろ？　アルバレスはでかいからね、それは仕方ないよ。まあサカタについては何も知らないんだけど、相手を知らないということは試合をするのがスリリングで楽しいということもあるんだ。だからサカタ戦はエンジョイさせてもらうよ。

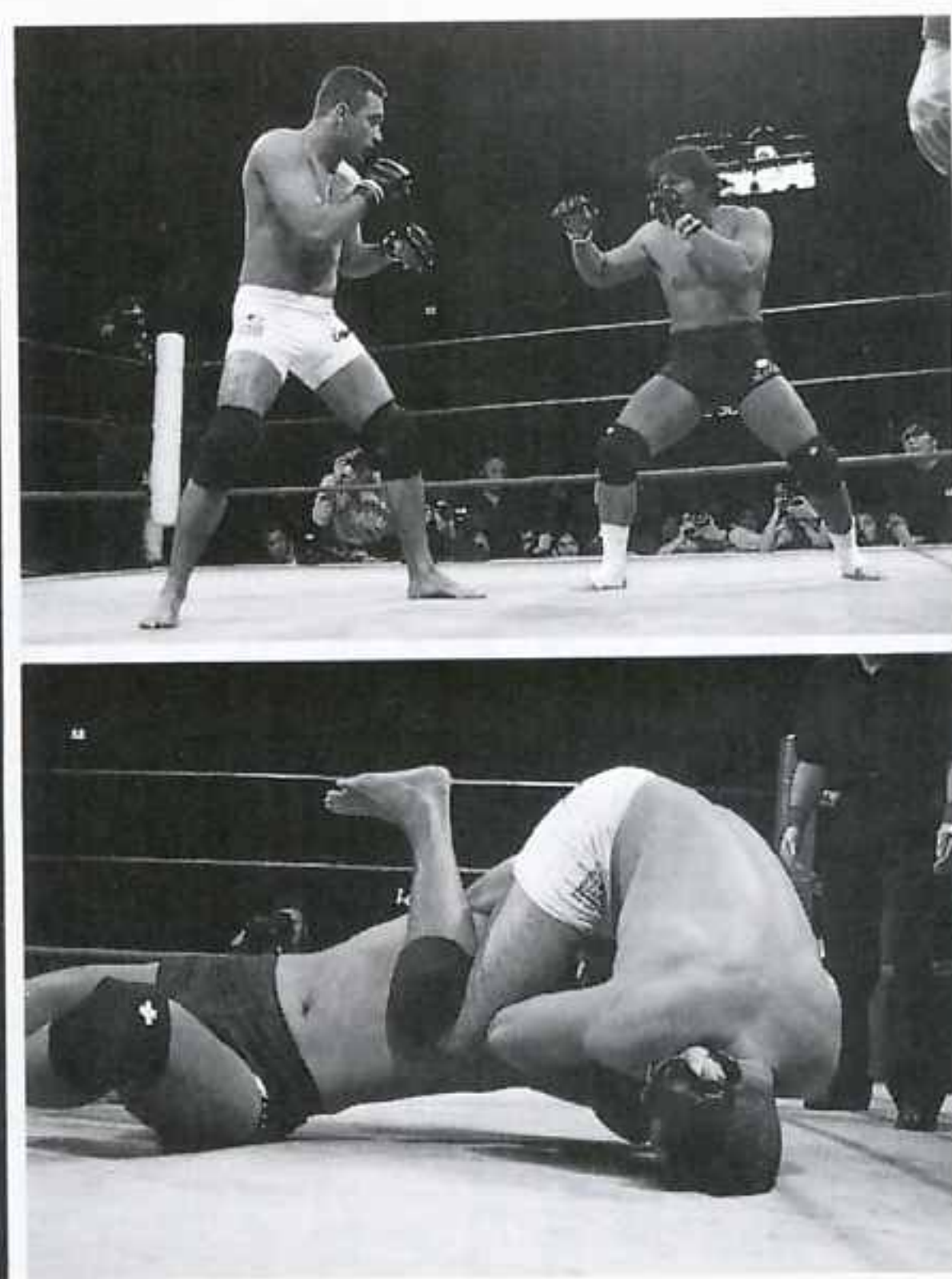
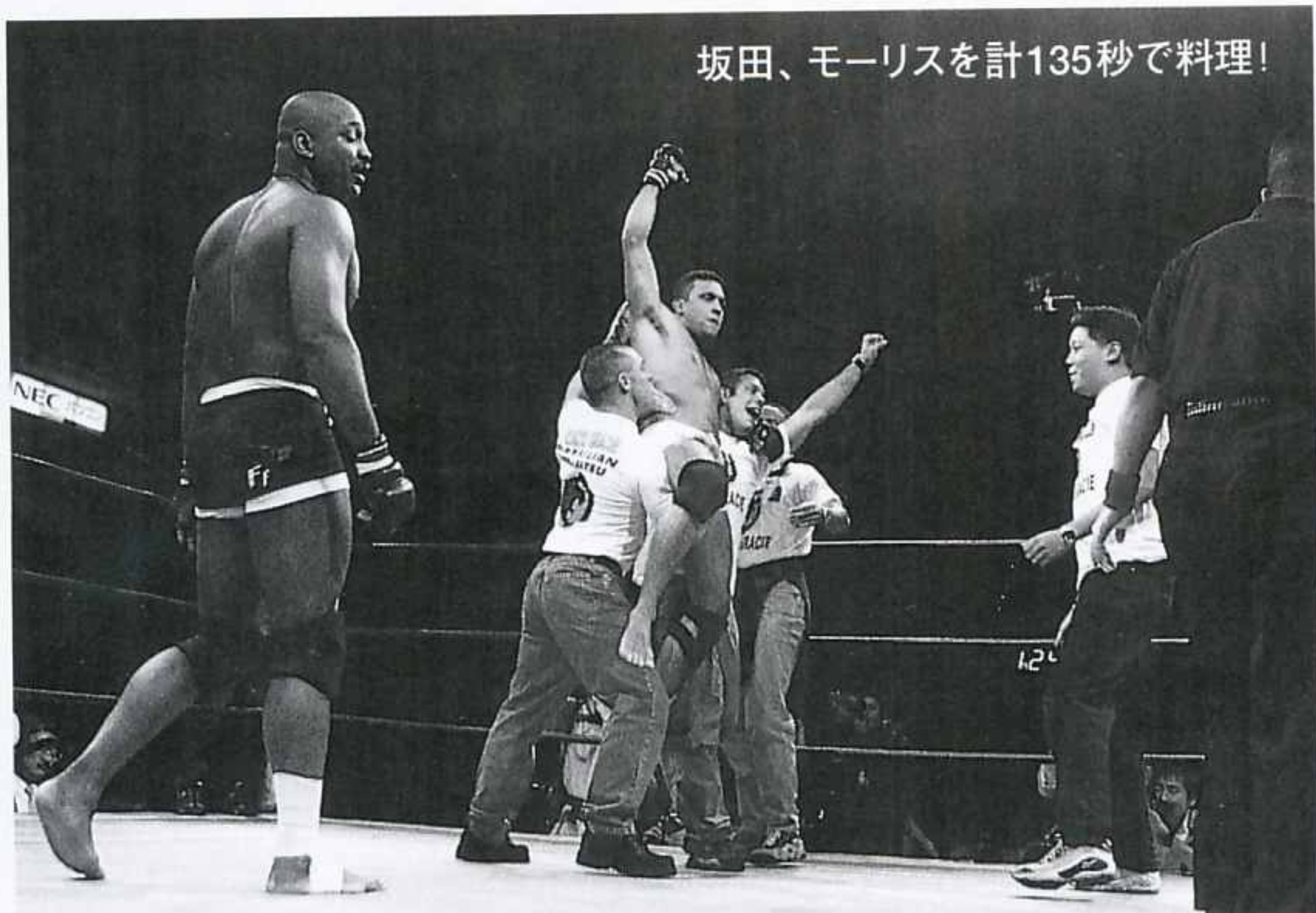
——余裕ですね。ヘンゾ選手は試合前にビデオを見たりして相手の研究はしないんですか？

ヘンゾ　もちろん研究するさ。でもサカタのビデオは誰も送ってくれなかったんだ。リングスの陰謀かもしれないね（笑）。

——アハハハハ。では2回戦で当たるかもしれないモーリス・スミス選手とブランドン・リー選手についてはどうですか？

ヘンゾ　よく知ってる

坂田、モーリスを秒殺で連破し、ファンに揉みクチャにされるヘンゾ。控室では「ボクはマエダ師匠を尊敬しています」「素晴らしいファンの前でいい試合ができて嬉しい」とすっかり上機嫌だった。

坂田、モーリスを計135秒で料理！

「相手のことは全く知らないから、闘いをエンジョイする」と語っていた一回戦では「ブラジル人をブッ潰します！」と記者会見で発言するなど敵意をムキ出しにする坂田を、蟻地獄のようなグランウンドテクニックでわずか85秒でしとめ、続く2回戦では、あのモーリス・スミスを何もさせずに50秒で完封したヘンゾ。試合後、グランドファイナルでのマークする相手を問われると、同じく秒殺三昧で大ブレイクしたコピィロフの名を挙げた。

リングスはボクにとってスポーツ VTより「アブダビ」に近いね。

よ。二人とも大きくて強い相手だね。
—そんな大きい選手相手に、体重無差別でグラウンドでのブレイクがあるトーナメントのルールはどうですか？
ヘンゾ ボクにとってはホントに困ったルールだよ。正直に言えば大嫌い（笑）。
—アハハハ。ハッキリ言いますね（笑）。それでも自信があるわけですか？
ヘンゾ 自信があるというより新しいことにチャレンジするのが好きなんだ。ボクはこのルールでの闘いはバーリ・トゥードとは全く違うスポーツだと思ってるから。『アブダビ（・コンバット・チャンピオンシップ）』にチャレンジする感じに近いね。
—トーナメントでマークする選手とかはいますか？
ヘンゾ それは全員だよ。このルールではみんなに勝つチャンスがあると思うよ。
—Aブロックに出場したアントニオ・ノゲイラ選手やレナート・ババル選手が初来日で強烈なインパクトを残したんですけど、彼らのことは知ってますか？
ヘンゾ もちろん知ってるよ。でも特にノゲイラが強いと思うね。
—ファンや関係者の間でもノゲイラを優勝候補に挙げる人が多いんですよ。これから勝ち上がると、ノゲイラ選手とか柔術家同士の闘いというのも組まれるかもしれませんが、それは問題ありませんか？
ヘンゾ リングスはスポーツだから問題ないよ。バーリ・トゥードだったらあまり闘いたくないけどね。
—ところで、リングスの印象はどうですか？
ヘンゾ リングスとマエダは、初めてボクを日本に呼んでくれてケアしてくれたから、非常に感謝してるし大好きだよ。
—リングスのファンもヘンゾ選手がリングスに参戦することを凄く歓迎してますよ。
ヘンゾ （嬉しそうに）オ～サンキュ～。いままでボクは日本のファンの前であまりいいファイトを見せることが出来なかったから、トーナメントではファンに喜んでもらえるように頑張るよ。
—ところでヒクソン選手とパンクラスの船木誠勝選手の試合が決まったのはご存じですか？
ヘンゾ ああ、その話は聞いたよ。でもボクはフナキを見たことがないんだ。
—では全然印象も何もないわけですか？
ヘンゾ そうだね、今まで見るチャンスがなかったから何も言えないよ。
—パンクラスという組織についても何も知りませんか？
ヘンゾ キクタ（菊田早苗）が参加してることぐらいしか知らないなぁ。キクタがいるんだから強いんじゃないか？ キクタは強いけどその他の選手は知らないね。
—そうですか。今回のリングス・トーナメントでのヘンゾ選手の試合は、ある意味その菊田選手やアレク選手との対戦以上にファンは注目してますよ。
ヘンゾ それは嬉しいね。でも今回ばかりはどんな結果になるかわからないよ。
—でもグレイシーの選手がリングスのルールで試合をするということで、凄く注目されてますから、頑張って下さい。
ヘンゾ そんなに焚付けるなよ（笑）。優勝できるようにベストを尽くすよ。（日本語で）ドウモアリガトウゴザイマシタ。

「リングスは〝負けが許されない〟バーリ・トゥードではなく、〝勝つ時もあれば負ける時もある〟スポーツ」と言い切ったヘンゾ。グランドファイナルの緒戦の相手は、王者として負けられないプレッシャーのなか勝ち上がってきた田村潔司に決定した。この試合は言うまでもなくお互いにリングス、もしくは〝U〟とグレイシーの看板を賭けた、勝敗が最も重要視される大一番。この勝負の重要性をヘンゾが理解していなければ、ホイラーに続きグレイシー神話崩壊に拍車をかけることになるだろう。2・26武道館、歴史的大一番を刮目せよ！

【99年12月21日都内某ホテルにて収録】

INTERVIEW

Renzo Gracie
WELCOME TO RINGS

Profile

ヘンゾ・グレイシー　1967年3月11日　ブラジル　リオ・デ・ジャネイロ出身　グレイシーといってもヒクソン、ホイスらとは兄弟ではなく、彼らの父エリオの兄カルロスの孫にあたる。血筋が違うためかヒクソンらほど神秘性はないが、その代わり喜怒哀楽をオープンにする、ある意味グレイシー随一のプロ向きファイターである。日本での戦績は4勝1引き分け。178cm 80kg

カステロ・ブランコ

コピィロフの衝撃的な秒殺勝利で幕を開けた12・22大阪。その相手となったのが柔術では文字どおり「キング・オブ・キングス」な実績を誇る、ブラジリアン柔術世界王者ブランコ。そんな男を秒殺したコピィロフの勝利は、ある意味〝グレイシー狩り〟以上に価値があると言える。ブランコを深く知ることで初めて、コピィロフとこのトーナメントの本当の凄さを知ることができるのだ。

コピィロフが秒殺したのはこんなに凄い男だった!

'99世界柔術選手権スーパーヘビー級王者!

CASTELLO BRANCO

ヘンゾ、ノゲイラより強い、世界最強の柔術家リングスに見参!

ヒクソンは一昔前の柔術家 私と闘えというのは彼には酷ですよ。

聞き手/堀江ガンツ
Interview by Gunts Horie

助っ人/松澤チョロ
Helper by Choro

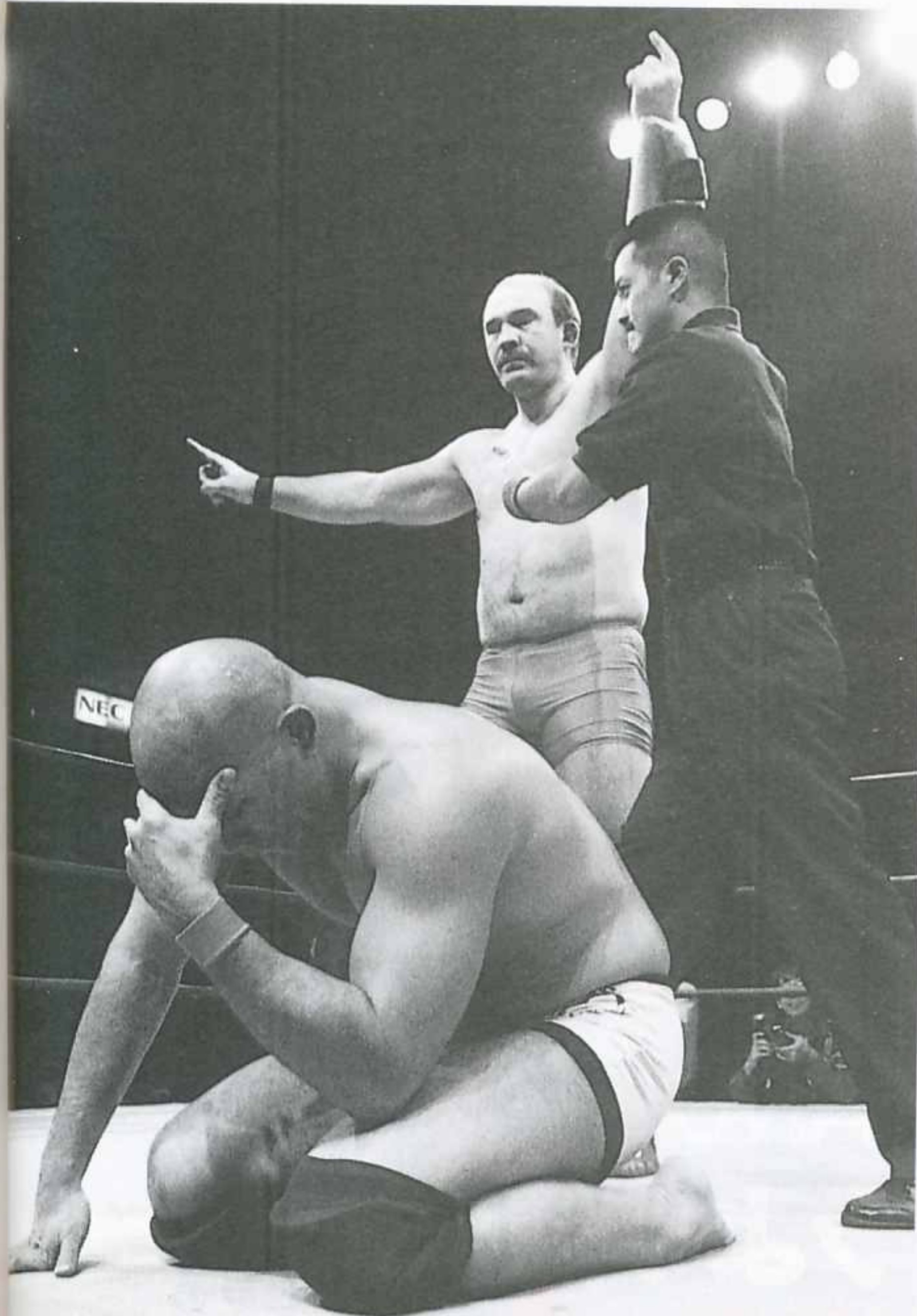
撮影/黒田史夫
photographs by Fumio Kuroda

試合撮影/森“モーリー”鷹博
photographs by Morry

ボブチャンチン戦？　あれは私のVTデビュー戦です。

分厚いダウンジャケットにニット帽という重装備で我々の前に現れたブランコ。なんでも来日してすぐに風邪をひいてしまったらしい。「リオはいま40度あるんですよ。日本は寒すぎます」そう苦笑いしながら語り始めた彼の言葉は、謙虚ながら自信に溢れていた。

——ブランコ選手は99年の柔術世界選手権スーパーヘビー級チャンピオンなんですよね？　ということは現役の柔術重量級最強の男と思っていいわけですか？

ブランコ　世界選手権では同門の選手（ホベルト・トラヴェン＝「99アブダビ・コンバット」無差別級にも優勝している強豪）との決勝だったので、決勝戦は行わず優勝者が2名だったんです。ですから私は世界一の柔術家を名乗ろうとは思いませんよ。

——凄い謙虚ですね（笑）。でもそのブランコ選手が優勝したブラジリアン柔術世界選手権にはバーリ・トゥード（以下VT）で有名な選手なんかも参加してたんですよね？

ブランコ　そうですね……ムリーロ・ブスタマンチ、ファービオ・グージュウ、マリオ・スペーヒー、アントニオ・ノゲイラ、その他有名な柔術家はほとんど参加してますね。

——こんな凄いメンバーの中で優勝するなんてメチャクチャ凄いじゃないですか！（笑）。

ブランコ　でも階級が違う選手もいますから。

——やっぱり謙虚ですね（笑）。無敗と言い張るどこかの柔術家とは大違いだ（笑）。ブランコ選手が柔術で素晴らしい実績を残していることはわかりました。でもVTについてはロシアのアブソリュート大会でイゴール・ボブチャンチン選手と引き分けたことしか情報として入ってきてないんですけど、他にはVTの試合は行っていないんですか？

ブランコ　私のVTのキャリアはその1試合だけです。とにかく非常に強い相手で闘いもハードでしたね。まあ普通初めてVTに出るときは、あまり強くない相手を選ぶものなんですけど、私はそういうことはしたくなかったんです。結果は35分で引き分けに終わったんですけど、18分経過した辺りでボブチャンチンのヒザ蹴りで鎖骨を折ってしまったんですよ。だからその後手術して、いまここには器具が入っているんです。怪我をしながらもボブチャンチンのような強い相手と35分戦い抜くことが出来たのは私の自信になりました。

——骨折しながらフルタイム闘うとは恐ろしいですね。それにそもそもVTデビュー戦がボブチャンチンというのがとんでもないですよ！　ところで柔術家というと日本人はまずグレイシーを思い浮かべるんですけど、グレイシーの選手と試合はしたことはありますか？

ブランコ　ええ、今回のトーナメントにも参加しているヘンゾ・グレイシーと柔術の大会で闘ったことがあります。

——結果はどうだったんですか？

ブランコ　（あっさりと）はい、私が勝ちました。

——やっぱりブランコ選手凄いじゃないですか！（笑）。

ブランコ　その時は体重が無差別の大会だったんですよ。ご存じの通り彼は私に比べてだいぶ軽いですから、私が彼より強いとかは言いませんよ。

——どこまでも謙虚ですね（笑）。

ブランコ　日本では柔術といえばグレイシーなのかもしれませんけど、ブラジルでは私が所属するアリアンシというクラブも凄く有名なんですよ。クラブ対抗の大会でも2回優勝してますから。ブラジリアン柔術はグレイシーだけではないんですよ（笑）。

——でもまだまだ日本ではヒクソン・グレイシー選手が、VTで最強の格闘家であるとよく紹介されるんです。それについてはどう思いますか？

ブランコ　私自身ヒクソンに敬意を持ってますし、素晴らしい選手だと思っています。ただ私から見ると彼は歳も取っていますし、一昔前の選手であるという印象はありますね。だからいまの彼に私が「実際に闘ってどちらがナンバーワンか決めよう」と言うのは酷だと思います。それに私はこれから、柔術を研究した若くて強い世界中のファイターと闘っていかねばなりませんし、そういう闘いの中にいます。でもいまのヒクソンではこの輪に入ることは出来ないんじゃないでしょうか。ですから彼は私にとってはよき目標であり、闘う相手ではありません。

勝者と敗者の強烈なコントラスト。「彼が私のヒザを極めていることに気付いた時には既に私は動けませんでした。本当残念です。このためにハードなトレーニングを積んできたのに、ほんの数秒で全てが終ってしま いました」（ブランコ）

CASTELLO BRANCO

——「オッサンはもうエエねん！」と（笑）。

ターで一番いいファイターがサクラバという

ブランコ　はい。日本で行われた次の日に

す。ですから子供たちを指導しています。

ヘンゾとは柔術の大会で闘いました
ハイ、もちろん私が勝ちましたよ。

―「オッサンはもうエエねん！」と（笑）。ではブランコ選手も多くのブラジル人ファイターがそうであるように、これから日本やアメリカのフリーファイトの大会にドンドン出ていこうという考えですか？

ブランコ　『PRIDE』や『UFC』はブラジルでも有名ですし、確かに私も出てみたいという気持ちはあります。でも私は今回呼んで頂いたリングスのオーガナイズに非常によい感情を持っていますので、私としてはこれからもリングスで闘っていきたいと思っています。

―それは素晴らしい。是非そうして下さい（笑）。ところで知っている日本人ファイターはいますか？　TVや雑誌で知ってるだけでいいんですけど。

ブランコ　もちろんキムラですよ。

―木村？　健悟なわけないですよね（笑）。

ブランコ　グレイシーを倒したキムラです。

―ああ〝キムラ・ロック〟の木村政彦ですね。50年前の選手ではなく現役の選手でお願いします（笑）。

ブランコ　ヒクソンのジムに道場破りに来たアンジョーは知っていますよ。

―アハハハハ。安生選手の悪名は地球の裏側まで轟いてましたか（笑）。

ブランコ　あとはサクラバとタカダはよく知ってますよ。日本のファンの間ではタカダが一番カリスマ性を持った選手らしいですけど、私は真のアイドルと呼べるのはサクラバの方ではないかと思います。

―高阪（剛）選手はご存じないですか？

ブランコ　ああ、よく知ってますよ。彼も非常に良い選手ですね。でも彼はアメリカに住んでいますよね？　日本に住んでいるファイターで一番いいファイターがサクラバということです。

―桜庭選手の試合はビデオか何かで見てるんですか？

ブランコ　ええ、彼の『PRIDE』での試合はほとんど見てますよ。アラン・ゴエス、ホイラー・グレイシー、ビクトー・ベウフォート、アンソニー・マシアス、あと髪がチリチリのファイターは何という名前でしたっけ？

―カーロス・ニュートンですか？

ブランコ　そう、ニュートン（笑）。全ての試合が素晴らしいと思いますよ。

―ホントよく見てますね（笑）。日本やアメリカのビデオはよく見て研究したりするんですか？

ブランコ　はい。日本で行われた次の日にはブラジルで入手できるんですよ。

―そうなんですか。リングスのビデオは見ましたか？

ブランコ　この間のトーナメントAブロック（99・10・28代々木）の試合は見ました。このトーナメントによってリングスの名前がブラジルでもっともっと広まって、多くの選手がこれから参戦を希望してくると思いますよ。

―賞金も大変魅力的ですしね（笑）。

―なんと言っても主催者が「賞金総額50万ドルやで！」って自慢してますからね（笑）。ところでいまファイター以外の仕事は何をしているんですか？

ブランコ　私は大学で体育学を専攻していたので、体育の先生の資格を持っているんです。ですから子供たちを指導しています。

―日本に来た資料でも可愛いお子さんを抱いていた写真があったんですが、やはり子供が好きなんですか？

ブランコ　（嬉しそうに）ハイ。あの写真に写っていた子供は私の息子でまだあの時は生後7ヶ月だったんです。自分の子供に限らずやはり私は子供が好きですね。子供が健やかに育つことを祈って頭を丸めたんですよ。

―スキンヘッド秘話ですね（笑）。いまは子供たちのために闘うという感じですか？

ブランコ　そうですね。特にリオは子供たちが暴力や非行に走ったりすることが非常に問題になっているんです。ですから自分が子供たちに何をしてあげられるかが重要な問題だと思っています。

―ブランコ選手は子供の頃に非行に走ったりすることはなかったんですか？

ブランコ　はい。両親の教育が良かったんだと思います。私が育った家庭は裕福な方ではなかったんですが、その中で柔術をやるためのお金を費やしてくれたんです。ただブラジルの場合、柔術を習いたくても柔術衣が買えない、食べることも難しいという子供たちがたくさんいるんです。ですから今度は私が闘いでお金を得て、それを子供たちに還元していきたいと思っています。私にどれだけのことができるかはわかりませんけど。

―とことん謙虚で素晴らしい人ですね（笑）。これからの活躍期待してます！

子供たちのために闘う〝ブラジル版伊達直人〟カステロ・ブランコ。こういう選手に賞金を獲得してもらいたかったが、結果はご存じの通り1回戦負けを喫してしまった。しかしよく考えれば彼はまだフリーファイト2戦目。柔術世界王者の実力を発揮するのはこれからである。再来日に期待！

【99年12月21日都内某ホテルにて収録】

CASTELLO BRANCO

レオナルド・カステロ・ブランコ
1967年８月19日、ブラジル　リオ・デ・ジャネイロ出身　189cm　105kg
99年世界柔術選手権スーパーヘビー級王者。それ以外にも世界大会以上のレベルを誇ると言われるブラジル国内の選手権でも97、98、99年と３年連続で王座に輝くなど、文字どおり「トップやで、トップ！」（日明兄さん調）な実績を誇る。風邪に負けない元気な体での再来日に期待。

こんな日を待っていた

コピィロフ遂に大ブレイク!!

ビバ！コピィロフ！

「強い」ヤツを呼びすぎた」と思わず前田にぼやかせたネットワーク外選手の脅威から、見事リングスを救ってくれたミーシャとコピィロフ。こうなるとリングスファンとしては、もうロシア方面に足を向けて眠れない。これからは北枕の日々である。

それにしても恐るべきはコマンド・サンボである。思えば初期リングスで初めてベールを脱ぎ、戦場の超実戦格闘技として一躍世界にその名を知らしめたコマンド・サンボも、ここ数年はアブソリュート大会等でブラジル人柔術家に敗れることが目立ち、『格通』には「ブラジリアン柔術の亜流に成り下がったコマンド・サンボ」などと書かれる等、まさにコマンドサンボ冬の時代であった。そんな風潮を一気に吹き飛ばし、「コマンド・サンボは本当は強いんです！」とばかりに国技の名誉を取り戻したミーシャとコピィロフはハッキリ言って「ロシア国民栄誉賞」ものだ。

しかし、コピィロフに言わせればそもそも冬の時代でも何でもなかったのだと言う。その言い分を始めとして、コピィロフのコメントがあまりにも素晴らしいので、ここではジャンジャン紹介させていただく。まずブラジルの脅威については、

「私はサンビストでブラジリアンに負けたことがある選手なんて、ほとんど聞いたことがないね。サンボには5千の技があって、それらをマスターして初めてサンビストと言えるんだ。だから現役のサンビストでブラジリアンと闘ったのはミーシャと私ぐらいのものじゃないかな。我々以外のサンビストたちは国の重要なポストについていたり、ビジネスが忙しかったりするのであまりフリーファイトの世界には来ないんだ。私やミーシャはサンボとリングスが大好きだから、闘っているだけさ」

いや〜皆さん聞きましたか、タクタロフなんかサンビストじゃねぇんだそうです。一歩間違えたら〝ロシアの定説〟だが結果を出してる人はノー問題！

それにしてもヴォルク・ハン戦での究極の関節技合戦で衝撃のリングスデビューを果たし「サンボの実力はハン以上」と呼ばれながらも、それ以降は従来のリングスルールの下では低迷していたコピィロフが遂に大ブレイクを果たしたのは嬉しい限りである。この突然の大ブレイクにも、コピィロフは抜群のコメントを残している。

「私はこれまでのリングスルールでも、ファンに喜んでもらおうと思って一生懸命やってきたんだが、今回の試合の方がファンに好評ということは、どうやら私はこっちの方が向いているようだね。だけど今回のルールだと特に私の場合、どうし

かわず掛けからの鮮やかとしか言いようがないヒザ十字！「別に足関節だけを狙っていたわけではないよ。私は腕でも肩でもどこでも極められるからね」（コピィロフ）

ハラショー！ ミーシャ！

コマンド・サンボ幻想 祝 大復活！

リングスファンは

ミーシャ、

構成／堀江ガンツ
Text by Gunts Horie

リングス史上最大級の盛り上がりを見せる「キング・オブ・キングス」。その最大の立役者はなんと言ってもミーシャとコピィロフである。Aブロックはミーシャの９回裏逆転満塁ホームランのような勝利によって大熱狂のウチに幕を閉じ、続くBブロックでは今度はコピィロフが第一試合に登場し柔術世界王者を16秒で秒殺、初回先頭打者ホームランをぶっ放した。放送席、放送席、それでは二人のヒーローインタビューをお届けします。

ても猛スピードで試合が終わってしまう。私としては、もっとたくさんのテクニックをファンに見せたいから、どちらのルールが良いかわからないね」

コピィロフよ、悩むことはない。っていうかまた元のコピィロフに戻られたら困る。ついでにこんなことまで言っているのだ。

「このルールでもサンボ着さえ着させてくれたら、もっと派手な技でファンを楽しませることができるんだけどね」

ひとこと言わせていただきます。「私はアンドレイ・コピィロフ選手のジャケット・マッチが見たいです！（真鍋調）」さらにはオープンフィンガーグローブを付けない理由に至ってはこうだ。

「私はサンビストだよ。そんなものは必要ないだろう」

もはやビバ、コピィロフ！　としか言いようがない、どれもこれもいちいちコマンド・サンボ幻想が膨らみまくる発言である。素晴らしすぎてコピィロフの話ばかりになってしまったが、ミーシャもまたタマラナイのだ。ブラッド・コーラーを見事下して控室に戻ったミーシャが開口一番発した言葉が「まず、知って欲しいのはラバザノフ（・アフメッド）の本当の実力はあんなものじゃないということです」

なんと自分のことより先に一回戦で負けた仲間のことを弁護し始めやがった。そして最後はこれである。

「ファンの声援が私に力を与えてくれた。私の勝利はリングスファンの勝利です」

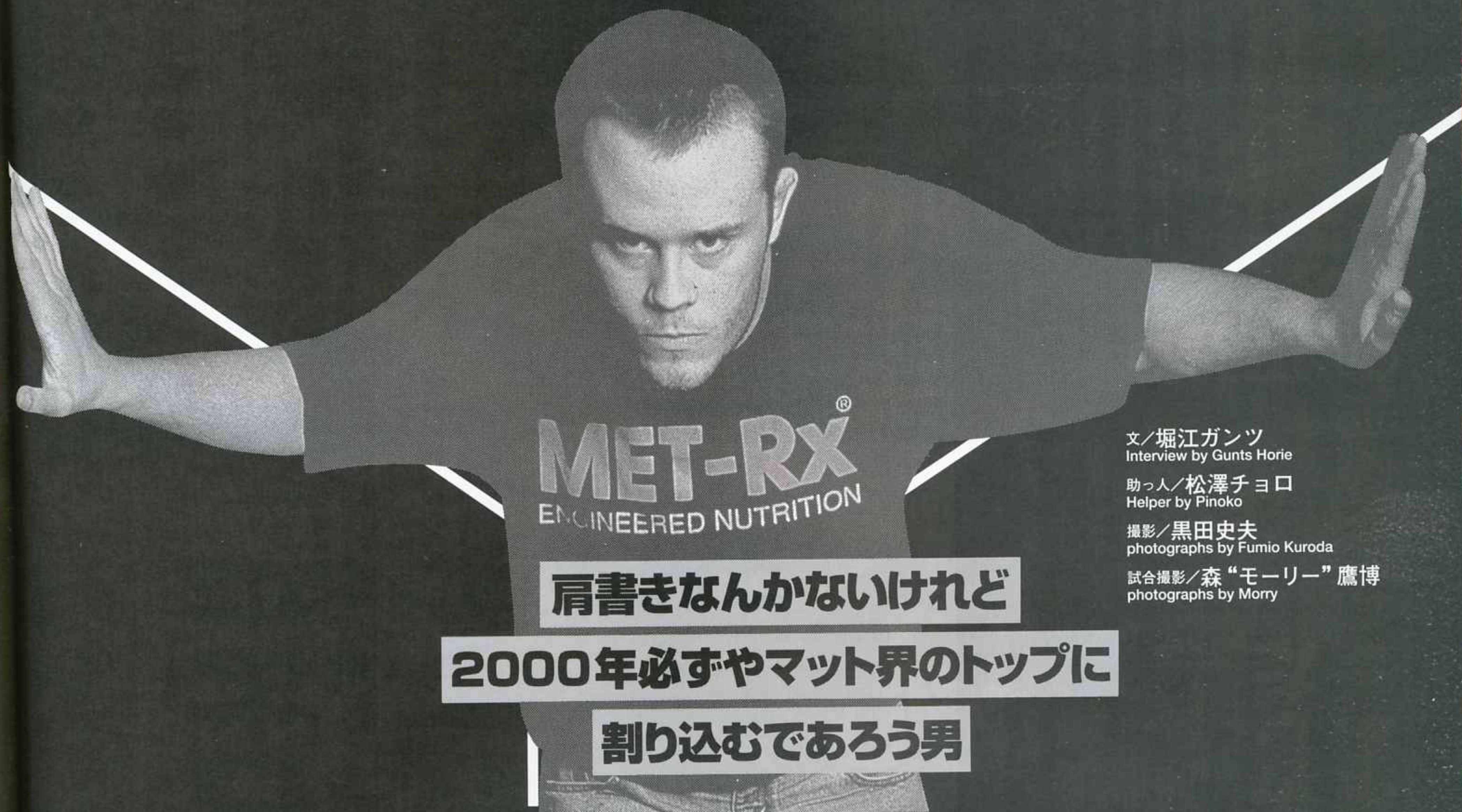
ハラショー、ミーシャ！　我々の方から言いたいくらいだ。あなたたちの勝利は私たちの誇りです！

グランドファイナルでは緒戦でミーシャとコピィロフはそれぞれババル、ノゲイラというブラジル人と激突。そして遂に遂に遂に……真打ちヴォルク・ハンもワンマッチで登場！　2・26武道館に再びコマンド・サンボ旋風が吹き荒れる！

サンボの代名詞アキレス腱固め。「アキレスって凄く難しいんですよ。なんであいつら（ロシア勢）あんなに上手く極められるんですかね？」（TK談）

風潮を一気に吹き飛ばし、「コマンド・サン

「私はサンビストでブラジリアンに負けたことがある選手なんて、ほとんど聞

今回のルールだと特に私の場合、どうし

文／堀江ガンツ
Interview by Gunts Horie

助っ人／松澤チョロ
Helper by Pinoko

撮影／黒田史夫
photographs by Fumio Kuroda

試合撮影／森“モーリー”鷹博
photographs by Morry

肩書きなんかないけれど 2000年必ずやマット界のトップに割り込むであろう男

ジェレミー・ホーン

雑草魂

「キング・オブ・キングス」16ページぶち抜き大特集のラストを飾るのは、お待たせしましたこの男、ジェレミー・ホーンの登場だ！

「誰だよそれ」「それより田村にインタビューしろ！」「ノゲイラはどうした！」「っていうかリングスのページが多すぎるんだよ！」……ハイハイ。皆さまの意見もごもっともです。ぶっちゃけた話ボクも3ヶ月の前のトーナメントAブロックで、しかも1回戦負けを喫した日本では比較的無名の選手を、今さら取り上げるのはどうかと思う。それでもあえて載せるのはなぜか？　だってインタビュー取っちまったんだからしょうがねえだろっ！……というのは冗談だが（半分本気）、本当はこのジェレミーが、今年必ずブレイクするであろう逸材だからである。（願望含む）。

まずジェレミーの凄さを理解してもらうのにてっとり早いのはその尋常ではない試合数であろう。

「99年は1年間で26試合もやってるんだよ（笑）。カネハラ（金原弘光）戦以外は全勝さ。トータルレコードは34勝5敗4ドローだね」

なんと2週間に1回はVTに出場してる計算になる。当然、ストリートや道場も含めてなどというインチキ臭い経歴ではなしにだ。月に1回にも満たない発行ペースの『紙プロ』も少しはジェレミーを見習うべきだろう。これだけ頻繁に試合を行っていると「1ヶ月に一回も試合してたらスキルアップに繋がりませんわ」というリングス退団時のヤマケン発言をどうしても思い出すが、このジェレミーにはそんなものは当てはまらない。

「試合をする度に自分が強くなっていくのがわかるんだ。だから連戦は苦にならないよ」

確かにジェレミーのスキルアップの確かさはあのヘンゾ・グレイシーも認めるところで、ヘンゾはアメリカのトーク番組で「今、最も注目すべき男」としてジェレミーの名前を挙げ、「試

う。それでもあえて載せるのはなぜ

としてジェレミーの名前を挙げ、「試

99年はバーリ・トゥード25戦全勝！ボクは試合をする度に強くなる。

合をする度に成長しているところが素晴らしい」と絶賛している。

そもそもジェレミーはエクストリーム・チャレンジを始めとするインディーVT大会で地道にキャリアを積んでいくうちに成長した雑草ファイター。その雑草っぷりはこれまでの格闘技キャリアに見事に象徴されている。

「最初に習った格闘技は忍術！　まあ、格闘技と言えるかどうかはわからないけどね（笑）」

五獣拳だのジョーサン・ドーだのファンタジー溢れる（ウサン臭い）選手がワンサカ参戦していた初期UFCならともかく、現在のUFCで通を唸らせるテクニックを持つジェレミーが忍者だったとは驚きだ。

「忍術の次は柔術を始めたんだ。と言っても誰かに習ったわけではなく、UFCのビデオを見て友達を実験台に独自で研究したものだけど（笑）」

「忍」の世界から足を洗ったと思ったらこんどは芳賀玄太ばりの〝我流〟である。このように最強への道をデタラメに突き進んでいったジェレミーにも19歳の時転機が訪れる。それが現UFCライト級王者でもあるパット・ミレティックとの出会いである。

「ミレティックと練習するようになって、自分の練習法が間違っていると気づいたんだ」

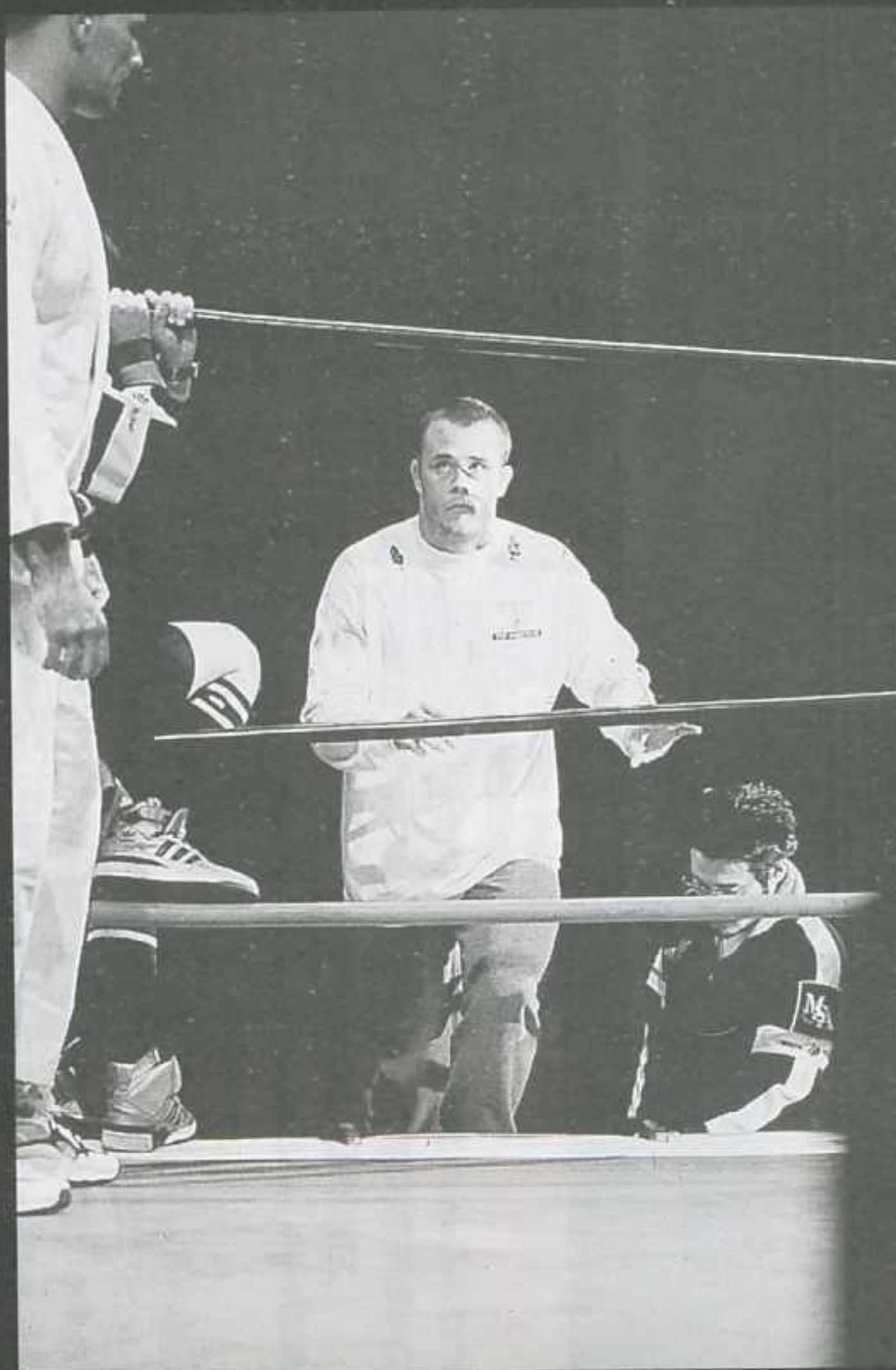
ようやく気づいたか！　とツッコミのひとつも入れたくなるが、このミレティックとの出会いによってデタラメロードに終止符を打ったジェレミーは、その後奇跡の急成長。「いつ何時、誰の注文（オファー）でも受ける！」とばかりに小規模VT団体を荒らしまくり、インディーVT王としてその名を知らしめることになるのだ。

そんなジェレミーが最初に掴んだビッグチャンスが、UFCデビュー戦となったフランク・シャムロック戦（98年5月15日）である。ここでジェレミーは敗れたものの大方の予想を上回る、延長戦までもつれこむ大健闘をみせ（しかも本戦ではジェレミー優勢であった）遂にメジャーの仲間入りを果たす。それ以降UFCの常連になってからはほぼ全勝の快進撃を続け、そして現在、UFCのビデオを見て我流で腕を磨いていた男が、いよいよUFCヘビー級王座も射程距離内に置く位置にまで登りつめたのだ。しかし！

「いまのUFCは次にいつ試合が組まれるかもわからない状態で、組織が安定してないんだ。だからオファーがあればどこでも飛んでいくよ」

肝心のUFC事体が開店休業状態。そんなときに渡りに船となったのがリングスというわけである。試合数をこなして金を稼ぐ。そんなジェレミーには「お金が欲しい人は来て下さい」（by日明兄さん）な「キング・オブ・キングス」はまさにうってつけのリングだったのだ。

「できればリングスにはレギュラーとして参加したいね。カネハラとはリベンジといった感情抜きに、もう一度闘いたいし、リングスに上がれるんだったらだったらエスケープがあるルールでもOKだよ」

ジェレミー・ホーン。この名前を覚えておいて損はない。……っていうか月に2回もVTやってる男、嫌でも覚えるって。

これを書いている時点ではまだ結果がわからないが、ジェレミーは1月15日にアメリカであのアントニオ・ノゲイラと対戦が決まっている。本家VS我流の柔術対決の結果やいかに！

JEREMY HORN

ジェレミー・ホーン
1975年1月25日　アメリカ　ネブラスカ州出身　ミレティック・マーシャルアーツセンター所属　186cm　97kg
男兄弟の末っ子として生まれ、兄の暴力に対抗するため格闘技の道を志す。全米各地のあらゆるNHBの大会に出場するアメリカの他団体男。UFC22でのゴドシー秒殺葬が日明兄さんの目に止まり『KOK』に出場。パニッシャー・ダイス・モーガンに少し似ている。

私たちも推薦します

ヘンゾ・グレイシーさん
ジェレミーは一度ボクのドージョーにトレーニングに来てくれたことがあるんだよ。もともと彼の試合は大好きだったんだけど、実際会ってみて人間的にも彼のファンになったよ。彼の最も優れたテクニックは、ガードポジションからの攻めかな。でも一番の武器はスタンドでもグラウンドでも勝負できるところだと思うよ。そう、ボクみたいにね(笑)。

金原弘光さん
みんなジェレミーに勝つことがいかに凄いことか知らないんだよね。ダメだよ～『紙プロ』もそういうところを載せなきゃ。『紙プロ』は11連勝しないとオレにインタビューしにこないんだもんなぁ～。ヘンダーソンにだってジェレミーと1回戦でやってなけりゃ、オレ勝てたんだから～。ジェレミーはいま100キロ近くあるでしょ？それであれだけ動けるんだからメチャメチャ強いよ～。

「キング・オブ・キングス」
2.26武道館グランドファイナル
メガトン級の組み合わせ決定!!

A・B両ブロックからそれぞれ4名がグランドファイナルに進出し、いよいよ大詰めを迎えた「キング・オブ・キングス」。その大注目の組み合わせが遂に決定した。

出し惜しみゼロ！　このトーナメントに賭けるリングスの意気込みを見せつけるかのような、衝撃的なカードの連続である。まず、緒戦からいきなり1・2回戦で圧倒的な強さを見せたコピィロフとノゲイラが激突。事実上の決勝戦の声も挙がることだろう。続いてあの金原とパンチでわたりあったヘンダーソンと、ご存じアイブルの超打撃対決。ミーシャ対ブラジルの因縁の一戦をはさんで準々決勝のラストを飾るのは、リングスの看板を背負って1・2回戦を突破した田村潔司田村が遂に〝グレイシー狩り〟に挑む。格闘技界を揺るがす大一番。

いま田村はヒクソンとの初対決を前にした時の高田ばりにプレッシャーを感じているかもしれない。思えば一度目の高田・ヒクソン戦の前に「みんなの声で『ドラゴンボール』の〝元気玉〟みたいに高田さんに力を貸してあげて欲しい」とファンに訴えていた田村。ならば今度は田村自身が力を借りる番だ。ファンの声援で田村に力を──、そしてヘンゾに〝元気玉〟をぶっ放せ！

〝U〟というジャンルを背負う最後の男、田村潔司。グレイシー神話に終止符を打つのはこの男こそふさわしい。

次号、田村"出征"インタビュー
大々的に掲載決定!

緒戦からコピィロフvsノゲイラの超実力派対決実現、そして…
田村潔司"グレイシー狩り"に出陣!!
2・26武道館　田村潔司に力を──、そして"元気玉"を生み出せ!

総評　「キング・オブ・キングス」の魅力はメジャーとマイナーの両輪を転がしているところだ

ある人に言わせると、『PRIDE.GP』は総合のK－1なんだそうである。確かにその超ド級のスケール感は「現在」のK－1そのものである。しかしボクは『KOK』こそ総合のK－1であると言いたい。『KOK』は誰が飛び出すかわからない「初期」のK－1そのものだ。現在と初期の一番の違いは、現在はその超メジャー感のみを前面に打ち出しているようなのに対し、初期はメジャーとマイナーの両輪を転がしていたことだ。『KOK』の魅力もズバリそこである。メジャーのウリが完成されたアベレージの高さとするなら、マイナーは新たなものを生み出すパワー。今回の『KOK』はそんなマイナーパワーが爆発し、50万ドルという賞金と試合のクオリティーでメジャー感もあった。そこが凄い。

そしてここにいい話ひとつがある。出場選手を集めたルールミーティングの席で、NHB系の選手たちが案の定グラウンドでの打撃制限などについて文句を言い始めた時。それを眺めていた前田CEOは大声で「ジス・イズ・ジャパン・ルール！」と叫んで彼ら一喝したそうだ。現在のマット界の「ビッグネームのほとんどが闘う相手を選び、ルールを指定する」という風潮を前田は許さなかったのだ。その膠着をなくすためにブレイクを早め、関節技の攻防を見せるためにマウントパンチを禁じたルールは、見る側に立ったまさに"プロ"のルール。前田はこのルールでリングスを本気で世界に広めるつもりだ。2・26武道館は世界への第一歩でもあるのだ。

（堀江ガンツ）

2月26日 ワールドメガバトル・オープントーナメント
KING OF KINGS GRAND FINAL対戦表

- アントニオ・ノゲイラ（ブラジル） vs アンドレイ・コピィロフ（リングス・ロシア）
- ダン・ヘンダーソン（アメリカ） vs ギルバート・アイブル（リングス・オランダ）
- レナート・ババル（ブラジル） vs イリューヒン・ミーシャ（リングス・ロシア）
- ヘンゾ・グレイシー（ブラジル） vs 田村潔司（リングス・ジャパン）

ワールドメガバトル・オープントーナメント
KING OF KINGS GRAND FINAL
2月26日(土)　日本武道館　15:30開始

【チケット】RRS20000円〜B席3000円
チケットぴあ、ローソンチケットほか、
全国有名プレイガイド、プロレスショップにて絶賛発売中
【お問い合せ】オデッセー　03-3796-9999
WOWOW情報ダイヤル(24Hテープ)　045-683-8009

謎の刺青女子ファイターの

絶品コラムに酔いしれろ!!

WWF WORLD WRITING FEDERATION

イラスト◎キャプテン名倉

●花くまゆうさく『リングの汁』●杉作J太郎『プロレスを見て女にモテろ!!』
●掟ポルシェ(ロマンポルシェ)『業☆勝ちます』●スペースシャワーTV『マタハリ実況中継』
●プナニ酒井(エンセン井上マネージャー)『もうひとつの大和魂』●わかおはるか『THE ジョージ秘宝館』
●新連載!! 元・『紙プロ』ダミー編集長原タコヤキ君の『紙のプロレスWEST』

※梵婆家の店長『魁!! 裏ビデオ御開帳』は今回お休みとなります。ご了承下さい。

「キング・オブ・キングス」

99年のベストバウトは桜庭vsブラガと小川vsグッドリッジ。そんな作文

船木がホントに横からおいしいとこもっていってしまい、ロアングリである。今まで桜庭が1コずつ登っていったのは何だったんだろう？　これが世の中の仕組みなのか!?　パンクラスはいろんなことを教えてくれる。

勝ったらもちろんだが引き分けでも万々歳なので、じつにおいしい。いまパンクラスにあるいろんなマイナスイメージをこれですべてチャラにしてしまうんでしょうか。

船木を選んだヒクソンもヒクソンで、がっかりです。桜庭vsホイラー戦についての言い訳もセミナーの時に生で聞いていたのでかなりがっかりしました。あれも言いたいことは判らなくもないが、せめて「桜庭は強かった。だが寝技で勝負してほしかった」ぐらいのコメントでよかったのではないでしょうか。

そんなこんなで、どう受け止めていいのか判らなくなるこのヒクソンvs船木戦ですが、ひとつ言えることは、船木の金髪はやくみつると同じくらい似合っていないということでしょう!

そしてアブダビには、桜庭も出場してほしい!　菊田vs鈴木はもっと早く（2年ぐらい）実現してればよかったのに！と思う今日このごろです。

そんで、リングアナが天狗、または弁慶高校のような格好してたVTJ'94と比べると、とても同じ会場での同じ大会だとは思えないほど垢抜けた演出のVTJ'99のプチ感想文です。

行きたくない会場ベスト3に入るNKホール（他の2つは有明と横アリ）が、びっしり満員。そこへしょっぱなからルミナ登場。キレの良い動きで次々と足関節のコンビネーションを見せ秒殺！　鈴木マサト戦や九平戦やコンバットレスリングで優勝してた頃の小会場で恐ろしく強くて輝いていた頃を取り戻したような感じでした。これで会場は一気にあったまり、つかみはOK！　しかしルミナをつかみに使うのはもったいない。大丈夫なのかと、ちと心配。昔、RCがライブの一曲目で『雨上がりの夜空』をやったのを思い出す。

2番手の加藤が、岩石のようなパンチをブラジル人に打ち落とし、3番手に〝ナチュラル・ボーン・ヒール〟の五味登場。いつも通りの憎々しい強さで殴ったり叩いたりで勝つ。近い将来あるであろう宇野戦で、五味のナチュラルヒールぶりは爆発するでしょう。次は植松欠場で池田vsホーキ。今回ホントは植松を一番楽しみにしていましたが、池田が見事に毎度盛り上がりのない試合をするのが定説となっているホーキを相手に、とても熱い試合をしてくれました。

そして次、スクリーンにはなんとVTJ'95での中井祐樹の勇姿だ!?　修斗プレイクのきっかけの元は中井さんだと思ってたので、今の満員の会場で試合させてあげたいと夢見てたんですが、ついに実現。しかしさすがにひとつ上の階級での王者な相手は強く、差を見せつけられて負けてしまいました。柔術愛好者にとっては熱くなる試合でしたが、いまどきの若い修斗（Tシャツ？）ファンには〝？〟だったような感じもあり、会場がやや冷えてくる。そして問題の巽vsノゲーラ戦で会場は一気に冷えきる。ノゲーラは試合を動かそうとしているが、巽が守り中心なので試合は動かず、ノゲーラが寂しそうな顔したように見えた。

セミの宇野vsペデネイラス。これも試合がなかなか動かず会場が冷めきり気まずい雰囲気に。3Rにやっと試合が動くも時間なくドロー、宇野残念。

そんでメインのマッハへ、爆発してくれと皆の期待が浴びる。これも途中からダレた雰囲気になるも、最後にはキッチリ決め、いちおう爆発させてくれた。

今大会振り返ってみれば、やはり真のプロと言えんのはルミナとマッハだけなのかという現実。あと5人ぐらい、ルミナやマッハ級のプロが現われれば凄いムーブメントを起こすような気がします。

あと猪木アリ状態で、なぜ桜庭だけはあんなにうまく蹴れるんだろうと、つくづく思いました。

はなくまゆうさく■3月の清志郎トリビュートライヴ。陽水と「帰れない2人」、アッコちゃんと「ひとつだけ」デュエットしてほしいでちゅ。

謎の刺青女子ファイターの

エンターテイメント・レスリング・コラム

プロレスを見て女にモテろ!!

文・杉作J太郎

四十八手の八『やまんばの花』の巻

FMWのエース、H.コギャルファッションに身を包んだスーパースター。ま、コギャルという言葉も最近では古いけど。だが、WWFのゴッドファーザーを見てもわかるよーに、古さを煮詰めるとそれは案外新しかったりするものなのだ。Hのコギャル路線、俺は大賛成ですよ……と言いたいところだが、ファッションだけならともかく中身までコギャルだったりするのがHのHたる所以。クリスマスイブ当日の早朝、俺は携帯電話にメールが届いたことを知らせるミュージックで目が覚めた。ちなみに着信音は『ロー・イズ・ウォー』のアイキャッチ音楽。そこにはクリスマスを祝うメッセージが。どこのかわいいねーちゃんからだろうと喜んで飛びおきたら。ガ〜ン！『Hより』の文字が。どうかしてるよ。おかげでクリスマスイブ当日は猛烈な睡眠不足で一日を過ごさねばならなかったが、ま、今となってはいい思い出でも悪い思い出でもない。それが人生ってやつだ。ちなみにHのコギャルファッションだが、コギャルはコギャルでも俗に言う〝やまんば〟ってやつだ。ガングロにブルーがかった銀色の長髪。いや、長髪だったよね、最初は。ハヤブサからHに変身した頃には。それがある日、突然。例のショーン・マイケルズがやってきた横浜アリーナ大会の当日だが、バッサリ髪を切って微妙な短髪で現れた。

「うわ〜、なに、それ……！」

人間バズーカ・高野俊二がある日突然、高野拳磁に改名したときもビックリしたが、これもビックリしましたね。微妙な白髪の短髪……まず思い出したのは『新・巨人の星』の星一徹だったのであります。しかしHは髪を切った理由をハッキリ語りはしなかった。ファンの皆さんも不思議に思われたりしたんじゃないですかな？

で、その後。各方面から入手した情報によると、これも推測の域を出ないのではあるが、繰り返し繰り返し髪を染める間に髪質が弱くなってしまい、ブチブチ切れはじめてしまった。その結果が今の短髪らしいのである。

このことからもわかるように、俗に言う〝やまんば少女〟たちも、一見脳天気に髪を染めたりしてはいるものの、そこには犠牲が伴っていたりするのである。一概に〝やまんば〟みたいで気色悪いと言うのは簡単だが、犠牲を払ってまで自らの美意識を遂行しようとするその姿勢は賞賛に値するのではないか？

もちろんその美意識が特殊であればあるほど、人は疑問を抱くだろう。

「なぜ、なんのために？」

それに答える必要はない。また、答えたとしても聞く必要はない。尋ねて、答えて、聞いて、理解して。その瞬間に現象は色あせる。

今回は難しい話になってしまったが、たまには難しい話もいいもんだ……なんて言ってる自分がなに書いてるかわからなかったりして。気分、気分だよ。この世は気分！　男と女の道も気分第一だと一応まとめておこう。

すぎさく・じぇいたろう■1月31日、新宿ロフトプラスワンで9ヶ月ぶりの定例イベント　杉Jのボンクラ学園　を開催します。WWFの話とかする予定はあくまでも予定。入場無料。問い合わせTEL、03−3205−6864.

すべての業深きプロレスラーたちに幸多かれ！

捻ポルシェ（ロマンポルシェ）の

業☆勝ちます

「今年は辰年、ドラゴンです！」と1・4のTV放映の冒頭、気になる試合の模様をさしおいて、いきなり〝俺の年宣言〟をブチ上げた藤波。だが、その割には新日vsUFOタッグ対決の無効裁定時にも10・11同様、リングインするなりただオロオロするだけで、結局は闘魂棒片手の猪木に全部持っていかれるいつも通りのドラゴン……。辰年とは藤波の藤波たるべき部分（呑気＋ダウナー＋逆うらみ）が、より倍増した年だと再確認した次第である。

そんな飛龍社長漫遊イヤーの年頭を飾るにふさわしい新春トークが『TVブロス』誌に載ってて、これがまた凄かった。浅草キッドに「社長業はいかがですか？」と聞かれて「いや〜、まだ本人は社長の自覚が全然ないんですよ（笑）ハハハッ」と答え、新年一発目から周囲を苦笑いの渦に巻き込む飾りものっぷりをまず発揮。だが、やはりこの男、タダ者ではない。この半年間を城の写真整理に費やしていたのではないことは、新日のバーリ・トゥード対策を尋ねられたとき、明らかになる。「なんでもありに打って出る為の別動隊を作る」と宣言！　新日内部に既にそういった動きはあるのか？　との問いかけに「それは内緒（笑）」と笑ってゴマかしているが、じつはもう既にその計画が動き出していることを俺は知っている。しかも正式な会社登記まで済ませて……。

そう！　それはピーターことミスター高橋が社長を務める新日本プロレスセキュリティ（株）に他ならないのである!!　「引退後のレスラーの受け皿」として設立した警備会社」と謳ってはいるが、今すぐ定職もなくそこいらでプラついているレスラーくずれを頭数揃えるのは逆に至難の業。となれば、あぶれレスラーを多数かかえる新日本本隊から出向名目で引っ張ってくるのがてっとり早い。新日本の冠をつけたままなのでレスラーのプライドも保つことが出来、かつ警備の仕事がないときは警護のための格闘技術の練習三昧。結果、バーリ・トゥード部隊というよりは、どこかで見たようなスーツ姿の格闘技がもうひとつ出来上がるんだが、まあ藤波からしてみりゃ似たようなもんだろう。

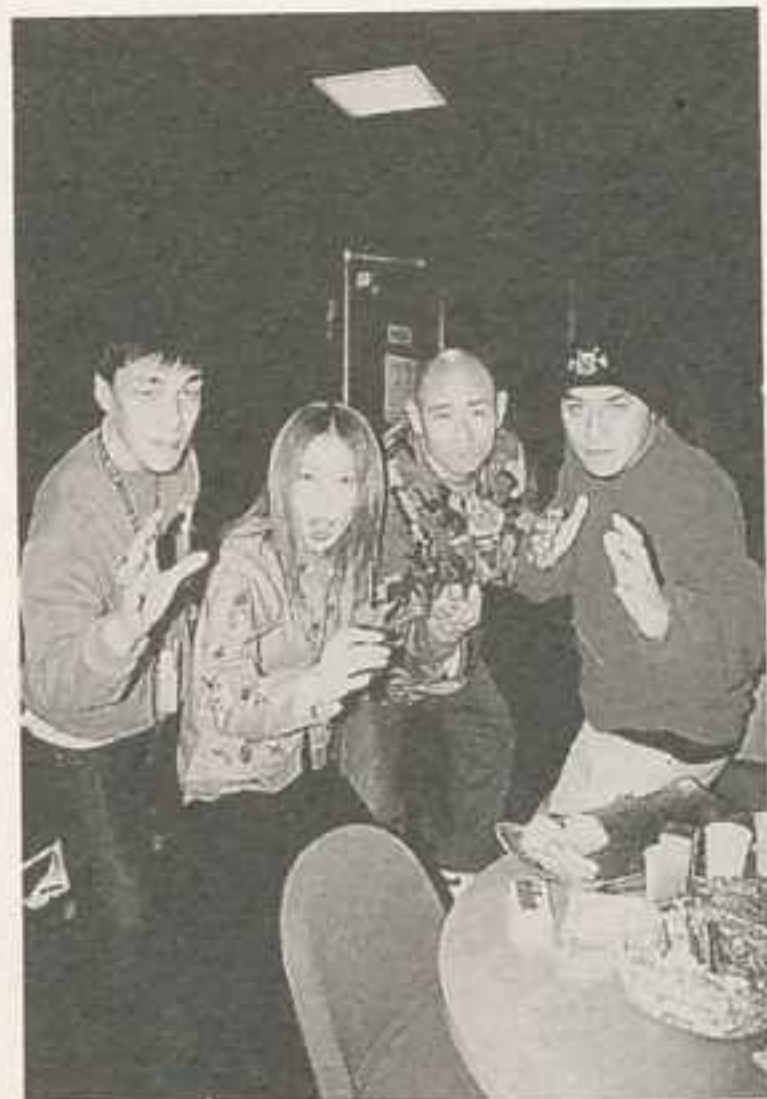
では、この新日別動隊には誰が適任か？　先日行われた研修合宿の参加条件を元に考えてみると、まず「身長175センチ以上の格闘技経験者」ということでジュニアの連中と、サッカー部兼暴走族出身の蝶野が脱落。「茶髪禁止」のために小島、天山がアウト（後藤と小原は茶髪じゃなくて金髪なのでOK）。「非喫煙者」というのは、いくら人気があっても大仁田はダメだという意志表示だろう。こうして最終的に出来上がった顔ぶれが、何故か平成維震軍と酷似しているのは気のせいなのか……。そういえば彰俊を最近見かけないなと思ったら新日セキュリティー所属のバーリ・トゥーダーとして復活！　なんてことになったら、俺はそれだけでもドラゴンの才覚を買うので、藤波社長、ひとつよろしく。

おきてぽるしぇ■ヒクソンvsやくみつる、おっと船木戦が決まったが、ブラカ相手にしょっぱいドローやったのも「ヒクソンを油断させるため」だと思ってるので俺的にはオッケー！策士・船木　そんくらい考えてて当然である

「キング・オブ・キングス」

SPACE SHOWER TV

マタハリ パワフル実況中継

文／坂井ノブ（亡霊）

最近、『紙プロ』が、なぜかオシャレ化しているらしい。
騒舟會の宇野薫選手の情報によれば、宇野選手とも親交のある藤原ヒロシさんやNIGOさんまでもが、『紙プロ』を読んでいるそうだ。是非、スモーノブの記事を読んだ感想やジャイ子について感想を聞いてみたい。おそらく修斗が震源地と思われる〝音楽とプロレス&格闘技のリンク〟という波が、昨年は『紙プロ』までやってきたようだ。
現在、音楽専門CSチャンネル・スペースシャワーTVに〝犬殺し〟でおなじみの本誌鬼畜編集長・山口日昇がなんと！　レギュラー出演しているのだ。そこで一体何が行われているのか？『紙プロ』読者のあなただけにこっそりと教えます！（なぜこっそり？）

【『押忍！　紙プロ道場』って何？】
プロレスもよく観に行くというピエール瀧さん（電気グルーヴ）と、プロレスはまったく知らないけどムチャクチャかわいい小日向しえちゃん（『鮫肌男と桃尻女』のヒロインさ）が司会進行を務める音楽バラエティ番組『マタハリ』。その中に、なぜか「押忍！　紙プロ道場」というコーナーが昨年7月に誕生した。以来、月一回ペースで現在も続いている。
ものすごく簡単に言ってしまうと、日本が誇る超有名（ときには無名）なプロレスラー or 格闘家を紹介していくコーナーである。しかし、ただ有名な人を呼んでいるわけではない。『紙プロ』の基本理念である「強くて・凄くて・面白い」人たちを紹介していく濃密な空間なのである。そのコーナーのホスト役として本誌鬼畜編集長が登場しているのダドン（瀧さんのパクリ）。

【どんなレスラーが出てるの？】
ハッキリ言って、ここに出てくるプロレスラーは、『紙プロ』が自信を持って世間にお送りする、度肝を抜くほどゴージャスかつデンジャラスな人ばかり！　生放送という枠には収まりきらないスケールのデカい凄玉揃いだ。
何しろ前田日明兄さんなどは、楽屋に入るなり「今日、何？　ラジオ？　TV？　あっ、そう」と爆弾ボケをカマしたという伝説がある。「TVもラジオも関係ないやん」といわんばかりの肝っ玉の座り具合。
他にも「プロレスラーは芸人なんだよ！」とばかりにオーバーアクションで客の心をガッチリ掴むサスケ社長や、渋谷のオシャレキッズを前にして「押忍！（敬礼）」の精神を語る佐山聡先生など、素敵すぎるシーンが毎回見ることができる。
いちばん最近に登場したゲストは『PRIDE.GP』参戦も決定したアレクサンダー大塚だ。『PRIDE.8』のvsヘンゾ・グレイシー戦直後だったこともあり、大好きなおやつを我慢していたアレクにはスタッフから大皿一杯のシュークリームがプレゼントされた。こうしたプロレス心溢れる演出もナイスなら、アレクもシュークリームを頬張りながら「次の『PRIDE』ではボブチャンチンと闘いたい」と、堂々の対戦希望をやってのけた（そしたらホントに実現！）。司会の瀧さんも、「ガチンコもやるし、パーマンもやるし、エンターテイナーって感じでいいですね！」と大絶賛だヌ～ン（瀧さんのパクリ）!!

【ピエール瀧さんに聞け！】
「あんまり詳しくはないんですけどね、マニアの友達に連れられていろんな会場に見に行きますよ」という司会のピエール瀧さん。「最近はガチンコ系ばっかり見てますね」というだけあって『PRIDE』に注目しているそうだ。
特に『PRIDE.8』での桜庭の勝ちっぷりには、「スカッとする勝ちっぷりでしたよね。バカーンって足を蹴ったときに『お前、いま痛がっただろ？　痛てえだろ？　余裕ぶっこいてんじゃねえぞ』『いや、痛がってないよ』『ウソ？　いま痛がったじゃん！』っていうやりとりが凄く面白くて（笑）」。
そんな瀧さんの注目ファイターは？
「ボブチャンチン！　あのパンチは怖い！」とのこと。「アレク選手が闘いたいって言ってたけど、あれは勝ちっぷりももちろんだけど、自分の負けっぷりまで想像してるでしょ（笑）。そういうところに出て行くから偉いなあ」とアレクにも感心した様子。
また、ガチンコ系だけではなく純プロレス系の団体でもマニアックなところまで足を伸ばしている。
「DDTも見に行ったりしますよ。宇宙パワーと仮面（シューター・スーパー）ライダーが若手をひたすらボコボコにする試合（笑）。あれは新しいですよ。あと二瓶組も！」と、素敵すぎるスタンスのプロレスファンだった。
音楽番組でプロレスを扱うことについても、全然抵抗感はなく「ボクはいろんな人に会えて、嬉しいからいいんですけどね。お客さんとテレビの前の人がどう思うか知らないですけど（笑）」。そんな瀧さんの好奇心が『押忍！　紙プロ道場』を支えているのだ。
いつも「押忍！　紙プロ道場」では最後にしえちゃんがゲストに「強さとは何か？」という質問をぶつけているのだが、その質問を瀧さんにぶつけてみた。瀧さんにとって強さとは？
「ビビらずに、クール！　ということですね。だから、やっぱ桜庭ですよ！」。
ちなみに、この日の収録で、桜庭の顔写真を見て「この人、弱そうですね」と爆弾発言をブチかました神をも恐れぬ人がいた。それが、もう1人の司会、小日向しえちゃん!!
プロレスを知らないからこそ言えた台詞であろう。だが、ひょっとしたら、しえちゃん、ムチャクチャ強いの？　あなたも『マタハリ』を見て確認してほしいのだヌーン。（3度パクリ）

本誌鬼畜編集長が月に一度生出演するこの番組で何があるのか？

こんな豪華なゲストが来る!!

緊張気味でファイティング・ポーズを取る３人と、あくまでも動じないダンディーな日明兄さんの素敵なショット。ただごとではない緊張感が写真の中からビンビンに伝わってくる。

掣圏道の佐山聡創師にもゲストとして来ていただきました。武道の先生だけあって、ビシッとスーツです。もちろん控室には、スタッフの粋な心配りによってお菓子の差し入れが……。喜んで頂けたようです。押忍！（敬礼）

この日の収録で、アレクはアイス『ガリガリ君』の懸賞に応募→見事当選→電気グルーヴのCDをゲットしていた衝撃の事実が発覚！　ちなみにアレクは、控室でもおいしそうにシュークリームを食べていました。

マタハリはこうして見ろ！

毎週火曜日19時～、スペースシャワーTVで絶賛放送中！　ただし、山口日昇が登場するのは、月に1回なので要チェック！　生観覧も可能なので、見たい人は放送当日に『タワーレコード　渋谷店』に集まれ！　次回の「押忍!紙プロ道場」の収録は1月25日です。

謎の刺青女子ファイターの

賢い野蛮人のマネージャー日記
もうひとつの大和魂
ブナニ酒井（E-FORCE JAPAN）
第9回　ビルの向こうの100万円

「昨年は、あまりいい1年じゃなかったでしょう?」去年末から今年にかけて、インタビューでそんな質問をされることが多いです。確かに試合でいえばアンラッキーな年でした。拳の骨折もあったし、vsマーク・ケアー戦が2回も流れてしまったので。

でも、エンセンはそんなとき必ず「そんなことないヨ! いい年だったヨ!」と言っています。

別に強がりでも何でもなく、いい1年だったと、ボクも思います。こういったトラブルの多い時期に、声を掛けてくれた方、心から応援してくれた方が多く本当にいい出会いの多い1年でした。『紙プロ』のスモーノブさんにも、いろいろ励まされました。

エンセンはよく言っています。「ホントに苦しいときに、その人間の本当の部分が出てくるヨ。ホントにつらいときに大和魂が試されるネ」。だからエンセンは〝一番勉強になった試合〟として、VTJ'97のvsフランク・シャムロック戦を挙げます。「勝ち負けよりも大切なことがあるヨ」とのこと。去年は学ぶことが多かった年でしたが、スーパー前向きなエンセンはこれぐらいでは決してヘコミません。

インタビューでの発言や試合後のコメントなどを見て、超ポジティブなエンセンの声を聞きたいと言ってくれる人も多く、最近はトークショーに呼ばれる機会もすこしずつ多くなり、去年の12月25日、26日も札幌でのトークイベントに行ってきました。特にイベントを主催しているスポンサーの方や企業の社長さんなどが、エンセンのスーパー前向きな姿勢を気に入ってくれるようです。「ゴルフのパットがどうしても入らなくて」といったものから、「失敗したときのリスクが怖くて、どうしても事業に乗り出せない」といった悩みまで、様々な相談をエンセンにぶつけていました。そんなとき、エンセンはこう答えます。

「たとえば、高さ100mのビルとビルの間に、幅50センチを板をかけたとするネ。落ちたら死ぬけど、渡ったら100万円もらえる。地面に板を置いたら平気で渡れると思うけど、『下に落ちる』と思うと本来の動きは出来ないはずネ。大事なのは恐怖を塗りつぶすこと」

「闘う相手が悪魔でもスーパーマンでも、勝つ可能性が1%でもあれば集中して思い込むことヨ」

「ハードな練習で流れる血は赤い汗だヨ。赤い汗を流さないと練習じゃないネ。アザの青い皮膚を作らないとダメ」

こういったエンセンの言葉は、実際にvsケアー戦に向けてやっていることなので説得力十分です。社長さんたちも、「それが出来ないんだよな」と納得していました。

そんなわけで、ケアー戦はもう目の前です。今回も試合前には遺書を書いて、「死んでもいい」という気持ちで試合に臨みます。ちなみに遺書の場所は私しか知りません。えっ? 場所ですか? 金庫とかじゃないですよ。思わず笑っちゃうぐらい〝かわいい場所〟ですね。それぐらいしか言えません。

NO. 20に掲載したエンセンの車を買ってくれる人募集で、愛知県の井本さんに買って頂けることになりました。喜んで使って頂いてるみたいです。

ぶなに・さかい■最近は修斗君のマネージメントも大忙しです。先日は、朝からHして、昼はアグレッシブ・ドッグス（マーキュリー）というバンドのジャケット撮影に参加。修斗君は車の中でウンコをしてしまうぐらいの過密スケジュールでした。

ジョージ高野復活への道
わかおはるかの
Mulatto Arts H.I.T
THE・ジョージ秘宝館
「本当のホントの話」の巻

※ライガー様へ※
わかおはギャグ漫画家なので、やむなくこの様な絵を描いております。
お許し下さい。
ステキ♥

今、新日を無期限離脱中のライガー選手が、「ワールドプロレスリング」の放送内でIWGP・Jr.の、偉大なる歴史を話してた。IWGP・Jr.がどれ程すごいタイトルなのかを、vsカシン戦の後に語ってた。そしてそこには、様々なチャンピオン達の名前が出てたけど、さりげなく一言「コブラ」という名前がライガー選手の口から出た。実際は、一度もIWGP・Jr.をコブラは巻いてはいないんだけど、嬉しかった。なんだかとっても嬉しかった。IWGPの偉大な王者のライガーがコブラを口にしてくれた。心から本当に嬉しかった。

ジョージさんはそんなこと知ってるんだろうか? ジョージさんはコブラ当時の歴史にも、新日からレスラーとしてデビューしたジョージ高野という歴史にも、とっても鈍感だと思う。一度でもファンに夢を与えたら、ファンに対して、レスラー仲間に対して、その責任は最後まで取るべきだと思う。ジョージさんは今でも、これからもコブラでジョージ高野なんだからさ……。

さて、前回の紙プロ（NO. 22）が出た後、ジョージさんが、とある選手との対戦について、イトコの高野十座と打ち合わせしてた。今のところ、オファーは2ヶ所、どちらもメジャー団体じゃないけれど、ありがたいことだし、ハートの良い選手達だから考えてみるべきだと十座に進言されてた。けど、結局電話から漏れ聞こえて来たのは「肉送ってくれヨー!」の一言。大声で怒鳴っている。十座が「へーへー」と又、気のない返事。紙プロから、このコラムの原稿料出たらお肉、送りたいんだけど、まだ一度ももらえないんですぅ〜! どーなってんのよォー! スモーノブ!

……という事で前回の続き、ジョージさんが相撲から新日入りするまでのお話……。以前、とあるプロレス本の中でジョージさんの弟さんのプロレス入りまでの話が出てたので、十座に聞いてみた。「弟さん、プロレスの修業の為に渋谷から新宿まで裸足で走ったんだって? その本に書いてあったけど、ジョージさんはどんな修業したの?」って。そしたら十座、

「へ? 走ったのはジョージ兄さんと俺だけ。高野家の中では他には誰も走ってない。」

「じゃ、弟さんのあの本の記事は?」

「それは間違いだ。あいつは走ったことも練習したこともない。本当のホント」だって。ところで何でアンタが走ってんのよ、って思ったけど。おかしいぞ? 2mの弟さんは走ったって本に書いてあったのに……。

どーやら、真実は他にあるようだぞ。私、じっくり聞いてみたくなった。ジョージさんに本当のことを喋らせせようか! 以降次回! 心して待て!!

新日Jr.、二人の雄。珍しい写真。とある大学の講演会で。コブラのマスクを購入希望の方は、ムラトー・アーツ・ヒットまでリストをご請求下さい。対初代タイガーマスク（神宮球場）戦マスクが一枚だけあります。他、ジョージ高野やコブラへの質問を募集。当コラムで採用された方には、二人の寄せ書きサイン色紙をプレゼント！　質問の宛先は、紙プロ編集部内「ジョージ秘宝館」まで

わかおはるか■ムラトー・アーツ・ヒットの命を受け、ジョージ高野のコラムの担当させられた漫画家。本当にあった愉快な話 Vol. 32（竹書房）でプロレスネタを一本描きました。絶対見てね！尚、F.S.R. はムラトー・アーツ・ヒット（TEL. 03-3559-3358）に東京での連絡先を置いている。

「キング・オブ・キングス」

初代『紙プロ』編集長（ダミー）原タコヤキ君（人気者）Presents

紙のプロレスWEST

HARA.TAKOYAKIKUN A.F.O.

AFOイラスト／井上きびだんご
illustration by Kibidango Inoue

原タコヤキ君――版型が小さかった頃の『紙プロ』時代、新入社員から最高のスピードで出世を遂げ、編集長にまでなった男（ダミー）である。現在は在阪の某TV局で仕事をし、夜な夜なモデルや人妻と楽しい合コン三昧の毎日だという。そんなタコ兄さんに大阪での「世の中とプロレスしてる」出来事をレポートしてもらうっちゅーわけやねん。ほな、いくで!!

まいど、タコヤキ君でおま！

いきなりだが、これだけは書かせてもらうぞ。

オレのどこが鳥取県やねん？

前号の大西タマリンの日記を思い出してもらいたい。そう、「タコ兄さんは鳥取出身」というくだりである。

タコヤキ君鳥取出身疑惑――！

「あんなベタベタな大阪弁を喋る大阪人はいない」

「大阪駅の構内で迷子になっていた」

などと、絶えることのない事実無根の噂の数々。いや、それくらいなら笑って済ますがな。でもな、〝ジャイ子よりちょっとマシ〟程度でのし上がってきたタマリンごときがタコ兄さんについて語るなんて10年早いわ！　耳の穴に手ぇ突っ込んで奥歯ガタガタいわしたろか、ワレ、である。

というわけで、大阪生まれ『紙プロ』育ちな僕が、大阪で行われる色んなイベントに首を突っ込んで、大阪とプロレスを高い次元で融合させるのが、このコーナーの目的である。

栄えある第一回は、いまや格闘家の再生工場としてすっかり有名になったケビン・ヤマザキさんのフィットネスセミナーである。取材日は（99年）12月19日。取材場所は新大阪駅のすぐ近くの某専門学校。年末の渋滞のせいで、早めに自宅を出たにもかかわらず、思いっきり遅刻する。そっと教室のドアを開けると、いやビックリした。ギッチギチの満員！　70人の定員で実際には100人近くが参加したという。内15名がわざわざ名古屋から来たというのだからこれまた凄い。

さて、どんな人らが参加しとんねやろと周りを見渡すと、ほとんどが学生。というか全員学生。で、見るからに純度100パーセント体育会系。目がキラキラしてる。眩しい。なんかこう、僕の心の奥底で渦巻くどす黒いものが過剰に反応してるのがわかる。

ま、それはええけども、後でスタッフに聞いたところによると、将来トレーナーを目指す学生向けに開かれたセミナーだという。テーマはズバリ「フィットネスとは何か？」。スライドにはH_2OだとかNH_3だとか、懐かしい記号が並んでいる。このセミナーがどうにも格闘技とは直接関係のないことを改めて理解する。

引退試合を控えた前田日明や『PRIDE.5』直前の高田延彦が肉体のメンテナンスに訪れ、一躍〝ケビンさん〟の名がファンに広まったわけや

第1回 シアトルの怪物 ケビン・ヤマザキさんが 大阪にやってきたでぇ〜!!

山口日昇に「ケビンさんは爆発的に面白いぞ！」と言われていたので、どんなギャグが飛び出すのだろうと期待していたが、そこそこウケてはいた。しかし、ここは〝笑いのメッカ〟大阪。タコ兄さんのダジャレの水準はムチャ高いので、ケビンさんのギャグと、「爆発的に面白いぞ！」という本誌鬼畜編集長の言葉との間にギャップを感じたことは正直に書いておこう。ケビンさんの本質的な面白さは別のところにあると気付くのは、もっと後のことだった。

夕方4時、約3時間の講義が終了。いよいよインタビューである。場所は新大阪駅構内の喫茶店。こ

謎の刺青女子ファイターの

こからが本番。取材続行ーッ！　そもそもケビンさんは関西学院大学のアメフト部経由で、「武蔵、佐竹の体重を10キロ増やして、それでスピードもつけてほしい」と、K－1からモンスター・ファクトリー計画を任されたところから始まった。そこからはもう、みなさんご存じの通り、瞬く間にシアトルが格闘家たちにとってある種の駆け込み寺と化してしまったのである。

ここからケビンさんの元を訪れた、様々な選手について聞いてみる。

まず、日明兄さんから。

「大変失礼な話だけど、あんなに有名だなんて知らなかったですよ。だって、シアトルに来られる時も、TKの社長が来るって聞いただけだったから。前田さんに『オッケー、レッツゴー！』なんて指導してたらTK、冷や汗かいてるんだもん（笑）」

じゃあ、実際の練習ぶりはどうだったのだろう。

「一言で言ってやりすぎ！」

お得意のオーノーポーズで言い切ったケビンさん。ここまで話していて思ったのは、ケビンさんは、アメリカ人以上にアメリカ人っぽいということ。日本に長く住む外国人が日本人より日本的な美徳に敏感になるような感じ。だからといって、僕が大阪人より大阪人らしいのとは無関係である。いやホンマ。

続いてTKについて聞いてみた。僕なんかイメージとしては、ケビンさんとTKは相当に密な関係だと思っていたのだが、

「トレーニングをしたのはルッテン戦（99・1UFC）と今回（KOKトーナメント）だけ」

とのこと。意外。逆に共に汗した回数が多いのが佐竹。

「もう5回も一緒にトレーニングしてますからね。佐竹さんも最初は日本人だったけど、2回目からアメリカンになった。とにかく彼は日本に帰ってからのメンテナンスがうまい。食事も練習もちゃんとメニュー通りやってるから、次にシアトルに来た時も、すぐに新しいことができるんです」

特にその潜在能力を評価しているのが極真のF・フィリォ。

「下半身と上半身の神経系の連絡が非常に素晴らしい！　あれで力があるんだから、あとはK－1的な技術だけでしょう」

素敵なオーバーアクションと「イッツ、OK？」の精神で、見る人を元気にしてくれるケビンさん。ゼヒ一度、この人の不思議な魅力を体験してほしいわ、ホンマ。

ここで僕が、

「いや、ケビンさん、そのフィリォは、他の誰よりも非合理的な練習を重ねてきたんですよ。そういうフィリォを、合理主義のケビンさんが絶賛するっていうのが凄く面白いですね」

と言ったところ、ケビンさんは、

「……チューブ・トレーニングはよくないです！」

と、バッサリ（&オーノーポーズ）。でもこのへんが格闘技の面白いところなんです！

ちなみに、今、ケビンさんが興味があるのが田村。

「ワタシの仕事は、選手の体を大きくしてスピードを速くすること」

と言うケビンさんが、田村を〝ケビン・マジック〟にかけてみたいと思うのは当然だろう。やはり田村も神経系の発達が並じゃないらしい。

もうすでに1時間半経過。脳と舌の神経系が並じゃない僕は、このへんで鮮やかにまとめにかかる。

●

――これは聞いておきたかったんですけど、あれだけたくさんの選手と、なんでボーダレスにつきあえるんですか？

「それはみんなと10％のつきあいなんですよ。例えば私生活の話なんてほとんどしない。TKとも一緒に食事したりしたことないです。家に泊まったりなんて一度もありません。だからいつも練習が新鮮なんです」

――そのへんもアメリカンですねえ。じゃあ、ケビンさんが一番嬉しいのはどんな時ですか？

「それは選手が試合の後、インタビューでケビンの名前を言ってくれる時ですよ。極端な話ね、選手が勝っても、ケビンの名前を出してくれなかったら、それ、ワタシは要らないってことです。そうなったらワタシは去ります。ワタシの名前を出してくれて、『ケビンのトレーニングのお陰だよ』って言ってくれたら、またワタシの次のビジネスに繋がっていくんです」

ちっちゃい（でも逞しい）日本人のケビンさんがアメリカで食っていくには、アメリカ人をも納得させるほどの合理主義を身につけなければならなかったに違いない。合理とは理屈であり理論である。ということは、あまねく人々がそれを共有できるはずであり、そこに気合いだとか根性の入る余地はない。

最後に僕はこう聞いた。一緒にトレーニングする選手に、まず何を理解させることから始まるのですか、と。さあどんな答えや。神経系か、H2Oか。するとケビンさんは一言。

「やる気があればあるほど結果は出る！　イッツ・オッケー？」

ズコッ。怒るでしかし！　どこが合理主義やねん！　メッチャオリエンタルやんか。だがケビンさん自身はまるで科学的な枠組みからはみ出した魅力的な人物ということを力いっぱい思い知らされた次第である。ケビンさん、ホンマに面白いっスわ。

ケビンさんは予想以上にたくさんしゃべってくれた。山口日昇相手でもここまで心を開くことはなかっただろう。きっとこれも、ここ大阪という土地がケビンさんを開放的にさせたに違いない。いーやそうに決まってる。そういえばノブは大阪に来たら必ず風俗に行くし、チョロは獣のような目でナンパしまくっている。

みんなが心の鎧を外せる場所――。大阪ってそんな街なのかも。

タコヤキ君外伝

～ひとりの大阪人が編集長になるまで～

ひょんなことから知り合ったターザンを通じて、当時愛読していた『紙のプロレス』の編集部、ダブルクロスとの接触に成功したタコヤキ君。厳正なる入社試験をくぐり抜けた……つもりだったが、いまだに山口日昇、現『SRS』発行人の柳沢忠之は「入れた覚えはねえんです！」と口を揃える。

今号の5つのポイント

其の一　大阪は違法駐車のメッカ。渋滞には注意！

其の二　アメリカ人よりアメリカンなケビンさんは、コーヒーまでアメリカン！

其の三　ケビン式トレーニングは非常に科学的だが、ケビンさん自身は非常に測定不能な人物なんです！

其の四　ガンツは大阪に女がおるぞ！典型的プロレスファン顔のくせに。

其の五　チカン、アカン！（大阪府警の標語より）

栄えある第一回は、いまや格闘家の再生工場としてすっかり有名にな

場所は新大阪駅構内の喫茶店。こ

「キング・オブ・キングス」

特別編

『PRIDE.0』初代殿堂娘　武田いづみの

げんこつ山のパルチザン日記

友達のりょうこが書いた私の似顔絵…。最初「なんだコレ」と思ってたのに見てるうちにだんだん似てるように思えてきました。畜生。

『PRIDE.0』二代目殿堂夫人
（真下家の）キッチンナビゲーター
真下純子の

ちょっと、昼ごはん食べにこない？（残り物）

今号で『99年紙プロ大賞』を華々しく発表しようと思ってたのですが、気がつけば1月も後半戦。こんな時期やさかい、紙プロ殿堂娘＆夫人に99年のマット界をポロンと振り返ってもらいました。

御題目　遅ればせながら、99年のマット界を振り返って下さい！

遅ればせながら、1999年を振り返ります。……プロレス大賞、あれ、どう？　他にも、いろんなプロレスマスコミの「今年の総括」的なものを読んだりすると、どこかで必ず「ちょっと待てぃ」と思う。それはたぶん、私が今、"プロレス内プロレス"に満足してないからだ。

賞というとやっぱり、プロレスの内側で頑張ってる人にあげるものなのかもしれない。確かにそれが本来の姿だ。プロレスラーにあげる賞（もしくは賞賛）なんだから。でも、99年を振り返って、私が本当に「スゲェー」と思えたものは"プロレス内プロレス"には少ない。そう思う自分は、一体、プロレスの何が好きなのか考えてしまう。

各種格闘技や、世間様の「プロレス？　知らない」という状況の圧力で肩身がせまくなっちゃったプロレス。だからって、知ってる人だけ楽しませてればそれでいいのか。もし、「いい」というプロレスラーがいるなら「貴様（失礼）はなぜ闘うのか」と聞きたい。「闘う」って、そうじゃないだろ。

自分のこと支持してくれる人だけに対して何かやるのはわりと易しいし、気楽だ。でも「闘う」って、自分を認めさせるってことじゃないのか。戦争だって、子供のケンカだって、質や大きさが違ったとしても根本は相手に自分を認めさせるための闘いなんじゃないのか。

たぶん、プロレスラーはみんな、そんなことわかってる（と思う）。ただ、自分を嫌いだったり、知らなかったりする人を相手にするのはすごく大変なのかもなぁ、というのは私にもわかる。きっと、ヘタすると媚びているように見えてしまったり、空回りしてしまいやすいだろう。

でも、やっちゃってください。それを見たいんだから。

あと、プロレス外でそれをやった人も公に評価してあげて欲しいなと思う。ね？

99年、"プロレス内プロレス"で心躍らせて頂いたのは佐野なおき選手。バーリ・トゥードでいろいろ言われたけど、プロレスやったら「やっぱ、スゲェー」でした。それ考えると高田道場って、スゲェー。あと、MVP（most valuable place）はシアトル。最近また前田vsカレリン戦をビデオで観なおしてそう決めました。シアトルという場所にすこぶる近代的な、新しいタイプの幻想が持てたような気がします。ケビンさん、グレイト！　しかし、2000年のMVP（上記の意味での）は新日道場だといいなとやっぱり思ってしまう新日っ子（昭和派）。1・4、新日の現在の道場長はどうだったんでしょうか。

同じ千葉県民として大刀光を応援します!

大刀光、『PRIDE』参戦!?　マジッすか〜!?　まさにドリームステージ。大刀光の入場テーマ曲は「THE DREAM」。夢★あります。そういうわけで大刀光選手と同じく千葉県民の私も全面的に応援させて頂きます。どんな試合になるのか…、つっぱりで失神KO?　裾取りでテイクダウンなんかもステキ♡　しかし、実は私、ネイティブ千葉ーバリアンではないのです。出身地は孝乃富士（安田）と一緒で〜す。相撲、最高でーす!

P.S.　がんばっていろいろ考えてはみたものの、あまり思いつかず見当ちがいに主張してしまいました。もうひとつぶっちゃけると酒飲みながら書きました。ごめんなさい。武田いづみ（下戸）

「オバハンの日記なんかちょっとでええねん！」ということで今回は「99年を振り返って下さい」とお題を出していただきました。黒豆を煮つつ99年を振り返り（コレ書いてるの年末）、印象に残った選手に賞を差し上げて褒め称えようと思います。でもアルツが進んでいるのでほんの数ヶ月前のこともおぼろげです。頑張って思い出します。

私の心のMVPは小路晃選手です。

名古屋で初めて行われたPRIDE5で生で初めて小路選手を見ました。対するはボブチャンチン。私はこの美しい肌のふたりの殴り合いにしびれっぱなしでした。善戦するも判定負け、楽しみにしていたマイクもお預けでしたが、生の小路選手（含・ステキなセコンド陣）を見た嬉しさを未だに引きずっている私です。99年、小路選手の鮮やかな勝ち試合は残念ながら見ることはできませんでしたが、その分、今年は大いに期待したいと思います。どう反応しようか一瞬迷うマイクにも大期待です。私にとってPRIDEは「小路祭り」なのです。今年も頑張って下さい!!

見事、マシジュンさんの心のMVPに輝いた小路晃選手。通りすがりのおばちゃんと記念撮影じゃあ！

さて、PRIDEといえば桜庭和志選手。ウチの娘は福○館の絵本を読み育った善良な小学生です。当然殴り合いを見るのは好きではなく、私がビデオを見始めると「またですかお母さん」と顔に書きます。そんな娘ですが、桜庭選手の「炎のコマ」には大変興味を示しました。加えて桜庭選手のあの笑顔は子供心にもなにか受け取るものがあるのでしょう。にこにこ飄々と強豪を倒す姿はなんとなく絵本に出てくる主人公的です。学校の体育館で友達と炎のコマをかけ合うような娘に育って欲しいと願いつつ、桜庭選手には「真下娘賞」をお授けしたいと思います。今年も頑張って下さい。

大好きな小路選手のPRIDE初黒星を付けたイゴール・ボブチャンチン選手。注目するきっかけは、やはり小路選手とのPRIDE5でした。あの時は彼の奥目が憎くて憎くてたまりませんでしたが、今ではもう私にとって目の離せない存在です。すんげぇ強いんですもん。マーク・ケアー戦でのまぼろしのTKO。あんなしょぼしょぼしたケアーを見るのはとても衝撃でした。それ以上にチャンチンの強さに二度ビックリです。そしてブエノ戦。あのような「木〜が倒れ〜るぞ〜」なKOシーンは久々に見ました。倒れてる最中にも2発お見舞いしてるし。おっかないったらありゃしません。今年のPRIDEは「ストップ・ザ・チャンチン」が裏なるテーマではないでしょうか？　エンセン選手、ケアーよりチャンチンとやって下さい。というわけでチャンチン選手には「一撃賞」をお授けします。あるいは「美肌賞」。

と、気が付けばPRIDE出場選手ばかりになってしまいました。パートの面接で「好きな番組は？」と聞かれ、「ワールドプロレスリングです」と答えて落ちたことのあるわたくしなのに。

それでは「流行語大賞」は「ビールがないぞビールがビール持ってこいビール」に致します。これは「箸がないぞ箸が箸持ってこい箸」とかアレンジが利き、家庭内で一時期流行りました。あの時の後藤選手と小原選手のおふたりは本当に嬉しそうでした。嬉しすぎてオロオロしているレスラーを見る、というのも珍しい経験でした。私は彼らのような、見ている人に夢を与えるようなことをしないプロレスラー（超失礼）が大好きです。今年もあの太陽の似合わないふたりがキャッキャと喜ぶ姿を見られるでしょうか？

なんかもっといろいろあったような気がしますが、脳細胞が片っ端から死んでいくので細かいことが思い出せません。今は「PRIDE GP」で上京する際、何を着ていこうかと頭がいっぱいです。

P.S.　真下家ではスカパーに加入しました。SAMURAIばかり見ています。ゴールドバーグにうっとり。以前から見たかった大日本の蛍光灯のヤツを見ることができましたが、どうも蛍光灯を見ると年末の大掃除を連想してしまい気分が曇ります。私は……高阪フミになりたい！　真下純子（鬼嫁）

謎の刺青女子ファイターの正体は元LLPW多和田初美だった!

プロレスでも格闘技でもいい!流血試合がしたい!!

聞き手／吉田豪
interview Go Yoshida
構成／チョロ
text by Choro
撮影／NAHOMIX
photograraphs by nahomix

デビューからわずか4ヶ月でLLPWを昼逃げした女・多和田初美。金髪・刺青・ピストルズ、彼女がマット界に残したインパクトは多大なものがあった。本誌・吉田豪も『悶絶！プロレス秘宝館』において2回連続「多和田初美物語」を執筆するほどである。一時期はキックに打ち込んでいたという多和田だが、現在ジムにその姿はなかった。そんなとき、読者の市橋さんから「多和田が働いていた焼鳥屋を知ってる」という貴重な情報を入手。その焼鳥屋に向かうと、社長さんが店まで多和田を呼び出してくれたのだ。やっと彼女に会えました。

多和田初美
HATSUMI TAWADA

——ボクは『悶プロ（悶絶プロレス秘宝館）』っていう本に二回連続で多和田さんの原稿を書いてるんですけど、それぐらい本気で探してたんですよ！

多和田　ありがとうございました（笑）。

——どうやら高円寺に住んでるらしいっていうのはわかったんですけど。目撃情報とかもあって（笑）。

多和田　目撃されてたんですかぁ（笑）。

——多和田さんに最初に注目したのは、やっぱりこんなに音楽の匂いを感じさせる女子レスラーはいなかったからなんですけど、もともと女子プロをやろうと思ったきっかけって何だったんですか？

多和田　やっぱり一番最初はクラッシュギャルズですね。

——それはパンク繋がりで、クラッシュが好きだったからですか（笑）。

多和田　いや、それは小学校の時で。中学に入ってからは普通に悪いことやってましたね。

——ダハハハハ！　満遍なく悪いことやってたわけですね（笑）。音楽に目覚めたきっかけは何だったんですか？

多和田　やっぱ最初はバンドブームで、普通にレディースバンドみたいなのを組んで、そっから付き合ってた彼氏の影響とかでパンクが入ってきて、それでそっちに惚れ込んじゃったんですよ。

——惚れ込んじゃいましたか（笑）。刺青は何時ぐらいからですか？

多和田　刺青は高校一年生です。

——早いですね（笑）。LLに入ってからも、しばらく包帯で隠してましたよね。

多和田　隠してました（笑）。

——きっかけを見付けて見せようと思ってたわけですか？

多和田　私はよくわかんないですけど、社長の方からそう言われてたんで（笑）。

——とりあえず隠しておけと（笑）。

多和田　はい。でも雑用で忙しくて包帯するの忘れて試合したこともあったんですけどね（笑）。

——ダハハハハ！　それで、デビュー何戦目かの後楽園大会で、気合いを見せるために包帯を取ったわけですよね？

多和田　……それが気合いなのかどうかも自分ではよくわかんなくて（笑）。

彼氏の影響でパンクが入ってきて、それで惚れ込んじゃったんですよ

——ちなみにLLを選んだのはどうしてだったんですか？

多和田　J（WP）落ちたんですよ。書類審査の段階でダメだったみたいで。「ピュアハートじゃない」って（笑）。

——ダハハハハ！　JWPに応募した写真は刺青が出てるヤツだったんですか？

多和田　はい。普通に水着着て直立不動のヤツを送って落ちたんです。J落ちて、LLダメだったら諦めて普通にバンドやっていこうとか思ってたんですけど。

——普通にバンドで（笑）。バンドで食っていこうと思ってたんですか？

多和田　はい。LLに入ってからも、こっちでメンバー見付けたいとか思って、寮で『DOLL』とか読んだりしてたんですけど。

——ダハハハハ！　メンボで探してたりしてたんですね（笑）。（同行したチョロを指差し）コイツは『DOLL』で恋人募集とかしてたんですよ。

チョロ　いや、ちゃんとメンバー募集してましたよ！　恋人募集もしてましたけど（笑）。でも『DOLL』のメンボで、ゴローちゃんこと多和田初美を発見したのはボクですよ（自慢げに）。

——そうそう、コイツが見付けたんですよ。LLやめてから『DOLL』のメンボに出してたんですよね？

多和田　あっ、バレてたんですか（照）。

チョロ　「当方、Vo。加入希望。パンク全般。イカレた歌すき。暴れるのは自信あり。CRASS？　猛毒？　アナーキー？　なんでもいいねえ。オリジナルやろ。おいらは、元女子プロレスラーさっ。みんな、れんらく待ってるよ」（原文ママ）

——CRASS、アナーキーってやっぱ

これが高円寺を中心に貼られまくっていた、玉生ジムの練習生募集のポスターである。多和田は、このポスターを見かけたら剥がし見かけたら剥がしを繰り返していた。「あんなの貼られたら恥ずかしくて、歩けないですよ！　こっちはパジャマとかで歩いてるのに（笑）」確かにその通りだ。

り左寄りですよね。

多和田　はい。左寄りでしたね。

――突然ですけど、どうでしたLLは？

多和田　LL時代は充実してましたよ、毎日。いまとかはアッという間に一年が過ぎちゃうけど、LLいた頃の一年間は毎日凄い重みがあったっていうか。

――重みが！（笑）。新人2人いたから比較的楽ではあったんでしょうけどね。

多和田　そう…ですね。当時は残ってた同期が青野（敬子）混ぜて3人いて、よくケンカとかしてましたよ。

――殴り合いですか？

多和田　いや、殴り合いはしてな……したかな（笑）。

――ダハハハハ！　入団当初から金髪だったんですか？

多和田　テストの時は、高校生の時で、卒業式間近だから黒に染めろとか言われて、ちょっと茶髪ぐらいだったんですよ。

――高校時代も金髪だったんですか？

多和田　結構コロコロ変えてたんですけど、金髪とかピンクとかしてましたね。

――わぁ（笑）。そういうのは全然問題のない学校だったんですか？

多和田　逃げてました。生徒指導の先生が来て「待て多和田！」とか言われるとダッシュで逃げたりしてましたね（笑）。

チョロ　普通高校だったんですか？

多和田　いや、工業高校です。

――パンクですねぇ（笑）。それで、LLをやめた原因をボクなりに考えた結果、カラオケの時にジュンスカの「レッツ・ゴー・ヒバリヒルズ」を歌って、それを風間社長が気に入って「アンタ、入場テーマこれにしなさい！」っていう事件があったことを聞いたんで、それが原因じゃないかって思ってたんですよ。

多和田　アハハハハ。それ結構いい線いってますよ（笑）。でも、それは直接の理由じゃないですよ。

――数あるウチの一つなんですね。

多和田　なんでジュンスカなんだとか思ったんですけど、風間さんからしてみればジュンスカもピストルズも一緒なのかなって思って（笑）。

――「分かりやすいじゃない、こっちの方が」みたいな感じなんでしょうね。載せられるレベルでやめた原因っていうと何になるんですか？

多和田　（考え込み）根本的にこれっていうのがないんですよ。別に練習ツライのは当たり前で、LLに入ったからには接待とか、付き合いとかそんなの当たり前で、お金もあまり貰えないのも当たり前じゃないですか（笑）。

――なるほど（笑）。もともとプロレスとはどういうものなのかってことは把握してたんですか？

多和田　全くわかんなくって、とりあえず体力付けなきゃって思ったんですよ。誰にも内緒で隠れて部屋にカギ掛けてスクワットの練習したりしてたんですよ。

――別にカギ掛けなくたっていいじゃないですか（笑）。

多和田　いや、親とか兄弟とか友達にも女子プロ受けること内緒にしてて。それで通販とかでよくある3キロとかのリストバンドとか制服の下に付けて学校行ったりしてて（笑）。

――ダハハハ！『リングにかけろ』みたいな（笑）。やっぱり内緒にしてないと恥ずかしかったんですか？

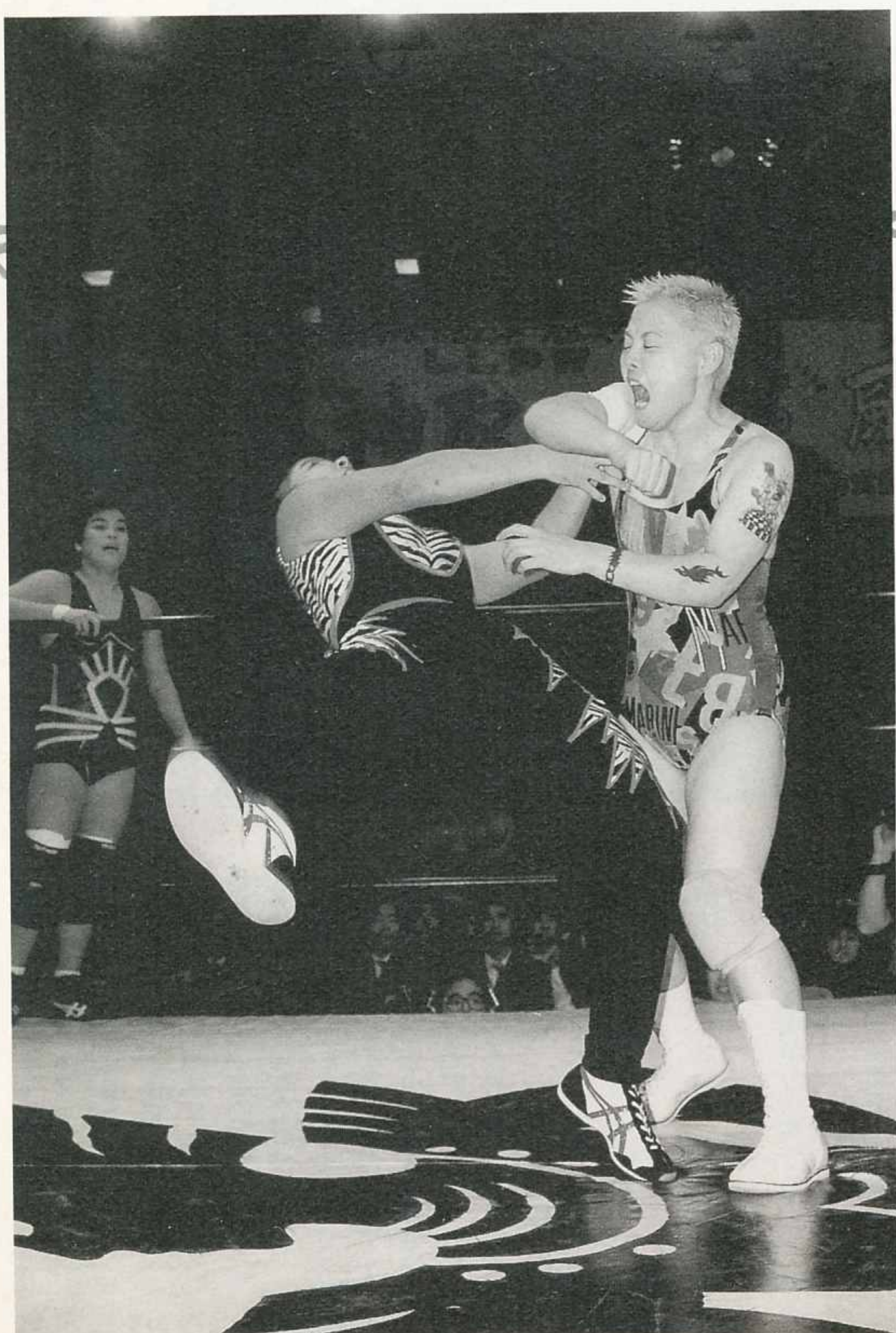
多和田　何かその時は、私はパンクが好きでバンドやってていうので、なんか筋肉ムキムキのバンドマンはカッコ悪いかなって思って（笑）。

――パンクスとしては不健康じゃなきゃいけないって思ってたわけですね（笑）。

多和田　そうです（笑）。

――LLの練習にはついていけたんですか？

多和田　練習はツライなりにもついていこうと思って頑張りましたよ。朝練が基礎トレーニング中心で、それで道場行ってからスパーリングとか技関係になってくるんですけど。基礎体とかは慣れれば何回でもできるじゃないですか？（しみじみと）でもプロレスは難しいですよ。私は先輩に頼り切ってばっかりだったんですけど。自分でなにか見せようとか考えられなかったですよ。すぐに頭パニクっちゃって。

【94・11・9／後楽園ホール】この日、多和田は、神取とキャロルとタッグを組み、ハーレー、二上、遠藤と対戦した。最初はテーピングで隠していた左腕の刺青だったが、遠藤に難クセをつけられると自らテーピングを外しエルボーで立ち向かっていった。その突貫精神溢れるファイトに会場からは「多和田コール」が浴びせられた。試合後、神取は「あの子は私達の10倍は気合いが入っているよ」と笑顔で語った。

――ダハハハ！　その辺はパンクっぽいですよね。細かいことはわかんないですからね（笑）。

多和田　もう、アーッとかなっちゃいそうで（笑）。

――それを出せば良かったんですよ！　LL最後の試合って神取さんのボディースラム二発でフォールされたっていう、あの試合になるわけですか？

多和田　はい。それで２分ぐらいで負けたヤツです。普通カウント数えられてる時って、２、５ぐらいで起きようとかあるじゃないですか？　あの時はアッという間にスリーカウント取られちゃって、ワケわかんないうちに終わって、大向（美智子）さんにビンタ喰らって（笑）。

――タッグパートナーにも殴られちゃったんですね（笑）。メインであの結末っていうのはアクシデントだったんですか？

多和田　何なんでしょうね（笑）。よく覚えてないんですよ。結局自分の不甲斐なさじゃないですか？　見てるお客さんも納得がいかなかったでしょうね。

――プロレスをやめてから試合とかは見てるんですか？

多和田　ナマで見たのはホンの何回かしかないんですよ。あとはTVとか深夜やってるヤツを見るぐらいなんですけど。……見ると血が騒ぎますね。

――血が騒ぎますか（笑）。やめてから、どこか他の団体に行こうとは思わなかったんですか？

多和田　やめてすぐにIWAから誘いがあったんですよ。その時、市来（貴代子）とIWAの広報の人が来てくれて話してたんですけど、山下（淳）と矢島（練習生）も一緒にいて、矢島と市来が途中でケンカになっちゃって（笑）。

――『元気が出るTV』出身同士で（笑）。

多和田　そうですそうです（笑）。それで、なんか流れちゃったんですよ。

チョロ　それはどういう接点があってそういう話があったんですか？

多和田　市来が矢島の電話番号を知ってたみたいで、それでこっちに連絡くれたって感じなんですけど。

――元気が出るラインで呼ばれて、元気が出るラインで壊れたと（笑）。

多和田　アハハハハ。そうです（笑）。

――でも、プロレスっていうものに未練はないんですか？

多和田　……あります。正直、ぶっちゃけちゃうと、あります。

――ぶっちゃけた方がいいですよ、ホントに。今でも体力的なトレーニングとかはやってるんですか？

多和田　腹筋だけです。腹筋だけは毎日二百回ぐらいやってます。

――それでその後、キックを始めたみたいですけど、キックの方に行ったのはどういった流れになるわけですか？

多和田　なんか格闘技に携わっていたかったっていうか、動いていたかったんですよ。普通に仕事して普通に飲んだりしてダラダラしてたんで、汗掻きたかったいうのもありますね（笑）。

初刺青は16歳の多和田。「『宝島』の「良い子の刺青の進め方」とかを見て、針に糸を巻き付けて、針をあぶって墨汁を煮詰めて、入れ方とかわかんないから、腕とかとりあえず傷付けて最初はもう血みどろでしたね」と、笑う多和田。

――ちなみにキックの試合はどれぐらいやったんですか？

多和田　試合は一試合だけです（微笑）。

――結果はどうだったんですか？

多和田　判定負けしました（微笑）。

――わぁ。打撃は向いていないんですか？

多和田　どうなんですかねぇ（笑）。その後、また試合を組んでもらったんですけど。会長がポンポンポンポン試合を組んじゃう人なんですよ（笑）。でも骨折しちゃって出られなくなっちゃって。それで会長と折り合いが悪くなっちゃって。キック界はいろいろと複雑ですからね。

――復帰するならプロレスですか？

多和田　どうですかねぇ。（考え込み）50％プロレス、50％格闘技ですね。

――格闘技っていうのはやっぱり立ち技の方ですか？　それとも総合ですか？

多和田　修斗とかやったことないからわかんないですけど興味はあるんですよ。

チョロ　バリジャパも行きたいって言ってましたもんね。二日目の方に（笑）。

――バリジャパじゃなくてデビロックナイトの方ですね（笑）。何が目当てだったんですか？

多和田　MADです。マッド・カプセルマーケッツ。

――音楽の趣味が合う人ってプロレス界にいました？

多和田　いないですねぇ。みんななんかZARDとかT-BOLANとか。

――ダハハハ！　先輩も尾崎豊ファンとか多かったですからね。団体をやめてからは、まずはバンドやろうと思ったんですか？

多和田　LLにいた頃は歌もうたってないし、ギターも触ってないし、とりあえず音楽に関わりたいと思ったんですよ。バンドもやりたいって思って。

――それで『DOLL』のメンバー募集に出したわけですね。本名で出さなかったのは何かあったんですか？

（練習生）も一緒にいて、矢島と市来が

いうのもありますね（笑）。

けど。会長がポンポンポンポン試合を組

ったのは何かあったんですか？

多和田　イタ電とか嫌だったんで（笑）。

チョロ　ポケベルの番号が出てましたけど、「あっ、多和田だ！」と思ってオレはかけましたよ！

——繋がらなかったんだよね。

でかいバイクも実に似合っている多和田。多和田はこれより一回り小さいスカイブルーのバルカンの購入を夢見ている。ちなみに免許はまだない。

チョロ　ポケベルの仕組みがわかんなかったんですよ。それにボクは当時働いてた『松屋』の高円寺店で会ってますから。

——そこで再会したわけね。

チョロ　再会も何も試合は見たことないんですけどね（笑）。明け方の3時ぐらいに友達連れで来たんですけど、プロレスやめた後だから「LLの多和田さんですよね？」って言ったら「違いますよ」って言われる気がして、音楽方面から攻めた方がいいかなって思って、『DOLL』にメンバー募集出してましたよね？　しかも元女子プロレスラーということでってふたつ被せれば大丈夫だろと思って聞いたんですよ。そしたら「そうです」って言ってくれて。

——ダハハハハ！　覚えてます？

多和田　あの頃、よく飲んでて、その時間とか食べ歩いたりしてたんで、なんとなく覚えてます（笑）。

——いまはバンドやってるんですか？

多和田　もう二年前にバンドが解散してからやってないです。

——バンドもやらず格闘技もやらず。このままじゃいけないッスよ！

多和田　それはホント思ってます。

——ということでどこに討って出ますか？　漠然とでもいいですけど。

多和田　私は流血やりたかったんですよ！　血みどろの試合とか。血見るのも流すのも好きなんで。

——ダハハハハ！　自分で流すのも好きなんですか（笑）。

多和田　好きです！　弟とか殴って鼻血が出ると笑っちゃうんです（笑）。

——なんでそんな激しい姉弟喧嘩してるんですか（笑）。

多和田　姉弟喧嘩とかすさまじいんですよ。修斗みたいな感じで、夜中とかたまにスパーリングやりますよ。弟が昔柔道とかやってて、関節とか得意みたいで。テーブルとかどかしたりして、弟とストップウォッチで「5分間だけでいいから！」とか言って無理矢理誘って（笑）。

——そうまでして体を動かしたいと。

多和田　そうですね。しょっちゅう殴り合いのケンカしてますよ。

——男とやって勝てるんですか？

多和田　でも、私ずるいんで。ケンカとかしてても「アッ！」とか言って横向いた隙にアッパーとか入れたりして。

——ダハハハ！　ドン荒川殺法ですね。それに弟ははまっちゃいますか。

多和田　はまるんですよ（笑）。

——あんまり頭は良くないですね（笑）。

多和田　アハハハハ。そうですね（笑）。

——いま気になる団体とかあります？

多和田　いま結構いろいろ団体とかいっぱいありますよね。

チョロ　キックの技術がちゃんとあればプロレスでもキャラは立ちますよね。

多和田　でも効かないでしょうね。百キロの選手に40何キロの選手がキックしても、たぶん痒くも痛くもないんじゃないですか（笑）。蚊が止まったぐらいじゃないですか。

チョロ　前に話を聞いたとき、多和田さんはプロレスと格闘技は別物って言ってましたよね？

多和田　私の思った感じなんですけど、プロレスやめてキックやってみて、やっぱキックとプロレスは全く違うもんだなって。プロレスはプロレスで考えなきゃいけないと思うし、キックはキックで考えなきゃいけないと思うし……。

——男子の場合は道場論の先にプロとしての在り方とかがあったりするけど、女子の場合は完全に分かれてるじゃないですか？

多和田　それはありますね。ただなんか、共通する面ではお客さんが沸くときとか、

キャバクラも時給がいいからって だけで割り切ってやってますから

キックとかやっててもバッグハンドブロー使ったらすごい沸いたんですよ（笑）。デビュー戦でいきなり使えばお客さんは絶対沸くって会長に言われてたんですよ。新人なのに、バッグハンドブローの練習とかいっぱいしてて（笑）。

──ダハハハ！　ずっと裏拳やってたわけですね（笑）。

多和田　はい（微笑）。やっぱキック見に来てるお客さんとプロレス見に来てるお客さんは全く違うと思うし。

──違うにしても、やっぱり沸かせる喜びっていうのは一緒ですよね？

多和田　それは一緒ですね。

──やっぱりプロレスやるとしたら流血できる団体になるわけですね？

多和田　そうですね。凶器攻撃とかもしたいですね（微笑）。

──ストリートファイトでも凶器とか使ってるんですか（笑）。

多和田　結構その辺のモノとか使いますね（笑）。植木鉢とか（笑）。

──わぁ～（笑）。例えば、同じ団体の選手間でそういうことができるかなっていう不安感はないですか？

多和田　割り切っちゃえば何でもできると思います（キッパリ）。

──聞くところによると、お水系のお姉ちゃんをボコボコにしちゃったらしいですね（笑）。反省してるんであれば表に出してもいいと思うんですけど。

多和田　反省してます（笑）。

──そんなに水商売のお姉ちゃんが嫌いなんですか？

多和田　嫌いじゃないんですけど、酔っ払ってて、お金持ってそうだったんで（笑）。でもバッグには2万円ぐらいしか入ってなかったんです（笑）。

チョロ　友達が最初にカラんで、多和田さんは車から状況を見てて、ラチあかなかったんで、ガチャって降りて、トドメの一発さしちゃったんですよね。

──ダハハハ！　それは打撃ですか？

多和田　前蹴りで、腹にズコッていきました（笑）。

──うわっ（笑）。それであっさり捕まっちゃったんですか？

多和田　はい……反省してます。

──そういうことはよくやってたんですか（笑）。

多和田　いや、もうやってないですよ！　執行猶予中なんで、なにかやったらすぐ実刑に持ってかれちゃうんで（笑）。裁判の時も親がうしろで泣いてたんで、いまはちゃんとしようと思ってます。

──プロレスはやめるは、刺青は増えるは、事件は起こすはと（笑）。いまはどういうお仕事してるとかは出しても大丈夫なんですか？

多和田　はい。構わないです。

──新宿勤務でしたっけ？

多和田　はい（笑）。歌舞伎町勤務です。

──キャバクラ嬢なんですよね？

ついでにバンドのメンバーも募集！

多和田　はい（笑）。

──お店は楽しいですか？（笑）。

多和田　（即座に）楽しくないです。ホント楽しくないです。キャバクラも時給がいいからってだけで割り切ってやってますから。毎日行かなくても生活できるだけの給料が貰えるんで。

──ボクはキャバクラ雑誌とかでも原稿書いてるんですよ。お店の名前は？

多和田　それは勘弁して下さい（笑）。

チョロ　源氏名はなんていうんですか？

多和田　めぐみです（笑）。

チョロ　めぐみちゃんは（笑）、どんな格好してやってるんですか？

多和田　（1人でウケて笑い出す）それ言わなきゃいけないんですか？（笑）。

──当然です（キッパリ）。

多和田　（小声で）ミニスカポリス（笑）。

──ダハハハ！

チョロ　指名はたくさんあるんですか？

「加入希望。当方VO兼G。ジャンルには特にこだわらないけど、基本的にルーツはパンク。ちょっとキレた人を求む。できれば女の子だけでやりたい」【問い合わせ】03-3403-5188『紙プロ編集部』「チェキッ娘も大好き」係まで

というわけで早速スネーク・ピット・ジャパンへ入門！

──やっぱり、フリーでやりながらキャ

多和田　全然来ません！　全然来なくてヘルプで付くぐらいです（笑）。

―お店ではどんな話してるんですか？

多和田　いや、もう適当な話しかしてませんよ（笑）。「寒いですよねぇ」とかそんな感じです（笑）。

―無難な時事ネタとかですね（笑）。

多和田　でも、お店変わろうかと思ってるんですけどね。高円寺にしようかなって（笑）。とりあえずいまは、つなぎでやってるような感じなんで。

―つなぎの先がなきゃねぇ？

多和田　そうですね。

―お店を続けながら練習をして来るべき再デビューの日を待つと？

多和田　なにかやらなきゃ！

―とりあえず、高円寺ということで、スネークピットに行きましょうよ！

多和田　はい！

―即答しましたね（笑）。

多和田　月謝は高いんですか？

―なんだったらボクが半分出しますよ！　LLはやめていく人に逸材が多いんでそういう人に光を当てたいんですよ。

多和田　ありがとうございます。

―やっぱり、フリーでやりながらキャバクラと両立させて、リング上から名刺撒いたりとかして（笑）。

多和田　アハハハハ。めぐみで（笑）。歩合入りますかね（笑）。

―当然ですよ！　絶対みんなも面白がるし。あとは腹筋ドンドン鍛えて、タトゥーももっと増やして、いかにキャラ立てるかっていう。落ち着いてる場合じゃないですよ！

多和田　めぐみちゃんやってる場合じゃないですね（笑）。

―めぐみちゃんはありでいいんですよ（笑）。両立していいですよ。とりあえず、スネークピットに行きましょう！

多和田　はい！　頑張ります!!

［99・12・21／高円寺・串焼処やまやにて収録］

多和田初美【たわだ・はつみ】昭和51年2月16日、岐阜県不破郡出身。プロレス時代の得意技は地味なカニばさみという多和田は35歳でダイニングバーを開くのが夢。好きなタレントは永作博美で愛読書は「実話ドキュメント」。上の写真はプロレスをやめたあと一番長い間働いていたという焼鳥屋さんの前で。そして「初美ちゃんのためだったらなんでも協力するよぉ」というご機嫌な社長さんとともに。

というわけで早速スネーク・ピット・ジャパンへ入門！

年も明けた1月5日、スネークピットに多和田を入門させるべく高円寺に向かった。インタビューで発言しているとおり、入門に掛かる費用の半分は吉田豪が負担するとのことで、入門に必要な3万円の半分、1万5千円を吉田豪から預かった。吉田豪がこの話をキャバクラ好きのターザン山本にすると「俺も一枚乗るよぉ！」と炎上。ターザンからも強引に1万5千円をゲット。吉田豪＆ターザンという強力タッグが多和田をバックアップすることになった。

スネークピットジャパンの宮戸優光氏に、プロレス＆キックボクシングをやっていたという、これまでの経緯を聞いてもらい、そしてジムの説明を受けた多和田。その場で入門手続きを済まし、さっそく軽い汗を流した。

本誌スーパーバイザー吉田豪に続き、あのターザン山本も多和田のスポンサー宣言！

多和田初美はボクたち2人の力でビッグにしてみせますよ！

強力コーチ陣の指導のもと、多和田の再デビューの日はくるか？

「キャバクラで働いてるの？　ホントに格闘技をやりたいんだったら、夜の仕事はやめた方がいいよ。ましてやアフターはダメ（笑）」と、宮戸氏から厳しめの一言があったが、ビル・ロビンソン、宮戸優光、大江慎という強力コーチ陣のもと、多和田には頑張って練習に励んでもらいたい。

撮影協力：フウドブレイン　東京都杉並区高円寺南4―29―12KAWABE272ビル102　☎03・3318・9171

世界初のプロレス専門店

レッスル®

営業時間　月～土 AM11:00～PM7:00　日祝祭 AM10:00～PM6:00
年中無休

2000年もプロレス最強オモシロビデオ ばんばん続々登場!!

じ～っくり選んで下さい!

FMWエンターテイメント・レスリング・スペシャル・ライブ「ジャッジメント・デイ」

1/19発売　150分9,500円

1999年11/23横浜アリーナ。FMW創立10周年記念ビッグイベント。5/5から始まったFMWのエンターテイメント路線の集大成!因縁の一騎打ち「敗者追放デスマッチ」悪のコミッショナー冬木弘道vs弾丸田中将斗、そしてもう一つの因縁のデスマッチ元ハヤブサHvsハヤブサ、超大物格闘家ウィリー・ウィリアムスの何と非道との格闘技戦、AVの超有名俳優、チョコボール向井、若菜瀬奈登場等超盛り沢山です。試合の他にも控室でのインタビュー、記者会見など衝撃的映像をドキュメント収録!(特に、ビデオだけの特別映像特典としてメインイベント終了後のHとハヤブサのツーショットインタビューも収録)勿論大会当日試合前に放映されたプロモーション映像も収録!

収録試合
●中川&邪道&外道with荒井薫子vsリッキー&市原&チョコボール向井with若菜瀬菜●中山&元川vsマリア・ホサカ&ジャズ&ミス・モンゴル●非道vsウィリー・ウイリアムス●佐々木&山崎vsドリー&テリー●金村キンタローwith悪役商会vsトミー・ドリーマー●～15000V放電金網サンダーボルトデスマッチ～冬木vs田中●Hvsハヤブサ　他、控室インタビュー、記者会見映像などドキュメント収録!◎ビデオ特別映像特典　メイン終了後のHとハヤブサのツーショット・インタビュー

新日本プロレス BESTBOUTS OF 1999 the end of the century

1/26発売　150分￥10,200

大仁田、小川の波瀾の参戦で幕を開けた1999・新日マット、その激動の1年間のベストバウト37試合をこの1本で振り返る!初ビデオ化試合も多数収録の、毎年恒例のヒット・シリーズ!

収録内容
●'99.1/4 東京ドーム　小川vs橋本　大仁田vs佐々木　中西vs藤田　武藤vsノートン●'99.2/14　ノートンvsマサ斉藤　武藤vs健介●'99.4/10 東京ドーム　〈ノーロープ有刺鉄線電流爆破デスマッチ〉大仁田vs蝶野　〈IWGPヘビー級選手権〉武藤vsドン・フライ　金本vs大谷、山崎&藤田vs石川&アレク　ライガー&サスケvsカシン&ワグナー●'99.5/3　武藤vs天龍●'99.7/20～21 札幌中島体育センター　蝶野&大仁田&AKIRAvs武藤&天山&ヒロ斉藤　武藤vs小島、スーパーJr.バトルロイヤル●'99.8/10～11 大阪府・/8/13～15 両国　〈'99 G1クライマックス/G1クライマックスファイナル〉　藤波vs武藤、蝶野vs橋本、武藤vs健介、永田vs健介、天山vs蝶野、中西vs橋本、武藤vs永田、中西vs武藤●'99.8/28 神宮球場　〈ノーロープ有刺鉄線バリケード電流地雷爆破ダブルヘルデスマッチ〉　ムタvsニタ　カシンvs金本●'99.10/11 東京ドーム　小川vs橋本　〈IWGPヘビー級選手権〉武藤vs中西　キモvs永田、天龍vs健介　他多数

カーニバルアルシオン`99

120分6,930円

99年12/11横浜文化体育館&12/19京都KBSホール。99年アルシオンベストマッチに輝いた浜田&AKINOvs猛武闘賊のツインスターオブアルシオンタイトルマッチが速くもビデオ化!アルシオン史上初めての流血試合、それも女子プロ史上でもない大流血!今までタッグのベルトを総なめにしてきた百戦錬磨の下田&三田の猛武闘賊がデビューまだ1年半の浜田&AKINOに挑戦することになった異例のタイトルマッチ。試合前、誰もが猛武闘賊の勝利を予想し、あまりの大流血に浜田&AKINOの勝ちはないと考えた、しかしそれを大逆転させた浜田&AKINO。もう超感動です。浜田&AKINOの心の叫びがビデオではより間近に聞こえてきます。場外乱闘では浜田、AKINOの二人を別々にカメラをとらえこの試合の一部始終がわかるようになってます。そして、もう一つ話題になったのがマグナムTOKYO&マグちゃまTOKYOvsスモウダンディフジ&二上美紀子ビューティのアルシオン&闘龍門ミックスドマッチ。ノリノリのマグナム&マグちゃま、爆笑のダンディ&ビューティ。試合も面白いがインタビューも面白い!他にもクィーン&スカイのタイトルマッチも収録。そして今回は12/19京都で行われたツインスターオブアルシオン決勝トーナメント3試合も収録。その後の猛武闘賊の玉田&二上の問題のリストラ発言も収録。

収録試合　●キャンディーvs府川●藤田&マリー・アパッチェvs玉田&リンダ・スター●チャパリータASARIvs矢樹●マグナムTOKYO&マグちゃまTOKYOvsスモウ"ダンディ"フジ&二上美紀子"ビューティ"●アジャvs吉田●浜田&AKINOvs三田&下田(12/11 横浜大会)●浜田&AKINOvs大向&府川●アジャ&玉田vs下田&三田●大向&府川vs下田&三田(12/19 京都KBSホール)

"邪道参上"　大仁田厚

1/19発売　80分￥7,140

ヒザのワイヤーが切れるまで、あとわずか!背水の陣で闘う大仁田の活動を完全収録!天龍と5年ぶり電流爆破で対決した世紀の一戦をメインに、5大会を収録。テレビでは見られない大仁田の素顔に独占インタビューで迫る。電流が流れ、爆弾が炸裂し、地雷が吹き飛ぶ!　大メジャー新日本に戦争を仕掛けた男、その抗争の原点にある邪道魂とは、大仁田ワールドとは?その答えがここに明かされる。

収録内容
●大仁田&田中vs鈴木&中牧(3/7 後楽園ホール)●大仁田&奥村&サンボvs天龍&中牧&矢口(5/13 後楽園ホール)●大仁田&X&サンボvs天龍&中牧&矢口&X(6/27 後楽園ホール)●大仁田&高木&サンボ&菊沢vs天龍&中牧&矢口&小野(8/22 有明レインボータウン)●矢口&中牧&ドクター・ハニバル&ドクター・ルーサー&ミスター・ボーゴvsサンボ&菊沢&奥村&荒谷&大仁田(9/29 後楽園ホール)　他全5大会

ガイヤジャパン DOUBLE DESTINY

140分¥8,000

'99.9/15.横浜大会。再戦の時来たれり。世紀の大惨敗から半年、長与が己のプライドと全権を賭け、飛鳥へのリベンジに挑む!里村はアジャの持つAAAW王座に初挑戦。ベストマッチの果てに、奇跡は再び起きたのか?その他、北斗と猛武闘賊の遺恨戦、AAAWタッグ選手権、広田さくらスペシャルマッチなど'99年度女子プロ最大のイベント、9・15横浜大会を全試合収録!また、99年4月から8月までのビデオ未収録試合をセレクトし、巻末に特別収録!

収録内容
●加藤vs植松●中山vsRIE●デビルvs広田●下田&三田vs北斗&尾崎●シュガー&永島vsKAORU&山田●アジャvs里村●飛鳥vs長与
('99.6/20 後楽園)●アジャ&尾崎vsKAORU&山田('99.7/3 浜松)●飛鳥vs広田('99.7/4 IMP)●永島vs植松('99.8/22 アールンホール)●里村vs植松

コンプリートアルシオン 3

～旗揚げ1周年から真夏の祭典まで～ 120分6,930円

'99年2/18～8/6日本全国&メキシコ。お待たせしました!今回は2/18旗揚げ一周年から8/6大田区体育館までのアルシオンの激動の半年がこれを見ればわかります。試合以外にもメキシコツアー、文子&藤田IN沖縄、ツインビー御厳生会、CAZAIレコーディングと面白映像満載!今回の進行役はガングロ天使藤田愛!面白いですよ~!今回は何と藤田愛の部屋にロケ敢行!全63試合収録。

ZION' 99トーナメント

120分6,930円

'99年8/6大田区体育館&8/22ZEPP TOKYO。アルス、スカイと話題のトーナメント続出のアルシオン!今回のシオン'99はその中でも特に注目されたトーナメントです。アジャ、大向、玉田&矢樹、二上、府川、猛武闘賊下田&三田が優勝してもアリの面子。決勝は大向vs下田が実現。他にもCAZAI東京初見参となったセミの8人タッグも収録。そして、8/6大田区大会からは話題の大向&二上vs猛武闘賊と吉田vsアジャを収録。

馳 浩 BEST BOUT10 復刻版

1/26発売　135分￥6,200

本人が選んだベストバウト10試合と番外編4試合を武藤他のゲストを交え120分のフルタイム・トーク!
〈BEST BOUT10〉●vs小林(87年12/27・両国)●vs越中(88年2/7・札幌)●vsグレート・ムタ(90年9/14・広島)●馳&佐々木vs蝶野&武藤(90年11/1・武道館)●武藤&蝶野vs佐々木&馳(91年7/4・福岡)●vs佐々木(92年6/26・武道館)　他

越中vs高田 最強ジュニア3大死闘

1/26発売　復刻版　60分￥6,200

これが本物の格闘プロレスだ!新日魂が勝つか?UWFシューティングが勝つか?IWGPジュニア初代&第3代王者・越中第2代王者・高田が魅せる文字通りの死闘の数々

収録試合●○高田伸彦vs越中詩郎●86年8/5・両国●●高田伸彦vs越中詩郎○86年9/19・福岡●●高田伸彦vs越中詩郎○87年2/2・両国

激闘'99総集編

1/21発売　82分￥5,040

'99年に行われた6回の三冠戦と世界タッグ戦を全てダイジェスト収録。G.馬場の逝去、J.鶴田の引退、三沢の新社長就任等、忘れられない年となった'99タイトルマッチで振り返る全日激闘譜。

収録内容
●三冠ヘビー級選手権試合　●1/22　三沢vs川田●3/6　田上vsベイダー●5/2　ベイダーvs三沢●6/11　三沢vs小橋●7/23　三沢vs川田●10/30　三沢vsベイダー
●世界タッグ選手権試合　●1/7　川田&田上vs小橋&秋山●3/6　小橋&秋山vs三沢・小川●6/9　小橋&秋山vsエース&バード●7/23　エース&バードvs大森&高山●8/25　大森&高山vs三沢&小川●10/23　三沢&小川vs小橋&秋山●10/30　小橋&秋山vs大森&高山

世界最強タッグ列伝外伝～上巻～

5,040円

お馴染みの超人気シリーズ最強タッグ列伝に収録できなかった名勝負の数々を完全収録!国際プロレス軍団ファンクス、マスカラス兄弟、鶴龍、龍原砲、長州&谷津、ハンセン&ブロディ、馬場&三沢タイガーと超豪華チーム。

収録試合●馬場&鶴田vs木村&草津('77年12/10宮城)●ファンクスvsマスカラス兄弟('79年12/7大阪)　他

踊るFMW大激戦!

120分￥9,500

～凄絶!Hvsハヤブサ 肛門爆破マッチ～

99.8.25.札幌中島体育センターで永遠に消えたはずのハヤブサが9.5.函館大会で元・ハヤブサのH(エイチ)を襲った!皮肉かジェラシーか?ハヤブサとHの抗争はドロ沼化!そして敗者肛門爆破マッチで怒りは頂点に!冬木vs田中、AV男優・チョコボール向井、セクシータレント・若菜瀬菜のプロレスデビューなど盛沢山で9月、10月の後楽園2大会を中心に完全ビデオ化!

'99世界最強タッグ決定リーグ戦 スペシャルハイライト

1/21発売　110分￥5,040

決勝はベルト返上覚悟で2連覇にかける現世界タッグ王者・小橋&秋山組!対するは意外にも田上&ハンセン、この激闘、ハンセンのガンバリに超感動!もちろん完全収録!
●リーグ戦出場チーム　小橋・秋山組、三沢・小川組、大森・高山組、多聞・井上組、田上・ハンセン組、ベイダー・ジョニー組、ゲーリー・ウルフ組
●リーグ戦ダイジェスト収録　11/13・後楽園　11/20・KBSホール　11/27・宮城県スポーツセンター　11/30・大阪府立体育館　12/2・太田市民体育館

世界最強タッグ列伝外伝～下巻～

142分5,040円

下巻が早くも発売!今回は'87年以降の今まで収録されなかった名勝負がここにビデオ化!'87年と言えば全日本にブロディがUターンした年!そして、この年史上一度だけタッグながらブロディvsハンセンの夢の激突が実現した。他にも、同年に実現した五輪コンビvs龍原砲のタッグ頂上対決、'90年の馬場&アンドレの大巨人コンビ、三沢&川田の超世代コンビ、今となっては二度と見られない馬場&小橋組と貴重カードのオンパレード!

ザ・グレート・サスケ ～エピソード3～

85分￥5,000

サスケの名マイク、名語録、名場面を一挙公開!ビデオ初収録の映像も満載!この作品は「真実」と「虚構」の境界線を綱渡りしてきたザ・グレート・サスケの10年間のプロレス人生から立ち上る「ドキュメンタリー」であり「ドラマ」である。阿鼻叫喚、不条理極まりない展開はあるものの、その虚構の中にある「真実」。「命がけのスーダラ」。「スーダラだけども命懸け」。「歴史」と「愛」と「夢」と「ロマン」。そして「リアリティ」。それらをサスケという"人間"と"生き方"を通して次の世代に伝えていく。

W井上復活ストーリー「京子&貴子 運命の再会」

100分6,930円

女子プロマットの話題のタッグチームW井上のビデオが完成!京子&貴子自ら二人の亀裂から和解までの真相を激白。試合も勿論あのスタンガンを繰り出した5/5川崎決戦をノーカット収録。そして、W井上再結成の8/11後楽園大会の京子&貴子vs豊田&伊藤を収録。勿論2試合とも完全ノーカット収録。W井上が充分満喫できます。他、二人の歴史がわかるW井上ストーリーも収録!

大仁田劇場

120分￥10,200

念願の"メジャーの象徴"長州力との一騎討ちに向けて"邪道魂"が炎上!"邪道"大仁田が新日リングで、控え室で、そしてマスコミ会見の席で繰り広げられるラフファイトと特異なパフォーマンスは、『大仁田劇場』と呼ばれ注目を集めている。そして今回、大仁田の新日本登場から最新映像までを一本にまとめた強力版が登場!(試合は全てノーカット)

ガイア・ジャパンVol.10

140分￥8,000

ベストバウトシリーズ第10弾!SSU、全権強奪!横浜決戦を制し、ついにGAEAの全権はSSUへと移行。やりたい放題のSSUに対し、長与は極秘に渡米し肉体改造をして凱旋を果たす。しかし北斗晶の復帰によりすべての勢力図は一変!SSUはOZ派の2派に分裂し、加藤園子は飛鳥とまさかの電撃合体!GAEAvsSSU抗争新展開!混沌極まるGAEAマット、全権闘争を制したのはGAEAか?SSUか?新軍団チーム・ノストラダムスか?

UFC-JAPAN

120分6,930円

'99年11/14東京ベイNKホール。リングス、パンクラス、パワーオブドリーム等様々な団体が参加し話題になったアルティメット日本編。見所はやはり本場金網の何でも有りのリングで日本人が如何に戦うか!KEI山宮の勇気ある大打撃戦、高阪剛のTK殺法を打撃で封じ込めたペドロヒーゾ、UFC王者決定戦と面白かったが一番会場を沸かしたのがUFC-Jトーナメントで優勝したヤマケンこと山本喧一。優勝戦も鮮やかな逆転のヒザ十字固め。帰ってきたヤマケンのパワーオブドリームを見よ!

バーリトゥード・ジャパン`99

120分6,930円

99年12/11NKホール。99年に大ブレイクした修斗の年間ビッグイベント、バーリトゥードジャパンを全試合収録。今回はノールール系試合の最強国ブラジルvs日本の対抗戦!日本のエース、宇野薫、佐藤ルミナ、マッハ速人はどの様に戦ったかをビデオでチェック!
収録内容●佐藤ルミナvsハファエル●宇野薫vsペデネイラス●桜井"マッハ"速人vsビクトリアーノ　他

PRIDE.8

90分9,970円

`99年11/21有明コロシアム。ついにこの瞬間がやってきた!日本人それもプロレスラーがグレイシー一族を撃破!その偉業を成し遂げたのは、やはり桜庭和志!相手はホイラー・グレイシー。負けないグレイシールールという不利なルールでの圧勝!何度見ても感動間違いなし!他、アレクサンダー大塚がもう一人のグレイシー、ヘンゾーと素晴らしい試合。松井大二郎、カールマレンコ、ヒカルド・モラエスの熱戦もプロレスファンには必見!

★表示価格はすべて税込です。送料はビデオは1本につき￥500、2本以上サービス、グッズは表示に送料が含まれています。

1,000円お買い上げごとにスタンプを一つプレゼント。30個でTシャツ、50個でトレーナー、100個でビデオがもらえる!(店頭・通販共)

【通信販売お申し込み方法】
住所・氏名・TEL・希望商品名を明記のうえ現金書留か郵便振込でお申し込み下さい。ビデオ送料は1タイトルにつき500円、2タイトル以上はサービスです。

●郵便振込口座番号　00180-8-65236　レッスル通販
通販部 03-3464-1780　TEL 03-3464-0078
レッスル渋谷店
〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-17-2 第2野々ビル
レッスル池袋店　TEL 03-3989-0056
〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-36-3 池袋陽光ハイツ306

★最新グッズ情報満載レッスルレターをご希望の方は80円切手をお送りください。

● 営業時間変更のお知らせ!!　日曜日&祝日の営業時間も平日と同じくAM11:00～PM7:00とさせて頂きます。●

トンパチマシンガンズ内でも話題ふっとう!!

お前、リーダーが紙プロ買ってこいって言ってるゾ!!

とっとと買ってこい!!

本屋じゃ売ってねえから、自分で探せ!!

ったく、どこで売ってんだよ……

※12/9LLPW後楽園大会、神取vsマッハ戦後の控室での模様から勝手に4コマ広告です

祈・早期回復 そんなマッハ選手に 紙のプロレス 本誌バックナンバーのお知らせ ……です

第5号
★特集「たたかいグランプリ」
特別寄稿鈴木邦男、杉作J太郎、竹本幹男/ロングインタビュー馳浩/デビル雅美vs氏神一番/脅威の連載陣! 高田文夫、ナンシー関、浅草キッド

第8号
★特集「さらば新日本プロレス」
ワイド座談会/初登場ザ・グレート・サスケにロングインタビュー/セメントインタビュー関根勤/恐山でジンギスカンを食い、八戸で仮面貴族を見た

第11号
★特集「狂気とは何か?」
怒涛の6人インタビュー堀辺正史、T・J・シン、西村知美、佐野量子、ガッツ石松、糸井重里/プチ特集「『週刊プロレス』とは何か?」初代編集長独占手記

第12号
★特集「色気とは何か?」
村松友視が前田日明を語る!/「前田日明が某格闘技雑誌編集長を女子便所説教」事件勃発記念座談会/蝶野正洋も登場!/色気王A・猪木も登場

第13号
★特集「道場破りとは何か?」
安生グレイシー道場破り失敗事件記念企画山本小鉄&上田馬之助に緊急インタビュー/サブ特集「ファミコンプロレスとは何か?」デルフィン登場

第14号
★特集「神秘とは何か?」
佐山聡、大槻ケンヂ、プロボディーガード・清水伯鳳、鈴木みのるが神秘を語る!/遠藤幸吉、高田文夫にロングインタビューを敢行!

第15号
★特集「インディペンデントの逆襲」
インディーレスラー10人斬り+大物インディー3人 高野拳磁、ポイズン澤田、中牧昭二/巻末特集「K-1とは何か?」石井館長インタビュー

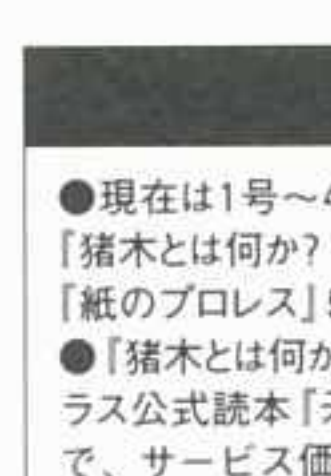
第16号
★特集「新日本凸凹大学校」
『紙プロ』的昭和新日総力検証 マサ斉藤、キラー・カン、田中ケロ、破壊王、後藤達俊インタビュー/ユセフ・トルコvs由利徹対談

第17号
★特集「実況パワフル北朝鮮」
猪木×永島のナマハゲ対談(© 大仁田)、村松友視がミーハーヒロイズム宣言!? ブル中野、破壊王も登場/巻末特集「藤原組の逆襲」

第18号
★特集「高田延彦さんへ愛をこめて」
引退宣言の読み方座談会/サブ特集「すてきな奥さん」大山倍達、サスケ、ライガー、石川雄規の嫁が登場!/新間寿恒ヒザ蹴り事件勃発!

第19号
★特集「さようなら紙のプロレス」
『紙プロ』の廃刊騒動の顛末。新編集長誕生!/サスケ×高野拳磁『紙プロ』を偲ぶ座談会ミスター・ポーゴ、山崎一夫インタビュー

第20号
★特集「劇的格闘技」
真樹日佐夫、角田信朗、大槻ケンヂ、村松友視の四大インタビュー/山口昇と東京シュガーベイブ結成記念 ユセフ・トルコ、上田馬之助、遠藤幸吉が登場

第21号
★特集「幻的格闘技」
古武道を通じてプロレスを考えよう! 前田日明も登場! スクープ・寛水流空手二代目会長の世古典代氏登場!/高田文夫、ユセフ・トルコが登場

第22号
★特集「この人が喝っ!!」
巻頭インタビュー・ジョージ高野/プロレス雑誌を斬る!!/高阪剛、セッド・ジニアス、小佐野景浩、熊久保英幸インタビュー/M・マスカラス宣言号

★猪木とは何か?
スキャンダルにまみれていた時期の猪木を直撃! どうってことねえよ!/村松友視、立川談志、告発仕掛人・仙波記者が登場! 新間のPKO発言を誌上再録

★パンクラス公式読本
~矛~
97年夏当時、横浜道場にいたパンクラシストたちを中心に構成!/なぜか突然、佐山聡が登場!/故・長谷川悟史選手のロングインタビューも掲載

★パンクラス公式読本
~盾~
97年夏当時、東京道場にいたパンクラシストたちを中心に構成!偶然か、必然か?/故・ジャイアント馬場がパンクラスを語った衝撃のインタビューも掲載!!

★極真とは何か?
不撓不屈の極真魂が溢れる16人を直撃!/松井章圭館長、磯部清次南米支部長、F・フィリョ、黒澤、ニコラス・ペタス、某格闘技雑誌編集長らインタビュー

★紙の前田日明
~インタビューという名のエネルギー史~
『紙プロ』、『リンタマ』、『紙プロRADICAL』誌上で掲載した前田インタビューを再構成してディレクターズ・カットで再録!/引退直前の覚悟のインタビューも新規収録!/完全保存版

申込み方法

●現在は1号~4号、6号、7号、9号、10号、『大山倍達とは何か?』『猪木とは何か? キラー編』は完売しました。ノーダウト!!●定価は『紙のプロレス』5、8号は700円、11号~22号は780円となります。●『猪木とは何か?』は1320円、『極真とは何か?』は1530円、パンクラス公式読本『矛』『盾』は1260円、『紙の前田日明』は送料込みで、サービス価格の2000円となります。●送料は1冊=310円、2冊=340円、3冊~4冊=450円、5冊=520円、6冊以上=700円となります。●10号、『大山倍達とは何か?』は書店やプロレスショップで探せば若干残っているはずです。頑張りましょう。

【現金書留送り先】
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス「本誌バックナンバー係」まで

【郵便振替振込先】
00130-3-769154 (株)ダブルクロス
※どちらの方法にしても、必ず希望の号数を明記してください。絶対おつりのないようにお願いします!

書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである――（ネール元インド首相の娘への手紙）

吉田文豪人生劇場

書評の星座 PART2

『クロスゲーム』でShow氏が突如ブチ上げた「『紙プロ』編集部のその他大勢」批判。そこにボクも含んでいやがったらどうしてやろうかと思ったが、『SRS DX』の忘年会でカタブツ君に確認させたところボクは関係なかったとのこと。オッケ〜イ！ そういうわけで最近、「批判してもいいので紹介して下さい」とのメッセージ付きで本を送ってくれる方が急増し、なぜか小池書院からも『クライング・フリーマン』（池上遼一・画）が送られた書評コーナー。

素顔のマスクマン

（ウルティモ・ドラゴン　浅井嘉浩／講談社）

小鉄にピーター（ミスター高橋）、それにマサと新日大御所の名著が続いた講談社のハードカバー・プロレス本の新作は、なんとドラゴン！ 干支も見越した最良の選択に心から乾杯だ！

……といきたいところだが、なぜか肩書き上は新日の大御所・藤波ドラゴンではなく単なる練習生でしかなかったウルティモ・ドラゴンの本だったりするんだから、これが新日本の流れなのか（前髪をハサミで申し訳程度に切りながら）？

確かに人選も不可解なら、昭和新日イズム溢れるこれまでの物騒な男たちと比べて**「四日市喘息に苦しむ公害病認定患者」**の地道なサクセスストーリーは、さすがにちょっとコク不足。

それでも昭和新日幻想の代わりにルチャ幻想が無限に膨らむエピソードをたっぷり披露してくれるから、個人的には文句なしの一冊なのだ。

なにしろ、世間では**「自由への闘い」**の意味だと思われてきた**「ルチャ・リブレ」**も、なんとウルティモに言わせれば**「本当の意味は『自由な闘い』だ。つまり〝何でもあり〟ということで、これは〝バーリ・トゥード〟と同じ」**。

つまり、ルチャとブラジルのルタ・リーブリは全く同じ物だったわけなのである！

「メキシコのレスラーは、普段はリングの上でお笑いをやってるような選手でも、喧嘩をやらせたらムチャクチャ強い。彼らは貧しい家に生まれて、不良をやりながら生活の糧としてプロレスを選んだような連中だ。なんたって、レスラーになるまでの道程が違う。日本のマニアがアメプロやルチャを馬鹿にするのは、喧嘩をしたことがないし奴らの腕っぷしの強さを知らないからに過ぎない。甘く見たら殺されるぞ。リングの道化師みたいな連中の中にも、ヒクソン・グレイシーに勝てるやつは絶対にいる」

つまり不良上がりのクラッシャー、前田日明や木村健悟みたいな凄玉がメキシコにはゴロゴロしてるわけであり、かつて健悟や佐山聡がメキシコ遠征に行かされたのも、長州の顔面を蹴り飛ばした前田がメキシコ行きをフロントから命じられたのも、そういう理由だったのに違いないのだ！

さすがは新日！ ビバ、メヒコ！ 日本在住のもやしっ子クラブたちには到底理解できないだろうが、ボクに言わせりゃルタよりもルーチャの方が10倍強いのである（妄想）。

ドン荒川に入門試験で落とされたとはいえ、昭和の新日イズムを秘かに受け継いでいたウルティモ。ゆえに、彼が作り上げたジムの根底に新日イズムが流れているのも当然の話だろう。

「闘龍門がやろうとしているのは、学生プロレスを発展させたような〝プロレス〟じゃない。プロのレスリングテクニックを土台にした本物の〝プロレス〟だ」

そんな正論とストーカー市川の存在は明らかに矛盾しているとしか思えないが、これも荒川イズムを受け継いで「ひょうきんプロレス」を実践しているからなのに違いない。きっとそうだ。

「日本だと、いわゆる〝追っかけ〟のような熱心なファンって、特にオシャレな女の子ってイメージはないんじゃないかな。ところが、メキシコでは街中の女の子が藤原紀香だ。自分から近付いてくるような女の子のうち、日本なら10人中の8人はいける。だとすれば、メキシコは10人中3人以下だ」

こうして聞いてもいないのに下半身の赤裸々ぶりを具体的にアピールするのも、まさに昭和の新日イズム。そもそも外人女と結婚するのも猪木ばりなので、もはや足りないのは覗きの経験ぐらいのものなのである。ウルティモ、合格だ！

なお、最後に彼が見たという橋本vs小川戦ばりに物騒な試合についても紹介してみるとしよう。

「アメリカでは似たような試合を見たことがあった。秒殺で売り出し中だったビル・ゴールドバーグを、グラウンドテクニックに優れた某イギリス系レスラーが、その華麗な技でパワーを封じて子供扱いにしてしまったんだ。しばらくの間、その男はWCWからほされて、某インディー団体に活路を求めることとなった」

ヒクソンばりに175戦無敗を誇り、車だって破壊する青い目のパンクラシストをあっさり子供扱いにした技巧派とは一体、誰なのか⁉

まあ、実名こそ出していないがこの**「Vサインの男」**は言うまでもなくスティーブン・リーガルであり、一時は猪木引退カウントダウンの相手に選ばれておきながらその後はろくな活躍もなかった理由は、つまりそういうことだったのだ。

PRIDEでもリングスでもバトラーツでもいいので、いまこそリーガルの再来日もしくはUFO軍団入りを強く希望する次第なのである。ダメ？

プロレス雑学簿

（竹内宏介／日本スポーツ出版社）

プロレス古本コレクターのボクでさえまだ見たことのない力道山＆東富士漫画や力道山ジャケの『少年マガジン』が並ぶゴキゲンなカラーグラビアを見ただけで、思わず即買いした一冊。

しかし、明らかにそれらの中身を読まずに紹介しているし、肝心の本文も『ゴング』掲載済みコラムだしで、ちょっとガッカリ。

まあ、**「小橋健太、小島聡といった私好みのレスラー」**や**「由美かおるや小柳ルミ子などの写真集なら私ぐらいの年代でも〝見てみようか〟という気になる」**などの竹内さんエピソードがいちいち最高なので、それだけでボクは許すのである。昭和のプロレス記者、万歳！

トリプルクロス

（監修・大谷〝Show〟泰顕／メディアワークス）

なぜか**「『圧倒的なるもの』をコンセプトにマット界のファッション化に警鐘を鳴らす」**ことを目的としながら、ただ単に新日とPRIDEとK-1関係のインタビューを無意味に羅列してしまったという、『T多重ウェイブ』に匹敵するテーマなきダメ本。

なぜかムックなのに読プレのコーナーを設け、そこで**「マット界のファッション化」**に荷担するかのようにTシャツばかり並べたりと、そのテーマ不在ぶりはもう底なし。

なにしろ、ただでさえコンセプトが不鮮明なのに、前田襲撃事件もネタに入れたためさらにピンボケとなったのみならず、挙げ句の果てには前田のインタビューが飛んだのに表紙の写真も差し替えないで、穴埋めのために高橋義生のインタビューを持ってくるんだから、本当にとんでもないのだ。

前田襲撃事件直後、会場で抜群の笑顔を各誌で無防備のまま晒したことをろくに反省せず、**「論旨を履き違えて僕を嘲笑するなら、僕はその人間を許さない。それだけは覚えておいてほしい」**などと後書きで逆ギレすることも含めて、リングスが怒るのもやむなしなのである。

そうまでして実現させたインタビューで、高橋は前田事件についてこう語っている。

「安生さんが『（尾崎允実）社長どこ？』って言ってきたんですよ。で、俺が『あっちですよ』って言った覚えはある。指さしたとかそういうのは覚えてないですね」

「前田狩り？ 俺が一人でやろうとしただけで、『狩り』だったらみんなで囲むでしょう」

「別に『不意打ち』とは思わないですね」

「共謀説とか出るんだったら、俺は自分でやったほうがよかったと思ってます」

結局、ここまで説得力皆無の弁解を晒したパンクラス側にとっても、そんな高橋に突っ込めないShow氏にとっても、このインタビューはマイナスにしかなっちゃいないのであった。

確かに**「ファッションなんてクソくらえだよ。そんな能書きは文句なしにブッ潰したくなる」**だの**「ソーリー、ソーリー、ごめんなさ〜い」**だのと、Show文体が爆発した無闇に熱くて、なおかつ寒いHOT＆COOLな前書きと後書きは相変わらずズバ抜けて面白い。

しかし、そこで新日と全日という対立概念をテーマにした前作『クロスゲーム』が**「実は『男』と『女』の『恋愛』を語った書籍」**だったため、武藤が初恋、三沢がセックス、山口日昇がキャバクラを語っただのと説得力のない後付けの言い訳をいまさら披露してどうする？

どうせ今回も後から「裏テーマは家族」だのと不可解なことを言い出すのだろうが、ボクに言わせればそんなものよりまずは表のテーマを読者にキッチリ伝えることが先決なのである。

そもそも基本コンセプトの**「プロレス＝格闘技」**という主張すらろくに伝えきれちゃいないことは、会場の盛り下がりっぷりが誌面を通じてもビンビン伝わってくるShow司会のエンセン井上トークショーの再録記事を読めば明白だろう。

10・11の橋本対小川戦を**「これプロレスだよ」**とエンセンに言われたとき、**「言ってる意味がわからないけど、百歩譲ってそうだとしても、小川選手の強さがわかった試合」**などと理解不能な言い訳を始めるShow氏。百歩なんか譲るまでもなく、あれは間違いなくプロレスである。そもそも、キミは**「プロレス＝格闘技」**だって言い続けてるんだから、プロレスでいいじゃん。

結局、プロレスを差別用語だと受け止め、格闘技とイコールだなんて思っちゃいないのは、他ならぬShow氏自身だったということなのだ。

なお、「『紙プロ』のその他大勢は礼儀知らず」だと吠えるShow氏は**「前田は礼を欠いた」**という猪木の珍しく常識的な発言にえらく興奮していたようなのだが、そもそもスキャンダルに巻き込まれた最中には「やはり佐藤（久美子・元秘書）の顔が悪かった」と言い放ち、大量離脱の直後には「大掃除ができた」と言い放った猪木がいちばん非礼（議員なだけに比例？）だったことを決して忘れてはならない。それで呑気に喜ぶのは、猪木に「時間を大切にしろ」と言われて喜ぶ藤波みたいなものでしかないのである。

笑顔は無敵だ

（作・吉川良、画・瀬野丘太郎／PHP研究所）

なんと**「小学中級以上向」**の馬場伝記が、遂

に登場！
　あからさまに教科書風のイラストも抜群なら、巨人軍に入れば**「元子がつくってくれた特製スリッパ」**を**「おれの守り神」**として大切にしたり、風呂場で転倒してプロ野球を断念すれば**「伊藤元子に手紙を書くこと。それしか自分にできることはない」**と決意したりと、全てのエピソードが元子夫人に直結していく愛に満ち溢れた構成が本当に抜群すぎ！　まさに「元子、元子って伝記に書いてたんです」状態なのである。
　つまり、世界一巨大な文通マニアの馬場は**「元子に手紙を書こうか書くまいか」**と大いに悩み、**「結論は出ていた。野球人生が終わってしまったのだから、元子との文通にもピリオドを打たねばならぬだろう」**と野球に続いて文通を断念すると、やがてようやくプロレス入りを決心。
「どう考えても、このでかい身体を活かすしか道はない。見せものみたいな、はずかしい身体しか自分にはたよるものがない」
　本当に馬場がこう思ったのかどうかは定かではないが、とにかく吉川良先生に言わせれば馬場のプロレス入りも**「元子に手紙を書ける人間にならなければならんのよ。それは何かに成功しなければということではない。自分が懸命に、ひとつのことに打ち込んでいるぞという自信を感じたときに、またおれは元子に手紙を書く」**という文通のためでしかなかったのである。凄え！
　海外修行の最中にも**「日記に元子の名を書く日が多かった。力道山の死を知らされてから、元子、元子、元子と名を書くだけの日もあった」**し、晩年になっても**「元子との静かな暮らしが幸福だった」**という馬場。こんな夫婦愛ぶりというか元子ラブな姿勢を小学生の脳裏に刷り込む、本当に素晴らしい一冊なのである。

板垣恵介の格闘士列伝

（板垣恵介／徳間書店）

　自衛隊空挺部隊出身の漫画家・板垣先生が、『刃牙』のフレーズ&図版を引用して格闘家を測定しまくる一冊。基本的には「やる側」かつ「格闘技側」の人なので太気拳に道場破りを敢行したりの感情移入できない物騒なエピソードも多いんだが、「やらない側」のボクでさえ共感できる主張も非常に多い。
　かつては**「格闘技をやる者の弊害──。他を認めない症候群に汚染されていた」**とのことだが、いまでは大山倍達の強さに疑問を抱きつつも人間力だけは絶賛し、合気道や中村日出夫&拳道会幻想にシビれ、プロレスも評価できるようになった板垣先生。
　ゆえに、どれだけ格闘技にハマろうとも**「猪木は本当に強いと今でも思っている。ファンにそう思わせるのが猪木の凄みだ」「大人になってくると、馬場の凄さってようやく見えてくるんだよね」**というBI砲の魅力を本書のみならず、作品中でも伝えてきたわけなのだろう。
「二人（馬場と猪木）に共通しているところは、多くの人に恩を感じさせてくれたこと。たくさんの恩を俺は二人から受けてきたし、たくさんのものを得た。彼等のとてつもなく大きな人間力、凄みってことだよ。長州力には、少しそういうモノ感じたけど、格闘王・前田日明に関して言えば、俺はそうとも思わない。プロレスの基本構図に格闘技のいいとこ取りを策した前田のやり方は、ハッキリ言ってズルイよ」
　そう、プロレスに寛容な板垣先生も、目次に**「UWFは疑似格闘技だった」「エセ格闘家よ、もう詐欺行為はやめろ！」「UWFという詐術」**などの物騒なフレーズを並べずにはいられないほど、U系だけには冷たいのであった。
　それでも、まだ前田に対しては**「前田は、模擬をやり通した。前田日明は格闘技側から見ればはぐれ者でも、一流のプロレスラー」「人間力では優れていたのかも知れないね。最後の最後まで、前田ファンには神様であり続けたんだから、稀代の名プロレスラーだと思うよ」**などと、レスラーとしては認めていた様子が伝わってくるからいいんだが、問題は高田延彦。とにかく、その嫌いっぷりたるや尋常じゃないのであった。
「高田はヒクソン戦以外で、真剣をやってほしかった。プライド3のカイル・ストュージョン戦。俺、リングサイドで怒鳴りまくったよ。『おかしいぞ、今の』って。マーク・コールマン戦しかり」
「高田は、格闘技側からすればペテン師みたいなもの。強いか弱いか、格闘技かプロレスか、それとも八百長かなんて言う前に、高田延彦、格好悪いんだよ、あなたは。つつがなく人生を送った普通人以下！」
　……どうしてここまでU系、なかでも高田を嫌うのかと思えば、**「プロレスラーの魅力、凄みっていうのは、UWFという模擬格闘技で、それこそ汚されてしまった、と俺は信じて疑わない」**ためなのだろう。
　つまり、ステロイドを服用しつつも、**「我が身を削って素晴らしい仕事をやってのけた」**ため、**「鬼気迫るプロレスを見れば、彼が弱い存在に映るはずがなかった」**し、**「アルティメット大会に出場したら、何かをやってくれたんじゃないか」**と思わせたダイナマイト・キッドに対して申し訳が立たない、と。なるほど、この批判には愛がある。
　だが、**「高田は、どうしようもなくなってしまったファンに支えられている」「現実にはもう最強じゃなくても、自分が信じた高田がいて、自分には最強に見えればいいと考えるファン。もう、ヒクソンには適わないことは知っている。高田より、強い格闘家は何人でもいることも、薄々気付き始めた。でも、そっちの現実を見ようとしないで、自分の中にある最強幻想だけ見続け、自分の支えにしようとしている」**という的外れな批判だけはどうかと思う次第なのだ。
　もはや、そんなファンなんて存在するわけもないし、念のために言っておくとウチも高田が最強だなんてこれっぽっちも思っちゃいない。
　ただし、そんな高田が絶対にやるわけないと思われていたヒクソン戦へと挑むなら、他のマスコミ（Show氏含む）が「勝てるわけがない」と冷ややかな態度を示そうとも、ボクらは必死に自己暗示をかけて試合当日には「高田が勝つ！」という精神状態にまで持っていった。そして敗戦後には思いっきり落ち込んだものである。それが覚悟を決めた高田に対する礼儀だと思ったから。
　高田を毛嫌いしてヒクソンを敬愛する「高田を認めない症候群」に汚染された人たちに、ボクは言いたい。かつてヒクソンが「作り事のある試合の混ざった興行には出場しない」と発言した以上、ヒクソンの出る興行は全ての試合がシュートであるか、もしくはヒクソンが嘘吐きの単なる守銭奴であるか、そのどちらかでしかないだろう。
　高田の試合が「あやしい」のなら、そんな高田との再戦にのこのこ出てきたヒクソンも同時に糾弾しなければ片手落ちでしかないのである。

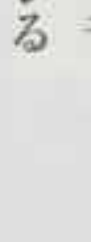
プロレス雑誌大戦争

（竹内宏介&ターザン山本／芸文社）

　19歳で『週ゴン』編集長となった竹内さんと、41歳で『週プロ』編集長となったターザンという同学年ながらキャリアも志向も全く異なる2人がお互いに編集の姿勢などを原稿でぶつけ合う、奇跡の共著。
　しかし、いきなり冒頭から竹内さんが少年期に好きだった力士や月光仮面なんかについてダラダラ描いていたりと、編集には思いのほか難あり。編集担当は誰かと思えば有限会社ストロングスタイルなのであった。それでいいのか、新日の広報雑誌！
　まあ、ターザン側の言い分に関してはこれまで何度も活字化されてきたのでここでは省略するとして、今回ツボだったのは竹内さんの知られざる暴走人生ぶりに他ならないだろう。
　弱冠19歳にして編集長となり、**「若気の至りで、かなり強引で身勝手な雑誌作りをしていた」**ため**「他の編集部の先輩の編集者たちからも、間違いなく反感」**を買い、**「編集長就任から僅か10か月足らずで私は会社を辞めさせられる結果となった」**というアウトサイダーな竹内さん。
　そんな竹内さんが目撃して衝撃を受けた、桜井康雄先生の**「アメリカから送られてきた単なるレポートも櫻井氏の手にかかると、たちまち興味深い原稿に変わった」**という東スポ仕込みのパワフルなリライト技術（＝捏造センス）。
　どちらも素晴らしすぎであり、しつこいようだが昭和のプロレス記者、万歳！　なのである。
　さらに、竹内さんは**「私がここ数年、誰にも言わずに温めていた〝夢〟についても書いておきたいと思う。それは〝山本氏と五分に組んで雑誌を作ったら、どんなプロレス雑誌ができるか〟という事であった」**という暴走発言まで勢いに乗って披露！　これにはボクもすっかり期待したのだが、**「今はこの〝夢〟を実現したいとはまったく思っていない。それは山本氏がこの業界のオピニオン・リーダー的な立場にいた時に、その価値があった事」**と、いまのターザンにまったく価値を見出さない現実的なオチを付けてしまうのも、さすが竹内さんなのであった。

極真外伝 ～極真空手もう一つの闘い～

（中村カタブツ君／ぴいぷる社）

　いつなんどきでも金欠の中年独身男・カタブツ君が、ビッグマネーを手にするべく『新宿ファイター』の企画協力と、ボクのスーパーバイズ&資料提供を受けて作り上げた、まさに奇跡の一冊。
　前書きと後書きが内容に似合わず無意味に堅苦しいことや、カメラマンのクレジットを入れ忘れていること、一部インタビューが手違いでタメ口になっていることなど問題もかなり多いとはいえ、予想以上に面白いのでボクは許す！
　なにしろ、基本的には極真がキックなどのプロ興行に進出したときの証言集なのだが、極真がプロ空手をやったときには**「見てわかる通り、ガチンコじゃないから。自分がシナリオを作ったんだけどさ」**（郷田勇三・談）などと、つまりはワークであったことを関係者がハッキリと明言しているわけなのである！　凄え！
　それも、**「ある程度の技の出し合いがあってから、それで最後に合図があるとこういう決め技がくるぞと（笑）。気合いを大きく入れるとか、あるいは改めて構え直すとか」**（廣重毅・談）や、**「審判の方が『佐藤さん、何ラウンドで倒しますか？』って聞いてくるから、『え？』って（笑）。そしたら『プロってそういうものなんですよ』って言われたんで、しょうがないから『2ラウンドで、飛び後ろ回し蹴りでどうですか？』」**（佐藤勝昭・談）と、無意識のまま細かく描写しているから、もうとんでもない。本人は「それってヤバいの……？」と言っていたが、これはワークのやり方をキッチリ書いた、おそらく史上初の書物なのである。
　シュートを超えたものがプロレスであったように、いわばワークを超えたものだった極真空手。
　そもそも、いまでこそストイックなイメージの極真も、元はと言えば俳優が指導員をやり、館長は俳優の姉と結婚し、各界の有名人を次々と弟子にして、積極的にTVや映画に出演し、梶原一騎&真樹日佐夫先生の力で凄まじいまでのプロパガンダを繰り広げた、邪道拳の名に相応しい素晴らしくプロフェッショナルな流派であった。
「『松井が館長になってからプロ化してる』とか言う人間もいるけど、『ちょっと待て』って話だよ。オレがプロ空手をやったのは誰の指示？　ウィリーが猪木とやったのは誰がやれっていったの？」（郷田勇三・談）
　まったくもってその通り！　だからこそ、ボクがこの本で掲げたテーマは「対世間」であり、千葉真一、長嶋一茂、マッハ文朱といったシビレる面々のインタビューを取り（当初は渡嘉敷勝男、志穂美悦子、ジョニー大倉、長渕剛なども予定）、映画や漫画、歌も含めたメディアミックスぶりも検証すべきだとアドバイスしたわけなのである。
　ボクの命名した仮タイトル『極真カラテ地獄変』が版元の意向により却下されたのは非常に残念だが、それでも寛水流・水谷館長が猪木に挑戦したときに勝負を受けると宣言したのが殺人空手・大塚剛だったの、猪木の後でアリに挑戦を挑んだのも大塚剛だっただのという「プロレス界ちょっといい話」もたっぷり聞き出したカタブツ君の仕事っぷりは、ズサンながらもいい感じ。
　編集作業中、自宅で凍死しそうになったり、寝不足でパニックになって同じ話を3～4回繰り返さないと何を言っているのか理解できなくなったりと駄目っぷりは相変わらずではあったんだが、結果良ければ全て良しなのである。

いつもの場所から
お引っ越し

シロウト勝ち抜き筆自慢!

PRIDE.0 ゼロ

のっけから謝罪する。今号でお披露目予定だった「紙プロ特製『PRIDE.0』チャンピオンベルト」はベルト職人のホセ(メキシカン)が風邪で寝込んでしまったため、いまだに(1月14日現在)完成しておりません。VIVAすんまそん。次号では必ずや、左のマスカラスさんが巻いているような素敵なチャンベル(業界用語風)を披露します! さらに『PRIDE.0』初代殿堂娘の武田いづみちゃんから「ベルトは私やマシジュンさんももらえるのですか? ていうかくれ!」とのFAXが届きました。ここはUFC方式採用で、殿堂入りした人すべてにチャンベルを贈呈することにしました。いづみちゃんもマシジュンさんも軽い感じで(まこちゃん風)待ってて下さい。誰がなんと言おうと、立会人はオレだ! 書くのはキミだ! リザーバーはタチだ! 『PRIDE.0』続行ッ!!(チョロ)

前号の結果発表!　／　感想

ライセンスナンバー18
森下潤一さん
『こばしクンを訪ねて』
90票

●「小橋ポイント1万点DE森下潤一!! 還暦母万歳!!」(鳥取県/米原宏美/21歳) ●「俺も学校でプロレスごっこして2階から落ちた事あります。まさに『市来がゴーン!』でした」(静岡県/横田賢/31歳) ●「森下さんの作文は京美人より美しいスよ」(千葉県/武田いづみ/19歳) ●「天下の小橋選手をバカにしているか、していないか紙一重だったから」(愛媛県/谷口健一/29歳) ●「森下ファンになっちゃいそうです♡そんな、あなたにラリアット♡」(三重県/宮崎文子/20歳) ●「感動的なお話でした。母上様イカしてる」(和歌山県/鈴木三枝/27歳) ●「彼の素朴でとぼけたプロレス愛にはいつも心洗われるっす」(神奈川県/モン茂男/33歳)

ライセンスナンバー22
ジャイ子さん
『ヒマ潰しの告発』
84票

●「だってジャイ子があっさり負けたら誌面的にプロレス成り立たないもん」(広島県/浦野晋/35歳) ●「『紙プロ』版ケーフェイみたいだから」(山梨県/鳴田繁/29歳) ●「ジャイ子の怨念に乾杯(完敗)」(大阪府/舞田祐士/22歳) ●「死んだはずだよジャイ子さん。『妖怪通信』といい、追放になった後もお盛んである。とりあえず内部告発チックな続きの展開を願って一票」(青森県/青木雄大/24歳) ●「ぜひベルトを獲って、爆弾発言(ヤマケン風)して下さい」(千葉県/神子佳世/17歳) ●「全くもってダメ具合が文と写真からひしひしと感じられる。でもダメ人間がとても好きなので、これからも恥をさらしてほしい」(東京都/堀貴秋/23歳)

ライセンスナンバー21
アキラコ1号さん
『「U」って何じゃい』
71票

●「匿名希望の彼女は次回も書く気なのだろうか。心を鬼にしてアキラコ1号に決定」(東京都/キャプテン名倉/30歳) ●「『PRIDE』でも、小川と高田はプロレスだけど安生と前田はシュートだから」(神奈川県/金子信彦/23歳) ●「本当にUって何なの?」(大阪府/村田忠陽/19歳) ●「試合のみでなく興行全てを面白がる感じの所。あとアキラファンだから」(東京都/村田卓実/19歳) ●「アキラコ1号さんに一票入れさせてもらいます」(愛知県/真下純子/鬼嫁) ●「私も小路さんは大好きです。ガンガンいってくださいガンガン!」(北海道/堀川奈美/25歳) ●「え〜と、自分に一票。もう少し書かせて下さい」(静岡県/アキラコ1号/28歳)

3戦勝ち抜き

ライセンスナンバー18

『ボブとケアーに贈る言葉』

森下潤一(26歳)

マーク・ケアー。霊長類最強の男。シカティックをしばきあげ、オタービオの腕をもぎ、ウゴの足を踏み潰し、高田さんを3分で、あの世に葬った、恐ろしき男(一部誇張)。

しかし、そんな強い強いケアーも『PRIDE7』でのボブチャンチン戦で、無惨に崩れ落ちてしまいました。

膝蹴りをガンガンくらい、「ウワ〜、やられたケア〜」と沈んでいく姿は実にカッコわるかったです。さらに試合後「あれは反則だケア〜」とレフェリーに詰め寄る姿はマジで悲しかったです。

それに比べ、堂々と勝ち名乗りをあげるボブの顔は最高に素敵でした。「おい、ケアー。なめるのは、ボボとチンチンだけにしときな」と言わんばかりでした。

僕はこの日からボブファンになりました。

2ヶ月後の『PRIDE8』。ボブはブエノをパンチ3発でKOし、会場を興奮のるつぼにさせました。嵐のような歓声。沸き上がるボブ大コール。それらに混じって、聞こえてきた「ギリギリ」という欠場中のケアーの歯ぎしり(僕だけか?)。

ボブの強さが確信に変わり、僕はますます彼のコトが好きになりました。

そしてボブへの思いが決定的にともなったのは、それから2日後の『PRIDE.GP』の記者会見でした。

この日、何と小川さんが高田さんに殴りかかるという大ハプニングが起きました。「あわわ、前田さんに続いて、今度は高田さんがやられてしまう」

誰もが思った、その瞬間、真っ先に小川さんを止めに入ったのがボブでした(グッドリッジも止めたが話に関係ないので黙殺)。

高田さんのため、その身を犠牲に立ち上がり、見事に血の惨劇を回避した、われらがヒーロー、ボブチャンチン。

そういえば金八先生も言ってました。「困っているクラスメートを助ける勇気。それを持てない人間はどんなにいい成績をとってもダメ人間です」と。

まったくボブは優等生です。

奇しくも、彼は僕と同じ26歳。もしかしたら、同じクラスになっていたかも知れません。

こんな頼もしいクラスメイトがいたら、恐いものなんてありません。不良に呼び出しをくらっても、ボブが殴って一気に解決してくれますから(もっとも、自分がボブに呼び出しをくらったら最悪なんですけどね)。

さて話は変わりますが、僕は金八先生が大好きで、毎回かかさず見ています。

先日もこんなに素晴らしい台詞を言ってました。

「世間ての は綿菓子のようにあまくないんです。ビールのような苦さもあるんです。いろんな味があって人生なんです」

まさに今のケアーにピッタリの言葉。英訳してケアーに贈りつけたやりたい、そんな気分になりました。

また、金八先生。別の回では「君たちは見て見ぬフリして楽しいんですか?」などと、生徒よりも、プロレスのレフェリーにとって、耳の痛い台詞を吐いてました。

教育界だけでなく、プロレス界、格闘技界にまで、苦言・提言を発する金八先生。

こんなに熱心な先生が実際にいれば、非行に走る生徒なんてほとんどいなくなるのになあと、僕はつくづく思います。

しかし、この考え。姉に話したところ、彼女はこんな事をほざきました。

「まあな。アイツが担任やったら、常にカメラまわっとるからな。おちおち煙草も吸えんわな」

……姉。このバカチンが!

(東京都/キャプテン名倉)4点
★うまそう邪ねえか!

でっかいリザーバー

ライセンスナンバー21

『ヒマ潰しの告発』第二回

ジャイ子（27歳）

勝手に「連載宣言」したにもかかわらず、前回なに書いたか忘れてしまった。私にとって『紙プロ』は、いまとなってはその程度の存在である。『Cutie』は可愛い服がいっぱい載ってて楽しいし、『TV Bros』は毎日の生活には欠かせないし、『週プロ』は試合会場調べるのに便利だけど、『紙プロ』ってねぇ……。興行日程は抜けてるし、日にちとか時間も間違ってるし、団体の連絡先も間違ってるしさぁ……、あ〜〜〜!! ジャイ子が間違えたんだったぁ〜!! ま、いいや。辞めたわけだし。どうせみんなも『紙プロ』なんて、そんな信用して見てないでしょ？ ドンマ〜イ♡ そのかわりさ、みんなダブルクロスのこと知りたいみたいだからぁ、書くのめんどくさいけど教えてあげるね。ジャイジャイ。

あわてて前号の『紙プロ』を見たら、「ジャイ子」と名づけられたところまで書いたことが判明、そして、「執拗なイジメが始まった」という興味津々な言葉で終わってるけど、なにされたっけ？

とりあえず、株式会社ダブルクロスに携わる人間は、幼少の頃「他人の身体的欠陥を言ってはいけない」とか「挨拶は必ずする」「暴力を振るってはいけない」とか、基本的なことをしつけられた人間が少ないみたい。（これはカタブツ君に限るけど「パンツ一枚で会社の中をうろうろしない」っていうのも）。挨拶は無視されるでしょ（主に吉田豪）、顔をあわせるたびに「ブス」だの「巨人」だの呼ばれるでしょ（カタブツ君&デブ）、カタブツ君なんて、「向こうでクリ●リスでもいじってろ！」とか「オマエなんかとは金もらってもやりたくない」って、なんの脈絡もなく言ってくるし（嫁に逃げられてからは風俗譲しか相手がいないクセにね、バッカみた〜い）。と、ここまでは言葉の暴力。それでもさんざん泣かされたけど、もっとひどいのは「スパーリング」という名の私刑。油断してるとすぐにタックルされる会社ってある？ 特に『凄技』を見てからのチョロメ〜ンの上達ぶりは恐ろしかった。でも関節極められるのなんてまだマシ。

いつ頃か忘れたけど、深夜、会社の床に頭から落とされたことがあった。犯人はカタブツ君。事故みたいなもんだったんだけど、パワーボムの要領で頭を強打。ジャイ子は受身の重要さを説いた馬場さんの顔を思い出しながら床に這いつくばって号泣するのみ。痛くて泣いたのはいつ以来だ？ ジャイ子が泣いたとたん、周りにいたスタッフ全員が黙って自分の席に着き、黙々と仕事を始めた。なにごともなかったように。「始発で家に帰って、二度とここにはこない」「告訴したら刑務所に入れることができるか？」「頭打って狂ったフリして、刺し殺したら罪にならないか？」などと考えていたのに、怒り疲れたスキを突かれて、うっかり「もういいよ」と言ってしまった。

この事件で学んだことは「受身は大切」ということと、「人間、スキを作ったら負け」ということだった。

あ〜、書いてたら頭痛が始まった。思い出すことすら身体が受けつけないみたいなので、このへんで今回は終わりにしま〜す。

あ、会場とかで読者の人によく聞かれてめんどくさいので書いとくけど、ダブルクロスの人間はホントにみんな仲悪いで〜す。ジャイジャイ。

（宮城県/紺野絵理/21歳）3点
★「ジャイ子のパーマがよい。今後もぜひ見たい」あっそ。

ライセンスナンバー19

『すべての若きテキサンども』

出渕パパシャンゴ誠（25歳）

「社長」になるってことはすごいことだ。ある会社の「長」になるんだから。

例え中卒でも関係ないぜとばかりに、日本のトップ企業の一つである新日本（ホメてます）の社長になったドラゴン藤波。「ちょっと馬場さん死ぬの早すぎてタナボタで社長になったけど、川田が副社長ってアレだよね」とか言ってそうな、足利工大付OB三沢（ホメてます）。ちょっと前なら、IWAジャパンの社長だった山田（痛いよ！カブキさん！）。血縁関係大事にしすぎの天龍WARの武井社長もすごい。

「長」になるといえば州知事になったジェシー・ベンチュラもすごいし、国会議員・馳や比例代表に名前だけ載った堀田も凄い。みんなマット界の出世頭だ！（あとルミナ専務も）。

でも、ちょっと待った！ ドラゴンや三沢は社長は社長になりたかったのか？ 堀田は政治したかったのか？（猪木は政治したくて国会議員になったであろうが）。

そう考えると、出世とは何かわからなくなってきた。そこで私は独自の出世論を定義することにする！ 私の定義する出世とは、基準を本人として、本人の希望と満足度によって計るものとする!!

これを踏まえて出世を考えると、ブッチャーに憧れて、アブドーラ・ナカマキになったはいいが、テリー・ファンクに「オレのフレンドのマネはやめろ！」と言われた中牧は出世度75、和製ブレッド・ハートを目指した中川浩二は45（だって根付かなかったもん）となる。

しかし最近になり出世度92（当社測定）を記録したレスラーがいたッ！

その名は船木勝一!!（以下ショーン）。

藤原組からバトラーツ、みちのく、海援隊DXを経てWWFに上がったドリーマーだ。

そのくらいのキャリア大したことないって？ 確かにTAKAやウルティモ・ドラゴンはもっと成功してるし、ドラゴン社長はMSGでベルト獲ってるし、それらに比べればショーンは大した実績はないに等しい。

しかしッ！ オレの出世論では海外でトップとったとかは関係ねえんだよ！ 重要なのは個人の充実度、満足度によるんだよ!!

ちっとその理論をショーンに当てはめてみよう。藤原組、初期バトラーツ時代、特にUスタイルが出来ていたわけでもなく、みちのくと絡んでも、少しだけルチャに理解があるから都合のよい使われ方をしていたショーン。石川社長と新日Jrタッグリーグに出てはボコボコの恥さらしになっていたショーン（失礼）。

それが今や、家族とテキサス在住の（テキサスというのがポイント！）プロレスラー。しかも、ショーンが憧れに憧れていた、ハートブレイクキッド・ショーン・マイケルズのジムで同じくショーン・マイケルズに憧れているボーイズたちにプロレスを教えているというから、どーよこれ!! ホセ・ロザリオにも師事してたし、しかもショーンが住んでるテキサス州サンアントニオはストーンコールドも住んでるらしいし。

どうですか？ これが出世ってなもんだよ。だって憧れのショーンに勝一（ショーン）が急接近だもの。

これは例えるなら、池田大輔が長渕とツアーするとか、リングス成瀬がBzのドラムしてるだとか、神取がYOSHIKIとユニット組む（V2）とか、故パンクラス長谷川が青木裕子と……（失礼…合掌）とか、シッシーが鈴木みのるとサウナとかに匹敵、いやそれ以上のことだッ!! まさにDIYの精神で、テキサスコーリングてなもんだッ！ 違うか!?

正直いって、日本ではショーンのこと馬鹿にしてた。でも今、ショーンがサンアントニオで、ジムの練習が終わってショーン・マイケルズやホセ・ロザリオと遅めのランチを食っているところが目に浮かぶよ……。まさにショーンドリームキャプチャーだ！（恥）。

おわり

（愛知県/たっつあん）4点
★社長もつらいよ2000！

今号参戦の3選手の中から、あなたが一番面白いと思った作品と、その理由を書いて投票して下さい（応募方法はP175参照）。その中で一番得票を集めた選手は勝ち抜きとなり次号も参戦してもらいます。掲載者全員には立派な表彰状、見事5戦勝ち抜いた方には『紙プロ特製チャンピオンベルト』を贈呈し……**んなこたあどーでもいいんだよ！**『PRIDE.0』ではオマエら（失礼）からの投稿をガンガン募集してるから、参戦希望選手は400字詰原稿用紙に一言〜5枚程度（内容はマット界関連のことなら、なんでもOK）、住所、氏名、年齢、電話番号を明記し、ついでに顔写真（イラスト、プリクラでも可）を同封の上、

〒151-0051
東京都渋谷区千駄ケ谷3-11-13-702
ダブルクロス『紙プロ』編集部
「花びら大回転エビ固め」係
まで送ってくれ！

ただし、ページの都合上、文章を一部変更、割愛することもあるから各自注意しな！

1、2、3、ファイヤー!!

●締切は2月15日（当日消印有効）

◀恒例のヨーロッパ旅行での、山本の

コピィロフお前が優勝だ〜！

ザ・検証

【今月の検証①】
プレステゲーム
「ファイティング・ネットワーク・リングス」

「ファイティング・ネットワーク・リングス」
(Naxt Soft)

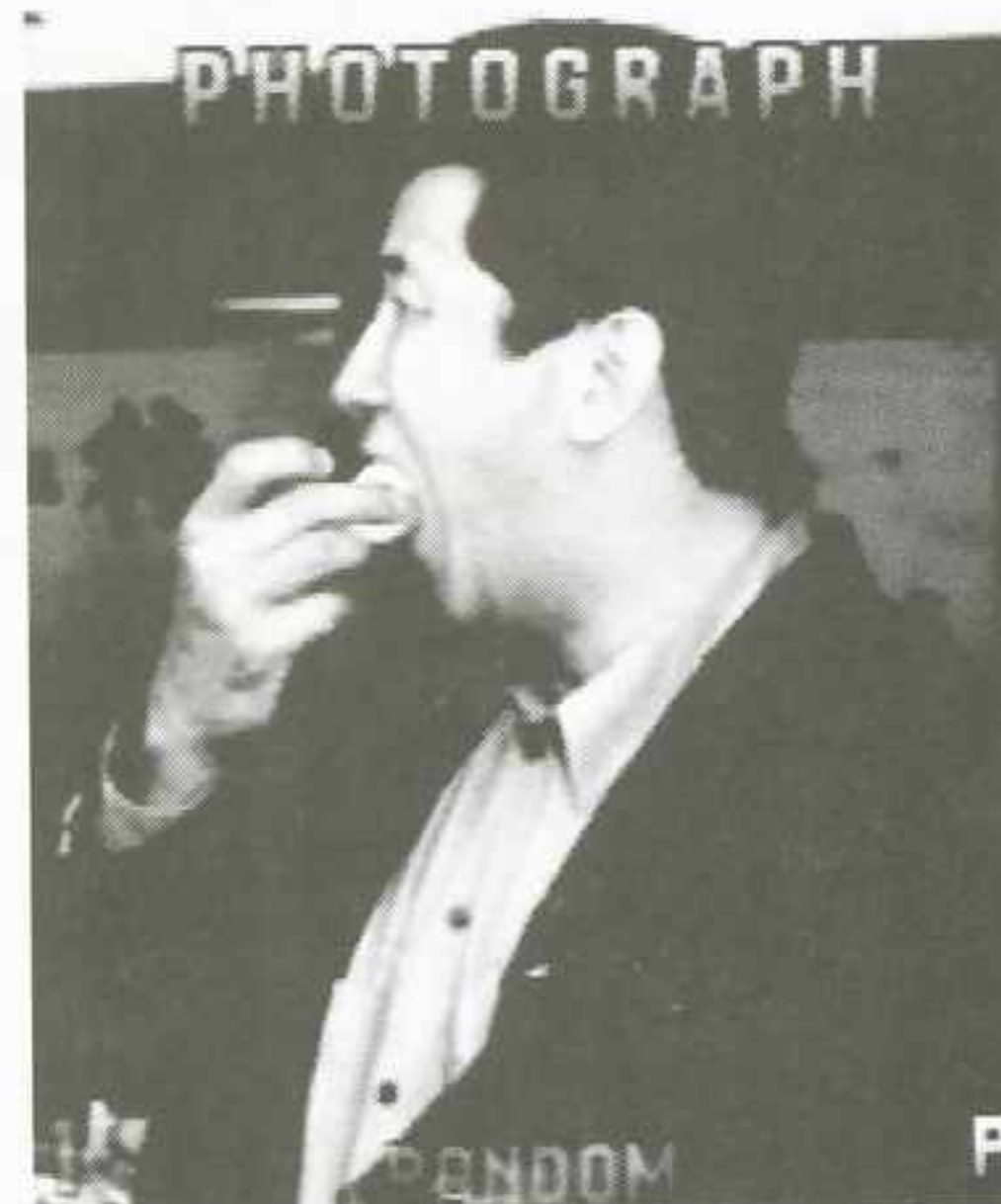
椎名基樹 & せき詩郎の

ザ・検証

プロレス点と線

プロレス・格闘技に関する事柄に、火の無い所に煙を立てて、自分で悩むページで〜す。と、いうことで、ゲーリー・オブライト選手に謹んで追悼の意を表しまして、2000年代最初の検証スタート!!

▲ロシア美人を口説く、前田日明氏。

▲恒例餅つき大会。

◀大きなお口で、おにぎりを頬張る前田日明氏。自らをお米人間と評するだけあって見事な食いっぷり。

◀餅つき大会にて。またもや、お餅を頬張る佐山チックな前田日明氏。真っ赤なハッピが、ドラえもんのような体型を際だたせております。

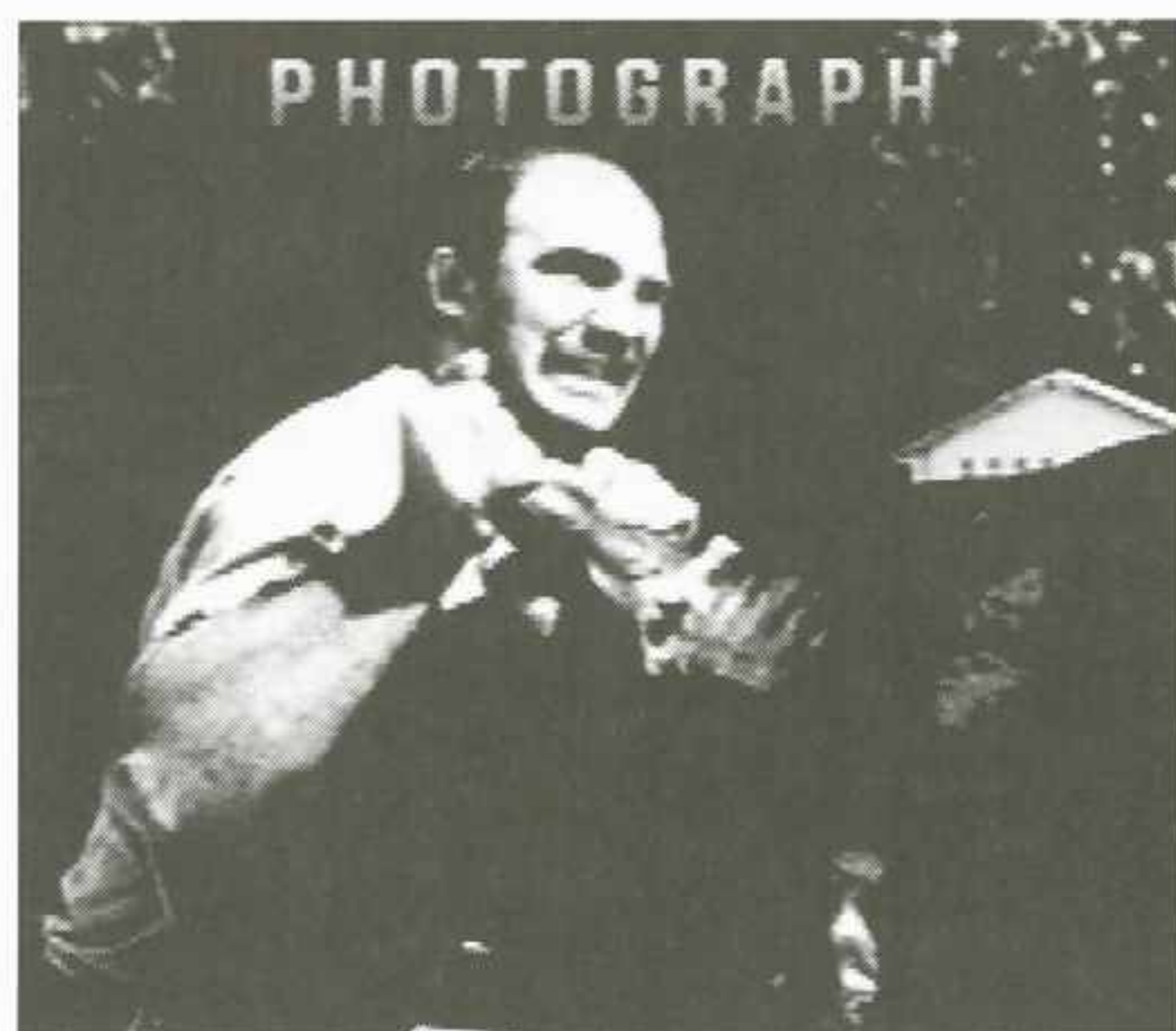
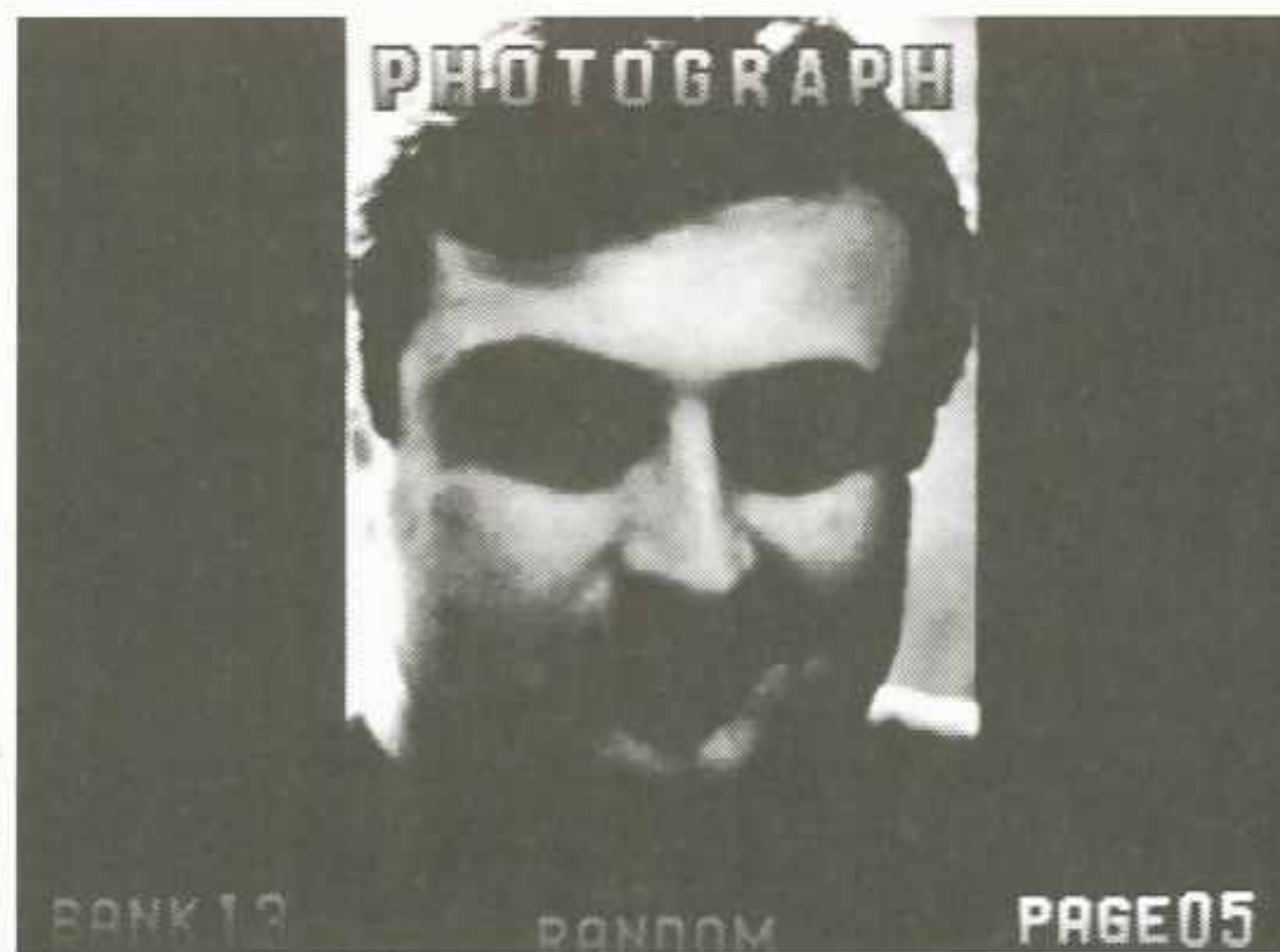
◀コロシアムでゴンタ顔。ドロボーコントもしくは、集金のような黒ジャンパー。前田氏の独特なファッションセンス（メガネ、髪型等）はファンの間で時々話題となってるハズ。

▲ヒクソン戦後でしょう。アイスで口説く、ボコボコの山本選手。

▲愛を確かめ合う、日本が世界に誇る、ファイター&レフェリー。

▲カール・ルイスだ〜！この頃から高坂選手のアメリカ志向がうかがえる、一枚。

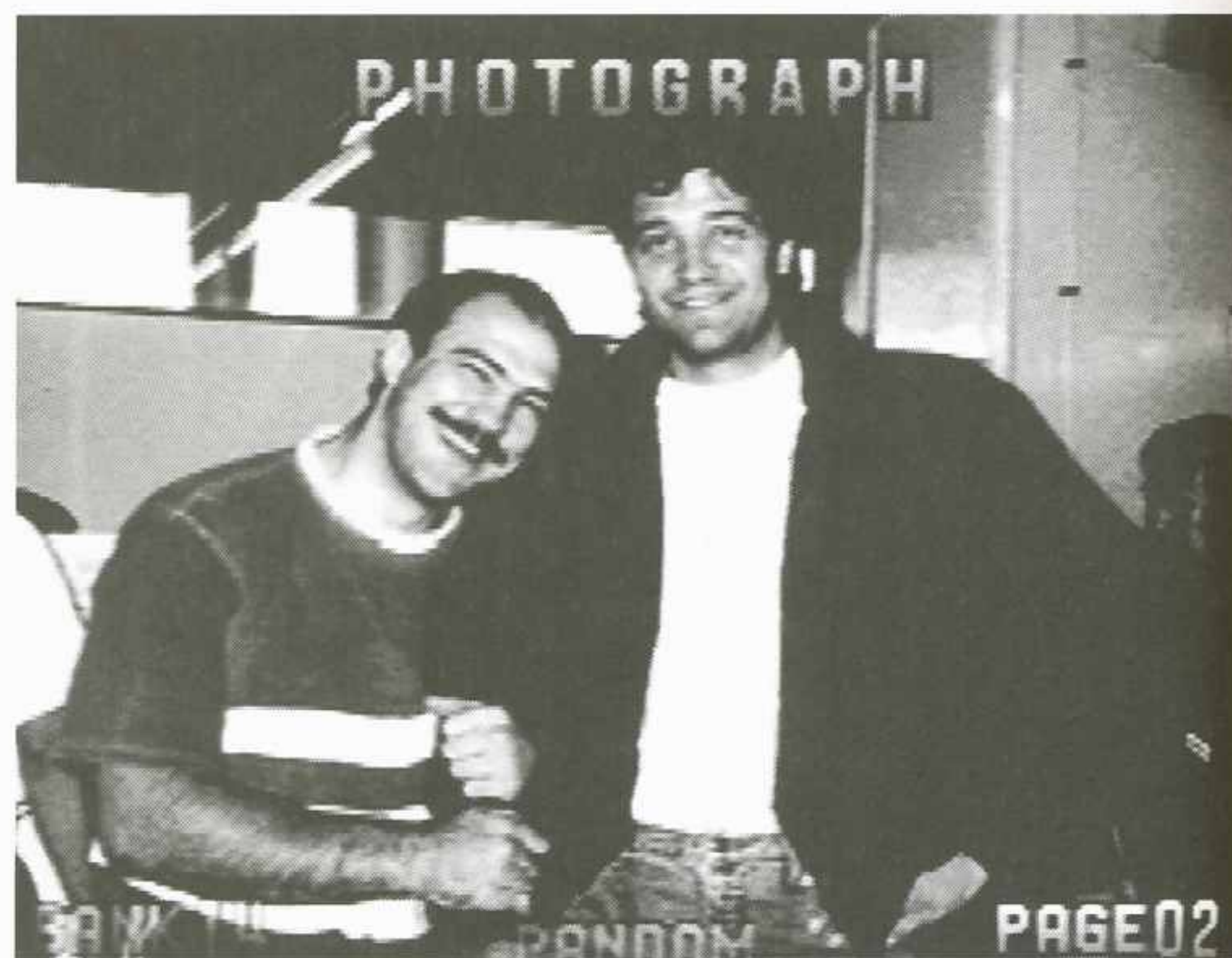
ザ・検証 0

▲恒例のヨーロッパ旅行での、山本の超絶ファッションはファンも毎年楽しみ。

▲津川雅彦主演「シャイニング」。赤いスパッツで度肝を抜いたタリエル選手でした。

▲牛の置物と格闘する、コピィロフ。

▲(髪の毛が)在りし頃の、ただいまブレイク中のコピィロフ選手。

▲おちゃめなピータース。

▲ディズニーランドにやって来た、ロシア勢。タリエル君はちょっとブルー。どうしたのかな？

▲大きなゴチェフ選手に甘えるコピィロフ選手。KOKトーナメントは絶対お前が優勝だ～！

コピィロフお前が優勝だ～！ってことで、行ってきましたリングス大阪大会。シビれたゼコピィロフ。俺はお前を見に行ったんだぜ～！　この大会、田村がグローブを着けるのか、ハンは？タリエルは？と、興味津々でありました。ましてや、代々木大会の衝撃は大変なものでしたし、UFCJ、安生のテロ、ヤマケンの発言と続き、コレは見逃せねえと、飛んだワケであります。結果、いろいろ興味惹かれる事柄はありましたが、なんと言っても印象に残ったのはコピロフ。様々な総合のスターが生まれる中、あのハゲたおっさんが優勝したら、ザマーミロですよ。8秒殺、リングスの佐藤ルミナ。比較してみてよルックスの違い！

と、いうことで、今回のザ・検証は、きな臭い事件が続く中、ゲームソフト「ファイティング　ネットワーク　リングス」というソフトの中に収められた、スナップ写真があまりに面白かったので、ココに紹介いたします。安生さん、そんなに目を真っ赤にしてないで写真をよく見てくださいな。前田さんは、素敵な方ではありませんか。

と、いうことで、緊張感0（ゼロ）のリングス勢をごらんくださいまし。（椎名基樹）

ザ・検証

【今月の検証②】

越中の21発

♪大騒動を憶えているかい？　楽観主義に乱痴気舞踏会はどう？　ロックンロール・レイディオを憶えてる?♪　というわけであなたは1997年4月12日に行われた越中vs石川（孝志）を憶えてる？　記録を細かく紐解けば残っているかもしれないが、記憶には残っていないこの試合中、越中は21発の技を繰り出す。そう、まるで1979年の近鉄vs広島の日本シリーズ第7戦で江夏が投げた21球の様に……。どうでも良い試合が今おぼろげに蘇る！（参考文献・山際淳二著『江夏の21球』）

『石川一家の石川選手は、今でもそんなはずがないと思っている。

試合終盤である。石川、怒涛の攻撃。越中は足を痛めチャンス。石川は越中の足を攻める。相撲タックルで越中を場外へとふっ飛ばし、エプロンからニーを落とす。試合の流れは、追い上げ、攻めたててきた石川に向いている。

場外には平成維震軍の越中がいる。越中は場外での大技を警戒していた。越中が立ち上がった時、石川のセコンドはブレンバスターのアドバイスを送った。

その場外ブレンバスターはみごとにかわされる。越中の身体は宙に浮かず、しかも、スルリと石川の背後に移動した。

石川が体は空しく揺れ動き、越中の動きをとらえる事ができない。石川はそのまま鉄柱へと投げられ激しく激突。そこに越中のヒップアタック。鉄柱と越中の尻に挟まれた形になりながら石川は、ブレンバスターが見破られたと、気付く。

その一発のヒップアタックが、鉄柱と尻との間に挟まれた石川の頭の中にいつまでもひっかかっているのだ。

石川選手の話――《越中の出したあのヒップアタック、あれはホントに意識的に出したのか……。信じられんのですよ。他の技を出そうとして偶然尻が当たったんじゃないか。よけられない技じゃなかった。ヒップアタックってのは、鉄柱に向かってやるもんじゃない。ところがヒップアタックだった。それだけに信じられない……》

しかし、間違いなく越中のヒップアタックは石川の頭を鉄柱と尻との板ばさみにしたのである。

偶然ではなく、である。

東京ドームにはごくわずかな石川ファンがいた。石川ファンはここで落胆しなければならない。

しかし、このシーンに吸いこまれた人間の気分は落胆というものではなく、むしろ興奮だった。濃密に急展開する時間の中には興奮しかない。

《丁度ヒップアタックとサンドイッチ状態になりました！》実況中継のアナウンサーはマイクを握りしめた。

その一発は、この試合、越中が繰り出した技の中では16発目に当たる』

かなりのフィクションが混じってはいるが、この試合の鍵（南京錠）は越中の、このヒップアタックにあった。石川の頭部を自らの尻と赤コーナーの鉄柱で挟み込む形になったヒップアタックである。越中の尻によって生み出された衝撃が、鉄柱によって逃げ場を失う。同時に尻が直撃した部分のちょうど裏側から、鉄柱激突の衝撃もプラスされるわけである。やられる方はたまったものではない。事実この一発で石川は一時戦闘不能状態になる。その証拠にこのヒップアタックの後、場外カウントは20近くまで数えられ、石川はあわやリングアウト負けを喫してしまいそうになるのだ。

それにしても他人の尻と鉄柱（言い換えれば"人肌と金属"、つまりは"有機物と無機物"）に挟まれるなどという経験は我々一般人にとっては無縁であろう。しかし石川は確かにそれを経験した。そんな珍体験ができるだなんてプロレスラーは凄いなあ、と驚くほど単純にかつ周囲をギョッとさせる発想で感動してしまう人も多いのではないだろうか？

話を主役、ヒップアタックに戻そう。まずはこのヒップアタックが出されるまでの数十秒前までさかのぼり説明すると、試合後半、一方的に攻めこまれた越中は石川のタックル（相撲タックル？）で場外へと落とされてしまう。そして場外の越中の背中に石川はニードロップ（相撲ニードロップ？）。石川はここで大技を狙う。場外でのブレンバスター（相撲ブレンバスター？）だ。しかしこの攻撃は案の定かわされる。間髪入れずにバックに廻った越中は石川の身体を鉄柱へと投げつける。加速度が付いた石川はなすすべなく鉄柱に激突（相撲鉄柱に激突？）！　それでも石川は、これから立ちあがろうとする産まれたての小牛のように、ヨロヨロと立ちあがるわけだが（相撲ヨロヨロ？）、すでに越中の尻弾は石川に標準を合わせ発射されていた、というわけである。

石川もコメントしているが（本当はしてない）、あそこでヒップアタックがくるなど誰も想像できないだろう。なぜなら鉄柱があるのだから。ヒップアタックは相手に背を向けた形で飛んでいく。であるから、相手がまだそこにいるのか、はたまたよけているのか、それとも全く見当違いの方向へ飛んでいるのか、宙を舞うわずかコンマ数秒の間に様々な思いが交錯する、終わってみなければわからない技なのである。いちかばちかの賭けである。当たって砕けろ精神が強く要求されるのだ。つまりこの場合、石川がヒップアタックをかわしたとすると、越中は鉄柱にヒップアタックすることになるのである。鉄柱に激突である。百戦錬磨の越中の尻も硬い金属には歯がたたないであろう。下手すると後頭部を痛打し兼ねない。

しかし越中は"尻"に自らの命運を預けた。

それが鉄柱付近にいた石川には信じられない。あそこでヒップアタックを出してくるなんて、しかも助走を取り勢いをつけて飛んでくるなんて……ありえない。

瞬時の出来事である。（私の頭の中を瞬時によぎった妄想でもある）

『1997年4月12日。

東京ドームで新日本プロレスの興業が行われている。メインの橋本vs小川に向かってカードが消化されていた。試合は4試合目の小島&平田組vs木戸&山崎。4人のルックスから、一見サウナの喧嘩、土木業者が入札を巡ってのいざこざに見えるこの試合は、山崎隊が主導権を握る形で試合は進んで行く。

越中がこの日、東京ドームのリングに上がるのは、その直後の試合。『平成維震軍VS石川一家・大将戦』と銘打たれたものだった。

予定の行動だった。

試合が始まるころ、越中はそっと控え室を出てロッカールームに向かった。それもまた、越中のいつもの行動だった。維震軍総大将になってからできあがった習慣である。トレーナーがやってきて入念にマッサージを始める。越中の尻は、そういう事でかろうじて保たれていると言っても良かった。越中はプロレス入り以来、公式戦だけでも数え切れないほどのヒップアタックを繰り出してきてるのだ。

時折、ドッと歓声がロッカールームにも聞こえてくる。木戸が脇固めを極めたのか、平田が面白い顔（ちょっと怒ったような顔）でもしたのだろ。その歓声が聞こえる度に、越中は筋肉を緊張させる。そして、自分の出番が一秒一秒近づいてくるのを、肌で感じとっていく。

試合が終わるゴングが聞こえた。《行くって》といって越中は起きあがった。それも、いつもの行動だ。そのまま、リングへと向かった。

第5試合、越中がリングに上がるとき、会場からは大歓声である。ガウンを脱ぎ捨て、トップロープに自らの両腕を絡め、前後に激しく体を揺らした。すでに気合いは充分、というには言葉が足りないほどの気合いが前面に押し出されすぎている。試合は越中を軸に動き始めた』

またまたフィクションが混ざっているが、というよりほとんど嘘だが、こうして大将戦が始まる。大将以外の者が予め闘い、その決着をつけるための大将戦ではなく、唐突に、いきなりの大将戦である。

試合は越中のペースであった。後半石川の反撃が始まるまでに越中は14発の技を石川にぶつけ

る。そのひとつひとつを順番にわざわざ解説してみたい。

1発目・パンチ……開始早々、石川がなんとプランチャ（相撲プランチャ？）。それが悔しかったのか越中はヤツ当たりのように石川一家の若手を蹴散らす。そしてリングへと戻り石川の額付近にパンチを打つ。

2発目・ドロップキック……このドロップキックで石川は場外へと落ちる

3発目・ヒップアタック……エプロンサイドからのヒップアタック。落下加速度が威力を増大させる。この試合最初のヒップアタックである。

4発目・ヒップアタック……石川の頭をわし掴みに固定しながら、腰骨の辺りを顔面へと打ちつける。

5発目・ヒップアタック……4発目同様、石川を固定してのヒップアタック。勢いに乗って3連続を狙うが、かわされる。

6発目・つま先蹴り……石川は時期尚早と思えるほどのDDT（相撲DDT？）2連発のあとドラゴンスリーパー（相撲ドラゴンスリーパー？）。この絞めから逃れるために越中は身体を折り曲げるようにして石川の額部分をつま先で蹴る。

7発目・パンチ……石川の頭頂部辺りにパンチを打ち下ろす。パンチと言うよりお父さんが子供を説教しているようなゲンコツ。時折、越中は手が痛そうな仕草をする。

8発目・張り手……やはり先のパンチで手が痛くなったのか、張り手に切り替える。

9発目・スリーパー……石川を絞める。石川、タップとも取れる動きをさりげなく。ベテランの味。

10発目・スリーパー……ロープへ飛ばし、戻ってきたところをスタンドでスリーパー。そのままグラウンドへと持ちこみ胴絞めスリーパーへと移行する。

11発目・スリーパー……再びロープへ飛ばしてのスリーパー。別にロープに飛ばす必要は無いのでは、と会場の観客全員の思考が一致した瞬間！

12発目・ブレンバスター……なぜかスリーパーを諦め、いきなりブレインバスターで試合のリズムチェンジ。オルタナ！

13発目・ストンピング……マットに石川を固定するかのようにストンピング。

余裕をも感じる試合運びと、不器用さを感じる技のチョイス。これぞ越中！　大技があとひとつでも決まれば、このまま試合は終わるかと思われた。期待通り、越中はトップロープへと登る。

しかし、それから約6分間、越中は東京ドームのリング上で、“勝者”と“敗者”対角線上を激しく往復する。

『越中がトップロープに登っていく。これでフィニッシュだという気負いはとりたててなかった、と越中は語った。越中は、こんなふうに考えているのだ―。

《この試合が終わればもう石川と試合をしなくてもいいって。勢いをつけてインディ統一ですよ》

リング上では石川が大の字になってのびている。越中はトップロープからのニー・ドロップを自爆することはまずないだろうと考えている。

《フィニッシュでしょ。とにかくコレが最後なんだって。相手はグロッキー状態。それでトップロープからニーを落とした。それをサラリとよけられたって……》

ドラマは唐突に始まった。越中のニードロップはコンダクターのタクトだった。その身体が落下したとき、最終楽章はアレグロで動き出す。東京ドームのグラウンドは擂鉢のそこのように見える。急勾配のスタンドの歓声が、テレビのボリュームを突然大きくしたようにどよめき始めた。』

元ネタに忠実に書いたため、表現が大げさになっているが、なんてことない、越中のニードロップはかわされたのである。自爆したのだ。

ここでひとつの疑問が浮かび上がる。越中はなぜこの時ジャンピングヒップアタックという技を選択しなかったのか。あの場面でヒップアタックが炸裂していたら試合は完全に終わっていたはずだ。ニードロップで終わる、というのは考えにくい。レトロ過ぎである。

ヒップアタックだって100%的中する技ではない。ニードロップ同様かわされることだってあるだろう。が、しかし、ふだん使わない技よりも馴れ親しんでいる技の方が的中率は高いであろう。TVゲームだって他人のコントローラーより自分のコントローラーの方が良いに決まっている。友達のお母さんが作ったおにぎりより自分のお母さんが作ったおにぎりのほうがすんなり食べられるというものだ。

試合後、越中はこんなコメントを残している。

「俺はね、こだわり持って使ってんだよ、コレ（ヒップアタックのこと）。アイツに見せつけるつもりでね、一発一発、打っていったから、必ず仕留められると思った」

確かにこの試合、ヒップアタックはいつもより多く打ち出された。最後に石川の息の根を止めた技も、パワーボムやドラゴンスープレックスの類ではない。ヒップアタックであった。実に越中が石川に対して繰り出した技の半分がヒップアタックなのである。なのになぜ、あの場面ではヒップアタックでなかったのか？　ますます疑問は深まる。

私は片手間にやっていたポケモン（金）を一旦やめ、試合のビデオに集中した。するとあっさり疑問は解決した。石川が立ちあがらなかったのである。リングに寝たままの相手にはヒップアタックはできない。ただの尻餅（セントーンの変形）になってしまうのだから……。

とにかく、越中のニードロップ自爆によって、試合の流れは石川に傾いた。石川は攻めたてる。相撲カニ挟み、相撲足4の字、スモーピオン・デスロック、相撲のど輪落とし、相撲ラリアット……。しかし石川の攻め全ては、あの“鉄柱ヒップアタック”への序章に過ぎなかったのだ。

『越中はそのまま勝負に出た。石川がなんとかリングに戻ってきたところにヒップアタック。そしてそのままトップロープに登り、ジャンピングヒップアタック。石川はかろうじてカウント2で返した。越中は早いテンポでヒップアタック2連発。助走で勢いをつけた、高さ充分のヒップアタック。そしてまたもやトップロープからのジャンピングヒップアタック。石川の身体がマットに沈んだ。

これはこの試合越中がぶつけた23発目の技である。

正確に言えば11分16秒――その間、越中はリングから降りようとしなかった。リングは越中のためにあった。

石川が気圧されるようにヒップアタックに倒れると、越中はお得意の、そして独特のガッツポーズをきめた。大きく両手を上げ、そこにセコンドの彰俊が駆け寄り旗を振りかざした。維震軍旗には黒く《覇》という文字が書かれているが、その《覇》が、先日の試合でムタに吹きかけられた毒霧のシミと共に、東京ドームの白い天井の下で舞った。

その直後、越中は控え室に戻り、うずくまって涙を流したという』

うずくまって涙を流したとかはもちろん嘘も良いとこだが、こうしてドラマは終結した。試合後、石川は「これからが始まりだからな。越中に言っとけよ、今がスタートなんだよ！」とコメントしている。石川が「越中に言っとけよ」と言ったのに、多分誰も越中に伝えなかったのだろうか、スタートにしたかったはずが『維震軍vs石川一家』の抗争はこのままあやふやに収束する。同時にこの頃、越中が掲げていた『インディ統一』もひっそりと影をひそめていった……。

これで私の誰も興味のない試合を、ポケモンをしながら、誰に頼まれたわけでもないのに行った検証を終える。誰の記憶にも残っていない越中と石川のこの試合、私の捏造を加えたこの検証で、新たな記憶として、それも事実とは幾分かけ離れた記憶として植え付けてもらいたい。

（せき詩郎）

巨匠入魂20回
真樹日佐夫

Illustration 中川雅博

(43)

　パネル写真は縦一・八メートル、横一メートルはあろうか。
　カラーで、黒のボンデージに赤いピンヒールという女王さまルックの氷見子が、乗馬鞭を手に外股で立ち頤を突き出し加減に睥睨している。店に飾ってあったのを暮に命じて搬び込ませたのだ。千堂のマンションの寝室である。
　等身大のその写真が立てかけられた壁のすぐ手前、絨毯を敷いた床には全裸の氷見子が両手足に手錠を嵌められ、箝口具をされて転がっていた。写真の印象がこよなく傲慢であるだけに、荷物かなにかのような実物との対比も興趣がひとしおで、なんとも妙案を思い付いたものだと改めて千堂は自画自賛せずにいられなかった。
　千堂は、ベッドに真澄といて後背位で攻めたてながら、時折氷見子を見やってその反応をチェックするとともにサイドテーブルの置時計へも目を向ける。この日のために用意した大きめのアナログ・クロックで、そうして十一時五十五分を指し示すのを待ち、
「あと五分!」
　眼下に蠢く双つの肉の膨らみを、往復びんたの要領でしばいて報じた。
「ミレニアム・カウントダウンまで、なんとしても保たせる——よいな!」
「五分なんて……無理よう、そんなに」
と尻たぶらを心持ち窄めるようにして真澄。その辺りの肉置きはこのところ頓にまた淫猥さが際立ち、触れた掌が吸い付くほどにしっとりもしてきており、あと五分保たせられるかどうか千堂にしてからが保証の限りではないのだった。
「なんだ、その口の利き方は!　マゾ奴隷の分在で、無理ようだと?」
　立て続けにさらに何発かしばくと、その都度真澄は肉の襞の奥に秘した蕾をせわしく開け閉てしながら、
「悪うございました!　ご主人さま、どうかお赦しを——」
「では改めて命ずる。カウントダウンのゼロまで気をやらずに我慢せよ」
「無理ですぅ!　殺生、殺生というものですわ、ご主人さま……」
　このとき強い視線を感じて千堂がまた顧みると、氷見子は目を一杯に見開き、こちら向きに閉じた太股をあからさまに擦り合わせだしていた。箝口具のせいで鼻の下が伸び、滑稽なほどに緊まりのない顔はどこかべそをかいたようでもある。これが本当に写真の女王さまと同一人物なのかと、信じ難いようなその落差を目で愉しみつつ、一方ではややもすると勢みがつきがちな射精への衝動を抑えるのに苦労しなくてはならなかった。
(後ろ手錠だけでも外してやったら、忽ち恥も外聞もなくオナニーをはじめ、勝手に呆気なくアクメに達することだろうが、それでは放置奴隷相手に慈悲のかけ過ぎというもの——)
　見て見ぬ振りをする手だと、千堂は心に言い聞かせて真澄に目を据えた。二人も身に一糸も纏っておらず、女の盛りを誇示する肉はすでにして氷見子以上に慎みを失くしてしまっていた。
　氷見子を放置奴隷に堕としてからというもの、真澄とのベッドで以前に増して千堂に精気が漲るようになったのは、予期せぬ副産物と言えようか。3Pプレイの場で氷見子に指を咥えさせることにしたのは、屈辱を与え女王さまの矜持を根絶やしにする、そこが狙い目にほかならなかった。が、急速に彼女が変容し見せつけられる立場を甘受するようになるにつれて、千堂としても緊張感が失せ、リラックスしたせいで見られているという意識が単純に性的刺激のみに収斂された。そういうことではないかと思われた。

前回までのあらすじ

天性の格闘センスを持つ男、万無比人。その素質を見抜き、プロレスラーに仕立て上げたのがプロレス専門誌発行人の千堂であった。プロレスでは連戦連勝を続け、そして異種格闘技戦でも、ある程度の成果を残した無比人が次なる標的と定めたのがヒクソン・グレイシーであった。難航したヒクソンとの対戦交渉だったが、グレイシー柔術セミナーの一環として、非公開ながら遂に無比人はヒクソンと運命の対峙を果たした。試合開始早々、打撃で攻めたてる無比人。数分後、ヒクソンの左腕をとらえ腕拉ぎ逆十字に入った——。

虚構と現実が交錯する
壮大な格闘ロマン

本格格闘プロレス小説

無比人

MUHIT

真澄の方にも似たことが言えた。千堂の手足となって、その命ずるままに氷見子を脱がせ様々にいたぶりはするものの、これが放置奴隷に甘んじだすと競争心が頭を擡げたか、彼に対しては益々絶対服従完全屈伏の姿勢に徹し負けじとばかりに剃毛までねだる始末。目新しい玩具を得て、こちらもまたプレイに拍車がかかったことは動かせなかった。

千堂にすれば、放置奴隷の氷見子をエネルギー源とし湧き出ずる力に任せてただ突っ走ればよいわけで、神経を磨り減らすなどといったこともなく、雄としては甚だ楽な立場を手中にしたものだと実感できた。

この除日にベッドの上でカウントダウンをし、新しい千年紀の訪れを祝ってはと真澄に提案して氷見子も呼びつけたが、それというのも巷間伝えられるところの〝癒し〟を期待すればこそだ。放置奴隷を尻目にかけての変則3Pプレイにこうしてうつつを抜かしていると、肩に重くのしかかっていた一年間の疲労の蓄積が薄皮を剥ぐように一枚一枚取り除かれるのがはっきりとわかり、思い通りの運びように千堂は頬の肉が緩むのを抑えかねていた。

「ミレニアム・カウントダウンまで、なんとしても保たせる——よいな！」

実際、秋の終わりから年末にかけてのハードスケジュールといったらなかった。全日、新日、FMWなどプロレス興行のほかにも、リングス、UFC－J、プロ修斗、プライド、それにK－1とビッグイベントが相次ぎ、千堂も『四角いジャングル』誌スタッフもあちらの会場こちらの会場と掛け持ち取材を余儀なくされた。

特筆すべきは十一月二十一日、有明コロシアムに於ける〝プライド8〟のリングで桜庭和志がホイラー・グレイシーに完勝し一躍時の人になったことで、格闘技マスコミはこぞって彼を追いかけ、てんやわんやの取材合戦を強いられたのであった。

ホイラーが敗れたその日は、奇しくもグレイシー兄弟の長兄であるヒクソンの四十歳の誕生日に当たり、千堂も真澄と無比人を伴いSRS席にいた。ヒクソンはホイラーのセコンドに付いたが、桜庭のキムラロックに苦しみながらもホイラーが最後までタップしなかったことを理由に、

——なぜだ！　弟の腕はこれっぱかりもダメージを負っていない。ということは、まだ負けたわけじゃない。なぜもっと続けさせないのか！

リングへ上がり、レフェリーストップを宣した島田レフェリーに激しく抗議したが、大会ドクターから止めさせるようにとの指示があったとして退けられた。

それでもなお諦めきれぬ様子で食い下がるヒクソンを、リングサイドの何十人もの客が席を起ち罵倒するに至って、

——四百戦無敗のバーリ・トゥードの帝王も、こうなるてえと完全にヒールだね。弟可愛さに焼きが回ったか。

千堂の隣で無比人が嘆息交じりに言った。

——ヒールか、なるほど……。で、レフェリーストップの裁定だが、どう視る？　ちと早かったのでは、という気もしないではないが。

——キムラロックって言うの、あのサブミッションは確かに完全に極まってるようには見えなかったから、あのまま続けさせていても腕が折れるなんてことにはならなかったかも。けどレフェリーストップという以前にドクターストップなんだろうよ、従わないのはおかしいよ。

——それはそうだが。

——はっきり言って、ヒクソンにはもう興味ないね。今日で四十男になっちゃっ

本格格闘プロレス小説
無比人

たことでもあるし。

さばさばしたその横顔を打ち眺め、そうか、この男にとってはグレイシー柔術きっての遣い手もすでに過去の人かと、肩の荷を下ろした気持ち半分、胸にぽっかり穴が空いたような虚脱感半分のうちに千堂はヒクソンとの再戦を思い切ることにしたのである。

道場での非公開試合でヒクソンと互角に戦ったことで、無比人は概ね満足したように見受けられたが、実は伏せたまま千堂は、その後も公開の場での再戦へ向け伝手を辿って交渉を続けた。というのも非公開戦を経て欲が出て、それに折角三億もの金も手許にあることだし、できるものなら大舞台を踏ませたい、四十になろうが相手は大物中の大物なのだから――。そう考えたからだが、一つどうにも突き崩せぬ障碍があった。

ヒクソン・グレイシーは第三者のリングでしか試合をやらないことを信条としており、かつて一度も例外はなかった。というそれであり、第三者とは当方でも先方でもない中立の団体を指し、そうなると事は大層面倒になってくる。第三の団体に興行を請け負わすとなれば金を積むしかなく、またそれひと試合だけというわけにはいかずマッチ・メイクの問題もある。自分のところの選手は使えぬから各方面へ協力を求めなくてはならないわけで、金、金、金。採算面は度外視してかかるにしろ、厖大な出費を覚悟せねばならず、これで果たして氷見子への返済が見込めるかどうか。

この点がネックとなり、結局千堂の労苦は報われずに終わった次第だが、十二月中旬になってヒクソンへの次期挑戦者がパンクラスの船木誠勝に決定と発表されるに及んで、記者会見場で千堂は今更のように大魚を逃した、と臍を噛まずにおれなかった。

新東都プロレスのリングで、無比人はチョークスリーパーにいくと見せ、すかしてヒクソンを左の腕拉ぎ逆十字に固めたが、その後に四百戦無敗王者の見せた反撥力はまさに驚異の一語に尽きた。

ヒクソンは、左腕を極めさせたまま両膝を引きつけて脚を高く上げ、でんぐり返る気かと千堂が視るうち、その両脚を

本格格闘プロレス小説

無比人

ひょっとしてヒクソンの腕も二重関節ではと思いを巡らしもした

勢いよく戻すとともに反動を利して、一気に半身を起こしてのけた。そればかりか腰をさらにマットから浮かせ、両手と両の股とで左腕に取り付いた無比人ともども立ち上がったではないか。

　結果、無比人の躰は頭を下にして宙吊りとなり、そのまままずり落ちるかと見られたが、これまた信じ難い底力を発揮し四肢でヒクソンの腕を掻い込んで放さず、するうち左手だけを外すと逆さの角度からアッパー気味のショートの連打をボディへ浴びせたのだ。

　と、それに触発されたかのようにヒクソンも仁王立ちのまま、空いた右手で脇腹、下肢へとパンチを散らし、双方実になんとも奇妙奇天烈な体勢での打撃戦が展開された。

　見ていて千堂は、ここでもまた厳粛な気持ちにならざるを得なかった。ヒクソンの意表を衝く腕十字封じについては、余程の腹筋力と背筋力、そしてなにより人間離れのした膂力を具えていなくてはできるものではあるまいと、素直に脱帽できた。また状況は異なるが、かつて東京スポーツ勤務の頃にフィルムで観た力道山対木村政彦戦で、木村に背後へ回られて腕を逆に極められながら力道山がギブアップするでもなく負ぶった格好で前進しロープブレイクに持ち込んだ、そのシーンが脳裡をよぎり、ひょっとしてヒクソンの腕も二重関節ではと思いを巡らしもした。

　それはそれとして、万有引力の法則に逆らって無比人が左腕に掴まったままパンチの応酬を繰り返していることの方が千堂には印象がより強烈というか、未知の部分との遭遇を果たした感動に心奥までも揺さぶられ、どれほどの可能性を秘めているものやらと襟を正す思いで注視するその傍らでは、嵐も竜村らも予想外の成り行きに圧倒されたか言葉もない様子だった。

　千堂も顔見知りの競合誌の記者数人がいきなり飛び込んできたのは、そうした打ち合いのさなかで、それと気づくとヒクソンは露骨に眉を寄せ、矢庭に右の膝蹴りを放った。一撃は逆さ吊り状態の無比人の頬を浅く捉えたが、おっつかっつに彼の方でも腕を放しざまに右横蹴りを伸ばしており、これもヒクソンの顎の先になんとかヒット。二人は、ほぼ同体にマットに沈んだ。

　後になってわかったことだが、少し前、掣圏道に関する会見で記者団に囲まれていた佐山がうっかりセミナーのことを口にし、突っ込まれて意味深な発言を続けたために彼らの押しかけるところとなったのである。

　そうとは知らぬヒクソンは気分を害した様子で、すぐに起つとさっさとリングを下り、記者たちを無視したままロッカールームへ引っ込んでしまった。

　無比人も前後して立ち上がっていて、記者の追及を一手に受ける羽目となったが、ヒクソンにはセミナーの締め括りということで胸を借りていただけだと言い通した。

　千堂の見るところ三十分余りも激闘を繰り広げながら、どこといってダメージの痕跡もないようで、そんな無比人であってみればヒクソン対船木戦が正式決定し、なぜもうひと押ししなかったか、あの彼なら勝算我にありとも胸を張って言えたろうに、と後悔の念に苛まれても無理ならぬことではあろうか。

　しかしながら、ニュースを告げても当の無比人は意に介したふうでもなく、

――いいじゃないの。四十の小父さんにはもう先が永くないんだから、やりたいようにやらせておけば。

　と涼しい顔で応じただけで、ヒクソンに興味がないというのはやはり本当なのか、そう自分に言い聞かせて千堂としても断念するよりなかった。

　とこうするうち、年の瀬も押し迫り平成十一年、一九九九年最後の日を迎えることとなった――。

「あと十秒！――いくぞ！」

　秒針を凝視し、声高らかに千堂は告げた。一方で両手を真澄の腰の括れに回して、ピストン運動を大きく、速くする。

「……五、四、三、二、一」

ゼロ――万歳！　唱えたのと

「駄目ーッ、溶けちゃう！」

　息も絶え絶えの体で幾分静かになっていた真澄が、最後の力を振り絞るかのように悲鳴を上げたのが同時であり、直後に千堂も総ての動きを止めて自身を解放った。

　床では氷見子が意味不明の声を断続的に漏らしている。

　死んだように動かなかった真澄が身じろぎするのを待って、無防備極まるその尻を千堂は軽く叩いた。そして、

「放置奴隷が呼んでいる。限界なんだろう。行っていつものように、指だけで昇天させてやるがいい」

　年明けに相応しく、いともやさしい面持ちで命じた。

（44）

　一月下旬の晴れた昼下がり。

　広尾にあるパンクラスの道場へ、無比人がうっそり身を入れてきた。

　氷見子を随き従えていた。

〈以下次号〉

Kamipuro® 特選

第3會

思わずくぎづけ！ ヒーローは道場の中にいる！

マメに行くならこんな道場(ジム)!!

世界一の人材派遣会社格闘探偵団バトラーツが、「これが、コケたらバトラーツはおしまい」という大借金を背負い、越谷を格闘技の聖地にするため2000年に、前の道場とは較べモノにならない（失礼！）ニュー道場設立！　さぁ、行きますかーッ！　1、2、3、ナーシャ！

構成／スモーノブ＆タマリン
text by Sumo Nobu & Tamarin
撮影／NAHOMIX
photographs by NAHOMIX

老若男女問わず、体を動かしたい人は「とにかくバトラーツ道場へ通え！」というぐらい、この道場は最年長が50歳、最年少が13歳という幅広～い年齢層の人たちが通っている。それは、バトラーツが〝世界一の人材派遣会社〟とう異名を取る団体であるように、アレクサンダー大塚は『PRIDE』へ、池田大輔は全日本へ、田中稔は新日本へ、小野武志、モハメド・ヨネはインディー総ナメで、ほとんどのバトラーツ戦士たちが他団体へ定期参戦しており（レフェリーの島田さんも『PRIDE』、『K—1』などで大活躍！）その全てを集結して選手自ら指導するという、夢のような道場であるからだ。

まず、この道場入り口で目に付くのは街頭テレビ。当然のごとく越谷住人たちは不思議顔でチラ見しながら通り過ぎるのだが、どうやらこのテレビを通じて道行く人々をバトラーツ〝ゴールデンアワー〟の渦へと巻き込もうという策略があるようだ。

そしてピカピカな道場内に足を踏み入れると、そこにはこれまた、ピカピカのマシーンたちがズラーッと揃っており、とても広い空間である。そして2階にはイベントスペースも完備し、なぜかミニコンサートまでできるようになっている。ここは、同じ目標を持つジム生同士の交流のみならず、ジム生ではない人たちとも交流を深められるバトラーツ秘密基地なのである。

指導方法も細かく分かれており、あらゆるニーズに対応できるようにクラス分けされている。その中の1つにバトラーツが開発した【エアロレスリング】というのがある。レスリングとダンスをMIXし、この新ジムがCLUBに大変身する勢いの練習方法であるそうだ。今のところまだ開発中らしいが、レスリングでしなやかなボディーを作り上げ、効率よく脂肪を燃やすために音楽に合わせて技の練習＆Let'sモーレツダンシング！をするようである。これは、主婦＆女性には、絶対オススメだ。そのうち越谷で「エアレス行くぅ～」などという流行語が生まれる予感もする。

この他にも、オリンピックを視野に入れたチビっ子のためのアマレス教室【情念クラス】など、バト戦士たちが道場生1人、1人に合わせた指導をしてくれるのだ。そして、『グラップリングB』（略してグラビー）は約3ヶ月に1回の割合で開催され、アマチュアにも闘いの場を設けている。

人の輪を大切に、たくさんの人が集まるこの道場（ジムで結婚したカップルもいる）で心と身体の両方を鍛えるべし！

「エアロバイクってどっち向きに乗るの？」と言う名言を吐いた燃える情念石川社長は、スーツでもバト魂をみせまくり汗だくである。

道場は新しくなっても、トランプ式"ゴッチ流トレーニング"は健在なのだ！

これがゴッチ流

最高の場所で最高のジムだ！
このジムが成功するのはわかっている。
オレは大ハッピーだ!!

一番えらい人に聞け！

●言わずと知れたバトラーツのエロ社長（©大ちゃん）石川雄規道場オーナーに、この道場の素晴らしさを語ってもらおうと探してると、なんとスーツ姿でエアロバイクに勢を出しているところを発見。いざ、突撃！　ナーシャ!!

——社長！　いきなりスーツ姿で練習のところすいません（笑）。新しいので当たり前なんですけどメチャクチャきれいな道場ですね。

実戦スパーリング中の指導員でバトラーツのトレーナーを務める野口さんは、的確に闘いのツボを教えジム生に絶大な信頼を持たれているのだ。

石川　（エアロバイクから飛び降り）そうだろ！　オレも若いころにこんな道場があったらいいなって思うよ。だから、毎日来れば風呂のない人も、ジムに入ってここでシャワーを毎日浴びた方が安い!!

——アハハハ！　シャワーだけ浴びに来る人も来そうですね。確か2階にはイベントスペースまでついてるんですよね。

石川　（満面の笑みを浮かべながら）いいでしょ。『紙プロ』の青空プロレス道場もできるよ。本当に設備はどこにも負けてないと思うよ。

——さすが、越谷の人たちの娯楽場を目指しているだけのことはありますよね。

石川　本当に、越谷の人みんなに来て欲しいからね。

——今日は、ジム開きということで道場生の姿があまり見えないんですけど大体何人くらいの人たちが通ってるんですか？

石川　う〜ん、いつも30人くらいるね。それで、今年の目標は道場生100人！　か35人（笑）。でも、プロ志向はもちろん、女性の方も気軽に通えてチビッコにまで対応してるコースを作ってるから、通いやすいとは思うよ。

——中学生以下は関節技のないアマレス限定の情念クラスですからね。

タイやエビも舞踊るジム開きの日、こんな厳格なことも行われ、普段のバト戦士たちには見られない表情を浮かべておりました。

石川　チビッコでも心がしっかりしていれば、裏技もバッチリ教えるからね。オレも生徒になった気持ちでみんなと楽しみたいね。

——さすが社長！　初心忘れるべからずですね。女の子はどうですか？

石川　女の子は、ボクがもう、右手、左手を使って激しく最後までのせながら指導しますよ。ムフフフ。

——アハハ！　またそんなことを言ってると、女の子通いたくなくなっちゃいますよ！

石川　（ニャ〜っと笑って）でも激しいよ。ホントに青年にもっと通って欲しいんだよ。

——青年？　それは有望な人材を捜すって意味でですか？

石川　今、犯罪が多いでしょう。大人がつまんないからね。だから子供が失望するんだよ！（突然熱くなって）ケンカをするなとは言わない。大事なものを守るためにバカがしかけてきたら、殺せ!!　自分を守るために強くなれ！　オレが何とかするから。警察だって何だって潰すよ！　ナーシャー！

——うわっ、社長の情念はメチャクチャ熱く燃えてますね。

石川　そうだよ！　最近の若いヤツらに、「プロレスが夢を与えてくれるんだよ」っていうことを知って欲しいからね。

——ここの道場生は夢を習いにきてるんですね。じゃあ、最後に社長の夢を教えて下さい！

石川　う〜んとね、5年後には駅ビルを買って、いずれは越谷市長選だな。それで、日本の首都を越谷にする!!　それでね、ジムの前に街頭テレビを置いたのはねぇ、ファン層を拡大しようと思ってるから。新規ファンはすべてバトラーツが持って行く！　これが大成功したら、道場にキャバクラを作るから。そしたら招待するよ！

——道場カマクラならぬ道場キャバクラ!?　バトラーツならやりかねないなぁ（笑）。

バトラーツジム『B－CLUB』

『紙プロ』を持って行くと石川社長の『情念タオル』プレゼント!!

バト戦士オールキャストが指導員という夢のような道場に今すぐ通え！迷うんじゃない!!
2000年3月まで入会金50%OFF！

アマチュアレスリングを学ぶ『情念クラス』レスリングの動きで効率よく脂肪を燃やす『エアロレスリング』関節、打撃技の『グラップリングクラス』『打撃クラス』など、7コースがあります。

【デイタイム会員】
月〜金　10：00〜17：00
入会金1万円
月会費　男性6000円　女性5000円

【オールタイム会員】
月〜土　10：00〜22：00
日　　10：00〜17：00
大人　入会金2万円
月会費　男性1万円　女性8000円
高校生　入会金1万5000円
月会費　男性8000円　女性6000円

【情念クラブ会員】
中学生以下はみんな情念クラブ会員です！
木　17：00〜18：30
日　10：30〜12：00
小中学生　入会金1万円　月会費6000円

【ファミリー会員】
オールタイム＆情念クラブ
主婦＆中学生までの子供2人
入会金3万円　月会費1万5000円

埼玉県越谷市赤山町6－13－43
TEL0489－63－0005
FAX0489－63－4188
休館日　毎月第2、4水曜日

道場までの交通アクセス
東武伊勢崎線『越谷駅』より徒歩30秒。
（早足10秒）

時には酒をくみかわす!!

桜井マッハ速人への道

#003

「早くマッハ選手を呼んで下さい」
というハガキ(同様2通)も届いたこのコーナー。
オマエは『紙プロ』でマッハが見たいかーッ!!
……ハイ、見たいデス。(タマリン風)

構成/大西タマリン
text by Tamarin
撮影/HAHOMIX
photographs by NAHOMIX

桜井マッハ速人。「修斗の今年は終わったけど、オレは今が始まりだから!」とチョイかっこいいことも言える男である。

〝バンドやろうぜ!〟という黒商人こと坂本プロデューサーのかけ声が、何よりも面白かった『シュート・ザ・ムービー』(日本人選手オールキャストのプチ映画)から幕を開けた、修斗1999年最後の興行『バーリ・トゥード・ジャパン99』。(バリジャパも今年で最後と言われている)バリジャパ初メインであるにも関わらず、選手入場ゲート付近の一角を自分のお城とし、ゴロォ~ンとしてみたり、バナナをフサ食いしてみたりしている細身なマッハは、天然記念物〝ナマ獣(ケモノ)〟に認定する。そして、マッハのために用意してあったミニテレビを見て「そこだよ! あ~」と声を張り上げてるかと思えば、「グ~ゥ~」とおねむタイム実施中であったり、ピリピリムードが漂う中でも全く動じずセミ前まで過ごしていたのである。

マッハと修斗の出会いをたどってみると高校(柔道部)卒業後、友だちに修斗という総合格闘技があることを教えてもらい、とりあえずジムへ飛び込んでみることにした。そして、練習に明け暮れる日々を送ること2年あまりが経過し、「アレ、ここはシュートボクシング?」と、てっきり修斗と思いこんでいたのだが、実はSBであったという事実を知るも「うん! でも強かったよ、オレ」という恐ろしいほどの無邪気な反応を見せた。マッハにとっては、闘う気持ちが一番重要なので全く関係なかったのである。万事この調子なので、小学生の時「『ジャックと豆の木』の絵を書きなさい」と言われ、みんなが緑色でグングン伸びているツタを書くところ、1人平然と金色を使うような子だったというのも納得できる。これが現在の闘いにも反映している『感性』と『勘性』なのであろう。そして、SBから修斗への転校生となり3年半の月日が流れ、金のツルの通過点である大舞台に立ったのである。

さすがに、メイン入場2秒前になると、うおぉぉぉーーーーーーッ! と気合いを入れて顔も険しく闘う男の顔になっていた。その顔と試合を見て、決してみんなと仲良しバンドなんかできる男ではないことを、ワタシは痛感させられた。

桜井マッハ速人。「職業は?」と聞かれたら「世界のバウンティーハンター!」と答える男である。

サクライは、ベストファイターだヨ!!

(12・11VTJ'99楽屋にてアロウド・ビクトリアーノ談)

メイン入場5秒前、第3試合で五味隆典が勝った瞬間リング上に登場した、チビッコさいとうゆうきクンが食べていた『アポロ』を「オレにもチョコレート頂戴!」とバク食いしていたマッハの対戦相手は、アロウド・ビクトリアーノ。柔術の大会でジアン・マチャドを破った実績を持つ男である。なので立ち技は得意ではない。だが、マッハは立ち技でしとめたい。試合は終始、桜庭和志対ホイラー・グレイシー状態になる。試合前、マッハは90kg近い体重があった。(76kg契約)急激な減量のため風邪もひいてしまった。一抹の不安を隠せないのは、1Rで思うように体が動かなかったマッハだけではないのである。でも、そこはマッハ。ボコボコに殴り倒し勝利をもぎ取ることに成功! 試合後「吸引だよ! マウスピースがダメなんだよ! 歯が折れちゃった」というように、前歯はどこかにブッ飛んでしまったが、観客のココロはマッハにブッ飛んでいたことは間違いない。

グレート・チョロのハガキ劇場

僕にもできた、
キャットファイト！

99・12・11 VTJの試合後、某所で、もうひとつのバーリ・トゥードが行われていた！

オイ、オイ、オイ、オイ♪オイオイオイオイオイ！　一足遅くてすまん！　今年もよろしくお願いするんじゃ！　写真を見れば一目瞭然だが、昨年の12月11日、NKホールで行われたVTJ '99。6043人超満員の観衆が大熱狂で幕を閉じた。その中にはオレもいた。そしてカタブツ君もいた。マッハの勝利で浮かれている場合じゃない。何故なら、これからがオレたちのVTJ '99なんじゃあ！　数日前、ある国の王子様から、オレとカタブツ君に試合出場＆ビデオ出演のオファーがあり、2人ともノータイムでOKのサインをだしたのだった。そして、このビデオのタイトルは『CAT FIGHT THE・MOVIE』といい全国有名書店で発売されるんじゃあ！（読者：ウォ〜〜！）（間髪入れず）嘘じゃ〜ッ！　オレは嘘つきなんじゃあ！　まあ、この試合でオレの去年は終ったけど、オレにとってはこの試合からが始まりって決めてるんじゃあ！　1、2、3、ファイアー！

試合前、対戦相手のチョコからもらったバイアグラをビールと一緒にガンガン飲んでいたら不覚にも試合中に効いてきたしまったんじゃあ！　♪ターチチタチなんて歌ってる場合じゃないぜよ。オレは初めてバイアグラを飲んだが、アレは効くぞ！　おかげですっかり調子が狂ってしまい股間を潰され顔を踏みつけられあっさり昇天。唯一の救いは、オレの試合を見たカタブツ君も勃ったってことなんじゃあ！　勃ち話も何なんで、この辺で失礼。

1人ドタキャンが出てしまい、急遽、チョコ（仮名）VS松澤チョロ、チョコVS中村カタブツ君というハンディキャップマッチとなった。まず最初に闘ったのがカタブツ君。試合途中にパンツごとズルリと降ろされフリチン状態のまま闘い続けるも、最後は壮絶な急所攻撃によりKO。続いてオレの出番。連戦の疲れも見せぬチョコの打撃をバンバンもらいながらも、チョロだけに「ニター」と笑い続け、念願の下からの三角絞めも喜んでガッチリ受けた。

お前はファイターではない ただのウォリアーだ！
（中村カタブツ君（36歳）談）

グレート・チョロのハガキ劇場

(青森県／青木雄大) 5点
★「『SRS・DX』の読者ページ "ワンフー・マクダニエル" をやってる井上きびだんごより松澤チョロの方が数億倍面白い！　井上きびだんごは松澤チョロに習え！」というハガキも到着し、大絶賛の "グレート・チョロのハガキ劇場" ですが、入稿作業でチョイ手も首も回らなくなり、なぜかタマリンが数点やることになりました。ちなみに、ワタシは頭が回ってないです。すんまそん。

何かに追われて死にそうだ。読者の感想をそのまま載っけるん邪！

はぁ～、どすこ～い！　どすこい！　チョロが、仕事も大して多くないのに締切を守らず、揚げ句の果てにはハガキ劇場の原稿まで振ってくるでごわすよ！　とんでもないでごわす！　というわけで、因縁のハガキ劇場に初登場のスモーノブでごわす。いきなりこんなもん振ってきて、どうせえっちゅうねん？　オマケに去年末には、「ちっと、北陸に1人旅に行ってきます」などと、ナメたことを抜かし（ワシは元旦から泊まり込みばい！）、おまけに会社に帰ってきたらチョロのパソコンだけ2000年問題とやらで、いままでのデータがブッ飛んだそうでごわす。というわけで、いままでのハガキ劇場の得点も前号までで一旦リセットするでごわす。前号までトップをキープしていた中川画伯には、ハガキ劇場初代チャンピオンの称号を差し上げるばい。フゥ～、フゥ～（と息を切らしながら）チョロが書けと言う通りに、ここまで書いてきたでごわすが、スペースが余ってしまったでごわす。どうするでごわすか……ここはひとつ、ワシの相撲甚句でお楽しみ頂くばい！　♪はぁぁぁ～、どすこ～い、ドスコォォ～イ！　ハガキィィ劇場はぁぁぁ、よぉぉぉ～……（以下略）。

ハガキ劇場初代チャンピオン

中川雅博

多摩美術大学美術学部二部デザイン学科
ビジュアルコミュニケーションデザイン4年

NHKスタジオパークからこんにちは
似顔絵大賞グランプリ（1999・10）

'98　西武ライオンズ
選手似顔絵コンテストヒット賞（1998・5）

'99　西武ライオンズ
選手似顔絵コンテストヒット賞（1999・5）

NHKドラマ館「さよなら五つのカプチーノ」
ドラマ内使用似顔絵（1998・10）

学習雑誌「小学一年生」6月号別冊
『ぺあれんと』内使用イラスト（1999・5）

紙のプロレスRADICAL
真剣日佐夫　本格格闘プロレス小説『頭比人』
挿し絵（1998・8～）

中川画伯！　おめでとう！　これからも、どんどんハガキ劇場にハガキを送ってくれよな！　オレは、オレは、待ってるんじゃあ！
なあチャンピオン！

(埼玉県／中川雅博／22歳) 5点　★オレと仲良しの宇野チャン（チャンピオンの略）のイラストを書いて来るなんて、さすがは初代チャンピオン邪！

■前号の感想　面白かった記事

(東京都／キャプテン名倉) 4点
★今年の年賀状の中に、ヤマケンのが無くてションボリしていたチョロちゃん。「キラワレタノカナァー」と悩める28歳青春まっさかりで～す!!

●今号は「知りたかったことがこの一冊に！」という感じに内容が濃く、ありがたい限りです。特に襲撃事件に関しては『紙プロ』が出るまで、いちばん情報得られたのが『東スポ』でも『週プロ』でも『ゴング』でもなく『ビートニクラジオ』だったという有様でしたので『紙プロ』、独走で爆走です。座談会、内容もさることながら「11・14位置関係」の図が最高で～す。まるわかりだね。あと、アニマル＆コーラー。夢がある。毛はないが。（千葉県／武田いづみ／適性判定での向いてる仕事は「マネージャー（何故？）」）5点

●田中健一。『格マガK』で田中氏のイラン訪問記を読んで、その魅力には気付いていたけど、ますますファンになった。一度デートしてみたい！（川崎市／山内洋子／35歳）5点

●タナケンインタビュウ。こんな人間（っていうか思想を持ってる人）いるんだーってかんじ。前回以上にタナケンのハイテンションブリが私のハートにコーラをそそぎ込んでスパークってかーんじぃー。（鳥取県／米原宏美／21歳）3点

●何があろうとmeはヤマケンの味方です！　それにしても今号はいつにも増してインタビュー記事が多かったような。読むのに疲れたケド「最高ですかー!?」と聞かれたら「最高！」と気分よく答えられる内容でした。（山口県／河杉けい子／20歳）5点

男の中の男　押忍！　タケナン道場

押忍！　前号＆前々号で掲載したタナケン先生のインタビューは大反響だったん邪！　なぜか紙プロ編集部にもファンレターが送られてきたぞ。ハガキ劇場でも人気爆発なん邪！

(熊本県／塩本祐介／34歳) 5点　★この2人のお宝対決は見てみたいん邪！

(青森県／青木雄大) 5点　★タナケン先生と馳先生の対談は、是非読みたいん邪！

(埼玉県／アントニオ文朱／100歳) 3点　★タナケン先生の愛国心を日の丸の本数で表現したイラスト邪！

●渡辺千景インタビュー。乳の大きさバッチリの全身写真と、アンパン吸ってると勘違いしたクレープ頬張り写真がグー。今度はカラーで水着特集して下さぁーい！（神奈川県／モン茂男／33歳）4点

●私の個人的な話ですが…田村さん表情かわられましたよね!?　ネエネエ彼女できられたんじゃないでしょーか??　くやしー。（京都府／澤田弘子／23歳）4点

●サクのインタビュー。誰か翻訳してヒクソンとホイラーとキム夫人に読ませてくれ。（東京都／高島有治／29歳）4点

●「サク・グレイシーに完勝この上なし！」もうありがとすぎて、全身ていねいになめまわしてあげたい気分です。99年のMVPサクはもちろん、森下社

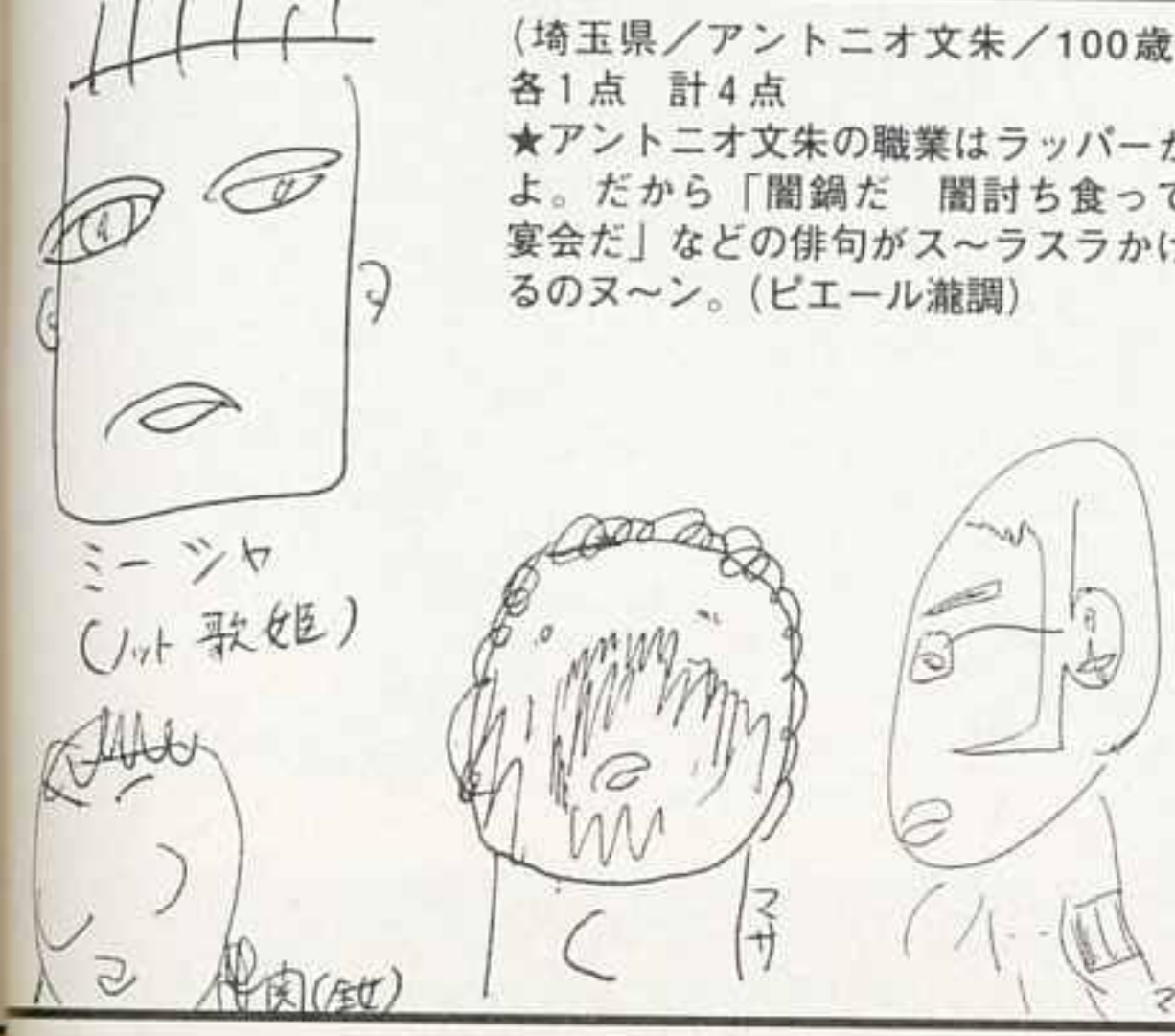
塩本名人の詩

1999.プロレス紅白歌合戦（スーダラ・サイド）		
「生まれた時は別々でも死ぬ時はもちろん別々！」紙の紅組		
先鋒	「ベイベー、逃げるんだ」（うちのうどんはコシが強いぜ田村）	寸評 いつもより余計に回ってます。紙プロでは
次鋒	「ランナウェイ」From パトラーツ（ハチミツ二郎）	不発弾か!?東京ダイナマイト
中堅	タイム・イズ・オン・マイ・サイド（アントン、オーちゃん、村上の脱線トリオ）	プライド・グランプリどーか、ひとつ（小松調）
副将	（ホイラーの脚か）真っ赤な女の子（ブラジル人もびっくりスーパーストロング・サク）	たまには負ける所が見たいぞ。文句なし!!
大将	ハード・レインで"ひ"はズブぬれ（日本の宝・前田日明 with 紙プロ花の応援団）	「芸ってのは要するに芸人の私情そのものなんだ。（ビートたけし）」

1999.プロレス紅白歌合戦（ダーク・サイド）		
「馬鹿はとなりの火事より怖い」私達は絶対シロ組		
先鋒	童謡「かごめ、かごめ!!」（色黒のB&B洋七、マーチャン山田）	寸評 「反前田」思想は佐山の刷り込みか
次鋒	しあわせなら手を握ろう（田吾作フェイス高橋）	そんなにうれしいか、アンちゃん
中堅	おどしじゃないのよ、告訴は（悪い方のオーちゃん尾崎）	やれ、やるんだったら!俺は何もいわんぞ
副将	・後ろから前から・ジェンカ（前科）メドレー（一発屋安生）	パパンパパンパンパン「ガス抜けたか」
大将	完全無欠のコントローラー!!（ミスター若年寄!?ほっといてくれ船木）	ヒクソン!?ドーム!?ほっときます（E・ブラガ）

(熊本県／塩本祐介／34歳) 2枚で10点
はぁ～、ドスコイ！　スモーノブでごわす。チョロが締切間際でアップアップになっているので、急遽、助太刀するでごわすよ。それにしても、ハガキ道場時代から、変わらぬキレ味の塩本ギャグにはホレボレでごわす。

の2000年問題！

永遠に2000年問題●アントニオ文朱の場合

(埼玉県／アントニオ文朱／100歳)
各1点　計4点
★アントニオ文朱の職業はラッパーかよ。だから「闇鍋だ　闇討ち食って宴会だ」などの俳句がス～ラスラかけるのヌ～ン。(ピエール瀧調)

FRANK SHAMROCK SPORTS

1659-2 Hollenbeck Avenue Suite 205 Sunnyvale CA 94087

December 6, 1999

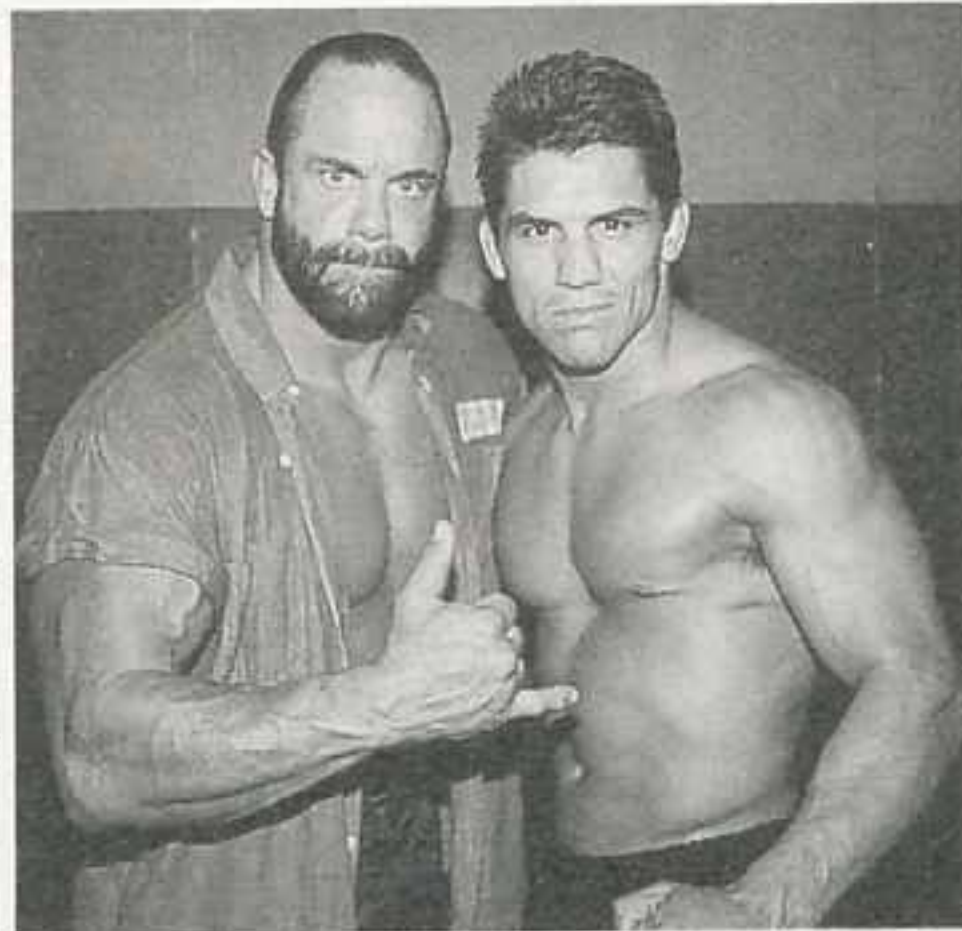
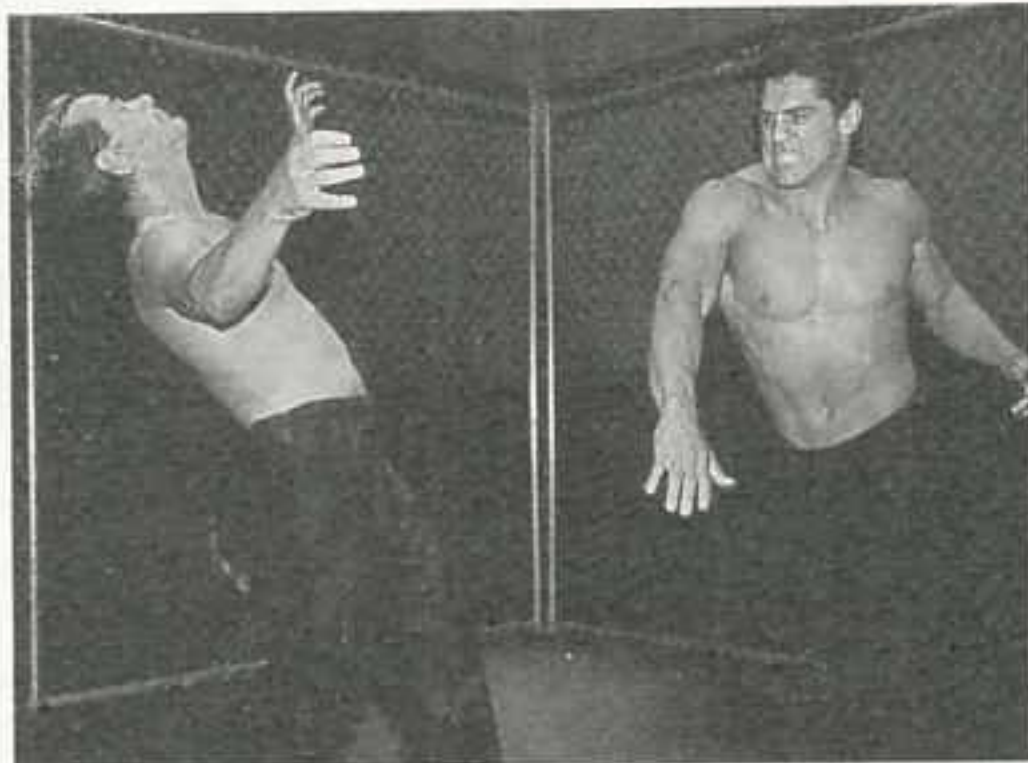
Dear Mr.Choro Matsuzawa,

(アメリカ／F・シャムロック)各5点・計10点 ★よ〜く見ると確かにChoro Matsuzawaと書かれてある。しかも手紙はぎっちり3枚も。だがな、オレは、オレは、英語が全く読めないんじゃあ！

(仙波久幸)各4点 計8点 ★FMW横浜アリーナの前夜、11／22夜、麻布十番「叙々苑」にて／3点 ★猪木スキャンダルの仕掛人・仙波記者から投稿がありました。ありがとよ。

ハガキゲキジョー・インターナショナル

『ハガキ劇場』はインターナショナルこの上ない！ ボクのマブダチのフランク・シャムロックから手紙が送られてきたんじゃ！ もちろん宛先は『ハガキ劇場』Choro Matsuzawa宛邪！ ありがとうフランク。そしていつまでも幸せにアンジェリーナ！

撮り出せば、その1枚が投稿となり その1枚が投稿となる 迷わず撮れよ撮ればわかるさ!!／4点 ★フライデーデスクでもある仙波記者からまたもや投稿が……。

フランクは今、アメリカでアクターとして大忙しの毎日をおくってるみたいなんじゃあ！ これはランディー・サベージとのツーショットじゃあ！

長にもあげたいです。(静岡県／横田賢／31歳) 4点

●馳浩インタビュー。なにせ久しぶり。『紙プロ』のインタビューでは久しぶりに頭のいい人の話が聞けた(読めた)。(東京都／大掛俊介／24歳) 3点

●馳浩先生とクエスチョンタイム。現在の新日プロの体制と選手の「誰の顔色をうかがって試合をしてるのか」などの批評が良かった。(福島県／薗部康平／23歳) 2点

●木村浩一郎インタビュー。斉藤彰俊を探しているというのは嬉しかった。徳田は別にいいというのはGOOD。(愛媛県／谷口健一／29歳) 4点

●前田テロ事件サプライズ座談会。ここにリングス関係者を入れたら最高なのに(福井県／島田一博／36歳) 2点

●OBAKEのなぞが解けた。ありがとー紙プロ！(OBAKE・Tシャツほしい)(福島県／森拓介／33歳) 4点

●スモーノブがっぷり四つインタビュー(大刀光をとりあげたのがシブイ)(江東区／高部博雅／33歳) 3点

●田村潔司インタビュー。最初にキャッチして最後に出すのがgood！ 夜の2試合発言もナイスです。(兵庫県／春名義行／33歳) 3点

●21号では私が勝手にレ●●ースゴングにチョロさんの事、書いてしまったのも載せていただきありがとうございます。すみませんでした。(でもレディース●●グは10月でクビになっちゃいました…)。とにかくありがとうございました。がんばって下さい。PS・スモーのピンボケ写真ナイスです!! ステキ。(東京都／仲山忍) 5点

“THE”山川“イリュージョン”竜司

(東京都／キャプテン名倉)2点 ★飲み過ぎ食べ過ぎ胃のもたれも絶好調になると、よくダブルクロスに現れるキャプテン。何回も来てるんだから道くらい、い〜かげん覚えるん邪！

年が明けても、やっぱり最多投稿キング(連続防衛)青木雄大じゃあ！

263(ツルミ)ポエム劇場

時代はあとからついて来た。アマレスイズムにゴッチイズム。オープンフィンガーグローブに俺こそ流行最前線。ジム経営。アフロも何だかやって来た。田舎者諸君！ 俺の後ろを歩いて来な！

前号登場した佐藤耕平は『格闘技通信』の選手名鑑でライバルは鶴見五郎って書いてるのはご存じ？ 本人曰く「オレ、鶴見さんとガチやりたいッス」と希望してたよ。

越中詩郎 人生最悪の12月30日

なにィ!? ジョージが刺された……

(青森県／青木雄大／24歳) ジョージっていっても高野じゃないよん。スモーに聞いたら、高野？ だって。ハリソン・ハリソン？ サムライシローと言えばビートルズでしょ。今度はポールが狙われるらしいよ。どーする？ どーなる！ シロー！

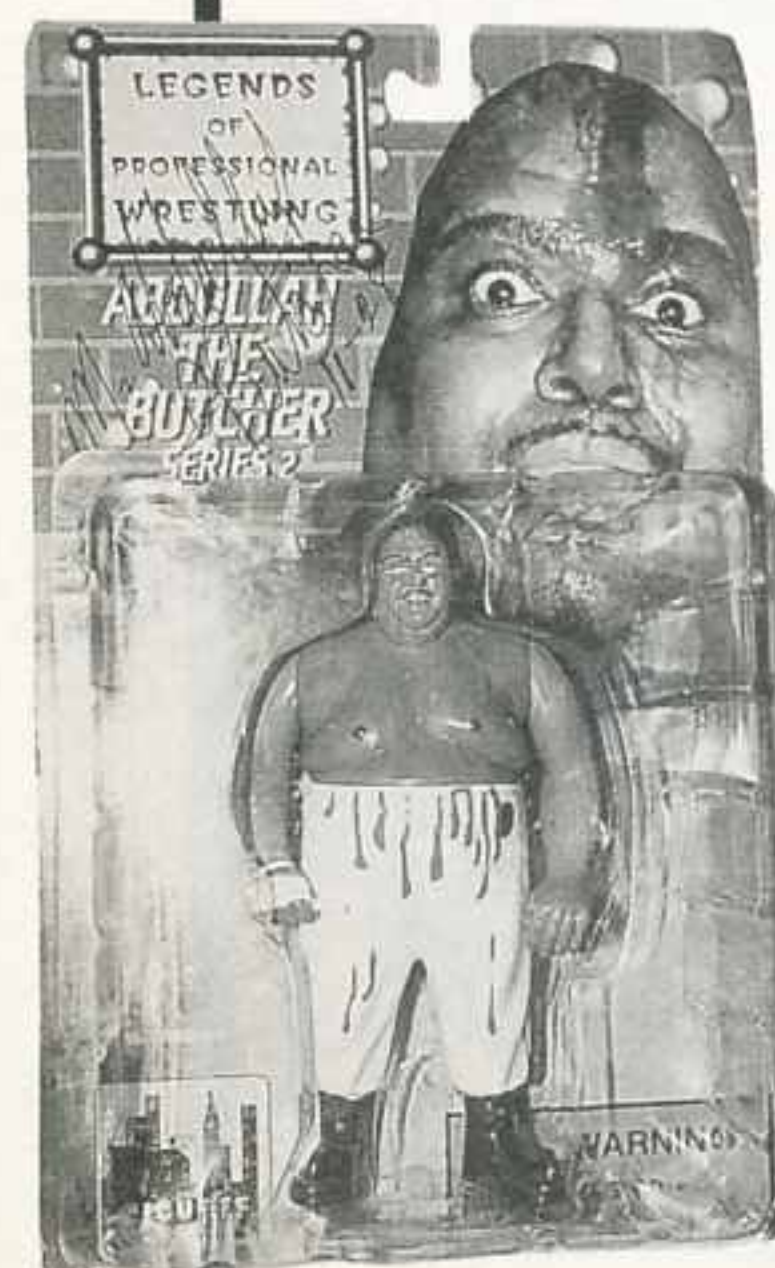
ニッポン教グル

あいさつ、あいさつ、あいさつ「これが1番大切なんだ！」とスモーに豪語するShow氏からメールでお年賀の挨拶をいただきました。どーもありがとうございます。あいさつ、あいさつ。

ロクなもんじゃねえ！

プロレス界に長渕フリークってメッチャ多いってことを最近知りました。実はお隣のShow氏もそうらしい。お願いShow氏！ マジ大熱唱シーン見学希望ッス！

まっ、とりあえず 縁がありまして 円がありまして

うまい！ しかし、船木の金髪にはミレニアムを感じるな。
シロー 5点
263 4点
その他 各3点
合計 18点

世界の写真等でお世話になっているスペルテボドン2号さんから紙プロ読者にということで『血まみれブッチャーフィギュア』をいただきました。このフィギュアを1名様にプレゼント。
【問合わせ先】
〒466-0003名古屋市昭和区曙町3-20プロレスショップ・マッキー(キラー・コワルスキー＆キングコング・バンディもあります)
☎052-735-6969
http://www.2u.biglobe.ne.jp/~h-and-a/ 内に当店HP有り！

血まみれブッチャーフィギュア(サイン入り)プレゼント

LEGENDS OF PROFESSIONAL WRESTLING ABDULLAH THE BUTCHER SERIES 2

やっぱりきたか！ ぼくの☆わたしの20…

細井つき子さんの場合

(細井つき子／50歳)10点 ★いつものように会社にきて読者ハガキを見ていると「なんと邪！」こんなとこにも2000年問題が勃発していたのだ。ハガキには『「よくぞきた高齢社会」の本希望』と書かれている。そんな本、ウチの読プレでやってないよなぁと思いながら表を見ると、「週刊女性係御中」となっていた。なんだかわからんが面白いぜよ、細井さん！ 特例として10点やるぜよ！

神子佳世どんの場合

(千葉県／神子佳世／17歳) 5点 ★『じいさんが亡くなったり、「人としてのやさしさが足りない」「無駄なダジャレが多過ぎ」「思ったことをすぐ口に出すな」とクラスの男子に1時間説教されたり、数学の小テストで0点をとってみたり、足の指にヒビが入ったりと少々疲れぎみな今日この頃、いかがお過ごしでしょうか。さて、現在詩が流行っているそうなので、先日、古典の時間に配られた詩(作者：43歳独身男性教師)を同封いたします。おすすめは「5.秋、愛の休止符」ですまさに「2000年問題」。追伸・クラスでダイエットチームが結成されてます。チーム名は「TEAM・おっぱい」(TOP)だそうです(実話)』確かに「秋、愛の休止符」は2000年問題に引っかかるな！ さすが43歳独身男性教師！ 休止符ワッショイ！

5. 秋、愛の休止符

99年のMVPサクはもちろん、森下社…

妖怪通信
Y2J magazine

「ウェルカム・トゥ……ロウ！　イズ！　ジャイ子ォォォ！」（Y2JことクリスＥジェリコのモノマネで）。というわけで、ジャイ子の情報満載でお届けする悪夢のような1ページです。ジャイ子という一人の女を通じて、「人間の極限に挑む」（byジャイ子も大好きなサバイバル飛田）ドキュメント企画であります。っていうか、要するにジャイ子で遊ぼうってことです。　文・坂井ノブ（亡霊）

いよいよ、ジャイ子全女入りか!?

「ホントにジャイ子はいなくなったんですか？」

相変わらず、取材に行く先々でそんなことを聞かれる今日この頃。キャプチャーの北原選手にも、「ジャイ子は追放になったのか？　あんなに熱心に働いてたじゃねえか！　女は男が守ってやらなきゃ……」と言われてしまった。ご安心ください。ジャイ子は『紙プロ』をお休みしているだけです。それとは別に、明るい未来に向かって爆走しているのです。

というわけで、今回もジャイ子こぼれ話をひとつ。『PRIDE．8』で、桜庭が快勝して気持ちよく帰路についたところで、またもやジャイ子が胸くそ悪い爆弾発言をドロップした、というタレコミ情報が入ってきた。本誌カメラマン・モーリーや広告営業のエミちゃんの前で、「物販ぐらいだったら手伝ってもいいけどぉ……まあ、それも会長（本誌鬼畜編集長の愛称）が頼んできたらだけどねぇ」などと偉そうに吹いていたそうだ。歪みきったプライドの持ち方だが、きっとジャイ子の中で、『紙プロ』編集部に決着がついていないのだろう。

そんなフラストレーションが爆発したのか、ジャイ子は意味不明な暴走をおっぱじめる。あれほど「やめろ！」と言っていたのにもかかわらず、ジャイ子は各団体でタダ観戦しているのだ。すでに数団体でその姿が確認されているが、いずれも金は払っていない模様。

「だって、団体の人が入っていいって言ってくれたんだも〜ん！」

と、アタシは悪くないと言わんばかりの口ぶりで厚かましいことこの上なし！　あっちゃん（ビートたけしさんのご長男）や芸人さんたちを率いて、「行くよ！」「こっち！　こっち！」と仕切りたガールぶりを全開に発揮して、『紙プロ』在籍時よりも活発な動きをしているらしい。在籍時にそれぐらい活発だったらねえ……。

だが、いまさら活発になって、どうする？　「お休み中」のジャイ子には、取材をしても載せる媒体がないのだ。そのエネルギーをもっと他に活かす気はないのか？

そんなときに、全女の良心・今井良晴リングアナから、２０００年2月に開催される公開オーディション参加の打診があったのは前号で書いた通り。

放っておいても事態は進展しないので、ジャイ子を12月26日（日）後楽園ホール大会に連行して、双方の気持ちを確認することにした。

見たこともないほどに緊張しまくったジャイ子と共に控室の通路へ。今井さんは、忙しそうに動き回っている。だが、ジャイ子の姿を見かけるやいなや、開口一番「2月13日、空けておいてください！」といきなりお願いされてしまった。戸惑って言葉を失うジャイ子に、さらに今井さんが迫る。「オーディションとは言っても、簡単ですから。腕立てと、スクワットと、腹筋ぐらいはやっといてくれれば。こんだけ身長があれば大丈夫でしょう！　まあ、冷やかしでも何でもいいですから、とにかく受けてみてください」。

たしかに、ジャイ子がオーディションを受けること自体、冷やかし以外の何者でもない気はする。それでもいいなら、あとはジャイ子の気持ち次第だ。こちらも、「フレー！　フレー！」と体育会系サークルばりのエールでも送ろうか、という気持ちになってくる。だが、ジャイ子の顔はみるみるうちに曇ってゆく。どうした、巨人⁉

「だって、腕立てなんか1回もできないも〜ん！」

出来ないなら、トレーニングすりゃあいいだろ！　何のための準備期間だ⁉　ラクして、偉くなろうとするから、自分の周りに敵ばっかり増えていくという、This is ジャイ子な構造的欠陥がいまだに飲み込めていないようだ。ここまで期待させておいて、「腕立てできないからオーディション受けません」で、世の中通用したら警察も裁判所もいらないぞ。このジャイ子の一言で、非常にいたたまれない空気がその場に流れた。

その瞬間、飛翔天女・豊田真奈美選手が颯爽と現れた。すると、ジャイ子の醸し出すヘビーな空気は一変した。「この人、ちょっと前までマスコミだったんですけど、今度は全女に入るかもしれないんですよ」と今井さんが説明。すると、天女は「いいじゃん！　入んなさいよ！」とあっけらかんとジャイ子を後押し！　まずは当然、身長が気になったようで「身長いくつ？」と質問。ジャイ子も「１８０センチです」と営業用の公称身長で返す。さすがは、腐ってもジャイ子。『紙プロ』で仕込んだ芸を忘れてはいなかった。ただ、年齢を聞かれて素になって「……27です」と答えていたのはバカ過ぎる。また書類選考で落とされる危険性もあるぞ。大丈夫なのか？　すると飛翔天女は、またもやジャイ子に福音をもたらしてくれた。

「私と同じじゃん！」と驚きの叫び声をあげたのだ。同い年とは心強い！　きっと話もスイングするはずだ。リング上で中西百重や高橋奈苗に「おばちゃん！」といわれている豊田と、ジャイ子は同い年だったのだ。ということは、自動的にジャイ子にも「おばさん軍団」のライセンス発行である！（NO．20で大西タマリンと対決したときは、年齢詐称で23歳のふりをしていたが）。この笑えない現実にも、飛翔天女は「ガンバって！」と励ましの言葉を忘れない。じつにいい人だ。

というわけで、記念撮影をしてもらったのが、右上の写真。

果たして、ジャイ子はトレーニングを始めて、オーディションまでたどり着くことが出来るのか？　心して次号を待て！

全女サイドから正式にオファーを受けたジャイ子。体格だけなら全女のエースにも引けを取らない。大型新人誕生か？

流した涙はウソをつかない。ジャイ子よ、全女のエースを目指せ！

新日本プロレスの棚橋選手はスモー・ノブのファン！

スモー・ノブのごっつあん部屋

はぁ〜、どすこい！　どすこ〜い！　もう、年が明けてからだいぶ経つでごわすが、新年一発目なので言わせてもらうばい。あけましておめでとうでごわす。今年も、年賀状がたくさん来たでごわす。素敵な年賀状がいっぱい届いたので、その中でも金星級の素敵なデザインの年賀状をご紹介するばい。ここには掲載しきれなかった皆様も、今年はよろしくお願いいたすばい。さらに、本誌殿堂入り読者NO．001の武田いづみちゃんが崎陽軒のシューマイ無料券がついた年賀状で、ワシのプチタニマチに名乗りをあげてくれたでごわす。今年もごっつあん！

中川雅博画伯

雅山哲士

千代天山大八郎

イーフォースジャパン

2000 A HAPPY NEW YEAR
大和魂
PUREBRED SHOOTO GYM OMIYA
E-FORCE JAPAN, Inc

デザイナー江川晴康

THE FUNKS
DORY & TERRY
RETURNS 2000

豊田真奈美

NANAMI TOYOTA
今年も宜しくお願い致します

美容師 前田大尊

HAPPY NEW YEAR!

イラストレーター 師岡とおる

アントニオデザインサービス（ジェリー鵜飼）

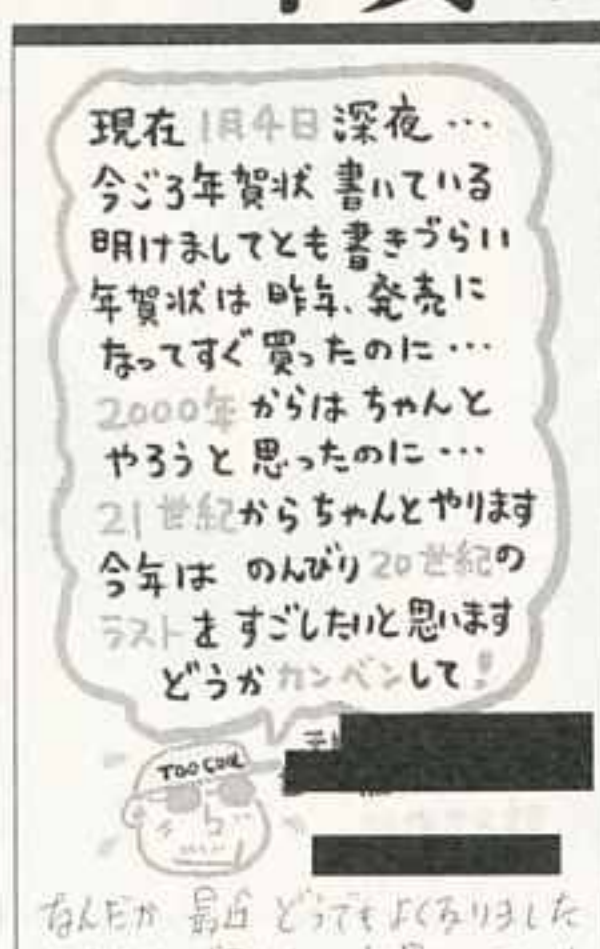
グレート・チョロの

ハガキ劇場

『紙プロ』がオモロハガキだけを厳選して紹介する年賀の花道なんじゃあ～！

タマリンの珍獣日記のスペースですが、原タコ兄さんに大阪人ジョークが通じず、憤慨してるらしいので年賀状紹介ページにしました。（せっかく、ALLキビさん特集にしようと思ってたのに……）

水道橋博士（浅草キッド）【3点】☆博士からのメッセージは、『紙プロ』＝ＲＩＮＧＳ　なんでしょうか？　とのこと。今日現在は『紙プロ』＝大刀光でごわす！

花くまゆうさく【2点】☆これはいいじゃけん！　ホント花くま先生はとんちが間いてますなぁ～。

杉作Ｊ太郎【4点】☆これはミレニアム問題。やっぱりジェイさんはトゥナイトタイムが絶好調なんですねぇ。

菊田早苗（パンクラス）【2点】☆チョロはキクターのため、すでに購入済みなんですよ！　菊田さん！！

滑川康仁（リングス）【9点】☆イエイエ、こちらこそ。その失礼な態度にゾッコンLOVEです。ちなみにリングス忘年会帰りの3人組が血だらけだったのはなぜ？

木村浩一郎（DDT）【2点】☆こ、これは!?　2000年問題勃発で浩一郎選手がカワイイ女の子に大変身なの!?

あんたが一番!!

田中健一
（格闘結社田中塾）
【10点満点】

オレがオトコじゃ タナケンじゃぁ～!!

さすが、タナケン！　自ら「タナケン」と書いてくれるなんて、"ごっついオットコ前"&オトコの中のオトコッス！　ちなみに、サボテン時代は「サボテン」記入なんでしょうか？

葛西純（大日本プロレス）【6点】☆この絵心に乾杯！　ウチのスモーをたのむでごわす！　どすこ～い!!

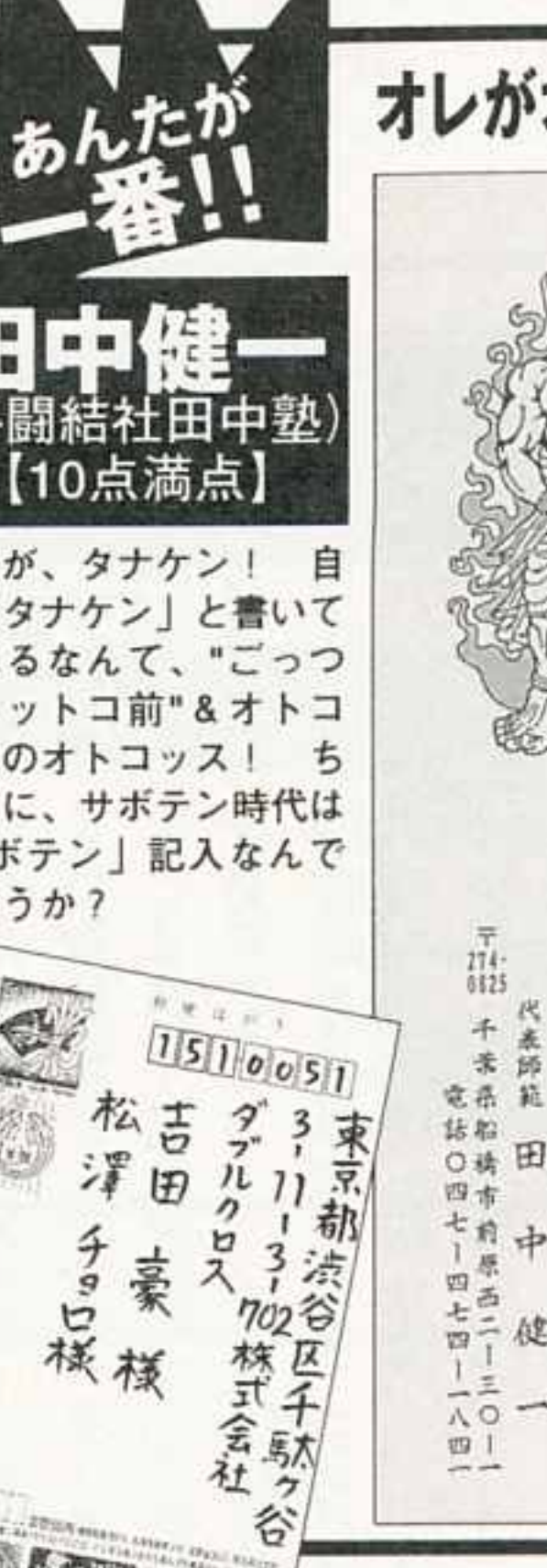
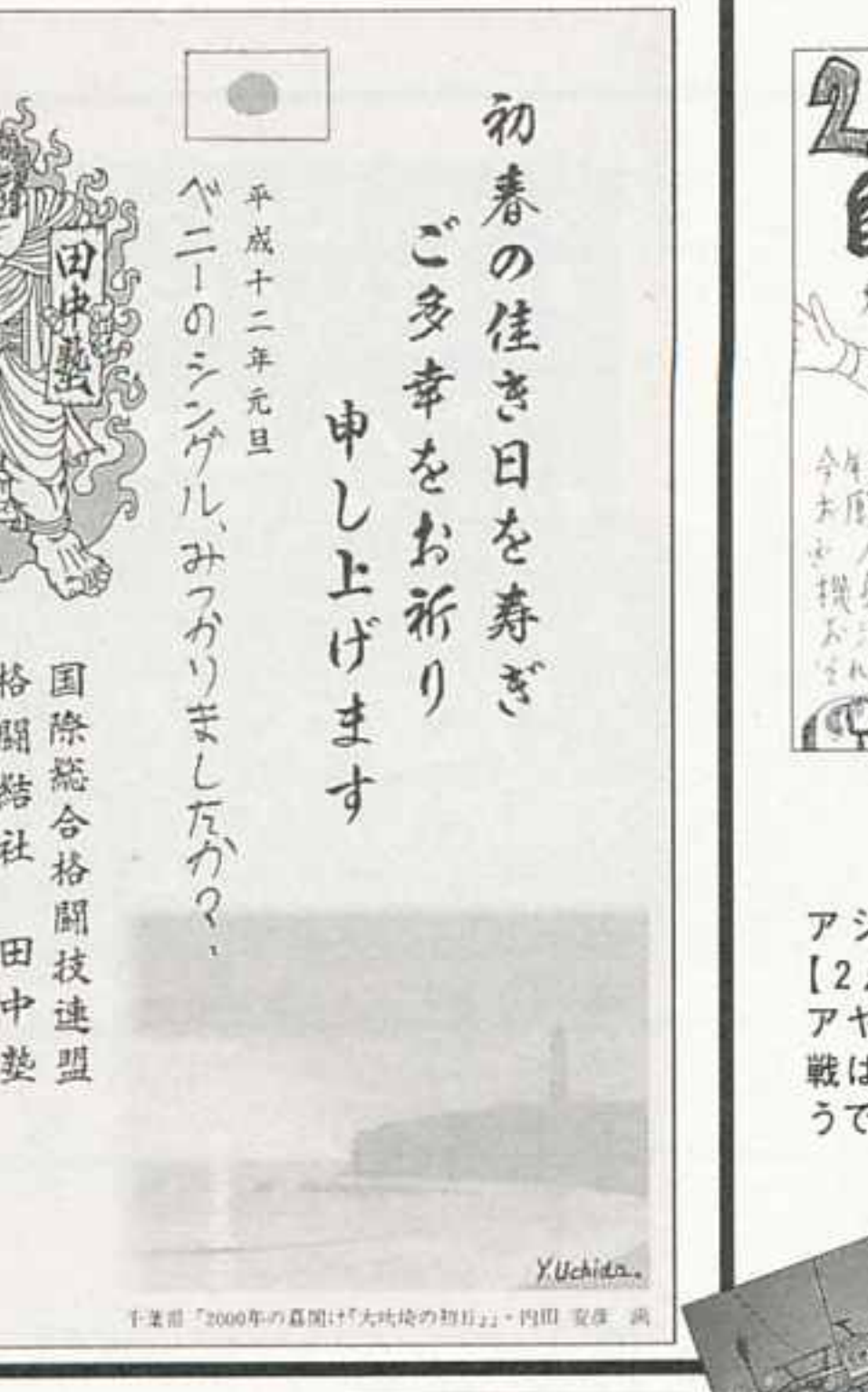
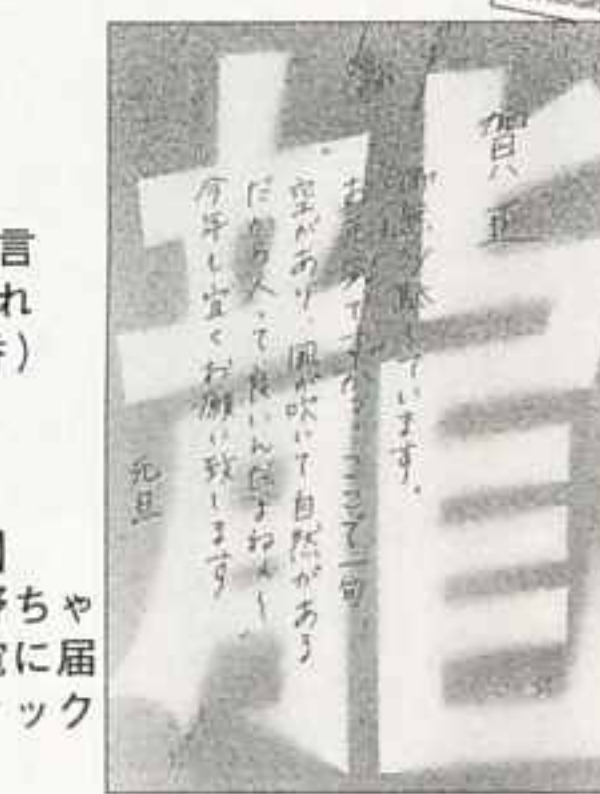
アジアン・クーガー【2点】　☆アジアン・アヤノさんのデビュー戦はジャイ子なんでどうでしょうか？

三田佐代子（女優）【2点】☆みちプロ大賞2000主演女優賞、受賞おめでとうございま～す！

匿名希望（ファイティング系）【1点】☆さて、これは誰でしょう？

モハメド・ヨネ（バトラーツ）【3点】☆ヨネさんには実に、お世話しました。

池田大輔（吟遊詩人）【3点】☆大ちゃん忘年会では、お世話になりました。

幻（二瓶組）【3点】☆ワタシにもひとこと言わして下さ～い。頑張れ夢ちゃん（初代優香）アリガトーーーッ!!

小路晃（A3－Gym）【5点】☆アキラ兄さんが年末に行方不明という噂を耳にしてましたが、ホッとしましたぁ～。

鍋野ゆき江【4点】☆元ＦＭＷの鍋野ちゃんから、吉田豪宛に届いたロマネスティックな一句。

桜庭和志（高田道場）【4点】☆編集部にサクから「中川君に年賀状をお願いしたいんですけど」ということで実現した中川画伯入魂の作品!!

★ハガキ劇場★ オフィシャルランキング2000

順位	名前	得点
1位	青木雄大	28点
2位	塩本祐介	15点
3位	細井つき子	10点
3位	フランク・シャムロック	10点
3位	田中健一	10点
6位	滑川康仁	9点
7位	仙波久幸	8点
8位	アントニオ文朱	7点
9位	キャプテン名倉	6点
9位	葛西純	6点

新ルール&新システムについて

まさかの2000年問題直撃により過去の得点が全て吹っ飛んでしまったため、新たなルール&新しいシステムを設定しました。
『ハガキ劇場』で採用されたハガキには1点から5点（例外あり）までの得点を差し上げます。30点以上獲得した方には素敵なプロレスビデオ。50点以上獲得した方には感激のプロレスグッズ、100点以上獲得した方には、あなたの見たいプロレス&格闘技の試合チケット（日本国内限定）、そして200点獲得した方は中川画伯に続く2代目ハガキ劇場チャンピオンと認定し、『ハガキ劇場特製チャンピオンベルト』を差し上げます。
引き続き『ハガキ劇場』をよろしくお願いするん邪！

募集要項

『ハガキ劇場』では、皆さまのご意見、ご感想、イラスト、投稿写真DX、俳句劇場等々、読者からの熱烈投稿を待ってるんじゃあ！　宛先は……
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ケ谷3-11-3-702　（株）ダブルクロス
「ハガキ劇場」係まで。合言葉は、「泡をふく男」邪!!

闘うビデオレビュー

闘魂VIDEO SHOP

［プロフィール］
かさい・おさむ■プロレス誌を万引きし、東スポを漁って読んでいた小学生時代を経て、『闘魂Vスペシャル』をリリースしているヴァリスに入社。猪木の暗黒面に触れ興奮し、思わず退社。猪木信者デザイナーとして現在に至る。現在も東スポは漁り読み。

元気ですかーっ!?　というわけで、前号でゴールドバーグの原稿を書いたにもかかわらず、来日中止になってしまった笠井修さん（元VALIS）が綴る闘魂ビデオレビューが今回から連載開始！　“活字じゃ伝わらないプロレスの神髄”をすくいとるプロレス映像の数々ををプロの眼でブッた斬ります！　道はどんなに厳しくとも、笑いながらビデオを見ようぜ！

ターゲットは猪木マニアのみ!!
車の中で2人がダラダラ話したこととは？

NBM V SPECIAL2

『アントニオ猪木vs武藤敬司』(VALiS)

●VAXR−30●90分●HiFi●カラー
●監督:小路谷秀樹●¥4800

今世紀最大のカルトな猪木ビデオ『誰も未だ見ぬ猪木』を世に送りだしたヴァリスから、また物騒なビデオ『アントニオ猪木vs武藤敬司』が発売された！　って自分が制作に関わったビデオのレビューってやりづらいっすよ。ウソ臭いし。でも、このビデオの濃さはハンパじゃない。確実に減少していると思われる猪木マニアのみにターゲットを絞りこむ、というマーケッティング完全無視のゲリラ的姿勢！　そんな初期闘魂V臭さがボク的には完全満足なんスよね。

ビデオの中身もトバしっぱなし！　なんてったって、内容の大半が車の中での2人の会話をダラダラと撮り続けたものっスよ！　武藤が運転する車で、助手席に猪木がいるのを後部座席から撮った映像っスよ！　どうですか、こんなプロレスビデオありえないでしょ？　猪木と武藤という最高のプロレスラーが車で普通のトークしかしないんですよ？　こんな無茶な作りのプロレスビデオは、その選手個人の圧倒的なプロレスラー臭が必要不可欠。猪木はもちろん武藤も圧倒的なプロレスラー臭さがプンプン出てます。

というわけで、内容を紹介しよう。最初はちょっぴり緊張気味の2人が会話を探りながら、今の近況なんか話してる映像も、後部座席からのアングルだと緊張感たっぷり。

猪木が「事故起こしちゃってさぁ」と呟けば、武藤が「ケガなかったんスか？」気遣う。この会話、ただのオッサンになってるもん。まぁ、2人とも普通と呼ぶには極端にデカいんだけれども。しかも、普通の会話の中にも「あんな事故が500ドルで済んじまったよ」なども私生活でもキラー猪木っぷりをちょっぴり発揮している。それにしても、淡々と私生活トークが進んで行く中でも猪木の顔はうれしそうなんだよねぇ。武藤と会ったとき、プロレスの話してるとき、今までの人生を振り返っちゃったりしてるとき……。引退間際の頃の死んだような目からは、考えられんぐらいイキイキしている。「歳取っちゃったなぁ〜」と思いつつも「おじいちゃん、良かったね。」と思わず声を掛けたくなること間違いなし。

そんな、おじいちゃん臭をプンプンさせてはいるものの、腐っても猪木。話題がプロレスになると、突如としてレスラー猪木の顔になってしまう。「会長、なぜ今でもトレーニングしてるんですか？」という武藤の問いに「もし北朝鮮、だれもやらなかったら、俺がリングに立ってやるから」と平然とレスラー復帰宣言をやってのける。関係者の誰もが反対していると噂されている北朝鮮興行について武藤が訊ねたときも「ホントにやるんで……」と言い終わらないうちから、「やるよ！」と一喝！　そのまま遠くをみて黙ってしまう姿に、新日内部の諸問題と猪木の頑固おじいちゃんっぷりが見えてステキ！

さらにキラー猪木は止まらない。紙プロ的ドラゴンファン（一部）にも興味深い、厳しい意見が社長に対しても容赦なく飛ぶ。「藤波という、まぁ、社長が」と微妙なニュアンスの言い回しから始まり、「現役時代はいろいろなことが出来なかったかも知れない。格闘路線やいろいろなこと。でも今は指揮権を持ってるんだから」と一見ドラゴンを認めたような発言もしたりはするのだが、ドラゴンがいろいろやりたかった時代に指揮権を持っていたのは間違いなく猪木。結局、猪木に言わせると「何でもやればいい、間違ったこと以外は」ということになるのである。ドラゴンを認めてるようでいて、まだ完全に猪木支配下にあると思われる発言は、ドラゴンファンで猪木ファンのボクにとっては悲しいながらも納得させられた。

この他にも今の新日に対して、愛ある故と思われる手厳しい意見を投げまくる。「大仁田でメシを喰わなきゃ行けない、そんな風になりさがっちゃったのかよ、お前たちは？　ああいう試合もあってもいいよ。でも新日本として『こういうものがあるぜ』（と見せつけた）、それが小川vs橋本戦だと思うのよ」。こんな話を毎日聞かされ続けたら、小川でなくとも過剰な行動に出てしまうはずだ。しかし、「（橋本にとって）試練だとしたら厳しい試練ですよね……」と、小川を良く思ってないと言うムトちゃんは完全に他人事の御様子。猪木に引けを取らずに、呑気な武藤っぷりも炸裂している点も見逃せない。

このビデオの撮影後、ボクの師匠である小路谷カントクの元に猪木さんから電話が入り「今度、橋本とオレでビデオ作らねぇか？　パラオの俺の島でさぁ」と、猪木さんと橋本の闘魂師弟関係は修復済みとの話も入ってきた。やっぱり猪木は分り易い。10・11のような試合をやってくれた橋本が可愛いくてしょうがないって感じでしょ？　しかもパラオ！　メチャクチャ見たいぞ！

読者2名様プレゼント

ここに活字プロレスの限界があるね

レスラーデビュー10周年記念ビデオ

『ザ・グレート・サスケ エピソード3』(東芝EMI)
HISTORY 1990〜2000

●TOVS—1363●85分●カラー●ステレオ●¥5000

おぉ〜、サスケっすね。もちろん知ってますよ〜。ボクはただの新日バカじゃないっスよ。スーパーJカップ出てたよね、たしか。8冠とかも取ったんでしょ。すいません、そんぐらいしか情報ありません。ま、そんなデルフィンの離脱すら知らなかったボクにもわかるような親切な作りのこのビデオ。デビューから今までのサスケストーリーが完全収録されてます。

しっかしサスケって男はほんと〜にバカ！こんなバカでいい男だったなんて知らなかったっス。映像のなかに漂う微妙なバカ臭。活字プロレスの限界があるね、ここに。試合は収録されてるんだけれどもココロはそれ以外のクダラない映像に奪われっぱなし。ビデオを見終わった後の「今のはなんだったんだろう」的な半笑い感はなんなんでしょうか。試合中もカメラマンが、観客が、皆半笑いになっている。出演者も春一番から猪木まで極端な豪華さ。この半笑いプロレスを完全真空パックしきったこの奇跡のようなビデオ。構成・脚本、山口日昇。なるほどねぇ。完敗です。

読者2名様プレゼント

杉Jの解説は最高ッス!!

FMWオフィシャル・ビデオ23th

『踊るFMW大激戦！』(東芝EMI)
〜凄絶！Hvsハヤブサ肛門爆破マッチ〜

●TOVS—1365●116分●カラー●マルチトラック(音声多重)●Hi−Fi●¥9500

「我々の世界にクソをたらした」とUインターをブッた切った長州の言葉をあざ笑うかのように、FMWのリングで行われた「リング上オッシコ制裁事件」。別に「神聖なるリング上でオシッコなんて」とか言うつもりは全くありません。「オモシロければ、なんでもやれや」の姿勢は非常に正しいっス。

細かいトコだが冬木を始め、皆マイクアピールが聞き取り易い。エンターテイメントプロレスにはこういったトコが物凄く大事っスよね。某「闘う社長」も、もう少し聞き取り易くなってほしいのだが……。そして、レスラーがみんなイキイキしてます。妙に。恍惚の表情でメタルを歌い上げているリッキー・フジのトビっぷり。大矢の演歌っぷり。似合い過ぎ。安住の地を見つけたんだね、よかったよ。しかしなぜ、新日出身者が音楽キャラに変身して行くのか……。次はまさか、ヤザワ金本か、ビートルズ越中が参戦か……？

雁之助は「2代目サムソン・クツワダ」を目指せ!!

『不死鳥伝説』(Mr.プレジデント)
プロレス団体FMWのレスラー達がAVに出演

●MRP—28●90分●無審査撮り下ろし●カラー●¥3980

藤原組長がAV出演の時、物凄い反響のわりにはビデオの中身は組長はノーカラミで「組長のガチンコが見れる」と期待に膨らんでいたボクらの様なゲスなファンはガッカリ&安心したもんだが、このハヤブサ、やってます。しかも思いっきり。「プロレスとは肉体のエロチズム」というアントニオ猪木の言葉を借りると、この試合もプロレスということになるのだろうか？　極端ではあるが。しかし、何かが違う。ハンドパワーでイカせた伝説を持つ猪木や、超高齢者フェチといわれる藤原組長など新日黄金期のレスラー達には数多くのネタがあった。セックスすら幻想に包まれていた過去のプロレスラーに比べると、やっぱりスケールがちっちゃいよなぁ。「さすがレスラーだ！」といわれるモノを見せて欲しかったっスね。このビデオでも。「技やテクニックじゃない、大事なのは相手を殺す気持ち」という猪木の言葉を胸に秘め、雁之助は「ハヤブサ」を捨て「2代目サムソン・クツワダ」を目指して欲しい。

西村修は文句なしにプロレスラーである

NBM V SPECIAL

『武藤敬司トークバトル7連発』(VALiS)
衝撃の告白！
「我の敵はガンなり」西村修 in INDIA

●VAXR—29●90分●HiFi●カラー●監督:小路谷秀樹●¥4800

以前、うち（ヴァリス）のビデオの撮影でプロレスマスコミの方に集まってもらったことがあった。その時、都合で出席できなかったケンファー佐藤さんのことを「インドにでも行ってんじゃないの」と思いっきりGK（某G紙のKさん）が叫んでいた。その様子を見るまでもなく業界的にも様々な反響があったと思われる「西村修in INDIA」は必見だ！

プロレスラーを続けるために体にメスを入れることを断わったという西村。ボクが聞いた情報によると、去年の検査で「復帰のメドが立つ」と言われており、経過は幸いにも良好らしい。しかし、これは医者に言わせると「奇跡に近い」状態なのだそうだ。

「死」と「プロレスラー」を秤にかけ、「プロレスラー」を選んだ西村。復帰の道は物凄く険しいだろうが、彼は間違いなく、文句なしに「プロレスラー」である。

他には、試合中に首を骨折し今だに「ライター」を近づけても感じない」状態だという現・新日トレーナー三沢威と武藤の対談も収録している。新日関係者も涙したインタビューと、現役時代の三沢威 vs 小原道由戦も収録されているので必見だろう。

※プレゼントの応募方法はP175を参照して下さい。

史上初の同日プロ・アマダブルヘッダーレポート

昼はアマレス!!

夜はプロレス!!

そして3月にはバーリ・トゥードに出陣!!

中西百重(全日本女子プロレス)こそ

いちばん振り幅の大きなプロレスラーだ!!

文／坂井ノブ（亡霊）
text by Nobu Sakai

プロとしてのショーマンシップと強さを両立させる——非常に理想的だが、実現するのは困難この上ない苛酷なテーマである。そういう高いハードルを自らに課しつつも、プロレスと格闘技の二足のワラジを履いているプロレスラーは文句なくステキだ。

男子プロレスでいえば、アレクサンダー大塚がその第一人者であろう。つい先日も『ＰＲＩＤＥ』の記者会見で、場内が引きまくってもお構いなしで腹話術を披露した。バカをやりつつも世界の強豪とバーリ・トゥードで渡り合うアレクのような痛快なプロ魂は、現在の女子プロレス界にはまったくない。だが、そんな状況を打破してくれそうな、じつに面白い逸材が現れた。それが中西百重である。

中西は身長157cm、体重58kgという小柄な体格なのだが、全女伝統の松永式押さえ込みマッチでは無類の強さを発揮している。さらに、見た人は誰もが納得だと思うが、「プロレス界一美しいジャーマン」の使い手でもある。アレクのようにしなやかで柔軟なブリッジから繰り出されるジャーマンは一見の価値アリだ。

そうかと思えば『格闘女神ATHENA』ではバカッぷり全開で、バラエティー対応も十分すぎるぐらいの合格点！

ここ最近、女子格闘家を取り上げつつ、壊滅状態の女子格闘技界に少しながらも風を吹かせてきた本誌としては、この中西がアマレスの全日本選手権に挑戦と聞いたら見逃すわけにはいかない。

というわけで、12月22日の『レスリング・フェスティバル女子の部』に早起きが苦手なボクが午前10時から足を運んだ。

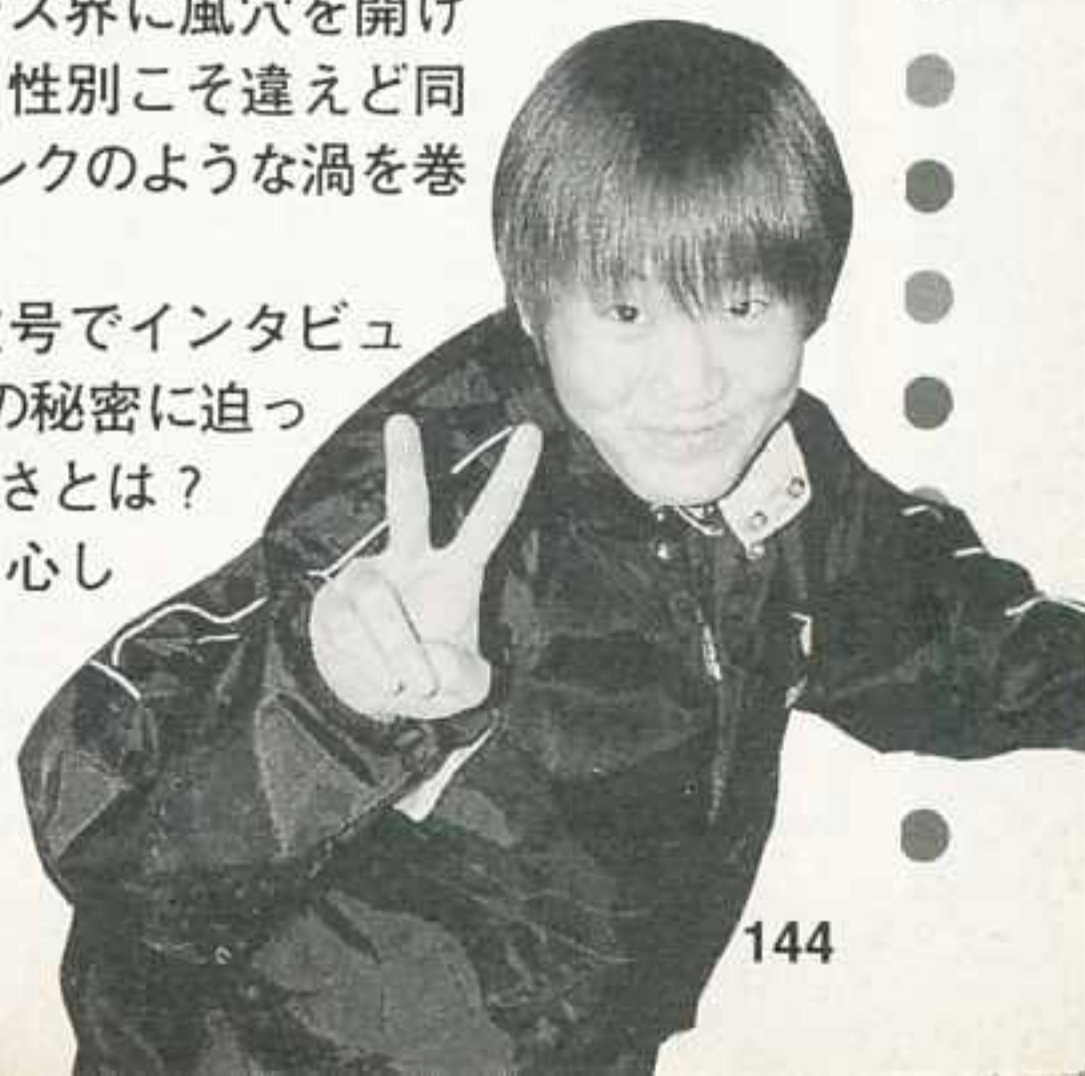
女子レスリングについてはまったくといっていいほど知識のないボクは「余裕で中西が優勝でしょ」ぐらいにしか思っていなかった。実際、'87年に行われた第一回全日本選手権65キロ級では、全女の豊田真奈美が優勝しているのだ。それだったら中西も大丈夫という、そんな軽い気持ちで観戦していたのだが……結論から言うと、中西はアマレスでは結果を出せなかった。予選リーグで接戦ながらも2連敗—。なんでも現在の女子レスリング界は、オリンピック正式種目を目指している真っ最中で、猛烈な勢いでレベルアップ中だという。負けはしたものの、中西はブリッジやタックルなど、プロレスの基礎となる部分のみで太刀打ちしてみせた。

しかも、その数時間後にはプロレスの試合である。スタンガンを持った井上貴子と40キロ近く重い井上京子を相手に、ガンガンぶつかっていき好試合を展開。最後にはフォール負けを喫したがメインの大役を十分に果たした。

この日、中西は結果こそ出せなかったが、今後の成長に大きな期待を抱かせた。これだけでも凄いのに、なんと3月にはバーリ・トゥードに挑戦するのだ。しかも、相手は昨年６月に60分フルタイムをＶＴで闘って引き分けた柔道出身の薮下めぐみ（Jd'）が相手である。こんな短期間でプロレス、アマレス、ＶＴのハシゴをするレスラーは男子でも見たことがない。一体、何かそこまで中西を駆り立てるのか？　中西の元気な活躍は、閉塞しきって団体が相次いで崩壊する女子プロレス界に風穴を開ける起爆剤となるはずだ。性別こそ違えど同じ道を歩み、いずれはアレクのような渦を巻き起こすことだろう。

というわけで、本誌次号でインタビューを敢行して、その強さの秘密に迫ってみたい。中西の思う強さとは？　そしてプロレスとは？　心して待て！

[追記] 昨年12月26日の試合で足首を全治2ヶ月の骨折。だが3月のVTは予定通りに行けそうだ。凄え!!

2000 格闘SMILE

敗軍の将、多くを語る!!

チームUFO同時インタビュー

小川直也&村上一成

「前田闇討ち事件」「健介」をUFO流にメッタ斬り!!

「1・4」「橋本」「飯塚」「PRIDE」

立会人／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi

撮影／斎藤ユーリ
photographs by Yuri Saito

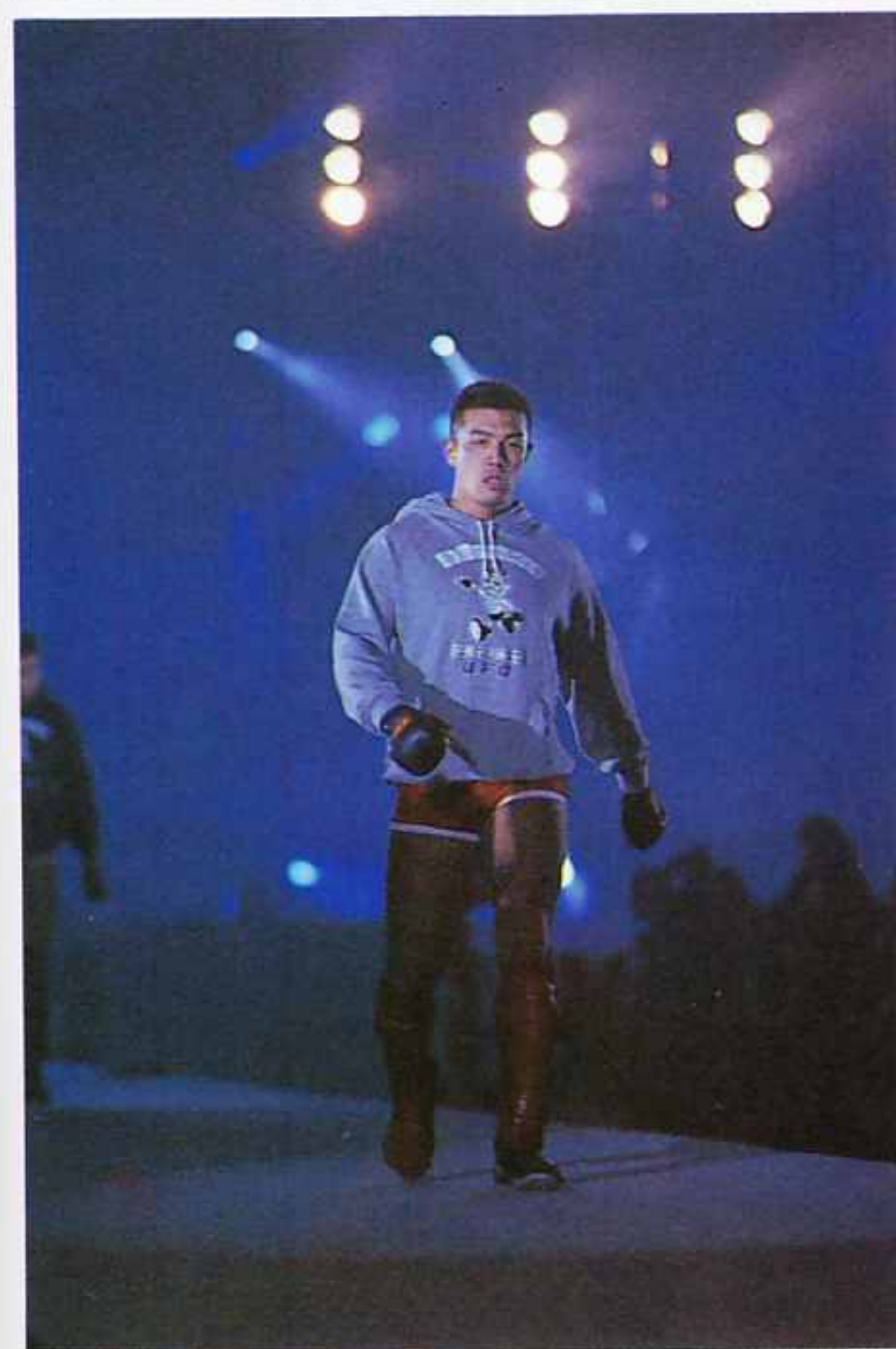
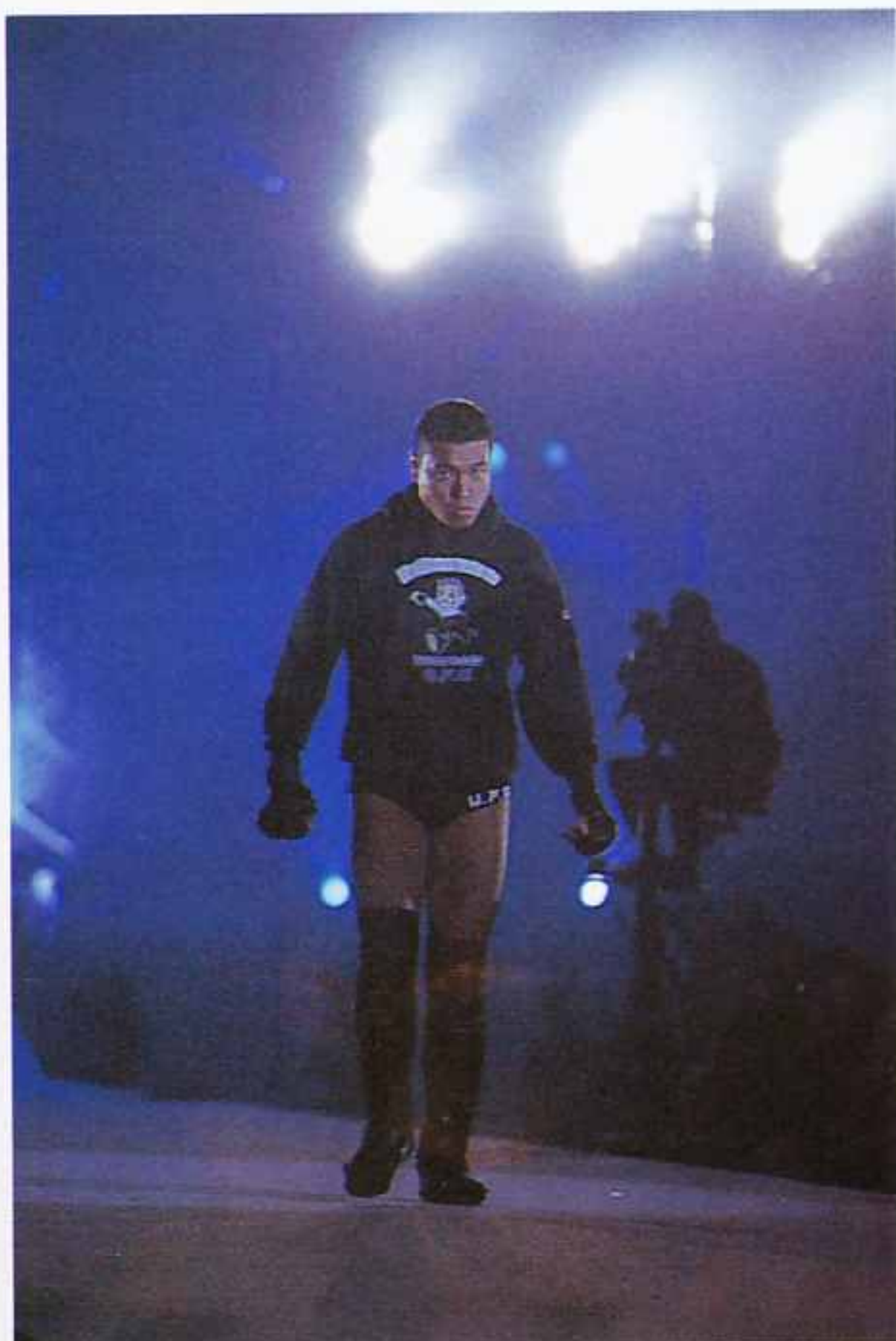
Naoya Ogawa

Kazunari Murakami

（初めてのタッグマッチは）面白いんじゃないですか？ タッチしてない？ どうってことねえよ！（小川）

あれから1年――。またもやUFOが新日本プロレスの"1・4ドーム"を襲撃した。昨年は、まるで、アメリカ大統領を撃ち殺してから始まる宇宙人襲撃映画『マーズアタック』のように、プロレスのセオリーを踏み潰したオーちゃんが、いきなり新日の"強さ"の象徴である"破壊王"橋本真也を破壊！ プロレス史に残る究極の大乱闘劇へと発展してしまい、"1・4事変"は様々な波紋を投げかけることになった。

その際、新日本勢は乱闘時に村上一成を失神昏倒させたが、その襲撃犯が飯塚高史！ そして1年越しの因縁に決着をつけるべく、遂に村上と飯塚がリング上で対峙した！

2000年1月4日――。小川&村上組vs橋本&飯塚組。W因縁の物騒なタッグマッチは、プロレスにしか醸しだせないエネルギーを、リング上と観客席双方から放出した雰囲気の中で行われたが、村上の奇襲攻撃からの蹴りで飯塚が失神！「目を覚ました」飯塚が、一瞬にしてまた眠る格好になったが、新日のセコンドが大挙して雪崩的リングイン！ 一度はノーコンテストの裁定がくだされた。ドームは、モノが飛びかい、まさに蜂の巣を叩いたような大騒ぎ！ しかし、立会人のアントニオ猪木の「続行ィーッ！」の声と共に試合再開！ その後もUFO勢が攻めに攻めまくったが、飯塚の逆転スリーパーに村上が沈んでしまった。UFOは、『マーズアタック』ならぬ『インデペンデンス・デイ』のように返り討ちにあう形になったが、一旦宇宙へと帰った「チームUFO」は意外にも元気！ UFO本体にも損傷箇所は見当たらず、そのボディにはこんなペイントがほどこしてあった。

「道はどんなに厳しくとも、笑いながら歩こうゼーッ！」

――今日は1・4を振り返りつつ、お二人に、ミレニアム的な抱負を一発ガツーンと言ってもらいたいなぁと思います。

小川　30ページ？

――それは無理というものです（笑）。

小川　じゃあ29ページで！（笑）。

――ガハハハ！ 1・4では試合前に、立会人だというのに、なぜかテーマ曲が流れる中、猪木さんが花道を走って出て来ましたね（笑）。それで新年の挨拶までしたんですけど、それは聞こえてました？

小川　バッチリ！ ですね。

――「道はどんなに厳しくとも、笑いながら歩こうぜ！」という、またまたバッグンのものでした。

小川　いい言葉ですねぇ。素晴らしい言葉ですよ！ 奥深いんでしょうね、やっぱり。「どんな状況でも笑え」と。

村上　………（ニヤニヤ）。

――ところで村上選手は、なんでそこで笑ってるんですか？

小川　あ、これは「村上一成、苦しくても笑う」の図ですから（笑）。

――あ、それで笑ってる（笑）。いま苦しいわけですか、村上さん？

村上　く、苦しい……。

1・4 UFO BOUT PLAY BACK

▼ストロングスタイル・ミレニアム 60分1本勝負

橋本真也 ○飯塚高史（8分59秒 裸絞め）小川直也 村上一成●

※1度2分24秒に無効試合になるものの、立会人の猪木が試合続行を宣言。その後の再戦

●試合前、特別立会人のアントン総帥は闘魂棒をブンブン振り回したあと、大盛り上がりのなか、花道を小走りで入場！ もちろん、第一声は「元気ですかーッ!!」。本文中にある新年の挨拶のあと、「1・2・3・ダーッ!!」も勢いよく済ませてしまった。この人の人間力にはナニモノもかなわない。 ■期待感のなか小川組は『炎のファイター』をアレンジしたNEWテーマ曲で入場。 ◆そして飯塚はこの試合にかける決死の覚悟を表すように、リング上でスキバサミ（？）で前髪をバッサリ！ ★村上は「しゃらくさい」とばかりに、ゴングが鳴るか鳴らないかのうちに、飯塚に蹴り、投げ、マウント・パンチと畳み掛けていった！

——なんでやねん（笑）。

小川　負けましたからね（笑）。

——小川さんは、自分のHPで書いてる日記に、「1・4は乱闘で体力が消耗した」って書いてましたね（笑）。

小川　凄い体力消耗しましたよ、あれ。

——まさに乱闘三昧でしたけど、初めてのタッグマッチはどうだったですか？

小川　面白かったんじゃないですか？　だけどタッチしてないんですよ。

——誰に試合の権利があるのか、グチャグチャでよくわからない（笑）。

小川　わからないところがプロレスで面白い！　細かいことは、どうってことねぇよ！

——ルールの問題はインターネットでも割と問題になってましたね（笑）。

小川　問題もなにもね、タッチする前にKOで終わってたんだから。あれはどう見てもね、KOでしょ。

——ゴングが鳴った後、飯塚選手が失神したわけだからKOですよね。もしくはセコンドの乱入で反則負けですよ、あれ。

小川　おかしい！　いまから抗議に行くゾ！

村上　（ニヤニヤ）

——村上さん、笑ってばかりいないで、なんか言ってくださいよ（笑）。

小川　おいおいおいおい、29ページなんだから！　頼むよ！

村上　い、いや、とにかく叩き潰すつもりだったんですよ。そ、それが……ちょっとやられちゃいましたからね。で～も、次は行くゾ！（飯塚は）試合前にハサミで髪切ってんじゃねえって。

小川　あいつ、あの時点で反則ですよ！　凶器持ってましたから。

——ガハハハ！　昔、控え室で藤波（辰爾）社長が猪木さんの前で前髪切ったことがあったんですよ（88・4・22沖縄）。だから、飯塚選手に藤波さんの魂が乗り移ったのかもしれない（笑）。

小川　う～ん、難しい。いよいよわかんなくなってきましたね。あれはなにやってんだろう？って思いましたねぇ。しゃらくさいことやってんなぁ、と。やるんならもっとやれって！

——バリカンかなんかでイッキに（笑）。

小川　チョンマゲとかやって、笑かしてくれるかなって思ったんだけどね。「スキバサミで梳いてんじゃねえよ！」って言いたくなっちゃいましたからね。

——あれはスキバサミだったんですか？

小川　……わかりません!!（笑）。

——ガハハハ！　で、村上さん、待ちに待った因縁のある飯塚選手と試合で実際に当たってみた感触は？

村上　……思ったより耐えれるな、と。逃げると思ったんで。

——村上さんの攻撃三昧でしたもんね、最初は。

村上　9割イケたんですけどね、最後のオイシイとこ持ってかれちゃいましたね。

——プロレスの会場でしか味わえない熱気とエネルギーがリング上にも観客席にも充満してた試合なんですけど、その中で飯塚選手がブレイクしたと言われてますよね。

小川　あれは村上の蹴りでスイッチ入ったんだよ。

——さらに「目が覚めた」と。

小川　「やればできるじゃねえか」って。ちゃんとしたものを持ってるのに、なんでやんねぇんだよ。よくわからねえヤツだな、って。

——やっぱり、去年の1・4で新日本プロレスという巨体のドテッ腹に、小川さんが風穴を開けた効果ですよ。

小川　そうなんですかね？　本人、去年そんな試合してなかったからね。もったいないよね。ああいう選手、いっぱいいるんじゃないの？　なんで磨けば光る人がいるのに……。

——それはなにが問題なんでしょうね？

小川　わかりません！（キッパリ）。ボクはそれ以上は言いません!!

——ガハハハ。かわしますね（笑）。一度ノ

●試合開始早々ラッシュをかけた村上の顔面蹴りで、飯塚は失神！　昨年の“1・4事変”を彷彿とさせる戦慄のシーンだ！　◆するとセコンドの新日本勢が大挙してリングインし、乱闘開始。1度は無効試合という裁定が下されるが、リング上は混乱続行ッ。ヤッさんが幻想ふくらみまくるドスを効かせれば、村上も応戦。中西も、オーちゃんに張り手を見舞っていった！　★そこに立会人のアントン総帥が闘魂棒を携えて登場。「俺が立会人だーッ！　よーし、試合続行ーッ！」。そしてホントに試合続行ッ！　いいぞ、アントン!!

ーコンテストになって、新日本側のセコンドがワーッと来たとき、中西（学）選手が小川さんの頬を張りましたよね。「許さないぞ、中西！」とHPの日記に書いてましたけど。

小川 去年はガタガタと口だけだったけど、今年は口だけじゃ面白くないんで、こっちから蹴りを入れてみたら、仕返ししてきてね。ま、でも「次にとっとこ」と思って。

――「おいしいぞ」という感じ？（笑）。

小川 俺の罠にはまった！「いいのか、中西？ 次、行くよぉ？」って。

――「いいのか、中西？」ですか。怖いですねぇ。1年前は長州（力）監督に張られて、1・4は毎年順調に張られてますね（笑）。

小川 今年は（長州力が）出て来なかったですねぇ。俺はいつも張り返すのを「狙ってる」って公言してますからね。〝来たのかな〟って思ったら、スーツ着てたから、〝あ、これは違う〟と思って見たら藤波社長だった（笑）。藤波さんは、だいたい猪木会長と対称的なんですよね。前回（99・10・11）は会長がタキシードというのに対して、藤波さんはレフェリーであぁいうカッコしてたし。今回は会長がヤッケズボンみたいなの履いて、闘魂棒持ってね（笑）。

――確かに対称的ですね（笑）。村上さんはセコンド陣で目についた人は？

村上 ヤッさんですよ、ヤッさん！ 安田（忠夫）選手に、「オマエ、もう1回やってやろうか！」って言われたから、「かかって来い、コノヤロー！」って言っちゃったんですよ。

小川 乱闘のとき、俺も安田選手に首投げされましたからね。

――日記でも「あのケサ固めと首投げは痛かった」って書いてましたね。安田選手には幻想膨らみますね。

小川 いや、膨らましてんですよ。

――安田選手は、なんかのインタビューで「小川はスパーリングやったって大して強くねぇよ！」みたいなこと言ってましたからね（笑）。

小川 言わしといていいですよ。やるときになったら行くぜ！ 彼はイケると思ってんだから、「じゃ、来なさい」と。

――飯塚選手は村上選手に対して、「またいつでもやってやるぜ」と試合後にマイクでアピールしてましたよね。

村上 言ってました？ あのヤロー、マイクアピールまで真似しやがって。俺もいつでもやってやるよ！ いつでもかかって来い！ 頭丸めて。

――次はシングル決着？

村上 シングル決着したいけど、タッグも面白いかな。

――タッグの魅力に目覚めた？

村上 2人で殴れるから！

――あ、そういう単純なことなんですね（笑）。

小川 そりゃあ面白いよねぇ。要は今回は、村上の一人舞台だから。俺はフテ腐れてましたから。あんな簡単に試合決まっちゃったらさぁ。

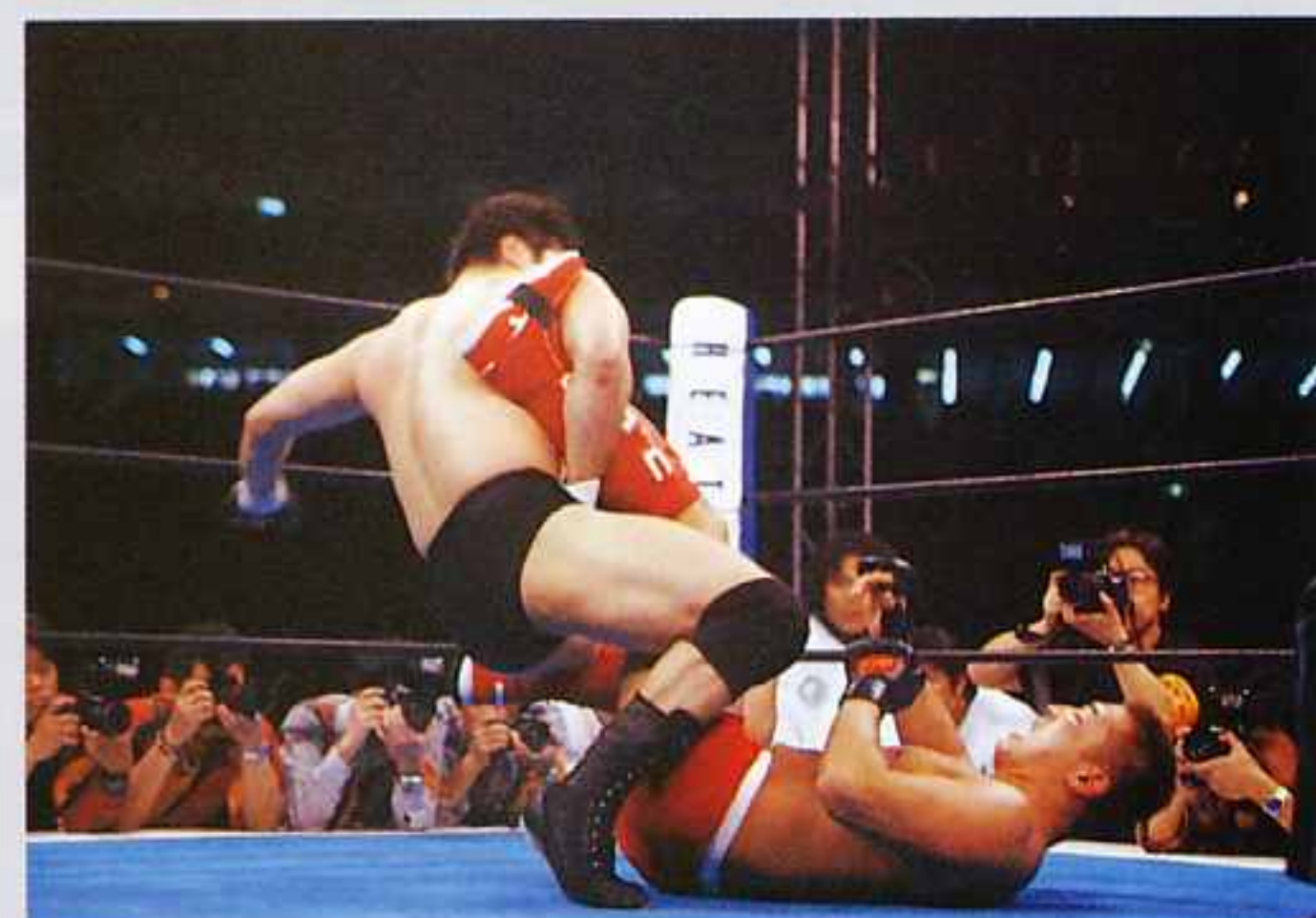
村上 ……。じゃあ今度ボク、タッチしますから。

小川 こないだの試合は俺、一番ビビッちゃったもん。「あれ？ 俺、出なくていいの？」って思って。「とりあえずここは煽っとけ！」って手を叩いて煽っちゃったりなんかしてね（笑）。ノーコンテストになったときは、「どうすんだろう？ 俺出てねぇゾ」ってポツリと考えましたよ。とりあえず出番ないから（飯塚に）蹴り入れといたけどね。「オマエ、ノビるの早い！」って。

――ガハハハ。往年の名レスラーのビル・ロビンソンさんが、「ドームの全試合でグッドレスラーは小川だけ」って言ってましたね。

村上 オ、俺は？

――村上さんの名前は出なかったかな（笑）。

村上 グアァ～ッ！ どうしよう？

――もしかしたら、「小川組」って言いたかったのかもしれないですけどね（笑）。ところが、ロビンソンさんの側近の宮戸優光さんは「飯塚が良かった」って言ってますね。宮戸さんはふだん小川直也絶賛派なんだけど、今回は「小川選手はいいところがなかった」っていう言い方をしてました。そういう意見を聞いて、小川さん、どうですか？

小川 う～ん、ビル・ロビンソンは素晴らしい！

――ガハハハ！ お見事です（笑）。村上選手は橋本選手と当たった感触はどうでした？

村上 いやぁ～、強烈な蹴りでしたねぇ、不意打ちの（笑）。一番ビックリしたのは最初のツッコミだったんですけどね。ツッコまれたときに「なんて固まりが飛んで来たんだ！」って。闘牛かと思った（笑）。

――闘牛（笑）。小川さん的には、前回と比べて橋本選手はどう違いましたか？

小川 気迫だけ！ あとは変わんない。スピードとかはどうかなって感じだけど、気迫は違いましたね。まさに崖っ淵の気迫。崖から落ちてるんだけど這い上がってきてるっていう感じかな。

――海に落ちてるにもかかわらず上がってきてる（笑）。

小川 海に落ちてるんだけど、「ヨッシャ、ヨッシャ、ヨッシャ！」って、クライマーみたいにね（笑）。指の感覚も、もうないんだけど上がってきてるっていう。

――そういう気迫を感じたと。

小川 感じるようなものが出てたんじゃないでしょうか？ 今回はこっちが（村上を指

●村上もオーちゃんもカットプレーには苦しめられた。オーちゃんは飯塚に背後からドロップキックまで喰らってしまったのだ。 ◆息を吹き返した飯塚も、道場主の面子にかけて、サンボ・テクを随所で見せた。 ■注目のオーちゃんvs破壊王の絡みは、オーちゃんがスタンド、グラウンドとも破壊王を翻弄。しかし、破壊王も袈裟斬りチョップ、バックドロップなど、1度は闘魂伝承最前線にいた男の気迫を存分に見せつけた。 ★押しまくったUFOチームだが、最後は一瞬の隙をつき、飯塚が村上をスリーパーに斬って落とした。破壊王は試合後、アントン総帥に向かい、「2回や3回負けたくらいで引っ込まないですよォ！」と久々に破壊王節を爆烈させた

「タッグのベルトを巻きたいなあ、2人で」（村上）「俺はいいよ。1人でやってこいよ！」（小川）

差して）主役ですから。

——振られてますよ、村上さん（笑）。

小川　あのね、今回は、番組のエンドロールのキャストのところに、いきなり最初に「村上一成」って名前が出てきてるようなもん。次に飯塚選手がきて……。

——「助演男優賞」ものですかね（笑）。

小川　光らすっていう部分をビル・ロビンソンは見てたのかなぁ、と（笑）。

——さすが人間風車！　しかし、あの試合は凄い盛り上がりでしたね。ハンパじゃない熱気でしたよ。ドームという会場は間延びすることが多いんですけどね。

村上　花道、長いッスねぇ。

——いや、そういうことじゃなくて（笑）。

小川　村上が歩くの速いからさ、「緊張してんな、コノヤロー」なんて思いながら出てったんだけど（笑）。

——小川さんも花道からまたもや、目はイッてるバージョンでしたからね（笑）。

小川　村上にイッってたんですよ。

村上　グアァ〜ッ、ヘンな視線を感じたのはそれだったんだ！　でも大会場での歓声はターボかけられますよね。

——あの日の他の試合とは、ボルテージが全然違う。最初に猪木さんが1人でおいしいとこ持ってったら、普通、その後の試合ではトーンが下がっちゃうもんだけど、全然ボルテージは落ちなかったですからね。

小川　折れた闘魂棒を見ながら、「これで殴られちゃ、かなわねえなぁ」って思ってましたからね（笑）。その闘魂棒を持ってリングサイドにいるのは、鬼コーチみたいなイメージがあるじゃないですか。顔、怒ってましたよね。

——あれは黒崎健時チックでしたね（笑）。

小川　それ以上ですよ！　あの折れた棒が生々しかった。あれ、どうやって折れたんですかね？

——猪木さんが試合前に「1・2・3・ダーッ！」をやった後には、すでに折れてました（笑）。ところで、橋本選手が「小川との闘いは試合じゃなくて戦（いくさ）だ」っていう言い方をしてましたけど、これを聞いてなにを感じますか？

小川　俺、「戦」っていうのは好きじゃないなぁ。将軍がいて、歩兵がいてとかさ。集団で、なんかサラリーマンっぽいじゃない。俺たちのは「闘い」ですよ、1対1の！「いつ何時、どこに来ても」っていう。「戦」って言っても誰が将軍なんだよ、一体！坂口（征二）会長が将軍なのかなぁ？

村上　それに闘うのは自分らだし！　その考えの違いがリングの中に出てたのかもしれないですね、多勢に無勢で。向こうはセコンドがブアーッといて。

——UFO勢は今回セコンドは誰もいなかったんですね。

小川　いらない！　俺たち2人で十分っていう気持ちでいましたからね。

——数では圧倒的に不利な中で、安田忠夫選手に「もう1回やってやろうか」と言われたわけですか（笑）。

村上　だ〜から、「コノヤロー、オマエやってやるよ！」ってなっちゃいますよぉ。

小川　じゃあ村上選手、次は頼んだぜ！

村上　まずは、飯塚選手には、近いうちにリベンジしたいですね。

小川　向こうはやってくれんのかなぁ？

——小川さんは、当面、橋本選手とのシングルは考えてないわけですか？

小川　新日だったらタッグのほうが面白いかなって。タッグの王者っていうのは中西選手だし！　村上選手がタッグのベルト欲しいみたいですから。IWGPという偉大な素晴らしいチャンピオンベルトを。（村上のほうを向いて）ハイ、村上選手！　いまのうちにゴマ擦っとかないと！　やってくんないからさ。

村上　（棒読み調で）タッグのベルト巻きたいなぁ、2人で。

小川　俺はいいよ！（笑）。

村上　ふ、2人でやんなきゃできないじゃないッスか！

小川　また1人でやってこいよ！

2000 格闘SMILE

村上　ボクも、一番心に残るっていうか、ど

――まあまあ（笑）。でも、一連の報道に水を差すわけじゃないけど、試合中ズッと押してたのは村上選手だし、村上さんのほうが敵地であるとかキャリアの面を考えれば、ギラリと光ったと思いますけどね。飯塚選手に最後に取られたとはいえ。

小川　『紙プロ』だけですよ、そんなこと言ってくれんのは。他のヤツは「新日強し！」とか「やはりやった新日！」とか。俺たちに言わせりゃ、「どこが？」と。

――橋本選手は試合後にマイクで、「二度や三度負けたぐらいじゃ引っ込めない」って言ってますけど、シングルに関しては、まだ引っ込んどけということですか？

小川　お互いが最高の状態でやるときはまだまだと思うし、こないだの試合で見た限り、身体は徐々に変わってきてるんじゃない？　だから、これからじゃないですか？　でも麻雀みたいに、負けたら「もう1回」、また負けたら「もう1回」ってなっても、お客さんも飽きてくるでしょう。「おいおいおい、オマエが勝つまでやる気か？」って。

――麻雀だと、最後は「もう、オマエの勝ちでいいよ」ってなっちゃう（笑）。

小川　そういう心境にさせないでくれよって。

――猪木さんが「実人生でもプロレスでも、成長したり変化を遂げながら、同じ相手と何度も何度もぶつかり合うことがある」というようなこと言ってましたけど、次は橋本選手が劇的に変貌を遂げたときにやると面白いでしょうね。猪木さんからは1・4の試合についてなんか言われましたか？

小川　「ありがとう」と。とくに村上選手に対してね。でも、逆にこっちから会長にはホントにお礼言わないとね。会長がいなかったら、あの試合恐ろしいことになってたからね。あのまま行ったら無効試合になって、俺の出場なくして終わってたから。会長だから許されるってことがあるじゃないですか？「続行ーッ！」（笑）。

――「俺が立会人だーッ！」（笑）。

小川　どう落とし前をつけるように言うのかなぁ、「これ以上揉めると闘魂棒が出てきて怖いな」と思ってたところに、「続行ーッ！」だって（笑）。

――「俺が立会人だァー！　よーし、試合続行ッ！」（笑）。猪木さんを見てるとつくづく思うんですけど、凄いものを見たときって笑っちゃいますよね。笑っちゃうほど凄いというか。

村上　グハハハハハ！

――村上さん、なにもそこで笑わなくていいです（笑）。小川さん、タッグマッチというのはやっぱり難しいもんなんですか？

小川　難しさもあるけど、なるようにしかならないから。シングルもタッグも。でも、抗争があって、その場しのぎのタッグじゃなければ、場面場面で別の見方もできる。そこがけどね。それと、カットプレーもテクニックのひとつっていうけど、「そうじゃねぇだろ」と思うしね。そりゃ、カットの技術も要るけど。

――じゃあ、カットプレーとかは単純な話、ないほうがいいわけですか？

小川　要らない！

――ちゃんとタッチして入った方がいい？

小川　いや、タッチも要らない！

――ガハハハ！　じゃあ、なにがいるんですか？

小川　要は、お客さんが「タッチしてないじゃないか！」とか文句も言えないくらい、グウの音も出ないぐらいの闘いを見せればいいと。今回も、会場ではそんな細かい文句は出なかったでしょ？

――そうですね、会場では「タッチしてねえゾ」っていう野次も飛んでなかった。それぐらいエネルギーを使って、集中力を持って見てたってことですよね。

小川　それですよ。要はタッチするとかしないとかじゃなくって、お客さんが集中してくれるか、それだけだから！

――セミ（蝶野正洋vs武藤敬司）とかメイン（佐々木健介vs天龍源一郎）との勝負という点は考えてましたか？

小川　もちろん！　猪木命令ですから。「セミとメインを食え！」って。

「タッチしてない」とかの文句も言えないくらい、グウの音も出ないくらいの闘いを見せればいい（小川）

格闘SMILE 2000

Naoya Ogawa Kazunari Murakami

村上　ボクも、一番心に残るっていうか、どの試合に比べても「一番」って言われる試合をしなきゃいけないっていうのはありましたね。どんな試合であっても、そういう気持ちは必要って思いますけどね。

――猪木さんは「俺が全試合を食ってやる！っていう気持ちでやらなければいけない」と言ってましたよね。小川さんは試合じゃなくてもそうですけどね。

小川　もちろん！

――記者会見で菊の花束投げたり（笑）。でも、あの試合があったことによって、セミとかメインの試合も繋がりとして見れるようになるんですよね。武藤、蝶野、天龍、健介選手たちは、あのボルテージの高い試合の後で、一体どういう風にテーマとカラーをぶつけてくるのかという。

小川　ああ、逆にね。

――このところのドーム大会って、1試合1試合ブツ切りなことが多い。単体というか。でも、あの試合があったことによって「セミもメインも見とかなきゃ」っていう気になりましたからね。

小川　で、どうだったんですか？

――内容的にはいいんですけど……これ以上は言いません！（笑）。

小川&村上　ガハハハ！

小川　俺の試合を見に来てくれた人が、俺の試合が終わった後、「長いから帰っちゃった」って（笑）。でも、そういうこと言われると嬉しいですよね。

――蝶野vs武藤の映像を駆使した入場だけは面白かったですね（笑）。

小川　（チーム2000ポーズをつくりながら）「チーム・ツーサウザンド！」ですか。

●「黒の統一」をかけたメジャー決戦・蝶野vs武藤戦は、クラシックなレスリングを展開。蝶野がクロス式STFで勝利（上）■ド迫力一辺倒の試合で天龍源一郎を破り、天下のIWGP王座に返り咲いた佐々木健介。「2000年は新日本を俺が引っ張るぞ！」と叫んだが、小川直也という地雷を踏むのか？（左）

ボクらもやりましたもん、「チーム・ツーサウザンド!」って。

村上　小川さん、結構あれ好きじゃないですか（笑）。

――小川選手たちの試合はライブではメチャメチャ面白いんですよ。で、他の新日本の選手たちの試合は、会場でボルテージが低い試合であっても、テレビでは見れちゃう。小川選手たちの試合の、ライブでのボルテージの高さはテレビでは伝わり切らないんですよね。だから逆に、「タッチしてない」とか冷静なツッコミが入る（笑）。

小川　テレビで伝わらないのは編集だよね。新日側がやってるから（笑）。いいんです！

――ガハハハ！　いいんですか？

小川　敵にまわすならまわしやがれ！　俺たちはヒール・ロードを歩いてるから。どこもかしこもUFOのユの字も出てこないですからね。『紙プロ』ぐらいだね、今回期待するのは（笑）。

――どうせ「なんで負けたチームを大々的に載せるんだ」とか言われるんでしょうけど（笑）。

小川　でも、俺たちが勝ったって、負けた選手を上げるでしょ、他のマスコミは。ホントに『紙プロ』は逆行ってますからね。逆の王道を行ってる（笑）。

――やっぱり、猪木ワールドというか、猪木劇場というか、それを見せられたらそっちのほうが断然面白いですよ。でも村上選手、真面目な話、今回の敗因はなんなんですか？

村上　……背負い投げ。

――は？　いや、技的なことじゃなくって（笑）。

村上　なんなんですかねぇ？

――プロレスって格闘技的な強さだけで勝敗が決まらないときもあるじゃないですか。なにが負けに結びついたんですかねぇ？

村上　……それがキャリアなんですかねぇ？

――キャリアか、油断か。

――もしかしたら飯塚選手の人間力が総合的には上回ってたのか。

小川　そりゃないでしょう！　でも、（村上が）弱いからじゃないですか？

――ということで、小川選手から檄が入りましたけど。

村上　頑張ります！　ウシッ!!

VT（バーリ・トゥード）に出ていく以上はプロレスファンの夢を壊さないでくれよってことです！（小川）

小川　負けたヤツはね、言い訳しちゃいけないんですよ!!「仕掛けられた」とかさ、言っちゃいけない（笑）。負けたときは素直に負けを認める。「敗軍の将、多くを語らず」。……だいぶ村上は語ってるけどね。

村上　さっき「語れ」って言ったじゃないッスか！

小川　語らすだけ語らせといて、最後にボクがビシッと締めなきゃいけない。「敗軍の将、多くは語らず」。

――小川さんもだいぶ語ってるじゃないですか！

小川　語り過ぎやんって。これ、最後のオチだったんだけどね（笑）。

――「敗軍の将、多くを語る」（笑）。ところで小川さん、『PRIDE』のトーナメントには出ないことになりましたが。

小川　最初っから出ないはずだったんですけどね。

――なんでトーナメントが嫌なんですか？

小川　嫌だっていうか、あれで一番が決まるってなると、損って言い方は変だけど、こっちはUFOとしてトップを張ってやってるわけだから。だったら『PRIDE』のトップって誰だよ？ってことでしょ。『PRIDE』でトップ張ってたのが高田選手とヒクソンだったから、俺はこの2人とまずやらせろって言って、向こうもいいって言ったんだから。トップ同士は、自信がなかったらできないでしょ？　そういう闘いをしてみたいからね。いろんな意味で真のトップは誰になるのかっていうね。

――じゃあ、今回のトーナメントで、『PRIDE』のトップが決まったら行くつもりはある？

新発売のオーちゃんストラップに♪夢でキスキスキス、キスキ～スキスの図

小川　俺は「行きたいな」っていう気持ちはあるよ。でもウチとしては、『PRIDE』の都合に合わせたくないっていうね。

――コアなファンの間では「小川がトーナメントから逃げた」なんていう声もありますけど、決してそういうことじゃないと。

小川　逃げるんだったら最初っから『PRIDE』行かないでしょ！　俺としてはこだわりを持って行きたいな、と。

――普段から「こだわりはない」って言ってるじゃないですか（笑）。

小川　ここだけは！　まるで、いままでの日本の政治みたいなものを感じるからね。そういうのをブチ壊したいな、と思って。約束があるのにそれをやらないっていうのはよくないよ、と。要するに『PRIDE』側も、なんの仕掛けもできないから、漠然とトーナメントにしたんじゃないですか？　だからね、そんなのに使われたくないですよ。

――高田vsホイス・グレイシーが決まって、船木vsヒクソンも決まって、小川選手が「やったら面白い」と言ってた選手が、次々と対戦相手が決まってしまいましたね。

小川　辛いですよ！　あんだけ吠えてんのにスカされるという。どう考えても、興行的に考えても、俺と高田さんのほうが面白いんじゃないかと思うんだけど、スカされてしまった。「高田、高田」と吠え続けたから、ここまで頑張って来れたのに、ホイスが持っていきやがった（笑）。種蒔いて、やっと木が立ったら、ホイス鳥が来て、実を取っちゃったって感じですね（笑）。

――ガハハハ！　ホイス鳥（笑）。高田vsホイスって興味ないですか？

小川　全然ない！　見えてますもん。

――ホイスの勝ちは動かない？

小川　でしょうね。

――となると、もう高田選手は追いかけないんですか？

小川　もうやめました！　台風に遭ったような被害ですよ、ボクは。被害デカいですよ。1年以上叫び続けて。お百姓さんの気持ちがよくわかりましたよ。「これから収穫だ」ってときに台風来ちゃって。農家の人の気持ちがよ〜くわかりました。

――ガハハハ！　最初は高田選手行って、そのあとヒクソン選手っていう二毛作を狙ってたのに。

小川　もちろん！　それが共倒れになっちゃって。小川農家大ピンチ！

――ヒクソンvs船木戦も興味ない？

小川　ない！　他人の試合は興味ない。東京ドームで船木vsヒクソンでやってどれぐらい入るのかなって考えちゃいますね、プロである以上。

――ところで村上さんは、久々に『PRIDE』参戦なんていうのは考えてないんですか？

村上　いまのところないですね。

――プロレスの道を精進する。

村上　足踏みするヒマがないっていうか、目標があるから。走ることが楽しくてしょうがないっていうか、寄り道してらんないかな、と思って。

小川　いいこと言うなぁ。俺もそれ書いといて。

村上　と、取らないで……。

負けても実にひょうきんな村上選手

――ダハハハ。『PRIDE』といえば、新日本を退団した藤田和之選手の参戦が決まりましたね。

小川　勝ってほしいですね、藤田に。

――一緒にトレーニングしてた仲ですもんね。

小川　タックルに入るまでだったら、マーク・ケアーに勝てるんじゃないですかね？　マーク・ケアーと藤田の試合だったら見たいね。同じレスリング同士だし。

――元力士の大刀光選手もオブザーバーとして出場することになったし、プロレスからバーリ・トゥードに出て行く人が今後も増えそうですね。

小川　いいんじゃないッスか？　ただし、出て行く以上はプロレスファンの夢を壊さないでくれってことです！　そこまでプロレスファンの気持ちを守ってやれるか。やる以上はそこまで背負えよってことです！

――いや、普段、「なにも背負わない」というような発言をしてる小川さんが言うと逆に重みがありますねぇ（笑）。

小川　ウチの会長であるアントニオ猪木が築いたものを壊すなと。アントニオ猪木がいままでプロレス最強説を唱えてきて、実際にそれを証明してきて、それによってみんな食ってるんだから。軽い気持ちで出て負けるっていうのは「フザケンナ!!」ってことです。

――でも、たぶんファンにとっては、猪木さんの唱えたプロレス最強説を現実として一番見せてくれそうなのは小川さんでしょうから、だからこそ「トーナメントにも出てほしかった」っていう声があると思うんですよね。「みんな、なぎ倒してほしい」という。

小川　もう少し『PRIDE』がね、早く高田選手とかヒクソンとやらしてくれれば。でも、これからですよ！　トーナメントが今年で潰れるわけじゃないでしょ？

――トーナメントといえば、リングスもトーナメントを開催してますけど、前田日明闇討ち事件について、いま考えるところはありますか。

小川　いやあ、前田さんは、復帰早々飛ばしてますからねぇ（笑）。凄い人だなぁと思ってね。俺のエールなんて要らねぇんじゃねぇかって感じ（笑）。いきなり殴られて、「そのまま沈黙が続くのかなぁ？」と思ったら、アッという間にバーッと吹いてますからね。手に負えないわ、みたいな。オマケにドームでは、俺らの試合を見て、「俺のほうがアイツらよりカッコよく見える」とか言ってたらしくて、相変わらず飛ばしてんなぁ、と思って。もう、闇討ち事件はなかったかのようにね。全て修正できる技術というものをボクも身につけたい（笑）。全てをなぎ倒すなにかがありますよ。あの人ほどなぎ倒してる人はいない！　逆風を喰らっても、全てなぎ倒す（笑）。

――ガハハハ！　確かに。前田日明もアントニオ猪木の弟子ですからね。

小川　でも、最後はカッコ悪いことになったよね。（安生洋二が）罰金20万円って。あの記事見た瞬間は「ハァ〜？」ってね（笑）。急転直下ですよね。

――ちょっと前は、小川さんも「前田日明が復活して俺とやれ」って言ってましたけど、いまはどういう気持ちなんですか？

小川　やっぱりねぇ、襲撃事件の衝撃が強すぎたね。「これがホントの襲撃だ！」っていう。勉強しなきゃいけない。背後から襲う練習とか。後ろから相手のアゴにパンチを入れる練習しなきゃいけないかなぁ、と。

2000 格闘SMILE

Naoya Ogawa Kazunari Murakami

いまから伊原ジム行ってやろうかな。

村上 ボクを実験台に使わないでくださいよォォ！

小川 「オマエ、ポケットに腕入れとけ」とか言って（笑）。その相手に背面からボコッと入れる。なかなかできる芸当じゃないですよ。

——前田日明への対戦要求は取り下げですか。

小川 取り下げっていうか、俺自身そんなこと言って迷惑しちゃった（笑）。幻想抱きましたからね、「闇討ちしてみろ！ 返り討ちにしたるわい」って言われたとき。そうしたら、突然ドカーンとやられて、ボクらショックだったですよ。だって前田さんのこと、じっくり研究してましたからね。前田日明の身辺調査までしてましたから（笑）。でもね、俺がファンだとしたら、「前田—安生」は、やっぱりリング上で決着つけてほしい。

——たとえば、小川さんが前田さんの仇を討つっていうのはどうですか？（笑）。

小川 まあね、みんなに言いたいけど、高田＆ヒクソンにしてもいかれてるし、人の獲物を取るなよ、と（笑）。でも、安生選手にも一度やられてますからね、反則で。

——あぁ、K—1のリングで（98・7・18名古屋）。

小川 あれは許せない。でも、よく考えると、俺と安生選手がやるっていうのも、わけわかんない図式だよね。なんで俺がやんなきゃいけないのかっていう（笑）。

——ガハハハ！ 確かに（笑）。

小川 わかんないんだけど、「ま、いっか」って。俺は必殺仕事人だから（笑）。でも、もしやったとしたら、前田さんは「当然、リングスのリングやで」なんて言いそうだよね（笑）。

——ガハハハ。ズバリ言って言いそうですね（笑）。でも真面目な話、小川さんも当面対戦相手が決ってないじゃないですか。

小川 佐々木選手がね、いま頃になって「猪木イズムを俺が継ぐ」みたいなこと言い出してるけど、ハッキリ言って、前田さんじゃないけど、「寝言は寝て言え」だよ。猪木イズムを継ぐのがいかに大変なことか、俺が一番よく知ってるし。だいいち猪木ファンに対して失礼！ 佐々木選手が一生かかっても無理でしょう。文句があるならいつでも受けてやる、と。

——そうすると、新日の中では、橋本選手よりも、健介、中西選手あたりが有力なわけですか。

小川 ただ、向こうが逃げたらわからないけどね（笑）。だから当面は、UFOの仕掛けでいこうかな、と。2月にNWAのアジア・サーキット（2月21日～27日の間に韓国で4大会。2月28日～3月5日の間に沖縄で4大会。そのうちオーちゃんが何試合出場するかは未定）があるから、チャンピオンとして回るし、7月には北朝鮮、11月にはヨーロッパっていう大きなものがあるんで。あとは夏ごろに一発『PRIDE』でも行きたいな、と。次の『PRIDE』は、佐竹（雅昭）選手には注目してるんですけどね。俺に対しても吠えましたからね。それで（マーク・）コールマンに秒殺されちゃったら面白くないよと。いまは佐竹選手は『PRIDE』の広告塔ですからね、俺にかわって（笑）。素晴らしい！」。

——村上選手は今後の目標は？

村上 行くとこまで行こうか、と。

——ガハハハ！ どこまでですか！

村上 先は長いですからね。とりあえず、やられたものは返さなきゃいけないし、まだまだ新日本には、やった軍団がいますから、片っ端から殺しに行こうかなと思って。始まったばっかりですからね、ボクは。それを徐々に、どう料理していこうかと。

小川 おいおいおい、「どう料理していこう」って、この間、負けてんじゃねえかよ！

——ガハハハハ。

小川 っていうツッコミが読者からくるのをヒシヒシと感じますね、すでに（笑）。

村上 忘れてました！ 負けました、ボク。東京ドームでは2年連続で寝ました。去年はリング外、今年はリング内。3年目は眠らないようにしたいと思います。寝正月にならないように（笑）。

小川 もういい。「敗軍の将、多くは語らず」（笑）。とにかくUFOは、面白いところに着陸します！

【2000年1月7日／六本木アートセンターにて収録】

佐々木選手が猪木イズムを継ぐ？ 一生かかっても無理でしょう（小川）

2000 格闘SMILE

メジャー

新日本のマットで何かが蠢き始めた!!

―地雷だらけの1・4東京ドーム―

キモと不透明決着の藤田。完全決着の場、『PRIDE』へ!

1・30『PRIDE・GP』に電撃参戦を発表した藤田和之は、"怪人"キモと対戦。往年の異種格闘技戦チックな一戦も、正月ムードのビッグエッグという空間の中では、消化試合的な匂いのほうが上回ってしまう。これが「ドーム・プロレス」の怖いところでもある。その"怖さ"を断ち切るためか、スケールの大きいエンターテインメント・プロレスの方向に、いつしか新日マットは傾いていった。それが悪いというわけではないのだが、その方向性が、格闘家として資質のあるレスラーの個性を埋没させてしまったのも事実である。

この日、キモの"肝っ玉"を蹴り上げて反則負けになった藤田は、『PRIDE.』へ出陣! 藤田のこの行動が、他の新日勢にどんな刺激を与えるのだろうか。

"黒"のライガーの問題提起はジュニアの枠にとどまらず

フルスピード&大技の応酬&カウント2・99の攻防というのが新日ジュニアの「定説」だったが、"黒"のライガーが、この日風穴を開けた。IWGPJrヘビー級王座の初防衛戦で、ライガーは、3分26秒、垂直落下式ブレーンバスター一発で、日の出の勢いの金本浩二を撃沈してしまった。これには一般ファンもマニアも関係者もマスコミもビックリ!

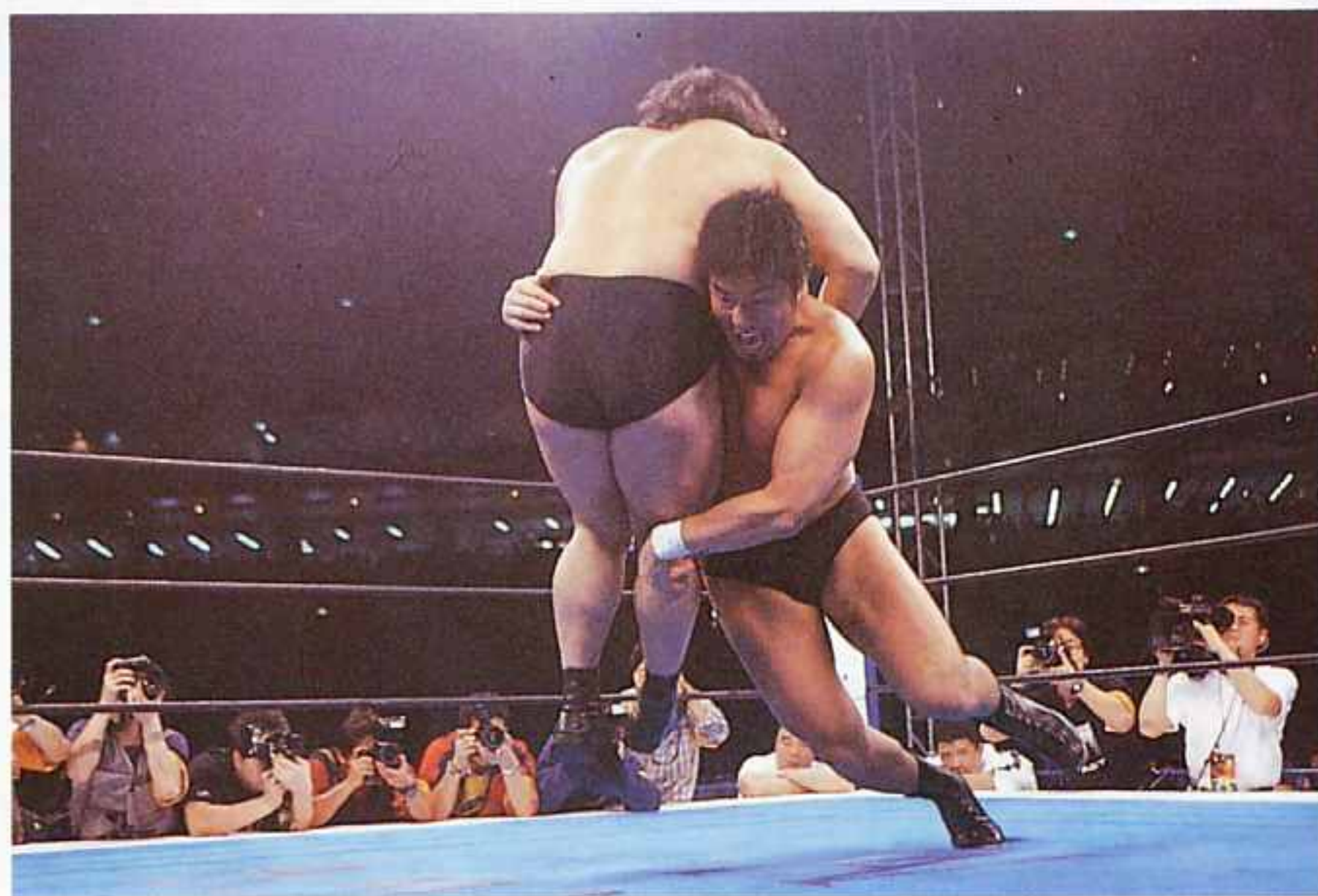
人をビックリさせることにかけては、我らがアントン総帥の右に出る者はいないが、さすがは猪木さんの"草履とり"をやりながら猪木イズムを吸収したライガー。「プロレスの原点に戻っただけ」というライガー発言に、一定の「枠」の中でレベルを上げることを競うジュニア新世代は何を感じたのか？ "黒"のライガーの殺気溢れる謎かけは、今後も波紋を呼びそうだ。

猪木イズムは再び新日帝国に根づくのか? 新日は本気なのか?

昨年の1・4は、オーちゃんが、新日本という巨大帝国の土手っ腹に風穴を開けた。今年の1・4も、昨年級のショックはなかったものの、「ライガーの秒殺」「藤田の助走」「オーちゃん組vs橋本組のゴールデンタイムを彷彿とさせるリング上&観客席のエネルギー」etcと、考えさせられる題材はいくつも転がっていた。

「人と違ったことをやるのが個性ではなく、自分を掘り下げていくのが個性だ」――誰が言い出したかはともかく、これをプロレスに当てはめてみると、こうなる。「人と違ったプロレスをやるのが個性ではなく、プロレスを掘り下げていくことが個性になる」

掘り下げるという作業をやりだすとキリがない。キリがなければ安定したビジネスにはなりにくい。順風満帆な新日帝国にとって「プロレスを掘り下げ続けること」は地雷を踏むことと一緒、余計なことなのである。しかし、本気で猪木イズムを再び根づかせるつもりなら、この面倒くさい作業をやらざるをえなくなってくる。新日帝国の猪木イズム回帰は本気なのか? しばらく帝国からは目が離せない。

"スーパールーキー"鈴木健三デビュー 大型新人はプロレスに何を見たか?

鳴り物入りで入団した鈴木健三が、昨年のG1覇者・中西学を相手にデビューした。ラグビー時代の輝かしい実績の象徴であるラガーシャツを脱ぎ捨て、花道をダッシュしてリングインすると、ドームは期待感で爆発した。

試合は中西に"担がれて"敗れたが、デビュー戦としては合格点。しかし、ゴールドバーグばりの弾丸タックル、マウントからの張り手、ハイスパートなパワー殺法と、いまの時代の"いいとこ取り"をしたようなスタイルには、どこか中途半端な感があるのは否めない。が、この逸材が幸運なのは、「猪木イズムとは何か?」という命題が新日マットでも再び顕在化してきたときにデビューできたことである。いつ健三は"猪木イズム"という地雷を踏むのか? それが運命の分かれ道である。

徹底検証

なぜターザン山本は 馬場さんの世界を肯定して 現在の全日本プロレスを否定するのか？

ジャイアント馬場
1周忌追悼座談会

オレこそが
ノーフィアー!!

フィアーが安生（洋二）ですよぉぉ

ターザン　いや、だからさぁ僕も、

馬場さんが亡くなってから早くも1年が経つ。昨年5月から三沢新体制となった全日本プロレスは、ファン抽選によるマッチメークや取材規制の緩和など、目に見える形で少しずつ変革を遂げつつある。本誌も、現在許可されているのは会場取材のみながら、変わりゆく全日本プロレスの、他誌が報じない全日の素敵な側面にスポットライトを当てる企画がスタートした。だが、そんな全日に噛みつく一匹の金髪落武者がいる。マスコミでは、生前の馬場さんと最も密接な関係を築いた（本人談）ターザン山本である。『マイナーパワー』という、プロレスとキャバクラと身の回りのことが書いてある自身のホームページで、最近の全日に対して、試合内容のことからお歳暮がこないことまで、無闇に熱い牙を剥きまくっているのだ。一体、何がそんなに気にくわないのだろう。悪いのは全日なのか？ ターザンなのか？ この壮大なクエスチョンに答えを出すべく〝『紙プロ』の馬場＆鶴田コンビ〟こと山口日昇＆吉田豪が挑む60分一本座談会、スタート！

――山本さんは、ずっと全日本プロレスというか、馬場さんとは仲が良かったんですよね。それが、ここ最近の全日はけなしてるわけですけど、何か理由があるんですか？

ターザン だって、馬場さんがいなくなったら、何を言ってもいいんだよ（キッパリ）。

山口 ガハハハハ！ なぜだ!?

ターザン 馬場さんは、自分の目が黒いうちはすべてに目を光らせてて、何かあったら絶対に許さないというタイプなわけでしょう。全日がはじめて東京ドームで興行をやるときに、日本テレビが「天龍（源一郎）さんを出しなさい」って言ったら、「それは絶対イヤだ。それだったら会社を辞める」って言ったんだよォ。馬場さんというのはイヤなものはイヤだとハッキリ言うわけよォォ。でも、例えば馬場さんが会社を退いてハワイかどっかに隠居でもしたら、お前ら勝手にやりなさいっていう人なのよ。ということは、馬場さんがいなくなってしまった瞬間から何をしてもいいわけよォォォ（ドンドンドン！と机を叩いて炎上）。

豪 ダハハハハ！ もう、そこで机を叩きますか（笑）。

ターザン ところが、俺がこういうことを言うと「不謹慎だ！」とか言われるんだよな。みんな馬場さんの心を誰もわかってないんだよ！ 理解力がないんですよォォォ（ドンドンドン！）。ただ、馬場さんが亡くなって、好きなことをやり始めたのが3人いる！

山口 3人と来ましたか！ 誰ですか？

ターザン まず最初がノーフィアー（高山善廣＆大森隆男）だな。馬場さんがいるときに「ノーフィアー！」なんて叫んだら、ハッキリ言ってその瞬間に勘当だよォォォ！

山口 クビじゃなくて勘当？（笑）。

ターザン そう！ まあ勘当というか出入り禁止ですよ。

山口 全然違いますよ（笑）。

ターザン もともと馬場さんのなかでは大森の評価は低かったから。でさあ、ノーフィアーっていうのは「怖いものなし」っていう意味なんだろ？ あれは馬場さんという怖いものがなくなったってことなわけだよ。理屈は合ってるよな。だから、全日で一番革命的なのは大森ですよ！

山口 そうだったんだ？（笑）。

豪 ヘアースタイルまで革命的ですからね（笑）。

ターザン それで、2番目のノーフィアーは、ハッキリ言って、竹内さんなんですよぉぉぉ（ドンドンドン！）。

山口 は？『ゴング』の竹内宏介さん？

豪 そういえば最近、山本さんと共著で本を出しましたもんね。

ターザン だって馬場さんが生きてるときに、僕とああいう本を出したら、絶対に馬場さんは「お前ナメてるのか」となるでしょ。

豪 馬場さんも、対抗戦が実現不可能な理由として「『ゴング』と『週プロ』が一緒に雑誌をつくることは有り得ないだろ？」ってよく言ってましたもんね。

ターザン あれは馬場さんが、竹内さんと僕に対して持ってた気持ちを完全に裏切るということになるでしょ？ つまり竹内さんは本当に馬場さんを理解していたんだよ。

豪 だからこそ竹内さんもノーフィアーになったということですねえ（笑）。

ターザン そう！ つまりぃい、ノーフィアーということをわかることが、馬場さんを本当に理解することなんですよォォォ！

山口 なるほど、って納得していいのかなあ（笑）。

ターザン で、3番目のノーフィアーが安生（洋二）ですよぉぉぉぉ！

山口 いや、もう3人名前上がってますよ（笑）。

ターザン （無視して）ああいうテロ行為も馬場さんからすると、プロレスラーにあるまじき行為なんだよ。あんなことがあるなら、業界そのものに火ぃつけたいぐらいなんですよォォ。だから、もし馬場さんがいたらああいった事件は絶っっっっっ対に起こらない！

山口 でも、馬場さんには火をつけない怖さがあるんですよね。

ターザン ある！ 火をつけないで、グッと我慢しつつ、マット界の隅々まで目を光らせてたわけよ！ だから、いま言った3人は、ノーフィアー化したわけですよ！

一同 ガハハハハ！

豪 そしてもうひとり、ノーフィアー化した山本さんが全日を叩くってわけですか（笑）。

ターザン いや、だからさぁ僕も、馬場さんがいたときに言えなかったことを今は言えるわけですよ（キッパリ）。

山口 タチ悪いなあ（笑）。だから、自分のインターネットの日記の中で「今年は全日本プロレスがお歳暮送って来なかった」とか書いてるわけだ（笑）。

ターザン （思い出したように）ああっ、あのお歳暮事件はねぇ……。

山口 ガハハハハ！ それは、事件なのか!?

ターザン 毎年12月になると、全日本からタオルが送られてくるんだよ、大きなバスタオルが。あれって、すごく実用的でしょ？

山口 実用的ですからね、タオルは（笑）。

ターザン しょっちゅう使うものだしさあ。それで、タオルがたまってくると、近所の人にあげるんだよ。これが喜ばれるんだ！ たしか村松

馬場さんに対する“ノーフィアー”として、'99年のマット界を賑わせたこの3者。確かに、世紀末に走り出した暴走野郎共ばかりだ。昨年のプロレス流行語大賞も、おそらくこの「ノーフィアー！」であろう。マット界に睨みを効かせていた馬場さんの存在の大きさを裏付ける結果となった。

（友親）さんの家にも送ったんじゃないかな。

豪　えっ？　全日本プロレスからのお歳暮をそのまま横流ししたんですか？

ターザン　う〜ん、送ったんじゃねえかなあ。

山口　ガハハハハハ！　それ、単なるお歳暮の使い回しじゃねえか（笑）。

ターザン　それが今年は送られてこないんですよぉぉぉ（ドンドンドン！）。オレがいろいろ全日のこと書いてるから、向こうが固くなってんのかなあって思ったんだけど、でも、知り合の人に聞いたら、他の人にも送られてきてないんですよ。どうやら喪に服してるらしいんだな。だから、これはオレの美しい誤解だったわけ！

一同　ガハハハハ！

豪　全然美しくないですよ（笑）。

山口　自分で勝手に勘違いして文句言ってるんだから、ノーフィアーというよりアンフェアだよ、それ（笑）。

ターザン（無視して）それでね、馬場さんの何が凄かったっていうと、何もしないことで輝いてたことなんだよ。どんなジャンルでも、普通の人間っていうのは何かをすることによって輝くわけでしょ。何もしないままであれだけ輝いてた馬場さんという存在はすごいよ！

山口　それはでも、何かをしてくれる人が他にいたから何もしなくても良かったわけでしょ？

馬場さんがいなくなったら何を言ってもいいんですよォオオ!!

ターザン　それは、猪木さんがあらゆるメチャクチャをするわけでしょ。その対立概念として、馬場さんは何もしなくて輝いたから希有な存在なんですよ。実際、全日は何もしちゃいけないわけですよ。例えば場外乱闘やマイクパフォーマンスなどやっちゃいけないことがいっぱいあるでしょ？　でも、それは馬場さんだからできたことだったんだよォォ（ドンドンドン！）。だから、馬場さんが亡くなった今、全日は何かをし続けなきゃいけないわけですよ！　ところが、馬場さんの意志を変に受け継いで、何もしようとしない！　これじゃ、どんどん先細って行きますよぉぉぉ！

豪　でもある程度受け継いだようにしとかないと、周りから叩かれるじゃないですか。「馬場さんの意志を忘れたのか」みたいな。

ターザン　仮にそう言われたら、「じゃあどうしたらいいのか？」ってことで、猪木的な弁証法になるからおもしろいわけよ。だから、絶対メチャクチャなことをやるべきなんですよ！

馬場さんも十分にお金を持っていそうな印象はある。ハワイ、ゴルフ、絵画、マージャンなど、その多趣味ぶりは"ゆとり"の証といった感がある

山口　今の山本さんの話を聞いて思ったんだけど、三沢体制の全日がどうしても中途半端に見えちゃうのは、新日が中途半端だからだよ。

豪　またとんでもないことを（笑）。

山口　新日がもっとアグレッシブに仕掛けてれば、動かない全日がまた光ると思うんだけどなあ。新日本が何もやらないから、全日まで中途半端に見えちゃうんだよ。いま、昔の新日のようにアグレッシブなのはUFOと『PRIDE』とリングスだけじゃん。

ターザン　いや、とにかく全日本の問題点はたった1個しかないわけよ。要するに、新日本に比べてギャラが安いってことなんですよォォォ！

山口　いきなりゼニの話（笑）。

ターザン　いや、プロレスラーというのは、「強くなければいけない」というのと、「金持ちでなければいけない」っていうのが二大原理だったはずなんだよ。そのために猪木サンは街に出るときはリムジンに乗ってたし、寒いときは毛皮のコートも着るし、20年ぐらい前は、スポーツ選手の長者番付で1位だったんですよ。それで、馬場さんていうのは、猪木さんと同じぐらい金を持ってたんだけど、あえて持ってないようにしてたわけですよね。逆に猪木さんは、持ってないのに持ってるようなふりをしてたんですよ。猪木さんの美学は凄いよ。

山口　美しい強がりだね（笑）。

ターザン　あとこれはゼニとは対極の話なんだけど、俺は23年間この世界にいて、2つしか学んでないの。ひとつは猪木さんから教えてもらった生活の知恵。

山口　ほう。なんですか、それ？

ターザン　どんなことがあっても人のせいにして……。

一同　ガハハハハ！

ターザン　自分を見事に正当化することね。

豪　またロクでもないこと学びましたねえ（笑）。

ターザン　とにかくプラス思考で、明るく楽しく「1、2、3、ダーッ！」で生きていくというか、芸で生きていくというか、それを学んだわけよ。だから、どんなことがあっても猪木さんのことを考えればさあ、プラス思考でいけるわけよ。そういう猪木的思考がすごく自分の肌に染みこんでるわけ。それに対しては猪木さんにはほんとに感謝してますよ。だから俺は54歳にもなってこんなに若く生きられるのは、猪木さんのせいなんですよ！

山口　それも猪木さんの「せい」（笑）。そういうときは「お陰」って言うんですよ。

創立21周年記念
10月23日 日本武道館
大入り
連続125回
全日本プロレスリング株

ターザン秘蔵！　馬場さん思い出の逸品、それが大入り袋。中には125と書かれた缶バッチ入り。ちなみに、千円札はしっかり抜かれていた。

ジャイアント馬場1周忌追悼座談会

ターザン （やっぱり無視して）もうひとつは、プロレス界っていうのは関わるといろいろなことがあるわけだけど、馬場さんと食事していたあの瞬間だけが、唯一、最高にリッチな気分と最高の思い出があるわけですよ。そのリッチ感というのは、あとはなんにもいらないっていう気分させられるわけ。それが今までの全日本の選手の気分だったんですよ。だから、馬場さんがいたときは、馬場さんと一緒にいるということが、ギャラが安いことにスリ替えられる。「馬場さんといれるだけでお金のことはいい」という存在だったわけ。それが全日本の美しさだったんですよ。でも馬場さんがいなくなったら現実だけがドーンと残るわけ。そのふたつだけが僕の体に残ってるわけです。

山口 馬場さんからもらったのがリッチ感だとすると、猪木さんから学んだ生活の知恵っていうのは？

ターザン 現実ですよ‼

山口 現実！

ターザン 日常の現実をノー天気にダイナミックに生きるということです。

豪 馬場さんからもらったリッチ感っていうのは、まさかうまいもの食わせてもらったたっていう単純な意味じゃないですよね（笑）。

ターザン それも含めたその時間だよね。23年間業界で生きてきて、これ以外に最高の時間ってないから。

豪 その食事のときに山本さんは猪木さんの悪口ばっかり言ってたんですよね（笑）。

ターザン だって、猪木さんの悪口言うと馬場さん喜ぶから（悪びれる様子もなく）。

山口 ガハハハ！ そっちのほうがよっぽど現実っぽい話じゃねえか（笑）。

ターザン だって！ タダでメシ食わせてもらってるんだから、サービスしなきゃいけないじゃない？ 馬場さんは殿様だから、自分から悪口とか嫌なことは話さないで、ジーッと我慢してるわけよ。俺たちは家来だから殿様の前で芸をしなきゃいけない。「いや、今日は新日本に客が入ってなかったですよ」とか「記者会見で猪木さんがこんなバカなこと言ってましたよ」とか。

豪 バカなことって（笑）。

山口 あなたメチャクチャなこと言いますね！（笑）。ホント、巨大な太鼓持ちだな（笑）。

ターザン そうすると馬場さんは聞いてないフリをしてるんだけど、全部聞いてるし、嬉しくて楽しいわけ。それを馬場さんのシークレット・サロンの中で、やったのはオレひとりですぉぉぉ（ドンドンドン！）。普通は、人の悪口とか言わないもんね。俺は馬場さんの目の前で猪木だったんですよぉぉ。猪木さんと新日の悪口を言うことと、その日の全日の試合の総括を、問題点も含めて全部話すことでタダメシに対する恩返しをしてたわけ。

山口 タダメシですか（笑）。馬場さんの中に猪木さんを刷り込んだというか。

ターザン そう！ 決して馬場さんも綺麗事だけの人じゃないから。でもそれに対して興味のある素振りを見せない！ それが馬場さんのダンディズムなわけですよ。あの食事のなかでいちばん大事だったのは、馬場さんと全日本が一番っていうのはもちろんだけど、ライバルである猪木さんとか新日本を落とすというか……。

山口 ガハハハ！ 落としてたんだ（笑）。そんなことばっかりしてりゃあ選手に胸ぐらだって掴まれますよ。

ターザン いやっ、落とすというかネガティブな部分とか、ダーティな部分を話してわけ！

我が社から出た「パンクラス公式読本～盾～」の中で、ターザンは馬場さんにインタビューを敢行した。リッチ感溢れる絵の中で、ターザンだけが異質な印象を与えている

山口 まったく同じですよ（笑）。でも、「その時間そのものがリッチ」っていうのは、全日本の会場の雰囲気そのものですよね。

ターザン そういうことです！

山口 じゃあ、今の全日はリッチではないんですか？

ターザン リッチであるはずがない！

山口 間違いなく山本さんよりはリッチでしょうけどね（笑）。だったらこれからの全日は、もっとリッチな雰囲気を作っていけばいいわけですか？

ターザン いや、馬場さんのいた頃のリッチさはマネできるもんじゃないから。それよりも、企業として息を吹き返すことですよ。ドンドン営業成績を上げて儲けることです。

豪 つまり、新日的なことをやっていくということですか？

ターザン これは極端な話だけど、天龍vs川田（利明）戦をやるとか、そこまでいかなきゃダメなんだろうね。

山口 じゃあ、これからは世の中に新日本が2つになっちゃうってことですよね。同じもの2つはいらないですよね。

ターザン いらないねえ。

山口 あ！ だから、藤田（和之）は新日を出たのか。昔の新日的なものは、今の『PRIDE』であったりするわけだからね。

ターザン そうか！ でも、何だかんだ言っても馬場さんは猪木さんのことは好きだったねえ。俺が猪木さんのことを悪く言えば言うほど、馬場さんのなかで「寛至はそんなんじゃないんだよ」って気持ちが出てくるから。

豪 ということは、山本さんのお陰で、馬場さんは猪木さんを許せるようになったんですね（笑）。

ターザン そうなんですよぉぉ（ドンドンドン！）。俺は本当に天才だな。

豪 ガハハハ！ 自分で自分を褒めてみますか（笑）。

ターザン 俺は遊郭なんかで大尽の前で芸をやる人みたいなもんだよ。そうじゃなきゃ馬場さんは俺と10年も付き合わないよお。馬場さんは、俺が猪木だってことがわかってるもん。

豪 わかってましたか（笑）。

ターザン わかってるよお。でも馬場さんにとってはなんでも面白ければいいわけですよ。だから俺は微妙に馬場さんの心をくすぐったわけですよ。あの誰にも動かすことのできない馬場さんを、ある意味で俺は翻弄したのかもしれない。

山口 そもそも、その馬場さんとの食事会には呼ばれて行くんですか？

ターザン いや、ハッキリ言って「行きます」って言ってから行ったことは一度もない！

山口 うわあ、図々しいことこの上ない（笑）。

豪 勝手に行ってたんですか？（笑）。

山口 流しの芸人だね（笑）。

ターザン だって馬場さんの姿勢は「来る者は拒まず」だからね（悪びれる様子もなく）。

山口 確かに来る者を拒んでたら馬場さんじゃないですよね。

ターザン でも、俺ひとりだけじゃダメだったのかもしれないね。いつも市瀬（英俊・当時の『週プロ』の全日本担当）というマスコットを連れていってたから。市瀬に対して馬場さんは息子に接するみたいに話してたから。

豪 いい毒抜きになったんでしょうね。

ターザン 馬場さんにしてみたら、俺だけだったら「コイツは頭が切れるから」ってイヤだったんじゃないの。

山口 頭が切れますか（笑）。

ターザン うん、切れるよ（かわいらしく）。

豪 ダハハハ、別の意味でもキレてますよね（笑）。

山口 そもそも頭が切れてたら、入れ歯は落とさないよ（笑）。

ターザン （無視して）しかし、あんな楽しい時間はなかったなあ（しみじみと）。

豪 それがいまはないから、全日に怒りが向いてるわけなんでしょうね。

ターザン もうどうでもいいやって思ってるのかもねえ（他人事のように）。

山口 山本さんが今週（1月13日号）の『ファイト』で「記憶の呪縛」と「記憶の自由」っていう原稿を書いてたでしょ。

ターザン 猪木＆新間が作った昭和プロレスと、それに対する馬場さんの王道のプロレスの凄さ。その2つの「記憶の呪縛」について書いたわけですよ。そこから離れたくないんだよ。そういうことから来る記憶のエクスタシーというか。でも、今の人たちは記憶と付き合うのが邪魔でしんどいから、コンビニの弁当みたいな、今日作って今日で消費するみたいな、その場限りのスタイルが好きでしょ。逆に言ったら彼らには「記憶からの自由」があるわけ。それが昭和と平成の違いなんですよ。

ひと言ひと言突き刺さるもん もの凄いよ、馬場さんの言葉は

馬場さんが亡くなったときに、友人がターザンにプレゼントしたのがこの作品。「馬場は宇宙だ！」がテーマだという。昭和プロレス史の4大人物コラージュも抜群だ！

山口 それとは直接関係ないのかもしれないけど、「馬場という呪縛」と「猪木という自由」はあるかもなぁ。1・4の新日に出てた猪木さんを見てるとほんとに自由ですもんね。

ターザン 呪縛というのは、あっちもこっちも繋がってることだから、オレがよく書く「共犯関係」とイコールなんです。馬場さんとオレは「共犯関係」だったんです。でも、猪木さんは「こっちも自由にやるからそっちも自由にやれ」って言う心地よさなわけよ。猪木さんは立派だよなあ。

山口 どっちを咎めたいんですか（笑）。でも結局、"馬場という概念"も"猪木という概念"も両方必要なんですけどね。「プロレスはプロレス、格闘技は格闘技」とか一個の概念しかないと、ビンボー臭くなりますからね。

ターザン そう！ だから両方の価値観を取り込んで、そのバランスを楽しむ。これが真の意味でのリッチですよぉぉぉ（ドンドンドン！）。でも、いまの人は面倒臭がって、一個の価値観だけでいいみたいなんだよな。そのほうがラクだしなあ。だから、修斗とかあんなのはラクの極みですよ！

山口 それは確かにありますよねえ。

ターザン でも俺が言ってるのはリアリズムのなかにファンタジーがあって、ファンタジーのなかにリアリズムがあるってことで、これが最高レベルの闘いなんですよ！

山口 というか、猪木さんのなかにファンタジーとリアリズムの両方ががあるんですよ。どこまで本気なのか、どこまでウソなのかっていう次元じゃない。

ターザン でも、馬場さんだってそういうところは持ってたんだよ。ただそれを派手にやるか地味にやるかの違いだけで。馬場さんが、それをちょっと出しちゃって失敗したのがvsラジャ・ライオン戦（87・6・9、日本武道館）ですよ。

豪 ちょっとどころじゃないですけどね（笑）。

ターザン 長州さんが全日に乗り込んだときも受け入れたじゃない。本来、馬場さんもヤマっ気みたいなもんは持ってるんだよ。

山口 逆に言えば、猪木さんだって馬場さんのようにドッシリ構えていたかったのかもしれない。でも、選手が大量離脱した直後に「大掃除ができた」とか言っちゃうんだよねえ（笑）。

豪 余計なひと言を（笑）。

ターザン あれはある意味、馬場さん的言語かもしれない。馬場さんは、言葉をグッと飲み込んでしまうけど。

豪 でも、馬場さんは「悪口を言わない人」みたいなイメージがあるけど、天龍（源一郎）さんが辞めたときに山本さんがやったインタビューでは、結構キツいこと言ってましたよね。

ターザン （ホントに辛そうに）あ〜れはキツかった！ ひと言ひと言がずしんと脳に突き刺さったもんね。もの凄いよ、馬場さんの言葉は。

山口 キラー馬場ですね（笑）。

ターザン でも、みんなが馬場さんの幻想を大事にしてるから、馬場さんも言わないだけなんだよ。

山口 しかし馬場と猪木の両輪の時代を経験できた人は幸せですね。

ターザン ボクはそれを"俺たちの永遠のゴールドラッシュ"と言ってるわけです！

山口 ガハハハ！ 永遠のゴールドラッシュですか！

ターザン ところが今は廃墟ですよ。あるいはゴールドラッシュとか廃墟とかを考えることすらもめんどくさいわけですよ、今は。そういうのが何もない平坦なところにいるわけです。それが天山（広吉）とか小島（聡）、あるいはノーフィアーですよ。でも、ゴールドラッシュがなきゃ人生ダメですよォォォ！

山口 でも、ゴールドラッシュを経験すると、山本さんみたいに落武者になっちゃうんですね（笑）。

ターザン 落武者になったりで人生が、山あり谷ありで大変だけど、結局潰されないわけ。ゴールドラッシュを経験した昭和の人間はしぶといよ！ 再生するから。あ、そういえばおもしろいこと聞いた。

山口 なんですか？

ターザン あの『プロレス雑誌大戦

ジャイアント馬場 1周忌追悼座談会

争』を読んだ友だちが言ういうんだよ「すごくおもしろかったです。これは山本さんが10年間も馬場さんを独占してたから、恋人を取られたジエラシーで竹内さんはこういう本を出したんですよ」って、「おお、なるほど！」と思ったよ。

山口　マスコミのなかで馬場さん的な竹内さんが猪木的なことをやろうとしたわけですよね。

ターザン　だから、俺が独占してた馬場さんとの10年間を、いかに他の人たちが悔しがってかだよね。ハッキリ言って俺は勝利者の気持ちですよ！

山口　あくまで自分が1番だ（笑）。

ターザン　あの10年間を見ろ！　だからぁぁぁぁ、俺はぁぁぁぁ、勝ったんですよぉぉぉぉ（ドンドンドン！）……あぁ、今日は興奮し過ぎて疲れたなぁ！

山口　ガハハハハ、山本さんでも疲れるときがありますか（笑）。

ターザン　疲れるよぉ。

98年の秋にホテル・オークラで最後の接近遭遇を果たしたBI砲。馬場さんの後ろ姿に、何か暗示的なものを感じてしまう貴重な1枚である（撮影・高鶴紀明）

人にサービスすると体力を使うわけですよ。

山口　そういえば、猪木さんがラジオに出たときに「人になにか夢を与えれば、自然にお金は入ってくる」って言ってたけど、ほんとにそうですよね。ホイラー（・グレイシー）は夢を与えてないけど、桜庭は与えてるもんなあ。

ターザン　いや、グレイシーは負の哲学だから。「負けなければいい」という、しゃらくさい考え方わけよ。でも、人間は負けたときにしか真実はないよ。勝ったときには、結果があるだけで真実はない……俺も、失恋したときには真実があったもんね。

豪　出た！　失恋話（笑）。そういえば、あれも去年の今頃の話でしたよね。

ターザン　あの失恋と馬場さんが亡くなったことという、負の2大事件がオレをここまで再生させたね。

豪　再生し過ぎて、なんだか若返ってますよ（笑）。

ターザン　あ〜、疲れたね、豪ちゃん！

【2000年1月7日、六本木・中国飯店別館にて収録】

※「疲れた」などと口では言っているが、このテープを止めた後も30分以上しゃべり続け、写真撮影では大暴れ、揚げ句の果てには「キャバクラに行きたい」とまで言い出す始末。一体、どこが疲れてるんだよ!?

結局、当初のテーマであった「全日本が悪いのか？　それともターザンが悪いのか？」というテーマに、結論は出なかった。というか、ターザンのお座敷芸人っぷり大爆発でそれどころではなくなってしまったのだ。

まぁ、いくらターザンを断罪したところで（するつもりもないが）、ターザンはあくまで自分の本能のままに動くんだろうし、逆にどう転んでもターザンによって全日の屋台骨が揺らぐこともないだろう。

それにしても、ターザンには三沢・全日が危機感を持って一歩ずつ変革を推し進めている姿勢は目に入っていないのだろうか？

三沢vs馳の一戦のような、全日本に新しい価値観が登場しつつある、いまの状況を楽しめないターザンは、不幸だ。

この両者が再び交ざり合う必要も、今となってはあまり感じないので、結論は出さないことにする。

馬場と猪木、両方楽しめるゴールドラッシュ世代にならい、我々も全日、そしてターザンの爆発をリッチに楽しんで行く所存である。

全日本プロレス
二〇〇〇年一月二九日(土)・三〇日(日)
ジャイアント馬場
馬場さんが帰ってきた
二〇〇〇年一月三一日(月)
ジャイアント馬場一周忌追悼興行
本年もありがとうございました。
来年もよろしくお願いいたします。

BABA is Back

1月31日、馬場さん一周忌の日に後楽園ホールで追悼大会が行われる。ただし、こちらはすでにチケット完売状態。チケットを買い逃してしまったアナタは、1月29日（土）、30日（日）の2日間、後楽園ホール1F「プリズム2」で『馬場さんが帰ってきた』と題した、馬場さんの展示会が行われる。入場は無料。午前10時〜午後6時まで。お問い合せは全日本プロレス（TEL.03−3404−0089）まで。

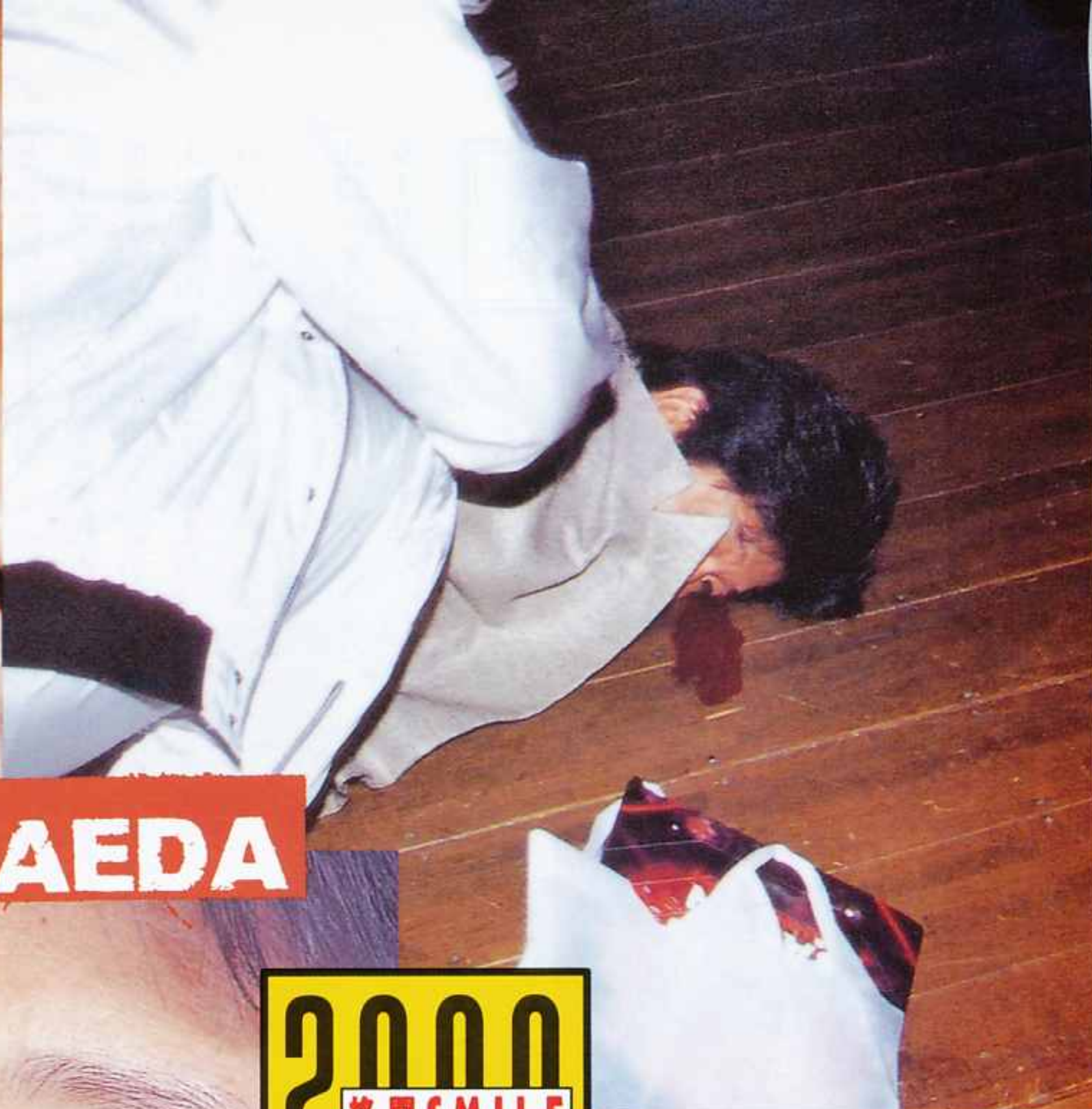
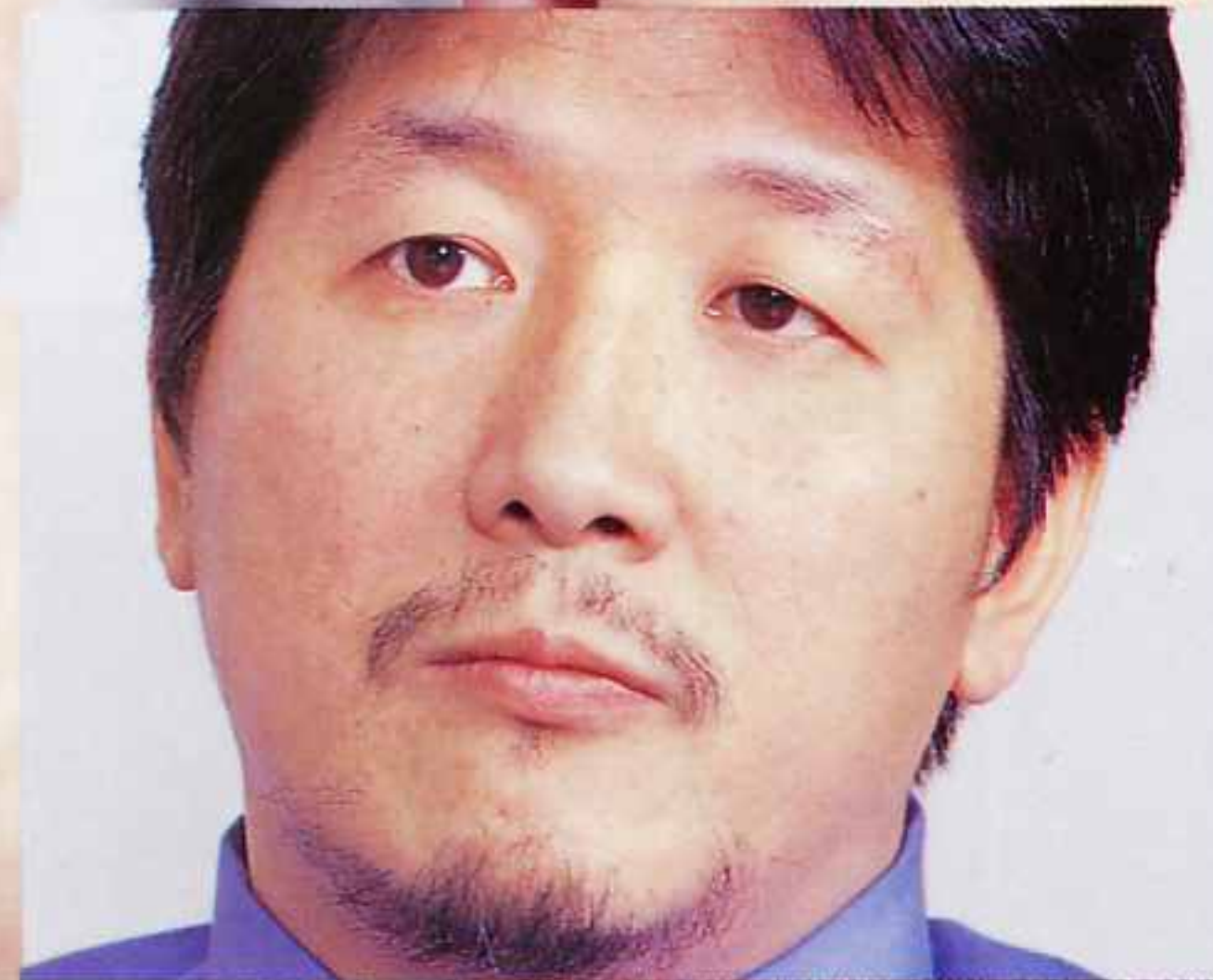
いま三沢社長がやろうとしていること

今年の全日本プロレスのポスターにちょっとした変化が起きている。いままではいちばん上の段にいた三沢光晴が、いちばん下の段に移ったのだ。

さらに新年一発目の後楽園大会で、「今年はやりたいことをやっていく」と社長としての決意も新たに、新しい全日本プロレスを見せてくれそうな勢いである。

一方、昨年後半から選手としての三沢光晴は、一歩引いた感があっただけに、今年は一体どのような闘いを見せてくれるのだろうか？

そういった注目が集まる中、1月9日の福岡大会で三沢vs馳のスペシャル・マッチは行われた。TVでも放送されているため、ご覧になった方も多いと思うが、全日本プロレスのリングでは、過去行われたこともないような、激しい一点集中砲火で馳が攻め込む。全試合の95％を右腕攻めに費やした馳を、それを受けきって三沢が右のエルボーでフォールを奪った激しい一戦だった。

インターネットなどを見る限り、「馳が仕掛けた」とかいう書き込みも見受けられたが果たしてそうなのか？　三沢の言う「やりたいこと」と、この試合は非常に重なる部分が多いと思うのは私だけだろうか？　一点集中というプロレスのセオリー通りながら、非常に新しく脳天落下系の技が交錯する全日本プロレスの新しい指針とはなり得ないだろうか？　新日やアマレスのバックボーンを持つ馳と天才的なプロレスセンスの持ち主である三沢だからこそ、いままでにない要素を取り入れた新しいプロレスになったのだろう。新年早々期待の持てる大きな意味のある試合だった。

（坂井ノブ）

各専門誌も、トップ記事扱いで、大々的にこの一戦を報じている。新日vs全日の対抗戦へ向けての青写真だ——という噂まである

AKIRA MAEDA

2000 格闘SMILE

“日本のゴジラ”はやっぱりミレニアムに復活した!!

前田日明

（ハマキング・オブ・キングス）

安生に伝えることがあるとすれば…「一つ」のことやね

“闇討ち事件”を真正面から語りまくる!!

昨年の11月14日、『UFC—J』のバックステージで起こった、安生洋二による、衝撃の「前田日明闇討ち事件」。背後からの“狙撃”に失神昏倒した前田日明だが、いまはとてつもなく元気だ。マスコミにとっても命題を突きつけられたこの事件だが、まずは襲撃された本人である前田の言葉に耳を傾けないことには何も始まらない。私怨、怨念、勢力争い、プライド——様々なものがトグロを巻いたこの事件を真正面から前田日明は語り倒した!

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi

撮影／モーリー
photographs by Mory

協力／SRS・DX
thanks by SRS・DX

東京スポーツ

昭和35年4月2日第3種郵便物認可　A版
1月7日（金曜日）6日発行
©東京スポーツ新聞社2000年
第13049号　日刊（祝日・日曜日は除く）

東京スポーツ新聞社
東京都江東区越中島2丁目1番30号
〒135-8721
電話代表　編集(03)3820-0831　販売局(03)3820-0811　広告局(03)3820-0821
関西支社　大阪市北区梅田1丁目3番1-400号
中部支社　名古屋市北区金城4-3-19
西部支社　福岡市中央区天神2014の8
振替口座　00120-2-93236

背後から近寄り無防備な前田を殴った安生

前田殴った安生罰金20万円

市川簡裁が略式命令

千葉県浦安市舞浜の東京ベイNKホールで昨年11月14日、リングスの前田日明社長（40）に暴行、けがを負わせたとして、市川区検は5日までに、フリー格闘家の安生洋二容疑者（32）を傷害罪で略式起訴。これを受けた市川簡裁（鈴木明裁判官）は同日、安生容疑者に罰金20万円の略式命令を出した。

起訴状などによると、安生容疑者は昨年11月14日午後6時40分ごろ、UFC－JAPAN・千葉大会（東京ベイNKホール）の試合後、前田の背後から駆け寄って顔面を殴り、左目の上に約2週間のけがをさせた。

不意を突かれた前田は、ドスンと大きな音を立てて前のめりに倒れた。安生容疑者は親指を突き立てて「ざまあみろ」と言わんばかりの自慢のポーズ。安生容疑者はそのまま控室に直行、周りにいた船木誠勝らパンクラス勢もア然とした表情で見守るだけだった。

翌15日には高田延彦が「若いヤツらが（安生を）たきつけたという噂を聞いた。1人の人間を寄ってたかってリンチするのは大問題」と爆弾発言。安生容疑者の暴行を背後であおった人物がいることを示唆するなど波紋が広がった。結局、起訴されたのは安生容疑者1人で罰金20万円。ファンは2人がリングで決着をつけることを望んでいるが…。

――新日本を退団した藤田（和之）選手が、『PRIDE』に上がることになりましたね。猪木さんが「リングスからもいい話があった」って言ってましたけども。

前田　正直言って、新日本は選手が余ってるんだよ。で、俺はね、2年ぐらい前から猪木さんに会うたびに、「新日にいるアマレス系の選手はもったいない」って言ってたんだよ。プロレスっていうのは恐ろしい商売で、長年やってるとね、どんなに注意しても少しずつ身体が壊れていくんだよ。

――壊れないほうがどうかしてますよね。

前田　とくに日本のやり方はね、間違いなく壊れる。だから、「壊れる前に、選手の身体がちゃんとしてる間に総合系をやらしたらどうですか」って言ってたんだよね。いま、世界中でアマレス出身の選手が活躍してるんだけど、ハッキリ言って、大部分が、よくも悪くもアマレスラーなんだよ。

――倒して殴るだけの選手は多いですよね。

前田　グラウンドから顔面っていうのは抑える技術があるからなんとかなるけど、長持ちはしない。安定した戦略がないから。だから、ホールドの技術を身につけなきゃいけない。ホールドの技術はね、日本が一番進んでるんだよ。日本の一番進んでるホールドの技術を繋げてやったら、いろんな意味で業界全体のことを考えても、いいんじゃないかと思ったから勧めたわけよ、猪木さんに。で、猪木さんは「やるよ、考えてるよ」って言うから待ってたんだよ。で、たまに藤田とか中西（学）の試合を見たらお茶目なレスリングやっとるやん。

――お茶目なレスリング（笑）。

前田　お茶目なプロレス。で、たまに橋本（真也）と小川（直也）なんかで、やっとハナタレ小僧の陣取り合戦みたいなのが始まってさ。

――そうきますか（笑）。

前田　藤田と中西はどうすんのかと思ったら、アルティメット系の選手が新日に出てるときに、スパーリングパートナーやらしてビビらすみたいな役ばっかりやらされたりしてかわいそうだからね。いつまでそれやってってもしょうがないから、筋は通して言ったんだから、あとは本人の気持ちが新日本に伝わったら「引っ張っちゃえ」って思って引っ張った。

――「引っ張った」ってまた物騒な（笑）。

前田　でも猪木さんもいろいろしがらみがあるだろうし、新日本の考えもあるだろうしね。今回は涙をのんだんだよ。

――その件で猪木さんとおかしくなったりはしてないんですか？

前田　してない。でも俺、反省してるよ。前に「猪木さんにもらった葉巻はニセモンだった」なんて言わなきゃよかったと思って。余計なことを言ってしまった。もっと大人にならないといけない（笑）。もっと大人になってたら藤田の件もうまくいったのに。ちくしょう。チャンチャン、やね（笑）。

――早すぎた笑い話っていうところですかね（笑）。ところで本題なんですが、事件については、安生（洋二）さんが略式起訴で罰金20万円という一応の解決をみましたよね。ズバリ聞きますけど、前田さんは、これでこの件は解決したと思ってるんですか？

前田　全然してない！　安生の件に関しては、俺も当事者なんだけど、業界にいろんな迷惑をかけてるんですよ。格闘技業界には謝らなければいけないと思ってますよ。でね、安生に関しての一番の問題っていうのは、入ってきたときの時点からあるんだよね。テストも受けてないでそのまま居着いてしまっ

解決は全然していない！　俺も当事者なんだけど業界にいろんな迷惑をかけてるんですよ

AKIRA MAEDA

格闘SMILE 2000

た。当時は、選手は1人でも多いほうがいい状況だったからね。でも入門テストっていうのは、それを乗り越えるっていう意味でも、いろんなものが固まるんだよ、その人間の。テストを受けてたら、あいつが〝業界にいる〟っていうことを考える覚悟ができてた。あいつは甘いんだよ。ヒクソンのところに道場破りに行って泣いたりとかさ、日本で初めて有明でやったアルティメットの試合だって負けて、「プロレスラーは弱い」とか言われてさ。みんなあいつに起因してるんだよ、ハッキリ言って。いっつも迷惑かけてる。でね、「前田がつまらんもん入れやがって」って言われるのはしょうがない。あいつをちゃんとしつけもせずに、中途半端に一人前にしてしまった責任は俺にありますよ。そういう意味では、身から出た錆ですよ。いままで俺もそういうことに気づかなかったけど、あいつはやっぱり、このまま じゃこの業界にいちゃダメだよ。この業界のこと、仕事のことを芯の部分で理解できてないんだよね。

――あらためて聞きますけど、事件当日のことは、どこまで記憶に残ってるんですか？

前田　あのとき、最後の試合で、（ケビン・）ランデルマンが勝ってセレモニーがあったでしょ。それが終わって、SEG（UFCの親会社）の会長が来てるからね、ウチもアメリカに会社つくったことで、いろいろ取り決めごととかあるから話をしなきゃいけなかったんだよ。で、アメリカのビジネスやってる人と話すのはたいへんだから、「どういうふうに話をしようかな」って考えてたんだよね。それで会長に会おうと思ってUFC―J側に「パーティーの場所はどこ？」って聞いたら、「わかりません」って言われてね。俺はNKホールをしょっちゅう使ってわかってるから。パーティー会場に使えるとこって1ヶ所しかないからね、「わかるから、行くから」って言ったら、「待ってください。案内人出します。待ってください」って言われてね。それでセレモニー見ながら待ってたんだよ。

――バックステージでビジョンを見ながらですね。

前田　ボーッといろんなこと考えててさ、その瞬間パパパッてフラッシュが光ったんだよ。「ウワッ、眩しいな」と思った瞬間にガーンッていかれて、そこからわからへん。なんか、寝てるような、夢見てるような変な感じがしたんだよね。暗い映画館でスクリーン見てるみたいなね。たぶん目を開いたまま伸びてるから、スクリーンの光が目に入って、それでそう思ったんだろうね。「俺、夢見てんのかな」って思って、「あれ？　俺、なんで寝てんのかな？　そういえば、このごろ毎日2～3時間しか寝てなかったし、居眠りしちゃったんだな。いや待てよ、さっき俺は立ってたのに、なんでいま寝てるんだ？」って思って、それでハッと気がついたらモーリス・スミスの顔が目の前にあってね。「どうしたんだ？」って聞いたら、「オマエは殴られたんだ」って言われてね。「誰に？」「安生に」「なんで？」って。それからもボーッとしてて、ハッと気がついたら病院にいたんだよね。

――当日は、以前から前田さんと因縁があった安生選手や、その他多勢の選手があの会場に集まってたわけだけど、前田さんは臨戦体制で会場に行ったということはなかったんですか？

前田　全然なかったね。卑しくも格闘技で飯を食ってる以上、どんな文句があるにしても、前から来るのは当たり前だと思ってたから。

――安生さんは「あの人の喧嘩のルールは違うんですね」っていうようなことを言ってましたね。

前田　何かあるとしたら、「前田を殺す」とかなんとか言った奴あたりが、俺が車に乗り込むときにでも因縁つけてきて揉めるんかな？　とか思ったけど、そんなことどうだっていいからね。それよりもSEGの会長にどういうふうに話をしようかっていうことで頭がいっぱいだったから。

――仕事のほうに頭がいってたわけですね。でも、いまの話からすると、前田さんをパーティー会場に行かせたくなかったんでしょうかね。

前田　パーティー会場に行ったら外人選手もいるから。アメリカ人はなんだかんだいってもプライド持ってるからさ。あいつらは卑怯なことって凄く嫌いだからね。おそらく、そういう場所でそういうことをやったら、いろんなヤツが出てきて、簡単にやられちゃうと思ったんだよ。

――前田さんは事件後、「こんな業界になって恥ずかしい」って言ってましたよね。

前田　恥ずかしいね。ホントに恥ずかしい。だから、自ら蒔いた種なんだよね。いまはプロレスラーなのか格闘家なのかわかんないけどさ、安生みたいな人間を引っ張り込んでしまったのは俺に責任があるから。そういうことに対しては考えたね。

ひとつは「言い訳するのは女々しいからやめろ」もうひとつは「謝るんならいまのうちやで」

——ただ、かわいこぶるわけじゃないですけど、こういう事件が起こって迷惑するのは選手ですよね。

前田 そうそう。俺は船木（誠勝）に対しては別になんにもないんだよ。個人的な感情として。それでね、今回の事件が起こって一番の被害者は船木だよ。あいつはあいつでいろんなこと考えて、ヒクソンとやろうとなったときに、こんなに盛り上がらないのは、ちょっとかわいそうやね。

——事件の背後関係は抜きにして、うしろから殴られたという事実、失神してしまった事実に関してショックはないんですか。

前田 殴られたっていう実感がないんだよ。だから、全然わかんない。でね、安生に対しては、ヤマケン（山本喧一）がウチに来たときに、「前田さんは怒ったと思うけど、あれは宮戸（優光）さんが安生さんに言わせたんですよ、安生さんはその気はなかったんですよ」って言ったんだよ。

——例の「200%発言」の件ですね。

前田 そう。「あんまり安生さんのことを悪く思わないでください。かわいそうだから」っていうことをヤマケンに言われたから、それを聞いて、「あ、そうなんだ。それじゃ安生に悪いことしたかもわからんな」っていう会話があったからさ。だから俺、そういうことは終わってると思ってたんだよ。そういう話は安生にも伝わってると思ったからね。だから、安生に殴られたって聞いたときに、「なんで?」って思った。

——前田さんの考える「ルール」や「美学」あるいは「ダンディズム」と安生さんたちの考えるそれには、温度差がありますよね。

前田 いずれにしても、なんかね、いろんな人に迷惑をかけたから。世の中、自浄作用っていうのがいるんだよ。どんな業界であろうと、どんな運動であろうと。でないと、世の中に通用しなくなっちゃうんだよ。でしょ？ ウチらの業界も自浄作用を発揮しないとね。

——事件後には、「もう大丈夫、学んだから」っていう力強い発言もありましたけど、ボクが一番興味あるのは、前田さんがこの件でなにを学んで、その学んだ点を今後どうやって活かしていってくれるかっていうことなんですよ。実際に安生さんと話し合うことは考えてないんですか？

前田 全然ない。でね、これは警告でも注意でもなんでもなくて、正直な感想として安生に伝えることがあるとすれば、「二つのことを考えたほうがいいよ」っていうこと。

——二つですか。

前田 ひとつは、俺を殴っていろんな言い訳してたけど、うしろから不意打ちで殴っといて、言い訳するのは女々しいからやめろ！「前田が憎い一心でやった」って、ひと言言ったんだったら、「ああ、前田ってそんなうしろから殴られるぐらい憎まれる悪いヤツなんか」ってみんな考えるやん？ まだカッコいいで。それをみっともない恥の上塗りをしないほうがいいということ。

——もうひとつはなんですか？

前田 あとひとつは、「謝るんやったらいまのうちやで」っていうことやね。

——謝るんならいまのうち。安生さんは、「前田さんにやられた人間みんなに、一緒に立ち上がろうと言ったら、彼はボクより入る年数多いですよ」ってコメントしてるんですよ。これは推測の域を出ないですけど、逆に安生さんの周囲に前田さんに恨みを持つ人間が集まってて、そういう空気になってる可能性はありますよね。

前田 「入る年数多い」？ 別にいいよ。もし俺の知らないところで、俺の言葉によって傷ついて自殺未遂した人がいてさ、助かったけど一生棒に振ったという話でもあれば、刑務所に入るのもいいですよ。でも、そういう事実がないんならね、そういうこと言ってると、刑務所よりもっと辛いところに入れてやりますよ、ってね。

——どこですか、刑務所よりもっと辛いところって（笑）。だから、前田さんには、イザコザがあった安生洋二や、その他に対して、なんだかんだ言っても「同じ業界の人間」っていう認識はあったと思うんですよ。

前田 でもな！ 俺がなんか言うときっていうのは、俺から仕掛けたことは1回もないんだよ。アントニオ猪木さんの説だと、「理由もなくキレるのは、ミネラルが足らないからだ」っていうでしょ？

——ああ、猪木さんはよく言いますね、ミネラル問題は（笑）。

前田 俺はそういうのとは全然違うんだよ。理由があるから怒るし、理由があるからキレるし、理由があるから「それはどういうことだ?」って聞けるんだよ。その部分のことを、連中はなんにも釈明しないし、それじゃコミュニケーション持てないじゃない。俺が何か言っても返事もない。前向きな部分で交流戦だとかの話をしてみようって言っても「絶縁だ」。ほんで、絶縁のクセに悪口だけは言う。

——だから、今回の事件に代表されるような空気の中には、「前田日明は、もはや同じ業界の人間じゃない」っていうのがあるんでしょうね。そうじゃないと考えられない。

前田 だから、そう思うんだったら、俺の悪口も言うなって。陰でウダウダ言うなって。前田の「ま」の字も言うなって。

——要するに、前田さんは同じ業界の後輩たちだという認識があるにもかかわらず、向こう側からすると違うわけで、なんでそうなっちゃったのか、深い部分はボクらにはわからないんですよね。

前田 俺もよくわからない。

——じゃあ前田さんにとっては小さいことだけど、向こうにとっては我慢できないことが積み重なった。そこらへんで温度差ができてるっていう考え方もできますよね。

前田 おそらく自分の都合のいいようにしか取れへんからな。

——ヒクソンの「400戦無敗」に対するギャグ的な発言にしろ、前田さんの言った「1万戦無敗」ってことを安生さんはしきりに揚げ足取ってましたよね。

前田 安生がヒクソンのとこに道場破りに行ってやられて泣いて帰ってきたから、俺はそう言わざるを得なかったたんやんけ。俺はね、

AKIRA MAEDA

世間に対して言ってるんだよ。「プロレスは弱い、負けた」っていう世間に対して。おまえのケツを拭くために俺はああいうこと言ったんだよ。責任があるから。なんかさ、「ちょっと待ってよ」っていう感じだよな。

——前田さんの「闇討ちでもなんでもしてこい」っていう発言も引っかかったみたいですね。

前田 不覚ですよ、不覚。

——だから、「喧嘩の美学」っていう部分でも温度差があるじゃないですか。向こうには闇討ちでもなんでもするのがホントの喧嘩みたいな感じもあるしね。

前田 あそこ（『UFC—Jの会場』）がね、例えば暴走族の集団とか、ヤクザにもなれないチンピラの集団とかだったら、うしろから来ようが前から来ようがいいんだよ、パーだから。でも格闘技で飯食ってる連中なわけでしょ。プロになるためにはプライドがいる。プライドがないと練習にも耐えられないし、結果も残せないよ。で、よく考えると安生は結果をなにも残してないんだよ。練習でも俺がシメたら泣いたりとかしてたからさ。だから、「まさか、そんなことやってくるわけがない」と思った俺が不覚だった。一生の不覚。

——安生さんは「オクタゴンに入った人間のことを語ることはできないはず」とも言ってましたね。

前田 俺がいなかったらオクタゴンもクソもないやないけ。あのまま新日本プロレスっていうものにずっといて、ユニバーサルもUWFもなにも起こんなくて。俺が新日本に解雇されたときにあのまま大阪帰ってたら、日本でオクタゴンでの試合ができる状況ってあったと思う？

——全然別のところから来るしかないでしょうね。

前田 それに俺がいなかったら、あいつもおれへんよ。最初にあいつの入門認めたのは俺やからね。「オクタゴンに入ったことないヤツに言われたくない」っていうようなプライドがあるんだったらね、うしろから来たりとか、一緒に肩組んだりとか、そういうことすんなって。プライドを疑われて恥かくだけだよ。

——これもズバリ聞きますけど、なんであのとき、その場でやり返しに行かなかったんですか？

前田 わかんないんだよ。頭打ってボーッとしちゃって、だから控室に行って治療してもらったりだとか、病院行くのに車乗ったのとかも全然わかんない。ボーッとして、ハッと気がついたら高阪（剛）が目の前にいて、高阪が「どうしたんですか？」って聞いたら、マネージャーが「安生が殴ってどうのこうの」って言うから、「あぁ、そうなんかぁ」みたいなね。ボーッとしててさ、全然わけわからんかった。

——あの事件によって、少なからず強者としての前田日明のイメージが落ちたという声もありますよね。

前田 イメージっていうのは他人が勝手につけてるもんだからね。この程度じ

格闘SMILE 2000

や、俺はなにも変わってないから関係あらへんよ。

——その言葉を聞きたかったんですよ（笑）。

前田　俺にはまったく関係ないことだよ。俺のパンツが黄色く見えたら、「これ、しょんべんチビッて黄色くなってんだよ」っていうヤツもいれば、「いや、前田さんが履いてるんだから、カルバンクラインの美しい黄色なんでしょう」っていうヤツもいる。そういうもんだよ。

——ガハハハ！　どういう例えですか！

前田　そういう他人のイメージに対して、しようもないサービスする必要もないからね。俺は実際主義だから。

——前田さんの声は遠くまで届くし、ファンにも伝わるから、マスコミは前田さんの発言を大きく取り上げる。そういったものが遠因になってるのかなっていう部分では、ウチらも確かに考えなきゃいけない部分ってあると思うんですよ。とくに前田さんの場合は引退した人間ですから。でも前田さんが多く取り上げられることと、「他の選手の声が伝わらない」っていうのは違う次元の話なんですよね。

前田　総合系に関して、日本で一番最初の部分で立ち上げたときに関わったのは俺だからね。それに対して、俺は一番責任あるんだよ。責任があるからしゃべるんだよ！　家庭でいえば父親の役割じゃない。憎まれるのも覚悟はできてるよ。

——責任があるからしゃべる。

前田　ホントの愛っていうのは、犠牲的な愛で、なんかの恩恵だとか、報奨を求めない無償の愛のことでしょ。ウチらの業界っていうのは、みんななんか勘違いしてて、憎まれるのが怖いんだよ。なんでかっていうと、みんな一人になるのが怖いからや。

——前田さんはなぜかいつも一人になっちゃいますね（笑）。去年の大阪大会で、事件に関して初めて公にコメントしたわけですけど、「ゴミはゴミ箱に入れるしかない」という、実に強烈な発言がありましたよね。これには「そういうことを言うから、ああいった事件が起こるということも考えてほしい」というようなことを書いてる新聞のコラムもありました。いま、あらためて「言葉」というものに対して、認識を新たにしたことってないですか？　今回の事件をきっかけに。

前田　やっぱり、言葉が通じる人と通じない人がいるっていうことやね。通じない人は、痛みとともに教えなあかんなぁと。ダンディズムの基本は人にショックを与えることだから。

——ガハハハ！　ショックを与えないといけない。

前田　でも、みんな、ショックの部分だけ記憶に残っちゃうんだよ。

——そうか。ショックだけを記憶してずっと根に持っちゃうわけですね。

前田　そうそう。

——でも、責任があるからこそしゃべるっていうのはよくわかりますね。逆に言えば、責任がないから黙っちゃうんですよね。

前田　責任ないから黙るし、無責任なヤツは、ホントのこと言われると傷つくだけなんだよ。愚か者は真実に傷つく！　賢者は真実に反省する！

——は〜。それは実にいい言葉ですね！　何に書いてあったんですか？

前田　ゴッチさんが似たようなこと言ってた。俺が長州力を蹴っとばして新日本を干されそうになったときに、「心配するな。愚か者は真実に傷つくんだから」って言ってたんだよ。

「愚か者は真実に傷つく」「賢者は真実に反省する」（前田日明・作）

——「賢者は真実に反省する」っていうのは？

前田　それは俺が作った（笑）。

——あ、「前田日明・作」（笑）。

前田　アレンジやね。アレンジするとオリジナルだから。「創作とはすべて先人の剽窃（ひょうせつ）である」。

——剽窃っていうのはコピーのことですね（笑）。ようやく覚えました。

前田　T・S・エリオットいう有名な戯曲家の言葉やね。

——じゃあ、今回の件で、前田さんは真実に反省したことはないですか？

前田　反省するっていうか、「なんて俺ってお気楽だったんだろう」「もうちょっと気ィつけてもええやん」って思ったね。

AKIRA MAEDA

——お気楽（笑）。

前田　俺、この間、わけのわかんないヤバいヤツらが家のまわりをウロウロしてることがあったからね。

※どういうことがあったかは、あまりにも過激な話のため、自粛させていただきます。

前田　それから比べると、俺にとって格闘技の会場っていうのは安全地帯だったんだよね。

——（自粛した話の続きで）善悪っていうのは、立場によって変わりますからねえ。

前田　あのね、善悪とか正義ってあるけど、その善悪の常識っていうのは、一つの民族にひとつだとか、一個の文化にひとつだとか決まってるわけやないやん。時代によっても違うしさ。みんな全員が正義なんだよ。戦争にしたって、どちらの国も正義でしょ？

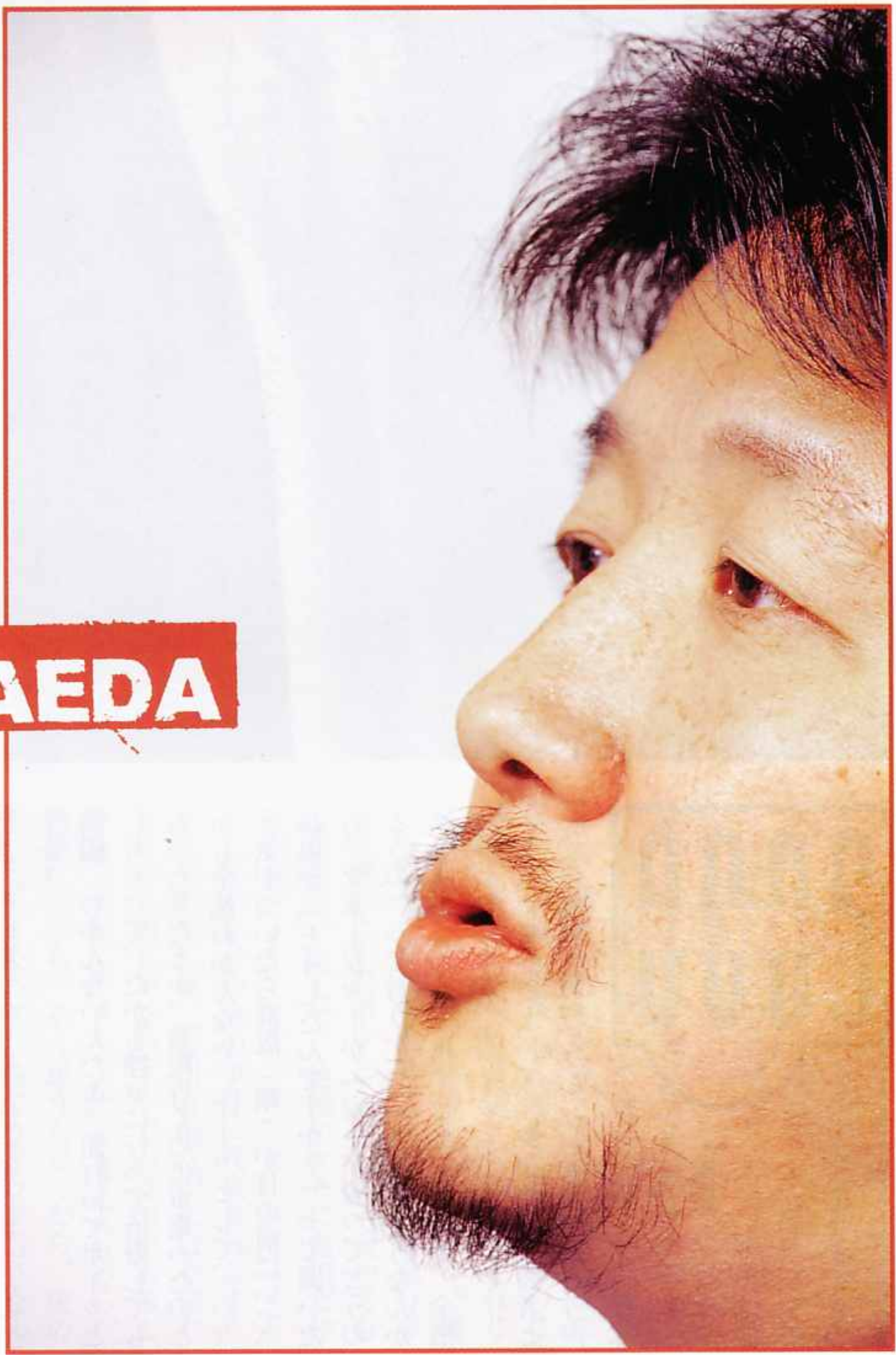
——ある場面によっては、正義が悪になる場合も、悪が正義になる場合もありますからね。

前田　そう。安生の件は、ホモサピエンスの正義と、北京原人の正義。

——あちゃ〜。

前田　その安生たちをこらしめる俺はね、正義大将軍って言われてるねん（笑）。

——それ、征夷ですよ（笑）。安生さんは安生さんの正義でやったんでしょうけど、安生さんのコメントは読みましたか？

前田　いや、読む必要ないから、よく読まなかった。それよりも俺自身、殴られたっていう実感がなんにもないから。とりあえず、いろんな人がいろんなこと教えてくれるでしょ。それを聞いて整理してたんだよ。で、しばらくたったら、殴るシーンの写真を見て、「安生、コノヤロー」って思ってね。

——ガハハハ！　あとから腹が立ってきた。

前田　あとから（笑）。

——もちろん安生さんから連絡はないんですよね。

前田　あるわけない！　できない！　原始時代の常識しかないから。

——えー、話を変えたいと思いますが（笑）、この前、山崎（一夫）さんが引退しましたけど、「あらためてUWFってなんだったと思いますか？」って聞かれて、「自分の死に場所を求めるための学校みたいなもの」っていう言い方をしてましたね。

前田　いいこと言うねぇ。山ちゃんにしても、高田にしても役割があって、一生懸命に、ある部分を犠牲にしながらやったんだよね。ところが、その下にいた安生にしても、船木、鈴木にしてもまったくわかんないし、自覚もない。山ちゃんは損な役回りをしたよ。俺がワーッて言っちゃって反感買うと、山ちゃんが間に入って調整するでしょ。そうすると山ちゃんも一緒に恨まれるんだよね。だから、損な役回りだったよ。山ちゃんは、嫌われたり憎まれたりするのを覚悟の上で、UWF全体のことを考えていろいろやったんだよ。

——調整役を買って出たわけですか。

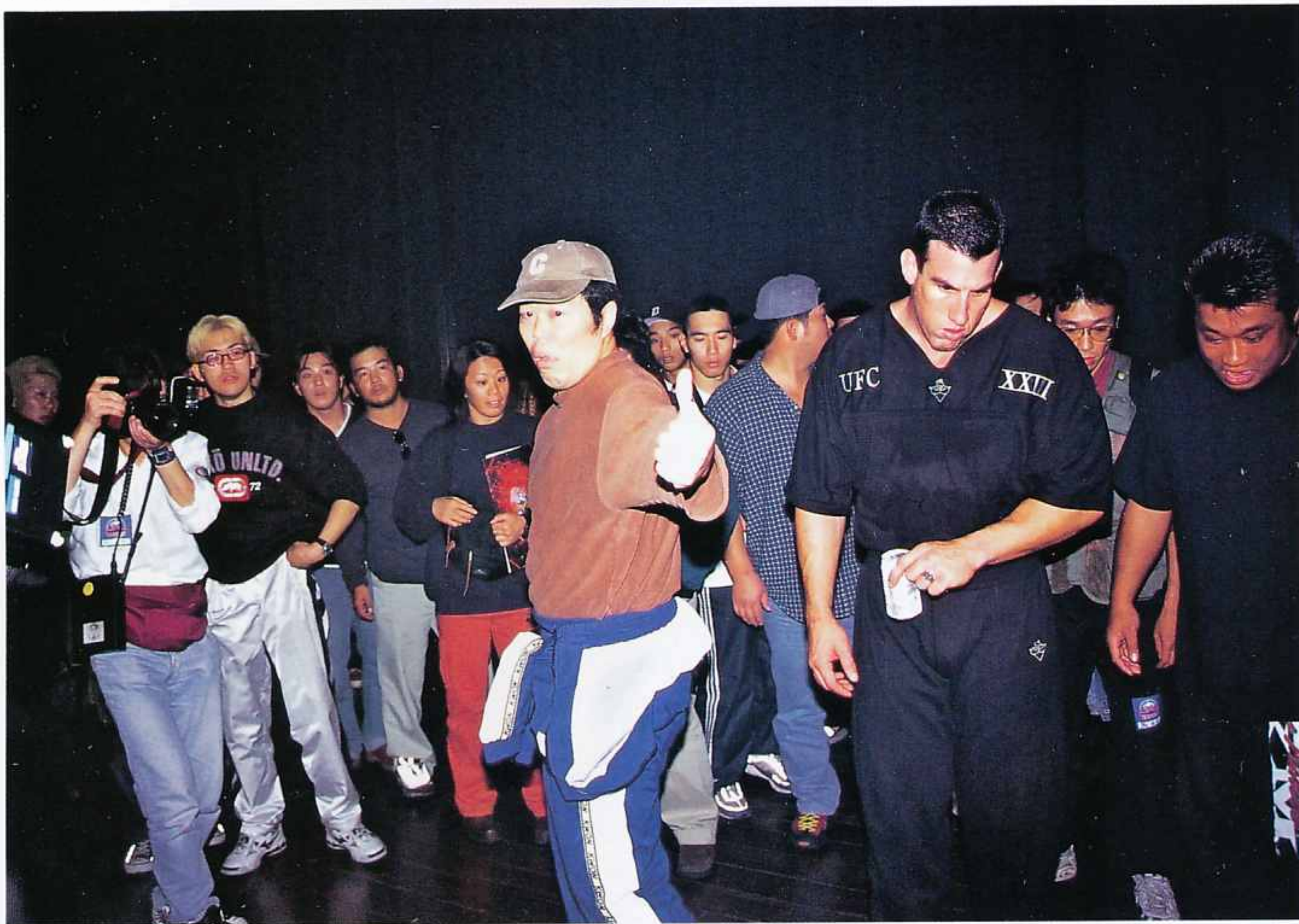
前田　山ちゃんが犠牲にしたものっていっぱいあると思うんだよね。選手として見ると、一番センスも運動神経もいいヤツなんだよ。でも、いろんなものにはぐらかされたりとか、邪魔されたりとかしてね。だから、せっかくいいものを持ってるのに、なんていうかさ、人柱じゃないけど、生贄になっちゃったっていうか、させちゃったんだよ。それは申し訳ないと思うね。でも、思い出の中にある彼のそういう姿っていうのは、俺から見て神々しい姿なんだよ。それに対して、キチンと礼儀を通したいと思ったから引退試合にも行ったんだよね。

——その山崎さんは、今回の件に関しては、「あれは兄弟喧嘩みたいなもんですよ」って言ってるんですよね。前田さんは、安生洋二とは縁を切ろうと思ってるわけですか？

前田　関わらないつもりなんだけど、今回はオイタが過ぎたから。その部分がわかんないと、本人のためにならないからね。ピシッと教えるよ。

——安生さんは「オクタゴンで決着つけようって言うつもりだった」って言ってますね。

前田　あとからとってつけんなって。それだったら、なんで俺が現役のときに正面から言ってこないんだって。

——言ってきたことはないんですか？

前田　ない！　1回もない！

——安生さんは「どうせ現役のときに言ってもやらなかっただろう」と言ってましたけどね。

前田　だったら、引退したらもっとやれへんやんけ！　アホか！

——ごもっともです（笑）。

前田　そう言うんだったら、引退したら余計やるわけがないやんけ。考えれば当たり前の話でしょ。だから猿回しにしか見えないんだよ、あいつの言うこと、やることは。

——高田（延彦）さんは、今回の件は、誰かが間に入るとかじゃなく、当人たちで話すしかないって言ってましたね。

前田　そうですよ。自分のケツは自分で拭くんですよ。

——前田さんは「安生がカッコ悪くなれば なるほど、俺もカッコ悪くなる」って言ってましたよね。その発言の裏には、「カッコよくなってほしい」っていう願望もあるわけですか。

前田　ない！　全然ない！　最初から全然ない！　ないんだけど、ああいう事件が『朝日新聞』に載るっていうのは、世間から見ると、チンピラやチーマーの喧嘩みたいに取られるわけでしょ。うしろからやってきて殴った。で、「囲め！」って声がしたとかいうけど、カッコ悪いやんけ！　せめて、「オレが卑怯なことやりました。みんなで囲んでやろうとしました。それだけ前田が憎くてやりました」って言うんだったら、「え、みんなでやるほど前田ってそんなに悪いヤツか！」ってなって、俺も「あ、俺ってそんなに悪かったんだなぁ。みなさんすいませんでした」って言うよ。昔、Uインターを脅迫したとかいって記者会見したときも、あやって頭下げたけど、でも今回はやりようがあらへん。でしょ？

——実際に前田さんがうしろから殴られてるわけですからね。

前田　あのとき、なんで記者会見したかっていうと、そうしないと俺らがやってる業界全体がカッコ悪くなると思ったからだよ。

2000 格闘SMILE

―なるほど。バカな質問かもしれないですけど、現役復帰して、一戦だけでも安生洋二とやるなんてことはないですか?

前田　猿回しと一緒にするつもりはないですよ。安生のところには、いつでも行けるしね。リングでなくてもええやんけ。罰金20万円で済むんでしょ。

―やっぱりここらへんで、思いきり話題を変えたいと思います（笑）。ところでKOKトーナメントなんですけど、予想以上に面白いですね。

前田　海外から、いっぱい「放映させてくれ」っていう話がきてるんだよね。

―誰が飛び出してくるかわからない面白さがあるじゃないですか。スケールの大きいメジャー感と、格闘技特有のアンダーグラウンドな感じ、その両輪が回ってる贅沢な大会ですよ。

前田　出てる選手が、いま伸び盛りの選手ばっかりだからね。「やぁ、やぁ、我こそは」っていうのばっかりでしょ。みんないい顔してんだよ。

―大阪ではヘンゾ・グレイシーの良さも出ましたね。

前田　ヘンゾ、いいねぇ。柔術に関してはね、ブラジルは何十年も前から総合格闘技っていうかアルティメット系の大会をやってたんだよね。闘い方を見ても進化してる部分があって、俺たちの場合、技っていうのは点でしかないんだよ。ようやく点から点線になってきて技がつながったりとかね。連中はすでにつながってってさ、型を持ってんだよ。その型にやられちゃう。坂田（亘＝昨年12月の大阪大会でヘンゾに敗戦）なんかいい例だよ。線でつながってる型にやられてる。動きが止まっちゃうんだよ。でも、そういうコンビネーションは、（カール・）ゴッチさんがよくやってたんだけどね。でもゴッチさんがそう言ってたときの状況っていうのは、あの頃はなにもないところからアキレス腱固めとかやって、「そんなの効くの？」とか言われてね。そういう時代でしょ？

―そうですね。関節技もまったく認知されてなかったですね。

前田　だから、俺らは新しい世界に踏み込んでいって、“これでみんな飯食っていけんのか”って感じでドキドキしながらやってきたけど、現実はもっともっと先のほうにあったんだよね。俺らに落とし穴があったとしたら、早く認められたのに、進化のスピードがちょっとブレーキがかかってたよね。

―早く認められすぎた分、進化のスピードが遅くなってしまった。

前田　俺らは可愛いもんで、「選ばれし者の恍惚と不安、二つ我にあり」じゃないけど、ワクワクドキドキして、それでもうお腹いっぱいになってね、「ワーイ、ワーイ」って喜んでた部分もあったよ。でも、現実はもっとその先にあったんだよ。

―いまの一部の選手やマニアが「もうUWFは古いんだよ」って言ってるのは、たぶんそういうことを言ってるんだと思いますよ。

前田　でもね、総合系にしても、なんで飯食っているかって言ったら、UWFがあったからだよ。K―1だってそうだよ。

―それには異論はないですね。

前田　永ちゃんがさ、「ロックをもっとメジャーにして、ロックで飯が食えるようにするんだ」って言ってたでしょ。俺は、総合系の矢沢永吉だったんやね。エッヘン。

―自慢ですね（笑）。大阪大会では、（アンドレィ・コピィロフ）もブレイクしましたね。

前田　コピィロフはね、リングスに呼んだんだけど、全然真面目にやってくれないんだよ。俺とやるときも、おっかなびっくりだったけどね。ただね、ハンとやるときだけ異常に燃えてやったんだよね。なんとかあいつを本気にさせたかったんだけど、やっと本気になってきたね。

Uインターの件では記者会見で頭下げたけど、今回はやりようがあらへん

―コピィロフは顔つきが違いましたからね。

前田　ロシアで22万ドルっていったら、凄いよ。コピィロフも用心棒みたいなことやってるけど、あいつのやってる用心棒はハンパじゃない人気があるんだよ。

―人気ある用心棒（笑）。

前田　いろんな企業家、政治家、マフィアの親分。そういうのを守る用心棒だから命懸けなんだよ。だから、やっとあいつの持ってるホントの色が出てきたんじゃない？　最後にそういう場所を与えることができたっていうのは、引き込んだ者の一人として、責任を果たせたかなって思うね。コピィロフはみんなに勘違いされてたからね。

―風体が風体ですからね（笑）。

前田　みんなカッコばっかり見るからな。マッチョだったら強いとか凄いとかね。グラマーでオッパイがFカップの美人で色白でモチ肌の女がさ、やってみたらガバガバだったとかあるやんけ。

―ガハハ！　どんな例えだ！　大阪大会にはヤマケンも観戦に来てましたけど、ヤマケンの一連の発言に関してはどんな感想がありますか？

前田　若い！　でね、アイツはまだ若いんだから、もっとやることいっぱいあるんじゃないかと思うよ、ハッキリ言って。でね、医者が、「ボクシングじゃなきゃ大丈夫」って言ってるって言うけど、大きな間違い。俺、その医者にね、いつでも説明できるよ。

―医者に説明しますか（笑）。

前田　グラウンドで、ヘビー級の選手にガーンと全体重を乗っけられたいいパンチを入れられたらね、当てられた頭は逃げれないんだよ。床で固定されてるから。立っててノックアウトされるのは衝撃から逃げられる部分がまだあるけど、グラウンドで一発入

ったときのダメージは全然違う。ボクシングより危険なんだよ。俺たちの競技って始まって間もないから、一般の人から見るとわかんないことがいっぱいある。単純にボクシングと比べて「大丈夫だろう」っていうのは大きな間違い。

—そのヤマケンに噛みつかれた田村（潔司）さんだけになってしまいましたね、ジャパン勢は。決勝ではいけますかね。

前田 わかんない。誰とやっても同じだと思うけど、ハッキリ言って田村が優勝できるなんて断言できないね。優勝するかもわかんないけどね。田村っていう選手が、ホントに格闘技界の歴史に残る選手になるとしたら、あと10キロ体重が欲しい。いまのスピードを維持してね。そうしたら間違いなく、あいつのセンスは開花するよ。いまは軽すぎるね。

—ケビン（・ヤマザキ）さんのとこに行かなきゃいけないですね。

前田 でさ、そういうのを思い知らすために、今回はいい機会だと思うんだよね。でもチャンピオンというメンツもあるし、いけるかもわかんないけどね。で、田村に「今度は誰とやりたい？」って聞いたら「ヘンゾ」って言うから、「じゃあヘンゾとやれよ」ってなったんだよ。

—それはバツグンです！ でも、田村さんは、あのプレッシャーの中で、あの相手で、1日2試合を勝ち抜いたのは凄いですよ。やっぱり違いますよね。

前田 大したもんだよ。

—強靭ですよ。

前田 強靭、強靭。試合後に泣かずに、こらえてさ、ちょっと相手の肩とかパンパン叩くぐらいの余裕があったら、もっとカッコいいのにな。

—泣いたのが気に入らないんですか（笑）。

前田 そう。泣いちゃダメですよ、と俺らの世代は思っちゃうんだよ。俺らの世代は「親が死んでも泣くな」って言われた世代だから。たとえば試合とか決まってたら、俺らの世代は親の死に目にも会っちゃダメっていう世代だからね。

—前田さんの世代がやってきた精神的な部分を残していくためには、前田さんも若い選手と道場でもう1回汗を流してみる必要があるんじゃないですか？

前田 それも考えてるよ。

—そうしたらうまく伝わるかもしれないですよ。言葉で伝わらないなら。

前田 ショックを与えないと！ 人にショックを与えるのがダンディズムの本道だから。

—そういえば、以前『ダンディズム』っていう本を借りましたね。

前田 あの本読むとよくわかるでしょ？

—メッチャメチャよくわかりますよ。

※ここで、なぜだか前田日明が山口日昇に貸した本の話になる。本の内容については難しいのでパス。あとは各自調査。

前田 あの本を読むと、いろんなことがね、山口君がまだ漠然と考えてることが、ピシッと「あ、そういうことなんだ」ってよくわかるよ。オレもね、あの本を読んでたら、山口君が『紙のプロレス』で、「世の中とプロレスする」っていうのを打ち出しているのを思い出して、「あ、うまいこと考えたな、あいつ」って思ったよ。

—ようやくわかってもらえましたか！（笑）。嬉しいなぁ。光栄です。

前田 2年ぐらい前にわかったんやけどね。だから、その頃から、『紙プロ』に対して俺の態度は変わったと思うよ。

—そ、そうですかね？

前田 一番最初、リングス旗揚げの頃なんてケンカ腰のインタビューだったやんけ。

—プロレスの「プ」の字も言えなかった時代ですからね（笑）。

前田 いつ机でひっぱたいてやろうかと思ってね（笑）。机でシャクティーパットやってやろうかと思ったよ。それでいろんなものが定説になるねん。みんなネアンデルタール人と北京原人だから、シャクティーパットを使ってね。そいつ本人はもう進化できないから、せめてそいつの子どもたちには、ホモサピエンスのショックを与えるんだよ。そうなれば死体でも生きてるよ。

—ガハハ！ ムチャクチャなこと言い出しますね、ホントに。なにを言ってるんだか、さっぱりわかりません（笑）

前田 そういうことを、「したい放題」っていうんですよ。

—は？ あ、「死体」と「したい」。それを言いたかったわけですか（笑）。だから、最初に「プロレス的」だとか、「世の中とプロレスする」とか、「プロレスと格闘技は地続きだ」なんて、前田さんの前で言うのすら気が引けてましたからね、正直言えば。

前田 勇気あることしたねぇ（笑）。勇者は認められるんですよ。オイタが過ぎなければ。

—そういえばこの前、ボクも面白い本を読みましたよ。それによると「自我」って成長しないらしいですね。

前田 成長しないの？

—「自我」って、いろんな経験とか、年齢と共に成長してるようなイメージがあるけども、「自我」自体は絶対に成長しないらしいんです。どうやら「つくりもの」みたいなものらしいんですよ。

前田 へえ〜。

—で、「自我」って周囲の環境によってつくられる箱のようなものらしいんですよ。箱は成長しませんよね。で、乱暴な言い方すると、結局、世界観を広げていくには、いったんできあがった「自我」を壊して、新しい自我をつくるしかない。古くなった「自我」を壊して、また新しい「自我」をつくっていくっていう形でキャパシティーを広げていくしかないらしいんですよ。でも自分で「自我」を壊すなんていう恐ろしいことは、なかなかできないですよね。前田さんなんか……。

前田 俺なんか何回も壊しすぎて、もうなにがホントかわかんないよ。壊したり、ぶっ壊わされたりとかして。

—「自我」がまわりの環境によって壊される人は、ある意味で運がいい人だと思う

1・4。山ちゃんこと山崎一夫の引退セレモニーに駆けつけた前田。猪木さんの引退式もそうだったが、リング上ではかなり長い時間語りかけていた。最後に、前田が山ちゃんに深々と一礼した瞬間、Uの歴史が立ち昇った——

人のやることっていうのは進化していくから いまのルールは通過点にすぎないんだよ

んですよね。今回の件も、そういう部分もあるかもしれないし。だから次の前田日明がやることに期待できるんですよ。その本を読んで、「今回の事件はこういう風に捉えればいいんだ」って思いましたね。前田さんが新しい「自我」をつくる瞬間に立ち会えたと思えば、ラッキーだなと（笑）。

前田　なるほどね。悪い頭にしては、よくできました。

――クッソ～。そういえば、「トーナメントのあとはどうすんだ」って声もあがってるんですけど。

前田　人のやることっていうのは進化していくから。俺がやんなきゃいけないのは、状況を見てマッチメーカーとして、それに合った進化を与えていかなきゃいけない。いま、こういうルールになったけど、通過点に過ぎないんだよね。完成じゃないんだよ。

――これからまだ変遷していくでしょうけど、あのルールは面白いですね。

前田　膠着させないからね。だから、ルール・ミーティングしたときに、「ジェントルメン」「ドント・スクリーミング」「キープ・ムービン」って言うんだよ。「ショウ」「ファンタスティック」「ファイティング・アート」ってさ。

――なるほど。でもバーリ・トゥード系の人は、いろいろうるさいんじゃないですか、ルールには。

前田　「なんでブレイクするんだ」とかうるさいから、「ディス・イズ・ジャパニーズ・スタイル！」って机叩いて怒鳴ったよ（笑）。

――その話は聞きました。まさに日本発世界ですね。それは気持ちいいですねぇ、ホントに（笑）。

前田　賞金懸かってるからやつらも承諾するんだよ。情けないけど、金しかない（笑）。

――いざとなると（笑）。いや、とりあえず、前田さんが思った以上に元気なんで実に安心しました。

前田　でもね、俺も今回の件ばっかりにかかわってられないからね。

――マット界の矢沢永吉としては（笑）。

前田　そうそう。世界を視野に入れてね、これから全世界中にショックを与えていきますよ。

【2000年1月10日／リングス事務所にて収録】

日明兄さんは、このインタビューの3日後、世界にショックを与えるきっかけをつくるためにアメリカへと旅だった。

その行き先は、まずは格闘磁場・シアトル。シアトルには、当然TKもいるし、巨人の清原和博が、ケビンさんの指導のもと、〝スポーツ・スペシフィック・トレーニング〟を行っている。これは日明兄さんがセッティングして実現したものなのだ！

『PRIDE』参戦のために「モーリス・スミス・ジム」でベースキャンプを張っている佐竹雅昭、藤田和之とも顔を合わせることになるだろう。

これが実現すれば、なんとも豪華でボーダレスな顔合わせになる。

そのシアトルでは1泊しかせず、ジョージア州アトランタへひとっ飛び。1月15日に行われる『ワールド・エクストリーム』を視察。

2000 格闘SMILE

AKIRA MAEDA

この日は、アントニオ・ノゲイラvsジェレミー・ホーンのKOKトーナメント参戦組による、ひと足早いグラウンド・ファイナル・マッチが行われる（レナート・ババルも出場）。

またもや「まだ見ぬ強豪」の発掘はあるのだろうか？

それが終わると、その足でニューヨークへ――。

と、あんなドス黒い事件があったことすら記憶の隅に追いやるほど、精力的に飛び回る日明兄さんなのである。

ここは、マット界の永ちゃんだけに、2・26のグランド・ファイナルに向けて、そしてその後に向けて、ビッグなお土産を持ってきてくれるのを期待しようではないか。

でしょ？

PRESENT GRAND PRIX GP2000

メリークリスマス&ハッピーニューイヤー（天龍風）ということで、発売日とは少しかけ離れてしまいましたが、ど～ん！　と世界最強のお年玉をいろんなところから頂きました。これは豪華極まりなし！

アディ押忍！ マスカラスカーニバルだ！

各3名様

マスカラスソフビ人形（¥4000）
カカオorCMLL（会場）に行かなくては買えません!!

2名様

マスカラスカード（¥1000）
♪チャ～ン・チャカチャカチャン♪とスカイ・ハイが今にも流れてきそうな2枚組カード！

セットで3名様

マスカラスビデオ『スカイハイ・レジェンド99』パート1～3（¥5000）
昨年来日した時の全試合を納めたという、会場に足を運べなかった人には涙ものビデオです。

1名様

マスカラスサイン入りカード
下のリングを購入した人だけが貰えるサイン入りカードなのだ！

1名様

マスカラスリング（¥30000）
この夏引退宣言をしてしまったマスカラスの最強グッズコレクション。ほぼ限定品ばかり！　その中でもこの指輪はシリアルナンバー入りという特級品だ！　通信販売☎075-601-7816
【カカオ・プランニング提供】

各2名様

シルバーバットなりきりマスク（¥3800）**&ロス・デサルマドスTシャツ**（¥3000）
なりきりマスクシリーズ第3弾！ シルバーバットマスクです。

世界最強のサスケマスクだ!!

今、被っているマスクをあげちゃうよォ～！

ザ・グレート・サスケマスク&『紙プロ』非売品トレーナー
ザ・グレート・サスケレスラー生活10周年記念ということで、新宿ロフトプラスワンでのイベント終了後、その場で頂いたステキなフレグランス付きマスク&大好評の『紙プロ』ブランドから試作品トレーナー世界に1着をプレゼントします！　ところで、このモデルって……。
【サスケ社長&紙プロ（フォーリーブス）提供】

各1名様

格闘界最強のオシャレグッズだ

セットで2名様

和術慧舟會カレンダー&コンテンダーズステッカー
このカレンダーは1月がコンテンターズ、2月が宇野薫選手、3月が小路晃兄さんだ！　ちなみに、このステッカーは非売品です　【WKネットワーク提供】

KING of KINGS最強！

各3名様

KINGofKINGS Tシャツ長袖&半袖（¥4500）
入場式でも選手が着用している長袖Tシャツを愛用すれば、キミもハマキングの仲間入りだ！
【リングス提供】

WCW最強の男

1名様

ゴールドバーグ等身大POP
全長192cm（実寸）のゴールドバーグが体感できますが、ハッキリ言って家に置くと邪魔になることは間違いナシ。しかし！　1・4で涙を飲んだ人には激レアであります。
【トイズファクトリー提供】

サク最強！ PRIDE.8グッズだ!!

各3名様

『PRIDE.8』トレーナー&路上なら警察沙汰だTシャツ&三代目魚武濱田成夫Tシャツ
世界最強の男を決める『PRIDE　GRANDPRIX　2000』を目前にして、サクの完勝が目に浮かんできそうな『PRIDE.8』グッズです！
【DSE提供】

死ぬまで最強!

死ぬまでパーカー(¥7000)&
大和魂トレーナー(非売品)&Tシャツ(¥4000)
VTJ`99限定トレーナー(¥7000)
2pointsTシャツ(¥4000)
ADVANTAGETシャツ(¥4000)
FOKAITシャツ(¥3500)

各3名様

去年の夏、爆発的に街に溢れた大和魂Tシャツですが、今回は'死ぬまで'大和魂です。♪いのうえ〜いのうえ、がんばってだよぉ〜♪という名曲を引っ提げて男エンセンは今度こそ爆発的な強さを見せて欲しいネ〜のカンジ? ナンダナァ〜。 お問い合わせ☎047-378-6403

【イーフォース提供】

キン肉マン最強!

各3名様

話題騒然バンバンビガロPRESENTS
キン肉マンTシャツ
ゆでたまご先生Tシャツといえば菊田早苗選手ですが、ちまたで噂のビガロキン肉マンシリーズTシャツ登場です。見ての通りこれはかなりイケてます。

各3名様

花くま先生ハーリーレイスTシャツ、
BHTシャツ、ビガロハーリーレイスTシャツ
花くま大先生Tシャツはステキすぎて腰砕けます。お問い合わせ☎03-3480-1145 ホームページhttp://www.banban88.com

【バンバンビガロ提供】

最強この上なし!

高田道場からたくさ〜んのお年玉を頂きました。今年もまた高田ノブ兄さんの口から「完勝この上ない」というお言葉が聞けることを期待しております」
■お問い合わせ ☎03-3755-1444
■高田道場ホームページ
http://www.takada.total.co.jp

2名様

全選手サイン入り道場ポスター
高田道場オールキャストのサインが入った超豪華ポスターです!

3名様

桜庭
オレンジTシャツ
(¥3300)
完売と同時に生産終了のハズでしたが、大人気のため復活を成し遂げました。

サクバイカーTシャツ(¥3800)
このTシャツのバイクはサクが乗ってるものと同じなのだ!!

各2名様

やたらでかい
道場バック(¥9500)
このデカバックは余裕で海外旅行にもいける勢いです。

1名様

ブロディー最強伝説

3名様

ブルーザー・ブロディートレーナー
九州、福岡ビブレの中でひときわ輝くお店グランドコブラは、なんと宇野商店グッズも置いてます。そして、このブロディトレーナーもチョイと小粋な感じですよ。お問い合わせ☎092-711-1021

【グランドコブラ提供】

春さん最強!

各3名様

春一番Tシャツ
元気ですかあーっ! 人は歩みを止めた時……と今でも言い出しそうな、大人気の春ちゃんTシャツ新バージョンです。お問い合わせ☎0568-31-0727

【I.V.Yブックス提供】

ヒャッ!? 最強本!

トリプルクロス
前号のShow氏の言い訳ページは予想通り賛否両論でありましたが、このShow氏本の中に、恒例の本誌鬼畜編集長こと山口日昇のインタビューが存在するのをご存じでしょうか? ヒャッ!?

【メディアワークス提供】

応募要項

応募券

❶郵便番号・住所・電話番号
❷氏名 ❸年齢・職業
❹希望商品
❺面白かった記事&その理由
❻つまらなかった記事&その理由
❼「PRIDE.0」(P124〜)の勝者は誰?

希望商品が決まった方は、直ちにハガキに左記の要領で記入の上、送ってくださ〜い。応募券はお忘れなく!

【宛 先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「大刀パブル」係まで
※締切は2月10日です

紙のプロレス RADICAL
No.23
2000年2月25日発行
STAFF
編集兼発行人
山口日昇
編集スタッフ
スモーノブ
松澤チョロ
大西タマリン
八木賢太郎(レッチリに興奮しすぎたため非番)
スーパーバイザー
吉田豪
広告営業
佐藤恵美
助っ人
堀江ガンツ
恒遠バカツネ
中村愚乱
金田謙太郎
アートディレクター
出田さん(TwoThree)
デザイン
ヒサくん
マツ
村松さん
セッキー
グッチー(以上TwoThree)
トメさん
はなえちゃん(以上早乙女の事務所)
尾崎貴春
出前
出前持ち入江(TwoThree)
カメラマン
斉藤ユーリ
遠藤政文
森鷹博
黒田史夫
戸成ぶつぞう
古川由佳
松本崇
試合写真
平工幸雄
長尾迪
乾晋也
スペル・テポドン2号
お勘定
林ヘックション一枝
足冷え
中村カタブツ君(36歳)
フィニッシュ
ツー・スリー/早乙女の事務所
印刷
図書印刷株式会社
印刷人
大杉すぎすぎ昌也
全女オーディションに挑戦
ジャイ子
発売元
株式会社ワニマガジン社
〒160-8580 東京都新宿区内藤町一番地
TEL.03-3357-2911(販売・営業)
発行元
株式会社ダブルクロス
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
TEL.03-3403-5188(編集・制作)

編集内容等に関するお問い合せは
(株)ダブルクロスにするでごわす。はぁ〜、どすこい!!

遂に待望の月刊化!! No.24は2000年2月22日発売!!
これからは毎月22日が『紙プロ』の日!!
※日曜日、祭日と重なる場合は発売日がズレます。また、地域によっては3〜4日発売日が異なります

大好評につき、またも紙プロブランドから新作発売!!

どんなに冬が寒くても これ着ながら歩こうゼ!!

KING of MAGAZINE
KAMI-NO PRO-WRESTLING

花くまゆうさく先生描き下ろし!!

リングおじさんトレーナー

大出血サービス価格 **¥5500**

[サイズ] M or L
[カラー] ホワイト×レッドのみ!
[生産枚数] 完全限定100枚

プロレス業界にとどまらず、ファッション業界でも愛用者続出中との噂。めでたく復刊した『relax』(マガジンハウス)の編集長も伝説の"岡本魂"Tシャツを持っているらしい。「どうなってんだ、オイ?」と、こちらが聞きたいくらいのご好評を頂いている『紙プロ』ブランドが、またもや新作を出します! 今度はリングおじさんのトレーナーが登場だ! またもや業者に特注で作らせたボディと、『紙プロ』タグが超クール! イラストはもちろん花くまゆうさく先生! バックプリントも悩ましげな逸品です。今回も完全限定生産なので、お早めにゲッチューしてください! 在庫がなくなっても知りませんよ! 2週間で勝負は決まる!

カミノプロレスリング

BACK

中川雅博画伯書き下ろし!!

ジャイ子Tシャツ
〜アンドレ・ザ・ジャイ子〜

号泣売りつくし価格 **¥3000**

[サイズ] M or L
[カラー] ホワイト or アッシュ・グレー
[生産枚数] 完全限定100枚

本誌にも絶賛投稿中の中川雅博画伯の抜群のスキルでかわいらしく生まれ変わったジャイ子のTシャツは絶賛通販受付中! 色はホワイトとアッシュ・グレーの2色。サイズはMorLです。スモーノブも登場しているぞ! なお、売上金の一部は恵まれないジャイ子への救済基金に充てられます。やったね、ジャイジャイ!

[通販状況]

サイズ＼色	白	グレー
M	△	○
L	△	○

○=まだ在庫あり
△=品切れ間近、お早めに!
×=品切れです。すみません

ANDRE THE JAYKO

カミノプロレスリング

BACK

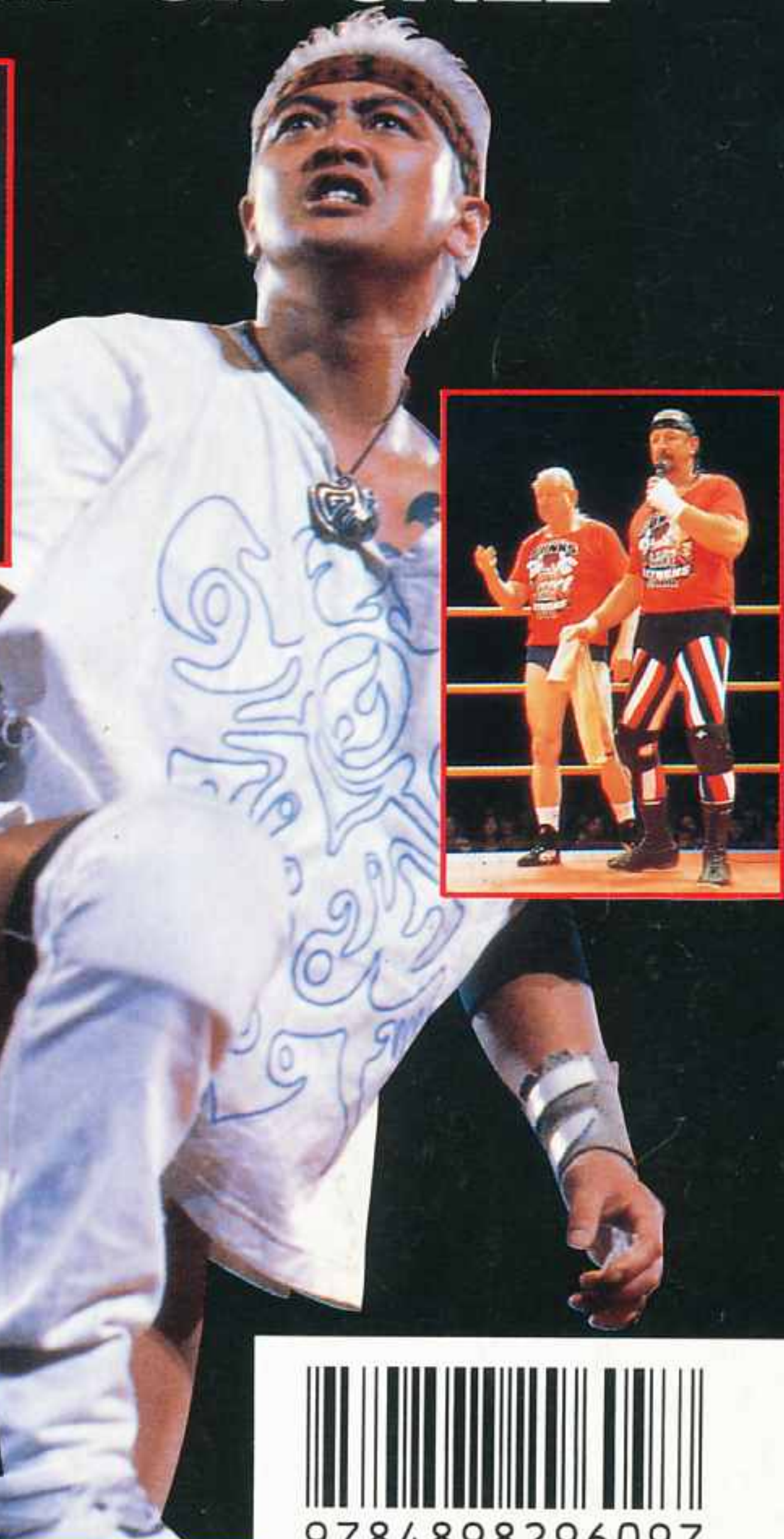
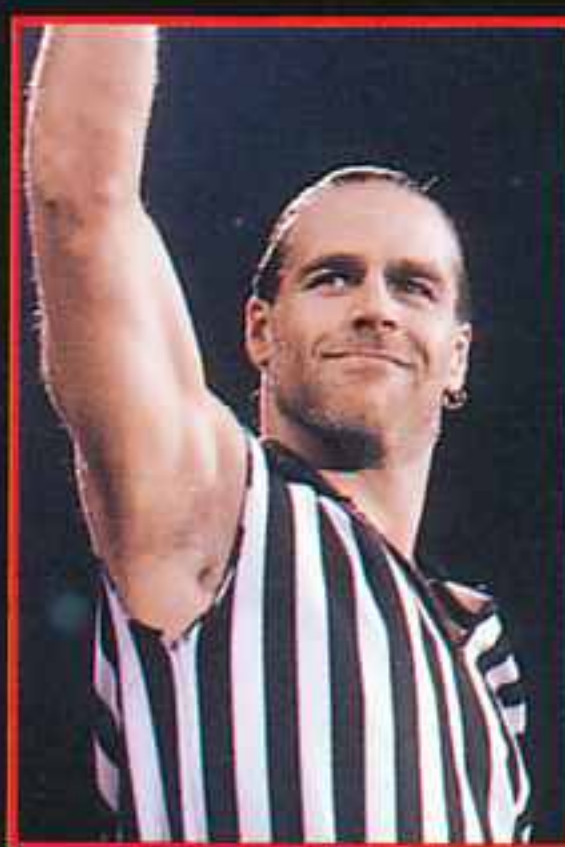
★どちらも完成予想図です。実際の商品と若干異なる場合があるのでご了承ください。
前号の広告に載せたU.M.F.パーカーは大好評につき通販は終了となりました。チャンピオン東京店&大阪店にMサイズのみ若干残っています。買い逃してしまった方は今回の新作で我慢してください。

試合ゾッコーッ!! な通販方法

希望商品の代金+送料¥500(何枚でも)を現金書留で、右記住所まで送ってください。あなたの住所、氏名、年齢、電話番号、希望商品(サイズとカラーをちゃんと書いてね♥)、枚数を明記したメモを必ず同封すること! これがないと商品の発送が出来ないのであしからず。マジで枚数が少ないので、急いで現金書留を送れ! さもなければ『チャンピオン東京店&大阪店』で販売中なので、こっちでゲットだ!

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス「試合ゾッコーッ!!」係まで
お問い合せダイヤル:(株)ダブルクロス TEL.03-3403-5188

紙のプロレス RADICAL
WANIMAGAZIN MOOK 128
2000 NO.23
前田日明、狙撃事件を語る!
小川直也、襲撃三昧続行ッ!
平成12年2月25日発行　編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社　〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地　電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス　〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702　電話／03-3403-5188
ワニマガジン社　定価：本体838円＋税

雑誌　69862-28
©DOUBLECROSS 2000　Printed in Japan
印刷：図書印刷株式会社
ISBN4-89829-609-2
C9476 ¥838E
9784898296097
1929476008381

テレINDEX

栗栖ジム
06-6790-8896
〒547-0014大阪府大阪市
平野区長吉川辺3-1-7

全日本プロレス
03-3403-7344
〒106-0032東京都港区六本木7-3-12

大阪プロレス
06-6243-5131
〒542-0081大阪府大阪市中央区
南船場3-1-7　日宝東心斎橋ビル301

ドリームステージエンターテインメント
03-3552-6300
〒104-0033東京都中央区新川2-3-9
新川第二ビル

新日本プロレス
03-5468-3111
〒150-0011東京都渋谷区東2-1-11

闘龍門JAPAN
078-362-0707
〒650-0022兵庫県神戸市中央区
元町通り5-3-18

K-1事務局
03-3796-2977
〒150-0001東京都渋谷区神宮前3-31-14

FMW
03-5496-0671
〒153-0064東京都目黒区下目黒2-23-15
ダヴィンチ下目黒6F

ダイプロデュース（大仁田興行）
03-5496-4900
〒141-0031東京都品川区西五反田1-28-3
ハイラーク五反田505

修斗コミッション
03-3961-2704
〒173-0001東京都板橋区本町34-4
石田コーポラス501

リングス
03-3461-0257
〒150-0036東京都渋谷区南平台13-1
サトウビル202

世界のプロレス
093-203-5170
〒807-0054福岡県遠賀郡水巻町二東2-8-6

WK/Network（和術慧舟會、A³GYM、RJW）
03-5200-3546
〒103-0021東京都中央区日本橋
石町3-3-11　山田ビル5F

WAR
03-5477-0461
〒154-0015東京都世田谷区桜新町1-14-23
萬豊ビル2F

掣圏道
03-5456-7333
〒150-0021東京都渋谷区恵比寿西2-6-14
恵比寿スカイハイツ607

シュートボクシング協会
03-3843-1212
〒111-0033東京都台東区花川戸2-2-8
ワコー花川戸ハイツ1～3F

みちのくプロレス
019-626-1333
〒020-0063岩手県盛岡市材木町9-8

キングダム
0423-31-2797
〒206-0822東京都稲城市坂浜2305

UFC-J事務局
03-3343-2444
〒163-0430東京都新宿区西新宿2-1-1
新宿三井ビル30F

SPWF
03-3814-6371
〒113-0001東京都文京区白山1-17-4
クロサキビル

キャプチャー
044-959-3333
〒215-0011神奈川県川崎市
麻生区百合丘2-2-1　横山ビルB1

怪獣王国
03-5952-1177
〒171-0033東京都豊島区高田3-6-7-3F

パンクラス
03-5792-0815
〒106-0047東京都港区南麻布4-2-25

国際プロレス
0467-86-0197
〒253-0052神奈川県茅ヶ崎市幸町20-14

コロシアム2000
03-3482-1981
〒105-8012東京都港区虎ノ門4-3-12
テレビ東京事業部内

IWAジャパン
03-3352-3366
〒160-0004東京都新宿区四谷4-6-1
四谷サンハイツ401

つぼプロモーション
03-3498-4710
〒107-0062東京都港区南青山6-15-1
アパルトマン青山2F－E

全日本女子プロレス
03-3493-6541
〒153-0064東京都目黒区下目黒2-17-17

大日本プロレス
045-937-0811
〒224-0053神奈川県横浜市
都築区池辺町4347

華☆激
092-522-1901
〒810-0022福岡市中央区薬院4-8-29
エステートピア薬院302

JWP
03-3839-4161
〒110-0005東京都台東区上野1-15-10
大秀ビル502

バトラーツ
0489-63-0005
〒343-0807埼玉県越谷市赤山町2-158-1

喧嘩プロレス二瓶組
044-244-8942
〒212-0055神奈川県川崎市
川崎区南町18-17　第5大昭ビル502

LLPW
03-3945-7926
〒112-0005東京都文京区水道2-13-4
ビクセル文京105

DDT
03-3356-8493
〒151-0051東京都渋谷区千駄ヶ谷5-17-18
オリエンタル千駄ヶ谷102プリントオフィス内

ZIPANG
0427-54-8851
〒229-0002神奈川県相模原市
渕野辺本町2-37-19　コスモハイグランド106

GAEA JAPAN
03-3795-2555
〒154-0004東京都世田谷区太子堂5-15-3
COVAMOC BUILDING2F

高田道場
※1／26で現住所の道場が移転します
詳細は次号で。尚、電話番号の変更はありません。
03-3755-1444
〒146-0082東京都大田区池上4-27-13
トウセン池上ビル

T.A.M.A
042-572-6795
〒185-0031東京都国分寺市富士本1-23-5

Jd'
03-5561-0522
〒107-0052東京都港区赤坂2-12-10
国際溜池ビル7F

UFO
03-5447-2121
〒108-0071東京都港区白金台3-19-5O
K白金台ビル7F

CMLL・JAPAN
075-601-7816
〒612-8221京都府京都市伏見区禅正町151

アルシオン
03-5720-5217
〒150-0022東京都渋谷区恵比寿南3-7-1
代官山島田ビル3F

【タマリンの珍獣日記番外編】
新年を迎えたある日のこと。朝イチで、ターザン山本氏から電話アリ。「え～っと、誰だっけ?　名前忘れちゃったよ～。あっ、豪ちゃん!」と無二の珍友である金髪獣の名前をど忘れ。さすがの金髪獣も大笑いで困惑していた。そして、その夜また電話アリ。今度は、「あの～、松林さん（元紙プロ編集者。現SRS・DX秘密喋報員）いる?」……ここは、「紙プロ」という説明をすることしばし……「あれ、松林さんダブルクロス行っちゃったの～?」……ここは、『SRS・DX』ではない説明をすることしばし……「ボケちゃったの～?　オレ」と、やはり、今年も狂い咲きのようである。みなさん“間違い電話にはご注意を!”

ネオ・レディース
03-5759-1977
〒141-0013東京都品川区五反田6-24-2-801

謎の刺青女子ファイターを某所で発見!!

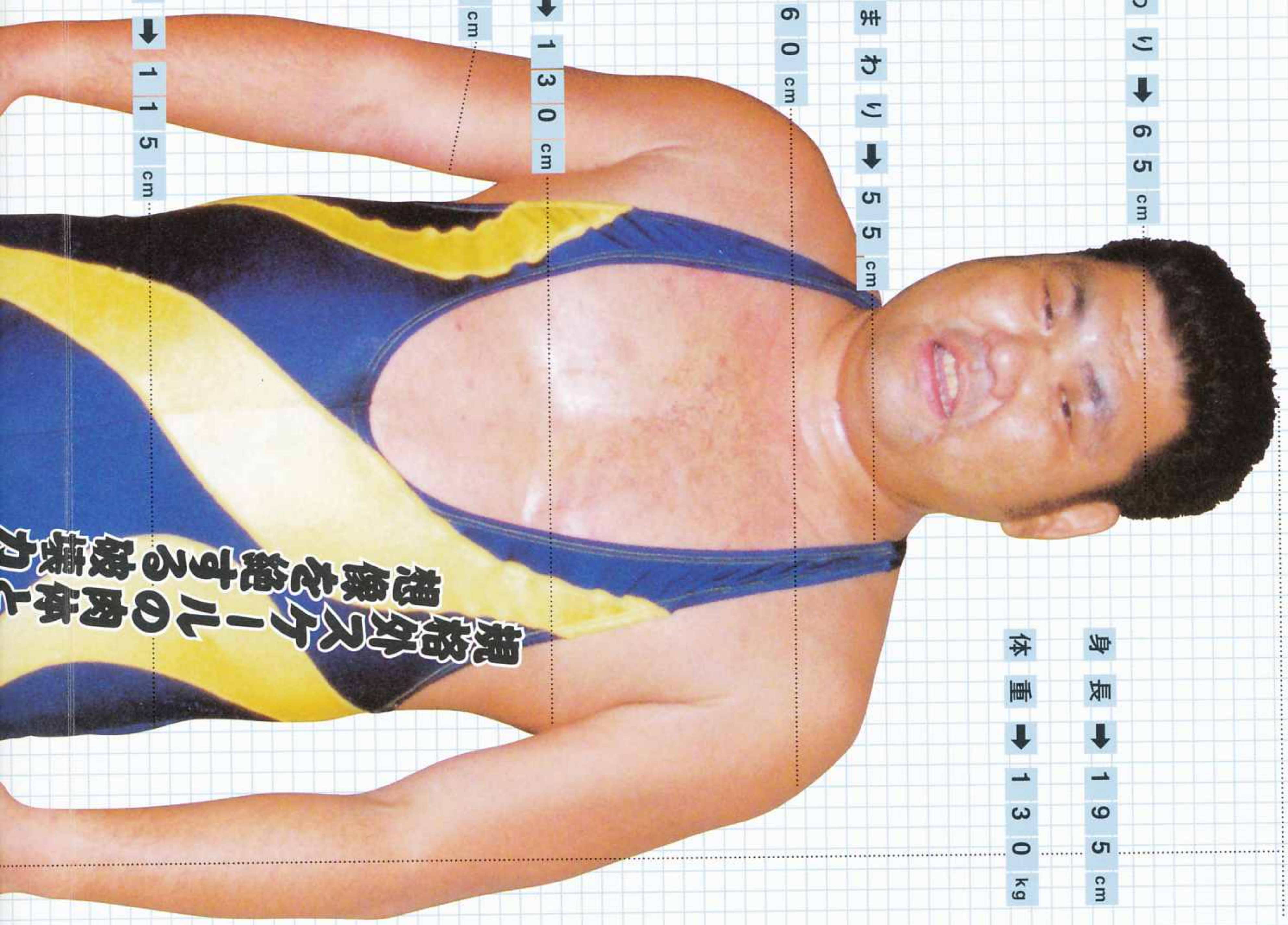
お前はいったい誰なんじゃあ!?

正体を知りたい奴は急いでP113をめくれ!

PRIDE.GP（リザーバー）出場記念ピン

大刀光完全無

データー

規格外スケールの肉体と
想像を絶する破壊力

身長➡195cm
体重➡130kg
頭まわり➡65cm
首まわり➡55cm
肩幅➡60cm
バスト➡130cm
腕まわり➡50cm
ウエスト➡115cm

これで大刀光のすべてがわかる!!

…ピンナップ

…全無欠の …FILE

…ールの肉体と…する破壊力の秘密を探れ!!

ウエスト ➡ 115cm

ヒップ ➡ 130cm

太もも ➡ 70cm

股下 ➡ 95cm

足の大きさ ➡ 31cm

掌（縦横とも）➡ 24cm

…わかる!!

張り手 / 粘り腰 / 酒 / 寝技 / パワー / 人気

大刀光

TACHIHIKARI

本名・河原修。昭和38年9月12日、千葉県千葉市出身。A型。左の図を見てもらえばわかるように、日本人離れした体格から繰り出される一撃必殺の得意技・“張り手”は強烈無比！　若い頃から相撲道に精進するが、少年時代には一度ドロップアウトしたこともある。その頃は、暴走族や右翼として腕っぷしの強さを発揮。装甲車に乗ってソ連大使館や共産党本部に突撃したり、それを止めに来た機動隊相手に大暴れしたりという破天荒な経歴は注目に値するだろう。その後は再び相撲道に戻り、大相撲の友綱部屋で大活躍。高校の先輩でもある寺尾関にかわいがられながら、最高で西前頭14枚目まで昇進した。廃業後はプロレスラーに転身。相撲軍団の一員として、謎のペイントレスラー“大和”名義で平成6年3月26日、熊本市体育館のvs冬木弘道＆ウルティモ・ドラゴン戦（パートナーは現WWFの“Y2J”＝ライオン・ハート）でデビュー。ちなみに、この試合でいきなりウルティモの肩を破壊して、規格外のパワーを早くも発揮。素顔に戻った後はWARに入団。その後は大日本プロレスを経た後、SPWFに所属。現在は嵐（高木功）と、超大型相撲出身者コンビ『チーム・コンボイ』として大暴れ中。以前からガチンコ志向は強く、98年6月の北原光騎との一騎打ちでは「スタンドなら無敵」との評価を裏付けるようなバカ強さを発揮し、試合後には「修斗に出たい!」とまで言っていたほど。『PRIDE』出場決定後も3人の子供にせがまれれば、休日には『こちら葛飾区亀有公園前派出所』の映画を見に行く良きパパの一面もあるが、一度キレたら手がつけられない怒濤の男。

L CALENDAR

7 MON.

新日本■北海道・滝川青年体育センター（18:30）

8 TUE.

新日本■北海道・函館市民体育館（18:00）

CMLL■東京・後楽園ホール（18:30）

9 WED.

LLPW■東京・後楽園ホール（18:30）

10 THU.

闘龍門■愛媛・あいてむ愛媛（18:30）

全女■東京・後楽園ホール （時間未定）

※緊急速報！ 全女＆ＪＷＰ"業務提携第１弾大会"に決定！ （18：45試合開始）

11 FRI.

新日本■大阪・舞洲アリーナ（15:00）

バトラーツ■神奈川・クラブチッタ川崎（19:00）

CMLL■神奈川・クラブチッタ川崎（15:00）

12 SAT.

全日本■東京・後楽園ホール（18:30）

新日本■和歌山・和歌山県立橋本体育館サブアリーナ（18:30）

闘龍門■愛媛・今治市公会堂（18:30）

CMLL■愛知・名古屋市総合体育館第3競技場（17:30）

13 SUN.

全日本■東京・後楽園ホール（12:30）

バトラーツ■福岡・アクロス福岡（13:00）

CMLL■京都・KBSホール（14:00）

GAEA■東京・後楽園ホール（18:30）

14 MON.

全日本■千葉・木更津倉形スポーツ会館（18:30）

新日本■京都・福知山市三段池公園総合体育館（18:30）

FMW■鹿児島・鹿児島市民体育館（18:30）

バトラーツ■長崎・長崎文化放送ncc&スタジオ（18:30）

15 TUE.

新日本■静岡・アクトシティ浜松展示イベントホール（18:30）

FMW■熊本・八代市総合体育館（18:30）

16 WED.

新日本■岐阜・岐阜産業体育館（18:30）

17 THU.

全日本■北海道・北海道立総合体育センター（18:30）

新日本■山形市総合スポーツセンター（18:30）

18 FRI.

FMW■神奈川・クラブチッタ川崎（18:30）◎

アルシオン■東京・後楽園ホール（19:00）

19 SAT.

全日本■愛知・春日井市総合体育館（18:00）

新日本■新潟・三条市福祉厚生会館（18:00）

FMW■千葉・木更津倉形スポーツ会館イベントホール（18:30）

大阪■大阪・NGKスタジオ（15:00）

20 SUN.

全日本■兵庫・ワールド記念ホール（15:00）

新日本■東京・両国国技館（15:00）

21 MON.

全日本■福岡・小倉北体育館（18:30）

22 TUE.

全日本■愛媛・テクスポート今治（18:30）

23 WED.

キングダム■東京・北沢タウンホール（18:30）

25 FRI.

全日本■神奈川・横須賀市総合体育館（18:30）

FMW■東京・後楽園ホール（18:30）

●紙のプロレスPRESENTS 『暗闇プロレス道場』■新宿ロフトプラスワン （19：00ごろ）※超豪華ゲスト参戦決定!

26 SAT.

全日本■茨城・水戸体育館（18:00）

リングス■東京・日本武道館（15:30）★△

バトラーツ■.名古屋・名古屋レインボーホール（17:55）

キャプチャー■福岡・ベイサイドプレイス博多埠頭（19:00）

27 SUN.

全日本■東京・日本武道館（15:00）

パンクラス■大阪・梅田ステラホール（16:00）

キャプチャー■厳原町町民体育館（13:00）

JWP■東京・後楽園ホール（12:30）

GAEA■大阪・IMPホール（15:00）

28 MON.

DDT■東京・北沢タウンホール（時間未定）

『紙プロ』編集部
おススメ興行

★ 山口日昇
◎ スモー・ノブ
♠ 松澤チョロ記者
🌀 大西タマリン
△ ガンツ堀江

RADICAL CA

●はイベント情報です。

1 January

22 SAT.

全日本■東京・後楽園ホール(18:30)
LLPW■兵庫・伊丹スポーツセンター(18:30)
GAEA■静岡・アクトシティ浜松(18:00)
アルシオン■神奈川・小田原市川東タウンセンターマロニエホール(18:30)

23 SUN.

全日本■神奈川・横浜文化会館(15:00)△
パンクラス■東京・後楽園ホール(12:00)
ZIPANG■宮城・仙台市吉成市民センター(13:00)
JWP■茨城・牛久運動公園体育館(18:30)
GAEA■愛知・名古屋市体育館(14:00)
アルシオン■新潟・新潟フェイズ(15:00)
J'd■大阪・NGKスタジオ(13:00)&(17:00)
●大仁田厚トークイベント■銀座『相田みつを美術館』
お問い合わせ　ダイプロデュース☎03-5496-4900
●AKIRAトークショー■池袋パルコ　お問い合わせ　KINGS☎03-5391-8388

24 MON.

シュートボクシング■東京・後楽園ホール(18:30)◎

25 TUE.

アルシオン■千葉・木更津市倉形スポーツ会館(18:30)
K-1■長崎県立体育会館(18:30)

26 WED.

闘龍門■高松・高松国際ホテル別館大ホール(18:30)

27 THU.

J'd■東京・大田区民プラザ(18:00)

28 FRI.

闘龍門■大阪・梅田HEAT・BEAT(18:30)
大仁田興行■北海道・Zepp Sappro (19:00)

29 SAT.

大仁田興行■北海道・苫小牧市総合体育館(17:00)
大阪■大阪・なんばグランド花月(19:00)
アルシオン■三重・津市体育館(18:30)
●エリオ&ホリオン・グレイシー柔術セミナー■東京台東リバーサイド (9:00)
お問い合わせ　しのぶ道場グレイシー☎042-530-75544
●29日、30日　ジャイアント馬場展示会『馬場さんが帰ってきた』東京水道橋プリズムホール(後楽園ホールのあるビル1F)

30 SUN.

PRIDE■東京ドーム(15:00)★
バトラーツ■東京・後楽園ホール(12:00)★🌀
DDT■東京・北沢タウンホール(14:00)&(18:30)
闘龍門■三重・四日市オーストラリア記念館(13:30)
大仁田興行■北海道・室蘭市体育館(17:00)
大阪■大阪・なんばグランド花月(15:00)
キャプチャー■東京・大田区民プラザ(19:30)♠
EAGLE■栃木・栃木県立南体育館サブアリーナ(13:00)
JWP■大阪・はびきのコロセアムサブアリーナ(17:30)
アルシオン■東京・Zepp TOKYO(16:00)

31 MON.

全日本■東京・後楽園ホール(18:30)

2 February

1 TUE.

新日本■東京・国立代々木第2体育館(18:30)

2 WED.

新日本■宮城・石巻市総合体育館(18:30)
JWP■東京・後楽園ホール(18:30)

3 THU.

大仁田興行■東京・後楽園ホール(19:00)🌀

4 FRI.

新日本■北海道・月寒グリーンドーム(18:30)

5 SAT.

新日本■北海道・月寒グリーンドーム(18:30)
CMLL■三重・四日市オーストラリア記念館(19:00)

6 SUN.

闘龍門■兵庫・神戸チキンジョージ(15:00)
大阪■東京・有明ビッグサイト(時間未定)
二瓶組■神奈川・横浜ベイサイド　クラブヘブン(18:00)
CMLL■大阪・Zepp大阪(15:00)
GAEA■東京・東京流通センター・アールンホール(15:00)

7 MON.

新日本■北

8 TUE.

新日本■北
CMLL■東

9 WED.

LLPW■東

10 THU.

闘龍門■愛
全女■東京・
緊急速報　全女&

11 FRI.

新日本■大
バトラーツ■
CMLL■神奈

12 SAT.

全日本■東京
新日本■和
闘龍門■愛
CMLL■愛

13 SUN.

全日本■東京
バトラーツ■
CMLL■京都
GAEA■東京

14 MON.

全日本■千葉
新日本■京都
FMW■鹿児
バトラーツ■長

15 TUE.

新日本■静岡
FMW■熊本・

16 WED.

新日本■岐阜

17 THU.

全日本■北海
新日本■山形